

シマギョウギシバ

Digitaria platycarpha

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

小穂は長さ 2.5-3 mm、披針形。第 2 小花の護穎は上端が尖り、淡緑色。総は 2-3 本、中軸はやや平たく、小穂は軸に半ば埋もれる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

稜線近くの岩石地や裸地に生育。

【分布域】

小笠原諸島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。ノヤギによる食害と帰化雑草の繁茂の影響を受けて父島や母島では大きく減少した。兄島では比較的多く見られる。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
6	3	0	0	0	0	9	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シマギョウギシバ	<i>Digitaria platycarpha</i>	EN
第4次 2019:	シマギョウギシバ	<i>Digitaria platycarpha</i>	EN
第4次 2018:	シマギョウギシバ	<i>Digitaria platycarpha</i>	EN
第4次 2017:	シマギョウギシバ	<i>Digitaria platycarpha</i>	EN
第4次 2015:	シマギョウギシバ	<i>Digitaria platycarpha</i>	EN
第4次:	シマギョウギシバ	<i>Digitaria platycarpha</i>	EN
第3次:	シマギョウギシバ	<i>Digitaria platycarpha</i>	EN
第2次:	シマギョウギシバ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Digitaria platycarpha has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Digitaria platycarpha is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナンブソモソモ

*Dupontiopsis hayachinensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

護穎は基部が無毛、竜骨に毛がある。花序はやや大きく、先は垂れ、枝は平滑。小穂は軟らかい。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山帯の岩場に生育。

【分布域】

北海道（中央高地）・岩手県（早池峰山）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数千個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	1	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナンプソモソモ	<i>Poa hayachinensis</i>	EN
第4次 2019:	ナンプソモソモ	<i>Poa hayachinensis</i>	EN
第4次 2018:	ナンプソモソモ	<i>Poa hayachinensis</i>	EN
第4次 2017:	ナンプソモソモ	<i>Poa hayachinensis</i>	EN
第4次 2015:	ナンプソモソモ	<i>Poa hayachinensis</i>	EN
第4次:	ナンプソモソモ	<i>Poa hayachinensis</i>	EN
第3次:	ナンプソモソモ	<i>Poa hayachinensis</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[A ランク]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 長田武正，1989. 日本イネ科植物図譜. 759pp. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dupontiopsis hayachinensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Dupontiopsis hayachinensis* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イヌカモジグサ

Elymus gmelinii var. *tenuisetus*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 70-100 cm。花穂は長さ 10-15 cm、直立し、緑色または少し汚紫色を帯びる。包穎は広披針形でやや大きく、5-9 脈があって尖る。護穎は基盤とともにざらつき、芒は乾くと少し外曲。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地に生育。

【分布域】

長野県、朝鮮半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イヌカモジグサ	<i>Elymus gmelinii</i> var. <i>tenuisetus</i>	EN
第4次 2019:	イヌカモジグサ	<i>Elymus gmelinii</i> var. <i>tenuisetus</i>	EN
第4次 2018:	イヌカモジグサ	<i>Elymus gmelinii</i> var. <i>tenuisetus</i>	EN
第4次 2017:	イヌカモジグサ	<i>Elymus gmelinii</i> var. <i>tenuisetus</i>	EN
第4次 2015:	イヌカモジグサ	<i>Elymus gmelinii</i> var. <i>tenuisetus</i>	EN
第4次:	イヌカモジグサ	<i>Elymus gmelinii</i> var. <i>tenuisetus</i>	EN
第3次:	イヌカモジグサ	<i>Elymus gmelinii</i> var. <i>tenuisetus</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 長野県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Elymus gmelinii var. *tenuisetus* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Elymus gmelinii* var. *tenuisetus* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤマオオウシノケグサ

*Festuca hondoensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

オオウシノケグサに似るが、やや株状となり、護穎はすみれ色を帯び、芒がない。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

深山に生育。

【分布域】

南千島・北海道・本州中部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 3 メッシュで計数百個体と推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	3	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤマオオウシノケグサ	<i>Festuca hondoensis</i>	EN
第4次 2019:	ヤマオオウシノケグサ	<i>Festuca hondoensis</i>	EN
第4次 2018:	ヤマオオウシノケグサ	<i>Festuca hondoensis</i>	EN
第4次 2017:	ヤマオオウシノケグサ	<i>Festuca hondoensis</i>	EN
第4次 2015:	ヤマオオウシノケグサ	<i>Festuca hondoensis</i>	EN
第4次:	ヤマオオウシノケグサ	<i>Festuca hondoensis</i>	EN
第3次:	ヤマオオウシノケグサ	<i>Festuca hondoensis</i>	EN
第2次:	ヤマオオウシノケグサ	<i>Festuca rubra</i> var. <i>hondoensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)] 群馬県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 富山県[準絶滅危惧] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Festuca hondoensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Festuca hondoensis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イネ科 Poaceae/Gramineae

ヌマドジョウツナギ

Glyceria spiculosa

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

花序はよく分枝する。小穂は長さ 1 cm 以下。小花は 3-7 個。小軸はやや曲がる。葉舌は長さ 2-3 mm、切形。葯は長さ 1-2 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿地に生育。

【分布域】

北海道・秋田県、朝鮮半島・中国・ロシアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数千個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	1	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヌマドジョウツナギ	<i>Glyceria spiculosa</i>	VU
第4次 2019:	ヌマドジョウツナギ	<i>Glyceria spiculosa</i>	VU
第4次 2018:	ヌマドジョウツナギ	<i>Glyceria spiculosa</i>	VU
第4次 2017:	ヌマドジョウツナギ	<i>Glyceria spiculosa</i>	VU
第4次 2015:	ヌマドジョウツナギ	<i>Glyceria spiculosa</i>	VU
第4次:	ヌマドジョウツナギ	<i>Glyceria spiculosa</i>	VU
第3次:	ヌマドジョウツナギ	<i>Glyceria spiculosa</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

秋田県[CR]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Glyceria spiculosa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Glyceria spiculosa* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シマカモノハシ

Ischaemum ischaemoides

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

カモノハシに似るが、稈の節に長毛がある。小穂は無毛で、小穂の第 1 包穎は無翼。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

稜線近くの岩石地や裸地に生育。

【分布域】

小笠原諸島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。ノヤギによる食害と帰化雑草の繁茂の影響を受けて父島や母島では大きく減少した。兄島では比較的多く見られていた。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シマカモノハシ	<i>Ischaemum ischaemoides</i>	EN
第4次 2019:	シマカモノハシ	<i>Ischaemum ischaemoides</i>	EN
第4次 2018:	シマカモノハシ	<i>Ischaemum ischaemoides</i>	EN
第4次 2017:	シマカモノハシ	<i>Ischaemum ischaemoides</i>	EN
第4次 2015:	シマカモノハシ	<i>Ischaemum ischaemoides</i>	EN
第4次:	シマカモノハシ	<i>Ischaemum ischaemoides</i>	EN
第3次:	シマカモノハシ	<i>Ischaemum ischaemoides</i>	EN
第2次:	シマカモノハシ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ischaemum ischaemoides has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ischaemum ischaemoides* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タチイチゴツナギ

Poa nemoralis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

イチゴツナギに似るが、株を作らず、葉舌は短く、切形。葉身は細く、最上葉の多くはその葉鞘よりも長い。花序は長く突き出す。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

深山に生育。

【分布域】

北海道・本州中部以北、ユーラシアに分布。北アメリカに帰化。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 3 メッシュで計数百個体と推定された。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	3	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タチイチゴツナギ	<i>Poa nemoralis</i>	EN
第4次 2019:	タチイチゴツナギ	<i>Poa nemoralis</i>	EN
第4次 2018:	タチイチゴツナギ	<i>Poa nemoralis</i>	EN
第4次 2017:	タチイチゴツナギ	<i>Poa nemoralis</i>	EN
第4次 2015:	タチイチゴツナギ	<i>Poa nemoralis</i>	EN
第4次:	タチイチゴツナギ	<i>Poa nemoralis</i>	EN
第3次:	タチイチゴツナギ	<i>Poa nemoralis</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[情報不足] 宮城県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 栃木県[要注目] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Poa nemoralis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Poa nemoralis* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒゲナガコメススキ

Ptilagrostis alpina

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15-30 cm。葉身は細い。花序は長さ 5-15 cm、まばらに分枝し、枝はざらつく。小穂は花序に数個まばらにつく。小穂は長さ約 6 mm、紫色、光沢がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山に生育。

【分布域】

本州（白馬岳・北岳）、北朝鮮からシベリア東部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュで絶滅し、3 メッシュで計数百個体の現存が確認された。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	1	0	0	3	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒゲナガコメススキ	<i>Stipa alpina</i>	EN
第4次 2019:	ヒゲナガコメススキ	<i>Stipa alpina</i>	EN
第4次 2018:	ヒゲナガコメススキ	<i>Stipa alpina</i>	EN
第4次 2017:	ヒゲナガコメススキ	<i>Stipa alpina</i>	EN
第4次 2015:	ヒゲナガコメススキ	<i>Stipa alpina</i>	EN
第4次:	ヒゲナガコメススキ	<i>Stipa alpina</i>	EN
第3次:	ヒゲナガコメススキ	<i>Stipa alpina</i>	EN
第2次:	ヒゲナガコメススキ	<i>Ptilagrostis mongholica</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

富山県[情報不足] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ptilagrostis alpina has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ptilagrostis alpina* is listed as EN under criteria ACD.
The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イネ科 Poaceae/Gramineae

フォーリーガヤ

Schizachne purpurascens subsp. *callosa*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 70-90 cm。葉身は幅 1-2 mm、2 つ折れになり、全体が無毛。小穂は総状花序に数個から 10 個程度つく。護穎の芒は護穎より長く、まっすぐ。

【生活史】

多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

低山から亜高山の林内に生育。

【分布域】

南千島・北海道・本州中部、アジア北東部・シベリアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 13 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	4	3	1	2	0	13	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 産地局限	石灰採掘	
件数 5	3	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	フォーリーガヤ	<i>Schizachne purpurascens</i> subsp. <i>callosa</i>	CR
第4次 2019:	フォーリーガヤ	<i>Schizachne purpurascens</i> subsp. <i>callosa</i>	CR
第4次 2018:	フォーリーガヤ	<i>Schizachne purpurascens</i> subsp. <i>callosa</i>	CR
第4次 2017:	フォーリーガヤ	<i>Schizachne purpurascens</i> subsp. <i>callosa</i>	CR
第4次 2015:	フォーリーガヤ	<i>Schizachne purpurascens</i> subsp. <i>callosa</i>	CR
第4次:	フォーリーガヤ	<i>Schizachne purpurascens</i> subsp. <i>callosa</i>	CR
第3次:	フォーリーガヤ	<i>Schizachne purpurascens</i> subsp. <i>callosa</i>	CR
第2次:	フォーリーガヤ	<i>Schizachne purpurascens</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[A ランク] 長野県[絶滅危惧 IB 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Schizachne purpurascens subsp. *callosa* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Schizachne purpurascens* subsp. *callosa* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Limited distribution, Limestone mining

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イネ科 Poaceae/Gramineae

ホソバドジョウツナギ

Torreyochloa natans

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ハイドジョウツナギに似るが、全体小型で、小穂は長さ 4-6 mm、葯は長さ 0.25-0.35 mm、護穎は長さ 2-2.5 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

池沼や水田に接した溝などに生育。

【分布域】

北海道・本州（長野県上高地）、中国北部・ウスリー・千島列島・サハリン・カムチャツカに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホソバドジョウツナギ	<i>Torreyochloa natans</i>	CR
第4次 2019:	ホソバドジョウツナギ	<i>Torreyochloa natans</i>	CR
第4次 2018:	ホソバドジョウツナギ	<i>Torreyochloa natans</i>	CR
第4次 2017:	ホソバドジョウツナギ	<i>Torreyochloa natans</i>	CR
第4次 2015:	ホソバドジョウツナギ	<i>Torreyochloa natans</i>	CR
第4次:	ホソバドジョウツナギ	<i>Torreyochloa natans</i>	CR
第3次:	ホソバドジョウツナギ	<i>Torreyochloa natans</i>	CR
第2次:	ホソバドジョウツナギ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 長田武正, 1989. 日本イネ科植物図譜. 759pp. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Torreyochloa natans has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Torreyochloa natans* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

フクロダガヤ

*Tripogon longearistatus***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15-25 cm。密な株を作る。葉身は針形、内側に巻く。花穂は長さ 10-15 cm、細く直立し、一側に 2 列、小穂をまばらにつける。小穂は長さ 5-7 mm、主軸に圧着し、鉛色を帯び、光沢がある。護穎の芒は膝折れする。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の岩上に生育。

【分布域】

本州（関東北部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	2	1	0	0	0	4	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 産地局限	自然遷移	その他
件数 3	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	フクロダガヤ	<i>Tripogon longearistatus</i> var. <i>japonicus</i>	EN
第4次 2019:	フクロダガヤ	<i>Tripogon longearistatus</i> var. <i>japonicus</i>	EN
第4次 2018:	フクロダガヤ	<i>Tripogon longearistatus</i> var. <i>japonicus</i>	EN
第4次 2017:	フクロダガヤ	<i>Tripogon longearistatus</i> var. <i>japonicus</i>	EN
第4次 2015:	フクロダガヤ	<i>Tripogon longearistatus</i> var. <i>japonicus</i>	EN
第4次:	フクロダガヤ	<i>Tripogon longearistatus</i> var. <i>japonicus</i>	EN
第3次:	フクロダガヤ	<i>Tripogon longearistatus</i> var. <i>japonicus</i>	EN
第2次:	フクロダガヤ	<i>Tripogon japonicus</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

茨城県[絶滅危惧 I B 類] 栃木県[絶滅危惧 I 類(A ランク)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Tripogon longearistatus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Tripogon longearistatus* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Limited distribution, Natural succession, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キタダケカニツリ

Trisetum spicatum subsp. *molle***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

リシリカニツリに似るが、葉身や花序柄の毛が少ない。北アメリカ産の var. *congdoni* Hitchc. に近いとされる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山に生育。

【分布域】

南アルプスに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュの現存個体数が計数十個体と報告された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キタダケカニツリ	<i>Trisetum spicatum</i> subsp. <i>molle</i>	EN
第4次 2019:	キタダケカニツリ	<i>Trisetum spicatum</i> subsp. <i>molle</i>	EN
第4次 2018:	キタダケカニツリ	<i>Trisetum spicatum</i> subsp. <i>molle</i>	EN
第4次 2017:	キタダケカニツリ	<i>Trisetum spicatum</i> subsp. <i>molle</i>	EN
第4次 2015:	キタダケカニツリ	<i>Trisetum spicatum</i> subsp. <i>molle</i>	EN
第4次:	キタダケカニツリ	<i>Trisetum spicatum</i> subsp. <i>molle</i>	EN
第3次:	キタダケカニツリ	<i>Trisetum spicatum</i> subsp. <i>molle</i>	EN
第2次:	キタダケカニツリ	<i>Trisetum spicatum</i> var. <i>kitadakense</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山梨県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)] 静岡県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Trisetum spicatum subsp. *molle* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Trisetum spicatum* subsp. *molle* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツルキケマン

Corydalis ochotensis

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 E
20 年間の絶滅確率が 20%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎は長く伸びて分枝し、長さ 1 m。葉身は長さ 1–1.5 cm、2–3 回 3 出複生。花は長さ 12–15 mm、淡黄色。苞は卵形～広卵形。

【生活史】

二年草。

【生育環境】

山中の半日陰地に生育。

【分布域】

本州（東北・関東・中部地方）、朝鮮半島北部・シベリア東部・オホーツク沿岸地方に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 6 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	2	2	0	0	6	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	その他	シカ食害
件数 3	3	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツルキケマン	<i>Corydalis ochotensis</i>	EN
第4次 2019:	ツルキケマン	<i>Corydalis ochotensis</i>	EN
第4次 2018:	ツルキケマン	<i>Corydalis ochotensis</i>	EN
第4次 2017:	ツルキケマン	<i>Corydalis ochotensis</i>	EN
第4次 2015:	ツルキケマン	<i>Corydalis ochotensis</i>	EN
第4次:	ツルキケマン	<i>Corydalis ochotensis</i>	EN
第3次:	ツルキケマン	<i>Corydalis ochotensis</i>	EN
第2次:	ツルキケマン	<i>Corydalis ochotensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[A ランク] 宮城県[絶滅危惧 I 類(CR+EN)] 秋田県[CR] 福島県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 栃木県[準絶滅危惧(C ランク)] 群馬県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 埼玉県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 山梨県[情報不足(DD)] 長野県[絶滅危惧 IB 類(EN)] 静岡県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Corydalis ochotensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Corydalis ochotensis* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Natural succession, Other, Deer feeding damage

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

リシリヒナゲシ

*Papaver fauriei***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-20 cm。全体に粗い毛があり、短い根茎があり株を作る。葉は多数根生して柄があり、卵形で羽状に全裂する。花茎は 1 花を頂生する。花弁は長さ約 2 cm、黄緑色。蒴果は長さ 1 cm、ほぼ球形、粗い毛がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山帯の岩地に生育。

【分布域】

北海道（利尻島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。2012 年調査では 1 メッシュで現存が確認され、現存個体数は数百個体と推定される。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	—	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	リシリヒナゲシ	<i>Papaver fauriei</i>	EN
第4次 2019:	リシリヒナゲシ	<i>Papaver fauriei</i>	EN
第4次 2018:	リシリヒナゲシ	<i>Papaver fauriei</i>	EN
第4次 2017:	リシリヒナゲシ	<i>Papaver fauriei</i>	EN
第4次 2015:	リシリヒナゲシ	<i>Papaver fauriei</i>	EN
第4次:	リシリヒナゲシ	<i>Papaver fauriei</i>	EN
第3次:	リシリヒナゲシ	<i>Papaver fauriei</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Papaver fauriei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Papaver fauriei* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハナカズラ

Aconitum ciliare

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は若いときに直立、のちにつる状となり、長さ 100-250 cm。中部の茎葉の葉身は長さ 6.5-13 cm、3 全裂～深裂する。花は散房状～円錐状花序に 3-10 個がつき、青紫色～青色。

【生活史】

疑似一年草。

【生育環境】

林縁や草地に生育。

【分布域】

九州、朝鮮半島・中国東北部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハナカズラ	<i>Aconitum ciliare</i>	EN
第4次 2019:	ハナカズラ	<i>Aconitum ciliare</i>	EN
第4次 2018:	ハナカズラ	<i>Aconitum ciliare</i>	EN
第4次 2017:	ハナカズラ	<i>Aconitum ciliare</i>	EN
第4次 2015:	ハナカズラ	<i>Aconitum ciliare</i>	EN
第4次:	ハナカズラ	<i>Aconitum ciliare</i>	EN
第3次:	ハナカズラ	<i>Aconitum ciliare</i>	EN
第2次:	ハナカズラ	<i>Aconitum ciliare</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[情報不足(DD)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aconitum ciliare has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Aconitum ciliare* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シレトコトリカブト

Aconitum misaoanum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 70-200 cm。中部の茎葉の葉身は長さ 4-29 cm、円形、3 深裂～浅裂する。花序は円錐状で長さ 3-30 cm。花は円錐花序に 2-12 個ほどがつき、紅紫色～青紫色、あるいは青白色、まれに赤紫色。

【生活史】

疑似一年草。

【生育環境】

海岸草原に生育。

【分布域】

北海道知床半島・歯舞諸島色丹島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では現存個体数は 250 個体未満と推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シレトコトリカブト	<i>Aconitum misaoanum</i>	EN
第4次 2019:	シレトコトリカブト	<i>Aconitum misaoanum</i>	EN
第4次 2018:	シレトコトリカブト	<i>Aconitum misaoanum</i>	EN
第4次 2017:	シレトコトリカブト	<i>Aconitum misaoanum</i>	EN
第4次 2015:	シレトコトリカブト	<i>Aconitum misaoanum</i>	EN
第4次:	シレトコトリカブト	<i>Aconitum misaoanum</i>	EN
第3次:	シレトコトリカブト	<i>Aconitum misaoanum</i>	EN
第2次:	シレトコトリカブト	<i>Aconitum maximum</i> var. <i>misaoanum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aconitum misaoanum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Aconitum misaoanum is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ダイセツトリカブト

*Aconitum yamazakii***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15-60 cm。根出葉の葉身は長さ 4-11 cm、3 中裂～深裂する。花は散房状に 2-4 個ほどがつくか単生し、青紫色。雄蕊は有毛。袋果は長さ 12-15 mm、直立かわずかに斜開する。

【生活史】

疑似一年草。

【生育環境】

高山草原、低木林の林縁や林内に生育。

【分布域】

北海道（大雪山）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュで計百数十個体が生育しているだけであった。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	2	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ダイセツトリカブト	<i>Aconitum yamazakii</i>	EN
第4次 2019:	ダイセツトリカブト	<i>Aconitum yamazakii</i>	EN
第4次 2018:	ダイセツトリカブト	<i>Aconitum yamazakii</i>	EN
第4次 2017:	ダイセツトリカブト	<i>Aconitum yamazakii</i>	EN
第4次 2015:	ダイセツトリカブト	<i>Aconitum yamazakii</i>	EN
第4次:	ダイセツトリカブト	<i>Aconitum yamazakii</i>	EN
第3次:	ダイセツトリカブト	<i>Aconitum yamazakii</i>	EN
第2次:	ダイセツトリカブト	<i>Aconitum yamazakii</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aconitum yamazakii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Aconitum yamazakii* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シコクイチゲ

Anemone sikokiana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 25-65 cm。根出葉の葉身は長さ 2-6.5 cm、広菱形～広倒卵状菱形、両面に伏毛がある。花は 3-10 個が散形花序あるいは複散形につく。花は径 1.5-2.2 cm、白色。集合果は径約 1 cm、広卵状。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

石灰岩地や超塩基性岩地に生育。

【分布域】

四国（赤石山系・石鎚山系）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	産地局限	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シコクイチゲ	<i>Anemone sikokiana</i>	EN
第4次 2019:	シコクイチゲ	<i>Anemone sikokiana</i>	EN
第4次 2018:	シコクイチゲ	<i>Anemone sikokiana</i>	EN
第4次 2017:	シコクイチゲ	<i>Anemone sikokiana</i>	EN
第4次 2015:	シコクイチゲ	<i>Anemone sikokiana</i>	EN
第4次:	シコクイチゲ	<i>Anemone sikokiana</i>	EN
第3次:	シコクイチゲ	<i>Anemone sikokiana</i>	EN
第2次:	シコクイチゲ	<i>Anemone sikokiana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016．改訂新版日本の野生植物 2．381pp., 256pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Anemone sikokiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Anemone sikokiana* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Deer feeding damage, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シコクハンショウヅル

Clematis obvallata var. *shikokiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

コウヤハンショウヅルに似るが、小苞が長さ 3-5 mm と小型で、花柄の先端か上端につき、披針形。

【生活史】

つる性木本。

【生育環境】

林縁や林内に生育。

【分布域】

四国（四国山地）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	0	2	0	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 不明	園芸採取	道路工事
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シコクハンショウヅル	<i>Clematis obvallata</i> var. <i>shikokiana</i>	EN
第4次 2019:	シコクハンショウヅル	<i>Clematis obvallata</i> var. <i>shikokiana</i>	EN
第4次 2018:	シコクハンショウヅル	<i>Clematis obvallata</i> var. <i>shikokiana</i>	EN
第4次 2017:	シコクハンショウヅル	<i>Clematis obvallata</i> var. <i>shikokiana</i>	EN
第4次 2015:	シコクハンショウヅル	<i>Clematis obvallata</i> var. <i>shikokiana</i>	EN
第4次:	シコクハンショウヅル	<i>Clematis obvallata</i> var. <i>shikokiana</i>	EN
第3次:	シコクハンショウヅル	<i>Clematis obvallata</i> var. <i>shikokiana</i>	EN
第2次:	シコクハンショウヅル	<i>Clematis obvallata</i> var. <i>shikokiana</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[絶滅危惧 IA 類] 愛媛県[準絶滅危惧(NT)] 高知県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Clematis obvallata var. *shikokiana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Clematis obvallata* var. *shikokiana* is listed as EN under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Unknown, Collecting plants in gardening, Road construction
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒュウガオウレン

*Coptis minamitaniana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

屋久島固有のオオゴカヨウオウレンに似ているが、花が単生で、苞は広く、先端が尾錠に短く尖る。

【生活史】

花期は 3 月上旬。

【生育環境】

溪流に近いヒノキ植林内に生育。

【分布域】

宮崎県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

生育地は 2 か所に限定されるが、園芸用に採集されている。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	2	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 不明	その他	自然遷移
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 文献なし

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Coptis minamitaniana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Coptis minamitaniana* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Unknown, Other, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コウヤシロカネソウ

*Dichocarpum numajirianum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は短く、膜状の鱗片に覆われる。茎は高さ 10-20 cm。上部の茎葉の葉身は対生し、頂小葉は長さ 1.5-3.5 cm、広卵形～広楕円形。花は径 7-10 mm、2-5 個が集散花序につくか単生し、點頭する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

林床に生育。

【分布域】

本州（三重県・奈良県・和歌山県）・四国（香川県・徳島県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 土地造成	道路工事	自然遷移
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コウヤシロカネソウ	<i>Dichocarpum numajirianum</i>	EN
第4次 2019:	コウヤシロカネソウ	<i>Dichocarpum numajirianum</i>	EN
第4次 2018:	コウヤシロカネソウ	<i>Dichocarpum numajirianum</i>	EN
第4次 2017:	コウヤシロカネソウ	<i>Dichocarpum numajirianum</i>	EN
第4次 2015:	コウヤシロカネソウ	<i>Dichocarpum numajirianum</i>	EN
第4次:	コウヤシロカネソウ	<i>Dichocarpum numajirianum</i>	EN
第3次:	コウヤシロカネソウ	<i>Dichocarpum numajirianum</i>	EN
第2次:	コウヤシロカネソウ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

三重県[絶滅危惧 IB 類(EN)] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 徳島県[絶滅危惧 IA 類] 香川県[絶滅危惧 I 類(CR+EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dichocarpum numajirianum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Dichocarpum numajirianum is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Land development, Road construction, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツクモグサ

*Pulsatilla nipponica***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 6-15 cm。根出葉の葉身は長さ幅ともに 2-6 cm、三角形状卵形、1 回 3 出複葉、小葉は広卵形。茎葉は長さ幅ともに 1.5-3 cm、3 全裂する。花は径 2.5-3.5 cm、単生し、黄白色。萼片の背面に白い長毛が密生する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山～亜高山の稜線上の草地に生育。

【分布域】

北海道（ポロヌプリ・石狩山地・芦別岳・日高山脈）・本州（雪倉岳・白馬岳・八ヶ岳）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数千個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	1	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	産地局限
件数	1	1

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツクモグサ	<i>Pulsatilla nipponica</i>	EN
第4次 2019:	ツクモグサ	<i>Pulsatilla nipponica</i>	EN
第4次 2018:	ツクモグサ	<i>Pulsatilla nipponica</i>	EN
第4次 2017:	ツクモグサ	<i>Pulsatilla nipponica</i>	EN
第4次 2015:	ツクモグサ	<i>Pulsatilla nipponica</i>	EN
第4次:	ツクモグサ	<i>Pulsatilla nipponica</i>	EN
第3次:	ツクモグサ	<i>Pulsatilla nipponica</i>	EN
第2次:	ツクモグサ	<i>Pulsatilla nipponica</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危機種(Cr)] 新潟県[絶滅危惧 I 類(EN)] 富山県[準絶滅危惧] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pulsatilla nipponica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pulsatilla nipponica* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae キンポウゲ科 Ranunculaceae

タカネキンポウゲ

Ranunculus altaicus subsp. *shinanoalpinus*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 8-15 cm。根出葉の葉身は長さ 0.8-3.5 cm、扇形～やや円形、あらい鋸歯縁か 3 浅裂する。茎葉は 1-3 個、3 深裂するか広披針形で全縁。花は径 2 cm、茎頂に 1 個かまれに 2 個つく。集合果は長さ 7 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山帯の雪田跡の礫地に生育。

【分布域】

北アルプス白馬岳に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タカネキンボウゲ	<i>Ranunculus altaicus</i> subsp. <i>shinanoalpinus</i>	EN
第4次 2019:	タカネキンボウゲ	<i>Ranunculus altaicus</i> subsp. <i>shinanoalpinus</i>	EN
第4次 2018:	タカネキンボウゲ	<i>Ranunculus altaicus</i> subsp. <i>shinanoalpinus</i>	EN
第4次 2017:	タカネキンボウゲ	<i>Ranunculus altaicus</i> subsp. <i>shinanoalpinus</i>	EN
第4次 2015:	タカネキンボウゲ	<i>Ranunculus altaicus</i> subsp. <i>shinanoalpinus</i>	EN
第4次:	タカネキンボウゲ	<i>Ranunculus altaicus</i> subsp. <i>shinanoalpinus</i>	EN
第3次:	タカネキンボウゲ	<i>Ranunculus altaicus</i> subsp. <i>shinanoalpinus</i>	EN
第2次:	タカネキンボウゲ	<i>Ranunculus sulphureus</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

富山県[絶滅危惧Ⅰ類] 長野県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ranunculus altaicus subsp. *shinanoalpinus* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ranunculus altaicus* subsp. *shinanoalpinus* is listed as EN under criteria E. E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメバイカモ

Ranunculus kadzusensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 C

推定開花株数 2500 個体未満かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長さ 30-100 cm。沈水葉の葉身は長さ 1.5-3 cm、扇形、3-4 回 3 出する。花は径 6-10 mm、葉腋に単生し、白色で中心部は黄色。瘦果は長さ 1.2 mm、倒卵状、無毛、嘴は長さ 0.5 mm、曲がらない。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

河川や湖沼に生育。

【分布域】

本州（宮城県・福島県・千葉県・山口県）・九州（熊本県）、朝鮮半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、6 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 C により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	2	0	2	0	0	6	1	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 池沼開発	管理放棄	湿地開発
件数 2	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメバイカモ	<i>Ranunculus trichophyllus</i> var. <i>kazusensis</i>	EN
第4次 2019:	ヒメバイカモ	<i>Ranunculus trichophyllus</i> var. <i>kazusensis</i>	EN
第4次 2018:	ヒメバイカモ	<i>Ranunculus trichophyllus</i> var. <i>kazusensis</i>	EN
第4次 2017:	ヒメバイカモ	<i>Ranunculus trichophyllus</i> var. <i>kazusensis</i>	EN
第4次 2015:	ヒメバイカモ	<i>Ranunculus trichophyllus</i> var. <i>kazusensis</i>	EN
第4次:	ヒメバイカモ	<i>Ranunculus trichophyllus</i> var. <i>kazusensis</i>	EN
第3次:	ヒメバイカモ	<i>Ranunculus trichophyllus</i> var. <i>kazusensis</i>	EN
第2次:	ヒメバイカモ	<i>Ranunculus kazusensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 福島県[絶滅(EX)] 茨城県[絶滅危惧ⅠA類] 千葉県[消息不明・絶滅生物(X)] 島根県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 福岡県[野生絶滅] 熊本県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ranunculus kadzusensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ranunculus kadzusensis* is listed as EN under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.

Threat types:	Pond development, Abandonment of management, Wetland development

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キタダケキンポウゲ

*Ranunculus kitadakeanus***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 C

推定開花株数 2500 個体未満かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 8-20 cm。根出葉の葉身は長さ 0.5-1 cm、腎円形、3 深裂する。中部や上部の茎葉の葉身は長さ 0.7-3 cm、3-5 全裂。花は径 7-8 cm、2-4 個が総状花序につくか単生する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山帯の稜線上の礫地に生育。

【分布域】

南アルプス北岳～間ノ岳に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。2012 年調査では数百個体の現存が確認された。1 メッシュで増加が確認された。基準 C により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	1	0	—	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キタダケキンポウゲ	<i>Ranunculus kitadakeanus</i>	EN
第4次 2019:	キタダケキンポウゲ	<i>Ranunculus kitadakeanus</i>	EN
第4次 2018:	キタダケキンポウゲ	<i>Ranunculus kitadakeanus</i>	EN
第4次 2017:	キタダケキンポウゲ	<i>Ranunculus kitadakeanus</i>	EN
第4次 2015:	キタダケキンポウゲ	<i>Ranunculus kitadakeanus</i>	EN
第4次:	キタダケキンポウゲ	<i>Ranunculus kitadakeanus</i>	EN
第3次:	キタダケキンポウゲ	<i>Ranunculus kitadakeanus</i>	CR
第2次:	キタダケキンポウゲ	<i>Ranunculus kitadakeanus</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山梨県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ranunculus kitadakeanus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Ranunculus kitadakeanus is listed as EN under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオイチョウバイカモ

Ranunculus nipponicus var. *major*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長さ 2-4 m に達する。沈水葉の葉身は長さ 0.5-5 cm、扇形、3-4 回 3 出する。浮葉の葉身は長さ 0.5-1 cm、広倒卵形。花は径 5-15 mm、葉腋に単生し、白色で中心部は黄色。瘦果は長さ 1.5-2.2 mm、倒卵状、有毛か無毛、嘴は長さ 0.5 mm、曲がらない。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

河川や湖沼に生育。

【分布域】

北海道（千歳川）・本州（長野県・静岡県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュで絶滅とされ、2 メッシュでは計数十個体と推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	1	0	0	0	2	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオイチョウバイカモ	<i>Ranunculus nipponicus</i> var. major	EN
第4次 2019:	オオイチョウバイカモ	<i>Ranunculus nipponicus</i> var. major	EN
第4次 2018:	オオイチョウバイカモ	<i>Ranunculus nipponicus</i> var. major	EN
第4次 2017:	オオイチョウバイカモ	<i>Ranunculus nipponicus</i> var. major	EN
第4次 2015:	オオイチョウバイカモ	<i>Ranunculus nipponicus</i> var. major	EN
第4次:	オオイチョウバイカモ	<i>Ranunculus nipponicus</i> var. major	EN
第3次:	オオイチョウバイカモ	<i>Ranunculus nipponicus</i> var. major	EN
第2次:	オオイチョウバイカモ	<i>Ranunculus nipponicus</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 長野県[絶滅(EX)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ranunculus nipponicus var. major has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ranunculus nipponicus* var. major is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クモマキンポウゲ

Ranunculus pygmaeus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1-8.5 cm。葉身は長さ 3-8 mm、腎円形。花は直径 5-6 mm、黄色。花弁は長さ 2.3-4.3 mm、5 個、狭倒卵形～楕円形。瘦果は長さ約 1 mm、卵形、無毛、嘴は多少とも屈曲する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山帯の雪田跡の礫地に生育。

【分布域】

北アルプス白馬岳、北半球の周極地方に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クモマキンボウゲ	<i>Ranunculus pygmaeus</i>	CR
第4次 2019:	クモマキンボウゲ	<i>Ranunculus pygmaeus</i>	CR
第4次 2018:	クモマキンボウゲ	<i>Ranunculus pygmaeus</i>	CR
第4次 2017:	クモマキンボウゲ	<i>Ranunculus pygmaeus</i>	CR
第4次 2015:	クモマキンボウゲ	<i>Ranunculus pygmaeus</i>	CR
第4次:	クモマキンボウゲ	<i>Ranunculus pygmaeus</i>	CR
第3次:	クモマキンボウゲ	<i>Ranunculus pygmaeus</i>	CR
第2次:	クモマキンボウゲ	<i>Ranunculus pygmaeus</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

富山県[情報不足] 長野県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ranunculus pygmaeus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ranunculus pygmaeus* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

チトセバイカモ

Ranunculus yezoensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長さ 40-100 cm。沈水葉の葉身は長さ 2-4.5 cm、扇形、3-4 回 3 出する。花は径 5-7 mm、葉腋に単生し、白色で中心部は黄色。瘦果は長さ 1 mm、倒卵状、無毛、嘴は長さ 0.5 mm、太くて曲がらない。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

河川や湖沼に生育。

【分布域】

南千島・北海道・本州（青森県・秋田県）、千島列島・サハリン・朝鮮半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	1	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チトセバイカモ	<i>Ranunculus yezoensis</i>	EN
第4次 2019:	チトセバイカモ	<i>Ranunculus yezoensis</i>	EN
第4次 2018:	チトセバイカモ	<i>Ranunculus yezoensis</i>	EN
第4次 2017:	チトセバイカモ	<i>Ranunculus yezoensis</i>	EN
第4次 2015:	チトセバイカモ	<i>Ranunculus yezoensis</i>	EN
第4次:	チトセバイカモ	<i>Ranunculus yezoensis</i>	EN
第3次:	チトセバイカモ	<i>Ranunculus yezoensis</i>	EN
第2次:	チトセバイカモ	<i>Ranunculus yezoensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 秋田県[絶滅危惧種 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ranunculus yezoensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ranunculus yezoensis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオミヤマカラマツ

Thalictrum filamentosum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

平戸島のものは高さ 60-80 cm であるが、対馬では山頂付近の風衝地に生育するため 20-30 cm と低い。ムラサキカラマツと似ているが、小葉は基部が心形からやや切形、脈は浮き上がらない。また根は紡錘状に膨らまない。花色は薄紫～白色である。

【生活史】

多年草。花期は 6 月中旬-7 月中旬。

【生育環境】

露岩の草地に生育。

【分布域】

対馬・平戸島、朝鮮半島・中国東北部・ロシア沿海地方に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

生育地は限られており、株数も少ない。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 文献なし

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Thalictrum filamentosum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Thalictrum filamentosum is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒレフリカラマツ

*Thalictrum toyamae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15-30 cm。根出葉は 3 回 3 出複葉、小葉は長さ幅ともに 2.5-3.5 cm、広卵形～倒卵状菱形。花序は散房状。萼片は広楕円形、白色。瘦果は長さ 2 mm、2-10 個、紡錘形。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

谷間の湿った岩上に生育。

【分布域】

九州（佐賀県・長崎県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	2	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	産地局限
件数 3	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒレフリカラムツ	<i>Thalictrum toyamae</i>	EN
第4次 2019:	ヒレフリカラムツ	<i>Thalictrum toyamae</i>	EN
第4次 2018:	ヒレフリカラムツ	<i>Thalictrum toyamae</i>	EN
第4次 2017:	ヒレフリカラムツ	<i>Thalictrum toyamae</i>	EN
第4次 2015:	ヒレフリカラムツ	<i>Thalictrum toyamae</i>	EN
第4次:	ヒレフリカラムツ	<i>Thalictrum toyamae</i>	EN
第3次:	ヒレフリカラムツ	<i>Thalictrum toyamae</i>	EN
第2次:	ヒレフリカラムツ	<i>Thalictrum toyamae</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 長崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Thalictrum toyamae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Thalictrum toyamae* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Limited distribution

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タマカラマツ

*Thalictrum watanabei***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 C

推定開花株数 2500 個体未満かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 20-40 cm。根出葉は 2-3 回 3 出複葉、小葉は長さ 1-3 cm、倒卵形～広倒卵形。花序は散房状～複散房状。萼片は白色。瘦果は長さ 3-4 mm、3-6 個。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

谷間や林下の湿った岩上に生育。

【分布域】

本州（静岡県・紀伊半島以西）・四国・九州に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 9 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 C により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	4	3	1	0	0	9	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	シカ食害	人の踏みつけ
件数 8	3	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タマカラマツ	<i>Thalictrum watanabei</i>	VU
第4次 2019:	タマカラマツ	<i>Thalictrum watanabei</i>	VU
第4次 2018:	タマカラマツ	<i>Thalictrum watanabei</i>	VU
第4次 2017:	タマカラマツ	<i>Thalictrum watanabei</i>	VU
第4次 2015:	タマカラマツ	<i>Thalictrum watanabei</i>	VU
第4次:	タマカラマツ	<i>Thalictrum watanabei</i>	VU
第3次:	タマカラマツ	<i>Thalictrum watanabei</i>	VU
第2次:	タマカラマツ	<i>Thalictrum watanabei</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 三重県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 奈良県[絶滅危惧種] 徳島県[絶滅危惧ⅠB類] 香川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛媛県[情報不足(DD)] 高知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 大分県[情報不足(DD)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Thalictrum watanabei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Thalictrum watanabei is listed as EN under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.

Threat types:	Natural succession, Deer feeding damage, Human trampling

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アオカズラ

Sabia japonica

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

枝は緑色で、若枝には褐色の短毛がある。葉柄は長さ 7-14 mm、葉身は長さ 4-9 cm、卵状長楕円形、表面は深緑色でやや光沢があり、裏面は淡緑色で中脈上に粗毛を密生する。花は葉腋から出る、束生した花序につく。花は径 6-8 mm、鐘状、黄色。

【生活史】

落葉藤本。花期は 3-4 月。

【生育環境】

低山帯に生育。

【分布域】

四国・九州、中国（中南部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 道路工事	不明	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アオカズラ	<i>Sabia japonica</i>	EN
第4次 2019:	アオカズラ	<i>Sabia japonica</i>	EN
第4次 2018:	アオカズラ	<i>Sabia japonica</i>	EN
第4次 2017:	アオカズラ	<i>Sabia japonica</i>	EN
第4次 2015:	アオカズラ	<i>Sabia japonica</i>	EN
第4次:	アオカズラ	<i>Sabia japonica</i>	EN
第3次:	アオカズラ	<i>Sabia japonica</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福岡県[絶滅危惧ⅠB類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 長崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 熊本県[準絶滅危惧(NT)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[準絶滅危惧(NT-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020 年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sabia japonica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sabia japonica* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Road construction, Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

モミジバショウマ

*Astilbe platyphylla***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は斜上し、地中に走出枝を出す。葉は 2 回 3 出複葉で、頂小葉は広倒卵形～菱状広倒卵形、2-5 浅裂し、長さ 8-15 cm、幅 6-12 cm、縁には鋭い重鋸歯があり、先端は尾状の鋭形、基部は浅い心形。花茎は高さ約 50 cm ほど。花序は複総状で、花を密につける。萼裂片は黄緑色で披針形、長さ約 1 mm、7-11 個。花弁はない。蒴果は長さ 4-5 mm。

【生活史】

多年草。雌雄異株。花期は 6-7 月。

【生育環境】

谷沿いのやや明るい林床に生える。

【分布域】

北海道（十勝・日高・渡島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 4 メッシュで計数百個体と推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	2	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	モミジバショウマ	<i>Astilbe platyphylla</i>	EN
第4次 2019:	モミジバショウマ	<i>Astilbe platyphylla</i>	EN
第4次 2018:	モミジバショウマ	<i>Astilbe platyphylla</i>	EN
第4次 2017:	モミジバショウマ	<i>Astilbe platyphylla</i>	EN
第4次 2015:	モミジバショウマ	<i>Astilbe platyphylla</i>	EN
第4次:	モミジバショウマ	<i>Astilbe platyphylla</i>	EN
第3次:	モミジバショウマ	<i>Astilbe platyphylla</i>	EN
第2次:	モミジバショウマ	<i>Astilbe platyphylla</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Astilbe platyphylla has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Astilbe platyphylla* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クモマユキノシタ

Micranthes laciniata

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は太くて短く、頂に開出する多数の葉を束生し、ロゼット状となる。根出葉は倒披針形で、長さ 1-3 cm。花茎は高さ 4-10 cm、腺毛を密生し、無葉または小さな披針形の葉を 1 個つける。花序は集散状。花弁は白色で、下部に 2 個の黄点があり、長円形で長さ 5-6 mm、鈍頭～円頭、基部は耳状となって長さ 1 mm ほどの爪がある。雄蕊は 10 個、裂開直前の葯は濃赤色、子房は上位。蒴果は卵形で長さ 5-7 mm、上部は斜開する。

【生活史】

多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

高山帯の湿った岩礫地。

【分布域】

北海道（大雪山・夕張山地）、朝鮮半島（北部）・サハリン。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	自然遷移	産地局限

件数		
2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クモマユキノシタ	<i>Saxifraga laciniata</i>	EN
第4次 2019:	クモマユキノシタ	<i>Saxifraga laciniata</i>	EN
第4次 2018:	クモマユキノシタ	<i>Saxifraga laciniata</i>	EN
第4次 2017:	クモマユキノシタ	<i>Saxifraga laciniata</i>	EN
第4次 2015:	クモマユキノシタ	<i>Saxifraga laciniata</i>	EN
第4次:	クモマユキノシタ	<i>Saxifraga laciniata</i>	EN
第3次:	クモマユキノシタ	<i>Saxifraga laciniata</i>	EN
第2次:	クモマユキノシタ	<i>Saxifraga laciniata</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Micranthes laciniata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Micranthes laciniata is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

チシマイワブキ

Micranthes nelsoniana var. *reniformis*

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 E
20 年間の絶滅確率が 20%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

根茎は短く、やや匍匐し、長さ 1–10 cm の柄がある根出葉を束生する。根出葉は無毛、葉身は円腎形または腎形、長さ 2–4 cm、幅 3–6 cm、縁には形のそろった卵状三角形で鋭形の鋸歯がある。花茎は高さ 5–25 cm で、花序は散房状で、多数の花をやや密につける。花弁は白色、まれに帯赤紫色で、楕円形～楕円状倒披針形、長さ約 3 mm、花時に平開する。雄蕊は 10 個、花弁とほぼ同長、裂開直前の葯は橙黄色。子房はほぼ上位。蒴果は卵形、長さ 4–5 mm。

【生活史】

多年草。花期は 7 月。

【生育環境】

高山の岩礫地に生える。

【分布域】

北海道（利尻島・大雪山系）、サハリン・千島列島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チシマイワブキ	<i>Saxifraga nelsoniana</i> var. <i>reniformis</i>	EN
第4次 2019:	チシマイワブキ	<i>Saxifraga nelsoniana</i> var. <i>reniformis</i>	EN
第4次 2018:	チシマイワブキ	<i>Saxifraga nelsoniana</i> var. <i>reniformis</i>	EN
第4次 2017:	チシマイワブキ	<i>Saxifraga nelsoniana</i> var. <i>reniformis</i>	EN
第4次 2015:	チシマイワブキ	<i>Saxifraga nelsoniana</i> var. <i>reniformis</i>	EN
第4次:	チシマイワブキ	<i>Saxifraga nelsoniana</i> var. <i>reniformis</i>	EN
第3次:	チシマイワブキ	<i>Saxifraga nelsoniana</i> var. <i>reniformis</i>	EN
第2次:	チシマイワブキ	<i>Saxifraga punctata</i> ssp. <i>reniformis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Micranthes nelsoniana var. *reniformis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Micranthes nelsoniana* var. *reniformis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20

years.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エチゼンダイモンジソウ

*Saxifraga acerifolia***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は分岐しながら長く横にはい、ときに先に芽をつくる。葉は根生し、葉柄は長さ 10-21 cm。葉身は腎円形、長さ 4-9 cm、表面にはわずかに毛が散生、5-7 深裂し、裂片は倒卵形、基部は切形。花茎は高さ 20-40 cm。花弁は白色、上側の 3 弁は披針形で短く、長さ 4-7 mm、基部は急に細くなり爪状となり、下側の 2 弁は線状倒披針形で、長さ 10-20 mm。雄蕊は 10 個、裂開直前の葯は紫紅色。子房は上位。種子は楕円形で長さ約 0.8 mm、微小な粒状突起がある。ダイモンジソウに似るが、横にはう根茎があり、花期が異なり、葉が深裂することなどの違いがある。

【生活史】

多年草。花期は 5-6 月。

【生育環境】

河川の流水域や絶えず水が流れるような陰湿な岩上の斜面に生える。

【分布域】

本州（福井県・石川県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数千個体の現存が推定された。平均減少率は 85%であった。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	1	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因 園芸採取	河川開発	自然遷移
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エチゼンダイモンジソウ	<i>Saxifraga acerifolia</i>	VU
第4次 2019:	エチゼンダイモンジソウ	<i>Saxifraga acerifolia</i>	VU
第4次 2018:	エチゼンダイモンジソウ	<i>Saxifraga acerifolia</i>	VU
第4次 2017:	エチゼンダイモンジソウ	<i>Saxifraga acerifolia</i>	VU
第4次 2015:	エチゼンダイモンジソウ	<i>Saxifraga acerifolia</i>	VU
第4次:	エチゼンダイモンジソウ	<i>Saxifraga acerifolia</i>	VU
第3次:	エチゼンダイモンジソウ	<i>Saxifraga acerifolia</i>	VU
第2次:	エチゼンダイモンジソウ	<i>Saxifraga acerifolia</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

石川県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 福井県安全環境部自然環境課，2016. 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016. 福井県安全環境部自然環境課，536pp.
- 石川県絶滅危惧植物調査会，2020. 石川県の絶滅のおそれのある野生生物 いしかわレッドデータブック 2020（植物編）. 石川県生活環境部自然環境課，394pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Saxifraga acerifolia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Saxifraga acerifolia is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Collecting plants in gardening, River development, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムラサキベンケイソウ

Hylotelephium pallescens

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

花茎は長さ 20–50 cm。葉は互生または対生、楕円状卵形～狭卵形、長さ 3–8 cm、帯粉して深緑色で柄がなく、やや鋭い鋸歯がある。花序は散房状、花弁は赤紫色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

草原、崖などに生育する。

【分布域】

南千島、北海道に分布。国外では、シベリア、モンゴル、中国（北部、東北部）、朝鮮半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 海岸開発		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリと掲載名

第4次 2020:	ムラサキベンケイソウ	<i>Hylotelephium pallescens</i>	VU
第4次 2019:	ムラサキベンケイソウ	<i>Hylotelephium pallescens</i>	VU
第4次 2018:	ムラサキベンケイソウ	<i>Hylotelephium pallescens</i>	VU
第4次 2017:	ムラサキベンケイソウ	<i>Hylotelephium pallescens</i>	VU
第4次 2015:	ムラサキベンケイソウ	<i>Hylotelephium pallescens</i>	VU
第4次:	ムラサキベンケイソウ	<i>Hylotelephium pallescens</i>	VU
第3次:	ムラサキベンケイソウ	<i>Hylotelephium pallescens</i>	VU
第2次:	ムラサキベンケイソウ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[情報不足(DD)] 長野県[絶滅危惧 IB 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hylotelephium pallescens has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Hylotelephium pallescens is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Coastal development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エツチュウミセバヤ

Hylotelephium sieboldii var. *ettyuense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミセバヤに似るが、葉は対生、時に 3 輪生し、卵形または広卵形、花序は複散房状で半球形。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

溪谷の切り立った崖や道路法面の露出した集塊岩上に生育する。

【分布域】

本州（北陸地方）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エッチュウミセバヤ	<i>Hylotelephium sieboldii</i> var. <i>ettyuense</i>	VU
第4次 2019:	エッチュウミセバヤ	<i>Hylotelephium sieboldii</i> var. <i>ettyuense</i>	VU
第4次 2018:	エッチュウミセバヤ	<i>Hylotelephium sieboldii</i> var. <i>ettyuense</i>	VU
第4次 2017:	エッチュウミセバヤ	<i>Hylotelephium sieboldii</i> var. <i>ettyuense</i>	VU
第4次 2015:	エッチュウミセバヤ	<i>Hylotelephium sieboldii</i> var. <i>ettyuense</i>	VU
第4次:	エッチュウミセバヤ	<i>Hylotelephium sieboldii</i> var. <i>ettyuense</i>	VU
第3次:	エッチュウミセバヤ	<i>Hylotelephium sieboldii</i> var. <i>ettyuense</i>	VU
第2次:	エッチュウミセバヤ	<i>Hylotelephium sieboldii</i> var. <i>ettyuense</i>	EW
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

富山県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 富山県生活環境文化部自然保護課，2012. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックとやま 2012—. 富山県生活環境文化部自然保護課，451pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hylotelephium sieboldii var. *ettyuense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hylotelephium sieboldii* var. *ettyuense* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミセバヤ

Hylotelephium sieboldii var. *sieboldii*

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 E
20 年間の絶滅確率が 20%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

花茎は長さ 15–30 cm、斜上するか下垂する。葉は 3 輪生し、倒卵形～扇形、長さ 1–1.5 cm、帯粉して緑白色。花序は散房状で、球形。花弁は紅色、楕円形～倒披針形、長さ約 4 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

岩上に生育する。

【分布域】

香川県小豆島に生育する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	1	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	道路工事
件数 2	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミセバヤ	<i>Hylotelephium sieboldii</i> var. <i>sieboldii</i>	EN
第4次 2019:	ミセバヤ	<i>Hylotelephium sieboldii</i> var. <i>sieboldii</i>	EN
第4次 2018:	ミセバヤ	<i>Hylotelephium sieboldii</i> var. <i>sieboldii</i>	EN
第4次 2017:	ミセバヤ	<i>Hylotelephium sieboldii</i> var. <i>sieboldii</i>	EN
第4次 2015:	ミセバヤ	<i>Hylotelephium sieboldii</i> var. <i>sieboldii</i>	EN
第4次:	ミセバヤ	<i>Hylotelephium sieboldii</i> var. <i>sieboldii</i>	EN
第3次:	ミセバヤ	<i>Hylotelephium sieboldii</i>	EN
第2次:	ミセバヤ	<i>Hylotelephium sieboldii</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

奈良県[絶滅寸前種] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hylotelephium sieboldii var. *sieboldii* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hylotelephium sieboldii* var. *sieboldii* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Road construction

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムニンタイトゴメ

*Sedum boninense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

メノマンネングサに似るが、花茎は長さ約 8 cm。葉は円柱状狭楕円形または狭卵形、長さ 5-8 mm で、花茎にやや密につく。花序は頂生の集散花序で 3-10 花からなる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の日当たりの良い岩礫地に生育する。

【分布域】

小笠原に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数千個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	1	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムニンタイトゴメ	<i>Sedum japonicum</i> subsp. <i>boninense</i>	EN
第4次 2019:	ムニンタイトゴメ	<i>Sedum japonicum</i> subsp. <i>boninense</i>	EN
第4次 2018:	ムニンタイトゴメ	<i>Sedum japonicum</i> subsp. <i>boninense</i>	EN
第4次 2017:	ムニンタイトゴメ	<i>Sedum japonicum</i> subsp. <i>boninense</i>	EN
第4次 2015:	ムニンタイトゴメ	<i>Sedum japonicum</i> subsp. <i>boninense</i>	EN
第4次:	ムニンタイトゴメ	<i>Sedum japonicum</i> subsp. <i>boninense</i>	EN
第3次:	ムニンタイトゴメ	<i>Sedum japonicum</i> subsp. <i>boninense</i>	EN
第2次:	ムニンタイトゴメ	<i>Sedum boninense</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sedum boninense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sedum boninense* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ベンケイソウ科 Crassulaceae

カワラマンネングサ

Sedum kawaraense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヒメレンゲやタカネマンネングサに似るが、主に前者とは送出枝を出さない点、後者とは 5 数性の花をつける点で異なる。茎は直立し、ロゼット葉はさじ形で鈍頭。

【生活史】

越年草。

【生育環境】

山地の石灰岩上に生育。

【分布域】

福岡県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

詳細については不明。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Ito, T., H. Kanemitsu, T. Hoson and T. Yahara, 2023. A new species of succulent plant discovered in limestone areas of Kyushu, Japan: *Sedum kawaraense* (Crassulaceae). *Phytotaxa*, 587: 149–160.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sedum kawaraense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sedum kawaraense* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメマンネングサ

*Sedum zentaro-tashiroi***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヒメレンゲに似るが、葉が 4 輪生する点で異なる。夏期のロゼット葉は倒卵形～さじ形、円頭またはわずかに凹頭となるが、冬期のロゼット葉及び花茎に生じる茎葉は線形、鋭頭。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の岩上に生育。

【分布域】

長崎県（対馬）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

詳細については不明。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 文献なし

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sedum zentaro-tashiroi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Sedum zentaro-tashiroi is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナガバアリノトウグサ

Gonocarpus chinensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10–25 cm。葉身は長さ 5–20 mm、披針形～狭卵形で細長い。茎・葉に剛毛がある。花序は複総状花序。花弁は 4 個で、長さ 1–1.8 mm、長楕円形で紅色～煉瓦色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

開けた草地に生育。

【分布域】

琉球（沖縄島・伊是名島）、中国・東南アジア～オーストラリアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が報告された。沖縄島の自生地多くは開発で失われる可能性が高く、保全対策が望まれる。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	1	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナガバアリノトウグサ	<i>Haloragis chinensis</i>	EN
第4次 2019:	ナガバアリノトウグサ	<i>Haloragis chinensis</i>	EN
第4次 2018:	ナガバアリノトウグサ	<i>Haloragis chinensis</i>	EN
第4次 2017:	ナガバアリノトウグサ	<i>Haloragis chinensis</i>	EN
第4次 2015:	ナガバアリノトウグサ	<i>Haloragis chinensis</i>	EN
第4次:	ナガバアリノトウグサ	<i>Haloragis chinensis</i>	EN
第3次:	ナガバアリノトウグサ	<i>Haloragis chinensis</i>	EN
第2次:	ナガバアリノトウグサ	<i>Haloragis chinensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[情報不足] 沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gonocarpus chinensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Gonocarpus chinensis* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クマガワブドウ

Vitis kiusiana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉柄は長くて長さ 13 cm。葉身は大型でやや硬く、長さ 7-17 cm、幅 6-15 cm、五角状長卵形か長卵形で、縁には凹波状の腺質細歯牙がある。雄花序は葉よりも長くなり、長さ 25 cm、下部に 1 個の巻きひげがある。果実は球形で、径約 8 mm。

【生活史】

つる性落葉木本。

【生育環境】

低山地の林縁に生育する。

【分布域】

九州南部（熊本県、鹿児島県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	3	0	0	0	0	5	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 森林伐採	シカ食害	管理放棄
件数 3	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クマガワブドウ	<i>Vitis romanetii</i>	CR
第4次 2019:	クマガワブドウ	<i>Vitis romanetii</i>	CR
第4次 2018:	クマガワブドウ	<i>Vitis romanetii</i>	CR
第4次 2017:	クマガワブドウ	<i>Vitis romanetii</i>	CR
第4次 2015:	クマガワブドウ	<i>Vitis romanetii</i>	CR
第4次:	クマガワブドウ	<i>Vitis romanetii</i>	CR
第3次:	クマガワブドウ	<i>Vitis romanetii</i>	CR
第2次:	クマガワブドウ	<i>Vitis quinqueangularis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧 I B 類(EN-r)] 鹿児島県[絶滅危惧 I 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 熊本県希少野生動植物検討委員会，2019. レッドデータブックくまもと 2019 ―熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物―. 熊本県環境生活部自然保護課，632pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Vitis kiusiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Vitis kiusiana* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Logging and wood harvesting, Deer feeding damage, Abandonment of management

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シラガブドウ

Vitis shiragae

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は薄く、扁卵形ないし扁円形、長さ幅ともに 7-15 cm、3 浅裂。葉縁には凹波状の歯牙がある。葉柄は帯紅色、長さ 5-11 cm、花序は総状の円錐花穂で、長さ 5-12 cm。果実はやや小型で、径 7-8 mm、黒く熟す。

【生活史】

つる性落葉木本。

【生育環境】

川沿いの二次林縁部や河川敷に生育する。

【分布域】

本州（岡山県）に分布。国外では、朝鮮半島南部、済州島、中国（東部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 5 メッシュで計数百個体と推定された。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	2	0	1	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シラガブドウ	<i>Vitis amurensis</i>	EN
第4次 2019:	シラガブドウ	<i>Vitis amurensis</i>	EN
第4次 2018:	シラガブドウ	<i>Vitis amurensis</i>	EN
第4次 2017:	シラガブドウ	<i>Vitis amurensis</i>	EN
第4次 2015:	シラガブドウ	<i>Vitis amurensis</i>	EN
第4次:	シラガブドウ	<i>Vitis amurensis</i>	EN
第3次:	シラガブドウ	<i>Vitis amurensis</i>	EN
第2次:	シラガブドウ	<i>Vitis amurensis</i> var. <i>shiragai</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岡山県[留意] 大分県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 岡山県野生動植物調査検討会，2020. 岡山県版レッドデータブック 2020 植物編. 岡山県環境文化部自然環境課，368pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Vitis shiragai has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Vitis shiragai* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハマビシ

Tribulus terrestris

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	ACD 基準
平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎は匍匐して長さ 1 m。葉は中間型もあるが二型で、1 つは大型で 6-7 対の小葉があり、葉軸は長さ 3-6 cm。他の 1 つは小型で 3-5 対の小葉があり、葉軸は長さ 1-3 cm。小葉は対生し、大型葉では小葉は大きく、長さ 10-18 mm、小型葉では小さく、長さ 5-12 mm。花は小型葉の腋につくか、あるいは大型葉と対生してつく。花弁は黄色、倒卵形で、長さ約 5 mm。

【生活史】

1 年草または越年草。

【生育環境】

海岸の砂浜に生育する。

【分布域】

本州（千葉県、福井県以西）、四国、九州に分布。世界的には、熱帯～暖帯の海岸や内陸の乾燥地に広く分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで絶滅し、7 メッシュで計数千個体の現存が推定された。平均減少率は 84%であった。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	2	1	3	0	0	7	3	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	自然遷移	その他

海岸開発		
件数		
5	2	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハマビシ	<i>Tribulus terrestris</i>	EN
第4次 2019:	ハマビシ	<i>Tribulus terrestris</i>	EN
第4次 2018:	ハマビシ	<i>Tribulus terrestris</i>	EN
第4次 2017:	ハマビシ	<i>Tribulus terrestris</i>	EN
第4次 2015:	ハマビシ	<i>Tribulus terrestris</i>	EN
第4次:	ハマビシ	<i>Tribulus terrestris</i>	EN
第3次:	ハマビシ	<i>Tribulus terrestris</i>	EN
第2次:	ハマビシ	<i>Tribulus terrestris</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

茨城県[絶滅] 千葉県[最重要保護生物(A)] 神奈川県[絶滅(EX)] 福井県[県域絶滅] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 愛知県[絶滅(EX)] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[CR+EN] 兵庫県[野生絶滅(EW)] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鳥取県[絶滅(EX)] 島根県[絶滅(EX)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅] 佐賀県[絶滅種] 長崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Tribulus terrestris has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Tribulus terrestris* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Coastal development, Natural succession, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオバネムノキ

Albizia kalkora

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 6 m に達する。葉は 2 回羽状の偶数複葉、羽片は 3-6 対、葉柄の基部下側に大型の丸い蜜腺がある。羽片は長さ 10-20 cm、小葉は 9-15 対。小葉はゆがんだ長楕円形または狭倒卵形、やや光沢があり、長さ 2-4 cm、幅 8-15 mm、両面に伏した短軟毛があり、小葉枕があり、先端は円頭または鈍頭で小突起がある。頭状花序は腋生し、1-3 個。花冠は白色でまれに淡いピンク色、筒状で長さ 8-10 mm、雄しべは長さ約 2.5 cm。豆果は長さ約 16 cm、幅 3.5 cm、無毛。

【生活史】

落葉小高木。花期は初夏。

【生育環境】

海岸の低木林、先駆的な落葉広葉樹の二次林などに生育する。

【分布域】

長崎県（五島）・宮崎県・鹿児島県（奄美大島・中之島）、朝鮮半島西南部・中国・東南アジア・インド。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因 自然遷移	不明	
件数 2	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオバネムノキ	<i>Albizia kalkora</i>	EN
第4次 2019:	オオバネムノキ	<i>Albizia kalkora</i>	EN
第4次 2018:	オオバネムノキ	<i>Albizia kalkora</i>	EN
第4次 2017:	オオバネムノキ	<i>Albizia kalkora</i>	EN
第4次 2015:	オオバネムノキ	<i>Albizia kalkora</i>	EN
第4次:	オオバネムノキ	<i>Albizia kalkora</i>	EN
第3次:	オオバネムノキ	<i>Albizia kalkora</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[準絶滅危惧種(NT)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 中西弘樹・山本武能・鈴木浩司・出口敏也・上田浩一，2019. ヒロハネムとオオバネムノキの分布と生育立地. 植生学会誌，36: 33-39.
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020 年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Albizia kalkora has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Albizia kalkora* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤエヤマネムノキ

Albizia retusa

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15 m に達する。葉は 2 回羽状の偶数複葉、羽片は 4-6 対、葉柄は長さ 4-8 cm、基部に密腺がある。小葉は各羽片に対生して 8-16 個がつき、卵状楕円形～倒卵形、膜質、無毛、長さ 2-4 cm、幅 1-2 cm、先端は円頭ときにやや凹頭、裏面はやや緑白色。複円錐花序花は長さ 10-14 cm。花冠は白色、長さ約 6 mm、雄蕊は白色～淡紅色で長さ約 2 cm。豆果は広線形、長さ 11-18 cm、幅約 2.5 cm、12-16 個の種子を入れる。

【生活史】

落葉高木。花期は 5-8 月。

【生育環境】

海岸林や海に近い二次林中に生育する。

【分布域】

琉球（沖縄島・石垣島・入表島・小浜島・内離島・嘉弥真島）、台湾・フィリピン・インドネシア・タイ・ミクロネシア・オーストラリア。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 3 メッシュで計約 30 個体と推定された。他地域にも分布していることから、50 個体以上は現存していると推定される。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤエヤマネムノキ	<i>Albizia retusa</i>	EN
第4次 2019:	ヤエヤマネムノキ	<i>Albizia retusa</i>	EN
第4次 2018:	ヤエヤマネムノキ	<i>Albizia retusa</i>	EN
第4次 2017:	ヤエヤマネムノキ	<i>Albizia retusa</i>	EN
第4次 2015:	ヤエヤマネムノキ	<i>Albizia retusa</i>	EN
第4次:	ヤエヤマネムノキ	<i>Albizia retusa</i>	EN
第3次:	ヤエヤマネムノキ	<i>Albizia retusa</i>	EN
第2次:	ヤエヤマネムノキ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Albizia retusa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Albizia retusa* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カラフトモメンヅル

Astragalus schelichovii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 30-60 cm。茎は根元で分岐し斜上。葉は 13-23 小葉、小葉は長さ 9-13 mm、幅約 4 mm で長楕円形、上面はほとんど無毛で下面は細毛が密生する。花序柄は長さ 10-15 cm。萼には密に黒短毛があり、萼筒は長さ約 5 mm、先端は 5 裂、裂片はのみ形で長さ 1.5-2 mm。花は淡黄色で長さ 12 mm。豆果は楕円状長楕円形、長さ 14-17 mm、幅 3 mm、花序軸に沿って直立し、柱頭の下半部が半曲して角状に残る。

【生活史】

多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

日当たりのよい河原の砂地や砂礫地に生える。

【分布域】

北海道（北部・東部）・栃木県（日光）、朝鮮半島・中国・ロシア（東シベリア・サハリン・カムチャツカ半島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カラフトモメンヅル	<i>Astragalus schelichovii</i>	EN
第4次 2019:	カラフトモメンヅル	<i>Astragalus schelichovii</i>	EN
第4次 2018:	カラフトモメンヅル	<i>Astragalus schelichovii</i>	EN
第4次 2017:	カラフトモメンヅル	<i>Astragalus schelichovii</i>	EN
第4次 2015:	カラフトモメンヅル	<i>Astragalus schelichovii</i>	EN
第4次:	カラフトモメンヅル	<i>Astragalus schelichovii</i>	EN
第3次:	カラフトモメンヅル	<i>Astragalus schelichovii</i>	EN
第2次:	カラフトモメンヅル	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(A ランク)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 長谷川順一，2012. 奥日光のカラフトモメンヅルの保護. フロラ栃木，20: 67-73.
- 松井洋，1998. 中禅寺湖畔千手ヶ浜に生育するカラフトモメンヅル. 北方山草，15:46-53.
- 村田源，1984. 植物分類雑記 15. 植物分類，地理，35: 30-36.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 北海道，309pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Astragalus schelichovii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Astragalus schelichovii is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トカチオウギ

*Astragalus tokachiensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-33 cm。茎は叢生して斜上。葉は長さ 3-6 cm、小葉は 8-10 対。小葉は長さ 5-11 mm、幅 3-6 mm、楕円形～長楕円形、円頭で微突起があり、上面は無毛、下面は白色の短毛がまばらにある。花序枝は長さ 3-5 cm、先に 3-8 花をつけ、花は黄白色で長さ 16-17 mm。萼は長さ 6-7 mm で無毛またはほぼ無毛、5 裂片はやや不明瞭。豆果は有柄で無毛、ほぼ倒卵形でふくらみ、長さ 22-25 mm、幅約 10 mm。

【生活史】

多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

高山の岩礫地や岩壁に生える。

【分布域】

北海道（西クマネシリ岳・ニペソツ山）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュで数十個体と推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

タイツリオウギとの違いについて、分類学的な検討が必要とされている。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トカチオウギ	<i>Astragalus tokachiensis</i>	EN
第4次 2019:	トカチオウギ	<i>Astragalus tokachiensis</i>	EN
第4次 2018:	トカチオウギ	<i>Astragalus tokachiensis</i>	EN
第4次 2017:	トカチオウギ	<i>Astragalus tokachiensis</i>	EN
第4次 2015:	トカチオウギ	<i>Astragalus tokachiensis</i>	EN
第4次:	トカチオウギ	<i>Astragalus tokachiensis</i>	EN
第3次:	トカチオウギ	<i>Astragalus tokachiensis</i>	EN
第2次:	トカチオウギ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Astragalus tokachiensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Astragalus tokachiensis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カリバオウギ

*Astragalus yamamotoi***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 30–50 cm。茎は直立。小葉は 9–13 枚、狭卵形～長楕円形、長さ 1.5–4 cm、幅 0.7–1.5 cm、先端は円形またはやや凹頭。花序は長さ 1.5–3 cm、5–8 花をつけ、花は紅紫色、長さ 2–2.5 cm。萼は長さ 7–8 mm、内側と裂片の縁に黒褐色の毛があり、裂片は同長で狭三角形、長さ 1–1.5 mm。豆果は楕円形で長さ 35–40 mm。

【生活史】

多年草。花期は 7–8 月。

【生育環境】

山地の岩場に生育する。

【分布域】

北海道（狩場山塊）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュで計数百個体が現存すると推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カリバオウギ	<i>Astragalus yamamotoi</i>	EN
第4次 2019:	カリバオウギ	<i>Astragalus yamamotoi</i>	EN
第4次 2018:	カリバオウギ	<i>Astragalus yamamotoi</i>	EN
第4次 2017:	カリバオウギ	<i>Astragalus yamamotoi</i>	EN
第4次 2015:	カリバオウギ	<i>Astragalus yamamotoi</i>	EN
第4次:	カリバオウギ	<i>Astragalus yamamotoi</i>	EN
第3次:	カリバオウギ	<i>Astragalus yamamotoi</i>	EN
第2次:	カリバオウギ	<i>Astragalus yamamotoi</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危機種(Cr)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 梅沢俊，2018. 北海道の草花. 399pp. 北海道新聞社，札幌.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Astragalus yamamotoi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Astragalus yamamotoi is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カラフトゲンゲ

Hedysarum hedysaroides

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-40 cm。小葉は 13-17 枚つく。小葉は長さ 1.5-2.5 cm、幅 5-12 mm で卵状楕円形。花は紅紫色、花序の一方にやや偏してつく。萼は 5 裂、長さ 5-8 mm、側裂片は長さ 2-4 mm で萼筒とほぼ同長、最下（背軸側）の裂片は筒部より短い。節果は長さ 20-30 mm、幅 6-7 mm、狭長楕円形。豆果が有毛のものをチシマゲンゲ *f. neglectum* (Ledeb.) Ohwi という。

【生活史】

多年草。花期は 6-8 月。

【生育環境】

高山の礫地や海岸近くの草原に生える。

【分布域】

北海道（日高・夕張・大雪・知床の各山系、礼文島）、ユーラシアに広く分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		

件数 3		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カラフトゲンゲ	<i>Hedysarum hedysaroides</i>	EN
第4次 2019:	カラフトゲンゲ	<i>Hedysarum hedysaroides</i>	EN
第4次 2018:	カラフトゲンゲ	<i>Hedysarum hedysaroides</i>	EN
第4次 2017:	カラフトゲンゲ	<i>Hedysarum hedysaroides</i>	EN
第4次 2015:	カラフトゲンゲ	<i>Hedysarum hedysaroides</i>	EN
第4次:	カラフトゲンゲ	<i>Hedysarum hedysaroides</i>	EN
第3次:	カラフトゲンゲ	<i>Hedysarum hedysaroides</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 梅沢俊，2018. 北海道の草花. 399pp. 北海道新聞社，札幌.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hedysarum hedysaroides has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

<i>Hedysarum hedysaroides</i> is listed as EN under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.	
Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

チョウセンニワフジ

Indigofera kirilowii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ニワフジに比べ、花が長さ 12-15 mm とやや小型で、旗弁の背軸側は縁を除き無毛、小葉もやや小さく、長さ 15-40 mm、幅 10-30 mm、広卵形～菱状卵形～楕円形である。

【生活史】

小型低木。

【生育環境】

丘陵地・山地の尾根の疎林、林縁部の岩場などに生える。

【分布域】

対馬・九州北部、朝鮮半島・中国（北部）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。平均減少率は 63%であった。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	1	1	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	産地局限	シカ食害
件数 3	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チョウセンニワフジ	<i>Indigofera kirilowii</i>	CR
第4次 2019:	チョウセンニワフジ	<i>Indigofera kirilowii</i>	CR
第4次 2018:	チョウセンニワフジ	<i>Indigofera kirilowii</i>	CR
第4次 2017:	チョウセンニワフジ	<i>Indigofera kirilowii</i>	CR
第4次 2015:	チョウセンニワフジ	<i>Indigofera kirilowii</i>	CR
第4次:	チョウセンニワフジ	<i>Indigofera kirilowii</i>	CR
第3次:	チョウセンニワフジ	<i>Indigofera kirilowii</i>	CR
第2次:	チョウセンニワフジ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

佐賀県[絶滅危惧Ⅱ類種] 長崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 熊本県[情報不足(DD)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 大分県自然環境学術調査会，2022. レッドデータブックおおいた 2022—大分県の絶滅のおそれのある野生生物—. <https://www.rdb-oita.jp/>（2024年9月5日閲覧）.
- 長崎県県民生活環境部自然保護課，2001. ながさきの希少な野生動植物 レッドデータブック 2001. 長崎県県民生活環境部自然保護課，568pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Indigofera kirilowii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Indigofera kirilowii* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Limited distribution, Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コシキジマハギ

*Lespedeza argyrophylla***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1-3 m。ツクシハギに似るが、葉は濃緑色、灰色のビロード毛を持ち、葉裏の中肋は密に毛が生え、莢はより大きく 10-15 mm に達する点異なる。シロヤマハギ（キハギとサツマハギの雑種）と同一ともみなされている。

【生活史】

落葉性低木。

【生育環境】

海岸や内陸部のやや乾燥した岩場。

【分布域】

鹿児島県（上甕島・下甕島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数十個体の現存が報告された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コシキジマハギ	<i>Lespedeza argyrophylla</i>	EN
第4次 2019:	コシキジマハギ	<i>Lespedeza argyrophylla</i>	EN
第4次 2018:	コシキジマハギ	<i>Lespedeza argyrophylla</i>	EN
第4次 2017:	コシキジマハギ	<i>Lespedeza argyrophylla</i>	EN
第4次 2015:	コシキジマハギ	<i>Lespedeza argyrophylla</i>	EN
第4次:	コシキジマハギ	<i>Lespedeza argyrophylla</i>	EN
第3次:	コシキジマハギ	<i>Lespedeza argyrophylla</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧 I 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lespedeza argyrophylla has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Lespedeza argyrophylla is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エゾオヤマノエンドウ

Oxytropis japonica var. *sericea***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

匍匐性。高さ約 10 cm、茎や葉などに白色のやや長い軟毛がある。葉は多くは根生し、小葉は 9-15 枚、狭卵形で、長さ 5-10 mm。花は紅紫色で、高さ 1-5 cm の花茎の先につき、ふつう 1-2 花で、長さ 17-20 mm。葉に軟毛が密に生える点で基準変種のオヤマノエンドウと異なる。白花をシロバナエゾオヤマノエンドウ f. *leucantha* Toyok. という。

【生活史】

多年草。花期は 7 月。

【生育環境】

高山の砂礫地や風衝草地に生育する。

【分布域】

北海道（大雪山系）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	産地局限	
件数	1	

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾオヤマノエンドウ	<i>Oxytropis japonica</i> var. <i>sericea</i>	EN
第4次 2019:	エゾオヤマノエンドウ	<i>Oxytropis japonica</i> var. <i>sericea</i>	EN
第4次 2018:	エゾオヤマノエンドウ	<i>Oxytropis japonica</i> var. <i>sericea</i>	EN
第4次 2017:	エゾオヤマノエンドウ	<i>Oxytropis japonica</i> var. <i>sericea</i>	EN
第4次 2015:	エゾオヤマノエンドウ	<i>Oxytropis japonica</i> var. <i>sericea</i>	EN
第4次:	エゾオヤマノエンドウ	<i>Oxytropis japonica</i> var. <i>sericea</i>	EN
第3次:	エゾオヤマノエンドウ	<i>Oxytropis japonica</i> var. <i>sericea</i>	EN
第2次:	エゾオヤマノエンドウ	<i>Oxytropis japonica</i> var. <i>sericea</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 清水建美・木原浩・門田裕一，2014. 高山に咲く花 増補改訂新版（山溪ハンディ図鑑 8）. 512pp. 山と溪谷社，東京.
- 梅沢俊，2018. 北海道の草花. 399pp. 北海道新聞社，札幌.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Oxytropis japonica var. *sericea* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Oxytropis japonica* var. *sericea* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

マシケゲンゲ

*Oxytropis shokanbetsuensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-15 cm。葉は 9-13 対の小葉をつける。小葉は長さ 6-12 mm、幅 2-5 mm、卵形または長楕円形、表面無毛、下面と縁には軟毛があり、縁はやや内向する。花序は 2-5 花をつけ、花は紅紫色、長さ 20-23 mm、竜骨弁の先端の突起は短く長さ 0.5 mm。萼は白軟毛と黒褐色毛が混ざり、萼裂片は狭三角形で長さ 1.5-2 mm。豆果は長さ 15-20 mm、圧毛があり、卵形、先は花柱が残って長く尖り鋭尖頭。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山の礫地に生育する。

【分布域】

北海道（増毛山系暑寒別岳）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュの限られた場所に数百個体が生育するだけであった。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	マシケゲンゲ	<i>Oxytropis shokanbetsuensis</i>	EN
第4次 2019:	マシケゲンゲ	<i>Oxytropis shokanbetsuensis</i>	EN
第4次 2018:	マシケゲンゲ	<i>Oxytropis shokanbetsuensis</i>	EN
第4次 2017:	マシケゲンゲ	<i>Oxytropis shokanbetsuensis</i>	EN
第4次 2015:	マシケゲンゲ	<i>Oxytropis shokanbetsuensis</i>	EN
第4次:	マシケゲンゲ	<i>Oxytropis shokanbetsuensis</i>	EN
第3次:	マシケゲンゲ	<i>Oxytropis shokanbetsuensis</i>	EN
第2次:	マシケゲンゲ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Oxytropis shokanbetsuensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Oxytropis shokanbetsuensis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20

years.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオバフジボグサ

Uraria lagopodoides

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 60 cm、斜上性。葉は 1-3 小葉。小葉は長さ 2-7 cm、幅 2-5 cm、楕円形、卵形またはほぼ円形、側脈は 6-10 対、裏面の脈状には短い鉤毛がやや密生する。偽総状花序は長さ 3-8 cm。花は淡紅紫色。豆果は 2 個の小節果よりなり、無毛、小節果は楕円形、長さ約 2 mm、幅約 1.5 mm、厚さ約 1 mm。

【生活史】

多年草または低木。花期は 5-8 月。

【生育環境】

日当たりのよい原野。

【分布域】

琉球（宮古島・石垣島・西表島）、台湾・中国・東南アジア・インド・オーストラリア。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオバフジボグサ	<i>Uraria lagopodioides</i>	EN
第4次 2019:	オオバフジボグサ	<i>Uraria lagopodioides</i>	EN
第4次 2018:	オオバフジボグサ	<i>Uraria lagopodioides</i>	EN
第4次 2017:	オオバフジボグサ	<i>Uraria lagopodioides</i>	EN
第4次 2015:	オオバフジボグサ	<i>Uraria lagopodioides</i>	EN
第4次:	オオバフジボグサ	<i>Uraria lagopodioides</i>	EN
第3次:	オオバフジボグサ	<i>Uraria lagopodioides</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Uraria lagopodioides has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Uraria lagopodioides* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメツルアズキ

Vigna minima var. *minima*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長さ約 2 m に達する。葉は 3 小葉、托葉は長さ 3-5 mm。小葉は両面に伏毛が散生、長さ 1.5-10 cm、幅 1-5 cm、狭卵形～やや倒卵形、ほとんど全縁でまれにわずかに 3 裂、先端は鋭頭または鋭尖頭、基部は切形または鈍形～円形。総状花序は腋生でやや長い柄があり、2-6 花をつける。花は黄色、旗弁は左右非相称、長さ 1 cm 内外。萼は長さ 3-4 mm で 4 裂、無毛またはまばらに軟毛がある。豆果は無毛またはまばらに微小な伏軟毛があり、線形で円筒状、長さ 2.5-6 cm、幅 2-3 mm、中に 8-10 種子を入れる。

【生活史】

つる性の 1 年草。花期は 8-9 月。

【生育環境】

川岸や沿岸地の草地などに生える。

【分布域】

九州（福岡県・長崎県）、朝鮮半島・中国・東南アジア。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	2	1	0	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位 3 項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

自然遷移		
件数 4		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメツルアズキ	<i>Vigna nakashimae</i>	EN
第4次 2019:	ヒメツルアズキ	<i>Vigna nakashimae</i>	EN
第4次 2018:	ヒメツルアズキ	<i>Vigna nakashimae</i>	EN
第4次 2017:	ヒメツルアズキ	<i>Vigna nakashimae</i>	EN
第4次 2015:	ヒメツルアズキ	<i>Vigna nakashimae</i>	EN
第4次:	ヒメツルアズキ	<i>Vigna nakashimae</i>	EN
第3次:	ヒメツルアズキ	<i>Vigna nakashimae</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[情報不足(DD)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 長崎県[準絶滅危惧種(NT)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016．改訂新版日本の野生植物 2．381pp., 256pls. 平凡社，東京．
- 長崎県県民生活環境部自然保護課，2001．ながさきの希少な野生動植物 レッドデータブック 2001．長崎県県民生活環境部自然保護課，568pp.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫（編），1982．日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類．318pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Vigna minima var. *minima* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Vigna minima var. *minima* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アカササゲ

Vigna vexillata var. *tsusimensis*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎には褐色の開出毛または逆向きの毛が散生する。葉は 3 小葉、托葉は狭卵形で茎との着点が耳状にやや伸び、長さ 3-4 mm、小托葉は小型で線形。頂小葉は長さ 6-12 cm、幅 3-4 cm、狭卵形でほぼ全縁、鋭尖頭。腋生の偽総状花序は長さ 20 cm に達し、長い柄があり、上部に 2-4 花をつける。花は淡赤紫色または青紫色のちに褐紫色、長さ幅ともに 25-30 mm、旗弁は左右非相称。萼は 5 裂。豆果は長さ 8-11 cm、褐色の剛毛が密生し、10-16 種子を入れる。

【生活史】

つる性の多年草。花期は 9 月頃。

【生育環境】

川岸の草地や林縁、低山地の二次林の林縁に生育する。

【分布域】

九州（長崎県対馬・熊本県・宮崎県）、台湾・朝鮮半島・中国。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	その他	不明

道路工事		
件数		
1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アカササゲ	<i>Vigna vexillata</i> var. <i>tsusimensis</i>	EN
第4次 2019:	アカササゲ	<i>Vigna vexillata</i> var. <i>tsusimensis</i>	EN
第4次 2018:	アカササゲ	<i>Vigna vexillata</i> var. <i>tsusimensis</i>	EN
第4次 2017:	アカササゲ	<i>Vigna vexillata</i> var. <i>tsusimensis</i>	EN
第4次 2015:	アカササゲ	<i>Vigna vexillata</i> var. <i>tsusimensis</i>	EN
第4次:	アカササゲ	<i>Vigna vexillata</i> var. <i>tsusimensis</i>	EN
第3次:	アカササゲ	<i>Vigna vexillata</i> var. <i>tsusimensis</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 熊本県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-d)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Vigna vexillata var. *tsusimensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th

edition. <i>Vigna vexillata</i> var. <i>tsusimensis</i> is listed as EN under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.	
Threat types:	Road construction, Other, Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae バラ科 Rosaceae

キリタチャマザクラ

Cerasus sargentii var. *akimotoi*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D+C

推定開花株数が 250 個体未満/推定開花株数 2500 個体未満かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

オオヤマザクラに似るが、葉縁が 2 重鋸歯で斜上し、花弁の基部がくさび形となる。

【生活史】

落葉高木。

【生育環境】

石灰岩地に生育する。

【分布域】

宮崎県五ヶ瀬町の白岩山周辺に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。元々の個体数が少ないまれな種である。シカ食害によって減少し、今後もシカの影響を受ける可能性が高い。基準 D と C により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キリタチヤマザクラ	<i>Prunus sargentii</i> var. <i>akimotoi</i> (in schedule)	EN
第4次 2019:	キリタチヤマザクラ	<i>Prunus sargentii</i> var. <i>akimotoi</i> (in schedule)	EN
第4次 2018:	キリタチヤマザクラ	<i>Prunus sargentii</i> var. <i>akimotoi</i> (in schedule)	EN
第4次 2017:	キリタチヤマザクラ	<i>Prunus sargentii</i> var. <i>akimotoi</i> (in schedule)	EN
第4次 2015:	キリタチヤマザクラ	<i>Prunus sargentii</i> var. <i>akimotoi</i> (in schedule)	EN
第4次:	キリタチヤマザクラ	<i>Prunus sargentii</i> var. <i>akimotoi</i> (in schedule)	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧 I B 類(EN-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cerasus sargentii var. *akimotoi* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cerasus sargentii* var. *akimotoi* is listed as EN under criteria D+C.
D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.
C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:
1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クロミサンザシ

Crataegus chlorosarca

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は広卵形、時に卵形、長さ 5-10 cm、4-7 (-9) 対に羽状浅裂し、ふつう欠刻があり、鋸歯は不整で鋭く、表面は無毛または短い軟毛があり、裏面は白軟毛がやや密生。花序は散房状。花は白色、径 10-15 mm。果実はほぼ球形、黒熟し、径 6-9 mm。

【生活史】

落葉小高木。

【生育環境】

草地や林縁などに生育する。

【分布域】

北海道、本州（長野県菅平）に分布。国外ではサハリン、ウスリーに分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では減少率過小評価であるとされた。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
14	3	0	0	0	0	17	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クロミサンザシ	<i>Crataegus chlorosarca</i>	EN
第4次 2019:	クロミサンザシ	<i>Crataegus chlorosarca</i>	EN
第4次 2018:	クロミサンザシ	<i>Crataegus chlorosarca</i>	EN
第4次 2017:	クロミサンザシ	<i>Crataegus chlorosarca</i>	EN
第4次 2015:	クロミサンザシ	<i>Crataegus chlorosarca</i>	EN
第4次:	クロミサンザシ	<i>Crataegus chlorosarca</i>	EN
第3次:	クロミサンザシ	<i>Crataegus chlorosarca</i>	EN
第2次:	クロミサンザシ	<i>Crataegus chlorosarca</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危機種(Cr)] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Crataegus chlorosarca has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Crataegus chlorosarca is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマシロバナヘビイチゴ

Fragaria nipponica var. *yakusimensis*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

シロバナノヘビイチゴの矮小型だが、区別しない見解がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高地の草地に生育する。

【分布域】

屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 3 メッシュで計数個体の現存が報告されたが、50 個体以上は現存すると推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	0	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマシロバナヘビイチゴ	<i>Fragaria nipponica</i> var. <i>yakusimensis</i>	EN
第4次 2019:	ヤクシマシロバナヘビイチゴ	<i>Fragaria nipponica</i> var. <i>yakusimensis</i>	EN
第4次 2018:	ヤクシマシロバナヘビイチゴ	<i>Fragaria nipponica</i> var. <i>yakusimensis</i>	EN
第4次 2017:	ヤクシマシロバナヘビイチゴ	<i>Fragaria nipponica</i> var. <i>yakusimensis</i>	EN
第4次 2015:	ヤクシマシロバナヘビイチゴ	<i>Fragaria nipponica</i> var. <i>yakusimensis</i>	EN
第4次:	ヤクシマシロバナヘビイチゴ	<i>Fragaria nipponica</i> var. <i>yakusimensis</i>	EN
第3次:	ヤクシマシロバナヘビイチゴ	<i>Fragaria nipponica</i> var. <i>yakusimensis</i>	EN
第2次:	ヤクシマシロバナヘビイチゴ	—	NT
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.
- Yahara, T., H. Ohba, J. Murata and K. Iwatsuki, 1987. Taxonomic Review of Vascular Plants Endemic to Yakushima Island, Japan. Journal of the Faculty of Science, University of Tokyo. Sect. 3, Botany 14: 69-119.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Fragaria nipponica var. *yakusimensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Fragaria nipponica* var. *yakusimensis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ノカイドウ

*Malus spontanea***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10 m。葉は倒卵形または長楕円形、長さ 3-5 cm、縁にやや内曲する細鋸歯がある。花は白色でわずかに紅色を帯び、径 2-3 cm、短枝に 3-6 個が散状につき、葉の成熟前に咲く。果実は倒卵形で径 7-9 mm、赤色に熟す。

【生活史】

落葉小高木または低木。

【生育環境】

谷川沿いの二次林的環境に生育する。

【分布域】

九州南部（霧島山系えびの高原）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	自然遷移	その他
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ノカイドウ	<i>Malus spontanea</i>	EN
第4次 2019:	ノカイドウ	<i>Malus spontanea</i>	EN
第4次 2018:	ノカイドウ	<i>Malus spontanea</i>	EN
第4次 2017:	ノカイドウ	<i>Malus spontanea</i>	EN
第4次 2015:	ノカイドウ	<i>Malus spontanea</i>	EN
第4次:	ノカイドウ	<i>Malus spontanea</i>	EN
第3次:	ノカイドウ	<i>Malus spontanea</i>	EN
第2次:	ノカイドウ	<i>Malus spontanea</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Malus spontanea has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Malus spontanea* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ユウバリキンバイ

Potentilla matsumurae var. *yuparensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミヤマキンバイに似るが、小葉には少し毛があり、表面に光沢がない。不規則に 2-4 中裂し、長さ 0.5-1.5 cm。裂片は披針形。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山の少し湿った礫地や草地に生育する。

【分布域】

北海道（夕張岳）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	自然遷移	産地局限
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ユウバリキンバイ	<i>Potentilla matsumurae</i> var. <i>yuparensis</i>	EN
第4次 2019:	ユウバリキンバイ	<i>Potentilla matsumurae</i> var. <i>yuparensis</i>	EN
第4次 2018:	ユウバリキンバイ	<i>Potentilla matsumurae</i> var. <i>yuparensis</i>	EN
第4次 2017:	ユウバリキンバイ	<i>Potentilla matsumurae</i> var. <i>yuparensis</i>	EN
第4次 2015:	ユウバリキンバイ	<i>Potentilla matsumurae</i> var. <i>yuparensis</i>	EN
第4次:	ユウバリキンバイ	<i>Potentilla matsumurae</i> var. <i>yuparensis</i>	EN
第3次:	ユウバリキンバイ	<i>Potentilla matsumurae</i> var. <i>yuparensis</i>	EN
第2次:	ユウバリキンバイ	<i>Potentilla matsumurae</i> var. <i>yuparensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Potentilla matsumurae var. *yuparensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Potentilla matsumurae* var. *yuparensis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Natural succession, Limited distribution

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤブザクラ

*Prunus hisauchiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は長さ 5-6 cm。花柄は長さ約 1 cm で開出毛が生える。花床筒は萼片の長さの約 1.5 倍、萼片は卵円形で、縁に鋸歯がある。花弁長 12-13 mm。

【生活史】

落葉小高木。

【生育環境】

低山や丘陵地に生育する。

【分布域】

本州（関東、中部地方）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤブザクラ	<i>Prunus hisauchiana</i>	EN
第4次 2019:	ヤブザクラ	<i>Prunus hisauchiana</i>	EN
第4次 2018:	ヤブザクラ	<i>Prunus hisauchiana</i>	EN
第4次 2017:	ヤブザクラ	<i>Prunus hisauchiana</i>	EN
第4次 2015:	ヤブザクラ	<i>Prunus hisauchiana</i>	EN
第4次:	ヤブザクラ	<i>Prunus hisauchiana</i>	EN
第3次:	ヤブザクラ	<i>Prunus hisauchiana</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(本土部)[本土部:絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 東京都(南多摩)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2023. 東京都レッドデータブック 2023—東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版—. 東京都環境局自然環境部，879pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Prunus hisauchiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Prunus hisauchiana* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ブコウマメザクラ

Prunus incisa var. *bukosanensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

マメザクラに似るが、葉は長さ 5-8 cm、幅 3-4 cm と幅広。両面はほとんど無毛。

【生活史】

落葉小低木。

【生育環境】

石灰岩地に生育する。

【分布域】

埼玉県秩父地方を中心に、群馬県、東京都に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	4	0	0	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 石灰採掘	シカ食害	産地局限
件数 3	3	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ブコウマメザクラ	<i>Prunus incisa</i> var. <i>bukosanensis</i>	EN
第4次 2019:	ブコウマメザクラ	<i>Prunus incisa</i> var. <i>bukosanensis</i>	EN
第4次 2018:	ブコウマメザクラ	<i>Prunus incisa</i> var. <i>bukosanensis</i>	EN
第4次 2017:	ブコウマメザクラ	<i>Prunus incisa</i> var. <i>bukosanensis</i>	EN
第4次 2015:	ブコウマメザクラ	<i>Prunus incisa</i> var. <i>bukosanensis</i>	EN
第4次:	ブコウマメザクラ	<i>Prunus incisa</i> var. <i>bukosanensis</i>	EN
第3次:	ブコウマメザクラ	<i>Prunus incisa</i> var. <i>bukosanensis</i>	CR
第2次:	ブコウマメザクラ	<i>Prunus incisa</i> var. <i>bukosanensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(本土部)[本土部:絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2023. 東京都レッドデータブック 2023—東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版—. 東京都環境局自然環境部，879pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Prunus incisa var. *bukosanensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Prunus incisa* var. *bukosanensis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Limestone mining, Deer feeding damage, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae バラ科 Rosaceae

ホシザクラ

Prunus tamaclivorum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヤブザクラに似るが、萼片が長三角形で五芒星のように見える。

【生活史】

落葉小高木。

【生育環境】

丘陵地の日当たりのよい雑木林や林縁に生育する。

【分布域】

東京都奥多摩丘陵に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 土地造成	自然遷移	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホシザクラ	<i>Prunus tamaclivorum</i>	CR
第4次 2019:	ホシザクラ	<i>Prunus tamaclivorum</i>	CR
第4次 2018:	ホシザクラ	<i>Prunus tamaclivorum</i>	CR
第4次 2017:	ホシザクラ	<i>Prunus tamaclivorum</i>	CR
第4次 2015:	ホシザクラ	<i>Prunus tamaclivorum</i>	CR
第4次:	ホシザクラ	<i>Prunus tamaclivorum</i>	CR
第3次:	ホシザクラ	<i>Prunus tamaclivorum</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(本土部)[本土部：絶滅危惧 I A 類(CR)] 東京都(南多摩)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2023. 東京都レッドデータブック 2023—東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版—. 東京都環境局自然環境部，879pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Prunus tamaclivorum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Prunus tamaclivorum* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Land development, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

マメナシ

*Pyrus calleryana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は広卵形から卵形または卵状長楕円形、長さ 4-9 cm。花は白色、径約 2.5 cm。果実はほぼ球形、径約 1 cm、黄褐色で、円形の小さい皮目が多数ある。

【生活史】

落葉高木。

【生育環境】

ため池周辺などの湧水のある場所に生育する。

【分布域】

本州（愛知県、三重県、岐阜県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	2	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	マメナシ	<i>Pyrus calleryana</i>	EN
第4次 2019:	マメナシ	<i>Pyrus calleryana</i>	EN
第4次 2018:	マメナシ	<i>Pyrus calleryana</i>	EN
第4次 2017:	マメナシ	<i>Pyrus calleryana</i>	EN
第4次 2015:	マメナシ	<i>Pyrus calleryana</i>	EN
第4次:	マメナシ	<i>Pyrus calleryana</i>	EN
第3次:	マメナシ	<i>Pyrus calleryana</i>	EN
第2次:	マメナシ	<i>Pyrus calleryana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 三重県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 愛知県環境調査センター，2020. レッドデータブックあいち 2020—植物編—. 愛知県環境局環境政策部自然環境課，810pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pyrus calleryana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pyrus calleryana* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミチノクナシ

Pyrus ussuriensis var. *ussuriensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15 m。葉は卵状楕円形または広卵形、葉の縁には芒状の鋭鋸歯がある。花は白色、花柱は 5 個で離生し、基部に軟毛がある。果実は球形、扁球形、または広倒卵球形、褐色に熟し、果頂に萼片が残存する。

【生活史】

落葉高木。

【生育環境】

山地に生育する。

【分布域】

本州（岩手県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
4	0	0	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 不明		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミチノクナシ	<i>Pyrus ussuriensis</i> var. <i>ussuriensis</i>	EN
第4次 2019:	ミチノクナシ	<i>Pyrus ussuriensis</i> var. <i>ussuriensis</i>	EN
第4次 2018:	ミチノクナシ	<i>Pyrus ussuriensis</i> var. <i>ussuriensis</i>	EN
第4次 2017:	ミチノクナシ	<i>Pyrus ussuriensis</i> var. <i>ussuriensis</i>	EN
第4次 2015:	ミチノクナシ	<i>Pyrus ussuriensis</i> var. <i>ussuriensis</i>	EN
第4次:	ミチノクナシ	<i>Pyrus ussuriensis</i> var. <i>ussuriensis</i>	EN
第3次:	ミチノクナシ	<i>Pyrus ussuriensis</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[重要希少野生生物(B ランク)] 岩手県[C ランク] 宮城県[準絶滅危惧(NT)] 茨城県[情報不足②現状不明種] 栃木県[情報不足] 福井県[要注目] 岐阜県[情報不足] 京都府[絶滅寸前種] 岡山県[情報不足]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pyrus ussuriensis var. *ussuriensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pyrus ussuriensis* var. *ussuriensis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Unknown
Law designation status for	—

conservation	

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae バラ科 Rosaceae

シロヤマブキ

Rhodotypos scandens

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 2 m。葉は卵形、長さ 5-10 cm、鋭い重鋸歯。花は白色、径 3-4 cm。花弁は 4 枚、果皮は膜質、黒色で光沢があり、無毛。

【生活史】

落葉小低木。

【生育環境】

石灰岩地の林縁などに生育する。

【分布域】

本州（中国地方）に分布。国外では、朝鮮半島、中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	0	0	0	0	0	3	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	その他
件数 3	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シロヤマブキ	<i>Rhodotypos scandens</i>	EN
第4次 2019:	シロヤマブキ	<i>Rhodotypos scandens</i>	EN
第4次 2018:	シロヤマブキ	<i>Rhodotypos scandens</i>	EN
第4次 2017:	シロヤマブキ	<i>Rhodotypos scandens</i>	EN
第4次 2015:	シロヤマブキ	<i>Rhodotypos scandens</i>	EN
第4次:	シロヤマブキ	<i>Rhodotypos scandens</i>	EN
第3次:	シロヤマブキ	<i>Rhodotypos scandens</i>	EN
第2次:	シロヤマブキ	<i>Rhodotypos scandens</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 兵庫県[要調査種] 島根県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 香川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 岡山県野生動植物調査検討会，2020. 岡山県版レッドデータブック 2020 植物編. 岡山県環境文化部自然環境課，368pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhodotypos scandens has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhodotypos scandens* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Other

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ゴショイチゴ

Rubus chingii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1-2 m。茎は直立し無毛、棘を疎生。葉は円形で径 5-10 cm、5 深裂。花は白色で径約 3 cm、単生で下にうつむく。果実は球形、径約 1.5 cm、紅熟する。

【生活史】

小低木。

【生育環境】

明るい林縁や伐採地などに生育する。

【分布域】

本州（山口県）、四国（愛媛県、高知県）、九州（大分県、熊本県）に分布。国外では中国（中部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数十個体の現存が推定された。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	1	0	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	管理放棄	その他
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ゴシオイチゴ	<i>Rubus chingii</i>	EN
第4次 2019:	ゴシオイチゴ	<i>Rubus chingii</i>	EN
第4次 2018:	ゴシオイチゴ	<i>Rubus chingii</i>	EN
第4次 2017:	ゴシオイチゴ	<i>Rubus chingii</i>	EN
第4次 2015:	ゴシオイチゴ	<i>Rubus chingii</i>	EN
第4次:	ゴシオイチゴ	<i>Rubus chingii</i>	EN
第3次:	ゴシオイチゴ	<i>Rubus chingii</i>	EN
第2次:	ゴシオイチゴ	<i>Rubus chingii</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山口県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]
熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rubus chingii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rubus chingii* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Natural succession, Abandonment of management, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エゾノトウチソウ

*Sanguisorba japonensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 50–100 (–120) cm。根出葉には長い柄があり、7–17 個の小葉からなる。小葉は長楕円形～卵状長楕円形で鋸歯がある。花穂は長さ 7–25 cm、円柱形で垂れ下がる。花は紅紫色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿った岩の上や川原などに生育する。

【分布域】

北海道（日高山脈）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。2012 年調査時には数百個体が生育していた。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	2	0	–	2	0	3

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾノトウチソウ	<i>Sanguisorba hakusanensis</i> var. <i>japonensis</i>	EN
第4次 2019:	エゾノトウチソウ	<i>Sanguisorba hakusanensis</i> var. <i>japonensis</i>	EN
第4次 2018:	エゾノトウチソウ	<i>Sanguisorba hakusanensis</i> var. <i>japonensis</i>	EN
第4次 2017:	エゾノトウチソウ	<i>Sanguisorba hakusanensis</i> var. <i>japonensis</i>	EN
第4次 2015:	エゾノトウチソウ	<i>Sanguisorba hakusanensis</i> var. <i>japonensis</i>	EN
第4次:	エゾノトウチソウ	<i>Sanguisorba hakusanensis</i> var. <i>japonensis</i>	EN
第3次:	エゾノトウチソウ	<i>Sanguisorba hakusanensis</i> var. <i>japonensis</i>	CR
第2次:	エゾノトウチソウ	<i>Sanguisorba japonensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sanguisorba japonensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sanguisorba japonensis* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カツラギグミ

*Elaeagnus takeshitae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 4.3-5.5 cm、卵形、楕円状卵形～長楕円状卵形。葉の上面には秋まで残る淡黄褐色の星状毛が散生し、下面は黄緑色に蒼白を帯び、ほとんど鱗片がない。花は葉腋に単生する。萼筒外面の星状毛や鱗片はハコネグミよりやや多い。果実は長さ 10-11 mm、紅色。

【生活史】

落葉小高木。

【生育環境】

落葉広葉樹林の林縁に生育。

【分布域】

奈良県・大阪府・和歌山県の県境（葛城山・金剛山）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、4 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	1	0	0	0	0	4	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 道路工事	自然遷移	
件数	1	

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カツラギグミ	<i>Elaeagnus takeshitae</i>	EN
第4次 2019:	カツラギグミ	<i>Elaeagnus takeshitae</i>	EN
第4次 2018:	カツラギグミ	<i>Elaeagnus takeshitae</i>	EN
第4次 2017:	カツラギグミ	<i>Elaeagnus takeshitae</i>	EN
第4次 2015:	カツラギグミ	<i>Elaeagnus takeshitae</i>	EN
第4次:	カツラギグミ	<i>Elaeagnus takeshitae</i>	EN
第3次:	カツラギグミ	<i>Elaeagnus takeshitae</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

京都府[絶滅寸前種] 大阪府[VU] 奈良県[絶滅寸前種,注目種] 和歌山県[絶滅危惧 I B 類 (EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Elaeagnus takeshitae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Elaeagnus takeshitae* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Road construction, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマグミ

*Elaeagnus yakusimensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 3-5.5 cm、長楕円状披針形～卵状披針形。葉の上面には赤褐色の星状毛が散生、主脈状で密生し、下面は赤褐色の鱗片をしき、その上に淡褐色の鱗片が混生する。花は葉腋に 1-2 個つく。果実は長さ 10 mm 前後、赤色。

【生活史】

落葉小高木。

【生育環境】

高地に生育。

【分布域】

屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 4 メッシュで計数十個体と報告されたが、個体数過小評価とされた。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
4	0	0	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマグミ	<i>Elaeagnus yakusimensis</i>	EN
第4次 2019:	ヤクシマグミ	<i>Elaeagnus yakusimensis</i>	EN
第4次 2018:	ヤクシマグミ	<i>Elaeagnus yakusimensis</i>	EN
第4次 2017:	ヤクシマグミ	<i>Elaeagnus yakusimensis</i>	EN
第4次 2015:	ヤクシマグミ	<i>Elaeagnus yakusimensis</i>	EN
第4次:	ヤクシマグミ	<i>Elaeagnus yakusimensis</i>	EN
第3次:	ヤクシマグミ	<i>Elaeagnus yakusimensis</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016．改訂新版日本の野生植物 3．338pp., 264pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Elaeagnus yakusimensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Elaeagnus yakusimensis is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミヤマハンモドキ

*Rhamnus ishidae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-30 cm。葉身は長さ 4-8 cm、倒卵形ないし楕円形。花は黄緑色、若い枝の下部の葉腋に雌花は単生し、雄花は数個束生する。花弁はない。核果は径 7-8 mm、倒卵球形、紅から黒くなる。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

高山帯に生育。

【分布域】

北海道（夕張・日高山系）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミヤマハンモドキ	<i>Rhamnus ishidae</i>	EN
第4次 2019:	ミヤマハンモドキ	<i>Rhamnus ishidae</i>	EN
第4次 2018:	ミヤマハンモドキ	<i>Rhamnus ishidae</i>	EN
第4次 2017:	ミヤマハンモドキ	<i>Rhamnus ishidae</i>	EN
第4次 2015:	ミヤマハンモドキ	<i>Rhamnus ishidae</i>	EN
第4次:	ミヤマハンモドキ	<i>Rhamnus ishidae</i>	EN
第3次:	ミヤマハンモドキ	<i>Rhamnus ishidae</i>	EN
第2次:	ミヤマハンモドキ	<i>Rhamnus ishidae</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhamnus ishidae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhamnus ishidae* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イラクサ科 Urticaceae

ホソバノキミズ

Elatostema lineolatum var. *majus*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ランダイミズに似て茎の基部が木質化するが、より多く分枝し、葉身は長さ 15 cm 以下、少なくまばらな鋸歯がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

谷沿いの湿潤な林縁に生育。

【分布域】

琉球（奄美大島・沖縄県）、台湾・中国南部～東南アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

第 4 次レッドリストでは絶滅と判断されていたが、近年奄美大島で再発見された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホソバノキミズ	<i>Elatostema lineolatum</i> var. <i>majus</i>	EX
第4次 2019:	ホソバノキミズ	<i>Elatostema lineolatum</i> var. <i>majus</i>	EX
第4次 2018:	ホソバノキミズ	<i>Elatostema lineolatum</i> var. <i>majus</i>	EX
第4次 2017:	ホソバノキミズ	<i>Elatostema lineolatum</i> var. <i>majus</i>	EX
第4次 2015:	ホソバノキミズ	<i>Elatostema lineolatum</i> var. <i>majus</i>	EX
第4次:	ホソバノキミズ	<i>Elatostema lineolatum</i> var. <i>majus</i>	EX
第3次:	ホソバノキミズ	<i>Elatostema lineolatum</i> var. <i>majus</i>	EX
第2次:	ホソバノキミズ	<i>Elatostema lineolatum</i> var. <i>majus</i>	EX
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅] 沖縄県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Elatostema lineolatum var. *majus* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Elatostema lineolatum* var. *majus* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イラクサ科 Urticaceae

ランダイミズ

Elatostema platyphyllum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は基部が木質化し、まばらに分枝する。葉身は長さ 10-20 cm、大型で厚紙質、細かい鋸歯が多数ある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

溪谷沿いの岩上に生育。

【分布域】

琉球（西表島）、台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では現存個体数は 250 未満と報告された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ランダイミズ	<i>Elatostema platyphyllum</i>	EN
第4次 2019:	ランダイミズ	<i>Elatostema platyphyllum</i>	EN
第4次 2018:	ランダイミズ	<i>Elatostema platyphyllum</i>	EN
第4次 2017:	ランダイミズ	<i>Elatostema platyphyllum</i>	EN
第4次 2015:	ランダイミズ	<i>Elatostema platyphyllum</i>	EN
第4次:	ランダイミズ	<i>Elatostema platyphyllum</i>	EN
第3次:	ランダイミズ	<i>Elatostema platyphyllum</i>	EN
第2次:	ランダイミズ	<i>Elatostema edule</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Elatostema platyphyllum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Elatostema platyphyllum is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イラクサ科 Urticaceae

チョクザキミズ

Lecanthus peduncularis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

アオミズに似るが、花序は雌雄ともに盤状の総苞に包まれ、長い柄をもち、頭状花序。

【生活史】

草本。

【生育環境】

溪流沿いの湿った岩場に生育。

【分布域】

本州西部（山口県）・九州中部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 河川開発	自然遷移	その他
件数 2	2	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チョクザキミズ	<i>Lecanthus peduncularis</i>	EN
第4次 2019:	チョクザキミズ	<i>Lecanthus peduncularis</i>	EN
第4次 2018:	チョクザキミズ	<i>Lecanthus peduncularis</i>	EN
第4次 2017:	チョクザキミズ	<i>Lecanthus peduncularis</i>	EN
第4次 2015:	チョクザキミズ	<i>Lecanthus peduncularis</i>	EN
第4次:	チョクザキミズ	<i>Lecanthus peduncularis</i>	EN
第3次:	チョクザキミズ	<i>Lecanthus peduncularis</i>	EN
第2次:	チョクザキミズ	<i>Lecanthus peduncularis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

広島県[情報不足(DD)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 熊本県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lecanthus peduncularis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lecanthus peduncularis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	River development, Natural succession, Other

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イラクサ科 Urticaceae

トウカテンソウ

Nanocnide pilosa

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

カテンソウに似るが、雄花序の柄は短く、茎の毛は下向きになる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

路傍の林床に生育。

【分布域】

九州（鹿児島県）、中国中部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	2	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 土地造成	自然遷移	道路工事
件数 2	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トウカテンソウ	<i>Nanocnide pilosa</i>	CR
第4次 2019:	トウカテンソウ	<i>Nanocnide pilosa</i>	CR
第4次 2018:	トウカテンソウ	<i>Nanocnide pilosa</i>	CR
第4次 2017:	トウカテンソウ	<i>Nanocnide pilosa</i>	CR
第4次 2015:	トウカテンソウ	<i>Nanocnide pilosa</i>	CR
第4次:	トウカテンソウ	<i>Nanocnide pilosa</i>	CR
第3次:	トウカテンソウ	<i>Nanocnide pilosa</i>	CR
第2次:	トウカテンソウ	<i>Nanocnide pilosa</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Nanocnide pilosa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Nanocnide pilosa* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Land development, Natural succession, Road construction
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アポイカンバ

*Betula apoiensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ約 1 m。枝はよく分枝し、腺点がある。葉身は長さ 1.5–4 cm、卵形～広卵形、側脈は 6–8 対。果穂は長さ 1–3 cm、短円柱形～球形。果鱗は長さ 4–4.5 mm、3 裂し、中裂片は側裂片より長い。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

尾根沿いの斜面に生育。

【分布域】

北海道（アポイ岳）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アボイカンバ	<i>Betula apoiensis</i>	CR
第4次 2019:	アボイカンバ	<i>Betula apoiensis</i>	CR
第4次 2018:	アボイカンバ	<i>Betula apoiensis</i>	CR
第4次 2017:	アボイカンバ	<i>Betula apoiensis</i>	CR
第4次 2015:	アボイカンバ	<i>Betula apoiensis</i>	CR
第4次:	アボイカンバ	<i>Betula apoiensis</i>	CR
第3次:	アボイカンバ	<i>Betula apoiensis</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Betula apoiensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Betula apoiensis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムニンカラスウリ

Trichosanthes ovigera var. *boninensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ケカラスウリに似るが、根はふつう分枝する。葉身は広卵心形、3-5 浅裂し、裏面に短毛が密生する。巻きひげは 2-4 分枝する。

【生活史】

つる性多年草。

【生育環境】

林縁の木に巻きついて生育。

【分布域】

小笠原諸島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムニンカラスウリ	<i>Trichosanthes ovigera</i> var. <i>boninensis</i>	EN
第4次 2019:	ムニンカラスウリ	<i>Trichosanthes ovigera</i> var. <i>boninensis</i>	EN
第4次 2018:	ムニンカラスウリ	<i>Trichosanthes ovigera</i> var. <i>boninensis</i>	EN
第4次 2017:	ムニンカラスウリ	<i>Trichosanthes ovigera</i> var. <i>boninensis</i>	EN
第4次 2015:	ムニンカラスウリ	<i>Trichosanthes ovigera</i> var. <i>boninensis</i>	EN
第4次:	ムニンカラスウリ	<i>Trichosanthes ovigera</i> var. <i>boninensis</i>	EN
第3次:	ムニンカラスウリ	<i>Trichosanthes ovigera</i> var. <i>boninensis</i>	EN
第2次:	ムニンカラスウリ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Trichosanthes ovigera var. *boninensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Trichosanthes ovigera* var. *boninensis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナガバコバンモチ

Elaeocarpus multiflorus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は枝先に集まってつき、葉柄は長さ 2-4 cm、葉身は両面無毛、倒卵状楕円形、長さ 6-12 cm、幅 3-6 cm、側脈は 9-11 対、縁に低く鈍い鋸歯がまばらにある。花序は長さ 5-9 cm の総状花序で前年枝の葉腋から出て、花は両性。核果は長さ 1.5 cm で楕円形、青緑色に熟する。

【生活史】

常緑高木。

【生育環境】

山地の陰湿な常緑広葉樹林中に生える。

【分布域】

琉球（石垣島・西表島）、台湾・フィリピン。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナガバコバンモチ	<i>Elaeocarpus multiflorus</i>	EN
第4次 2019:	ナガバコバンモチ	<i>Elaeocarpus multiflorus</i>	EN
第4次 2018:	ナガバコバンモチ	<i>Elaeocarpus multiflorus</i>	EN
第4次 2017:	ナガバコバンモチ	<i>Elaeocarpus multiflorus</i>	EN
第4次 2015:	ナガバコバンモチ	<i>Elaeocarpus multiflorus</i>	EN
第4次:	ナガバコバンモチ	<i>Elaeocarpus multiflorus</i>	EN
第3次:	ナガバコバンモチ	<i>Elaeocarpus multiflorus</i>	NT
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[準絶滅危惧(NT)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Elaeocarpus multiflorus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Elaeocarpus multiflorus is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エノキフジ

Discocleidion ulmifolium

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 E
20 年間の絶滅確率が 20%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

葉は単葉、葉身は薄く膜質、卵状長楕円形で、長さ 6.5-10 cm、縁には粗い微鋸歯がある。雌雄異株。雄花は円錐花序、雌花は総状花序をなす。

【生活史】

常緑の高木または小高木。

【生育環境】

山地の林の林縁に生育する。

【分布域】

南西諸島（奄美大島、久米島、沖縄島、石垣島、西表島）に分布。国外では中国南部に分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エノキフジ	<i>Discocleidion ulmifolium</i>	CR
第4次 2019:	エノキフジ	<i>Discocleidion ulmifolium</i>	CR
第4次 2018:	エノキフジ	<i>Discocleidion ulmifolium</i>	CR
第4次 2017:	エノキフジ	<i>Discocleidion ulmifolium</i>	CR
第4次 2015:	エノキフジ	<i>Discocleidion ulmifolium</i>	CR
第4次:	エノキフジ	<i>Discocleidion ulmifolium</i>	CR
第3次:	エノキフジ	<i>Discocleidion ulmifolium</i>	CR
第2次:	エノキフジ	<i>Discocleidion ilmifolium</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[情報不足] 沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Discocleidion ulmifolium has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Discocleidion ulmifolium* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

テリハニシキソウ

Euphorbia hirta var. *glaberrima***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

シマニシキソウの変種で、根や茎の下部が木化する。全株無毛。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

岩場に生育する。

【分布域】

小笠原父島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。ノヤギの排除により個体数が増加しているとの情報があり、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	—	1	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	テリハニシキソウ	<i>Chamaesyce hirta</i> var. <i>glaberrima</i>	EN
第4次 2019:	テリハニシキソウ	<i>Chamaesyce hirta</i> var. <i>glaberrima</i>	EN
第4次 2018:	テリハニシキソウ	<i>Chamaesyce hirta</i> var. <i>glaberrima</i>	EN
第4次 2017:	テリハニシキソウ	<i>Chamaesyce hirta</i> var. <i>glaberrima</i>	EN
第4次 2015:	テリハニシキソウ	<i>Chamaesyce hirta</i> var. <i>glaberrima</i>	EN
第4次:	テリハニシキソウ	<i>Chamaesyce hirta</i> var. <i>glaberrima</i>	EN
第3次:	テリハニシキソウ	<i>Chamaesyce hirta</i> var. <i>glaberrima</i>	CR
第2次:	テリハニシキソウ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Euphorbia hirta var. *glaberrima* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Euphorbia hirta* var. *glaberrima* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アソタイゲキ

Euphorbia pekinensis subsp. *asoensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は太く、茎は直立し高さ 30–90 cm、長軟毛が生える。葉は無柄、茎葉は、楕円形～披針形で長さ 4.5–7.2 cm、輪生葉は楕円形、菱状または卵形で長さ 2.7–3.3 cm。総苞は無毛で直径 2 mm、腺体は 4 か 5 個。蒴果は長さ約 3.3 mm、突起は鋭頭で、無毛かまれに毛が散生する。

【生活史】

夏緑の多年草。

【生育環境】

山地の草原に生育する。

【分布域】

九州に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では現状に関する情報が得られなかった。三十数年前には、熊本県高森町の南の阿蘇山外輪山で、当時 100 から 1000 個体程度の生育が確認されていた。この地域の草原は減少しているため、本種も減少している可能性がある。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アソタイゲキ	<i>Euphorbia pekinensis</i> subsp. <i>asoensis</i>	EN
第4次 2019:	アソタイゲキ	<i>Euphorbia pekinensis</i> subsp. <i>asoensis</i>	EN
第4次 2018:	アソタイゲキ	<i>Euphorbia pekinensis</i> subsp. <i>asoensis</i>	EN
第4次 2017:	アソタイゲキ	<i>Euphorbia pekinensis</i> subsp. <i>asoensis</i>	EN
第4次 2015:	アソタイゲキ	<i>Euphorbia pekinensis</i> subsp. <i>asoensis</i>	EN
第4次:	アソタイゲキ	<i>Euphorbia pekinensis</i> subsp. <i>asoensis</i>	EN
第3次:	アソタイゲキ	<i>Euphorbia pekinensis</i> subsp. <i>asoensis</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[情報不足(DD)] 宮崎県[絶滅危惧 I B 類(EN-g)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Euphorbia pekinensis subsp. *asoensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Euphorbia pekinensis* subsp. *asoensis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ボロジノニシキソウ

Euphorbia sparrmannii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 A

過去 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長い期間を通じて、50%以上の減少があったと推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎はよく分枝して地上を這い、長さ 20-100 cm。葉は対生し、楕円形、長さ 1.3-1.7 cm、短い葉柄がある。杯状花序は茎や枝に頂生する集散花序につく。腺体の付属体は白色で花弁状。

【生活史】

常緑の多年草。

【生育環境】

海岸の隆起石灰岩に生育する。

【分布域】

大東島（琉球）に分布。国外では、ポリネシア、ミクロネシアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。基準 A により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ボロジノニシキソウ	<i>Chamaesyce sparrmannii</i>	VU
第4次 2019:	ボロジノニシキソウ	<i>Chamaesyce sparrmannii</i>	VU
第4次 2018:	ボロジノニシキソウ	<i>Chamaesyce sparrmannii</i>	VU
第4次 2017:	ボロジノニシキソウ	<i>Chamaesyce sparrmannii</i>	VU
第4次 2015:	ボロジノニシキソウ	<i>Chamaesyce sparrmannii</i>	VU
第4次:	ボロジノニシキソウ	<i>Chamaesyce sparrmannii</i>	VU
第3次:	ボロジノニシキソウ	<i>Chamaesyce sparrmanni</i>	VU
第2次:	ボロジノニシキソウ	<i>Euphorbia sparrmanni</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Euphorbia sparrmannii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Euphorbia sparrmannii* is listed as EN under criteria A.

A. Reduction in population size based on any of the following:

2. An observed, estimated, inferred or suspected population size reduction of $\geq 50\%$ over the last 10 years or three generations, whichever is the longer, where the reduction or its causes may not have ceased OR may not be understood OR may not be reversible.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハナコミカンボク

*Phyllanthus liukiuensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 20-40 cm。分枝様式はコミカンソウ型（主茎につく葉は鱗片葉でその腋から分枝する）。葉は互生し小枝あたり 20-42 枚、無毛。葉柄は長さ 0.3-0.5 mm。葉身は楕円形、長さ 0.7-1.1 cm、幅 0.3-0.6 cm、全縁、先端は鈍形または円形、基部は円形または切形。花序は小集散花序で葉に腋生、雄花は花序あたり 0-3 個、花柄は長さ 3-5 mm、萼片は 4-5 枚、雌花は花序当たり 0-1 個で萼片は 6 枚。蒴果は球形で径約 3 mm、長さ約 2.4 mm で平滑、果柄は長さ 5-8 mm。種子は 3 稜形、長さ約 2 mm、幅約 1.3 mm、平滑。

【生活史】

矮小低木。雌雄同株。花期は 5-10 月。

【生育環境】

海岸沿いの石灰岩の岩隙や林床に生育する。

【分布域】

琉球（沖縄島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では沖縄島の 1 メッシュにおいて 100 から 250 個体を産するのみであった。自生地は沖縄県の天然記念物として保護されている。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハナコミカンボク	<i>Phyllanthus liukiuensis</i>	EN
第4次 2019:	ハナコミカンボク	<i>Phyllanthus liukiuensis</i>	EN
第4次 2018:	ハナコミカンボク	<i>Phyllanthus liukiuensis</i>	EN
第4次 2017:	ハナコミカンボク	<i>Phyllanthus liukiuensis</i>	EN
第4次 2015:	ハナコミカンボク	<i>Phyllanthus liukiuensis</i>	EN
第4次:	ハナコミカンボク	<i>Phyllanthus liukiuensis</i>	EN
第3次:	ハナコミカンボク	<i>Phyllanthus liukiuensis</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Phyllanthus liukiuensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Phyllanthus liukiuensis is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エゾノタカネヤナギ

Salix nakamurae subsp. *yezoalpina*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

成葉の葉身はふつう広楕円形、倒卵状広楕円形ないし円形、長さ 2-5.5 cm、幅 1.5-4.5 cm、先端は円形または鈍形ときに軽く微凹形、縁はまばらに鈍鋸歯があり、表面は無毛で深緑色で皺と光沢があり、裏面はまばらに伏した絹毛がある。苞は倒卵形で円頭ないし切円頭、上半または上端は褐色で下部は淡黄緑色、長さ 2.3-3.0 mm、幅 1.6-2.0 mm。葯ははじめ紅色、のちに黄色。子房は紅色、長さ 2-3 mm、柄は長さ約 0.5 mm で腺体の約半長。基準亜種のレンゲイワヤナギに比べ、成葉の葉身はやや革質、基部は円形～浅心形。

【生活史】

匍匐性の落葉小低木。雌雄異株。花期は 6-7 月中旬。

【生育環境】

高山の礫地に生える。

【分布域】

北海道（大雪山・利尻島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 5 メッシュで計約数百個体と推定された。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	2	1	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾノタカネヤナギ	<i>Salix nakamura subsp. yezoalpina</i>	EN
第4次 2019:	エゾノタカネヤナギ	<i>Salix nakamura subsp. yezoalpina</i>	EN
第4次 2018:	エゾノタカネヤナギ	<i>Salix nakamura subsp. yezoalpina</i>	EN
第4次 2017:	エゾノタカネヤナギ	<i>Salix nakamura subsp. yezoalpina</i>	EN
第4次 2015:	エゾノタカネヤナギ	<i>Salix nakamura subsp. yezoalpina</i>	EN
第4次:	エゾノタカネヤナギ	<i>Salix nakamura subsp. yezoalpina</i>	EN
第3次:	エゾノタカネヤナギ	<i>Salix nakamura subsp. yezoalpina</i>	EN
第2次:	エゾノタカネヤナギ	<i>Salix yezoalpina</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 梅沢俊，2018. 北海道の草花. 399pp. 北海道新聞社，札幌.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Salix nakamura subsp. *yezoalpina* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Salix nakamura* subsp. *yezoalpina* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae スミレ科 Violaceae

タニマスミレ

Viola epipsiloides

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 2-10 cm。葉は少数で卵形、長さ 0.8-2.5 cm、果期には 4.5-5.5 cm。花は淡青紫色で、径 1.5 cm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地～高山の湿原または湿地に生育する。

【分布域】

南千島、北海道（羊蹄山、雨竜沼、大雪山）に分布。国外では、朝鮮半島北部、中国東北部、千島列島、サハリン、カムチャツカ半島、ロシア沿岸地方、アラスカに広く分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タニマスミレ	<i>Viola epipsiloides</i>	EN
第4次 2019:	タニマスミレ	<i>Viola epipsiloides</i>	EN
第4次 2018:	タニマスミレ	<i>Viola epipsiloides</i>	EN
第4次 2017:	タニマスミレ	<i>Viola epipsiloides</i>	EN
第4次 2015:	タニマスミレ	<i>Viola epipsiloides</i>	EN
第4次:	タニマスミレ	<i>Viola epipsiloides</i>	EN
第3次:	タニマスミレ	<i>Viola epipsiloides</i>	EN
第2次:	タニマスミレ	<i>Viola epipsila ssp. repens</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危機種(Cr)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Viola epipsiloides has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Viola epipsiloides* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アポイタチツボスミレ

Viola sacchalinensis f. *alpina***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

アイヌタチツボスミレに似るが、小型で葉の上面は光沢があり、下面は紫色を帯びる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

超塩基性岩地に生育する。

【分布域】

北海道（アポイ岳、日高山脈北部、夕張岳、道北天塩地方）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	4	0	1	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 土地造成	人の踏みつけ	自然遷移
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アボイタチツボスミレ	<i>Viola sacchalinensis</i> f. <i>alpina</i>	VU
第4次 2019:	アボイタチツボスミレ	<i>Viola sacchalinensis</i> f. <i>alpina</i>	VU
第4次 2018:	アボイタチツボスミレ	<i>Viola sacchalinensis</i> f. <i>alpina</i>	VU
第4次 2017:	アボイタチツボスミレ	<i>Viola sacchalinensis</i> f. <i>alpina</i>	VU
第4次 2015:	アボイタチツボスミレ	<i>Viola sacchalinensis</i> f. <i>alpina</i>	VU
第4次:	アボイタチツボスミレ	<i>Viola sacchalinensis</i> f. <i>alpina</i>	VU
第3次:	アボイタチツボスミレ	<i>Viola sacchalinensis</i> f. <i>alpina</i>	VU
第2次:	アボイタチツボスミレ	<i>Viola sachalinensis</i> var. <i>alpina</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Viola sacchalinensis f. *alpina* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Viola sacchalinensis* f. *alpina* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Land development, Human trampling, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae スミレ科 Violaceae

タデスミレ

Viola thibaudieri

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は数本叢生し、高さ 20-40 cm。花期に根出葉がなく、茎の下方の葉は鱗片状。上方の葉は広倒披針形～狭卵形で基部はくさび形、長さ 4-10(-12) cm。花は白色。花弁は長さ 12-13 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

夏緑樹林の林縁に生育する。

【分布域】

本州（長野県）に分布。国外では、朝鮮半島中部に隔離分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番 目	2 番 目	3 番 目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タデスミレ	<i>Viola thibaudieri</i>	EN
第4次 2019:	タデスミレ	<i>Viola thibaudieri</i>	EN
第4次 2018:	タデスミレ	<i>Viola thibaudieri</i>	EN
第4次 2017:	タデスミレ	<i>Viola thibaudieri</i>	EN
第4次 2015:	タデスミレ	<i>Viola thibaudieri</i>	EN
第4次:	タデスミレ	<i>Viola thibaudieri</i>	EN
第3次:	タデスミレ	<i>Viola thibaudieri</i>	EN
第2次:	タデスミレ	<i>Viola thibaudieri</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Viola thibaudieri has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Viola thibaudieri* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オキナワスミレ

*Viola utchinensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 5-10 cm。地下茎は分枝伸長し、肥厚する。葉は心形、鈍頭、基部は深い心形。花は淡紫～白色。側弁基部は無毛、距は短く太い。蒴果は球形。

【生活史】

常緑多年草。

【生育環境】

海岸の石灰岩壁（隆起サンゴ礁上）に生育する。

【分布域】

沖縄本島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。沖縄島の 1 ヶ所に局在している。2006 年に大きな集団が新たに発見され、約 200 個体の現存が報告された。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オキナフスミレ	<i>Viola utchinensis</i>	EN
第4次 2019:	オキナフスミレ	<i>Viola utchinensis</i>	EN
第4次 2018:	オキナフスミレ	<i>Viola utchinensis</i>	EN
第4次 2017:	オキナフスミレ	<i>Viola utchinensis</i>	EN
第4次 2015:	オキナフスミレ	<i>Viola utchinensis</i>	EN
第4次:	オキナフスミレ	<i>Viola utchinensis</i>	EN
第3次:	オキナフスミレ	<i>Viola utchinensis</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Viola utchinensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Viola utchinensis* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマカワゴロモ

*Hydrobryum puncticulatum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

カワゴロモに似るが、葉状体は厚さが 0.2-0.3 mm あってやや薄い、ウスカワゴロモよりは厚い。花数はより少ない。柱頭は長針形または円柱形。

【生活史】

一年草、ときに多年草。

【生育環境】

流水中の岩上に生育。

【分布域】

屋久島（一湊川）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では現存個体数は数百個体と推定されたが、個体数が過小評価とされた。台風などの影響でやや減少傾向にある。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマカワゴロモ	<i>Hydrobryum puncticulatum</i>	EN
第4次 2019:	ヤクシマカワゴロモ	<i>Hydrobryum puncticulatum</i>	EN
第4次 2018:	ヤクシマカワゴロモ	<i>Hydrobryum puncticulatum</i>	EN
第4次 2017:	ヤクシマカワゴロモ	<i>Hydrobryum puncticulatum</i>	EN
第4次 2015:	ヤクシマカワゴロモ	<i>Hydrobryum puncticulatum</i>	EN
第4次:	ヤクシマカワゴロモ	<i>Hydrobryum puncticulatum</i>	EN
第3次:	ヤクシマカワゴロモ	<i>Hydrobryum puncticulatum</i>	EN
第2次:	ヤクシマカワゴロモ	<i>Hydrobryum puncticulatum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hydrobryum puncticulatum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hydrobryum puncticulatum* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae オトギリソウ科 Hypericaceae

コウライトモエソウ

Hypericum ascyron subsp. *ascyron* var. *longistylum*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 4-9 cm、披針形～長楕円状披針形。花弁は長さ 27-45 mm で大型。花柱は 13-17 mm、子房の 2 倍長と長く、全長の 2/3 から 3/4 が互いに合着する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の草原や林床に生育。

【分布域】

九州、朝鮮半島・中国東北部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	2	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	不明	
件数 2	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コウライトモエソウ	<i>Hypericum ascyron</i> var. <i>longistylum</i>	VU
第4次 2019:	コウライトモエソウ	<i>Hypericum ascyron</i> var. <i>longistylum</i>	VU
第4次 2018:	コウライトモエソウ	<i>Hypericum ascyron</i> var. <i>longistylum</i>	VU
第4次 2017:	コウライトモエソウ	<i>Hypericum ascyron</i> var. <i>longistylum</i>	VU
第4次 2015:	コウライトモエソウ	<i>Hypericum ascyron</i> var. <i>longistylum</i>	VU
第4次:	コウライトモエソウ	<i>Hypericum ascyron</i> var. <i>longistylum</i>	VU
第3次:	コウライトモエソウ	<i>Hypericum ascyron</i> var. <i>longistylum</i>	VU
第2次:	コウライトモエソウ	<i>Hypericum ascyron</i> var. <i>longistylum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 熊本県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hypericum ascyron subsp. *ascyron* var. *longistylum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hypericum ascyron* subsp. *ascyron* var. *longistylum* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Natural succession, Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アゼオトギリ

Hypericum oliganthum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 C

推定開花株数 2500 個体未満かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-40 cm。茎は上部で分枝する。葉身は長さ 13-25 mm、長楕円形～倒披針形、薄質、無柄、明点が密にあるか、黒点のみがある。花は集散状に 1-7 個がつき、黄色。花弁は長さ 6-8 mm、5 個、楕円形、円頭、全縁またはまれに柄の長い黒点があり、縁には黒点がある。

【生活史】

多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

低地の湿り気の多い場所に生育。

【分布域】

本州（宮城県以南）・四国・九州、朝鮮半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、26 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 C により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
9	10	4	3	0	0	26	1	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 管理放棄	その他	自然遷移
件数	6	5

10		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アゼオトギリ	<i>Hypericum oliganthum</i>	EN
第4次 2019:	アゼオトギリ	<i>Hypericum oliganthum</i>	EN
第4次 2018:	アゼオトギリ	<i>Hypericum oliganthum</i>	EN
第4次 2017:	アゼオトギリ	<i>Hypericum oliganthum</i>	EN
第4次 2015:	アゼオトギリ	<i>Hypericum oliganthum</i>	EN
第4次:	アゼオトギリ	<i>Hypericum oliganthum</i>	EN
第3次:	アゼオトギリ	<i>Hypericum oliganthum</i>	EN
第2次:	アゼオトギリ	<i>Hypericum oliganthum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮城県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 茨城県[絶滅危惧ⅠA類] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(Bランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 千葉県[最重要保護生物(A)] 東京都(本土部)[区部：絶滅(EX) 本土部：絶滅(EX)] 東京都(北多摩)[絶滅(EX)] 東京都(南多摩)[絶滅(EX)] 神奈川県[絶滅(EX)] 富山県[情報不足] 石川県[情報不足(DD)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅱ類] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 愛知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 三重県[CR] 滋賀県[絶滅危惧種] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[CR+EN] 兵庫県[Bランク] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 岡山県[絶滅危惧Ⅱ類] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 福岡県[絶滅危惧ⅠB類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 長崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 熊本県[情報不足(DD)] 大分県[情報不足(DD)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Hypericum oliganthum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Hypericum oliganthum is listed as EN under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.

Threat types:	Abandonment of management, Other, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カイフウロ

Geranium shikokianum var. *kaimontanum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

イヨフウロに似るが、葉の裂片の先端は尖り、全体に毛が少ない。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地帯の草地や林縁に生育する。

【分布域】

山梨県（三ッ峠）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	人の踏みつけ	
件数 2	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カイツウロ	<i>Geranium shikokianum</i> var. <i>kaimontanum</i>	VU
第4次 2019:	カイツウロ	<i>Geranium shikokianum</i> var. <i>kaimontanum</i>	VU
第4次 2018:	カイツウロ	<i>Geranium shikokianum</i> var. <i>kaimontanum</i>	VU
第4次 2017:	カイツウロ	<i>Geranium shikokianum</i> var. <i>kaimontanum</i>	VU
第4次 2015:	カイツウロ	<i>Geranium shikokianum</i> var. <i>kaimontanum</i>	VU
第4次:	カイツウロ	<i>Geranium shikokianum</i> var. <i>kaimontanum</i>	VU
第3次:	カイツウロ	<i>Geranium shikokianum</i> var. <i>kaimontanum</i>	VU
第2次:	カイツウロ	<i>Geranium shikokianum</i> var. <i>kai-montanum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 山梨県[準絶滅危惧(NT)] 長野県[絶滅危惧ⅡB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京
- 山梨県森林環境部みどり自然課，2018. 2018 山梨県レッドデータブック. 山梨県森林環境部みどり自然課，290pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Geranium shikokianum var. *kaimontanum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Geranium shikokianum* var. *kaimontanum* is listed as EN under criteria E. E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Deer feeding damage, Human trampling
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマフウロ

Geranium shikokianum var. *yoshiianum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

イヨフウロに似るが、全体が小さく、葉身の幅が 1-2 cm で、花は径約 2 cm である。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高地の草原などに生育する。

【分布域】

屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。2 メッシュで計数百個体の現存が推定される。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	2	0	—	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマフウロ	<i>Geranium shikokianum</i> var. <i>yoshiianum</i>	CR
第4次 2019:	ヤクシマフウロ	<i>Geranium shikokianum</i> var. <i>yoshiianum</i>	CR
第4次 2018:	ヤクシマフウロ	<i>Geranium shikokianum</i> var. <i>yoshiianum</i>	CR
第4次 2017:	ヤクシマフウロ	<i>Geranium shikokianum</i> var. <i>yoshiianum</i>	CR
第4次 2015:	ヤクシマフウロ	<i>Geranium shikokianum</i> var. <i>yoshiianum</i>	CR
第4次:	ヤクシマフウロ	<i>Geranium shikokianum</i> var. <i>yoshiianum</i>	CR
第3次:	ヤクシマフウロ	<i>Geranium shikokianum</i> var. <i>yoshiianum</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- Yahara, T., H. Ohba, J. Murata and K. Iwatsuki, 1987. Taxonomic Review of Vascular Plants Endemic to Yakushima Island, Japan. Journal of the Faculty of Science, University of Tokyo. Sect. 3, Botany, 14: 69–119.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Geranium shikokianum var. *yoshiianum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Geranium shikokianum* var. *yoshiianum* is listed as EN under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒルギモドキ

Lumnitzera racemosa

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10 m に達する。葉身は長さ 2.5-7 cm、小枝の先端に集まり、多肉質、狭倒卵形、全縁またはときに波状の小鋸歯がある。萼は緑色。花弁は長さ約 4 mm、長楕円形、5 個、白色。果実は長さ約 1.5 cm、長楕円形、緑色。

【生活史】

常緑小高木。

【生育環境】

マングローブに生育。

【分布域】

南西諸島（沖縄島・久米島・宮古島・石垣島・西表島・与那国島）、アフリカ東部・ミクロネシア・オーストラリア北部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。250 個体未満と推定されることから、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	—	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒルギモドキ	<i>Lumnitzera racemosa</i>	CR
第4次 2019:	ヒルギモドキ	<i>Lumnitzera racemosa</i>	CR
第4次 2018:	ヒルギモドキ	<i>Lumnitzera racemosa</i>	CR
第4次 2017:	ヒルギモドキ	<i>Lumnitzera racemosa</i>	CR
第4次 2015:	ヒルギモドキ	<i>Lumnitzera racemosa</i>	CR
第4次:	ヒルギモドキ	<i>Lumnitzera racemosa</i>	CR
第3次:	ヒルギモドキ	<i>Lumnitzera racemosa</i>	CR
第2次:	ヒルギモドキ	<i>Lumnitzera racemosa</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lumnitzera racemosa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Lumnitzera racemosa is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホザキカシグサ

Rotala rotundifolia

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 E
20 年間の絶滅確率が 20%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

植物体は無毛。根茎は細く地面をはう。茎はほぼ直立し紫色、高さ 10-30 cm になる。葉は対生、長さ 5-8 mm、楕円形～円形で全縁。総状花序は頂生し、長さ 3-6 cm。筒は広鐘形で膜質、長さ 1-1.5 mm、4 裂片がある。花弁は倒卵形、淡紫色、長さ 1.5-2 mm。蒴果は楕円形、長さ約 2 mm。

【生活史】

多年草。花期は 5 月。

【生育環境】

水田や湿地に生える。

【分布域】

九州～琉球、台湾・中国（南部）・マレーシア・ヒマラヤ・インド。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。1 メッシュで現存が確認され、現存個体数は数百個体と推定される。平湿地開発により減少している。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	—	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホザキキカシグサ	<i>Rotala rotundifolia</i>	EN
第4次 2019:	ホザキキカシグサ	<i>Rotala rotundifolia</i>	EN
第4次 2018:	ホザキキカシグサ	<i>Rotala rotundifolia</i>	EN
第4次 2017:	ホザキキカシグサ	<i>Rotala rotundifolia</i>	EN
第4次 2015:	ホザキキカシグサ	<i>Rotala rotundifolia</i>	EN
第4次:	ホザキキカシグサ	<i>Rotala rotundifolia</i>	EN
第3次:	ホザキキカシグサ	<i>Rotala rotundifolia</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福岡県[絶滅危惧ⅠB類] 長崎県[絶滅(EX)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 沖縄県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rotala rotundifolia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rotala rotundifolia* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハハジマノボタン

Melastoma tetramerum var. *pentapetalum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ムニンノボタンの変種。高さ 2-3 (-5) m。花は淡桃白色で、径 4-5 cm、花弁が 5 個、雄蕊は 10 個。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

雲霧に覆われやすい稜線の低木林や林縁に生育する。

【分布域】

小笠原（母島の乳房山と堺ヶ岳）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハハジマノボタン	<i>Melastoma tetramerum</i> var. <i>pentapetalum</i>	EN
第4次 2019:	ハハジマノボタン	<i>Melastoma tetramerum</i> var. <i>pentapetalum</i>	EN
第4次 2018:	ハハジマノボタン	<i>Melastoma tetramerum</i> var. <i>pentapetalum</i>	EN
第4次 2017:	ハハジマノボタン	<i>Melastoma tetramerum</i> var. <i>pentapetalum</i>	EN
第4次 2015:	ハハジマノボタン	<i>Melastoma tetramerum</i> var. <i>pentapetalum</i>	EN
第4次:	ハハジマノボタン	<i>Melastoma tetramerum</i> var. <i>pentapetalum</i>	EN
第3次:	ハハジマノボタン	<i>Melastoma tetramerum</i> var. <i>pentapetalum</i>	EN
第2次:	ハハジマノボタン	<i>Melastoma pentapetalum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Melastoma tetramerum var. *pentapetalum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Melastoma tetramerum* var. *pentapetalum* is listed as EN under criteria E. E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

チャンチンモドキ

Choerospondias axillaris

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-20 m。葉身は長さ 30-100 cm、奇数羽状複葉、小葉は 9-13 枚。小葉は長さ 6-15 cm、卵状長楕円形、先は細く尖り、基部はややゆがんだ円形～鋭形。花は褐紫色。雄花は腋生する長さ 5-8 cm の円錐花序に多数つき、下向きに咲く。雌花は葉腋に 1 個つく。果実は長さ約 2.5 cm、広楕円形、黄色。

【生活史】

落葉高木。

【生育環境】

山地の林内に生育。

【分布域】

九州（福岡県・熊本県・鹿児島県）、中国（西部・南部）・東南アジア北部・ヒマラヤに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。減少傾向にあるものの、鹿児島県北薩地域に広く分布しているとの報告がある。個体数過小評価の可能性がある、VU に相当する可能性もある。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	1	1	0	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チャンチンモドキ	<i>Choerospondias axillaris</i>	EN
第4次 2019:	チャンチンモドキ	<i>Choerospondias axillaris</i>	EN
第4次 2018:	チャンチンモドキ	<i>Choerospondias axillaris</i>	EN
第4次 2017:	チャンチンモドキ	<i>Choerospondias axillaris</i>	EN
第4次 2015:	チャンチンモドキ	<i>Choerospondias axillaris</i>	EN
第4次:	チャンチンモドキ	<i>Choerospondias axillaris</i>	EN
第3次:	チャンチンモドキ	<i>Choerospondias axillaris</i>	EN
第2次:	チャンチンモドキ	<i>Choerospondias axillaris</i> var. <i>japonica</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Choerospondias axillaris has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Choerospondias axillaris is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シバタカエデ

*Acer miyabei f. shibatae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

クロビイタヤと異なり、翼果に毛がない。

【生活史】

落葉高木。

【生育環境】

温帯の山地の湿った林に生える。

【分布域】

岩手県・群馬県（尾瀬・赤城山）・栃木県（日光）・長野県（南佐久郡川上村・菅平・木曾町）など。岩手県北部・菅平・日光ではクロビイタヤと混生する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

識別形質の翼果の毛については変異が大きい。しかし、クロビイタヤ *Acer miyabei* が中部地方に隔離されて分化した系統である可能性がある。翼果の毛以外にも識別形質がないか今後の検討が必要である。

旧レッドリストカテゴリと掲載名

第4次 2020:	シバタカエデ	<i>Acer miyabei</i> var. <i>shibatae</i>	EN
第4次 2019:	シバタカエデ	<i>Acer miyabei</i> var. <i>shibatae</i>	EN
第4次 2018:	シバタカエデ	<i>Acer miyabei</i> var. <i>shibatae</i>	EN
第4次 2017:	シバタカエデ	<i>Acer miyabei</i> var. <i>shibatae</i>	EN
第4次 2015:	シバタカエデ	<i>Acer miyabei</i> var. <i>shibatae</i>	EN
第4次:	シバタカエデ	<i>Acer miyabei</i> var. <i>shibatae</i>	EN
第3次:	シバタカエデ	<i>Acer miyabei</i> f. <i>shibatae</i>	EN
第2次:	シバタカエデ	<i>Acer miyabei</i> var. <i>shibatai</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[A ランク] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 長野県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 飯村考文, 2018. 日光市土呂部地区のクロビイタヤ分布について. フロラ栃木, 26: 14-19.
- Saeki, I., A. S. Hirao, and K. Tanaka, 2021. Genetic variation of the relict maple *Acer miyabei*: uncovering its history of disjunct occurrence and the role of mountain refugia in shaping genetic diversity. American Journal of Botany, 109: 309-321.
- 栃木県環境森林部自然環境課・栃木県立博物館, 2018. レッドデータブックとちぎ栃木県環境森林部自然環境課・栃木県立博物館, 2018. レッドデータブックとちぎ 2018 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物. 栃木県環境森林部自然環境課, 991pp.
- 長野県自然保護研究所・長野県生活環境部環境自然保護課（編）, 2002. 長野県版レッドデータブック 長野県の絶滅のおそれのある野生生物. 維管束植物編. 長野県自然保護研究所, 297pp.

- 群馬県環境森林部自然環境課，2012．群馬県の絶滅のおそれのある野生生物（群馬県レッドデータブック）植物編 2012 年改訂版．群馬県環境森林部自然環境課，285pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Acer miyabei f. *shibatae* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Acer miyabei* f. *shibatae* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ムクロジ科 Sapindaceae

タイシャクイタヤ

Acer pictum subsp. *taishakuense*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 5-15 m になる。葉身は 5 (-7) 裂、幅は 5-10 cm、表面の主な脈上に軟毛があり、裏面は長軟毛に覆われる。

【生活史】

落葉中高木。

【生育環境】

石灰岩地帯の溪谷林に生育する。

【分布域】

広島県（帝釈峡）、朝鮮半島南部。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タイシャクイタヤ	<i>Acer pictum</i> subsp. <i>taishakuense</i>	EN
第4次 2019:	タイシャクイタヤ	<i>Acer pictum</i> subsp. <i>taishakuense</i>	EN
第4次 2018:	タイシャクイタヤ	<i>Acer pictum</i> subsp. <i>taishakuense</i>	EN
第4次 2017:	タイシャクイタヤ	<i>Acer pictum</i> subsp. <i>taishakuense</i>	EN
第4次 2015:	タイシャクイタヤ	<i>Acer pictum</i> subsp. <i>taishakuense</i>	EN
第4次:	タイシャクイタヤ	<i>Acer pictum</i> subsp. <i>taishakuense</i>	EN
第3次:	タイシャクイタヤ	<i>Acer pictum</i> subsp. <i>taishakuense</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 生物多様性広島戦略推進会議希少生物分科会，2022. 絶滅のおそれのある野生生物 第4版 レッドデータブックひろしま 2021. 広島県環境県民局自然環境課，761pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Acer pictum subsp. *taishakuense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Acer pictum* subsp. *taishakuense* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アツバシロテツ

Melicope grisea var. *crassifolia***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

若枝は短毛が密生する。葉は対生、葉身は厚く楕円形、全縁、先端は凹むことが多い。葉腋に総状花序をつけ、花はわずかに黄色を帯びた白色。果実は表面に短毛が密生する。基準変種のオオバシロテツに比べ、葉が革質でより厚く、先端がへこむ。特殊な場所に生える生態型と思われる。

【生活史】

常緑低木。雌雄異株。花期は 4-5 月。

【生育環境】

風当りの強い岩地に生育する。

【分布域】

小笠原諸島（兄島・父島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	2	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アツバシロテツ	<i>Melicope grisea</i> var. <i>crassifolia</i>	EN
第4次 2019:	アツバシロテツ	<i>Melicope grisea</i> var. <i>crassifolia</i>	EN
第4次 2018:	アツバシロテツ	<i>Melicope grisea</i> var. <i>crassifolia</i>	EN
第4次 2017:	アツバシロテツ	<i>Melicope grisea</i> var. <i>crassifolia</i>	EN
第4次 2015:	アツバシロテツ	<i>Melicope grisea</i> var. <i>crassifolia</i>	EN
第4次:	アツバシロテツ	<i>Melicope grisea</i> var. <i>crassifolia</i>	EN
第3次:	アツバシロテツ	<i>Boninia grisea</i> var. <i>crassifolia</i>	EN
第2次:	アツバシロテツ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Melicope grisea var. *crassifolia* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Melicope grisea* var. *crassifolia* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae アオイ科 Malvaceae

ツクシボダイジュ

Tilia mandshurica var. *rufovillosa*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

マンシュウボダイジュに似るが、果実に褐色の長単毛が密生する。

【生活史】

落葉高木。

【生育環境】

山地に生育。

【分布域】

大分県、朝鮮半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では個体数が過大評価とされた。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	2	2	0	0	0	6	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツクシボダイジュ	<i>Tilia mandshurica</i> var. <i>rufovillosa</i>	EN
第4次 2019:	ツクシボダイジュ	<i>Tilia mandshurica</i> var. <i>rufovillosa</i>	EN
第4次 2018:	ツクシボダイジュ	<i>Tilia mandshurica</i> var. <i>rufovillosa</i>	EN
第4次 2017:	ツクシボダイジュ	<i>Tilia mandshurica</i> var. <i>rufovillosa</i>	EN
第4次 2015:	ツクシボダイジュ	<i>Tilia mandshurica</i> var. <i>rufovillosa</i>	EN
第4次:	ツクシボダイジュ	<i>Tilia mandshurica</i> var. <i>rufovillosa</i>	EN
第3次:	ツクシボダイジュ	<i>Tilia mandshurica</i> var. <i>rufovillosa</i>	EN
第2次:	ツクシボダイジュ	<i>Tilia rufo-villosa</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

大分県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Tilia mandshurica var. *rufovillosa* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Tilia mandshurica* var. *rufovillosa* is listed as EN under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツチビノキ

*Daphnimorpha capitellata***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 0.5-1 m ほどで枝は少ない。葉は束生状に互生、倒卵形または卵状倒披針形で長さ 5-18 cm。長さ 2-6 mm の短い葉柄がある。今年枝端に長さ 5-20 mm の無毛の花柄を出し、時に 1-2 本の枝を分けて、各々に数-30 個の花を開く。花は白ないし淡紅色。乾果は緑色。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

山林中に生える。

【分布域】

宮崎県北部（大崩山、鬼ノ目山）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数百個体の現存が報告された。園芸採取による減少が続いていた。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリと掲載名

第4次 2020:	ツチビノキ	<i>Daphnimorpha capitellata</i>	EN
第4次 2019:	ツチビノキ	<i>Daphnimorpha capitellata</i>	EN
第4次 2018:	ツチビノキ	<i>Daphnimorpha capitellata</i>	EN
第4次 2017:	ツチビノキ	<i>Daphnimorpha capitellata</i>	EN
第4次 2015:	ツチビノキ	<i>Daphnimorpha capitellata</i>	EN
第4次:	ツチビノキ	<i>Daphnimorpha capitellata</i>	EN
第3次:	ツチビノキ	<i>Daphnimorpha capitellata</i>	EN
第2次:	ツチビノキ	<i>Daphnimorpha capitellata</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Daphnimorpha capitellata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Daphnimorpha capitellata* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

リシリハタザオ

Arabidopsis halleri subsp. *gemmifera* var. *umezawana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ハクサンハタザオに似るが、種子がほぼ円形、基部に狭い翼がある。

【生活史】

越年草。

【生育環境】

高山帯の火山礫地に生育。

【分布域】

北海道（利尻山・東部地域）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。2012 年調査では数百個体が現存していた。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	—	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	リシリハタザオ	<i>Arabidopsis umezawana</i>	EN
第4次 2019:	リシリハタザオ	<i>Arabidopsis umezawana</i>	EN
第4次 2018:	リシリハタザオ	<i>Arabidopsis umezawana</i>	EN
第4次 2017:	リシリハタザオ	<i>Arabidopsis umezawana</i>	EN
第4次 2015:	リシリハタザオ	<i>Arabidopsis umezawana</i>	EN
第4次:	リシリハタザオ	<i>Arabidopsis umezawana</i>	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arabidopsis halleri subsp. *gemmifera* var. *umezawana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arabidopsis halleri* subsp. *gemmifera* var. *umezawana* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオマルバコンロンソウ

*Cardamine arakiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-40 cm。部分的に肥厚する根茎をもつ。葉は 3 個、まれに 5 個の小葉からなる。葉柄の基部は耳状にならない。

【生活史】

越年草または多年草。

【生育環境】

湿り気のある樹林の林床に生育。

【分布域】

本州西部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 6 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	2	2	0	0	0	6	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオマルバコンロンソウ	<i>Cardamine arakiana</i>	EN
第4次 2019:	オオマルバコンロンソウ	<i>Cardamine arakiana</i>	EN
第4次 2018:	オオマルバコンロンソウ	<i>Cardamine arakiana</i>	EN
第4次 2017:	オオマルバコンロンソウ	<i>Cardamine arakiana</i>	EN
第4次 2015:	オオマルバコンロンソウ	<i>Cardamine arakiana</i>	EN
第4次:	オオマルバコンロンソウ	<i>Cardamine arakiana</i>	EN
第3次:	オオマルバコンロンソウ	<i>Cardamine arakiana</i>	EN
第2次:	オオマルバコンロンソウ	<i>Cardamine arakiana</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

滋賀県[要注目種] 京都府[絶滅種] 兵庫県[Bランク] 岡山県[絶滅危惧Ⅱ類] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 徳島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 生物多様性広島戦略推進会議希少生物分科会，2022. 絶滅のおそれのある野生生物 第4版 レッドデータブックひろしま 2021. 広島県環境県民局自然環境課，761pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cardamine arakiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cardamine arakiana* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タカチホガラシ

*Cardamine kiusiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 20-50 cm。根茎は長く這って短い枝を出し、枝先に大型の葉をつける。オクヤマガラシに似て、変異は連続的。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の溪流沿いに生育。

【分布域】

四国（徳島県）・九州（熊本県・宮崎県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。平均減少率は 63%であった。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	2	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	自然遷移	
件数 2	2	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タカチホガラシ	<i>Cardamine kiusiana</i>	VU
第4次 2019:	タカチホガラシ	<i>Cardamine kiusiana</i>	VU
第4次 2018:	タカチホガラシ	<i>Cardamine kiusiana</i>	VU
第4次 2017:	タカチホガラシ	<i>Cardamine kiusiana</i>	VU
第4次 2015:	タカチホガラシ	<i>Cardamine kiusiana</i>	VU
第4次:	タカチホガラシ	<i>Cardamine kiusiana</i>	VU
第3次:	タカチホガラシ	<i>Cardamine yezoensis</i> var. <i>kiusiana</i>	NT
第2次:	タカチホガラシ	<i>Cardamine kiusiana</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[絶滅危惧 IB 類] 熊本県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020 年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cardamine kiusiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cardamine kiusiana* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハナタネツケバナ

Cardamine pratensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

地下に塊茎状の根茎をもつ。高さ 15-60 cm。小葉は長さ 1-3 cm、線形～卵状長楕円形。茎葉は長さ 2-15 cm、羽状複葉。花弁は長さ 8-16 mm、淡紅色～淡紅紫色。

【生活史】

多年草。花期は 5-7 月。

【生育環境】

湿原に生育。

【分布域】

南千島・北海道、ユーラシア大陸・北アメリカ大陸北部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハナタネツケバナ	<i>Cardamine pratensis</i>	EN
第4次 2019:	ハナタネツケバナ	<i>Cardamine pratensis</i>	EN
第4次 2018:	ハナタネツケバナ	<i>Cardamine pratensis</i>	EN
第4次 2017:	ハナタネツケバナ	<i>Cardamine pratensis</i>	EN
第4次 2015:	ハナタネツケバナ	<i>Cardamine pratensis</i>	EN
第4次:	ハナタネツケバナ	<i>Cardamine pratensis</i>	EN
第3次:	ハナタネツケバナ	<i>Cardamine pratensis</i>	EN
第2次:	ハナタネツケバナ	<i>Cardamine pratensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cardamine pratensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cardamine pratensis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エゾノジャニンジン

*Cardamine schinziana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

エゾワサビに似るが、茎葉の小葉は 5-11 個、長楕円形～披針形で深い欠刻がある。頂小葉は長さ 1.5-2.5 cm、側小葉は長さ 5-20 mm、無柄。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の水湿地に生育。

【分布域】

南千島・北海道（南部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	1	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 道路工事		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾノジャニンジン	<i>Cardamine schinziana</i>	VU
第4次 2019:	エゾノジャニンジン	<i>Cardamine schinziana</i>	VU
第4次 2018:	エゾノジャニンジン	<i>Cardamine schinziana</i>	VU
第4次 2017:	エゾノジャニンジン	<i>Cardamine schinziana</i>	VU
第4次 2015:	エゾノジャニンジン	<i>Cardamine schinziana</i>	VU
第4次:	エゾノジャニンジン	<i>Cardamine schinziana</i>	VU
第3次:	エゾノジャニンジン	<i>Cardamine schinziana</i>	VU
第2次:	エゾノジャニンジン	<i>Cardamine schinziana</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cardamine schinziana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cardamine schinziana* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Road construction

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミヤウチソウ

Cardamine trifida

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミツバコンロンソウに似るが、根出葉は 1-2 回 3 出複葉で長柄があり、茎葉の小葉はほとんど全縁～3-4 裂。花は 5-20 個ほどつき、淡紅色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿草原や落葉樹林下に生育。

【分布域】

北海道、シベリア～北東アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	4	0	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	道路工事
件数 6	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミヤウチソウ	<i>Cardamine trifida</i>	EN
第4次 2019:	ミヤウチソウ	<i>Cardamine trifida</i>	EN
第4次 2018:	ミヤウチソウ	<i>Cardamine trifida</i>	EN
第4次 2017:	ミヤウチソウ	<i>Cardamine trifida</i>	EN
第4次 2015:	ミヤウチソウ	<i>Cardamine trifida</i>	EN
第4次:	ミヤウチソウ	<i>Cardamine trifida</i>	EN
第3次:	ミヤウチソウ	<i>Cardamine trifida</i>	CR
第2次:	ミヤウチソウ	<i>Cardamine trifida</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cardamine trifida has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cardamine trifida* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution, Road construction
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トモシリソウ

Cochlearia oblongifolia

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 5–30 cm。茎は基部から分枝する。根出葉は長さ 10–20 mm、腎形～卵形、長柄、全縁か低鋸歯縁。茎葉は楕円形～卵形、ときに茎を抱き、無毛で光沢がある。花弁は長さ 3–6 mm、広楕円形、白色。

【生活史】

越年草。

【生育環境】

海岸の砂地や岩上に生育。

【分布域】

南千島・北海道（根室地方）、極東ロシア～北アメリカ西部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トモシリソウ	<i>Cochlearia oblongifolia</i>	VU
第4次 2019:	トモシリソウ	<i>Cochlearia oblongifolia</i>	VU
第4次 2018:	トモシリソウ	<i>Cochlearia oblongifolia</i>	VU
第4次 2017:	トモシリソウ	<i>Cochlearia oblongifolia</i>	VU
第4次 2015:	トモシリソウ	<i>Cochlearia oblongifolia</i>	VU
第4次:	トモシリソウ	<i>Cochlearia oblongifolia</i>	VU
第3次:	トモシリソウ	<i>Cochlearia oblongifolia</i>	VU
第2次:	トモシリソウ	<i>Cochlearia oblongifolia</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cochlearia oblongifolia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cochlearia oblongifolia* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナンブイヌナズナ

*Draba japonica***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 2-10 cm。根出葉は長さ 4-10 mm、長卵形、全縁でロゼット状。花は穂状花序に 10 個内外つく。花弁は長さ 5 mm、広倒卵形、黄色。

【生活史】

多年草。花期は 6-8 月。

【生育環境】

高山帯の超塩基性岩地からなる風衝地に生育。

【分布域】

北海道（夕張岳・日高山脈北部）・本州（早池峰山）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	自然遷移	産地局限
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナンブイヌナズナ	<i>Draba japonica</i>	EN
第4次 2019:	ナンブイヌナズナ	<i>Draba japonica</i>	EN
第4次 2018:	ナンブイヌナズナ	<i>Draba japonica</i>	EN
第4次 2017:	ナンブイヌナズナ	<i>Draba japonica</i>	EN
第4次 2015:	ナンブイヌナズナ	<i>Draba japonica</i>	EN
第4次:	ナンブイヌナズナ	<i>Draba japonica</i>	EN
第3次:	ナンブイヌナズナ	<i>Draba japonica</i>	EN
第2次:	ナンブイヌナズナ	<i>Draba japonica</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)] 岩手県[A ランク]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Draba japonica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Draba japonica* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Human trampling, Natural succession, Limited distribution

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キタダケナズナ

*Draba kitadakensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 5-10 cm。茎・葉に星状毛が密生する。根出葉は長さ 6-12 mm、倒披針形。茎葉は長さ 2-15 mm、広披針形～狭卵形。花は総状花序に十数個が密につく。花弁は長さ 3-5 mm、白色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山帯の岩礫地に生育。

【分布域】

八ヶ岳・南アルプス（仙丈岳・北岳・荒川岳）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュで計数十個体と推定された。植生の遷移、登山者の踏みつけのために減少傾向にあった。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	2	0	0	0	2	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キタダケナズナ	<i>Draba kitadakensis</i>	EN
第4次 2019:	キタダケナズナ	<i>Draba kitadakensis</i>	EN
第4次 2018:	キタダケナズナ	<i>Draba kitadakensis</i>	EN
第4次 2017:	キタダケナズナ	<i>Draba kitadakensis</i>	EN
第4次 2015:	キタダケナズナ	<i>Draba kitadakensis</i>	EN
第4次:	キタダケナズナ	<i>Draba kitadakensis</i>	EN
第3次:	キタダケナズナ	<i>Draba kitadakensis</i>	EN
第2次:	キタダケナズナ	<i>Draba kitadakensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山梨県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 静岡県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Draba kitadakensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Draba kitadakensis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤツガタケナズナ

*Draba oiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 8-14 cm。茎・葉に星状毛が密生する。根出葉は長さ 10-13 mm、線形～線形さじ状。茎葉は 5-10 個、披針形～楕円状卵形。花は総状花序に 5-15 個つく。花弁は長さ 2.5-3 mm、白色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山帯の岩礫地または石灰岩地に生育。

【分布域】

本州中部（八ヶ岳・奥秩父）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	その他動物食害	自然遷移
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤツガタケナズナ	<i>Draba oiana</i>	EN
第4次 2019:	ヤツガタケナズナ	<i>Draba oiana</i>	EN
第4次 2018:	ヤツガタケナズナ	<i>Draba oiana</i>	EN
第4次 2017:	ヤツガタケナズナ	<i>Draba oiana</i>	EN
第4次 2015:	ヤツガタケナズナ	<i>Draba oiana</i>	EN
第4次:	ヤツガタケナズナ	<i>Draba oiana</i>	EN
第3次:	ヤツガタケナズナ	<i>Draba oiana</i>	CR
第2次:	ヤツガタケナズナ	<i>Draba oiana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

埼玉県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Draba oiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Draba oiana* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Deer feeding damage, Other animal feeding damage, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

モイワナズナ

Draba sachalinensis var. *sachalinensis*

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 E
20 年間の絶滅確率が 20%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 10-30 cm。根茎はよく分枝し、有花茎と無花茎を伸ばす。茎・葉に星状毛が密生する。根出葉は倒披針形、口ゼット状。茎葉は 1-3 個、倒披針形～倒卵形。花は穂状花序に 12-20 個つく。花弁は長さ 6-8 mm、先端は凹形、白色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の岩場に生育。

【分布域】

北海道（西南部・網走地方）、サハリンに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	モイワナズナ	<i>Draba sachalinensis</i>	EN
第4次 2019:	モイワナズナ	<i>Draba sachalinensis</i>	EN
第4次 2018:	モイワナズナ	<i>Draba sachalinensis</i>	EN
第4次 2017:	モイワナズナ	<i>Draba sachalinensis</i>	EN
第4次 2015:	モイワナズナ	<i>Draba sachalinensis</i>	EN
第4次:	モイワナズナ	<i>Draba sachalinensis</i>	EN
第3次:	モイワナズナ	<i>Draba sachalinensis</i>	EN
第2次:	モイワナズナ	<i>Draba sachalinensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Draba sachalinensis var. *sachalinensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Draba sachalinensis* var. *sachalinensis* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トガクシナズナ

Draba sakuraii var. *sakuraii***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 8-12 cm。根茎はよく分枝し、有花茎と無花茎を伸ばす。根出葉は長さ 1-2 cm、狭倒披針形で口ゼット状。茎葉は数個、卵形～楕円形。花は総状花序に 10-20 個つく。花序の中軸・花序柄・花柄に単純毛がある。花弁は長さ 5-6 mm、さじ状倒卵形、白色。

【生活史】

多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

高山帯の岩礫地に生育。

【分布域】

本州中部（戸隠連峰・頸城山地）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では減少率が過小評価とされた。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トガクシナズナ	<i>Draba sakuraii</i>	EN
第4次 2019:	トガクシナズナ	<i>Draba sakuraii</i>	EN
第4次 2018:	トガクシナズナ	<i>Draba sakuraii</i>	EN
第4次 2017:	トガクシナズナ	<i>Draba sakuraii</i>	EN
第4次 2015:	トガクシナズナ	<i>Draba sakuraii</i>	EN
第4次:	トガクシナズナ	<i>Draba sakuraii</i>	EN
第3次:	トガクシナズナ	<i>Draba sakuraii</i>	EN
第2次:	トガクシナズナ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

富山県[絶滅危惧Ⅱ類] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Draba sakuraii var. *sakuraii* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Draba sakuraii var. *sakuraii* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シロウマナズナ

*Draba shiroumana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 8-12 cm。茎は叢生し無毛。根出葉は長さ 5-12 mm、線状さじ形でロゼット状。茎葉は長さ 5-12 mm、1-4 個で、線状へら形～線状倒披針形。花は短い総状花序に数個つく。花序柄は無毛。花弁は長さ 2.5 mm、狭倒卵形、白色。

【生活史】

多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

高山帯の岩礫地に生育。

【分布域】

北アルプス（白馬山系）・南アルプス（仙丈岳・白峰三山・荒川岳・赤石岳）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	自然遷移	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シロウマナズナ	<i>Draba shiroumana</i>	EN
第4次 2019:	シロウマナズナ	<i>Draba shiroumana</i>	EN
第4次 2018:	シロウマナズナ	<i>Draba shiroumana</i>	EN
第4次 2017:	シロウマナズナ	<i>Draba shiroumana</i>	EN
第4次 2015:	シロウマナズナ	<i>Draba shiroumana</i>	EN
第4次:	シロウマナズナ	<i>Draba shiroumana</i>	EN
第3次:	シロウマナズナ	<i>Draba shiroumana</i>	EN
第2次:	シロウマナズナ	<i>Draba shiroumana</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[情報不足(DD)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 富山県[準絶滅危惧] 山梨県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 長野県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Draba shiroumana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Draba shiroumana* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハマタイセイ

Isatis tinctoria var. *tinctoria*

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 D
推定開花株数が 250 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 30-100 cm。全体が無毛。根出葉は長さ 5-20 cm、長楕円状披針形。茎葉は長さ 3-8 cm、無柄で基部は茎を抱き、全縁か低鋸歯縁。花は総状花序に密につく。花は径 3-4 mm、黄色。

【生活史】

越年草。花期は 4-6 月。

【生育環境】

海岸に生育。

【分布域】

北海道、ユーラシア大陸温帯部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	1	0	0	3	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	不明	管理放棄
件数 2	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハマタイセイ	<i>Isatis tinctoria</i>	CR
第4次 2019:	ハマタイセイ	<i>Isatis tinctoria</i>	CR
第4次 2018:	ハマタイセイ	<i>Isatis tinctoria</i>	CR
第4次 2017:	ハマタイセイ	<i>Isatis tinctoria</i>	CR
第4次 2015:	ハマタイセイ	<i>Isatis tinctoria</i>	CR
第4次:	ハマタイセイ	<i>Isatis tinctoria</i>	CR
第3次:	ハマタイセイ	<i>Isatis yezoensis</i>	CR
第2次:	ハマタイセイ	<i>Isatis yezoensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Isatis tinctoria var. *tinctoria* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Isatis tinctoria var. *tinctoria* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Unknown, Abandonment of management
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タカネゲンバイ

Noccaea cochleariformis

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 E
20 年間の絶滅確率が 20%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 8-20 cm。根茎は細長く分枝する。全体無毛。根出葉は多数ロゼット状につき長い柄がある。茎葉は長さ 6-30 mm、卵形～広楕円形、基部はやじり状で茎を抱く。花序は平時に平たく、果時に伸長する。花弁は長さ 5-7 mm、倒卵形、白色。

【生活史】

多年草。花期は 6-8 月。

【生育環境】

山地の岩礫地に生育。

【分布域】

北海道・本州（青森県津軽半島）、北半球の寒帯に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	人の踏みつけ	産地局限
件数 3	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タカネグンバイ	<i>Thlaspi japonicum</i>	EN
第4次 2019:	タカネグンバイ	<i>Thlaspi japonicum</i>	EN
第4次 2018:	タカネグンバイ	<i>Thlaspi japonicum</i>	EN
第4次 2017:	タカネグンバイ	<i>Thlaspi japonicum</i>	EN
第4次 2015:	タカネグンバイ	<i>Thlaspi japonicum</i>	EN
第4次:	タカネグンバイ	<i>Thlaspi japonicum</i>	EN
第3次:	タカネグンバイ	<i>Thlaspi japonicum</i>	EN
第2次:	タカネグンバイ	<i>Thlaspi japonicum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)] 青森県[最重要希少野生生物(A ランク)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Noccaea cochleariformis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Noccaea cochleariformis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Natural succession, Human trampling, Limited distribution

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハリナズナ

Subularia aquatica

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 C

推定開花株数 2500 個体未満かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 5-7 cm。葉身は長さ 1-5 cm。花は 3-6 個、日本では閉鎖花のみしか知られていない。

【生活史】

一年草。花期は 6-8 月。

【生育環境】

亜高山帯の池沼に生育。

【分布域】

千島列島、岩手県（八幡平）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数百個体の現存が報告された。生育地の底泥のかく乱があると絶滅するおそれがある。また近年再確認できていない生育地があり、減少傾向にあると推定される。他の生育地が残されている可能性も指摘される。基準 C により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハリナズナ	<i>Subularia aquatica</i>	EN
第4次 2019:	ハリナズナ	<i>Subularia aquatica</i>	EN
第4次 2018:	ハリナズナ	<i>Subularia aquatica</i>	EN
第4次 2017:	ハリナズナ	<i>Subularia aquatica</i>	EN
第4次 2015:	ハリナズナ	<i>Subularia aquatica</i>	EN
第4次:	ハリナズナ	<i>Subularia aquatica</i>	EN
第3次:	ハリナズナ	<i>Subularia aquatica</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[A ランク]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Subularia aquatica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Subularia aquatica* is listed as EN under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムニンバクダン

Santalum boninense

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 E
20 年間の絶滅確率が 20%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 2-4 m。葉は対生し、葉身はやや厚く、楕円形、全縁で鈍頭、長さ 3-7 cm。花序は単純な集散状。花は長さ約 5 mm。花筒は鐘形でやや四角柱状、長さ約 2 mm、花被裂片は 4 個。果実は 8 月、紅紫色に熟し、洋梨形、長さ約 16 mm。ただし、まれにしか結実しない。

【生活史】

常緑小高木。

【生育環境】

シマイスノキ、シャリンバイ、オオハマボウ、オガサワラススキなどの根に吸盤で寄生。

【分布域】

小笠原の父島、母島の一部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	2	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムニンビャクダン	<i>Santalum boninense</i>	EN
第4次 2019:	ムニンビャクダン	<i>Santalum boninense</i>	EN
第4次 2018:	ムニンビャクダン	<i>Santalum boninense</i>	EN
第4次 2017:	ムニンビャクダン	<i>Santalum boninense</i>	EN
第4次 2015:	ムニンビャクダン	<i>Santalum boninense</i>	EN
第4次:	ムニンビャクダン	<i>Santalum boninense</i>	EN
第3次:	ムニンビャクダン	<i>Santalum boninense</i>	EN
第2次:	ムニンビャクダン	<i>Santalum boninense</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Santalum boninense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Santalum boninense* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae タデ科 Polygonaceae

アラゲタデ

Persicaria pulchra

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上し、高さ 80 cm に達する。葉は披針形、長さ 7-15 cm。花は白色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

池の畔に生育する。

【分布域】

大東諸島に分布。国外では、台湾、中国南部～熱帯アジアに広く分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が報告された。生育地である湿地の埋め立てが進んでいる。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アラゲタデ	<i>Persicaria attenuata</i> subsp. <i>pulchra</i>	EN
第4次 2019:	アラゲタデ	<i>Persicaria attenuata</i> subsp. <i>pulchra</i>	EN
第4次 2018:	アラゲタデ	<i>Persicaria attenuata</i> subsp. <i>pulchra</i>	EN
第4次 2017:	アラゲタデ	<i>Persicaria attenuata</i> subsp. <i>pulchra</i>	EN
第4次 2015:	アラゲタデ	<i>Persicaria attenuata</i> subsp. <i>pulchra</i>	EN
第4次:	アラゲタデ	<i>Persicaria attenuata</i> subsp. <i>pulchra</i>	EN
第3次:	アラゲタデ	<i>Persicaria attenuata</i> subsp. <i>pulchra</i>	EN
第2次:	アラゲタデ	<i>Persicaria lanatum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Persicaria pulchra has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Persicaria pulchra* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キブネダイオウ

Rumex nepalensis subsp. *andreaeanus***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1.4 m。葉は有柄、卵状楕円形。花は円錐花序状につく。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

川辺に生育する。

【分布域】

本州（京都盆地周辺、岡山県西部、広島県東端）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。平均減少率は 66%であった。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	2	1	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 河川開発	帰化競合	その他
件数 4	3	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キブネダイオウ	<i>Rumex nepalensis</i> var. <i>andreaeanus</i>	EN
第4次 2019:	キブネダイオウ	<i>Rumex nepalensis</i> var. <i>andreaeanus</i>	EN
第4次 2018:	キブネダイオウ	<i>Rumex nepalensis</i> var. <i>andreaeanus</i>	EN
第4次 2017:	キブネダイオウ	<i>Rumex nepalensis</i> var. <i>andreaeanus</i>	EN
第4次 2015:	キブネダイオウ	<i>Rumex nepalensis</i> var. <i>andreaeanus</i>	EN
第4次:	キブネダイオウ	<i>Rumex nepalensis</i> var. <i>andreaeanus</i>	EN
第3次:	キブネダイオウ	<i>Rumex nepalensis</i> var. <i>andreaeanus</i>	EN
第2次:	キブネダイオウ	<i>Rumex nepalensis</i> var. <i>andreaeanus</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

京都府[絶滅寸前種] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rumex nepalensis subsp. *andreaeanus* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rumex nepalensis* subsp. *andreaeanus* is listed as EN under criteria ACD. The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	River development, Invasive species competition, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae タデ科 Polygonaceae

ニセコガネギシギシ

Rumex trisetifer

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

コガネギシギシに似るが、翼状内萼片の縁のとげは 1 対で太く、ときに発達しない。

【生活史】

1 年草または越年草。

【生育環境】

低地の河岸の湿地に生育。

【分布域】

関東地方・高知県東部、台湾・中国中南部・東南アジア大陸部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報が得られなかった。高知県では近年標本が採取され（高知県・高知県牧野記念財団 2009）、別途調査により個体数は 1000 以下と推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ニセコガネギシギシ	<i>Rumex trisetifer</i>	DD
第4次 2019:	ニセコガネギシギシ	<i>Rumex trisetifer</i>	DD
第4次 2018:	ニセコガネギシギシ	<i>Rumex trisetifer</i>	DD
第4次 2017:	ニセコガネギシギシ	<i>Rumex trisetifer</i>	DD
第4次 2015:	ニセコガネギシギシ	<i>Rumex trisetifer</i>	DD
第4次:	ニセコガネギシギシ	<i>Rumex trisetifer</i>	DD
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

神奈川県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 高知県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 高知県・高知県牧野記念財団（編）. 2009. 高知県植物誌. 844pp. 高知県・高知県牧野記念財団，高知.
- 高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会，2022. 高知県レッドデータブック 2022 植物編. 高知県林業振興・環境部自然共生課，229pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rumex trisetifer has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rumex trisetifer* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アポイツメクサ

Arenaria katoana var. *lanceolata***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 5-10 cm で、茎は 2 列の縮れた毛と腺毛があり、直立して小さなマット状に叢生する。花は白色で、1-3 個が頂生または腋生する。カトウハコベ *Arenaria katoana* の変種であり、葉が線形～線状披針形（長さ 5-10 mm、幅 0.8-1.5 mm）である点で区別される。

【生活史】

多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

超塩基性岩地に生育。

【分布域】

北海道アポイ岳に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

詳細については不明。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

胆振地方では、カトウハコベとアポイツメクサの中間的な葉の形態をもつ個体が認識されている。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 館脇操，1928. 日高様似アポイヌプリ植物. 北海道帝国大学農学部演習林研究報告，5: 49-134.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arenaria katoana var. *lanceolata* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arenaria katoana* var. *lanceolata* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハイツメクサ

Minuartia biflora

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1.5-5 cm。葉は線形で長さ 2-7 mm、1 脈があり、縁に微小突起がある。先端は尖らない。花弁は白色で径 4 mm。花柄に腺毛が密生。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山の超塩基性岩地域や石灰岩地の岩礫地や雪田跡の砂礫地に生育する。

【分布域】

北アルプス白馬山系に分布。世界的には北半球に広く分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハイツメクサ	<i>Minuartia biflora</i>	EN
第4次 2019:	ハイツメクサ	<i>Minuartia biflora</i>	EN
第4次 2018:	ハイツメクサ	<i>Minuartia biflora</i>	EN
第4次 2017:	ハイツメクサ	<i>Minuartia biflora</i>	EN
第4次 2015:	ハイツメクサ	<i>Minuartia biflora</i>	EN
第4次:	ハイツメクサ	<i>Minuartia biflora</i>	EN
第3次:	ハイツメクサ	<i>Arenaria sajanensis</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Minuartia biflora has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Minuartia biflora* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カムイビランジ

*Silene hidaka-alpina***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 4-10 cm。根出葉は倒披針状さじ形～さじ形～倒披針状線形で、長さ 3.5-6 cm。花は淡紅紫色で径 1.5-2 cm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山帯の岩壁や岩礫地に生育する。

【分布域】

日高山脈に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュで計約 200 個体であった。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	2	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カムイビランジ	<i>Silene hidaka-alpina</i>	EN
第4次 2019:	カムイビランジ	<i>Silene hidaka-alpina</i>	EN
第4次 2018:	カムイビランジ	<i>Silene hidaka-alpina</i>	EN
第4次 2017:	カムイビランジ	<i>Silene hidaka-alpina</i>	EN
第4次 2015:	カムイビランジ	<i>Silene hidaka-alpina</i>	EN
第4次:	カムイビランジ	<i>Silene hidaka-alpina</i>	EN
第3次:	カムイビランジ	<i>Silene hidaka-alpina</i>	EN
第2次:	カムイビランジ	<i>Silene hidaka-alpina</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危機種(Cr)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Silene hidaka-alpina has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Silene hidaka-alpina* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

チシママンテマ

Silene repens var. *latifolia*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

カラフトマンテマの変種。全体的に毛が多く、葉は幅 5-15 mm と広い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の草原などに生育する。

【分布域】

北海道（礼文島、阿寒山系、厚岸町）、南千島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チシママンテマ	<i>Silene repens</i> var. <i>latifolia</i>	EN
第4次 2019:	チシママンテマ	<i>Silene repens</i> var. <i>latifolia</i>	EN
第4次 2018:	チシママンテマ	<i>Silene repens</i> var. <i>latifolia</i>	EN
第4次 2017:	チシママンテマ	<i>Silene repens</i> var. <i>latifolia</i>	EN
第4次 2015:	チシママンテマ	<i>Silene repens</i> var. <i>latifolia</i>	EN
第4次:	チシママンテマ	<i>Silene repens</i> var. <i>latifolia</i>	EN
第3次:	チシママンテマ	<i>Silene repens</i> var. <i>latifolia</i>	CR
第2次:	チシママンテマ	<i>Silene repens</i> var. <i>latifolia</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Silene repens var. *latifolia* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Silene repens var. *latifolia* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ナデシコ科 Caryophyllaceae

カラフトマンテマ

Silene repens var. *repens*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-50 cm。茎の下部は地を這い、葉は線状披針形～広披針形または倒披針形、長さ 2-7 cm。花は数個つき、萼は細毛があり、花弁は白色か淡紅色、舷部は 2 中裂。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の石灰岩草原に生育する。

【分布域】

北海道道南地方の大平山に分布。世界的には、北半球の高緯度地方に広く分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カラフトマンテマ	<i>Silene repens</i> var. <i>repens</i>	EN
第4次 2019:	カラフトマンテマ	<i>Silene repens</i> var. <i>repens</i>	EN
第4次 2018:	カラフトマンテマ	<i>Silene repens</i> var. <i>repens</i>	EN
第4次 2017:	カラフトマンテマ	<i>Silene repens</i> var. <i>repens</i>	EN
第4次 2015:	カラフトマンテマ	<i>Silene repens</i> var. <i>repens</i>	EN
第4次:	カラフトマンテマ	<i>Silene repens</i> var. <i>repens</i>	EN
第3次:	カラフトマンテマ	<i>Silene repens</i>	EN
第2次:	カラフトマンテマ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Silene repens var. *repens* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Silene repens var. *repens* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ナデシコ科 Caryophyllaceae

ヤクシマサワハコベ

Stellaria diandra var. *yakumontana*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

母種のサワハコベに対し全体的に小さく、葉は長さ 8 mm 以下、萼は長さ 4 mm 内外。

【生活史】

多年生草本。

【生育環境】

湿った林床に生育する。

【分布域】

九州（南部）、屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。シカ食害によって減少し、今後もシカの影響を受ける可能性が高いと考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマサワハコベ	<i>Stellaria diversiflora</i> var. <i>yakumontana</i>	EN
第4次 2019:	ヤクシマサワハコベ	<i>Stellaria diversiflora</i> var. <i>yakumontana</i>	EN
第4次 2018:	ヤクシマサワハコベ	<i>Stellaria diversiflora</i> var. <i>yakumontana</i>	EN
第4次 2017:	ヤクシマサワハコベ	<i>Stellaria diversiflora</i> var. <i>yakumontana</i>	EN
第4次 2015:	ヤクシマサワハコベ	<i>Stellaria diversiflora</i> var. <i>yakumontana</i>	EN
第4次:	ヤクシマサワハコベ	<i>Stellaria diversiflora</i> var. <i>yakumontana</i>	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Stellaria diandra var. *yakumontana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Stellaria diandra* var. *yakumontana* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ナデシコ科 Caryophyllaceae

エゾハコベ

Stellaria humifusa

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 5-20 cm。茎は直立して多少枝を分ける。葉は線状長楕円形～披針形、長さ 1-2 cm。花は腋生。花弁は白色で、2 深裂し、萼と等長かやや長い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸近くの塩湿地に生育する。

【分布域】

南千島、北海道（道東地方の太平洋側地域）に分布。世界的には、北半球の北部に広く分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾハコベ	<i>Stellaria humifusa</i>	EN
第4次 2019:	エゾハコベ	<i>Stellaria humifusa</i>	EN
第4次 2018:	エゾハコベ	<i>Stellaria humifusa</i>	EN
第4次 2017:	エゾハコベ	<i>Stellaria humifusa</i>	EN
第4次 2015:	エゾハコベ	<i>Stellaria humifusa</i>	EN
第4次:	エゾハコベ	<i>Stellaria humifusa</i>	EN
第3次:	エゾハコベ	<i>Stellaria humifusa</i>	EN
第2次:	エゾハコベ	<i>Stellaria humifusa</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)] 青森県[最重要希少野生生物(A ランク)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Stellaria humifusa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Stellaria humifusa* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エゾイワツメクサ

*Stellaria pterosperma***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 5-20 cm。オオイワツメクサに似ているが全体に小型。葉は厚く、長さ 1-2 cm。花は 1-3 個。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山の砂礫地や岩礫地に生育する。

【分布域】

北海道大雪山系に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	産地局限	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾイワツメクサ	<i>Stellaria pterosperma</i>	EN
第4次 2019:	エゾイワツメクサ	<i>Stellaria pterosperma</i>	EN
第4次 2018:	エゾイワツメクサ	<i>Stellaria pterosperma</i>	EN
第4次 2017:	エゾイワツメクサ	<i>Stellaria pterosperma</i>	EN
第4次 2015:	エゾイワツメクサ	<i>Stellaria pterosperma</i>	EN
第4次:	エゾイワツメクサ	<i>Stellaria pterosperma</i>	EN
第3次:	エゾイワツメクサ	<i>Stellaria pterosperma</i>	EN
第2次:	エゾイワツメクサ	<i>Stellaria pterosperma</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Stellaria pterosperma has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Stellaria pterosperma* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アマミクサアジサイ

*Cardiandra amamiohsimensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

クサアジサイに似るが、花序は円錐状、装飾花をもたない。花柄は長さ 1 cm。花弁は長さ 3 mm、淡紅色。花柱は長さ 2-3 mm、果期に著しく外曲する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿った岩場や林縁に生育。

【分布域】

奄美大島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アマミクサアジサイ	<i>Cardiandra amamiohsimensis</i>	EN
第4次 2019:	アマミクサアジサイ	<i>Cardiandra amamiohsimensis</i>	EN
第4次 2018:	アマミクサアジサイ	<i>Cardiandra amamiohsimensis</i>	EN
第4次 2017:	アマミクサアジサイ	<i>Cardiandra amamiohsimensis</i>	EN
第4次 2015:	アマミクサアジサイ	<i>Cardiandra amamiohsimensis</i>	EN
第4次:	アマミクサアジサイ	<i>Cardiandra amamiohsimensis</i>	EN
第3次:	アマミクサアジサイ	<i>Cardiandra amamiohsimensis</i>	EN
第2次:	アマミクサアジサイ	<i>Cardiandra amamiohsimensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cardiandra amamiohsimensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cardiandra amamiohsimensis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤエヤマヒメウツギ

*Deutzia yaeyamensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1 m。枝は褐色を帯び、無毛。葉柄は長さ 4-10 mm、星状毛を散生。葉身は長さ 5-13 cm、広楕円形、表面には星状毛と単毛を散生し、裏面は脈上を除き無毛。花は錐状花序に 5-10 個つく。花弁は長楕円状倒披針形～楕円形。花系の翼の上端に歯がない。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

断崖に生育。

【分布域】

琉球（西表島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤエヤマヒメウツギ	<i>Deutzia yaeyamensis</i>	EN
第4次 2019:	ヤエヤマヒメウツギ	<i>Deutzia yaeyamensis</i>	EN
第4次 2018:	ヤエヤマヒメウツギ	<i>Deutzia yaeyamensis</i>	EN
第4次 2017:	ヤエヤマヒメウツギ	<i>Deutzia yaeyamensis</i>	EN
第4次 2015:	ヤエヤマヒメウツギ	<i>Deutzia yaeyamensis</i>	EN
第4次:	ヤエヤマヒメウツギ	<i>Deutzia yaeyamensis</i>	EN
第3次:	ヤエヤマヒメウツギ	<i>Deutzia yaeyamensis</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Deutzia yaeyamensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Deutzia yaeyamensis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマルリアジサイ

Hydrangea acuminata subsp. *yakushimensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

九州本島に分布するサワアジサイ・ナンゴクヤマアジサイに近縁だが、葉裏が脈をのぞき無毛であり、果実が小型（長さ 2.7 mm 以下）である点で異なる。

【生活史】

花期は 7 月中旬から 8 月上旬。

【生育環境】

湿った岩場に生育。

【分布域】

屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

生育地は一カ所に限定されている。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 文献なし

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hydrangea acuminata subsp. *yakushimensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hydrangea acuminata* subsp. *yakushimensis* is listed as EN under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キモツキクサアジサイ

*Hydrangea marunoi***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

草丈は 30-100 cm。葉は卵形～長楕円形、または倒卵状楕円形で、ふつう長さ 10-28 cm。花は 8 月頃に咲き、茎の先端部および上部の葉のつけねから白色の円錐状の花序を出す。花序の外側につく中性花につく花弁状の萼片はふつう 3 個。クサアジサイに似るが、雄蕊が 28-32 本とより多く、柱頭と種子もそれぞれ長さ 1.2-1.8 mm、1.2-1.5 mm とより長い。

【生活史】

落葉多年草。

【生育環境】

湿った岩場、林床に生育。

【分布域】

鹿児島県（肝属山地）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

詳細については不明。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

日本固有種。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Tagane S., S. Fujii, S. K. Hirota, A. Naiki and T. Yahara, 2022. *Hydrangea marunoi* (Hydrangeaceae), a new species from Osumi Peninsula, southern Japan. *PhytoKeys*, 211: 33–44.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hydrangea marunoi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hydrangea marunoi* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ハナシノブ科 Polemoniaceae

カラフトハナシノブ

Polemonium caeruleum subsp. *laxiflorum*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ハナシノブの亜種。萼はやや深く切れ込み長さ 7-12 mm。花冠は長さ 1.5-2.5 cm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

風衝草原や泥炭地に生育する。

【分布域】

北海道に分布。国外では、サハリン、ウスリー、アムールに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カラフトハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>laxiflorum</i> var. <i>laxiflorum</i>	EN
第4次 2019:	カラフトハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>laxiflorum</i> var. <i>laxiflorum</i>	EN
第4次 2018:	カラフトハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>laxiflorum</i> var. <i>laxiflorum</i>	EN
第4次 2017:	カラフトハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>laxiflorum</i> var. <i>laxiflorum</i>	EN
第4次 2015:	カラフトハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>laxiflorum</i> var. <i>laxiflorum</i>	EN
第4次:	カラフトハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>laxiflorum</i> var. <i>laxiflorum</i>	EN
第3次:	カラフトハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>laxiflorum</i>	EN
第2次:	カラフトハナシノブ	<i>Polemonium coeruleum</i> ssp. <i>laxiflorum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Polemonium caeruleum subsp. *laxiflorum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red

List 5th edition. <i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>laxiflorum</i> is listed as EN under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.	
Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae サカキ科 Pentaphylacaceae

ムニンヒサカキ

Eurya boninensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヒサカキに似るが、葉の鋸歯がやや細かく下部から揃い、葯隔は先端が突出し、花柱は短く太い。

【生活史】

常緑低木ないし高木。

【生育環境】

雲霧林帯の低木層に生育。

【分布域】

小笠原諸島（父島・兄島・母島）・火山列島（北硫黄島・南硫黄島）、北マリアナ諸島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	1	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムニンヒサカキ	<i>Eurya boninensis</i>	EN
第4次 2019:	ムニンヒサカキ	<i>Eurya boninensis</i>	EN
第4次 2018:	ムニンヒサカキ	<i>Eurya boninensis</i>	EN
第4次 2017:	ムニンヒサカキ	<i>Eurya boninensis</i>	EN
第4次 2015:	ムニンヒサカキ	<i>Eurya boninensis</i>	EN
第4次:	ムニンヒサカキ	<i>Eurya boninensis</i> var. <i>boninensis</i>	EN
第3次:	ムニンヒサカキ	<i>Eurya japonica</i> subsp. <i>palauensis</i> var. <i>boninensis</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eurya boninensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Eurya boninensis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムニンノキ

*Planchonella boninensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 6-8 m。葉は互生し、枝先に集まる。葉身は長さ 7-12 cm。花は葉腋または古い葉痕の腋に単生まれに束生し、花冠は淡い緑白色、長さ 4-5 mm。

【生活史】

常緑高木。

【生育環境】

森林中に散在して生育。

【分布域】

小笠原諸島（聳島・父島・兄島・母島・向島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	2	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムニンノキ	<i>Planchonella boninensis</i>	EN
第4次 2019:	ムニンノキ	<i>Planchonella boninensis</i>	EN
第4次 2018:	ムニンノキ	<i>Planchonella boninensis</i>	EN
第4次 2017:	ムニンノキ	<i>Planchonella boninensis</i>	EN
第4次 2015:	ムニンノキ	<i>Planchonella boninensis</i>	EN
第4次:	ムニンノキ	<i>Planchonella boninensis</i>	EN
第3次:	ムニンノキ	<i>Planchonella boninensis</i>	EN
第2次:	ムニンノキ	<i>Planchonella boninensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Planchonella boninensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Planchonella boninensis* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤワラケガキ

Diospyros eriantha

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 D
推定開花株数が 250 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 7 m に達する。葉身は長さ 7-15 cm、細い長楕円形、やや薄い革質、乾くと赤褐色になる。果実は長さ 1.5-2 cm、黒色、密に毛がある。

【生活史】

常緑小高木。

【生育環境】

林内に生育。

【分布域】

琉球（与那国島・西表島）、台湾・中国南部・ラオス・ベトナム・マレーシア・インドネシアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数十個体の現存が報告された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤワラケガキ	<i>Diospyros eriantha</i>	EN
第4次 2019:	ヤワラケガキ	<i>Diospyros eriantha</i>	EN
第4次 2018:	ヤワラケガキ	<i>Diospyros eriantha</i>	EN
第4次 2017:	ヤワラケガキ	<i>Diospyros eriantha</i>	EN
第4次 2015:	ヤワラケガキ	<i>Diospyros eriantha</i>	EN
第4次:	ヤワラケガキ	<i>Diospyros eriantha</i>	EN
第3次:	ヤワラケガキ	<i>Diospyros eriantha</i>	EN
第2次:	ヤワラケガキ	<i>Diospyros eriantha</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Diospyros eriantha has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Diospyros eriantha* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トチナイソウ

Androsace chamaejasme subsp. *lehmanniana*

カテゴリー	判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 E
20 年間の絶滅確率が 20%以上。			
評価分科会： 維管束植物分科会			

基礎情報

【形態】

葉は淡黄緑色、倒披針形または狭倒卵形で、長さ 5-12 mm、下部はしだいに狭まり、全縁。7-8 月、群生する葉の間から 1 本の花茎を伸ばす。花茎は高さ 2-4 cm、2-4 個の白色の花をつける。花冠は高杯形で先は広く開き、径 5-7 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

乾いた岩地。

【分布域】

南千島・北海道・本州（岩手県早池峰山）、千島列島・サハリン・アラスカ・カナダ北部・朝鮮半島北部。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トチナイツウ	<i>Androsace chamaejasme</i> subsp. <i>lehmanniana</i>	EN
第4次 2019:	トチナイツウ	<i>Androsace chamaejasme</i> subsp. <i>lehmanniana</i>	EN
第4次 2018:	トチナイツウ	<i>Androsace chamaejasme</i> subsp. <i>lehmanniana</i>	EN
第4次 2017:	トチナイツウ	<i>Androsace chamaejasme</i> subsp. <i>lehmanniana</i>	EN
第4次 2015:	トチナイツウ	<i>Androsace chamaejasme</i> subsp. <i>lehmanniana</i>	EN
第4次:	トチナイツウ	<i>Androsace chamaejasme</i> subsp. <i>lehmanniana</i>	EN
第3次:	トチナイツウ	<i>Androsace chamaejasme</i> subsp. <i>lehmanniana</i>	EN
第2次:	トチナイツウ	<i>Androsace lehmanniana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 岩手県[A ランク]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Androsace chamaejasme subsp. *lehmanniana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Androsace chamaejasme* subsp. *lehmanniana* is listed as EN under criteria E. E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae サクラソウ科 Primulaceae

シナヤブコウジ

Ardisia cymosa

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

地上茎は高さ 25-40 cm。葉は互生、側脈は多数。花冠は白色で 5 深裂。果実は球形で径約 5 mm、無毛、紅色から熟して黒色となる。

【生活史】

常緑小低木。

【生育環境】

やや湿った林床。

【分布域】

徳之島・西表島、台湾・中国南部・東南アジア。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シナヤブコウジ	<i>Ardisia chinensis</i>	VU
第4次 2019:	シナヤブコウジ	<i>Ardisia chinensis</i>	VU
第4次 2018:	シナヤブコウジ	<i>Ardisia chinensis</i>	VU
第4次 2017:	シナヤブコウジ	<i>Ardisia chinensis</i>	VU
第4次 2015:	シナヤブコウジ	<i>Ardisia chinensis</i>	VU
第4次:	シナヤブコウジ	<i>Ardisia chinensis</i>	VU
第3次:	シナタチバナ	<i>Ardisia chinensis</i>	VU
第2次:	シナタチバナ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ardisia cymosa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ardisia cymosa* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオツルコウジ

Ardisia walkeri

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は単純で、基部から斜上して直立し、高さ 10-30 cm。葉は茎の上部の 2-3 節に、3-4 個が輪生状につき、開出し、やや革質、長楕円形または倒卵状長楕円形で、長さ 5-13 cm、幅 2-4 cm。花序は散形状、ふつう輪生葉間の鱗片葉の腋から出て、花序柄は長さ 1.5-3 cm。花冠は白色、2-6 個つき、径 6-8 mm。果実は赤色に熟し、径 5-6 mm。

【生活史】

常緑の小低木。

【生育環境】

林床。

【分布域】

本州（千葉県以西）・伊豆諸島・九州・吐噶喇列島（黒島）・口永良部島・奄美大島・徳之島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 産地局限		

件数		
1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオツルコウジ	<i>Ardisia walkeri</i>	EN
第4次 2019:	オオツルコウジ	<i>Ardisia walkeri</i>	EN
第4次 2018:	オオツルコウジ	<i>Ardisia walkeri</i>	EN
第4次 2017:	オオツルコウジ	<i>Ardisia walkeri</i>	EN
第4次 2015:	オオツルコウジ	<i>Ardisia walkeri</i>	EN
第4次:	オオツルコウジ	<i>Ardisia walkeri</i>	EN
第3次:	オオツルコウジ	<i>Ardisia montana</i>	EN
第2次:	オオツルコウジ	<i>Ardisia montana</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

千葉県[要保護生物(C)] 東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 愛知県[情報不足(DD)] 三重県[DD] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ardisia walkeri has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ardisia walkeri* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

サクラソウモドキ

Cortusa matthioli subsp. *pekinensis* var. *sachalinensis*

カテゴリー	判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 D
推定開花株数が 250 個体未満。			
評価分科会： 維管束植物分科会			

基礎情報

【形態】

根出葉は、6-15 cm の葉柄があり、腎円形で、掌状に 9-13 中裂し、長さ 2-7 cm。高さ 15-30 cm の花茎を伸ばし、3-8 個の花をつける。花冠は径 1.5 cm、紅紫色で花筒内面は黄白色、深く 5 裂し、裂片は狭卵形で先は鈍いか、浅く裂け、長さ 5-7 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の林下。

【分布域】

北海道、サハリン。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 3		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サクラソウモドキ	<i>Cortusa matthioli</i> subsp. <i>pekinensis</i> var. <i>sachalinensis</i>	EN
第4次 2019:	サクラソウモドキ	<i>Cortusa matthioli</i> subsp. <i>pekinensis</i> var. <i>sachalinensis</i>	EN
第4次 2018:	サクラソウモドキ	<i>Cortusa matthioli</i> subsp. <i>pekinensis</i> var. <i>sachalinensis</i>	EN
第4次 2017:	サクラソウモドキ	<i>Cortusa matthioli</i> subsp. <i>pekinensis</i> var. <i>sachalinensis</i>	EN
第4次 2015:	サクラソウモドキ	<i>Cortusa matthioli</i> subsp. <i>pekinensis</i> var. <i>sachalinensis</i>	EN
第4次:	サクラソウモドキ	<i>Cortusa matthioli</i> subsp. <i>pekinensis</i> var. <i>sachalinensis</i>	EN
第3次:	サクラソウモドキ	<i>Cortusa matthioli</i> subsp. <i>pekinensis</i> var. <i>sachalinensis</i>	EN
第2次:	サクラソウモドキ	<i>Cortusa matthioli</i> var. <i>yezoensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cortusa matthioli subsp. *pekinensis* var. *sachalinensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cortusa matthioli* subsp. *pekinensis* var. *sachalinensis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae サクラソウ科 Primulaceae

トウサワトラノオ

Lysimachia candida

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

全体無毛。高さ 20-40 cm。葉は倒披針形またはへら形、長さ 2-4 cm、幅 5-8 mm。花冠は白色で、裂片は倒披針形、長さ 8-10 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿地。

【分布域】

関東北部・愛知県、台湾（絶滅）・中国。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	2	0	0	0	0	3	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 農薬汚染	管理放棄	その他
件数 2	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トウサワトラノオ	<i>Lysimachia candida</i>	EN
第4次 2019:	トウサワトラノオ	<i>Lysimachia candida</i>	EN
第4次 2018:	トウサワトラノオ	<i>Lysimachia candida</i>	EN
第4次 2017:	トウサワトラノオ	<i>Lysimachia candida</i>	EN
第4次 2015:	トウサワトラノオ	<i>Lysimachia candida</i>	EN
第4次:	トウサワトラノオ	<i>Lysimachia candida</i>	EN
第3次:	トウサワトラノオ	<i>Lysimachia candida</i>	EN
第2次:	トウサワトラノオ	<i>Lysimachia candida</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(Bランク)] 愛知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lysimachia candida has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lysimachia candida* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Pesticide pollution, Abandonment of management, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オニコナスビ

*Lysimachia tashiroi***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は対生し、長さ 7-25 mm の柄があり、葉身は広卵形で、長さ 2-4 cm。茎の上部の葉腋ごとに 1 花をつける。花冠は黄色、径 1.5 cm、5 裂し、裂片は長楕円形で先は円い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地。

【分布域】

九州（宮崎県・大分県・熊本県・福岡県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	0	1	0	0	0	4	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 河川開発	ダム建設	産地局限
件数 2	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オニコナスビ	<i>Lysimachia tashiroi</i>	EN
第4次 2019:	オニコナスビ	<i>Lysimachia tashiroi</i>	EN
第4次 2018:	オニコナスビ	<i>Lysimachia tashiroi</i>	EN
第4次 2017:	オニコナスビ	<i>Lysimachia tashiroi</i>	EN
第4次 2015:	オニコナスビ	<i>Lysimachia tashiroi</i>	EN
第4次:	オニコナスビ	<i>Lysimachia tashiroi</i>	EN
第3次:	オニコナスビ	<i>Lysimachia tashiroi</i>	EN
第2次:	オニコナスビ	<i>Lysimachia tashiroi</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福岡県[絶滅危惧ⅠB類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鹿児島県[情報不足]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lysimachia tashiroi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lysimachia tashiroi* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	River development, Dam construction, Limited distribution
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カムイコザクラ

Primula hidakana f. *kamuiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヒダカイワザクラの変種で、全体に似ているが、葉柄、葉の裏面、花茎などに長軟毛が生える。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山。

【分布域】

北海道日高山脈。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュで数十個体の報告があった。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カムイコザクラ	<i>Primula hidakana</i> var. <i>kamuiana</i>	EN
第4次 2019:	カムイコザクラ	<i>Primula hidakana</i> var. <i>kamuiana</i>	EN
第4次 2018:	カムイコザクラ	<i>Primula hidakana</i> var. <i>kamuiana</i>	EN
第4次 2017:	カムイコザクラ	<i>Primula hidakana</i> var. <i>kamuiana</i>	EN
第4次 2015:	カムイコザクラ	<i>Primula hidakana</i> var. <i>kamuiana</i>	EN
第4次:	カムイコザクラ	<i>Primula hidakana</i> var. <i>kamuiana</i>	EN
第3次:	カムイコザクラ	<i>Primula hidakana</i> f. <i>kamuiana</i>	EN
第2次:	カムイコザクラ	<i>Primula hidakana</i> var. <i>kamuiana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Primula hidakana f. *kamuiana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Primula hidakana* f. *kamuiana* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カッコソウ

Primula kisoana var. *kisoana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は厚く、広円形で、径 5-12 cm、縁が掌状に浅く不規則に裂け、さらに細かな歯牙がある。花茎は高さ 10-20 cm で、5-15 個の花が輪状に 1-3 段につく。萼は深く 5 裂し、裂片は線状披針形、長さ 1-1.2 cm。花冠は紅紫色で花喉部は濃赤褐色、高杯状で、径 2-3 cm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の林下。

【分布域】

関東地方北部。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	その他	
件数	1	

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カッコソウ	<i>Primula kisoana</i> var. <i>kisoana</i>	CR
第4次 2019:	カッコソウ	<i>Primula kisoana</i> var. <i>kisoana</i>	CR
第4次 2018:	カッコソウ	<i>Primula kisoana</i> var. <i>kisoana</i>	CR
第4次 2017:	カッコソウ	<i>Primula kisoana</i> var. <i>kisoana</i>	CR
第4次 2015:	カッコソウ	<i>Primula kisoana</i> var. <i>kisoana</i>	CR
第4次:	カッコソウ	<i>Primula kisoana</i> var. <i>kisoana</i>	CR
第3次:	カッコソウ	<i>Primula kisoana</i>	CR
第2次:	カッコソウ	<i>Primula kisoana</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Primula kisoana var. *kisoana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Primula kisoana* var. *kisoana* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Other
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シコクカッソウ

Primula kisoana var. *shikokiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

カッソウの変種であるが、萼片は長く 1.2-1.5 cm。花冠の花喉部は黄色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の谷沿いの水はけのよい斜面など。

【分布域】

四国。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	3	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	その他動物食害
件数 8	5	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シコクカッソウ	<i>Primula kisoana</i> var. <i>shikokiana</i>	VU
第4次 2019:	シコクカッソウ	<i>Primula kisoana</i> var. <i>shikokiana</i>	VU
第4次 2018:	シコクカッソウ	<i>Primula kisoana</i> var. <i>shikokiana</i>	VU
第4次 2017:	シコクカッソウ	<i>Primula kisoana</i> var. <i>shikokiana</i>	VU
第4次 2015:	シコクカッソウ	<i>Primula kisoana</i> var. <i>shikokiana</i>	VU
第4次:	シコクカッソウ	<i>Primula kisoana</i> var. <i>shikokiana</i>	VU
第3次:	シコクカッソウ	<i>Primula kisoana</i> var. <i>shikokiana</i>	VU
第2次:	シコクカッソウ	<i>Primula kisoana</i> var. <i>shikokiana</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[絶滅危惧 IA 類] 香川県[絶滅危惧 I 類(CR+EN)] 愛媛県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 特定非営利活動法人みんなでつくる自然史博物館・香川，2021. 香川県レッドデータブック 2021 香川県の希少野生生物. 香川県環境森林部みどり保全課，503pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Primula kisoana var. *shikokiana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Primula kisoana* var. *shikokiana* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Other animal feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメコザクラ

*Primula macrocarpa***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は広卵形または卵円形、下部は急に狭まって葉柄となり、長さは柄を含めて 1-3 cm、幅 0.5-1 cm、縁に尖った不揃いの歯牙がある。6 月、高さ 5-10 cm の花茎を伸ばし 1-4 個の白色の花を散形につける。花冠は径 1 cm。白色で花喉部は黄色。

【生活史】

小型の多年草。

【生育環境】

高山の湿った砂地や岩の間。

【分布域】

岩手県早池峰山の高所。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数千個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	1	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメコザクラ	<i>Primula macrocarpa</i>	CR
第4次 2019:	ヒメコザクラ	<i>Primula macrocarpa</i>	CR
第4次 2018:	ヒメコザクラ	<i>Primula macrocarpa</i>	CR
第4次 2017:	ヒメコザクラ	<i>Primula macrocarpa</i>	CR
第4次 2015:	ヒメコザクラ	<i>Primula macrocarpa</i>	CR
第4次:	ヒメコザクラ	<i>Primula macrocarpa</i>	CR
第3次:	ヒメコザクラ	<i>Primula macrocarpa</i>	CR
第2次:	ヒメコザクラ	<i>Primula macrocarpa</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[A ランク]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Primula macrocarpa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Primula macrocarpa* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミョウギイワザクラ

Primula reinii var. *myogiensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

コイワザクラの変種で、形は似ているが、葉がごく浅く裂け、歯牙があまり目立たない。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の岩場。

【分布域】

群馬県妙義山。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	2	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取		
件数 2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミヨウギイワザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>myogiensis</i>	CR
第4次 2019:	ミヨウギイワザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>myogiensis</i>	CR
第4次 2018:	ミヨウギイワザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>myogiensis</i>	CR
第4次 2017:	ミヨウギイワザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>myogiensis</i>	CR
第4次 2015:	ミヨウギイワザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>myogiensis</i>	CR
第4次:	ミヨウギイワザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>myogiensis</i>	CR
第3次:	ミヨウギイワザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>myogiensis</i>	CR
第2次:	ミヨウギイワザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>myogiensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Primula reinii var. *myogiensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Primula reinii* var. *myogiensis* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ユウバリコザクラ

*Primula yuparensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は倒披針形で、長さ 1-3 cm、幅 0.5-1.5 cm、縁に目立たない細かい鋸歯がある。7 月、高さ 4-10 cm の花茎を伸ばし 1-3 個の花を散形につける。花冠は紅紫色で花喉部は緑白色、径 1.2-1.5 cm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

雪田が遅くまで残る湿ったところ。

【分布域】

北海道夕張岳。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	自然遷移	産地局限
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ユウバリコザクラ	<i>Primula yuparensis</i>	EN
第4次 2019:	ユウバリコザクラ	<i>Primula yuparensis</i>	EN
第4次 2018:	ユウバリコザクラ	<i>Primula yuparensis</i>	EN
第4次 2017:	ユウバリコザクラ	<i>Primula yuparensis</i>	EN
第4次 2015:	ユウバリコザクラ	<i>Primula yuparensis</i>	EN
第4次:	ユウバリコザクラ	<i>Primula yuparensis</i>	EN
第3次:	ユウバリコザクラ	<i>Primula yuparensis</i>	EN
第2次:	ユウバリコザクラ	<i>Primula yuparensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Primula yuparensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Primula yuparensis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホザキザクラ

Stimpsonia chamaedryoides

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立し、高さ 3-15 cm。下部の葉は柄があり、葉身は卵形または楕円形で鈍歯牙があり、長さ 1-2 cm、幅 7-12 mm。上部の葉は小型で卵円形、柄がなく、やや重複する歯牙がある。4 月、茎の上部に 2-10 個の白色の花をまばらに総状につける。花は径 4-5 mm。蒴果は径 2.5 mm。

【生活史】

一年草。

【生育環境】

山地の日当たりの良い原野、草地や路傍。

【分布域】

本州（山口県）・種子島・屋久島～琉球、中国（中南部）・台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	1	0	0	2	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 管理放棄		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホザキザクラ	<i>Stimpsonia chamaedryoides</i>	EN
第4次 2019:	ホザキザクラ	<i>Stimpsonia chamaedryoides</i>	EN
第4次 2018:	ホザキザクラ	<i>Stimpsonia chamaedryoides</i>	EN
第4次 2017:	ホザキザクラ	<i>Stimpsonia chamaedryoides</i>	EN
第4次 2015:	ホザキザクラ	<i>Stimpsonia chamaedryoides</i>	EN
第4次:	ホザキザクラ	<i>Stimpsonia chamaedryoides</i>	EN
第3次:	ホザキザクラ	<i>Stimpsonia chamaedryoides</i>	EN
第2次:	ホザキザクラ	<i>Stimpsonia chamaedryoides</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Stimpsonia chamaedryoides has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Stimpsonia chamaedryoides is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Abandonment of management
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムニンクロキ

*Symplocos boninensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 7-8 m。葉は革質で光沢があり、長さ 6-9 cm、縁はやや波を打って全縁、長さ 8-30 mm の葉柄がある。側脈は 5-8 対、表面にやや突出する。花は白色で、葉腋に数個ずつ束生。果実は倒卵形～狭倒卵形、長さ（16-）20-25 mm。

【生活史】

常緑小高木。

【生育環境】

林内に生育する。

【分布域】

小笠原諸島（母島列島向島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他動物食害		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムニンクロキ	<i>Symplocos boninensis</i>	CR
第4次 2019:	ムニンクロキ	<i>Symplocos boninensis</i>	CR
第4次 2018:	ムニンクロキ	<i>Symplocos boninensis</i>	CR
第4次 2017:	ムニンクロキ	<i>Symplocos boninensis</i>	CR
第4次 2015:	ムニンクロキ	<i>Symplocos boninensis</i>	CR
第4次:	ムニンクロキ	<i>Symplocos boninensis</i>	CR
第3次:	ムニンクロキ	<i>Symplocos boninensis</i>	CR
第2次:	ムニンクロキ	<i>Symplocos boninensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Symplocos boninensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Symplocos boninensis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Other animal feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ハイノキ科 Symplocaceae

コニシハイノキ

Symplocos konishii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は狭倒卵形か狭長楕円形、長さ 12-18 cm、幅 4-6 cm。腋生の穂状花序は有毛、花冠は白色。果実はつぼ状球形で長さ 5-6 mm。

【生活史】

常緑高木

【生育環境】

山地に生育する。

【分布域】

琉球（西表島）に分布。国外では台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コニシハイノキ	<i>Symplocos konishii</i>	EN
第4次 2019:	コニシハイノキ	<i>Symplocos konishii</i>	EN
第4次 2018:	コニシハイノキ	<i>Symplocos konishii</i>	EN
第4次 2017:	コニシハイノキ	<i>Symplocos konishii</i>	EN
第4次 2015:	コニシハイノキ	<i>Symplocos konishii</i>	EN
第4次:	コニシハイノキ	<i>Symplocos konishii</i>	EN
第3次:	コニシハイノキ	<i>Symplocos konishii</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[準絶滅危惧(NT)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Symplocos konishii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Symplocos konishii is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

チヂマクロキ

*Symplocos pergracilis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 C

推定開花株数 2500 個体未満かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1-2 m。葉は薄い革質で長さ (2.5-) 3-6 cm、縁はわずかに裏面に反り、長さ 7-15 mm の葉柄がある。花は葉腋に単生し、花冠は白色で径 6-7 mm。果実は狭倒卵形～狭楕円形、長さ 18-25 mm、翌年の秋に紫黒色に熟する。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

山地平坦面や緩斜面の低木林に生育する。

【分布域】

小笠原諸島（父島、兄島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 C により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チチジマクロキ	<i>Symplocos pergracilis</i>	EN
第4次 2019:	チチジマクロキ	<i>Symplocos pergracilis</i>	EN
第4次 2018:	チチジマクロキ	<i>Symplocos pergracilis</i>	EN
第4次 2017:	チチジマクロキ	<i>Symplocos pergracilis</i>	EN
第4次 2015:	チチジマクロキ	<i>Symplocos pergracilis</i>	EN
第4次:	チチジマクロキ	<i>Symplocos pergracilis</i>	EN
第3次:	チチジマクロキ	<i>Symplocos pergracilis</i>	EN
第2次:	チチジマクロキ	<i>Symplocos pergracilis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Symplocos pergracilis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Symplocos pergracilis* is listed as EN under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ツツジ科 Ericaceae

ヤチツツジ

Chamaedaphne calyculata

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 0.3–1 m。葉身は楕円形～長楕円形、長さ 1–3.5 cm。花柄は長さ 1–1.5 mm。小苞葉は広楕円形で長さ約 1 mm。花冠は白色で長さ約 5 mm。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

湿原に生育する。

【分布域】

南千島、北海道（石狩、天塩、釧路）、本州（秋田県）に分布。国外では、サハリン、朝鮮半島北部、北半球の寒帯に広く分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 5 メッシュで計数千個体の現存が推定された。湿地、草地の開発や泥炭採取の影響により絶滅のおそれがある。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	2	3	0	0	5	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤチツツジ	<i>Chamaedaphne calyculata</i>	EN
第4次 2019:	ヤチツツジ	<i>Chamaedaphne calyculata</i>	EN
第4次 2018:	ヤチツツジ	<i>Chamaedaphne calyculata</i>	EN
第4次 2017:	ヤチツツジ	<i>Chamaedaphne calyculata</i>	EN
第4次 2015:	ヤチツツジ	<i>Chamaedaphne calyculata</i>	EN
第4次:	ヤチツツジ	<i>Chamaedaphne calyculata</i>	EN
第3次:	ヤチツツジ	<i>Chamaedaphne calyculata</i>	EN
第2次:	ヤチツツジ	<i>Chamaedaphne calyculata</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

秋田県[絶滅危惧種 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Chamaedaphne calyculata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Chamaedaphne calyculata* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ツツジ科 Ericaceae

エゾイチヤクソウ

Pyrola minor

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は広楕円形または円形で、長さ 1.8-3 cm、縁に浅く波状の鋸歯がある。高さ 10-11 cm の花茎を伸ばし、10-20 個の花をつける。花は白色で径 5-6 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

亜寒帯のダケカンバ林縁などに生育する。

【分布域】

南千島、北海道、本州の亜高山帯に点在して分布。国外では、北半球の寒帯～亜寒帯に広く分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	産地局限	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾイチヤクソウ	<i>Pyrola minor</i>	EN
第4次 2019:	エゾイチヤクソウ	<i>Pyrola minor</i>	EN
第4次 2018:	エゾイチヤクソウ	<i>Pyrola minor</i>	EN
第4次 2017:	エゾイチヤクソウ	<i>Pyrola minor</i>	EN
第4次 2015:	エゾイチヤクソウ	<i>Pyrola minor</i>	EN
第4次:	エゾイチヤクソウ	<i>Pyrola minor</i>	EN
第3次:	エゾイチヤクソウ	<i>Pyrola minor</i>	EN
第2次:	エゾイチヤクソウ	<i>Pyrola minor</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 山梨県[情報不足(DD)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pyrola minor has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pyrola minor* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Human trampling, Limited distribution

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アマギツツジ

*Rhododendron amagianum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 3-6 m。葉は枝先に 3 枚輪生、葉身はやや厚く、菱形状円形、長さ 5-9.5 cm。枝先の 1 個の花芽から 2-3 個の花を開く。花冠は朱色で上側内面に濃色の斑点があり、漏斗形で 4-5 cm、深く 5 中裂。

【生活史】

落葉低木～小高木。

【生育環境】

林内に生育する。

【分布域】

伊豆半島（天城山周辺）、熱海市日金山に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が報告された。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	1	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アマギツツジ	<i>Rhododendron amagianum</i>	EN
第4次 2019:	アマギツツジ	<i>Rhododendron amagianum</i>	EN
第4次 2018:	アマギツツジ	<i>Rhododendron amagianum</i>	EN
第4次 2017:	アマギツツジ	<i>Rhododendron amagianum</i>	EN
第4次 2015:	アマギツツジ	<i>Rhododendron amagianum</i>	EN
第4次:	アマギツツジ	<i>Rhododendron amagianum</i>	EN
第3次:	アマギツツジ	<i>Rhododendron amagianum</i>	EN
第2次:	アマギツツジ	<i>Rhododendron amagianum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

静岡県[準絶滅危惧(NT)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhododendron amagianum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhododendron amagianum* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ツツジ科 Ericaceae

アマクサミツバツツジ

Rhododendron amakusaense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1.5-2 m。葉は枝先に 3 枚輪生。葉身はやや厚く、卵円形、長さ 2-3.5 cm。枝先の 1 個の花芽から 1 花を開く。花冠は紅紫色、漏斗形で径約 3 cm、やや深く 5 中裂し、裂片は卵状楕円形。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

山地に生育する。

【分布域】

熊本県（天草）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では、2000 年調査時に比べ園芸用の採取に歯止めがかかった模様が伺えた。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	2	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アマクサミツバツツジ	<i>Rhododendron amakusaense</i>	EN
第4次 2019:	アマクサミツバツツジ	<i>Rhododendron amakusaense</i>	EN
第4次 2018:	アマクサミツバツツジ	<i>Rhododendron amakusaense</i>	EN
第4次 2017:	アマクサミツバツツジ	<i>Rhododendron amakusaense</i>	EN
第4次 2015:	アマクサミツバツツジ	<i>Rhododendron amakusaense</i>	EN
第4次:	アマクサミツバツツジ	<i>Rhododendron amakusaense</i>	EN
第3次:	アマクサミツバツツジ	<i>Rhododendron viscistylum</i> var. <i>amakusaense</i>	EN
第2次:	アマクサミツバツツジ	<i>Rhododendron viscistylum</i> var. <i>amakusaense</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhododendron amakusaense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhododendron amakusaense* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒダカミツバツツジ

Rhododendron dilatatum var. *boreale***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミツバツツジの変種。花はやや小さく径 2.5-3 cm。雄蕊は 10 本。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

山地の岩の多い広葉樹林に生育する。

【分布域】

北海道（日高地方）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒダカミツバツツジ	<i>Rhododendron dilatatum</i> var. <i>boreale</i>	EN
第4次 2019:	ヒダカミツバツツジ	<i>Rhododendron dilatatum</i> var. <i>boreale</i>	EN
第4次 2018:	ヒダカミツバツツジ	<i>Rhododendron dilatatum</i> var. <i>boreale</i>	EN
第4次 2017:	ヒダカミツバツツジ	<i>Rhododendron dilatatum</i> var. <i>boreale</i>	EN
第4次 2015:	ヒダカミツバツツジ	<i>Rhododendron dilatatum</i> var. <i>boreale</i>	EN
第4次:	ヒダカミツバツツジ	<i>Rhododendron dilatatum</i> var. <i>boreale</i>	EN
第3次:	ヒダカミツバツツジ	<i>Rhododendron dilatatum</i> var. <i>boreale</i>	EN
第2次:	ヒダカミツバツツジ	<i>Rhododendron dilatatum</i> var. <i>boreale</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危機種(Cr)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhododendron dilatatum var. *boreale* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhododendron dilatatum* var. *boreale* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ウラジロヒカゲツツジ

Rhododendron keiskei var. *hypoglaucum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヒカゲツツジの変種。葉は楕円形で先はやや鈍く、裏面は白色を帯びる。花冠は淡黄白色。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

岩地に生育する。

【分布域】

関東地方中部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 6 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	3	1	0	0	6	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	シカ食害	自然遷移
件数 4	3	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウラジロヒカゲツツジ	<i>Rhododendron keiskei</i> var. <i>hypoglaucum</i>	CR
第4次 2019:	ウラジロヒカゲツツジ	<i>Rhododendron keiskei</i> var. <i>hypoglaucum</i>	CR
第4次 2018:	ウラジロヒカゲツツジ	<i>Rhododendron keiskei</i> var. <i>hypoglaucum</i>	CR
第4次 2017:	ウラジロヒカゲツツジ	<i>Rhododendron keiskei</i> var. <i>hypoglaucum</i>	CR
第4次 2015:	ウラジロヒカゲツツジ	<i>Rhododendron keiskei</i> var. <i>hypoglaucum</i>	CR
第4次:	ウラジロヒカゲツツジ	<i>Rhododendron keiskei</i> var. <i>hypoglaucum</i>	CR
第3次:	ウラジロヒカゲツツジ	<i>Rhododendron keiskei</i> var. <i>hypoglaucum</i>	CR
第2次:	ウラジロヒカゲツツジ	<i>Rhododendron keiskei</i> var. <i>hypoglaucum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(A ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 東京都(本土部)[本土部：絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠB 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2023. 東京都レッドデータブック 2023—東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版—. 東京都環境局自然環境部，879pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhododendron keiskei var. *hypoglaucum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhododendron keiskei* var. *hypoglaucum* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Deer feeding damage, Natural succession
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムラサキツリガネツツジ

Rhododendron lasiophyllum var. *lasiophyllum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ウラジロヨウラクの変種。葉の表面に粗い長毛がやや密に生える。花冠は長さ 14-16 mm で濃紅紫色。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

山地の岩場や風衝草原に生育する。

【分布域】

神奈川県（箱根、丹沢）、静岡県東北部～山梨県南部の富士山周辺に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	2	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムラサキツリガネツツジ	<i>Menziesia lasiophylla</i>	VU
第4次 2019:	ムラサキツリガネツツジ	<i>Menziesia lasiophylla</i>	VU
第4次 2018:	ムラサキツリガネツツジ	<i>Menziesia lasiophylla</i>	VU
第4次 2017:	ムラサキツリガネツツジ	<i>Menziesia lasiophylla</i>	VU
第4次 2015:	ムラサキツリガネツツジ	<i>Menziesia lasiophylla</i>	VU
第4次:	ムラサキツリガネツツジ	<i>Menziesia lasiophylla</i>	VU
第3次:	ムラサキツリガネツツジ	<i>Menziesia lasiophylla</i>	VU
第2次:	ムラサキツリガネツツジ	<i>Menziesia multiflora</i> var. <i>purpurea</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

神奈川県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 山梨県森林環境部みどり自然課，2018. 2018 山梨県レッドデータブック. 山梨県森林環境部みどり自然課，290pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhododendron lasiophyllum var. *lasiophyllum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhododendron lasiophyllum* var. *lasiophyllum* is listed as EN under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アマミセイシカ

Rhododendron latoucheae var. *amamiense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

セイシカの変種。セイシカに似るが、葉は細く狭長楕円形、長さ 4-8 cm。花冠は漏斗状鐘形。

【生活史】

常緑小高木。

【生育環境】

林内に生育する。

【分布域】

奄美大島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	2	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 森林伐採	園芸採取	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アマミセイシカ	<i>Rhododendron latoucheae</i> var. <i>amamiense</i>	CR
第4次 2019:	アマミセイシカ	<i>Rhododendron latoucheae</i> var. <i>amamiense</i>	CR
第4次 2018:	アマミセイシカ	<i>Rhododendron latoucheae</i> var. <i>amamiense</i>	CR
第4次 2017:	アマミセイシカ	<i>Rhododendron latoucheae</i> var. <i>amamiense</i>	CR
第4次 2015:	アマミセイシカ	<i>Rhododendron latoucheae</i> var. <i>amamiense</i>	CR
第4次:	アマミセイシカ	<i>Rhododendron latoucheae</i> var. <i>amamiense</i>	CR
第3次:	アマミセイシカ	<i>Rhododendron latoucheae</i> var. <i>amamiense</i>	CR
第2次:	アマミセイシカ	<i>Rhododendron amamiense</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫（編），1989. 日本の野生植物 木本 II. 305pp., 288pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhododendron latoucheae var. *amamiense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhododendron latoucheae* var. *amamiense* is listed as EN under criteria E. E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Logging and wood harvesting, Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオスミミツバツツジ

Rhododendron mayebarae var. *ohsumiense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ナンゴクミツバツツジの変種。葉の裏面全体、とくに脈上に果期にも短毛が散生する。

【生活史】

落葉の小高木。

【生育環境】

山地上部の岩地に生育する。

【分布域】

鹿児島県大隅半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュで計数十個体が見られるだけであった。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	2	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオスミミツバツツジ	<i>Rhododendron mayebarae</i> var. <i>ohsumiense</i>	EN
第4次 2019:	オオスミミツバツツジ	<i>Rhododendron mayebarae</i> var. <i>ohsumiense</i>	EN
第4次 2018:	オオスミミツバツツジ	<i>Rhododendron mayebarae</i> var. <i>ohsumiense</i>	EN
第4次 2017:	オオスミミツバツツジ	<i>Rhododendron mayebarae</i> var. <i>ohsumiense</i>	EN
第4次 2015:	オオスミミツバツツジ	<i>Rhododendron mayebarae</i> var. <i>ohsumiense</i>	EN
第4次:	オオスミミツバツツジ	<i>Rhododendron mayebarae</i> var. <i>ohsumiense</i>	EN
第3次:	オオスミミツバツツジ	<i>Rhododendron mayebarae</i> var. <i>ohsumiense</i>	EN
第2次:	オオスミミツバツツジ	<i>Rhododendron kiyosmense</i> ssp. <i>mayebarae</i> var. <i>ohsumiense</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhododendron mayebarae var. *ohsumiense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhododendron mayebarae* var. *ohsumiense* is listed as EN under criteria E. E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トキワバイカツツジ

*Rhododendron uwaense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 2-3 m。葉は互生して枝先に集まってつき、葉身は狭卵形または卵状長楕円形、長さ 2.5-5 cm。枝先の葉芽の下に 1-4 個の花芽をつける。それぞれの花芽から 1 個ずつの花を開く。花冠は淡紅紫色で、上側内面に濃色の斑点があり、広漏斗形で皿状に開き、径 2-3 cm、5 浅裂。蒴果は楕円形、長さ約 5 mm。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

低山の常緑樹の疎林内に生育する。

【分布域】

四国（愛媛県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュで数十個体と推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トキワバイカツツジ	<i>Rhododendron uwaense</i>	EN
第4次 2019:	トキワバイカツツジ	<i>Rhododendron uwaense</i>	EN
第4次 2018:	トキワバイカツツジ	<i>Rhododendron uwaense</i>	EN
第4次 2017:	トキワバイカツツジ	<i>Rhododendron uwaense</i>	EN
第4次 2015:	トキワバイカツツジ	<i>Rhododendron uwaense</i>	EN
第4次:	トキワバイカツツジ	<i>Rhododendron uwaense</i>	EN
第3次:	トキワバイカツツジ	<i>Rhododendron uwaense</i>	EN
第2次:	トキワバイカツツジ	<i>Rhododendron uwaense</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

愛媛県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhododendron uwaense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhododendron uwaense* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タカクマミツバツツジ

*Rhododendron viscistylum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1.5-2 m。葉は枝先に 3 枚輪生し、葉身は卵状長楕円形または菱形状円形で、長さ 1.5-4 cm。枝先の 1 個の花芽から 1 個の花を開く。花冠は紅紫色。蒴果はゆがんだ狭卵形、長さ 5-8 mm。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

高所に生育する。

【分布域】

九州南部（霧島山、高隅山）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数十個体の現存が報告された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タカクマミツバツツジ	<i>Rhododendron viscistylum</i>	EN
第4次 2019:	タカクマミツバツツジ	<i>Rhododendron viscistylum</i>	EN
第4次 2018:	タカクマミツバツツジ	<i>Rhododendron viscistylum</i>	EN
第4次 2017:	タカクマミツバツツジ	<i>Rhododendron viscistylum</i>	EN
第4次 2015:	タカクマミツバツツジ	<i>Rhododendron viscistylum</i>	EN
第4次:	タカクマミツバツツジ	<i>Rhododendron viscistylum</i>	EN
第3次:	タカクマミツバツツジ	<i>Rhododendron viscistylum</i>	EN
第2次:	タカクマミツバツツジ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017．改訂新版日本の野生植物 4．348pp., 256pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhododendron viscistylum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Rhododendron viscistylum is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマヨウラクツツジ

*Rhododendron yakushimense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ約 1 m。葉は楕円形、葉身は長さ 2-4 cm。頂生する長さ 2-3 mm の短い花序の軸に 4-7 個の花を束生状につける。萼は広鐘形で深く 4 裂。花冠は筒形または筒状鐘形、淡紅紫色で長さ 14-17 mm、先は 4 裂。蒴果は球形で長さ約 4 mm、4 裂する。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

高所の岩地に生育する。

【分布域】

屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。1 メッシュで現存が確認され、現存個体数は数百個体と推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	—	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマヨウラクツツジ	<i>Menziesia yakushimensis</i>	EN
第4次 2019:	ヤクシマヨウラクツツジ	<i>Menziesia yakushimensis</i>	EN
第4次 2018:	ヤクシマヨウラクツツジ	<i>Menziesia yakushimensis</i>	EN
第4次 2017:	ヤクシマヨウラクツツジ	<i>Menziesia yakushimensis</i>	EN
第4次 2015:	ヤクシマヨウラクツツジ	<i>Menziesia yakushimensis</i>	EN
第4次:	ヤクシマヨウラクツツジ	<i>Menziesia yakushimensis</i>	EN
第3次:	ヤクシマヨウラクツツジ	<i>Menziesia yakushimensis</i>	EN
第2次:	ヤクシマヨウラクツツジ	<i>Menziesia yakushimensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhododendron yakushimense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhododendron yakushimense* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ツツジ科 Ericaceae

チョウセンヤマツツジ

Rhododendron yedoense var. *hallaisanense*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 100-150 cm。葉は長さ 4-7 cm が大きく細長く、長楕円形。枝先の 1 つの花芽から、2-3 個の花が開く。花冠は紫の強い紅紫色、上側内面に濃色の斑点があり、中ほどまで 5 列し、径 4-5 cm。蒴果は狭卵形で長さ 6-8 mm。対馬産のものは変種タンナチョウセンヤマツツジとして区別されてきたが、ここではチョウセンヤマツツジと区別しない見解を採用する。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

岩地の低木林内に生育。

【分布域】

長崎県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュの現存個体数が計数十個体と報告された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チョウセンヤマツツジ	<i>Rhododendron yedoense</i> var. <i>poukhanense</i>	EN
第4次 2019:	チョウセンヤマツツジ	<i>Rhododendron yedoense</i> var. <i>poukhanense</i>	EN
第4次 2018:	チョウセンヤマツツジ	<i>Rhododendron yedoense</i> var. <i>poukhanense</i>	EN
第4次 2017:	チョウセンヤマツツジ	<i>Rhododendron yedoense</i> var. <i>poukhanense</i>	EN
第4次 2015:	チョウセンヤマツツジ	<i>Rhododendron yedoense</i> var. <i>poukhanense</i>	EN
第4次:	チョウセンヤマツツジ	<i>Rhododendron yedoense</i> var. <i>poukhanense</i>	EN
第3次:	チョウセンヤマツツジ	<i>Rhododendron yedoense</i> var. <i>yedoense</i> f. <i>poukhanense</i>	EN
第2次:	チョウセンヤマツツジ	<i>Rhododendron yedoense</i> var. <i>pooukhanense</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室，2015．レッドデータブック 2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物— 8 植物Ⅰ（維管束植物）．646pp．ぎょうせい，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhododendron yedoense var. *hallaisanense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhododendron yedoense* var. *hallaisanense* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae クロタキカズラ科 Icacinaceae

クサミズキ

Nothapodytes nimmonianus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ約 5-15 m。葉柄は長さ 1.5-5 cm、はじめだけ毛がある。葉身は長さ 10-20 cm、倒卵状楕円形ないし長楕円形、洋紙質、側脈は 4-8 対ある。花は多数つく。花弁は長楕円形～線形、反り返り、白色。核果は長さ約 1-2 cm、楕円形。

【生活史】

常緑小高木。

【生育環境】

二次林に生育。

【分布域】

琉球（西表島・石垣島）、台湾・ルソン島北部・スマトラ島北部・インドシナ半島・スリランカ・インドに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番 目	2 番 目	3 番 目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クサミズキ	<i>Nothapodytes nimmonianus</i>	EN
第4次 2019:	クサミズキ	<i>Nothapodytes nimmonianus</i>	EN
第4次 2018:	クサミズキ	<i>Nothapodytes nimmonianus</i>	EN
第4次 2017:	クサミズキ	<i>Nothapodytes nimmonianus</i>	EN
第4次 2015:	クサミズキ	<i>Nothapodytes nimmonianus</i>	EN
第4次:	クサミズキ	<i>Nothapodytes nimmonianus</i>	EN
第3次:	クサミズキ	<i>Nothapodytes nimmoniana</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Nothapodytes nimmonianus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Nothapodytes nimmonianus* is listed as EN under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒジハリノキ

Benkara sinensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1–4 m。側枝が出ていない葉腋に、側枝の変形した鋭い棘がある。葉身は長さ 3–10 cm、長楕円形～楕円形。花は枝先の短い集散花序に多数つく。花冠は長さ 15–20 mm、先は 5 裂し、白色。

【生活史】

直立またはややつる状の常緑低木。花期は 4–5 月。

【生育環境】

石灰岩地の低地林内に生育。

【分布域】

石垣島・与那国島、台湾・中国南部・ベトナムに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュの現存個体数が計数十個体と報告された。自生地 of 1 ヶ所は空港建設で消失が確実視されている。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒジハリノキ	<i>Randia sinensis</i>	EN
第4次 2019:	ヒジハリノキ	<i>Randia sinensis</i>	EN
第4次 2018:	ヒジハリノキ	<i>Randia sinensis</i>	EN
第4次 2017:	ヒジハリノキ	<i>Randia sinensis</i>	EN
第4次 2015:	ヒジハリノキ	<i>Randia sinensis</i>	EN
第4次:	ヒジハリノキ	<i>Randia sinensis</i>	EN
第3次:	ヒジハリノキ	<i>Randia sinensis</i>	EN
第2次:	ヒジハリノキ	<i>Randia sinensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Benkara sinensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Benkara sinensis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae アカネ科 Rubiaceae

コバンムグラ

Exallage chrysotricha

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

全草に著しく帯黄色の軟毛がある。葉は長楕円形～卵形、時に楕円形、側脈は 3 対、全草は乾燥標本にすると黄緑色になる。花は少数個が葉腋につき、小梗がある。花冠は青色、漏斗形。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山野の路傍に生育。

【分布域】

四国・九州、中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	帰化競合	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コバンムグラ	<i>Hedyotis chrysotricha</i>	EN
第4次 2019:	コバンムグラ	<i>Hedyotis chrysotricha</i>	EN
第4次 2018:	コバンムグラ	<i>Hedyotis chrysotricha</i>	EN
第4次 2017:	コバンムグラ	<i>Hedyotis chrysotricha</i>	EN
第4次 2015:	コバンムグラ	<i>Hedyotis chrysotricha</i>	EN
第4次:	コバンムグラ	<i>Hedyotis chrysotricha</i>	EN
第3次:	コバンムグラ	<i>Hedyotis chrysotricha</i>	EN
第2次:	コバンムグラ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 熊本県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫（編），1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類. 259pp., 224pls. 平凡社，東京.
- 熊本県希少野生動植物検討委員会，2019. レッドデータブックくまもと 2019 —熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物—. 熊本県環境生活部自然保護課，632pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Exallage chrysotricha has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Exallage chrysotricha is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Invasive species competition

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤツガタケムグラ

Galium triflorum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上し、長さ 20-40 cm。稜があり、稜上には下向きの棘がある。葉身は長さ 1-3 cm、6 輪生し、裏面の中脈に下向きのかぎ状毛がある。花序は葉と同長程度で、数個の緑白色の花をつける。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

深山の林中に生育。

【分布域】

本州中部の八ヶ岳・北海道・南千島、ヨーロッパ・アメリカの温帯北部～亜寒帯に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 6 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	5	0	0	0	0	6	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 森林伐採	道路工事	シカ食害
件数 4	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤツガタケムグラ	<i>Galium triflorum</i>	CR
第4次 2019:	ヤツガタケムグラ	<i>Galium triflorum</i>	CR
第4次 2018:	ヤツガタケムグラ	<i>Galium triflorum</i>	CR
第4次 2017:	ヤツガタケムグラ	<i>Galium triflorum</i>	CR
第4次 2015:	ヤツガタケムグラ	<i>Galium triflorum</i>	CR
第4次:	ヤツガタケムグラ	<i>Galium triflorum</i>	CR
第3次:	ヤツガタケムグラ	<i>Galium triflorum</i>	CR
第2次:	ヤツガタケムグラ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Galium triflorum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Galium triflorum* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Logging and wood harvesting, Road construction, Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

サンブクリンドウ

Comastoma pulmonarium subsp. *sectum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎はわずかに 4 稜があり、高さ 5-20 cm。茎葉は長楕円形または広披針形、先も基部も円く長さ 1-2 cm、柄はない。花は上部の葉腋に 1-20 個つく。花冠は淡紫色、長さ 1-1.7 cm、裂片は卵形鈍頭。萼片は長さ 4-5 mm で直立する。蒴果は柄がなく、花冠に包まれる。種子は円く表面は平滑。白花品もある。

【生活史】

越年草。花期は 8-9 月。

【生育環境】

高山帯の草地に生育する。

【分布域】

本州（八ヶ岳・南アルプス）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	
件数	1	

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サンブクリンドウ	<i>Comastoma pulmonarium</i> subsp. <i>sectum</i>	EN
第4次 2019:	サンブクリンドウ	<i>Comastoma pulmonarium</i> subsp. <i>sectum</i>	EN
第4次 2018:	サンブクリンドウ	<i>Comastoma pulmonarium</i> subsp. <i>sectum</i>	EN
第4次 2017:	サンブクリンドウ	<i>Comastoma pulmonarium</i> subsp. <i>sectum</i>	EN
第4次 2015:	サンブクリンドウ	<i>Comastoma pulmonarium</i> subsp. <i>sectum</i>	EN
第4次:	サンブクリンドウ	<i>Comastoma pulmonarium</i> subsp. <i>sectum</i>	EN
第3次:	サンブクリンドウ	<i>Comastoma pulmonarium</i> subsp. <i>sectum</i>	EN
第2次:	サンブクリンドウ	<i>Comastoma pulmonarium</i> ssp. <i>sectum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山梨県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)] 静岡県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 清水建美・木原浩・門田裕一，2014. 高山に咲く花 増補改訂新版（山溪ハンディ図鑑 8）. 512pp. 山と溪谷社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Comastoma pulmonarium subsp. *sectum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Comastoma pulmonarium* subsp. *sectum* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.	
Threat types:	Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コヒナリンドウ

*Gentiana laeviuscula***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヒナリンドウに似るが、丈が低く、根出葉は大型で長さ 5-15 mm、辺縁はほとんど平滑、花は小型で萼筒は花時に長さ 4-5 mm、裂片は卵形。

【生活史】

1 年草または越年草。花期は 6-9 月。

【生育環境】

高山帯の湿った草地に生える。

【分布域】

本州（日光・南アルプス・白山）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 道路工事	人の踏みつけ	自然遷移
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コヒナリンドウ	<i>Gentiana laeviuscula</i>	EN
第4次 2019:	コヒナリンドウ	<i>Gentiana laeviuscula</i>	EN
第4次 2018:	コヒナリンドウ	<i>Gentiana laeviuscula</i>	EN
第4次 2017:	コヒナリンドウ	<i>Gentiana laeviuscula</i>	EN
第4次 2015:	コヒナリンドウ	<i>Gentiana laeviuscula</i>	EN
第4次:	コヒナリンドウ	<i>Gentiana laeviuscula</i>	EN
第3次:	コヒナリンドウ	<i>Gentiana laeviuscula</i>	CR
第2次:	コヒナリンドウ	<i>Gentiana aquatica</i> var. <i>laeviuscula</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

栃木県[要注目] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gentiana laeviuscula has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Gentiana laeviuscula* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Road construction, Human trampling, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマリンドウ

*Gentiana yakushimensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

太い根茎から多数の茎が束生し、高さ 5-20 cm。葉は 4 個が密に輪生し、線状披針形で長さ 1-2 cm、質厚く、表面は濃緑色で光沢があり、中央脈はくぼみ、裏面は白色をおびる。花は茎頂に 1 個つく。萼は 6-8 裂し、裂片は線形。花冠は青紫色、長さ 3 cm 内外、6-8 裂して裂片は基部に黄緑色の斑点があり、副片は 2 深裂する。蒴果は花冠に包まれる。

【生活史】

多年草。花期は 8-9 月。

【生育環境】

高地の岩上に生育する。

【分布域】

屋久島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。園芸用の採取で減少している。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	2	0	—	2	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマリンドウ	<i>Gentiana yakushimensis</i>	EN
第4次 2019:	ヤクシマリンドウ	<i>Gentiana yakushimensis</i>	EN
第4次 2018:	ヤクシマリンドウ	<i>Gentiana yakushimensis</i>	EN
第4次 2017:	ヤクシマリンドウ	<i>Gentiana yakushimensis</i>	EN
第4次 2015:	ヤクシマリンドウ	<i>Gentiana yakushimensis</i>	EN
第4次:	ヤクシマリンドウ	<i>Gentiana yakushimensis</i>	EN
第3次:	ヤクシマリンドウ	<i>Gentiana yakushimensis</i>	EN
第2次:	ヤクシマリンドウ	<i>Gentiana yakushimensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gentiana yakushimensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Gentiana yakushimensis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20

years.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オノエリンドウ

Gentianella amarella subsp. *takedae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ユウバリリンドウに似るが、萼筒は長さ 4-6 mm、萼裂片は披針形で萼筒と同長、花は少数つき、花冠は長さ 20-25 mm、花冠裂片の内片は長さ 3-4 mm で中部まで細裂する。

【生活史】

越年草。花期は 8-9 月。

【生育環境】

高山帯の草地に生育する。

【分布域】

北海道（羊蹄山）・本州（北アルプス・南アルプス・八ヶ岳）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オノエリンドウ	<i>Gentianella amarella</i> subsp. <i>takedae</i>	EN
第4次 2019:	オノエリンドウ	<i>Gentianella amarella</i> subsp. <i>takedae</i>	EN
第4次 2018:	オノエリンドウ	<i>Gentianella amarella</i> subsp. <i>takedae</i>	EN
第4次 2017:	オノエリンドウ	<i>Gentianella amarella</i> subsp. <i>takedae</i>	EN
第4次 2015:	オノエリンドウ	<i>Gentianella amarella</i> subsp. <i>takedae</i>	EN
第4次:	オノエリンドウ	<i>Gentianella amarella</i> subsp. <i>takedae</i>	EN
第3次:	オノエリンドウ	<i>Gentianella amarella</i> subsp. <i>takedae</i>	EN
第2次:	オノエリンドウ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 富山県[絶滅危惧Ⅱ類] 長野県[準絶滅危惧(NT)] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gentianella amarella subsp. *takedae* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Gentianella amarella* subsp. *takedae* is listed as EN under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ユウバリリンドウ

Gentianella amarella subsp. *yuparensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

外観はチシマリンドウに似るが、萼筒は長さ 2-4 mm、萼裂片は線形、長さはふぞろいで 8-15 mm、基部が耳状にならず上端はしばしば反曲する。花冠は長さ 2.5-3 cm、淡赤紫色、裂片は筒部の 1/3 長で、喉部にある内片は基部まで細裂する。白花品もある。

【生活史】

越年草。花期は 8 月。

【生育環境】

山地～高山帯の礫地や草地に生育する。

【分布域】

北海道（夕張山地・大雪山系・ニペソツ山）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	産地局限	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ユウバリリンドウ	<i>Gentianella amarella</i> subsp. <i>yuparensis</i>	EN
第4次 2019:	ユウバリリンドウ	<i>Gentianella amarella</i> subsp. <i>yuparensis</i>	EN
第4次 2018:	ユウバリリンドウ	<i>Gentianella amarella</i> subsp. <i>yuparensis</i>	EN
第4次 2017:	ユウバリリンドウ	<i>Gentianella amarella</i> subsp. <i>yuparensis</i>	EN
第4次 2015:	ユウバリリンドウ	<i>Gentianella amarella</i> subsp. <i>yuparensis</i>	EN
第4次:	ユウバリリンドウ	<i>Gentianella amarella</i> subsp. <i>yuparensis</i>	EN
第3次:	ユウバリリンドウ	<i>Gentianella amarella</i> subsp. <i>yuparensis</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 清水建美・木原浩・門田裕一，2014. 高山に咲く花 増補改訂新版（山溪ハンディ図鑑 8）. 512pp. 山と溪谷社，東京.
- 梅沢俊，2018. 北海道の草花. 399pp. 北海道新聞社，札幌.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gentianella amarella subsp. *yuparensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Gentianella amarella* subsp. *yuparensis* is listed as EN under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

チチブ lindou

Gentianopsis contorta

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 8-15 cm、単一またはわずかに分枝し、円く狭い膜質の翼がある。茎葉は対生、卵状楕円形で長さ 10-15 mm、先は円く、基部はくさび形になり、なかば茎を抱く。花は 4 数性で柄は短い。萼は長さ 13-15 mm、萼裂片は内外片各 2 個、内片は三角形で先はしだいに尖り長さ約 5 mm、外片は内片とやや同長で幅ははるかに狭く、ともに背部は竜骨状。花冠は淡紫色、筒状で長さ 2 cm 内外、4 裂片は卵状楕円形で長さ約 5 mm、全縁、副片も内片もない。

【生活史】

1 年草または越年草。花期は 9-10 月。

【生育環境】

深山の石灰岩地に生育する。

【分布域】

本州（秩父山地・南アルプスの一部・伊吹山）、中国～ヒマラヤ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	2	0	0	0	3	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	シカ食害	石灰採掘

人の踏みつけ		
件数 2	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チチブリンドウ	<i>Gentianopsis contorta</i>	EN
第4次 2019:	チチブリンドウ	<i>Gentianopsis contorta</i>	EN
第4次 2018:	チチブリンドウ	<i>Gentianopsis contorta</i>	EN
第4次 2017:	チチブリンドウ	<i>Gentianopsis contorta</i>	EN
第4次 2015:	チチブリンドウ	<i>Gentianopsis contorta</i>	EN
第4次:	チチブリンドウ	<i>Gentianopsis contorta</i>	EN
第3次:	チチブリンドウ	<i>Gentianopsis contorta</i>	EN
第2次:	チチブリンドウ	<i>Gentianopsis contorta</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(本土部)[本土部:絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 滋賀県[絶滅危惧種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gentianopsis contorta has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Gentianopsis contorta* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.	
Threat types:	Human trampling, Deer feeding damage, Limestone mining
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アカシリンドウ

Gentianopsis yabei var. *akaisiensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は高さ 4-30 cm、上方で多少分枝し、特に節の下の部分は紫色をおびる。茎葉は 2-6 対、中部のものは卵状披針形または楕円形、長さ 1-3.8 cm、無柄、基部はやや茎を抱く。花は茎頂および上部の葉腋につき、花柄は直立し長さ 2-12 cm。花冠は長さ 17-25 mm、花筒内面の基部に 4 個の球形腺体がある。花冠裂片は平たくなり、青紫色または淡紫色。種子は楕円体で長さ 0.6-0.8 mm、褐色で小鱗片状の小刺がある。

【生活史】

1 年草または越年草、花期は 8-9 月。

【生育環境】

亜高山帯～高山帯の砂礫地に生育する。

【分布域】

本州（日光・南アルプス）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	

件数		
1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アカイシリンドウ	<i>Gentianopsis yabei</i> var. <i>akaisiensis</i>	EN
第4次 2019:	アカイシリンドウ	<i>Gentianopsis yabei</i> var. <i>akaisiensis</i>	EN
第4次 2018:	アカイシリンドウ	<i>Gentianopsis yabei</i> var. <i>akaisiensis</i>	EN
第4次 2017:	アカイシリンドウ	<i>Gentianopsis yabei</i> var. <i>akaisiensis</i>	EN
第4次 2015:	アカイシリンドウ	<i>Gentianopsis yabei</i> var. <i>akaisiensis</i>	EN
第4次:	アカイシリンドウ	<i>Gentianopsis yabei</i> var. <i>akaisiensis</i>	EN
第3次:	アカイシリンドウ	<i>Gentianopsis yabei</i> var. <i>akaisiensis</i>	EN
第2次:	アカイシリンドウ	<i>Gentianopsis furusei</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

栃木県[準絶滅危惧(Cランク)] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR)] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gentianopsis yabei var. *akaisiensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Gentianopsis yabei* var. *akaisiensis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメセンブリ

*Lomatogonium carinthiacum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 2-10 cm。茎葉は卵形または長楕円形で長さ 10-15 mm。花は茎頂に 1-数個つく。萼は 4-5 深裂し、裂片は楕円形～長楕円形など不同、長さ 4-7 mm。花冠も 4-5 深裂し、裂片は長楕円形で長さ約 10 mm、淡紫青色で赤黄色の脈があり、基部にある 2 個の蜜腺溝は縁が細裂する 2 個の小片でかこまれる。柱頭は子房の両側に沿下する。種子は紡錘状または長楕円形で表面は平滑。

【生活史】

1 年草または越年草。花は 8-9 月。

【生育環境】

高山帯の草地に生育する。

【分布域】

本州（南アルプス・八ヶ岳）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。数十個体が現存していた。山道沿いに生育し、人の踏みつけ、シカ食害によって減少した。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	1	0	0	—	2	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメセンブリ	<i>Lomatogonium carinthiacum</i>	EN
第4次 2019:	ヒメセンブリ	<i>Lomatogonium carinthiacum</i>	EN
第4次 2018:	ヒメセンブリ	<i>Lomatogonium carinthiacum</i>	EN
第4次 2017:	ヒメセンブリ	<i>Lomatogonium carinthiacum</i>	EN
第4次 2015:	ヒメセンブリ	<i>Lomatogonium carinthiacum</i>	EN
第4次:	ヒメセンブリ	<i>Lomatogonium carinthiacum</i>	EN
第3次:	ヒメセンブリ	<i>Lomatogonium carinthiacum</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山梨県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)] 静岡県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lomatogonium carinthiacum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lomatogonium carinthiacum* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20

years.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハナヤマツルリンドウ

Tripterospermum distylum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ツルリンドウに似るが、花冠が鐘状で長さ 3-3.5 cm、花筒がより広く聞き、裂片の紫色が濃く、果実は花冠に包まれた蒴果で、種は円盤状で広い翼がある点で区別される。

【生活史】

つる性の多年草。花期は 9-10 月。冬はロゼットで越冬する。

【生育環境】

高地の林縁などに生育する。

【分布域】

屋久島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	2	0	—	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハナヤマツルリンドウ	<i>Tripterospermum distylum</i>	EN
第4次 2019:	ハナヤマツルリンドウ	<i>Tripterospermum distylum</i>	EN
第4次 2018:	ハナヤマツルリンドウ	<i>Tripterospermum distylum</i>	EN
第4次 2017:	ハナヤマツルリンドウ	<i>Tripterospermum distylum</i>	EN
第4次 2015:	ハナヤマツルリンドウ	<i>Tripterospermum distylum</i>	EN
第4次:	ハナヤマツルリンドウ	<i>Tripterospermum distylum</i>	EN
第3次:	ハナヤマツルリンドウ	<i>Tripterospermum distylum</i>	EN
第2次:	ハナヤマツルリンドウ	—	NT
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- Murata, J. and T. Yahara, 1987. *Tripterospermum distylum* J. MURATA et YAHARA (Gentianaceae), a new species from Yakushima Island, Japan. Acta Phytotaxonomica et Geobotanica, 36: 162-166.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Tripterospermum distylum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Tripterospermum distylum* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20

years.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae キョウチクトウ科 Apocynaceae

ゴムカズラ

Urceola micrantha

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

小枝は褐色、灰白色の皮目が著しい。花序は枝に頂生、まばらに小花をつける。花冠は径約 2.5 mm、5 中裂し、黄白色。袋果は線状円柱形、2 個が対になり開出する。

【生活史】

常緑藤本。

【生育環境】

山地の林内に生育。

【分布域】

石垣島・西表島、台湾・中国・東南アジア～南アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。250 個体未満と推定されることから、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
4	0	0	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ゴムカズラ	<i>Urceola micrantha</i>	CR
第4次 2019:	ゴムカズラ	<i>Urceola micrantha</i>	CR
第4次 2018:	ゴムカズラ	<i>Urceola micrantha</i>	CR
第4次 2017:	ゴムカズラ	<i>Urceola micrantha</i>	CR
第4次 2015:	ゴムカズラ	<i>Urceola micrantha</i>	CR
第4次:	ゴムカズラ	<i>Urceola micrantha</i>	CR
第3次:	ゴムカズラ	<i>Urceola micrantha</i>	CR
第2次:	ゴムカズラ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Urceola micrantha has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Urceola micrantha* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナンゴクカモメヅル

*Vincetoxicum austrokiusianum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎はつる状、長く伸びる。葉身は長さ 3-9 cm、三角状卵形。花序はふつう短い総花柄があり、小花柄は細く 6-12 mm。花は白色、やや大きく、花冠裂片は長さ 7-8 mm。袋果は長さ 5-6 cm、広披針形。

【生活史】

つる性多年草。

【生育環境】

山野の草地に生育。

【分布域】

九州南部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 10 メッシュで計数百個体の現存が推定された。道路工事や自然遷移、自生地のスギ林の伐採などにより絶滅するおそれがあるとされた。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
8	1	1	0	0	0	10	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナンゴクカモメヅル	<i>Vincetoxicum austrokiusianum</i>	EN
第4次 2019:	ナンゴクカモメヅル	<i>Vincetoxicum austrokiusianum</i>	EN
第4次 2018:	ナンゴクカモメヅル	<i>Vincetoxicum austrokiusianum</i>	EN
第4次 2017:	ナンゴクカモメヅル	<i>Vincetoxicum austrokiusianum</i>	EN
第4次 2015:	ナンゴクカモメヅル	<i>Vincetoxicum austrokiusianum</i>	EN
第4次:	ナンゴクカモメヅル	<i>Vincetoxicum austrokiusianum</i>	EN
第3次:	ナンゴクカモメヅル	<i>Vincetoxicum austrokiusianum</i>	EN
第2次:	ナンゴクカモメヅル	<i>Cynanchum austrokiusianum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Vincetoxicum austrokiusianum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Vincetoxicum austrokiusianum* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イズカモメヅル

Vincetoxicum izuense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長さ 0.5-1 m。葉身は長さ 2-5 cm、楕円～長楕円形または長楕円状卵形、下面には密に毛が生える。花は径 12 mm、暗紫色。袋果は約 5 cm、紡錘形、無毛。

【生活史】

つる性多年草。

【生育環境】

海岸の岩場や海岸林の林縁に生育。

【分布域】

伊豆半島南部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。250 個体未満と推定されることから、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イズカモメヅル	<i>Vincetoxicum izuense</i>	VU
第4次 2019:	イズカモメヅル	<i>Vincetoxicum izuense</i>	VU
第4次 2018:	イズカモメヅル	<i>Vincetoxicum izuense</i>	VU
第4次 2017:	イズカモメヅル	<i>Vincetoxicum izuense</i>	VU
第4次 2015:	イズカモメヅル	<i>Vincetoxicum izuense</i>	VU
第4次:	イズカモメヅル	<i>Vincetoxicum izuense</i>	VU
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Vincetoxicum izuense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Vincetoxicum izuense is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメイヨカズラ

*Vincetoxicum matsumurae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ツルモウリンカに似るが、自殖し、高さ 10-40 cm。葉身は長さ 1.4-4 cm、有毛、楕円形。花は葉腋に数個つく。袋果は長さ 3.5-4.5 cm、有毛。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸の石灰岩地の岩上の草地に生育。

【分布域】

琉球（沖永良部島・与論島・沖縄島・野甫島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 6 メッシュで計数百個体の現存が推定された。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	2	1	1	0	0	6	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメイヨカズラ	<i>Vincetoxicum matsumurae</i>	EN
第4次 2019:	ヒメイヨカズラ	<i>Vincetoxicum matsumurae</i>	EN
第4次 2018:	ヒメイヨカズラ	<i>Vincetoxicum matsumurae</i>	EN
第4次 2017:	ヒメイヨカズラ	<i>Vincetoxicum matsumurae</i>	EN
第4次 2015:	ヒメイヨカズラ	<i>Vincetoxicum matsumurae</i>	EN
第4次:	ヒメイヨカズラ	<i>Vincetoxicum matsumurae</i>	EN
第3次:	ヒメイヨカズラ	<i>Vincetoxicum matsumurae</i>	EN
第2次:	ヒメイヨカズラ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Vincetoxicum matsumurae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Vincetoxicum matsumurae is listed as EN under criteria ACD.
The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムラサキ

Lithospermum erythrorhizon

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 C

推定開花株数 2500 個体未満かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は高さ 40-70 cm になる。根は太く、色素のシコニンを含み、乾くと濃紫色になる。葉は無柄で粗い毛があり、長さ 3-7 cm、幅 7-20 mm、数対のやや平行する側脈が上面に凹んで目立つ。花は白色で径約 4 mm、喉部には黄色みを帯びた突起がある。分果は 1-2 個が熟し、長さ約 2 mm、灰白色で光沢がある。セイヨウムラサキ *Lithospermum officinale* L. はヨーロッパ～西アジアにかけて生育するムラサキに酷似した多年草で、国内でもごくまれに野生化するが、根はあまり紫色の色素を含まず、茎や葉の毛は開出しない点で区別される。

【生活史】

多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

丘陵の乾いた草地に生える。

【分布域】

北海道～九州、朝鮮半島・中国・ウスリー・アムール。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 8 メッシュで絶滅し、14 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 C により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
4	5	4	1	0	0	14	8	9

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因 自然遷移	園芸採取	管理放棄
件数 12	8	4

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムラサキ	<i>Lithospermum erythrorhizon</i>	EN
第4次 2019:	ムラサキ	<i>Lithospermum erythrorhizon</i>	EN
第4次 2018:	ムラサキ	<i>Lithospermum erythrorhizon</i>	EN
第4次 2017:	ムラサキ	<i>Lithospermum erythrorhizon</i>	EN
第4次 2015:	ムラサキ	<i>Lithospermum erythrorhizon</i>	EN
第4次:	ムラサキ	<i>Lithospermum erythrorhizon</i>	EN
第3次:	ムラサキ	<i>Lithospermum erythrorhizon</i>	EN
第2次:	ムラサキ	<i>Lithospermum officinale</i> ssp. <i>erythrorhizon</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)] 青森県[最重要希少野生生物(Aランク)] 岩手県[Aランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 秋田県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 茨城県[絶滅危惧ⅠA類] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(Aランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 埼玉県[野生絶滅(EW)] 千葉県[消息不明・絶滅生物(X)] 東京都(本土部)[区部:絶滅(EX) 本土部:情報不足(DD)] 東京都(北多摩)[絶滅(EX)] 東京都(南多摩)[情報不足(DD)] 東京都(西多摩)[野生絶滅(EW)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 山梨県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 愛知県[絶滅(EX)] 三重県[絶滅(EX)] 滋賀県[要注目種] 京都府[絶滅種] 大阪府[EX] 兵庫県[Aランク] 奈良県[絶滅種] 和歌山県[絶滅(EX)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[留意] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅危惧ⅠB類] 長崎県[絶滅(EX)] 熊本県[絶滅(EX)] 大分県[情報不足(DD)] 宮崎県[絶滅(EX-g)] 鹿児島県[地域絶滅]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

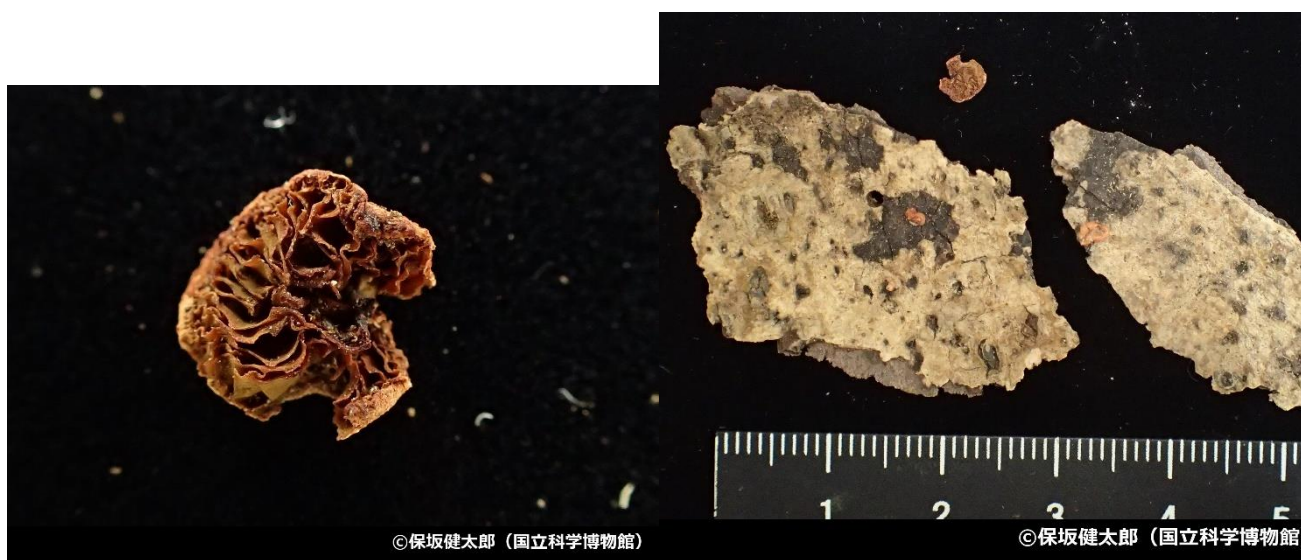
Lithospermum erythrorhizon has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Lithospermum erythrorhizon is listed as EN under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.

Threat types:	Natural succession, Collecting plants in gardening, Abandonment of management
Law designation status for conservation	—



執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツルカメバソウ

*Trigonotis iinumae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は高さ 7-20 cm。葉は互生、卵形、長さ 3-5 cm、幅 1.5-2.5 cm、鋭頭、基部はやや心形または円形、下部のものは長い柄がある。花序は 1 つで頂生、まばらに 7-10 花がつき、苞はない。花は白色に近い淡青色で径約 1 cm。茎は花時に斜上するが、花後に倒れ、花序直下の葉腋から長い匍枝を伸ばす。

【生活史】

多年草。花期は 5-6 月。

【生育環境】

山地に生える。

【分布域】

本州（中部地方・東北地方太平洋側）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツルカメバソウ	<i>Trigonotis iinumae</i>	EN
第4次 2019:	ツルカメバソウ	<i>Trigonotis iinumae</i>	EN
第4次 2018:	ツルカメバソウ	<i>Trigonotis iinumae</i>	EN
第4次 2017:	ツルカメバソウ	<i>Trigonotis iinumae</i>	EN
第4次 2015:	ツルカメバソウ	<i>Trigonotis iinumae</i>	EN
第4次:	ツルカメバソウ	<i>Trigonotis iinumae</i>	EN
第3次:	ツルカメバソウ	<i>Trigonotis icumae</i>	EN
第2次:	ツルカメバソウ	<i>Trigonotis icumae</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[B ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)]
群馬県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[準絶滅危惧(NT)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Trigonotis iinumae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Trigonotis iinumae* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

チョウセンカメバソウ

Trigonotis radicans var. *sericea*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は初め直立して高さ 10-15 cm になり、花後倒れる。葉は卵形、長さ 1.5-4 cm、下部のものは長い柄がある。基準変種のケルリソウとは、茎や葉柄の毛が開出せず、上向きに圧着する点で異なる。花序、花、果実の特徴はケルリソウと同じである。

【生活史】

多年草。花期は 5-6 月。

【生育環境】

山地の草原に生える。

【分布域】

九州（熊本県）、朝鮮半島・中国（東北部・北部）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。1 メッシュで現存が確認された。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	—	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チョウセンカメバソウ	<i>Trigonotis radicans</i> var. <i>sericea</i>	EN
第4次 2019:	チョウセンカメバソウ	<i>Trigonotis radicans</i> var. <i>sericea</i>	EN
第4次 2018:	チョウセンカメバソウ	<i>Trigonotis radicans</i> var. <i>sericea</i>	EN
第4次 2017:	チョウセンカメバソウ	<i>Trigonotis radicans</i> var. <i>sericea</i>	EN
第4次 2015:	チョウセンカメバソウ	<i>Trigonotis radicans</i> var. <i>sericea</i>	EN
第4次:	チョウセンカメバソウ	<i>Trigonotis radicans</i> var. <i>sericea</i>	EN
第3次:	チョウセンカメバソウ	<i>Trigonotis radicans</i> var. <i>sericea</i>	EN
第2次:	チョウセンカメバソウ	<i>Trigonotis nakaii</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Trigonotis radicans var. *sericea* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Trigonotis radicans* var. *sericea* is listed as EN under criteria ACD.
The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

マメダオシ

Cuscuta australis

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 E
20 年間の絶滅確率が 20%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎は糸状で寄主にからみつき、橙黄色を帯びる。花は黄白色、無柄で数個が束生し、花冠は鐘型で長さ約 2 mm。

【生活史】

つる性の寄生植物。

【生育環境】

日当りのよい草原や海岸に生育する。

【分布域】

北海道～琉球に分布。国外では、朝鮮半島、中国、東南アジア、オーストラリアに分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで絶滅し、2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	0	0	0	2	4	5

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 土地造成	池沼開発	不明
件数 3	2	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリと掲載名

第4次 2020:	マメダオシ	<i>Cuscuta australis</i>	CR
第4次 2019:	マメダオシ	<i>Cuscuta australis</i>	CR
第4次 2018:	マメダオシ	<i>Cuscuta australis</i>	CR
第4次 2017:	マメダオシ	<i>Cuscuta australis</i>	CR
第4次 2015:	マメダオシ	<i>Cuscuta australis</i>	CR
第4次:	マメダオシ	<i>Cuscuta australis</i>	CR
第3次:	マメダオシ	<i>Cuscuta australis</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[絶滅(EX)] 宮城県[絶滅(EX)] 秋田県[情報不足種(DD)] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福島県[絶滅(EX)] 栃木県[絶滅] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 千葉県[最重要保護生物(A)] 東京都(本土部)[区部:絶滅(EX) 本土部:絶滅(EX)] 神奈川県[絶滅(EX)] 富山県[絶滅+野生絶滅] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR)] 福井県[要注目] 山梨県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岐阜県[情報不足] 静岡県[要注目種(N-Ⅲ部会注目種)] 愛知県[絶滅(EX)] 三重県[CR] 滋賀県[要注目種] 大阪府[EX] 兵庫県[絶滅(EX)] 岡山県[情報不足] 広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[留意] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[絶滅(EX)] 高知県[絶滅(EX)] 熊本県[情報不足(DD)] 大分県[情報不足(DD)] 宮崎県[情報不足(DD-1)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cuscuta australis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cuscuta australis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.	
Threat types:	Land development, Pond development, Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハマネナシカズラ

Cuscuta chinensis

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 D
推定開花株数が 250 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

マメダオシに似るが、萼筒に肋が著しく隆起することから星形に見える。花冠がつぼ形で果実をほとんど包む。花筒内部の鱗片は楕円形、先は 2 裂しない。

【生活史】

つる性の寄生植物。

【生育環境】

海岸に生育する。

【分布域】

本州（神奈川県以西の太平洋側、瀬戸内海沿岸）、四国、九州（？）に分布。国外の分布はマメダオシとほぼ同じだが、より西方のインドまで広がる。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 海岸開発	自然遷移	帰化競合
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハマネナシカズラ	<i>Cuscuta chinensis</i>	VU
第4次 2019:	ハマネナシカズラ	<i>Cuscuta chinensis</i>	VU
第4次 2018:	ハマネナシカズラ	<i>Cuscuta chinensis</i>	VU
第4次 2017:	ハマネナシカズラ	<i>Cuscuta chinensis</i>	VU
第4次 2015:	ハマネナシカズラ	<i>Cuscuta chinensis</i>	VU
第4次:	ハマネナシカズラ	<i>Cuscuta chinensis</i>	VU
第3次:	ハマネナシカズラ	<i>Cuscuta chinensis</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[情報不足(DD)] 新潟県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 大阪府[EX] 岡山県[絶滅] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠB類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[情報不足(DD)] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 大分県[情報不足(DD)] 宮崎県[情報不足(DD-1)] 鹿児島県[情報不足] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cuscuta chinensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cuscuta chinensis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Coastal development, Natural succession, Invasive species competition

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ヒルガオ科 Convolvulaceae

マルバアサガオガラクサ

Evolvulus alsinoides var. *rotundifolius*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

アサガオガラクサに似るが、茎の節間が葉よりも短くて毛が多い。葉は卵円形で毛を密生する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸近くの原野や牧場に生育する。

【分布域】

与那国島に分布。国外では、台湾南部、フィリピンに分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では確実な現存情報が得られなかった。250 個体未満と推定され、基準 D により EN とされた。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	マルバアサガオガラクサ	<i>Evolvulus alsinoides</i> var. <i>rotundifolius</i>	EN
第4次 2019:	マルバアサガオガラクサ	<i>Evolvulus alsinoides</i> var. <i>rotundifolius</i>	EN
第4次 2018:	マルバアサガオガラクサ	<i>Evolvulus alsinoides</i> var. <i>rotundifolius</i>	EN
第4次 2017:	マルバアサガオガラクサ	<i>Evolvulus alsinoides</i> var. <i>rotundifolius</i>	EN
第4次 2015:	マルバアサガオガラクサ	<i>Evolvulus alsinoides</i> var. <i>rotundifolius</i>	EN
第4次:	マルバアサガオガラクサ	<i>Evolvulus alsinoides</i> var. <i>rotundifolius</i>	EN
第3次:	マルバアサガオガラクサ	<i>Evolvulus alsinoides</i> var. <i>rotundifolius</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Evolvulus alsinoides var. *rotundifolius* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Evolvulus alsinoides* var. *rotundifolius* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオバケアサガオ

Lepistemon binectariferum var. *trichocarpum*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は広卵形～卵円形、長さ 4–15 cm。花は花序柄の先に密につける。花冠は壺形で長さ 1–1.5 cm、淡黄色。

【生活史】

つる性の草本。

【生育環境】

低地の原野、耕作地、二次林の林縁部に生育する。

【分布域】

琉球（石垣島、西表島、与那国島）に分布。国外では、台湾（蘭嶼）、フィリピン～東部マレーシアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では減少率情報が得られなかったため、基準 D を用いて EN とされた。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオバケアサガオ	<i>Lepistemon binectariferum</i> var. <i>trichocarpum</i>	CR
第4次 2019:	オオバケアサガオ	<i>Lepistemon binectariferum</i> var. <i>trichocarpum</i>	CR
第4次 2018:	オオバケアサガオ	<i>Lepistemon binectariferum</i> var. <i>trichocarpum</i>	CR
第4次 2017:	オオバケアサガオ	<i>Lepistemon binectariferum</i> var. <i>trichocarpum</i>	CR
第4次 2015:	オオバケアサガオ	<i>Lepistemon binectariferum</i> var. <i>trichocarpum</i>	CR
第4次:	オオバケアサガオ	<i>Lepistemon binectariferum</i> var. <i>trichocarpum</i>	CR
第3次:	オオバケアサガオ	<i>Lepistemon obscurum</i>	CR
第2次:	オオバケアサガオ	<i>Lepistemon binectariferum</i> var. <i>trichocarpum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lepistemon binectariferum var. *trichocarpum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lepistemon binectariferum* var. *trichocarpum* is listed as EN under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ショウドシマレンギョウ

*Forsythia togashii***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1-2 m。葉はほぼ全縁で鋸歯は目立たないが、ときに粗い数個の鋸歯を持ち、濃緑色、若木では 3 裂することがある。2 年枝の皮目は目立たない。花は葉とともに開き、少し緑色を帯びた黄色。異型花柱性を持つ。

【生活史】

落葉小低木。花期は 4-5 月上旬。

【生育環境】

日当たりのよい乾燥した集塊岩地域に生育する。

【分布域】

香川県（小豆島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	1	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	
件数 2	2	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ショウドシマレンギョウ	<i>Forsythia togashii</i>	EN
第4次 2019:	ショウドシマレンギョウ	<i>Forsythia togashii</i>	EN
第4次 2018:	ショウドシマレンギョウ	<i>Forsythia togashii</i>	EN
第4次 2017:	ショウドシマレンギョウ	<i>Forsythia togashii</i>	EN
第4次 2015:	ショウドシマレンギョウ	<i>Forsythia togashii</i>	EN
第4次:	ショウドシマレンギョウ	<i>Forsythia togashii</i>	EN
第3次:	ショウドシマレンギョウ	<i>Forsythia togashii</i>	EN
第2次:	ショウドシマレンギョウ	<i>Forsythia togashii</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

香川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 特定非営利活動法人みんなでつくる自然史博物館・香川，2021. 香川県レッドデータブック 2021 香川県の希少野生生物. 香川県環境森林部みどり保全課，503pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Forsythia togashii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Forsythia togashii* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤナギバモクセイ

Osmanthus insularis var. *okinawensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 3–5 m になり、小枝に灰白色の皮目を散生する。葉は倒披針形～長楕円状倒披針形、硬い革質、長さ 5–7.5 cm、幅 1–2.5 cm。花は白色、葉腋に数個がまとまってつき、花冠は 4 裂。基準変種シマモクセイ（ナタオレノキ）var. *insularis* に比べ、葉が細長く、質厚く、葉脈は裏面に浮き出ない。

【生活史】

常緑小高木。花期は 10 月。

【生育環境】

山地の稜線部の風衝地や明るい林内に生える。

【分布域】

琉球（沖縄島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が確認された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤナギバモクセイ	<i>Osmanthus insularis</i> var. <i>okinawensis</i>	EN
第4次 2019:	ヤナギバモクセイ	<i>Osmanthus insularis</i> var. <i>okinawensis</i>	EN
第4次 2018:	ヤナギバモクセイ	<i>Osmanthus insularis</i> var. <i>okinawensis</i>	EN
第4次 2017:	ヤナギバモクセイ	<i>Osmanthus insularis</i> var. <i>okinawensis</i>	EN
第4次 2015:	ヤナギバモクセイ	<i>Osmanthus insularis</i> var. <i>okinawensis</i>	EN
第4次:	ヤナギバモクセイ	<i>Osmanthus insularis</i> var. <i>okinawensis</i>	EN
第3次:	ヤナギバモクセイ	<i>Osmanthus insularis</i> var. <i>okinawensis</i>	EN
第2次:	ヤナギバモクセイ	<i>Osmanthus okinawensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Osmanthus insularis var. *okinawensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Osmanthus insularis* var. *okinawensis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae モクセイ科 Oleaceae

オオモクセイ

Osmanthus rigidus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 3 m 程になる。全株無毛。小枝は灰白色でやや太く、まばらに皮目がある。葉は厚い革質、長楕円形、長さ 8-15 cm、幅 3-6 cm、急鋭頭で鈍端、細脈は明瞭、乾くと黄緑色になる。花は白色で径 6-7 mm。核果は長楕円形で長さ約 2 cm。

【生活史】

常緑低木。花期は 10 月。

【生育環境】

やや湿った山腹斜面に生える。

【分布域】

鹿児島県（屋久島～トカラ列島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 14 メッシュで計 250 個体未満と推定された。減少要因は森林伐採や道路工事とされた。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
11	2	1	0	0	0	14	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオモクセイ	<i>Osmanthus rigidus</i>	EN
第4次 2019:	オオモクセイ	<i>Osmanthus rigidus</i>	EN
第4次 2018:	オオモクセイ	<i>Osmanthus rigidus</i>	EN
第4次 2017:	オオモクセイ	<i>Osmanthus rigidus</i>	EN
第4次 2015:	オオモクセイ	<i>Osmanthus rigidus</i>	EN
第4次:	オオモクセイ	<i>Osmanthus rigidus</i>	EN
第3次:	オオモクセイ	<i>Osmanthus rigidus</i>	EN
第2次:	オオモクセイ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[準絶滅危惧]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Osmanthus rigidus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Osmanthus rigidus is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ユウバリソウ

*Lagotis takedana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 3-8 cm、卵形または楕円形、縁に波状の鈍鋸歯があり、肉質でつやがある。葉柄は長さ 2-6 cm。花は高さ 10-20 cm の花茎に多数つく。花冠は長さ 10 mm、白色、上唇は長さ 4.5 mm、長楕円形、下唇は長さ 4 mm、広線形～狭卵形でやや尖る。

【生活史】

多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

高山帯に生育。

【分布域】

北海道夕張岳に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	自然遷移	産地局限
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ユウバリソウ	<i>Lagotis takedana</i>	EN
第4次 2019:	ユウバリソウ	<i>Lagotis takedana</i>	EN
第4次 2018:	ユウバリソウ	<i>Lagotis takedana</i>	EN
第4次 2017:	ユウバリソウ	<i>Lagotis takedana</i>	EN
第4次 2015:	ユウバリソウ	<i>Lagotis takedana</i>	EN
第4次:	ユウバリソウ	<i>Lagotis takedana</i>	EN
第3次:	ユウバリソウ	<i>Lagotis takedana</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lagotis takedana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lagotis takedana* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—



©塩谷悠希（自然環境研究センター）

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホソバウルップソウ

*Lagotis yesoensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 5-11 cm、狭卵形または長楕円状狭卵形、縁に波状の鈍鋸歯があり、肉質でややつやがある。葉柄は長さ 3-8 cm。花は高さ 15-30 cm の花茎に多数つく。花冠は長さ 9 mm、青紫色、上唇は長さ 3 mm、長楕円形、下唇は長さ 5 mm、長楕円形で先は鈍い。花糸は長さ 1 mm。

【生活史】

多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

湿った砂礫地に生育。

【分布域】

北海道大雪山系に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	産地局限	
件数	1	

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホソバウルップソウ	<i>Lagotis yesoensis</i>	EN
第4次 2019:	ホソバウルップソウ	<i>Lagotis yesoensis</i>	EN
第4次 2018:	ホソバウルップソウ	<i>Lagotis yesoensis</i>	EN
第4次 2017:	ホソバウルップソウ	<i>Lagotis yesoensis</i>	EN
第4次 2015:	ホソバウルップソウ	<i>Lagotis yesoensis</i>	EN
第4次:	ホソバウルップソウ	<i>Lagotis yesoensis</i>	EN
第3次:	ホソバウルップソウ	<i>Lagotis yesoensis</i>	EN
第2次:	ホソバウルップソウ	<i>Lagotis yesoensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lagotis yesoensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lagotis yesoensis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Limited distribution

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エナシソクサ

Limnophila fragrans

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は匍匐して斜上し、長さ 20-40 cm。葉柄はない。葉身は長さ 1-3 cm、卵状長楕円形、縁に細かい鋸歯がある。花は葉腋に単生し、無柄。花冠は白色で紫紅色を帯び、筒状で先は唇形。

【生活史】

多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

湿地に生育。

【分布域】

琉球（石垣島・西表島）、台湾・フィリピン・インドネシア・ミクロネシア・ポリネシア・ニューギニア・オーストラリア北部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エナシシソクサ	<i>Limnophila fragrans</i>	EN
第4次 2019:	エナシシソクサ	<i>Limnophila fragrans</i>	EN
第4次 2018:	エナシシソクサ	<i>Limnophila fragrans</i>	EN
第4次 2017:	エナシシソクサ	<i>Limnophila fragrans</i>	EN
第4次 2015:	エナシシソクサ	<i>Limnophila fragrans</i>	EN
第4次:	エナシシソクサ	<i>Limnophila fragrans</i>	EN
第3次:	エナシシソクサ	<i>Limnophila fragrans</i>	EN
第2次:	エナシシソクサ	<i>Limnophila fragrans</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Limnophila fragrans has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Limnophila fragrans* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒシモドキ

Trapella sinensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は細長く伸びて水中を漂い、節から根と葉を出す。水中葉は細く披針形。浮葉は長さ 1.5–3.5 cm、三角状円形～腎円形。葉腋から 2 cm ほどの花柄を伸ばす。花は淡紅色。花冠は長さ 2–2.5 cm、筒状、先は 5 裂し、裂片は円い。

【生活史】

一年草。

【生育環境】

池や沼に生育。

【分布域】

本州・四国・九州、朝鮮半島・中国・極東ロシアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで絶滅し、3 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	1	0	0	0	3	5	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 水質汚濁	池沼開発	土地造成
件数 5	3	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒシモドキ	<i>Trapella sinensis</i>	EN
第4次 2019:	ヒシモドキ	<i>Trapella sinensis</i>	EN
第4次 2018:	ヒシモドキ	<i>Trapella sinensis</i>	EN
第4次 2017:	ヒシモドキ	<i>Trapella sinensis</i>	EN
第4次 2015:	ヒシモドキ	<i>Trapella sinensis</i>	EN
第4次:	ヒシモドキ	<i>Trapella sinensis</i>	EN
第3次:	ヒシモドキ	<i>Trapella sinensis</i>	EN
第2次:	ヒシモドキ	<i>Trapella sinensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 宮城県[絶滅(EX)] 秋田県[CR] 山形県[絶滅危惧 I A 類 (C R)] 茨城県[情報不足①注目種] 栃木県[絶滅] 群馬県[絶滅(EX)] 千葉県[野生絶滅生物(EW)] 東京都(本土部)[区部:絶滅(EX) 本土部:絶滅(EX)] 新潟県[絶滅危惧 I 類 (EN)] 富山県[絶滅+野生絶滅] 石川県[絶滅(EX)] 福井県[県域絶滅] 愛知県[絶滅(EX)] 三重県[絶滅(EX)] 滋賀県[要注目種] 京都府[絶滅寸前種] 兵庫県[A ランク] 岡山県[絶滅危惧 I 類] 徳島県[絶滅(EX)] 福岡県[絶滅危惧 I A 類] 佐賀県[準絶滅危惧種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Trapella sinensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Trapella sinensis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Water pollution, Pond development, Land development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホソバヒメトラノオ

Veronica linariifolia var. *linariifolia*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 30-70 cm。茎は無毛または短い毛が散生する。葉は下部で対生し上部で互生。葉身は長さ 2-6 cm、線状披針形または広披針形、尖った鋸歯を持ち、基部は狭まってほぼ無柄。花は総状花序に密につく。花冠は長さ約 5 mm、青紫色。

【生活史】

多年草。花期は 8-10 月。

【生育環境】

山地の草地に生育。

【分布域】

本州（和歌山県・大阪府）・四国（高知県）・九州、朝鮮半島・台湾・中国・モンゴル・ロシア（極東ロシア・東シベリア）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 6 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	6	0	0	0	0	6	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	管理放棄	草地開発
件数	6	4

7		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホソバヒメトラノオ	<i>Veronica linariifolia</i>	EN
第4次 2019:	ホソバヒメトラノオ	<i>Veronica linariifolia</i>	EN
第4次 2018:	ホソバヒメトラノオ	<i>Veronica linariifolia</i>	EN
第4次 2017:	ホソバヒメトラノオ	<i>Veronica linariifolia</i>	EN
第4次 2015:	ホソバヒメトラノオ	<i>Veronica linariifolia</i>	EN
第4次:	ホソバヒメトラノオ	<i>Veronica linariifolia</i>	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

大阪府[EX] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅] 熊本県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 大分県[情報不足(DD)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Veronica linariifolia var. *linariifolia* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Veronica linariifolia* var. *linariifolia* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Abandonment of management, Grassland development

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イスミスズカケ

*Veronicastrum noguchii***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

スズカケソウに似るが、茎に反曲する軟毛があり、葉身の基部は心形か切形、縁に鋭鋸歯がある。雄蕊は 2 個、花外へ長くとび出すが、雌蕊よりやや短い。

【生活史】

多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

常緑樹林下の川岸斜面に生育。

【分布域】

千葉県（いすみ市）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
産地局限		
件数		
1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イスミスズカケ	<i>Veronicastrum</i> sp.	EN
第4次 2019:	イスミスズカケ	<i>Veronicastrum</i> sp.	EN
第4次 2018:	イスミスズカケ	<i>Veronicastrum</i> sp.	EN
第4次 2017:	イスミスズカケ	<i>Veronicastrum</i> sp.	EN
第4次 2015:	イスミスズカケ	<i>Veronicastrum</i> sp.	EN
第4次:	イスミスズカケ	<i>Veronicastrum</i> sp.	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

千葉県[最重要保護生物(A)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Veronicastrum noguchii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Veronicastrum noguchii* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Limited distribution
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ゴマノハグサ科 Scrophulariaceae

ツシマヒナノウスツボ

Scrophularia kakudensis var. *toyamae*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

オオヒナノウスツボの典型亜種に比べ、萼裂片が細長く、鋭尖頭である点で区別される。

【生活史】

花期は 7 月下旬から 8 月上旬。

【生育環境】

山地の林縁に生育。

【分布域】

長崎県対馬に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

ツシマジカの採食によって減少し、ほとんど発見できない状態に至っている。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 文献なし

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Scrophularia kakudensis var. *toyamae* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Scrophularia kakudensis* var. *toyamae* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae シソ科 Lamiaceae/Labiatae

タカクマムラサキ

Callicarpa longissima

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1-8 m。葉身は長さ 10-20 cm、長楕円状披針形、両端が尖り鋸歯は不明瞭、両面に腺点が密生する。花冠は径約 1 mm、淡紅紫色。果実は径 2-2.5 mm、球形、白色に熟す。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

湿潤な谷筋に生育。

【分布域】

宮崎県西部・鹿児島県（高隈山・種子島）、台湾・中国（中南部）・ベトナムに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかった。1 メッシュで数個体の現存が推定される。自然遷移により減少している。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	—	1	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タカクマムラサキ	<i>Callicarpa longissima</i>	CR
第4次 2019:	タカクマムラサキ	<i>Callicarpa longissima</i>	CR
第4次 2018:	タカクマムラサキ	<i>Callicarpa longissima</i>	CR
第4次 2017:	タカクマムラサキ	<i>Callicarpa longissima</i>	CR
第4次 2015:	タカクマムラサキ	<i>Callicarpa longissima</i>	CR
第4次:	タカクマムラサキ	<i>Callicarpa longissima</i>	CR
第3次:	タカクマムラサキ	<i>Callicarpa longissima</i>	CR
第2次:	タカクマムラサキ	<i>Callicarpa longissima</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Callicarpa longissima has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Callicarpa longissima* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ウラジロコムラサキ

*Callicarpa parvifolia***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1 m。葉身は長さ 2–4.5 cm、倒卵形～やや円形、裏面は灰褐色の絨毛がある。集散花序は径 2 cm ほど。花は外面は白色、内面は淡紅色。花冠は径約 4 mm、4 裂する。果実は球形、紅紫色に熟す。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

尾根筋の乾いた岩地に生育。

【分布域】

小笠原諸島（父島・兄島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。平均減少率は 71%であった。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウラジロコムラサキ	<i>Callicarpa parvifolia</i>	EN
第4次 2019:	ウラジロコムラサキ	<i>Callicarpa parvifolia</i>	EN
第4次 2018:	ウラジロコムラサキ	<i>Callicarpa parvifolia</i>	EN
第4次 2017:	ウラジロコムラサキ	<i>Callicarpa parvifolia</i>	EN
第4次 2015:	ウラジロコムラサキ	<i>Callicarpa parvifolia</i>	EN
第4次:	ウラジロコムラサキ	<i>Callicarpa parvifolia</i>	EN
第3次:	ウラジロコムラサキ	<i>Callicarpa parvifolia</i>	CR
第2次:	ウラジロコムラサキ	<i>Callicarpa nishimurae</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種、保護増殖事業対象種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Callicarpa parvifolia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Callicarpa parvifolia* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Other
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora. Conservation and reproduction programs.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae シソ科 Lamiaceae/Labiatae

オオヒメキセワタ

Matsumurella chinensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 20-35 cm、葉身は狭卵形～長楕円状卵形、長さ 3.5-10 cm、鋸歯は 11-14 対、花冠は長さ 1.8-2.2 cm。

【生活史】

多年草。10 月中旬に地下茎から芽を出し、葉をつけた状態で冬を越す。花期は 3 月下旬-5 月初旬。5 月中旬ごろには結実し、夏は地上部が枯れる。

【生育環境】

林縁部に生育。

【分布域】

五島列島・対馬、中国南東部・台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

詳細については不明。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 文献なし

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Matsumurella chinensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Matsumurella chinensis is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アマミタムラソウ

Salvia pygmaea var. *simplicior***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヒメタムラソウに似るが、小葉の基部は心形になり、側小葉は卵円形、長さとお幅がほぼ等しい。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山中の路傍に生育。

【分布域】

奄美大島・徳之島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 道路工事	人の踏みつけ	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アマミタムラソウ	<i>Salvia pygmaea</i> var. <i>simplicior</i>	EN
第4次 2019:	アマミタムラソウ	<i>Salvia pygmaea</i> var. <i>simplicior</i>	EN
第4次 2018:	アマミタムラソウ	<i>Salvia pygmaea</i> var. <i>simplicior</i>	EN
第4次 2017:	アマミタムラソウ	<i>Salvia pygmaea</i> var. <i>simplicior</i>	EN
第4次 2015:	アマミタムラソウ	<i>Salvia pygmaea</i> var. <i>simplicior</i>	EN
第4次:	アマミタムラソウ	<i>Salvia pygmaea</i> var. <i>simplicior</i>	EN
第3次:	アマミタムラソウ	<i>Salvia pygmaea</i> var. <i>simplicior</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Salvia pygmaea var. *simplicior* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Salvia pygmaea* var. *simplicior* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Road construction, Human trampling

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae シソ科 Lamiaceae/Labiatae

ムニンタツナミソウ

Scutellaria longituba

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 40-80 cm。葉身は長さ 4-9 mm、広卵形、縁に浅い円鋸歯がある。花穂は長さ 5-15 cm。花筒は長さ 4.5-5.5 cm、白色、上唇はかすかに紅紫色を帯びる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

乾燥低木林の林縁に生育。

【分布域】

小笠原諸島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムニンタツナミソウ	<i>Scutellaria longituba</i>	EN
第4次 2019:	ムニンタツナミソウ	<i>Scutellaria longituba</i>	EN
第4次 2018:	ムニンタツナミソウ	<i>Scutellaria longituba</i>	EN
第4次 2017:	ムニンタツナミソウ	<i>Scutellaria longituba</i>	EN
第4次 2015:	ムニンタツナミソウ	<i>Scutellaria longituba</i>	EN
第4次:	ムニンタツナミソウ	<i>Scutellaria longituba</i>	EN
第3次:	ムニンタツナミソウ	<i>Scutellaria longituba</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Scutellaria longituba has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Scutellaria longituba* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ケミヤマナミキ

Scutellaria shikokiana var. *pubicaulis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミヤマナミキに似るが、茎や葉柄に上向きに曲がった毛が多い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の木陰に生育。

【分布域】

四国・九州に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	0	1	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	シカ食害	園芸採取
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ケミヤマナミキ	<i>Scutellaria shikokiana</i> var. <i>pubicaulis</i>	EN
第4次 2019:	ケミヤマナミキ	<i>Scutellaria shikokiana</i> var. <i>pubicaulis</i>	EN
第4次 2018:	ケミヤマナミキ	<i>Scutellaria shikokiana</i> var. <i>pubicaulis</i>	EN
第4次 2017:	ケミヤマナミキ	<i>Scutellaria shikokiana</i> var. <i>pubicaulis</i>	EN
第4次 2015:	ケミヤマナミキ	<i>Scutellaria shikokiana</i> var. <i>pubicaulis</i>	EN
第4次:	ケミヤマナミキ	<i>Scutellaria shikokiana</i> var. <i>pubicaulis</i>	EN
第3次:	ケミヤマナミキ	<i>Scutellaria shikokiana</i> var. <i>pubicaulis</i>	EN
第2次:	ケミヤマナミキ	<i>Scutellaria shikokiana</i> var. <i>pubicaulis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 香川県[準絶滅危惧(NT)] 愛媛県[準絶滅危惧(NT)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Scutellaria shikokiana var. *pubicaulis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Scutellaria shikokiana* var. *pubicaulis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Natural succession, Deer feeding damage, Collecting plants in gardening

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エゾニガクサ

Teucrium veronicoides var. *veronicoides*

カテゴリー	判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 E
20 年間の絶滅確率が 20%以上。			
評価分科会： 維管束植物分科会			

基礎情報

【形態】

高さ 15–30 cm。葉身は長さ 2.5–4 cm、卵形～広卵形。花穂は長さ 4–11 cm、一方に偏って、まばらに花をつける。花冠は長さ 8 mm、淡紅色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の草原に生育。

【分布域】

北海道・本州（関東地方・長野県以北・山口県）・九州（北部）、朝鮮半島・中国（東北部・中部）・ウスリー南部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	2	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	管理放棄	
件数 3	2	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾニガクサ	<i>Teucrium veronicoides</i> var. <i>veronicoides</i>	EN
第4次 2019:	エゾニガクサ	<i>Teucrium veronicoides</i> var. <i>veronicoides</i>	EN
第4次 2018:	エゾニガクサ	<i>Teucrium veronicoides</i> var. <i>veronicoides</i>	EN
第4次 2017:	エゾニガクサ	<i>Teucrium veronicoides</i> var. <i>veronicoides</i>	EN
第4次 2015:	エゾニガクサ	<i>Teucrium veronicoides</i> var. <i>veronicoides</i>	EN
第4次:	エゾニガクサ	<i>Teucrium veronicoides</i> var. <i>veronicoides</i>	EN
第3次:	エゾニガクサ	<i>Teucrium veronicoides</i>	CR
第2次:	エゾニガクサ	<i>Teucrium veronicoides</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 茨城県[情報不足②現状不明種] 長野県[情報不足(DD)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 佐賀県[絶滅種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Teucrium veronicoides var. *veronicoides* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Teucrium veronicoides* var. *veronicoides* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Natural succession, Abandonment of management

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメサギゴケ

Mazus goodenifolius

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立し高さ 5-15 cm。葉は根際に密集し、倒卵状長楕円形で長さ 2-5 cm、深い欠刻状の鋸歯がある。総状花序にまばらに花をつける。花冠は白色でやや紅紫色を帯びる。

【生活史】

越年草。

【生育環境】

山地の溪流付近の岩上などに生育する。

【分布域】

九州南部、琉球に分布。国外では台湾、ニューギニアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュで絶滅し、3 メッシュで計数百個体の現存が確認された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	2	0	0	0	3	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメサギゴケ	<i>Mazus goodenifolius</i>	EN
第4次 2019:	ヒメサギゴケ	<i>Mazus goodenifolius</i>	EN
第4次 2018:	ヒメサギゴケ	<i>Mazus goodenifolius</i>	EN
第4次 2017:	ヒメサギゴケ	<i>Mazus goodenifolius</i>	EN
第4次 2015:	ヒメサギゴケ	<i>Mazus goodenifolius</i>	EN
第4次:	ヒメサギゴケ	<i>Mazus goodenifolius</i>	EN
第3次:	ヒメサギゴケ	<i>Mazus goodenifolius</i>	EN
第2次:	ヒメサギゴケ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[情報不足(DD-1)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Mazus goodenifolius has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Mazus goodenifolius* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イズコゴメグサ

Euphrasia insignis subsp. *iinumae* var. *idzuensis*

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 E
20 年間の絶滅確率が 20%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

全体的にキュウシュウコゴメグサに似るが、葉は卵状長楕円形で幅が狭い。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

丘陵地や草原の日当たりの良い斜面などに生育する。

【分布域】

東海地方、伊豆半島、箱根に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで絶滅し、1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	2	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	管理放棄	草地開発
件数 3	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イズコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>iinumae</i> var. <i>idzuensis</i>	EN
第4次 2019:	イズコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>iinumae</i> var. <i>idzuensis</i>	EN
第4次 2018:	イズコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>iinumae</i> var. <i>idzuensis</i>	EN
第4次 2017:	イズコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>iinumae</i> var. <i>idzuensis</i>	EN
第4次 2015:	イズコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>iinumae</i> var. <i>idzuensis</i>	EN
第4次:	イズコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>iinumae</i> var. <i>idzuensis</i>	EN
第3次:	イズコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>iinumae</i> var. <i>idzuensis</i>	EN
第2次:	イズコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> ssp. <i>iinumai</i> var. <i>idzuensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

神奈川県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[絶滅(EX)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課，2020. まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編—. 静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課，501pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Euphrasia insignis subsp. *iinumae* var. *idzuensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Euphrasia insignis* subsp. *iinumae* var. *idzuensis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Natural succession, Abandonment of management, Grassland development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナヨナヨコゴメグサ

*Euphrasia microphylla***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は繊細で、分枝し、高さ 5-15 cm。葉は狭倒披針形、長さ 3-8 mm、縁には 1-2 対の鈍い鋸歯がある。8 月、上部の葉腋に花をつける。花冠は白色で紫色の条線があり、上唇の先までの長さ 6 mm、下唇は小さく上唇よりやや長い。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

深山の石灰岩の岩地などに生育する。

【分布域】

四国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	2	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	自然遷移	シカ食害
件数 2	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナヨナヨコメグサ	<i>Euphrasia microphylla</i>	VU
第4次 2019:	ナヨナヨコメグサ	<i>Euphrasia microphylla</i>	VU
第4次 2018:	ナヨナヨコメグサ	<i>Euphrasia microphylla</i>	VU
第4次 2017:	ナヨナヨコメグサ	<i>Euphrasia microphylla</i>	VU
第4次 2015:	ナヨナヨコメグサ	<i>Euphrasia microphylla</i>	VU
第4次:	ナヨナヨコメグサ	<i>Euphrasia microphylla</i>	VU
第3次:	ナヨナヨコメグサ	<i>Euphrasia microphylla</i>	VU
第2次:	ナヨナヨコメグサ	<i>Euphrasia microphylla</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[絶滅危惧 IA 類] 愛媛県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 高知県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Euphrasia microphylla has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Euphrasia microphylla is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Natural succession, Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツクシコゴメグサ

Euphrasia multifolia var. *multifolia***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 C

推定開花株数 2500 個体未満かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は分枝して直立し高さ 10–35 cm で白い短毛がある。葉は卵状長楕円形～長楕円形、長さ 6–10 mm。花は白色で紫色の条があり、上唇の先まで長さ 7 mm、下唇は上唇よりやや長い。蒴果は長楕円形で長さ 3–5 mm。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

山地の草地に生育する。

【分布域】

九州北部、四国西部、中国地方西部、長野県下伊那地方に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 C により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 土地造成	自然遷移	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツクシコゴメグサ	<i>Euphrasia multifolia</i> var. <i>multifolia</i>	EN
第4次 2019:	ツクシコゴメグサ	<i>Euphrasia multifolia</i> var. <i>multifolia</i>	EN
第4次 2018:	ツクシコゴメグサ	<i>Euphrasia multifolia</i> var. <i>multifolia</i>	EN
第4次 2017:	ツクシコゴメグサ	<i>Euphrasia multifolia</i> var. <i>multifolia</i>	EN
第4次 2015:	ツクシコゴメグサ	<i>Euphrasia multifolia</i> var. <i>multifolia</i>	EN
第4次:	ツクシコゴメグサ	<i>Euphrasia multifolia</i> var. <i>multifolia</i>	EN
第3次:	ツクシコゴメグサ	<i>Euphrasia multifolia</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 愛媛県[情報不足(DD)] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 長崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 熊本県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 大分県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Euphrasia multifolia var. *multifolia* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Euphrasia multifolia* var. *multifolia* is listed as EN under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.

Threat types:	Land development, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ウスユキクチナシグサ

Monochasma savatieri

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上して高さ 15-25 cm。茎の上部の葉は線状長楕円形または倒披針形で、長さ 5-25 mm。上部の葉腋ごとに 1 花をつける。花冠は白色で淡紅色を帯び、長さ 25 mm。

【生活史】

越年草。

【生育環境】

やや乾いた林下に生育する。

【分布域】

九州の天草島に分布。国外では中国（中南部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュの限られた場所に数十個体が生育していた。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウスユキクチナシグサ	<i>Monochasma savatieri</i>	EN
第4次 2019:	ウスユキクチナシグサ	<i>Monochasma savatieri</i>	EN
第4次 2018:	ウスユキクチナシグサ	<i>Monochasma savatieri</i>	EN
第4次 2017:	ウスユキクチナシグサ	<i>Monochasma savatieri</i>	EN
第4次 2015:	ウスユキクチナシグサ	<i>Monochasma savatieri</i>	EN
第4次:	ウスユキクチナシグサ	<i>Monochasma savatieri</i>	EN
第3次:	ウスユキクチナシグサ	<i>Monochasma savatieri</i>	EN
第2次:	ウスユキクチナシグサ	<i>Monochasma savatieri</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Monochasma savatieri has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Monochasma savatieri* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シマウツボ

*Orobanche boninsimae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15-25 cm。葉は卵形か長楕円形、長さ 1.5-1.8 cm。花期は年に 2 回。黄色い花を茎の上部に密につける。

【生活史】

寄生性の多年草。

【生育環境】

湿った常緑樹林内に生育する。ムラサキシキブ属やアワダン属植物などに寄生。

【分布域】

小笠原諸島（父島、母島、兄島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シマウツボ	<i>Orobanche boninsimae</i>	CR
第4次 2019:	シマウツボ	<i>Orobanche boninsimae</i>	CR
第4次 2018:	シマウツボ	<i>Orobanche boninsimae</i>	CR
第4次 2017:	シマウツボ	<i>Orobanche boninsimae</i>	CR
第4次 2015:	シマウツボ	<i>Orobanche boninsimae</i>	CR
第4次:	シマウツボ	<i>Orobanche boninsimae</i>	CR
第3次:	シマウツボ	<i>Orobanche boninsimae</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Orobanche boninsimae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Orobanche boninsimae is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キバナシオガマ

Pedicularis oederi

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 D
推定開花株数が 250 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎は根際で分枝して株を作り、直立して高さ 10-20 cm。葉は根際に集まり、茎上のものは互生する。葉身は長楕円状披針形で、長さ 2.5-4.5 cm。茎の先に穂になった総状花序を作り、密に上向きの花をつける。花冠は長さ 2.5 cm、黄色で上唇の上半分は赤褐色、上唇は舟形で湾曲し、下唇は広く開き短い。1/3 ほどまで 3 裂し中央裂片は小さい。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山の草地に生育する。

【分布域】

北海道の大雪山系に分布。国外では、ヨーロッパ、アジア、北アメリカの周北極地域に広く分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 人の踏みつけ	産地局限	

件数		
1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キバナシオガマ	<i>Pedicularis oederi</i> subsp. <i>heteroglossa</i>	EN
第4次 2019:	キバナシオガマ	<i>Pedicularis oederi</i> subsp. <i>heteroglossa</i>	EN
第4次 2018:	キバナシオガマ	<i>Pedicularis oederi</i> subsp. <i>heteroglossa</i>	EN
第4次 2017:	キバナシオガマ	<i>Pedicularis oederi</i> subsp. <i>heteroglossa</i>	EN
第4次 2015:	キバナシオガマ	<i>Pedicularis oederi</i> subsp. <i>heteroglossa</i>	EN
第4次:	キバナシオガマ	<i>Pedicularis oederi</i> subsp. <i>heteroglossa</i>	EN
第3次:	キバナシオガマ	<i>Pedicularis oederi</i> subsp. <i>heteroglossa</i>	EN
第2次:	キバナシオガマ	<i>Pedicularis oederi</i> var. <i>heteroglossa</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pedicularis oederi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Pedicularis oederi is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミカワタヌキモ

Utricularia exoleta

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 C

推定開花株数 2500 個体未満かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は細く、分枝しながら水中や湿地上を横に伸びる。葉は互生、きわめて細かい糸状裂片で長さ 5-10 mm。捕虫嚢は長径 1-1.5 mm で葉に少数つく。花茎は高さ 5-15 cm で、1-3 個の花をつける。花は黄～淡黄色で径 5-6 mm。距は前向き。

【生活史】

浮遊性～湿性の多年草。

【生育環境】

ため池や湿地上生育する。

【分布域】

本州～琉球に分布。国外ではオーストラリアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 C により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミカワタヌキモ	<i>Utricularia exoleta</i>	VU
第4次 2019:	ミカワタヌキモ	<i>Utricularia exoleta</i>	VU
第4次 2018:	ミカワタヌキモ	<i>Utricularia exoleta</i>	VU
第4次 2017:	ミカワタヌキモ	<i>Utricularia exoleta</i>	VU
第4次 2015:	ミカワタヌキモ	<i>Utricularia exoleta</i>	VU
第4次:	ミカワタヌキモ	<i>Utricularia exoleta</i>	VU
第3次:	ミカワタヌキモ	<i>Utricularia exoleta</i>	VU
第2次:	ミカワタヌキモ	<i>Utricularia exoleta</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 愛知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 三重県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 滋賀県[希少種] 京都府[絶滅寸前種] 兵庫県[Aランク] 奈良県[絶滅種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 島根県[情報不足(DD)] 広島県[準絶滅危惧(NT)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 長崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Utricularia exoleta has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Utricularia exoleta* is listed as EN under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムニンモチ

Ilex mertensii var. *beecheyi*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1-6 m。樹皮は灰褐色。葉は互生。葉柄は長さ 0.5-1 cm、葉身は倒卵状長楕円形で長さ 2-5 cm、幅 1-3 cm。基準変種のシマモチに比べは葉が小さく、果柄が長い。

【生活史】

常緑小高木。雌雄異株。

【生育環境】

やや湿性の疎林や低木林内に生育する。

【分布域】

小笠原諸島（母島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 4 メッシュで計数十個体の現存が報告された。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	4	0	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムニンモチ	<i>Ilex mertensii</i> var. <i>beecheyi</i>	EN
第4次 2019:	ムニンモチ	<i>Ilex mertensii</i> var. <i>beecheyi</i>	EN
第4次 2018:	ムニンモチ	<i>Ilex mertensii</i> var. <i>beecheyi</i>	EN
第4次 2017:	ムニンモチ	<i>Ilex mertensii</i> var. <i>beecheyi</i>	EN
第4次 2015:	ムニンモチ	<i>Ilex mertensii</i> var. <i>beecheyi</i>	EN
第4次:	ムニンモチ	<i>Ilex mertensii</i> var. <i>beecheyi</i>	EN
第3次:	ムニンモチ	<i>Ilex mertensii</i> var. <i>beecheyi</i>	EN
第2次:	ムニンモチ	<i>Ilex beecheyi</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ilex mertensii var. *beecheyi* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Ilex mertensii var. *beecheyi* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae キキョウ科 Campanulaceae

ヤチシャジン

Adenophora palustris

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 60–100 cm。茎は直立する。茎葉は長さ 3–6 cm、楕円形～長楕円形、鋸歯がある。花柄はごく短く、花序はほぼ穂状。花冠は長さ 1.5–2.6 cm、漏斗状鐘形で、淡紫色、花柱はやや突出する。

【生活史】

多年草。花期は 8–9 月。

【生育環境】

湿地に生育。

【分布域】

本州（東海地方・中国地方）、朝鮮半島・中国（東北）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	1	1	0	0	3	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 湿地開発	園芸採取	管理放棄
件数 3	3	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤチシャジン	<i>Adenophora palustris</i>	CR
第4次 2019:	ヤチシャジン	<i>Adenophora palustris</i>	CR
第4次 2018:	ヤチシャジン	<i>Adenophora palustris</i>	CR
第4次 2017:	ヤチシャジン	<i>Adenophora palustris</i>	CR
第4次 2015:	ヤチシャジン	<i>Adenophora palustris</i>	CR
第4次:	ヤチシャジン	<i>Adenophora palustris</i>	CR
第3次:	ヤチシャジン	<i>Adenophora palustris</i>	CR
第2次:	ヤチシャジン	<i>Adenophora palustris</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 愛知県[絶滅(EX)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Adenophora palustris has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Adenophora palustris* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Wetland development, Collecting plants in gardening, Abandonment of management
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハウオウシャジン

Adenophora takedae var. *howozana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

イワシャジンの高山型と考えられている。岩からぶら下がる。葉は、狭披針形または線形で、やや厚く、ほぼ無柄。

【生活史】

多年草。花期は 8-9 月。

【生育環境】

山地の岩場に生育。

【分布域】

南アルプス（鳳凰三産）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュで計数百個体が生育していた。園芸用の採取、自然遷移のために減少傾向にあった。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホウオウシャジン	<i>Adenophora takedae</i> var. <i>howozana</i>	EN
第4次 2019:	ホウオウシャジン	<i>Adenophora takedae</i> var. <i>howozana</i>	EN
第4次 2018:	ホウオウシャジン	<i>Adenophora takedae</i> var. <i>howozana</i>	EN
第4次 2017:	ホウオウシャジン	<i>Adenophora takedae</i> var. <i>howozana</i>	EN
第4次 2015:	ホウオウシャジン	<i>Adenophora takedae</i> var. <i>howozana</i>	EN
第4次:	ホウオウシャジン	<i>Adenophora takedae</i> var. <i>howozana</i>	EN
第3次:	ホウオウシャジン	<i>Adenophora takedae</i> var. <i>howozana</i>	EN
第2次:	ホウオウシャジン	<i>Adenophora takedae</i> var. <i>howozana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山梨県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Adenophora takedae var. *howozana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Adenophora takedae* var. *howozana* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae キキョウ科 Campanulaceae

シマシヤジン

Adenophora tashiroi

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 20–50 cm。茎は基部がしばしば倒伏する。茎葉は長さ 1–5 cm、卵形～広卵形、無柄。花序は総状花序か複総状花序。花冠は長さ 1.5–2 cm、鐘形で、青紫色、花柱は突出しない。

【生活史】

多年草。花期は 8–11 月。

【生育環境】

海岸の斜面に生育。

【分布域】

九州（長崎県福江島・平戸島）、済州島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	人の踏みつけ	シカ食害
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シマシャジン	<i>Adenophora tashiroi</i>	EN
第4次 2019:	シマシャジン	<i>Adenophora tashiroi</i>	EN
第4次 2018:	シマシャジン	<i>Adenophora tashiroi</i>	EN
第4次 2017:	シマシャジン	<i>Adenophora tashiroi</i>	EN
第4次 2015:	シマシャジン	<i>Adenophora tashiroi</i>	EN
第4次:	シマシャジン	<i>Adenophora tashiroi</i>	EN
第3次:	シマシャジン	<i>Adenophora tashiroi</i>	EN
第2次:	シマシャジン	<i>Adenophora tashiroi</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Adenophora tashiroi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Adenophora tashiroi* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Human trampling, Deer feeding damage

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤツシロソウ

Campanula glomerata subsp. *speciosa*

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 E
20 年間の絶滅確率が 20%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 40-80 cm。茎葉は長さ 5-10 cm、広披針形または狭卵形、不揃いの細かい鋸歯があり、下部のものは柄に翼があるが、上部のものは無柄。花は 10 個内外がやや頭状に集まる。花冠は長さ 20-25 mm、漏斗形、紫色、上向きに開く。

【生活史】

多年草。花期は 8-9 月。

【生育環境】

山地の草原に生育。

【分布域】

九州、朝鮮半島・中国（東北）・シベリア東部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。4 メッシュで計数千個体の現存が推定される。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	2	1	1	—	4	0	3

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤツシロソウ	<i>Campanula glomerata</i> var. <i>dahurica</i>	EN
第4次 2019:	ヤツシロソウ	<i>Campanula glomerata</i> var. <i>dahurica</i>	EN
第4次 2018:	ヤツシロソウ	<i>Campanula glomerata</i> var. <i>dahurica</i>	EN
第4次 2017:	ヤツシロソウ	<i>Campanula glomerata</i> var. <i>dahurica</i>	EN
第4次 2015:	ヤツシロソウ	<i>Campanula glomerata</i> var. <i>dahurica</i>	EN
第4次:	ヤツシロソウ	<i>Campanula glomerata</i> var. <i>dahurica</i>	EN
第3次:	ヤツシロソウ	<i>Campanula glomerata</i> var. <i>dahurica</i>	EN
第2次:	ヤツシロソウ	<i>Campanula glomerata</i> var. <i>dahurica</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 大分県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Campanula glomerata subsp. *speciosa* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Campanula glomerata* subsp. *speciosa* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae キキョウ科 Campanulaceae

マルバミゾカクシ

Lobelia zeylanica

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は匍匐する。葉身は長さ 3–4 cm、卵形～広卵形。花は葉腋に 1 個つく。淡青紫色、花冠は 2 唇形、淡紫色。萼筒には開出毛がある。

【生活史】

常緑多年草。

【生育環境】

低地の林床や水田の畦に生育。

【分布域】

沖縄県（与那国島）、台湾・東南アジア・ヒマラヤに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。250 個体未満と推定されることから、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	マルバミゾカクシ	<i>Lobelia zeylanica</i>	CR
第4次 2019:	マルバミゾカクシ	<i>Lobelia zeylanica</i>	CR
第4次 2018:	マルバミゾカクシ	<i>Lobelia zeylanica</i>	CR
第4次 2017:	マルバミゾカクシ	<i>Lobelia zeylanica</i>	CR
第4次 2015:	マルバミゾカクシ	<i>Lobelia zeylanica</i>	CR
第4次:	マルバミゾカクシ	<i>Lobelia zeylanica</i>	CR
第3次:	マルバミゾカクシ	<i>Lobelia zeylanica</i>	CR
第2次:	マルバミゾカクシ	<i>Lobelia zeylanica</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lobelia zeylanica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lobelia zeylanica* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホソバエゾノコギリ

Achillea ptarmica subsp. *macrocephala* var. *yezoensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

エゾノコギリソウに似るが、葉身は披針状線形、葉の幅が 3-5 mm と狭葉になる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

蛇紋岩地に生育。

【分布域】

北海道に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホソバエゾノコギリ	<i>Achillea ptarmica</i> subsp. <i>macrocephala</i> var. <i>yezoensis</i>	EN
第4次 2019:	ホソバエゾノコギリ	<i>Achillea ptarmica</i> subsp. <i>macrocephala</i> var. <i>yezoensis</i>	EN
第4次 2018:	ホソバエゾノコギリ	<i>Achillea ptarmica</i> subsp. <i>macrocephala</i> var. <i>yezoensis</i>	EN
第4次 2017:	ホソバエゾノコギリ	<i>Achillea ptarmica</i> subsp. <i>macrocephala</i> var. <i>yezoensis</i>	EN
第4次 2015:	ホソバエゾノコギリ	<i>Achillea ptarmica</i> subsp. <i>macrocephala</i> var. <i>yezoensis</i>	EN
第4次:	ホソバエゾノコギリ	<i>Achillea ptarmica</i> subsp. <i>macrocephala</i> var. <i>yezoensis</i>	EN
第3次:	ホソバエゾノコギリ	<i>Achillea ptarmica</i> subsp. <i>macrocephala</i> var. <i>yezoensis</i>	EN
第2次:	ホソバエゾノコギリ	<i>Achillea ptarmica</i> var. <i>yezoensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)] 岩手県[情報不足]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Achillea ptarmica subsp. *macrocephala* var. *yezoensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Achillea ptarmica* subsp. *macrocephala* var. *yezoensis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオウサギク

Arnica sachalinensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

地下茎は長く這う。高さ 30-50 cm、無毛。根出葉と下部の茎葉は花期に生存しない。中部の茎葉は長さ 9-13 cm、対生、披針形。頭花は 3-5 個が散房花序にまばらにつく。舌状花は黄色、筒部に短毛が密生する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

亜高山の山地に生育。

【分布域】

北海道（礼文島～渡島半島の日本海側）、サハリン・シベリア東部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
その他		
件数		
1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオウサギギク	<i>Arnica sachalinensis</i>	EN
第4次 2019:	オオウサギギク	<i>Arnica sachalinensis</i>	EN
第4次 2018:	オオウサギギク	<i>Arnica sachalinensis</i>	EN
第4次 2017:	オオウサギギク	<i>Arnica sachalinensis</i>	EN
第4次 2015:	オオウサギギク	<i>Arnica sachalinensis</i>	EN
第4次:	オオウサギギク	<i>Arnica sachalinensis</i>	EN
第3次:	オオウサギギク	<i>Arnica sachalinensis</i>	EN
第2次:	オオウサギギク	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危機種(Cr)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arnica sachalinensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arnica sachalinensis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ワタヨモギ

Artemisia gilvescens

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 E
20 年間の絶滅確率が 20%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 30 cm。中部の茎葉は長さ 6-7 cm、倒卵状長楕円形、柄がなく、3 中裂、裏面に密に綿毛がある。頭花は狭い円錐花序につき、筒状で長さ 4 mm。総苞片は 3 列。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸の荒れ地に生育。

【分布域】

本州（山口県）・四国・琉球（渡名喜島）、中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 海岸開発	土地造成	管理放棄
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ワタヨモギ	<i>Artemisia gilvescens</i>	EN
第4次 2019:	ワタヨモギ	<i>Artemisia gilvescens</i>	EN
第4次 2018:	ワタヨモギ	<i>Artemisia gilvescens</i>	EN
第4次 2017:	ワタヨモギ	<i>Artemisia gilvescens</i>	EN
第4次 2015:	ワタヨモギ	<i>Artemisia gilvescens</i>	EN
第4次:	ワタヨモギ	<i>Artemisia gilvescens</i>	EN
第3次:	ワタヨモギ	<i>Artemisia gilvescens</i>	CR
第2次:	ワタヨモギ	<i>Artemisia gilvescens</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山口県[情報不足(DD)] 徳島県[絶滅危惧 IA 類] 高知県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Artemisia gilvescens has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Artemisia gilvescens* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Coastal development, Land development, Abandonment of management

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キタダケヨモギ

*Artemisia kitadakensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は叢生する。高さ 20-30 cm。茎葉の葉身は長さ 18-26 mm、葉身は 1-2 回 3 全裂、両面に毛がある。総苞片は 4 列。小花の花冠の上部に密に白色の長毛がある。

【生活史】

亜低木。花期は 8 月。

【生育環境】

高山に生育。

【分布域】

本州（南アルプス）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キタダケヨモギ	<i>Artemisia kitadakensis</i>	EN
第4次 2019:	キタダケヨモギ	<i>Artemisia kitadakensis</i>	EN
第4次 2018:	キタダケヨモギ	<i>Artemisia kitadakensis</i>	EN
第4次 2017:	キタダケヨモギ	<i>Artemisia kitadakensis</i>	EN
第4次 2015:	キタダケヨモギ	<i>Artemisia kitadakensis</i>	EN
第4次:	キタダケヨモギ	<i>Artemisia kitadakensis</i>	EN
第3次:	キタダケヨモギ	<i>Artemisia kitadakensis</i>	EN
第2次:	キタダケヨモギ	<i>Artemisia kitadakensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山梨県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 長野県[絶滅(EX)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Artemisia kitadakensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Artemisia kitadakensis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオバヨモギ

Artemisia koidzumii var. *megaphylla***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヒロハウラジロヨモギに似るが、葉が大きく、葉身は長さ 17-18 cm、幅 11-12 cm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸付近に生育。

【分布域】

北海道南部・青森県（弁天島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では確実な現存情報が得られなかったが、250 個体未満は現存すると考えられ、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオバヨモギ	<i>Artemisia koidzumii</i> var. <i>megaphylla</i>	EN
第4次 2019:	オオバヨモギ	<i>Artemisia koidzumii</i> var. <i>megaphylla</i>	EN
第4次 2018:	オオバヨモギ	<i>Artemisia koidzumii</i> var. <i>megaphylla</i>	EN
第4次 2017:	オオバヨモギ	<i>Artemisia koidzumii</i> var. <i>megaphylla</i>	EN
第4次 2015:	オオバヨモギ	<i>Artemisia koidzumii</i> var. <i>megaphylla</i>	EN
第4次:	オオバヨモギ	<i>Artemisia koidzumii</i> var. <i>megaphylla</i>	EN
第3次:	オオバヨモギ	<i>Artemisia koidzumii</i> var. <i>megaphylla</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[希少野生生物(Cランク)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Artemisia koidzumii var. *megaphylla* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Artemisia koidzumii* var. *megaphylla* is listed as EN under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ユキヨモギ

*Artemisia momiyamae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は叢生する。高さ 1 m 内外。下部の葉は長さ 12 cm、長楕円形、羽状に中裂する。中部の葉は長さ 7-9 cm、羽状に全裂し、裂片は 2 対。葉の表面にくも毛、裏面に綿毛が密生する。頭花は円錐花序に多数つく。総苞片は 3 列。

【生活史】

多年草。花期は 10-11 月。

【生育環境】

海岸に生育。

【分布域】

本州（伊豆半島・三浦半島・伊豆諸島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	0	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 海岸開発	道路工事	
件数 3	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ユキヨモギ	<i>Artemisia momiyamae</i>	EN
第4次 2019:	ユキヨモギ	<i>Artemisia momiyamae</i>	EN
第4次 2018:	ユキヨモギ	<i>Artemisia momiyamae</i>	EN
第4次 2017:	ユキヨモギ	<i>Artemisia momiyamae</i>	EN
第4次 2015:	ユキヨモギ	<i>Artemisia momiyamae</i>	EN
第4次:	ユキヨモギ	<i>Artemisia momiyamae</i>	EN
第3次:	ユキヨモギ	<i>Artemisia momiyamae</i>	EN
第2次:	ユキヨモギ	<i>Artemisia momiyamae</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Artemisia momiyamae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Artemisia momiyamae* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Coastal development, Road construction
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イソノギク

Aster asagrayi var. *asagrayi*

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 E
20 年間の絶滅確率が 20%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

無花茎は短く、先にさじ状の根出葉をロゼット状につける。高さ 15-20 cm。ロゼット葉は長さ 1-4 cm。頭花は径 2.5-3.5 cm、単生または少数。総苞は長さ 7-9 mm、半球形。総苞片は 2 列。舌状花は白～淡紫色。筒状花は長さ 4.5 mm、冠毛は長さ 2.5-3 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸の岩上や崖に生育。

【分布域】

奄美大島・沖永良部島・沖縄本島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	1	0	0	2	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イソノギク	<i>Aster asagrayi</i> var. <i>asagrayi</i>	EN
第4次 2019:	イソノギク	<i>Aster asagrayi</i> var. <i>asagrayi</i>	EN
第4次 2018:	イソノギク	<i>Aster asagrayi</i> var. <i>asagrayi</i>	EN
第4次 2017:	イソノギク	<i>Aster asagrayi</i> var. <i>asagrayi</i>	EN
第4次 2015:	イソノギク	<i>Aster asagrayi</i> var. <i>asagrayi</i>	EN
第4次:	イソノギク	<i>Aster asagrayi</i> var. <i>asagrayi</i>	EN
第3次:	イソノギク	<i>Aster asagrayi</i>	EN
第2次:	イソノギク	<i>Aster asa-grayi</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aster asagrayi var. *asagrayi* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Aster asagrayi* var. *asagrayi* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヨナクニイソノギク

Aster asagrayi var. *walkeri***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

イソノギクに似るが、茎と葉に毛が多い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸の岩上や崖に生育。

【分布域】

与那国島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では減少率情報が得られなかった。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヨナクニイソノギク	<i>Aster asagrayi</i> var. <i>walkeri</i>	EN
第4次 2019:	ヨナクニイソノギク	<i>Aster asagrayi</i> var. <i>walkeri</i>	EN
第4次 2018:	ヨナクニイソノギク	<i>Aster asagrayi</i> var. <i>walkeri</i>	EN
第4次 2017:	ヨナクニイソノギク	<i>Aster asagrayi</i> var. <i>walkeri</i>	EN
第4次 2015:	ヨナクニイソノギク	<i>Aster asagrayi</i> var. <i>walkeri</i>	EN
第4次:	ヨナクニイソノギク	<i>Aster asagrayi</i> var. <i>walkeri</i>	EN
第3次:	ヨナクニイソノギク	<i>Aster asagrayi</i> var. <i>walkeri</i>	EN
第2次:	ヨナグニイソノギク	<i>Aster walkeri</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aster asagrayi var. *walkeri* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Aster asagrayi var. *walkeri* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カワラノギク

*Aster kantoensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 50-100 cm。根出葉や下部の葉は花期に生存しない。中部の葉は長さ 5-8 cm、線形。頭花は径 3.5-4 cm、散房状または円錐状につく。総苞は長さ 7-10 mm、総苞片は 2 列。

【生活史】

多年草。花期は 10-11 月。

【生育環境】

川原に生育。

【分布域】

関東地方・静岡県東部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、7 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	5	0	1	0	0	7	1	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 河川開発	帰化競合	園芸採取
件数 3	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カワラノギク	<i>Aster kantoensis</i>	VU
第4次 2019:	カワラノギク	<i>Aster kantoensis</i>	VU
第4次 2018:	カワラノギク	<i>Aster kantoensis</i>	VU
第4次 2017:	カワラノギク	<i>Aster kantoensis</i>	VU
第4次 2015:	カワラノギク	<i>Aster kantoensis</i>	VU
第4次:	カワラノギク	<i>Aster kantoensis</i>	VU
第3次:	カワラノギク	<i>Aster kantoensis</i>	EN
第2次:	カワラノギク	<i>Aster kantoensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(Bランク)] 東京都(本土部)[区部：絶滅(EX) 本土部：絶滅危惧ⅠB類(EN)] 東京都(北多摩)[野生絶滅(EW)] 東京都(南多摩)[絶滅(EX)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aster kantoensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Aster kantoensis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	River development, Invasive species competition, Collecting plants in gardening

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シブカワシロギク

Aster rugulosus var. *shibukawaensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

サワシロギクに似るが、根出葉は花期に生存し、葉は細く、鋭尖頭になり、地下茎をもたない。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

蛇紋岩の礫の多い斜面に生育。

【分布域】

静岡県（浜川）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	1	1	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 草地開発	自然遷移	人の踏みつけ
件数 2	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シブカワシロギク	<i>Aster rugulosus</i> var. <i>shibukawaensis</i>	EN
第4次 2019:	シブカワシロギク	<i>Aster rugulosus</i> var. <i>shibukawaensis</i>	EN
第4次 2018:	シブカワシロギク	<i>Aster rugulosus</i> var. <i>shibukawaensis</i>	EN
第4次 2017:	シブカワシロギク	<i>Aster rugulosus</i> var. <i>shibukawaensis</i>	EN
第4次 2015:	シブカワシロギク	<i>Aster rugulosus</i> var. <i>shibukawaensis</i>	EN
第4次:	シブカワシロギク	<i>Aster rugulosus</i> var. <i>shibukawaensis</i>	EN
第3次:	シブカワシロギク	<i>Aster rugulosus</i> var. <i>shibukawaensis</i>	EN
第2次:	シブカワシロギク	<i>Aster rugulosus</i> var. <i>shibukawaensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aster rugulosus var. *shibukawaensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Aster rugulosus* var. *shibukawaensis* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Grassland development, Natural succession, Human trampling

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クルマギク

*Aster tenuipes***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 C

推定開花株数 2500 個体未満かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長さ 30-85 cm。根出葉は花期に生存しない。茎葉は長さ 5-11 cm、線状披針形、無柄。頭花は茎の中部まで多数つく。総苞は長さ 7 mm、狭筒形。総苞片は 4 列、外片は卵形。舌状花は白色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

溪流の崖に生育。

【分布域】

和歌山県（熊野川流域）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 C により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 道路工事	不明	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クルマギク	<i>Aster tenuipes</i>	EN
第4次 2019:	クルマギク	<i>Aster tenuipes</i>	EN
第4次 2018:	クルマギク	<i>Aster tenuipes</i>	EN
第4次 2017:	クルマギク	<i>Aster tenuipes</i>	EN
第4次 2015:	クルマギク	<i>Aster tenuipes</i>	EN
第4次:	クルマギク	<i>Aster tenuipes</i>	EN
第3次:	クルマギク	<i>Aster tenuipes</i>	EN
第2次:	クルマギク	<i>Aster tenuipes</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

和歌山県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aster tenuipes has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Aster tenuipes* is listed as EN under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.

Threat types:	Road construction, Unknown

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae キク科 Asteraceae/Compositae

チョウセンノギク

Chrysanthemum zawadskii subsp. *naktongense*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

イワギクに似るが、茎葉は羽状に 5 浅～中裂し、裂片の幅が広い。

【生活史】

多年草。花期は 8-10 月。

【生育環境】

山地の岩の裂け目などに生育。

【分布域】

岩手県・長崎県・鹿児島県、東アジア～ヨーロッパ東部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チョウセンノギク	<i>Chrysanthemum zawadskii</i> var. <i>alpinum</i>	EN
第4次 2019:	チョウセンノギク	<i>Chrysanthemum zawadskii</i> var. <i>alpinum</i>	EN
第4次 2018:	チョウセンノギク	<i>Chrysanthemum zawadskii</i> var. <i>alpinum</i>	EN
第4次 2017:	チョウセンノギク	<i>Chrysanthemum zawadskii</i> var. <i>alpinum</i>	EN
第4次 2015:	チョウセンノギク	<i>Chrysanthemum zawadskii</i> var. <i>alpinum</i>	EN
第4次:	チョウセンノギク	<i>Chrysanthemum zawadskii</i> var. <i>alpinum</i>	EN
第3次:	チョウセンノギク	<i>Chrysanthemum zawadskii</i> var. <i>alpinum</i>	EN
第2次:	チョウセンノギク	<i>Dendranthema zawadskii</i> var. <i>latilobum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Chrysanthemum zawadskii subsp. *naktongense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Chrysanthemum zawadskii* subsp. *naktongense* is listed as EN under criteria E. E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アイズヒメアザミ

*Cirsium aidzuense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 100-200 cm。茎は直立～斜上する。根出葉は花期に生存しない。茎葉の葉身は長さ 18-45 cm、披針形～卵形か広卵形、無毛、羽状に浅裂し、裂片は 4-5 対か鋸歯縁～全縁状になる。棘は長さ 1-5 mm。頭花は直立～斜上し、柄は長さ 3-23 cm、細い。総苞片は 11-12 列。花冠は長さ 15-17 mm、紅紫色～淡紅紫色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の夏緑林の林縁や草地に生育。

【分布域】

東北地方南部～関東地方北部（福島県・群馬県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 10 メッシュで計数千個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	5	0	4	0	0	10	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 道路工事	その他	シカ食害
件数	3	2

3		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アイズヒメアザミ	<i>Cirsium aidzuense</i>	CR
第4次 2019:	アイズヒメアザミ	<i>Cirsium aidzuense</i>	CR
第4次 2018:	アイズヒメアザミ	<i>Cirsium aidzuense</i>	CR
第4次 2017:	アイズヒメアザミ	<i>Cirsium aidzuense</i>	CR
第4次 2015:	アイズヒメアザミ	<i>Cirsium aidzuense</i>	CR
第4次:	アイズヒメアザミ	<i>Cirsium aidzuense</i>	CR
第3次:	アイズヒメアザミ	<i>Cirsium aidzuense</i>	CR
第2次:	アイズヒメアザミ	<i>Cirsium aidzuense</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 栃木県[準絶滅危惧(Cランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]
新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 長野県[野生絶滅(EW)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cirsium aidzuense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cirsium aidzuense* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Road construction, Other, Deer feeding damage

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アシノクラアザミ

*Cirsium ashinokuraense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 40-180 cm。茎は直立～やや斜上する。根出葉は花期に生存しない。茎葉の葉身は長さ 27-35 cm、広楕円形～広倒卵形、羽状に深裂～浅裂し、裂片は 5-7 対、無毛。葉柄は長さ 2-8 cm。頭花は 3-4 個が総状にまばらにつく。総苞片は 8-9 列。花冠は長さ 15-18 mm、淡紅紫色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

夏緑林内や林縁、林間の草地に生育。

【分布域】

秋田県（男鹿山地）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数十個体の現存が報告された。森林伐採、河川開発、ダム建設、産地局限などが減少要因とされた。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アシノクラアザミ	<i>Cirsium ashinokuraense</i>	EN
第4次 2019:	アシノクラアザミ	<i>Cirsium ashinokuraense</i>	EN
第4次 2018:	アシノクラアザミ	<i>Cirsium ashinokuraense</i>	EN
第4次 2017:	アシノクラアザミ	<i>Cirsium ashinokuraense</i>	EN
第4次 2015:	アシノクラアザミ	<i>Cirsium ashinokuraense</i>	EN
第4次:	アシノクラアザミ	<i>Cirsium ashinokuraense</i>	EN
第3次:	アシノクラアザミ	<i>Cirsium ashinokuraense</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

秋田県[DD]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cirsium ashinokuraense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Cirsium ashinokuraense is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

チカブミアザミ

*Cirsium chikabumiense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 70-150 cm の草本。葉は羽状深裂する。頭花は下向きに咲き、花冠は濃い赤紫色。

【生活史】

多年生草本で花期は 6-7 月。

【生育環境】

蛇紋岩地の落葉樹林の林縁に生育。近縁種で湿原に生育するエゾノサワアザミとは異なり、蛇紋岩地のみに生育。

【分布域】

北海道鷹栖町嵐山周辺に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

近年の状況変化は見られない。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	産地局限	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 文献なし

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cirsium chikabumiense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Cirsium chikabumiense is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コイブキアザミ

*Cirsium confertissimum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 50-100 cm。茎は直立する。根出葉と下部の茎葉は花期に生存しない。中部の茎葉の葉身は長さ 6-18 cm、楕円形～卵形、羽状に中裂～深裂し、裂片は 4-7 対ある。頭花は直立～斜上して咲き、数個が散房状に密集してつくか塊状につく。総苞は径 5-7 mm、くも毛がある。総苞片は 8-9 列。花冠は長さ 15-18 mm、紅紫色。

【生活史】

多年草。花期は 9-10 月。

【生育環境】

山頂付近の草原に生育。

【分布域】

伊吹山に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 草地開発	人の踏みつけ	シカ食害
件数	1	1

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コイブキアザミ	<i>Cirsium confertissimum</i>	VU
第4次 2019:	コイブキアザミ	<i>Cirsium confertissimum</i>	VU
第4次 2018:	コイブキアザミ	<i>Cirsium confertissimum</i>	VU
第4次 2017:	コイブキアザミ	<i>Cirsium confertissimum</i>	VU
第4次 2015:	コイブキアザミ	<i>Cirsium confertissimum</i>	VU
第4次:	コイブキアザミ	<i>Cirsium confertissimum</i>	VU
第3次:	コイブキアザミ	<i>Cirsium confertissimum</i>	VU
第2次:	コイブキアザミ	<i>Cirsium confertissimum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岐阜県[絶滅危惧Ⅱ類] 滋賀県[分布上重要種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cirsium confertissimum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cirsium confertissimum* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Grassland development, Human trampling, Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ガンジュアザミ

*Cirsium ganjuense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 50-150 cm。茎は直立する。根出葉は花期に生存しない。下部の茎葉の葉身は長さ 15-24 cm、楕円形～広楕円形か広卵形、羽状に中裂～浅裂し、裂片は 4-6 対ある。茎葉の基部は茎を抱く。頭花は直立～斜上して咲き、2-3 個が総状にまばらにつくか密集してつく。総苞は径 18-20 mm、ほとんど無毛。総苞片は 8-9 列。花冠は長さ 18-19 mm、紅紫色。

【生活史】

多年草。花期は 8-9 月。

【生育環境】

亜高山の岩混じりの草地に生育。

【分布域】

岩手県（岩手山・早池峰山・五葉山）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ガンジュアザミ	<i>Cirsium ganjuense</i>	EN
第4次 2019:	ガンジュアザミ	<i>Cirsium ganjuense</i>	EN
第4次 2018:	ガンジュアザミ	<i>Cirsium ganjuense</i>	EN
第4次 2017:	ガンジュアザミ	<i>Cirsium ganjuense</i>	EN
第4次 2015:	ガンジュアザミ	<i>Cirsium ganjuense</i>	EN
第4次:	ガンジュアザミ	<i>Cirsium ganjuense</i>	EN
第3次:	ガンジュアザミ	<i>Cirsium ganjuense</i>	EN
第2次:	ガンジュアザミ	<i>Cirsium ganjuense</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[B ランク] 秋田県[絶滅危惧種 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cirsium ganjuense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cirsium ganjuense* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハツポウアザミ

*Cirsium happoense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 40-70 cm。茎は直立～斜上する。根出葉は花期に生存しない。中部の茎葉の葉身は長さ 12-20 cm、卵状披針形、羽状に中裂～深裂し、裂片は 5-9 対ある。頭花は點頭して下向きに咲き、長い柄の先に単生する。総苞は径 15-20 mm、くも毛がある。総苞片は 6-7 列。花冠は長さ 14-16 mm、淡紅紫色。

【生活史】

多年草。花期は 8-10 月。

【生育環境】

山地の超塩基性土壤に生育。

【分布域】

北アルプス八方尾根に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。産地と個体数が限られる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハッポウアザミ	<i>Cirsium happeense</i>	EN
第4次 2019:	ハッポウアザミ	<i>Cirsium happeense</i>	EN
第4次 2018:	ハッポウアザミ	<i>Cirsium happeense</i>	EN
第4次 2017:	ハッポウアザミ	<i>Cirsium happeense</i>	EN
第4次 2015:	ハッポウアザミ	<i>Cirsium happeense</i>	EN
第4次:	ハッポウアザミ	<i>Cirsium happeense</i>	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長野県[絶滅危惧 IB 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cirsium happeense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cirsium happeense* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カツラカワアザミ

*Cirsium opacum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 70-120 cm。茎は斜上する。根出葉は花期に生存しない。下部の茎葉の葉身は長さ 30-50 cm、広楕円形、羽状に中裂～深裂し、裂片は 4-7 対ある。頭花は點頭し、数個が総状にまばらにつく。総苞は径 15-20 mm、くも毛がある。総苞片は 8-9 列。花冠は長さ 21-22 mm、淡紅紫色～紅紫色。

【生活史】

多年草。花期は 9-11 月。

【生育環境】

山地の谷側の夏緑林縁や草地に生育。

【分布域】

滋賀県（葛川地域）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 土地造成	シカ食害	産地局限
件数	1	1

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カツラカワアザミ	<i>Cirsium opacum</i>	EN
第4次 2019:	カツラカワアザミ	<i>Cirsium opacum</i>	EN
第4次 2018:	カツラカワアザミ	<i>Cirsium opacum</i>	EN
第4次 2017:	カツラカワアザミ	<i>Cirsium opacum</i>	EN
第4次 2015:	カツラカワアザミ	<i>Cirsium opacum</i>	EN
第4次:	カツラカワアザミ	<i>Cirsium opacum</i>	EN
第3次:	カツラカワアザミ	<i>Cirsium lucens</i> var. <i>opacum</i>	EN
第2次:	カツラカワアザミ	<i>Cirsium lucens</i> var. <i>opacum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

滋賀県[絶滅危惧種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cirsium opacum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cirsium opacum* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Land development, Deer feeding damage, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ニセツクシアザミ

*Cirsium pseudosuffultum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 40-200 cm。茎は斜上する。根出葉は花期に生存しない。下部の茎葉の葉身は長さ 20-40 cm、楕円形、羽状に中裂～深裂し、裂片は 6-8 対ある。頭花は點頭し、数個が散房状に密集するか塊状につく。総苞は径 8-12 mm、くも毛がある。総苞片は 9-10 列。花冠は長さ 18-22 mm、淡紅紫色～紅紫色。

【生活史】

多年草。花期は 8-10 月。

【生育環境】

石灰岩地の林縁や草地に生育。

【分布域】

四国（徳島県・愛媛県・高知県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。平均減少率は 71%であった。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	自然遷移	
件数	1	

2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ニセツクシアザミ	<i>Cirsium pseudosuffultum</i>	EN
第4次 2019:	ニセツクシアザミ	<i>Cirsium pseudosuffultum</i>	EN
第4次 2018:	ニセツクシアザミ	<i>Cirsium pseudosuffultum</i>	EN
第4次 2017:	ニセツクシアザミ	<i>Cirsium pseudosuffultum</i>	EN
第4次 2015:	ニセツクシアザミ	<i>Cirsium pseudosuffultum</i>	EN
第4次:	ニセツクシアザミ	<i>Cirsium pseudosuffultum</i>	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

奈良県[絶滅危惧種,注目種] 徳島県[絶滅危惧 IB 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cirsium pseudosuffultum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cirsium pseudosuffultum* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タネガシマアザミ

Cirsium tanegashimense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 50-180 cm。茎は直立する。根出葉は花期に生存しない。中部の茎葉の葉身は長さ 11-30 cm、広卵形～狭卵形、羽状に中裂し、裂片は 2-3 対ある。頭花は直立～斜上して咲き、数個が円錐状にまばらにつく。総苞は径 15-20 mm、無毛。総苞片は 9-10 列。花冠は長さ 11-13 mm、紅紫色。

【生活史】

多年草。花期は 10-12 月。

【生育環境】

低地～低山の常緑林や夏緑林の林縁、道端や畔に生育。

【分布域】

種子島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では計百個体以上が生育すると推定された。生育地は道路沿いや畑の脇など人為が及びやすい場所のため、今後は急速に減少する可能性がある。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タネガシマアザミ	<i>Cirsium tanegashimense</i>	EN
第4次 2019:	タネガシマアザミ	<i>Cirsium tanegashimense</i>	EN
第4次 2018:	タネガシマアザミ	<i>Cirsium tanegashimense</i>	EN
第4次 2017:	タネガシマアザミ	<i>Cirsium tanegashimense</i>	EN
第4次 2015:	タネガシマアザミ	<i>Cirsium tanegashimense</i>	EN
第4次:	タネガシマアザミ	<i>Cirsium tanegashimense</i>	EN
第3次:	タネガシマアザミ	<i>Cirsium tanegashimense</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cirsium tanegashimense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cirsium tanegashimense* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ワタムキアザミ

Cirsium tashiroi var. *tashiroi***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 30-50 cm。茎は斜上する。根出葉は花期に生存する。根出葉の葉身は長さ 20-35 cm、狭楕円形～狭倒卵形、羽状に深裂～全裂し、裂片は 7-10 対ある。頭花は點頭して下向きに咲き、単生するか 2-3 個が塊状につく。総苞は径 15-18 mm、無毛。総苞片は 8-9 列。総苞外片は長さ 4-5 mm。花冠は長さ 17-20 mm、淡紅紫色。

【生活史】

多年草。花期は 9-10 月。

【生育環境】

林縁や林内に生育。

【分布域】

本州中部（鈴鹿山脈・養老山脈）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	2	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ワタムキアザミ	<i>Cirsium tashiroi</i> var. <i>tashiroi</i>	VU
第4次 2019:	ワタムキアザミ	<i>Cirsium tashiroi</i> var. <i>tashiroi</i>	VU
第4次 2018:	ワタムキアザミ	<i>Cirsium tashiroi</i> var. <i>tashiroi</i>	VU
第4次 2017:	ワタムキアザミ	<i>Cirsium tashiroi</i> var. <i>tashiroi</i>	VU
第4次 2015:	ワタムキアザミ	<i>Cirsium tashiroi</i> var. <i>tashiroi</i>	VU
第4次:	ワタムキアザミ	<i>Cirsium tashiroi</i> var. <i>tashiroi</i>	VU
第3次:	ワタムキアザミ	<i>Cirsium tashiroi</i>	VU
第2次:	ワタムキアザミ	<i>Cirsium tashiroi</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長野県[絶滅危惧 II 類(VU)] 静岡県[準絶滅危惧(NT)] 三重県[準絶滅危惧(NT)] 滋賀県[希少種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cirsium tashiroi var. *tashiroi* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cirsium tashiroi* var. *tashiroi* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ウスバアザミ

*Cirsium tenue***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 70-160 cm。茎は斜上する。根出葉は花期に生存しない。中部の茎葉の葉身は長さ 18-40 cm、狭楕円形～狭倒卵形、羽状に浅裂し、裂片は 4-6 対ある。頭花は直立して咲き、7-15 個が塊状につく。総苞は長さ 14-16 mm、無毛。総苞片は 11-12 列。花冠は長さ 17-18 mm、白色に近い紅紫色。

【生活史】

多年草。花期は 9-10 月。

【生育環境】

石灰岩地の林縁や草地に生育。

【分布域】

中国地方（岡山県・広島県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュで計 50 個体以上の現存が報告された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウスバアザミ	<i>Cirsium tenue</i>	EN
第4次 2019:	ウスバアザミ	<i>Cirsium tenue</i>	EN
第4次 2018:	ウスバアザミ	<i>Cirsium tenue</i>	EN
第4次 2017:	ウスバアザミ	<i>Cirsium tenue</i>	EN
第4次 2015:	ウスバアザミ	<i>Cirsium tenue</i>	EN
第4次:	ウスバアザミ	<i>Cirsium tenue</i>	EN
第3次:	ウスバアザミ	<i>Cirsium tenue</i>	EN
第2次:	ウスバアザミ	<i>Cirsium tenue</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岡山県[絶滅危惧Ⅱ類] 広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cirsium tenue has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cirsium tenue* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ユズリハワダン

*Crepidiastrum ameristophyllum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1 m。葉は互生し、茎頂に集まる。葉身は長さ 5-20 cm、狭長楕円形、全縁で縁はやや波打つ。花序枝は上方の葉腋から直立するが、ふつう葉の高さとほぼ同長。花序の主枝からまばらに短い側枝を出し、全体として幅の狭い総状花序状になる。頭花は 5 個の舌状花からなり、白色。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

霧の多い草地や低木の間に生育。

【分布域】

小笠原諸島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査**【「現存する株数」別のメッシュ数】**

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ユズリハワダン	<i>Crepidiastrum ameristophyllum</i>	EN
第4次 2019:	ユズリハワダン	<i>Crepidiastrum ameristophyllum</i>	EN
第4次 2018:	ユズリハワダン	<i>Crepidiastrum ameristophyllum</i>	EN
第4次 2017:	ユズリハワダン	<i>Crepidiastrum ameristophyllum</i>	EN
第4次 2015:	ユズリハワダン	<i>Crepidiastrum ameristophyllum</i>	EN
第4次:	ユズリハワダン	<i>Crepidiastrum ameristophyllum</i>	EN
第3次:	ユズリハワダン	<i>Crepidiastrum ameristophyllum</i>	EN
第2次:	ユズリハワダン	<i>Crepidiastrum ameristophyllum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Crepidiastrum ameristophyllum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Crepidiastrum ameristophyllum* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Other
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ダイトウワダン

Crepidiastrum lanceolatum var. *daitoense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ホソバワダンに似るが、根出葉は倒卵状披針形、光沢があり、厚い。高さ 10-30 cm。側枝の先から口ゼットを出す。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸の岩場に生育。

【分布域】

大東諸島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。250 個体未満と推定されることから、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ダイトウワダン	<i>Crepidiastrum lanceolatum</i> var. <i>daitoense</i>	CR
第4次 2019:	ダイトウワダン	<i>Crepidiastrum lanceolatum</i> var. <i>daitoense</i>	CR
第4次 2018:	ダイトウワダン	<i>Crepidiastrum lanceolatum</i> var. <i>daitoense</i>	CR
第4次 2017:	ダイトウワダン	<i>Crepidiastrum lanceolatum</i> var. <i>daitoense</i>	CR
第4次 2015:	ダイトウワダン	<i>Crepidiastrum lanceolatum</i> var. <i>daitoense</i>	CR
第4次:	ダイトウワダン	<i>Crepidiastrum lanceolatum</i> var. <i>daitoense</i>	CR
第3次:	ダイトウワダン	<i>Crepidiastrum lanceolatum</i> var. <i>daitoense</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Crepidiastrum lanceolatum var. *daitoense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Crepidiastrum lanceolatum* var. *daitoense* is listed as EN under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヘラナレン

*Crepidiastrum linguifolium***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1.5 m。主幹はなく、側枝を分岐し、平らな樹冠を作る。葉身は長さ 10-18 cm、狭楕円形または楕円状倒披針形、全縁で縁は波を打つ。花序の主枝はいちじるしく分枝し、散房花序をつける。頭花は白色。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

海岸の風当りの強いところに生育。

【分布域】

小笠原諸島（母島列島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。平均減少率は 63%であった。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査**【「現存する株数」別のメッシュ数】**

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	2	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハラナレン	<i>Crepidiastrum linguifolium</i>	VU
第4次 2019:	ハラナレン	<i>Crepidiastrum linguifolium</i>	VU
第4次 2018:	ハラナレン	<i>Crepidiastrum linguifolium</i>	VU
第4次 2017:	ハラナレン	<i>Crepidiastrum linguifolium</i>	VU
第4次 2015:	ハラナレン	<i>Crepidiastrum linguifolium</i>	VU
第4次:	ハラナレン	<i>Crepidiastrum linguifolium</i>	VU
第3次:	ハラナレン	<i>Crepidiastrum linguifolium</i>	EN
第2次:	ハラナレン	<i>Crepidiastrum linguifolium</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Crepidiastrum linguifolium has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Crepidiastrum linguifolium* is listed as EN under criteria ACD.
The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ワダンノキ

*Dendrocacalia crepidifolia***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 4 m に達する。葉身は長さ 9-16 cm、倒卵形または長楕円形、全縁または浅い低鋸歯がまばらにある。頭花は長さ 9 mm、平頭の散房状円錐花序に多数つき、ふつう 5 個の筒状花からなる。花冠は淡紅紫色、花期の終りにはより濃色となる。

【生活史】

常緑小高木。

【生育環境】

山地に生育。

【分布域】

小笠原諸島（母島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	その他	
件数 2	2	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ワダンノキ	<i>Dendrocacalia crepidifolia</i>	VU
第4次 2019:	ワダンノキ	<i>Dendrocacalia crepidifolia</i>	VU
第4次 2018:	ワダンノキ	<i>Dendrocacalia crepidifolia</i>	VU
第4次 2017:	ワダンノキ	<i>Dendrocacalia crepidifolia</i>	VU
第4次 2015:	ワダンノキ	<i>Dendrocacalia crepidifolia</i>	VU
第4次:	ワダンノキ	<i>Dendrocacalia crepidifolia</i>	VU
第3次:	ワダンノキ	<i>Dendrocacalia crepidifolia</i>	VU
第2次:	ワダンノキ	<i>Dendrocacalia crepidifolia</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dendrocacalia crepidifolia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Dendrocacalia crepidifolia* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Natural succession, Other

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アポイアズマギク

Erigeron thunbergii subsp. *glabratus* var. *angustifolius***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミヤマアズマギクに似るが、根出葉は長さ 3-4 cm、幅は 2-4 mm と狭い。冠毛は長さ 2-2.5 mm、汚白色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

蛇紋岩地に生育。

【分布域】

北海道（アポイ岳）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アポイアズマギク	<i>Erigeron thunbergii</i> subsp. <i>glabratus</i> var. <i>angustifolius</i>	EN
第4次 2019:	アポイアズマギク	<i>Erigeron thunbergii</i> subsp. <i>glabratus</i> var. <i>angustifolius</i>	EN
第4次 2018:	アポイアズマギク	<i>Erigeron thunbergii</i> subsp. <i>glabratus</i> var. <i>angustifolius</i>	EN
第4次 2017:	アポイアズマギク	<i>Erigeron thunbergii</i> subsp. <i>glabratus</i> var. <i>angustifolius</i>	EN
第4次 2015:	アポイアズマギク	<i>Erigeron thunbergii</i> subsp. <i>glabratus</i> var. <i>angustifolius</i>	EN
第4次:	アポイアズマギク	<i>Erigeron thunbergii</i> subsp. <i>glabratus</i> var. <i>angustifolius</i>	EN
第3次:	アポイアズマギク	<i>Erigeron thunbergii</i> subsp. <i>glabratus</i> var. <i>angustifolius</i>	CR
第2次:	アポイアズマギク	<i>Erigeron thunbergii</i> var. <i>angustifolius</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Erigeron thunbergii subsp. *glabratus* var. *angustifolius* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Erigeron thunbergii* subsp. *glabratus* var. *angustifolius* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ネバリイズハハコ

Eschenbachia leucantha

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

キクバイズハハコ、イズハハコに似るが、根出葉は花期に生存せず、全体に細かい粘毛を密生して粘り気がある。高さ 1 m に達する。葉身は長楕円形、まばらに浅い鋸歯があり、基部は茎を抱かない。

【生活史】

一年草～越年草。

【生育環境】

日当たりのよい低地の草地に生育。

【分布域】

先島諸島、台湾・中国南部・オーストラリアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。産地と個体数が限られる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ネバリイズハハコ	<i>Conyza leucantha</i>	EN
第4次 2019:	ネバリイズハハコ	<i>Conyza leucantha</i>	EN
第4次 2018:	ネバリイズハハコ	<i>Conyza leucantha</i>	EN
第4次 2017:	ネバリイズハハコ	<i>Conyza leucantha</i>	EN
第4次 2015:	ネバリイズハハコ	<i>Conyza leucantha</i>	EN
第4次:	ネバリイズハハコ	<i>Conyza leucantha</i>	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eschenbachia leucantha has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Eschenbachia leucantha is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エゾコウゾリナ

*Hypochaeris crepidioides***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根出葉はロゼット状。高さ 14-38 cm。頭花の下は太く、径 2.5-6 mm。根出葉は長さ 6-16 cm、広倒披針形。頭花は径 3-4 cm、黄色。総苞は長さ 14-18 mm、黒色。総苞片は 3 列。総苞外片に黒い剛毛がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

蛇紋岩地の草原に生育。

【分布域】

北海道（アポイ岳）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では減少率は過大評価とされた。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾコウゾリナ	<i>Hypochaeris crepidioides</i>	EN
第4次 2019:	エゾコウゾリナ	<i>Hypochaeris crepidioides</i>	EN
第4次 2018:	エゾコウゾリナ	<i>Hypochaeris crepidioides</i>	EN
第4次 2017:	エゾコウゾリナ	<i>Hypochaeris crepidioides</i>	EN
第4次 2015:	エゾコウゾリナ	<i>Hypochaeris crepidioides</i>	EN
第4次:	エゾコウゾリナ	<i>Hypochaeris crepidioides</i>	EN
第3次:	エゾコウゾリナ	<i>Hypochaeris crepidioides</i>	EN
第2次:	エゾコウゾリナ	<i>Hypochaeris crepidioides</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hypochaeris crepidioides has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hypochaeris crepidioides* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホソバニガナ

Ixeridium beauverdianum

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 E
20 年間の絶滅確率が 20%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 16-65 cm。根出葉は花期に生存する。根出葉は長さ 5-15 cm、線状披針形。茎葉はふつう 3 個、線状披針形。頭花は 5-6 個の小花からなる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

河原の砂礫地に生育。

【分布域】

本州（関東以西）～九州、中国～ヒマラヤに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、6 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	2	1	1	0	0	6	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	草地開発	湿地開発
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホソバニガナ	<i>Ixeridium beauverdianum</i>	EN
第4次 2019:	ホソバニガナ	<i>Ixeridium beauverdianum</i>	EN
第4次 2018:	ホソバニガナ	<i>Ixeridium beauverdianum</i>	EN
第4次 2017:	ホソバニガナ	<i>Ixeridium beauverdianum</i>	EN
第4次 2015:	ホソバニガナ	<i>Ixeridium beauverdianum</i>	EN
第4次:	ホソバニガナ	<i>Ixeridium beauverdianum</i>	EN
第3次:	ホソバニガナ	<i>Ixeridium makinoanum</i>	EN
第2次:	ホソバニガナ	<i>Ixeris makinoana</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(Bランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 千葉県[消息不明・絶滅生物(X)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 大阪府[EX] 兵庫県[Aランク] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岡山県[絶滅危惧Ⅱ類] 広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅危惧ⅠB類] 熊本県[情報不足(DD)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 岐阜県環境生活部自然環境保全課，2014. 岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物（植物編）改訂版—岐阜県レッドデータブック（植物編）改訂版—. <https://www.pref.gifu.lg.jp/page/11109.html>（2024 月 9 月 5 日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ixeridium beauverdianum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Ixeridium beauverdianum is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Natural succession, Grassland development, Wetland development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イソニガナ

*Ixeridium dentatum subsp. nipponicum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ニガナに似るが、全体的に大きく、高さ 40 cm に達し、根出葉は長さ 23 cm、幅 6 cm にもなる。茎葉は円形～楕円形、基部ははっきり茎を抱く。小花は 8-11 個と多く、黄色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸に生育。

【分布域】

新潟県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査**【「現存する株数」別のメッシュ数】**

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イソニガナ	<i>Ixeridium dentatum</i> subsp. <i>nipponicum</i>	VU
第4次 2019:	イソニガナ	<i>Ixeridium dentatum</i> subsp. <i>nipponicum</i>	VU
第4次 2018:	イソニガナ	<i>Ixeridium dentatum</i> subsp. <i>nipponicum</i>	VU
第4次 2017:	イソニガナ	<i>Ixeridium dentatum</i> subsp. <i>nipponicum</i>	VU
第4次 2015:	イソニガナ	<i>Ixeridium dentatum</i> subsp. <i>nipponicum</i>	VU
第4次:	イソニガナ	<i>Ixeridium dentatum</i> subsp. <i>nipponicum</i>	VU
第3次:	イソニガナ	<i>Ixeridium dentatum</i> subsp. <i>nipponicum</i>	VU
第2次:	イソニガナ	<i>Ixeris dentata</i> ssp. <i>nipponica</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

新潟県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ixeridium dentatum subsp. *nipponicum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ixeridium dentatum* subsp. *nipponicum* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エゾウスユキソウ

Leontopodium discolor

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15-30 cm。有花茎と無花茎がある。無花茎の葉の葉身は長さ 3.5-8 cm、倒披針形。有花茎の葉の葉身は披針形。星状の苞葉群は径 2.5-6 cm。頭花は 5-22 個が密生する。総苞は径 6 mm。花冠は長さ 2 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸～亜高山の岩がちの草地や林下の風穴に生育。

【分布域】

北海道（礼文島・藻琴山・ニペソツ山・釧路昆布森）、サハリン・ウスリーに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 3		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾウスユキソウ	<i>Leontopodium discolor</i>	EN
第4次 2019:	エゾウスユキソウ	<i>Leontopodium discolor</i>	EN
第4次 2018:	エゾウスユキソウ	<i>Leontopodium discolor</i>	EN
第4次 2017:	エゾウスユキソウ	<i>Leontopodium discolor</i>	EN
第4次 2015:	エゾウスユキソウ	<i>Leontopodium discolor</i>	EN
第4次:	エゾウスユキソウ	<i>Leontopodium discolor</i>	EN
第3次:	エゾウスユキソウ	<i>Leontopodium discolor</i>	EN
第2次:	エゾウスユキソウ	<i>Leontopodium discolor</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Leontopodium discolor has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Leontopodium discolor is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハヤチネウスユキソウ

*Leontopodium hayachinense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15-30 cm。有花茎と無花茎がある。無花茎の葉の葉身は長さ 3-8 cm、倒披針形。有花茎の葉の葉身は長さ 2-5 cm、広線形～線状倒披針形。星状の苞葉群は径 4-6 cm。頭花は 4-8 個。総苞は径 7-9 mm。花冠は長さ 3 mm。

【生活史】

多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

高山の岩礫地に生育。

【分布域】

岩手県（早池峰山）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数千個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	1	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハヤチネウスユキソウ	<i>Leontopodium hayachinense</i>	EN
第4次 2019:	ハヤチネウスユキソウ	<i>Leontopodium hayachinense</i>	EN
第4次 2018:	ハヤチネウスユキソウ	<i>Leontopodium hayachinense</i>	EN
第4次 2017:	ハヤチネウスユキソウ	<i>Leontopodium hayachinense</i>	EN
第4次 2015:	ハヤチネウスユキソウ	<i>Leontopodium hayachinense</i>	EN
第4次:	ハヤチネウスユキソウ	<i>Leontopodium hayachinense</i>	EN
第3次:	ハヤチネウスユキソウ	<i>Leontopodium hayachinense</i>	EN
第2次:	ハヤチネウスユキソウ	<i>Leontopodium hayachinense</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[A ランク]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Leontopodium hayachinense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Leontopodium hayachinense* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae キク科 Asteraceae/Compositae

ミコシギク

Leucanthemella linearis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は叢生する。高さ 50-150 cm。葉はふつう 1-2 対に羽裂。頭花は径 3-6 cm、長柄があり白色。総苞は長さ 5-6 mm、総苞片は 3 列。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

日当りのよい湿地に生育。

【分布域】

本州・九州、朝鮮半島・中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	人の踏みつけ	自然遷移
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミコシギク	<i>Leucanthemella linearis</i>	VU
第4次 2019:	ミコシギク	<i>Leucanthemella linearis</i>	VU
第4次 2018:	ミコシギク	<i>Leucanthemella linearis</i>	VU
第4次 2017:	ミコシギク	<i>Leucanthemella linearis</i>	VU
第4次 2015:	ミコシギク	<i>Leucanthemella linearis</i>	VU
第4次:	ミコシギク	<i>Leucanthemella linearis</i>	VU
第3次:	ミコシギク	<i>Leucanthemella linearis</i>	VU
第2次:	ミコシギク	<i>Leucanthemella linearis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

茨城県[絶滅危惧ⅠA類] 群馬県[絶滅(EX)] 千葉県[消息不明・絶滅生物(X)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 熊本県[絶滅(EX)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Leucanthemella linearis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Leucanthemella linearis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Human trampling, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤマタバコ

*Ligularia angusta***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1-1.5 m。根出葉は 17-30 cm、卵状長楕円形、直立する。葉柄は長さ 15-35 cm、上部は翼がある。茎葉はふつう 3 個、直立し、下部の葉は長楕円形で円頭、基部は広く茎を抱き、やや鞘状となる。花序は長さ 35 cm、総状花序。頭花の柄は長さ 5-10 mm。総苞は長さ 6-8 mm、緑白色。舌状花は長さ 17 mm、3 個かまれに 4-5 個。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の草原に生育。

【分布域】

本州（東北地方から関東地方北部の太平洋側）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	2	0	0	4	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 管理放棄		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤマタバコ	<i>Ligularia angusta</i>	CR
第4次 2019:	ヤマタバコ	<i>Ligularia angusta</i>	CR
第4次 2018:	ヤマタバコ	<i>Ligularia angusta</i>	CR
第4次 2017:	ヤマタバコ	<i>Ligularia angusta</i>	CR
第4次 2015:	ヤマタバコ	<i>Ligularia angusta</i>	CR
第4次:	ヤマタバコ	<i>Ligularia angusta</i>	CR
第3次:	ヤマタバコ	<i>Ligularia angusta</i>	CR
第2次:	ヤマタバコ	<i>Ligularia angusta</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 東京都(伊豆諸島)[情報不足(DD)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 岐阜県[情報不足] 静岡県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 愛知県[絶滅(EX)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ligularia angusta has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ligularia angusta* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Abandonment of management
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメキクタビラコ

*Myriactis japonensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

地下茎は細い。高さ 3-12 cm。茎は密に綿毛がある。葉身は長さ 2.5-4 cm、倒披針状長楕円形、口ゼット状で密に毛があり、1-4 対に羽裂し、側裂片は不揃い。頭花は長柄に単生する。総苞は長さ 2.5 mm、半球形。舌状花は長さ 1 mm、白色または淡紅色。瘦果は長さ 2 mm。

【生活史】

多年草。花期は 7-9 月。

【生育環境】

高山の湿地に生育。

【分布域】

屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 5 メッシュで計数十個体が現存していた。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	3	0	0	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメキクタビラコ	<i>Myriactis japonensis</i>	EN
第4次 2019:	ヒメキクタビラコ	<i>Myriactis japonensis</i>	EN
第4次 2018:	ヒメキクタビラコ	<i>Myriactis japonensis</i>	EN
第4次 2017:	ヒメキクタビラコ	<i>Myriactis japonensis</i>	EN
第4次 2015:	ヒメキクタビラコ	<i>Myriactis japonensis</i>	EN
第4次:	ヒメキクタビラコ	<i>Myriactis japonensis</i>	EN
第3次:	ヒメキクタビラコ	<i>Myriactis japonensis</i>	EN
第2次:	ヒメキクタビラコ	—	NT
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Myriactis japonensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Myriactis japonensis is listed as EN under criteria D.
 D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミヤマコウモリソウ

Parasenecio farfarifolius var. *acerinus***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ウスゲタマブキに似るが、茎が細く、葉に掌状の切れ込みがある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

夏緑林の林内に生育。

【分布域】

本州（中部地方南部・近畿地方）・四国・九州に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。平均減少率は 80%であった。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	4	0	1	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	自然遷移	
件数 4	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミヤマコウモリソウ	<i>Parasenecio farfarifolius</i> var. <i>acerinus</i>	EN
第4次 2019:	ミヤマコウモリソウ	<i>Parasenecio farfarifolius</i> var. <i>acerinus</i>	EN
第4次 2018:	ミヤマコウモリソウ	<i>Parasenecio farfarifolius</i> var. <i>acerinus</i>	EN
第4次 2017:	ミヤマコウモリソウ	<i>Parasenecio farfarifolius</i> var. <i>acerinus</i>	EN
第4次 2015:	ミヤマコウモリソウ	<i>Parasenecio farfarifolius</i> var. <i>acerinus</i>	EN
第4次:	ミヤマコウモリソウ	<i>Parasenecio farfarifolius</i> var. <i>acerinus</i>	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

神奈川県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[情報不足(DD)] 静岡県[要注目種(N-Ⅲ部会注目種)] 愛知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 大阪府[VU] 兵庫県[Aランク] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 愛媛県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 高知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 大分県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Parasenecio farfarifolius var. *acerinus* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Parasenecio farfarifolius* var. *acerinus* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession
Law designation status for	—

conservation	

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメコウモリソウ

*Parasenecio shikokianus***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 25-35 cm。茎はジグザグ状に伸びる。茎葉の葉身は長さ 3.5-4.5 cm、五角形状腎形。頭花は散房状に斜上して咲く。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

夏緑林内に生育。

【分布域】

四国・紀伊半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	1	0	2	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	自然遷移	
件数 3	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメコウモリソウ	<i>Parasenecio shikokianus</i>	VU
第4次 2019:	ヒメコウモリソウ	<i>Parasenecio shikokianus</i>	VU
第4次 2018:	ヒメコウモリソウ	<i>Parasenecio shikokianus</i>	VU
第4次 2017:	ヒメコウモリソウ	<i>Parasenecio shikokianus</i>	VU
第4次 2015:	ヒメコウモリソウ	<i>Parasenecio shikokianus</i>	VU
第4次:	ヒメコウモリソウ	<i>Parasenecio shikokianus</i>	VU
第3次:	ヒメコウモリソウ	<i>Parasenecio shikokianus</i>	VU
第2次:	ヒメコウモリソウ	<i>Cacalia shikokiana</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠB類] 愛媛県[情報不足(DD)] 高知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Parasenecio shikokianus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Parasenecio shikokianus* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アキノハハコグサ

Pseudognaphalium hypoleucum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 30-60 cm。葉身は長さ 4-5 cm、披針形、鋭頭、裏面は綿毛があって白い。散房状に多くの頭花をつける。総苞は長さ 4 mm、総苞片は 5 列、淡黄色。

【生活史】

一年草。

【生育環境】

乾いた草原に生育。

【分布域】

本州～九州、朝鮮半島・中国・台湾・フィリピン・東南アジア・インド・ヒマラヤ・西アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで絶滅し、12 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
8	3	1	0	0	0	12	4	14

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	道路工事	管理放棄
件数 12	6	4

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アキノハハコグサ	<i>Gnaphalium hypoleucum</i>	EN
第4次 2019:	アキノハハコグサ	<i>Gnaphalium hypoleucum</i>	EN
第4次 2018:	アキノハハコグサ	<i>Gnaphalium hypoleucum</i>	EN
第4次 2017:	アキノハハコグサ	<i>Gnaphalium hypoleucum</i>	EN
第4次 2015:	アキノハハコグサ	<i>Gnaphalium hypoleucum</i>	EN
第4次:	アキノハハコグサ	<i>Gnaphalium hypoleucum</i>	EN
第3次:	アキノハハコグサ	<i>Gnaphalium hypoleucum</i>	VU
第2次:	アキノハハコグサ	<i>Gnaphalium hypoleucum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[A ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 秋田県[情報不足種(DD)] 山形県[絶滅(EX)] 福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 茨城県[絶滅危惧Ⅱ類] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(A ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 千葉県[重要保護生物(B)] 東京都(本土部)[区部:絶滅(EX) 本土部:絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(北多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(南多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 富山県[絶滅危惧Ⅱ類] 石川県[情報不足(DD)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[準絶滅危惧(NT)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅱ類] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 三重県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 滋賀県[絶滅危惧種] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[EX] 兵庫県[絶滅(EX)] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岡山県[絶滅危惧Ⅱ類] 広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠB類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅱ類種] 長崎県[情報不足(DD)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Pseudognaphalium hypoleucum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pseudognaphalium hypoleucum* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Road construction, Abandonment of management
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カムイトウヒレン

*Saussurea kenjihorieana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 110-130 cm で、茎は直立し、上部には明瞭な翼がある。頭花は 5-9 個が散房状に密集してつき、総苞は狭筒形、花冠は淡紫色。類似するフォーリーアザミ *Saussurea fauriei* と比べ、茎が紫色を帯び、茎葉は鋸歯が小さな突起状となるやや全縁状でやわらかく鈍い光沢があり、総苞片は 7 列で総苞外片と中片の先端が円頭となることで区別される。

【生活史】

多年生草本。花期は 7-8 月。

【生育環境】

超塩基性岩地急斜面の高茎草原。類似するフォーリーアザミは主に海岸草原に生育。

【分布域】

北海道旭川市幌内山地に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

詳細については不明。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Kadota, Y., 2015. Systematic Studies of Asian *Saussurea* (Asteraceae) VII. A New Species from Hokkaido and Four New Species from Northern Honshu, Japan. *Journal of Japanese Botany*, 90: 158–178.
- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Saussurea kenjihorieana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Saussurea kenjihorieana is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ネコヤマヒゴタイ

*Saussurea modesta***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 30-70 cm。茎は直立する。根出葉は花期に生存する。根出葉と下部の茎葉の葉身は長さ 7-10 cm、披針形、鋸歯がある。葉柄は長さ 3-10 cm。頭花は少数が散形状につく。総苞は長さ 9-10 mm。総苞片は 8-9 列。花冠は長さ 9 mm、紅紫色。

【生活史】

多年草。花期は 9-10 月。

【生育環境】

山地の乾いた草地に生育。

【分布域】

中国地方に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ネコヤマヒゴタイ	<i>Saussurea modesta</i>	VU
第4次 2019:	ネコヤマヒゴタイ	<i>Saussurea modesta</i>	VU
第4次 2018:	ネコヤマヒゴタイ	<i>Saussurea modesta</i>	VU
第4次 2017:	ネコヤマヒゴタイ	<i>Saussurea modesta</i>	VU
第4次 2015:	ネコヤマヒゴタイ	<i>Saussurea modesta</i>	VU
第4次:	ネコヤマヒゴタイ	<i>Saussurea modesta</i>	VU
第3次:	ネコヤマヒゴタイ	<i>Saussurea modesta</i>	VU
第2次:	ネコヤマヒゴタイ	<i>Saussurea modesta</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

栃木県[絶滅] 長野県[準絶滅危惧(NT)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 兵庫県[Aランク] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Saussurea modesta has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Saussurea modesta* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツクシトウヒレン

Saussurea nipponica subsp. *savatieri* var. *higomontana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 40-90 cm。茎は直立する。根出葉は花期に生存する。根出葉の葉身は長さ 10-20 cm、卵形～広卵形、下面に中肋に沿って褐色毛がある。頭花は 3-6 個が散房状につく。総苞は長さ 15 mm、まばらにくも毛がある。総苞片は 10 列。花冠は長さ 8 mm、淡紅紫色～白色。

【生活史】

多年草。花期は 9-10 月。

【生育環境】

石灰岩壁、岩混じりの草地、夏緑林の林縁に生育。

【分布域】

九州中部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツクシトウヒレン	<i>Saussurea nipponica</i> subsp. <i>higomontana</i>	EN
第4次 2019:	ツクシトウヒレン	<i>Saussurea nipponica</i> subsp. <i>higomontana</i>	EN
第4次 2018:	ツクシトウヒレン	<i>Saussurea nipponica</i> subsp. <i>higomontana</i>	EN
第4次 2017:	ツクシトウヒレン	<i>Saussurea nipponica</i> subsp. <i>higomontana</i>	EN
第4次 2015:	ツクシトウヒレン	<i>Saussurea nipponica</i> subsp. <i>higomontana</i>	EN
第4次:	ツクシトウヒレン	<i>Saussurea nipponica</i> subsp. <i>higomontana</i>	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福岡県[絶滅危惧 I B 類] 宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧 I 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Saussurea nipponica subsp. *savatieri* var. *higomontana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Saussurea nipponica* subsp. *savatieri* var. *higomontana* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ウスユキトウヒレン

Saussurea yanagisawae var. *yanagisawae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 5-30 cm。根出葉は花期に生存する。根出葉の葉身は長さ 4-7.5 cm、卵形～長楕円形～披針形、若いとき両面にくも毛がある。頭花は 4-8 個が散房状につく。総苞は長さ 11-13 mm。総苞片は 4 列。花冠は長さ 11-12 mm、紅紫色。

【生活史】

多年草。花期は 8-9 月。

【生育環境】

高山の砂礫地に生育。

【分布域】

北海道（大雪山系・トムラウシ山・芦別岳・奥十勝岳・幌尻岳・羊蹄山）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウスユキトウヒレン	<i>Saussurea yanagisawae</i>	EN
第4次 2019:	ウスユキトウヒレン	<i>Saussurea yanagisawae</i>	EN
第4次 2018:	ウスユキトウヒレン	<i>Saussurea yanagisawae</i>	EN
第4次 2017:	ウスユキトウヒレン	<i>Saussurea yanagisawae</i>	EN
第4次 2015:	ウスユキトウヒレン	<i>Saussurea yanagisawae</i>	EN
第4次:	ウスユキトウヒレン	<i>Saussurea yanagisawae</i>	EN
第3次:	ウスユキトウヒレン	<i>Saussurea yanagisawae</i>	EN
第2次:	ウスユキトウヒレン	<i>Saussurea yanagisawae</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Saussurea yanagisawae var. *yanagisawae* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Saussurea yanagisawae* var. *yanagisawae* is listed as EN under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Human trampling
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コウリンギク

Senecio argunensis

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 E
20 年間の絶滅確率が 20%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 65-160 cm。根出葉は花期に生存しない。中部の茎葉の葉身は長さ 8-10 cm、楕円形～卵状楕円形、羽状に深裂し、裂片は 4-6 対ある。頭花は多数が散房状につく。総苞は長さ 6 mm。

【生活史】

多年草。花期は 8-10 月。

【生育環境】

山地の湿草原に生育。

【分布域】

九州（大分県・熊本県・宮崎県）、朝鮮半島・中国・ロシア極東・モンゴルに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュの限られた場所に数百個体が自生していた。植生の遷移、草地開発により減少傾向にあった。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コウリングク	<i>Senecio argunensis</i>	EN
第4次 2019:	コウリングク	<i>Senecio argunensis</i>	EN
第4次 2018:	コウリングク	<i>Senecio argunensis</i>	EN
第4次 2017:	コウリングク	<i>Senecio argunensis</i>	EN
第4次 2015:	コウリングク	<i>Senecio argunensis</i>	EN
第4次:	コウリングク	<i>Senecio argunensis</i>	EN
第3次:	コウリングク	<i>Senecio argunensis</i>	EN
第2次:	コウリングク	<i>Senecio argunensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

大分県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Senecio argunensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Senecio argunensis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ソラチアオヤギバナ

*Solidago horieana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 20-60 cm の草本で葉は披針形、頭花は約 2 cm で舌状花は黄色。

【生活史】

多年生草本。花期は 7 月。

【生育環境】

蛇紋岩地の溪流沿いに生育。

【分布域】

北海道・道北地方の蛇紋岩が露出する溪流沿いに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

発見当時から大きな変化なし。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 文献なし

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Solidago horieana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Solidago horieana* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤブレガサモドキ

Syneilesis tagawae var. *tagawae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 C

推定開花株数 2500 個体未満かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は高さ 1-1.2 m。下部の茎葉の葉身は径 24-30 cm、円形、掌状に深裂し、裂片は 6-8 個、しばしば 2 裂。葉柄は長さ 20 cm。まれに葉腋にむかごをつける。散房状花序は幅 10-20 cm。頭花は径 7-10 mm。総苞は長さ 8-10 mm、総苞片は 5 個。小花は 9-11 個。花冠は長さ 9-9.5 mm、淡紅紫色～白色。

【生活史】

多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

日当たりのよい低山～山地草原に生育。

【分布域】

本州（兵庫県）・四国（高知県・愛媛県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 C により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	4	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	シカ食害	園芸採取
件数	1	1

2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤブレガサモドキ	<i>Syneilesis tagawae</i>	EN
第4次 2019:	ヤブレガサモドキ	<i>Syneilesis tagawae</i>	EN
第4次 2018:	ヤブレガサモドキ	<i>Syneilesis tagawae</i>	EN
第4次 2017:	ヤブレガサモドキ	<i>Syneilesis tagawae</i>	EN
第4次 2015:	ヤブレガサモドキ	<i>Syneilesis tagawae</i>	EN
第4次:	ヤブレガサモドキ	<i>Syneilesis tagawae</i>	EN
第3次:	ヤブレガサモドキ	<i>Syneilesis tagawae</i>	CR
第2次:	ヤブレガサモドキ	<i>Syneilesis tagawae</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

兵庫県[A ランク] 愛媛県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 高知県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Syneilesis tagawae var. *tagawae* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Syneilesis tagawae* var. *tagawae* is listed as EN under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.

Threat types:	Natural succession, Deer feeding damage, Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イズカニコウモリ

*Taimingasa amagiensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 40-60 cm。葉はふつう 2 枚。下部の茎葉の葉身は長さ 12-13 cm、腎形、歯牙縁がある。頭花は総状円錐花序に多数つく。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

夏緑林の林床に生育。

【分布域】

伊豆半島と箱根に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イズカニコウモリ	<i>Parasenecio amagiensis</i>	VU
第4次 2019:	イズカニコウモリ	<i>Parasenecio amagiensis</i>	VU
第4次 2018:	イズカニコウモリ	<i>Parasenecio amagiensis</i>	VU
第4次 2017:	イズカニコウモリ	<i>Parasenecio amagiensis</i>	VU
第4次 2015:	イズカニコウモリ	<i>Parasenecio amagiensis</i>	VU
第4次:	イズカニコウモリ	<i>Parasenecio amagiensis</i>	VU
第3次:	イズカニコウモリ	<i>Parasenecio amagiensis</i>	VU
第2次:	イズカニコウモリ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

神奈川県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 静岡県[準絶滅危惧(NT)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Taimingasa amagiensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Taimingasa amagiensis* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クモマタンポポ

Taraxacum ceratophorum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は羽状中裂する。頭花は径約 3 cm。花冠は濃黄色、雌蕊は黒色を帯びる。総苞は長さ 12-15 mm。総苞外片は総苞の 1/2 を覆う。

【生活史】

多年草。花期は 6-8 月。

【生育環境】

高山帯に生育。

【分布域】

北海道（大雪山系）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュの限られた場所に数百個体が現存と報告された。植生の遷移、開発が影響していると推測された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クモタンポポ	<i>Taraxacum trigonolobum</i>	EN
第4次 2019:	クモタンポポ	<i>Taraxacum trigonolobum</i>	EN
第4次 2018:	クモタンポポ	<i>Taraxacum trigonolobum</i>	EN
第4次 2017:	クモタンポポ	<i>Taraxacum trigonolobum</i>	EN
第4次 2015:	クモタンポポ	<i>Taraxacum trigonolobum</i>	EN
第4次:	クモタンポポ	<i>Taraxacum trigonolobum</i>	EN
第3次:	クモタンポポ	<i>Taraxacum trigonolobum</i>	EN
第2次:	クモタンポポ	<i>Taraxacum trigonolobum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Taraxacum ceratophorum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Taraxacum ceratophorum* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クザカイトンポポ

*Taraxacum kuzakaiense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根出葉は倒披針状線形、羽状深裂する。頭花は黄色。総苞は角がなく、外片は内片の 1/2 の長さ、長楕円形、反転せず、おおむね緑色、やや鋭尖頭となる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の草原や林縁などの日当たりがよい場所に生育。

【分布域】

岩手県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 8 メッシュで計数十個体と推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
7	0	1	0	0	0	8	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クザカイトンポポ	<i>Taraxacum kuzakaiense</i>	EN
第4次 2019:	クザカイトンポポ	<i>Taraxacum kuzakaiense</i>	EN
第4次 2018:	クザカイトンポポ	<i>Taraxacum kuzakaiense</i>	EN
第4次 2017:	クザカイトンポポ	<i>Taraxacum kuzakaiense</i>	EN
第4次 2015:	クザカイトンポポ	<i>Taraxacum kuzakaiense</i>	EN
第4次:	クザカイトンポポ	<i>Taraxacum kuzakaiense</i>	EN
第3次:	クザカイトンポポ	<i>Taraxacum kuzakaiense</i>	EN
第2次:	クザカイトンポポ	<i>Taraxacum kuzakaiense</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[A ランク]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 岩手県環境生活部自然保護課, 2014. いわてレッドデータブック 岩手の希少な野生生物 web 版. <https://www2.pref.iwate.jp/~hp0316/rd/rdb/index.html> (2024 年 9 月 6 日閲覧).

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Taraxacum kuzakaiense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Taraxacum kuzakaiense* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タカネタンポポ

Taraxacum yuparense var. *yuparense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は中肋まで羽状深裂し、裂片は三角形。葉柄に翼はほぼ無い。頭花は径 2-3 cm。花冠は濃黄色、雌蕊は黄色。総苞は長さ 12-15 mm。総苞外片は総苞の 1/2 を覆う。

【生活史】

多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

蛇紋岩地に生育。

【分布域】

北海道（夕張岳）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	自然遷移	産地局限
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タカネタンポポ	<i>Taraxacum yuparense</i>	EN
第4次 2019:	タカネタンポポ	<i>Taraxacum yuparense</i>	EN
第4次 2018:	タカネタンポポ	<i>Taraxacum yuparense</i>	EN
第4次 2017:	タカネタンポポ	<i>Taraxacum yuparense</i>	EN
第4次 2015:	タカネタンポポ	<i>Taraxacum yuparense</i>	EN
第4次:	タカネタンポポ	<i>Taraxacum yuparense</i>	EN
第3次:	タカネタンポポ	<i>Taraxacum yuparense</i>	EN
第2次:	タカネタンポポ	<i>Taraxacum yuparense</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Taraxacum yuparense var. *yuparense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Taraxacum yuparense* var. *yuparense* is listed as EN under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タカネコウリンギク

Tephrosieris flammea subsp. *flammea*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15-40 cm。密に縮毛、くも毛がある。頭花は径 30-32 mm、2-7 個がやや散状につく。総苞は長さ 5 mm、舌状花冠は長さ 13-22 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の草原に生育。

【分布域】

九州北部、朝鮮半島・中国・ロシア極東地方に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュで絶滅し、11 メッシュで計数百個体と推定された。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
7	1	3	0	0	0	11	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タカネコウリングク	<i>Tephroseris flammea</i> subsp. <i>flammea</i>	EN
第4次 2019:	タカネコウリングク	<i>Tephroseris flammea</i> subsp. <i>flammea</i>	EN
第4次 2018:	タカネコウリングク	<i>Tephroseris flammea</i> subsp. <i>flammea</i>	EN
第4次 2017:	タカネコウリングク	<i>Tephroseris flammea</i> subsp. <i>flammea</i>	EN
第4次 2015:	タカネコウリングク	<i>Tephroseris flammea</i> subsp. <i>flammea</i>	EN
第4次:	タカネコウリングク	<i>Tephroseris flammea</i> subsp. <i>flammea</i>	EN
第3次:	タカネコウリングク	<i>Tephroseris flammea</i> subsp. <i>flammea</i>	EN
第2次:	タカネコウリングク	<i>Senecio flammeus</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 大分県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Tephroseris flammea subsp. *flammea* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Tephroseris flammea* subsp. *flammea* is listed as EN under criteria ACD.
The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キバナコウリンカ

*Tephrosieris furusei***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 20-50 cm。下部の茎葉は長さ 8-16 cm、さじ形。頭花は径 2.5-3.5 cm、5 個がやや散形状につき、黄色。総苞は長さ 5-7 mm、舌状花冠は長さ 12-16 mm。

【生活史】

多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

石灰岩地に生育。

【分布域】

本州（埼玉県・群馬県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キバナコウリンカ	<i>Tephroseris furusei</i>	EN
第4次 2019:	キバナコウリンカ	<i>Tephroseris furusei</i>	EN
第4次 2018:	キバナコウリンカ	<i>Tephroseris furusei</i>	EN
第4次 2017:	キバナコウリンカ	<i>Tephroseris furusei</i>	EN
第4次 2015:	キバナコウリンカ	<i>Tephroseris furusei</i>	EN
第4次:	キバナコウリンカ	<i>Tephroseris furusei</i>	EN
第3次:	キバナコウリンカ	<i>Tephroseris furusei</i>	EN
第2次:	キバナコウリンカ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Tephroseris furusei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Tephroseris furusei is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオチョウジガマズミ

Viburnum carlesii var. *carlesii*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1–3 m。葉は広円卵形～卵形、縁には鋸歯があり、両面には細かい毛があり、表面には束生毛またはしばしば開出する軟毛が、裏面の脈上には星状毛があり、側脈は 4–6 対。葉柄は長さ 3–9 mm。集散花序は径 3–5 cm、頂生し、密に花がつく。花は白色で外側がピンク色がかかり、花冠は高杯状で径 10–16 mm、筒部は円筒形で長さ 6–12 mm、雄蕊は花筒から突出しない。核果は広楕円形で扁平、長さ 7–9 mm、黒熟する。

【生活史】

落葉低木。花期は 4 月。果期は 6–10 月。

【生育環境】

海岸や山地の日当たりのよい林縁や開けた崖に生育する。

【分布域】

対馬、朝鮮半島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害		

件数 2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオチョウジガマズミ	<i>Viburnum carlesii</i> var. <i>carlesii</i>	EN
第4次 2019:	オオチョウジガマズミ	<i>Viburnum carlesii</i> var. <i>carlesii</i>	EN
第4次 2018:	オオチョウジガマズミ	<i>Viburnum carlesii</i> var. <i>carlesii</i>	EN
第4次 2017:	オオチョウジガマズミ	<i>Viburnum carlesii</i> var. <i>carlesii</i>	EN
第4次 2015:	オオチョウジガマズミ	<i>Viburnum carlesii</i> var. <i>carlesii</i>	EN
第4次:	オオチョウジガマズミ	<i>Viburnum carlesii</i> var. <i>carlesii</i>	EN
第3次:	オオチョウジガマズミ	<i>Viburnum carlesii</i> var. <i>carlesii</i>	EN
第2次:	オオチョウジガマズミ	<i>Viburnum carlesii</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 長崎県県民生活環境部自然保護課，2001. ながさきの希少な野生動植物 レッドデータブック 2001. 長崎県県民生活環境部自然保護課，568pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Viburnum carlesii var. *carlesii* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Viburnum carlesii var. *carlesii* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.	
Threat types:	Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒロハガマズミ

Viburnum koreanum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1–2 m。葉は対生、倒卵形～円形で長さ 3–7 cm、ふつう浅く 3 裂して長さ 1–3 cm の裂片があり、葉基部から掌状に 3–5 脈があり、表面の脈は凹み、縁には鋭い鋸歯があり、葉柄は長さ 6–15 mm、しばしば基部付近には托葉がある。散房花序は今年の側枝の先にふつう 1 対の葉とともにつき、径 2.5–4 cm で、5–30 個の花をつける。花冠は乳白色、車状、径 6–8 mm で、合着部は短く、長さ約 1.2 mm。核果は楕円体で、長さ 7–11 mm、帯黄赤色または暗赤色である。

【生活史】

落葉低木。花期は 6–7 月。果期は 8–9 月。

【生育環境】

亜高山帯の林内に生育する。

【分布域】

北海道（石狩・日高支庁）、朝鮮半島・中国（東北部）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化はない。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	–	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒロハガマズミ	<i>Viburnum koreanum</i>	EN
第4次 2019:	ヒロハガマズミ	<i>Viburnum koreanum</i>	EN
第4次 2018:	ヒロハガマズミ	<i>Viburnum koreanum</i>	EN
第4次 2017:	ヒロハガマズミ	<i>Viburnum koreanum</i>	EN
第4次 2015:	ヒロハガマズミ	<i>Viburnum koreanum</i>	EN
第4次:	ヒロハガマズミ	<i>Viburnum koreanum</i>	EN
第3次:	ヒロハガマズミ	<i>Viburnum koreanum</i>	CR
第2次:	ヒロハガマズミ	<i>Viburnum koreanum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 梅沢俊，2018. 北海道の草花. 399pp. 北海道新聞社，札幌.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Viburnum koreanum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Viburnum koreanum is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

スルガヒョウタンボク

Lonicera alpigena subsp. *glehnii* var. *watanabeana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

エゾヒョウタンボクに似るが、葉が狭く、毛が少なく、果実は両岐するものが多い。
エゾヒョウタンボクの変異に含まれるとする見解がある。

【生活史】

落葉小高木。

【生育環境】

山地の林床に生育する。

【分布域】

本州（北部・長野県・山梨県・静岡県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
産地局限		
件数		
1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	スルガヒヨウタンボク	<i>Lonicera alpigena</i> subsp. <i>glehnii</i> var. <i>watanabeana</i>	EN
第4次 2019:	スルガヒヨウタンボク	<i>Lonicera alpigena</i> subsp. <i>glehnii</i> var. <i>watanabeana</i>	EN
第4次 2018:	スルガヒヨウタンボク	<i>Lonicera alpigena</i> subsp. <i>glehnii</i> var. <i>watanabeana</i>	EN
第4次 2017:	スルガヒヨウタンボク	<i>Lonicera alpigena</i> subsp. <i>glehnii</i> var. <i>watanabeana</i>	EN
第4次 2015:	スルガヒヨウタンボク	<i>Lonicera alpigena</i> subsp. <i>glehnii</i> var. <i>watanabeana</i>	EN
第4次:	スルガヒヨウタンボク	<i>Lonicera alpigena</i> subsp. <i>glehnii</i> var. <i>watanabeana</i>	EN
第3次:	スルガヒヨウタンボク	<i>Lonicera alpigena</i> subsp. <i>glehnii</i> var. <i>watanabeana</i>	EN
第2次:	スルガヒヨウタンボク	<i>Lonicera alpigena</i> ssp. <i>glehnii</i> var. <i>viridissima</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[情報不足] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅡB類(EN)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 岩手県環境生活部自然保護課，2014. いわてレッドデータブック 岩手の希少な野生生物 web版. <https://www2.pref.iwate.jp/~hp0316/rd/rdb/index.html>（2024年9月6日閲覧）.
- 靱山泰一，1954. スルガハウタンボクについて. 植物研究雑誌，29: 60.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Lonicera alpigena subsp. *glehnii* var. *watanabeana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lonicera alpigena* subsp. *glehnii* var. *watanabeana* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クロブシヒョウタンボク

*Lonicera kurobushiensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は狭卵形～狭楕円形、長さ 1.5–6 cm、幅 1–3 cm、先端は鋭形、基部はくさび形～円形、葉柄は長さ 2–5 mm、葉の両面と葉柄に長毛と黄色い短腺毛がある。花冠は長さ約 1 cm、2 唇性、黄白色。小苞は基部から 1/2 まで合生する。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

夏緑林内に生育する。

【分布域】

山形県・宮城県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。平均減少率は 67%であった。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	2	1	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	森林伐採
件数 3	3	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クロブシヒヨウタンボク	<i>Lonicera kurobushiensis</i>	CR
第4次 2019:	クロブシヒヨウタンボク	<i>Lonicera kurobushiensis</i>	CR
第4次 2018:	クロブシヒヨウタンボク	<i>Lonicera kurobushiensis</i>	CR
第4次 2017:	クロブシヒヨウタンボク	<i>Lonicera kurobushiensis</i>	CR
第4次 2015:	クロブシヒヨウタンボク	<i>Lonicera kurobushiensis</i>	CR
第4次:	クロブシヒヨウタンボク	<i>Lonicera kurobushiensis</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 宮城県環境生活部自然保護課, 2016. 宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI. <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sizenhogo/red-book2016.html> (2024年9月3日閲覧).
- Kadota, Y., 2001. Two new species of *Lonicera* (Caprifoliaceae) from Yamagata Prefecture, northern Japan. Bulletin of the National Museum of Nature and Science. Series B, Botany, 27: 149–158.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Lonicera kurobushiensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lonicera kurobushiensis* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution, Logging and wood harvesting

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コゴメヒョウタンボク

Lonicera linderifolia var. *kono***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヤブヒョウタンボクに似るが、葉は小さく長さ 5-30 mm。花冠は濃紫紅色、長さ 6-8 mm。

【生活史】

落葉小低木

【生育環境】

高山、亜高山の林縁や岩石地に生育する。

【分布域】

本州中部（八ヶ岳、南アルプス）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュで計数百個体と推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コゴメヒョウタンボク	<i>Lonicera linderifolia</i> var. <i>kanoi</i>	EN
第4次 2019:	コゴメヒョウタンボク	<i>Lonicera linderifolia</i> var. <i>kanoi</i>	EN
第4次 2018:	コゴメヒョウタンボク	<i>Lonicera linderifolia</i> var. <i>kanoi</i>	EN
第4次 2017:	コゴメヒョウタンボク	<i>Lonicera linderifolia</i> var. <i>kanoi</i>	EN
第4次 2015:	コゴメヒョウタンボク	<i>Lonicera linderifolia</i> var. <i>kanoi</i>	EN
第4次:	コゴメヒョウタンボク	<i>Lonicera linderifolia</i> var. <i>kanoi</i>	EN
第3次:	コゴメヒョウタンボク	<i>Lonicera linderifolia</i> var. <i>kanoi</i>	EN
第2次:	コゴメヒョウタンボク	<i>Lonicera linderifolia</i> var. <i>kanoi</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 長野県[準絶滅危惧(NT)] 静岡県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lonicera linderifolia var. *kanoi* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lonicera linderifolia* var. *kanoi* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤブヒョウタンボク

Lonicera linderifolia var. *linderifolia***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は楕円形～披針形、長さ 1–6 cm。頂に 2 花が下垂する。花冠は鐘形で暗紫色、長さ 7–9 mm、径約 4 mm。花筒は太く長さ約 5 mm、5 裂片は広卵形で、長さ 1.5–4 mm。液果は球形で離生し、径 5–8 mm、7–8 月に紅熟する。

【生活史】

落葉小低木。

【生育環境】

標高 500–1,300 m の山地に生育する。

【分布域】

岩手県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤブヒヨウタンボク	<i>Lonicera linderifolia</i> var. <i>linderifolia</i>	EN
第4次 2019:	ヤブヒヨウタンボク	<i>Lonicera linderifolia</i> var. <i>linderifolia</i>	EN
第4次 2018:	ヤブヒヨウタンボク	<i>Lonicera linderifolia</i> var. <i>linderifolia</i>	EN
第4次 2017:	ヤブヒヨウタンボク	<i>Lonicera linderifolia</i> var. <i>linderifolia</i>	EN
第4次 2015:	ヤブヒヨウタンボク	<i>Lonicera linderifolia</i> var. <i>linderifolia</i>	EN
第4次:	ヤブヒヨウタンボク	<i>Lonicera linderifolia</i> var. <i>linderifolia</i>	EN
第3次:	ヤブヒヨウタンボク	<i>Lonicera linderifolia</i>	EN
第2次:	ヤブヒヨウタンボク	<i>Lonicera linderifolia</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[A ランク]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lonicera linderifolia var. *linderifolia* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lonicera linderifolia* var. *linderifolia* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キンキヒョウタンボク

Lonicera ramosissima var. *kinkiensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

コウグイスカグラに似るが、葉の先が長く尖る。特に枝上部の葉は卵状披針形～披針形で、長さ 3-6 cm。苞は線形で長さ 1.5-2.5 (-4) mm。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

山地に生育する。

【分布域】

本州（近畿地方）、四国（北東部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キンキヒヨウタンボク	<i>Lonicera ramosissima</i> var. <i>kinkiensis</i>	EN
第4次 2019:	キンキヒヨウタンボク	<i>Lonicera ramosissima</i> var. <i>kinkiensis</i>	EN
第4次 2018:	キンキヒヨウタンボク	<i>Lonicera ramosissima</i> var. <i>kinkiensis</i>	EN
第4次 2017:	キンキヒヨウタンボク	<i>Lonicera ramosissima</i> var. <i>kinkiensis</i>	EN
第4次 2015:	キンキヒヨウタンボク	<i>Lonicera ramosissima</i> var. <i>kinkiensis</i>	EN
第4次:	キンキヒヨウタンボク	<i>Lonicera ramosissima</i> var. <i>kinkiensis</i>	EN
第3次:	キンキヒヨウタンボク	<i>Lonicera ramosissima</i> var. <i>kinkiensis</i>	EN
第2次:	キンキヒヨウタンボク	<i>Lonicera ramosissima</i> var. <i>kinkiensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

三重県[絶滅危惧 IB 類(EN)] 滋賀県[希少種] 大阪府[CR+EN] 兵庫県[A ランク] 奈良県[絶滅寸前種] 広島県[準絶滅危惧(NT)] 香川県[絶滅危惧 I 類(CR+EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 特定非営利活動法人みんなでつくる自然史博物館・香川，2021. 香川県レッドデータブック 2021 香川県の希少野生生物. 香川県環境森林部みどり保全課，503pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lonicera ramosissima var. *kinkiensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lonicera ramosissima* var. *kinkiensis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

チシマキンレイカ

Patrinia sibirica

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は高さ 7-15 cm。根出葉はさじ形で長柄がある。葉は羽状全裂。花冠は黄色で、径 4 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山や北方の礫地に生育する。

【分布域】

南千島、北海道に分布。国外では、千島列島、サハリン、モンゴル、シベリア東部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	人の踏みつけ	産地局限
件数 5	2	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チシマキンレイカ	<i>Patrinia sibirica</i>	EN
第4次 2019:	チシマキンレイカ	<i>Patrinia sibirica</i>	EN
第4次 2018:	チシマキンレイカ	<i>Patrinia sibirica</i>	EN
第4次 2017:	チシマキンレイカ	<i>Patrinia sibirica</i>	EN
第4次 2015:	チシマキンレイカ	<i>Patrinia sibirica</i>	EN
第4次:	チシマキンレイカ	<i>Patrinia sibirica</i>	EN
第3次:	チシマキンレイカ	<i>Patrinia sibirica</i>	EN
第2次:	チシマキンレイカ	<i>Patrinia sibirica</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Patrinia sibirica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Patrinia sibirica* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Human trampling, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオキンレイカ

Patrinia triloba var. *takeuchiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎の高さ 50-100 cm。葉は広卵形で掌状に 5-7 に中裂。距は短い、果下の小苞は幅が狭く、長楕円形。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

集塊岩上に生育する。

【分布域】

京都府、福井県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	シカ食害	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオキンレイカ	<i>Patrinia triloba</i> var. <i>takeuchiana</i>	EN
第4次 2019:	オオキンレイカ	<i>Patrinia triloba</i> var. <i>takeuchiana</i>	EN
第4次 2018:	オオキンレイカ	<i>Patrinia triloba</i> var. <i>takeuchiana</i>	EN
第4次 2017:	オオキンレイカ	<i>Patrinia triloba</i> var. <i>takeuchiana</i>	EN
第4次 2015:	オオキンレイカ	<i>Patrinia triloba</i> var. <i>takeuchiana</i>	EN
第4次:	オオキンレイカ	<i>Patrinia triloba</i> var. <i>takeuchiana</i>	EN
第3次:	オオキンレイカ	<i>Patrinia triloba</i> var. <i>takeuchiana</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 京都府[絶滅寸前種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Patrinia triloba var. *takeuchiana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Patrinia triloba* var. *takeuchiana* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオミノトベラ

Pittosporum boninense var. *chichijimense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1-3 m。葉は互生し、枝の上方に集まってつく。葉身は狭倒卵形～広倒披針形、全縁、洋紙質からやや革質。花序は頂生、花序柄がほとんどなく、花柄は長さ 45-80 mm。蒴果は球形で径 12-16 mm。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

やや日陰で湿った林内に生育する。

【分布域】

小笠原諸島父島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他動物食害	自然遷移	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオミノトベラ	<i>Pittosporum boninense</i> var. <i>chichijimense</i>	EN
第4次 2019:	オオミノトベラ	<i>Pittosporum boninense</i> var. <i>chichijimense</i>	EN
第4次 2018:	オオミノトベラ	<i>Pittosporum boninense</i> var. <i>chichijimense</i>	EN
第4次 2017:	オオミノトベラ	<i>Pittosporum boninense</i> var. <i>chichijimense</i>	EN
第4次 2015:	オオミノトベラ	<i>Pittosporum boninense</i> var. <i>chichijimense</i>	EN
第4次:	オオミノトベラ	<i>Pittosporum boninense</i> var. <i>chichijimense</i>	EN
第3次:	オオミノトベラ	<i>Pittosporum boninense</i> var. <i>chichijimense</i>	CR
第2次:	オオミトベラ	<i>Pittosporum chichijimense</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pittosporum boninense var. *chichijimense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pittosporum boninense* var. *chichijimense* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Other animal feeding damage, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒュウガセンキュウ

Angelica minamitanii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 100-200 cm。茎は直立し、葉は 2-3 回 3 出羽状複葉で、下方に弓状に曲がる。花弁は白色。萼齒片は鐘形目立たない。果実は扁平な楕円形で翼は発達する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

低地から山地のやや湿った場所に生育する。

【分布域】

本州、四国、九州に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 10 メッシュで計数百個体の現存が推定された。平均減少率は 85% であった。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	8	1	0	0	0	10	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 河川開発	海岸開発	自然遷移
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒユウガセンキュウ	<i>Angelica minamitanii</i>	CR
第4次 2019:	ヒユウガセンキュウ	<i>Angelica minamitanii</i>	CR
第4次 2018:	ヒユウガセンキュウ	<i>Angelica minamitanii</i>	CR
第4次 2017:	ヒユウガセンキュウ	<i>Angelica minamitanii</i>	CR
第4次 2015:	ヒユウガセンキュウ	<i>Angelica minamitanii</i>	CR
第4次:	ヒユウガセンキュウ	<i>Angelica minamitanii</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

広島県[準絶滅危惧(NT)] 高知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 熊本県[情報不足(DD)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Angelica minamitanii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Angelica minamitanii* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	River development, Coastal development, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イシヅチボウフウ

*Angelica saxicola***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 20-80 cm。茎は多くの枝を分け、葉は 1-2 回 3 出羽状複葉で、小葉は分裂し、裂片は長卵形で粗い鋸歯があり、表面に光沢がある。葉柄は下部または全部が袋状に膨れる。花序は平たく、花弁は白色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地に生育する。

【分布域】

愛媛県石鎚山、高知県寒風山に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。平均減少率は 71%であった。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査**【「現存する株数」別のメッシュ数】**

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	1	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	人の踏みつけ	道路工事
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イシヅチボウフウ	<i>Angelica saxicola</i>	CR
第4次 2019:	イシヅチボウフウ	<i>Angelica saxicola</i>	CR
第4次 2018:	イシヅチボウフウ	<i>Angelica saxicola</i>	CR
第4次 2017:	イシヅチボウフウ	<i>Angelica saxicola</i>	CR
第4次 2015:	イシヅチボウフウ	<i>Angelica saxicola</i>	CR
第4次:	イシヅチボウフウ	<i>Angelica saxicola</i>	CR
第3次:	イシヅチボウフウ	<i>Angelica saxicola</i>	CR
第2次:	イシヅチボウフウ	<i>Angelica saxicola</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

愛媛県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 高知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Angelica saxicola has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Angelica saxicola* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Natural succession, Human trampling, Road construction
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クマノダケ

Angelica shikokiana var. *mayebarana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

イヌトウキ、カワゼンゴ、ヒュウガトウキなどに似るが、小葉表面の主脈上に微突起を有する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

石灰岩地、礫地、溪岩上に生育。

【分布域】

熊本県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。2 メッシュで計数十個体の現存が推定される。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	1	0	0	—	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クマノダケ	<i>Angelica shikokiana</i> var. <i>mayebarana</i>	EN
第4次 2019:	クマノダケ	<i>Angelica shikokiana</i> var. <i>mayebarana</i>	EN
第4次 2018:	クマノダケ	<i>Angelica shikokiana</i> var. <i>mayebarana</i>	EN
第4次 2017:	クマノダケ	<i>Angelica shikokiana</i> var. <i>mayebarana</i>	EN
第4次 2015:	クマノダケ	<i>Angelica shikokiana</i> var. <i>mayebarana</i>	EN
第4次:	クマノダケ	<i>Angelica shikokiana</i> var. <i>mayebarana</i>	EN
第3次:	クマノダケ	<i>Angelica tenuisecta</i> var. <i>mayebarana</i>	EN
第2次:	クマノダケ	<i>Angelica mayebarana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[情報不足(DD-1)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2015. レッドデータブック 2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物— 8 植物Ⅰ（維管束植物）. 646pp. ぎょうせい, 東京.
- 清水建美, 1960, 熊本県南部における石灰岩地帯の植物 1. 植物分類, 地理, 18: 117-128.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Angelica shikokiana var. *mayebarana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Angelica shikokiana* var. *mayebarana* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae セリ科 Apiaceae/Umbelliferae

トカチトウキ

Angelica stenoloba var. *valens*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ホソバトウキの典型変種に比べ、葉の裂片の幅が広い点で区別される。

【生活史】

花期は 7 月下旬。

【生育環境】

林縁の岩場に生育。

【分布域】

北海道日高山地に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

エゾジカの採食によって減少している。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 文献なし

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Angelica stenoloba var. *valens* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Angelica stenoloba* var. *valens* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ウバタケニンジン

*Angelica ubatakensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 20-50 cm。上部で枝を張り、葉は 2-4 回 3 出羽状複葉で、小葉は細い裂片に切れ込み、さらに細裂する。葉柄は下部または全部が膨らんだ鞘となる。複散形花序は少数、小総苞片は数個あり線形。花弁は白色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地に生育する。

【分布域】

四国、九州に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。平均減少率は 11%であった。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査**【「現存する株数」別のメッシュ数】**

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	3	0	0	0	0	3	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	その他	自然遷移
件数 5	4	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウバタケニンジン	<i>Angelica ubatakensis</i>	EN
第4次 2019:	ウバタケニンジン	<i>Angelica ubatakensis</i>	EN
第4次 2018:	ウバタケニンジン	<i>Angelica ubatakensis</i>	EN
第4次 2017:	ウバタケニンジン	<i>Angelica ubatakensis</i>	EN
第4次 2015:	ウバタケニンジン	<i>Angelica ubatakensis</i>	EN
第4次:	ウバタケニンジン	<i>Angelica ubatakensis</i>	EN
第3次:	ウバタケニンジン	<i>Angelica ubatakensis</i>	VU
第2次:	ウバタケニンジン	<i>Angelica ubatakensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

愛媛県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN-g)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Angelica ubatakensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Angelica ubatakensis* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Deer feeding damage, Other, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トサボウフウ

*Angelica yoshinagae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

イシヅチボウフウに近縁で、分枝の形状が異なる。小葉は広い。花弁に羽状の脈がある。

【生活史】

多年生草本。

【生育環境】

石灰岩地に生育する。

【分布域】

徳島県、高知県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	1	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トサボウフウ	<i>Angelica yoshinagae</i>	VU
第4次 2019:	トサボウフウ	<i>Angelica yoshinagae</i>	VU
第4次 2018:	トサボウフウ	<i>Angelica yoshinagae</i>	VU
第4次 2017:	トサボウフウ	<i>Angelica yoshinagae</i>	VU
第4次 2015:	トサボウフウ	<i>Angelica yoshinagae</i>	VU
第4次:	トサボウフウ	<i>Angelica yoshinagae</i>	VU
第3次:	トサボウフウ	<i>Angelica yoshinagae</i>	VU
第2次:	トサボウフウ	<i>Angelica yoshinagae</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 高知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会，2022. 高知県レッドデータブック 2022 植物編. 高知県林業振興・環境部自然共生課，229pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Angelica yoshinagae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Angelica yoshinagae* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae セリ科 Apiaceae/Umbelliferae

レブンサイコ

Bupleurum ajanense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さは 5-15 cm。根出葉はへら形で、茎葉は広披針形、長さ 1-10 cm。複散形花序は少なく、総苞片は 1-3 個、卵形か楕円形。小総苞片は卵形で 5 個。黄色または紫色の花を開く。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山帯に生育する。

【分布域】

北海道に分布。国外では、サハリン、千島列島、カムチャツカ半島、オホーツク、ウスリー、アムール、シベリアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	3	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	人の踏みつけ	産地局限
件数	1	1

4		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	レブンサイコ	<i>Bupleurum ajanense</i>	EN
第4次 2019:	レブンサイコ	<i>Bupleurum ajanense</i>	EN
第4次 2018:	レブンサイコ	<i>Bupleurum ajanense</i>	EN
第4次 2017:	レブンサイコ	<i>Bupleurum ajanense</i>	EN
第4次 2015:	レブンサイコ	<i>Bupleurum ajanense</i>	EN
第4次:	レブンサイコ	<i>Bupleurum ajanense</i>	EN
第3次:	レブンサイコ	<i>Bupleurum ajanense</i>	CR
第2次:	レブンサイコ	<i>Bupleurum triraediatum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Bupleurum ajanense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Bupleurum ajanense* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Human trampling, Limited distribution

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマセントウソウ

Chamaele decumbens var. *micrantha*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D+C

推定開花株数が 250 個体未満/推定開花株数 2500 個体未満かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

セントウソウの変種で、葉柄、葉軸、花柄が短く小型化している。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高地に生育する。

【分布域】

屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。元々の個体数が少ないまれな種である。シカ食害によって減少し、今後もシカの影響を受ける可能性が高い。基準 D と C により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマセントウソウ	<i>Chamaele decumbens</i> var. <i>micrantha</i>	EN
第4次 2019:	ヤクシマセントウソウ	<i>Chamaele decumbens</i> var. <i>micrantha</i>	EN
第4次 2018:	ヤクシマセントウソウ	<i>Chamaele decumbens</i> var. <i>micrantha</i>	EN
第4次 2017:	ヤクシマセントウソウ	<i>Chamaele decumbens</i> var. <i>micrantha</i>	EN
第4次 2015:	ヤクシマセントウソウ	<i>Chamaele decumbens</i> var. <i>micrantha</i>	EN
第4次:	ヤクシマセントウソウ	<i>Chamaele decumbens</i> var. <i>micrantha</i>	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[準絶滅危惧]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Chamaele decumbens var. *micrantha* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Chamaele decumbens* var. *micrantha* is listed as EN under criteria D+C.
D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.
C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:
1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツルギハナウド

Heracleum sphondylium var. *turugisanense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ハナウドの変種で、全体が小型。葉は 3 小葉で毛が少ない。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高所の谷間の岩場に生育する。

【分布域】

四国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。平均減少率は 55%であった。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	2	2	0	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	自然遷移	不明
件数 3	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツルギハナウド	<i>Heracleum sphondylium</i> var. <i>tsurugisanense</i>	EN
第4次 2019:	ツルギハナウド	<i>Heracleum sphondylium</i> var. <i>tsurugisanense</i>	EN
第4次 2018:	ツルギハナウド	<i>Heracleum sphondylium</i> var. <i>tsurugisanense</i>	EN
第4次 2017:	ツルギハナウド	<i>Heracleum sphondylium</i> var. <i>tsurugisanense</i>	EN
第4次 2015:	ツルギハナウド	<i>Heracleum sphondylium</i> var. <i>tsurugisanense</i>	EN
第4次:	ツルギハナウド	<i>Heracleum sphondylium</i> var. <i>tsurugisanense</i>	EN
第3次:	ツルギハナウド	<i>Heracleum sphondylium</i> var. <i>tsurugisanense</i>	VU
第2次:	ツルギハナウド	<i>Heracleum moellendorffii</i> var. <i>tsurugisanense</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[絶滅危惧 IA 類] 愛媛県[絶滅危惧 II 類(VU)] 高知県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 愛媛県レッドデータブック改訂委員会，2014. 愛媛県レッドデータブック 2014—愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物—. 愛媛県県民環境部環境局自然保護課，623pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Heracleum sphondylium var. *tsurugisanense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Heracleum sphondylium* var. *tsurugisanense* is listed as EN under criteria ACD. The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession, Unknown

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae セリ科 Apiaceae/Umbelliferae

ツクシボウフウ

Pimpinella thellungiana var. *gustavohegiana*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は高さ 30–80 cm。根出葉や茎の下部の葉には長い柄があり、単羽状で、小葉は 5–9 個、広卵形～卵形で、粗い鋸歯があり、長さは 2–3.5 cm。上部の葉は小さく、細長くて切れ込みは深く、小葉は 3–5 個。複散形花序は総苞片や小総苞片がなく、10–15 個。花弁は白色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地に生育する。

【分布域】

九州（大分県）に分布。国外では朝鮮半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られず、2012 年調査では確実な自生を確認できなかった。250 個体未満と推定されることから、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	–	0	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツクシボウフウ	<i>Pimpinella thellungiana</i> var. <i>gustavohegiana</i>	EN
第4次 2019:	ツクシボウフウ	<i>Pimpinella thellungiana</i> var. <i>gustavohegiana</i>	EN
第4次 2018:	ツクシボウフウ	<i>Pimpinella thellungiana</i> var. <i>gustavohegiana</i>	EN
第4次 2017:	ツクシボウフウ	<i>Pimpinella thellungiana</i> var. <i>gustavohegiana</i>	EN
第4次 2015:	ツクシボウフウ	<i>Pimpinella thellungiana</i> var. <i>gustavohegiana</i>	EN
第4次:	ツクシボウフウ	<i>Pimpinella thellungiana</i> var. <i>gustavohegiana</i>	EN
第3次:	ツクシボウフウ	<i>Pimpinella thellungiana</i> var. <i>gustavohegiana</i>	VU
第2次:	ツクシボウフウ	<i>Pimpinella thellungiana</i> var. <i>gustavohegiana</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

大分県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pimpinella thellungiana var. *gustavohegiana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pimpinella thellungiana* var. *gustavohegiana* is listed as EN under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤマナシウマノミツバ

Sanicula kaiensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ウマノミツバに近縁で、茎は細長く、枝もよく伸び、高さ 15-80 cm。根出葉には長い柄があるが、茎葉は無柄。花序はまばらで、花も少ない。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地帯から亜高山帯にかけての湿気のある岩場に生育。

【分布域】

山梨県と長野県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	自然遷移	人の踏みつけ
件数 2	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤマナシウマノミツバ	<i>Sanicula kaiensis</i>	EN
第4次 2019:	ヤマナシウマノミツバ	<i>Sanicula kaiensis</i>	EN
第4次 2018:	ヤマナシウマノミツバ	<i>Sanicula kaiensis</i>	EN
第4次 2017:	ヤマナシウマノミツバ	<i>Sanicula kaiensis</i>	EN
第4次 2015:	ヤマナシウマノミツバ	<i>Sanicula kaiensis</i>	EN
第4次:	ヤマナシウマノミツバ	<i>Sanicula kaiensis</i>	EN
第3次:	ヤマナシウマノミツバ	<i>Sanicula kaiensis</i>	EN
第2次:	ヤマナシウマノミツバ	<i>Sanicula kaiensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[A ランク] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(A ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 山梨県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 長野県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 静岡県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 山梨県森林環境部みどり自然課，2018. 2018 山梨県レッドデータブック. 山梨県森林環境部みどり自然課，290pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sanicula kaiensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sanicula kaiensis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession, Human trampling
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

フキヤミツバ

Sanicula tuberculata

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

クロバナウマノミツバ系の小型種。根出葉は細長い柄があり、葉は径 1.5-4 cm、3 全裂し、さらに 2-3 裂する。花茎状の茎の高さ 8-20 cm、頂部に葉状の総苞片が対生し、各片は 2-3 深裂する。その中央部から 2-3 個の小散形花序を出す。花は小さく、緑色、萼歯片は披針形。果実は太く短く、刺毛があり、長さ 4.5 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地に生育する。

【分布域】

本州～九州に分布。国外では、朝鮮半島中南部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	不明
件数	1	1

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	フキヤミツバ	<i>Sanicula tuberculata</i>	VU
第4次 2019:	フキヤミツバ	<i>Sanicula tuberculata</i>	VU
第4次 2018:	フキヤミツバ	<i>Sanicula tuberculata</i>	VU
第4次 2017:	フキヤミツバ	<i>Sanicula tuberculata</i>	VU
第4次 2015:	フキヤミツバ	<i>Sanicula tuberculata</i>	VU
第4次:	フキヤミツバ	<i>Sanicula tuberculata</i>	VU
第3次:	フキヤミツバ	<i>Sanicula tuberculata</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 三重県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 生物多様性広島戦略推進会議希少生物分科会，2022. 絶滅のおそれのある野生生物 第4版 レッドデータブックひろしま 2021. 広島県環境県民局自然環境課，761pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sanicula tuberculata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sanicula tuberculata* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.	
Threat types:	Natural succession, Limited distribution, Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒモヅル

*Lycopodium casuarinoides***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

主茎は枝を出しながらつる状に長く伸びる。各枝は二叉分枝。葉は 1 本の単条の脈をもつ小葉で、二形性があり、長さ 0.9-1.0 mm (直立茎)、2.8-3.8 mm (匍匐茎)、線形、孢子囊穂をつける枝では狭三角形の突起状、鋭尖頭、全縁、葉の色は緑色。孢子囊穂は側枝の先端に 1~2 個つき、孢子囊穂の長さ 2.0-2.7 cm。

【生活史】

常緑。よじ登り生（樹幹・樹上）。

【生育環境】

山地の疎林中に生育する。

【分布域】

本州（近畿地方以西）、九州、屋久島に分布。国外では、中国、台湾、南アジア、東南アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	3	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 自然遷移	人の踏みつけ	湿地開発

件数		
2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒモヅル	<i>Lycopodium casuarinoides</i>	VU
第4次 2019:	ヒモヅル	<i>Lycopodium casuarinoides</i>	VU
第4次 2018:	ヒモヅル	<i>Lycopodium casuarinoides</i>	VU
第4次 2017:	ヒモヅル	<i>Lycopodium casuarinoides</i>	VU
第4次 2015:	ヒモヅル	<i>Lycopodium casuarinoides</i>	VU
第4次:	ヒモヅル	<i>Lycopodium casuarinoides</i>	VU
第3次:	ヒモヅル	<i>Lycopodium casuarinoides</i>	VU
第2次:	ヒモヅル	<i>Lycopodium casuarinoides</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

三重県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 滋賀県[絶滅危惧種] 和歌山県[絶滅(EX)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅危惧ⅠB類] 長崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 熊本県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Lycopodium casuarinoides has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Lycopodium casuarinoides is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Human trampling, Wetland development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

スギラン

*Phlegmariurus cryptomerinus***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は疎らに二叉分枝しながら斜上。葉は 1 本の単条の脈をもつ小葉で、二形性はなく、長さ 13-16 mm、線状披針形、鋭頭、全縁、葉の色は濃黄緑色。孢子囊穂をつくらない。

【生活史】

常緑。着生（樹上）／岩上生。

【生育環境】

山林中の樹上や岩の上に生育する。

【分布域】

北海道（南部、南千島）、本州、四国、九州、屋久島に分布。国外では、朝鮮（済州島）、中国（浙江省）、台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 29 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
21	5	0	3	0	0	29	0	5

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	園芸採取	産地局限
件数	6	4

7		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	スギラン	<i>Lycopodium cryptomerinum</i>	VU
第4次 2019:	スギラン	<i>Lycopodium cryptomerinum</i>	VU
第4次 2018:	スギラン	<i>Lycopodium cryptomerinum</i>	VU
第4次 2017:	スギラン	<i>Lycopodium cryptomerinum</i>	VU
第4次 2015:	スギラン	<i>Lycopodium cryptomerinum</i>	VU
第4次:	スギラン	<i>Lycopodium cryptomerinum</i>	VU
第3次:	スギラン	<i>Lycopodium cryptomerinum</i>	VU
第2次:	スギラン	<i>Lycopodium cryptomerinum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)] 青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[A ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 秋田県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 山形県[絶滅危惧ⅠA 類 (C R)] 福島県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 茨城県[絶滅危惧ⅠA 類] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(A ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 東京都(本土部)[本土部:絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 東京都(南多摩)[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 東京都(伊豆諸島)[情報不足(DD)] 神奈川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 富山県[準絶滅危惧] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 山梨県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅱ類] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 三重県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 滋賀県[絶滅危機増大種] 京都府[絶滅危惧種] 大阪府[EX] 兵庫県[A ランク] 奈良県[絶滅危惧種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 島根県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山口県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 徳島県[絶滅危惧Ⅱ類] 愛媛県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 高知県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA 類] 熊本県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 大分県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠB 類(EN-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.

- 岩槻邦男（編），1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Phlegmariurus cryptomerinus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Phlegmariurus cryptomerinus is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Collecting plants in gardening, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミズニラモドキ

*Isoetes pseudojaponica***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

塊茎は直径 1.2-2.0 cm、底部は 3 裂。葉は 1 本の単条の脈をもつ線形の小葉で、長さ 18-36 cm。大孢子は、直径 375-600 μm で網状（蜂の巣状）周皮。小孢子は、直径 26-38 μm で刺状周皮。ミズニラとの識別は小孢子的表面構造を顕微鏡で観察する必要がある、ミズニラの小孢子表面が平滑～こぶ状であるのに対し本種では刺状突起に覆われる。8 倍体種。

【生活史】

水生（抽水性～沈水性）。夏緑。

【生育環境】

貧栄養の湖沼やため池の浅水域、水田などに生育する。

【分布域】

本州・四国。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	2	0	0	4	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 水質汚濁	管理放棄	農薬汚染

件数		
4	4	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミズニラモドキ	<i>Isoetes pseudojaponica</i>	VU
第4次 2019:	ミズニラモドキ	<i>Isoetes pseudojaponica</i>	VU
第4次 2018:	ミズニラモドキ	<i>Isoetes pseudojaponica</i>	VU
第4次 2017:	ミズニラモドキ	<i>Isoetes pseudojaponica</i>	VU
第4次 2015:	ミズニラモドキ	<i>Isoetes pseudojaponica</i>	VU
第4次:	ミズニラモドキ	<i>Isoetes pseudojaponica</i>	VU
第3次:	ミズニラモドキ	<i>Isoetes pseudojaponica</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 福島県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 茨城県[情報不足②現状不明種] 栃木県[情報不足] 京都府[絶滅寸前種] 兵庫県[Bランク] 岡山県[準絶滅危惧] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[留意] 香川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 角野康郎, 2014. ネイチャーガイド 日本の水草. 328pp. 文一総合出版, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Isoetes pseudojaponica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Isoetes pseudojaponica is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Water pollution, Abandonment of management, Pesticide pollution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シナミズニラ

Isoetes sinensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) **基準 E**

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

塊茎は直径 1.3-1.8 cm、底部は 3 裂。葉は 1 本の単条の脈をもつ線形の小葉で、長さ 19-22 cm。大胞子は、直径 363-509 μm で鶏冠状周皮。小胞子は、直径 23-31 μm で刺状周皮。4 倍体種。

【生活史】

水生（抽水性～沈水性）。夏緑。

【生育環境】

ため池や湿地に生育する。

【分布域】

本州（佐渡島）・四国（香川県）・九州、中国。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 7 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	2	0	1	1	0	7	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 池沼開発	管理放棄	自然遷移
件数 4	3	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シナミズニラ	<i>Isoetes sinensis</i> var. <i>sinensis</i>	VU
第4次 2019:	シナミズニラ	<i>Isoetes sinensis</i> var. <i>sinensis</i>	VU
第4次 2018:	シナミズニラ	<i>Isoetes sinensis</i> var. <i>sinensis</i>	VU
第4次 2017:	シナミズニラ	<i>Isoetes sinensis</i> var. <i>sinensis</i>	VU
第4次 2015:	シナミズニラ	<i>Isoetes sinensis</i> var. <i>sinensis</i>	VU
第4次:	シナミズニラ	<i>Isoetes sinensis</i> var. <i>sinensis</i>	VU
第3次:	シナミズニラ	<i>Isoetes sinensis</i>	VU
第2次:	シナミズニラ	<i>Isoetes sinensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

茨城県[情報不足②現状不明種] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 佐賀県[準絶滅危惧種] 長崎県[準絶滅危惧種(NT)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[情報不足]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 角野康郎, 2014. ネイチャーガイド 日本の水草. 328pp. 文一総合出版, 東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Isoetes sinensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Isoetes sinensis* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Pond development, Abandonment of management, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コケカタヒバ

Selaginella aristata

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐し、側枝は直立か斜上。葉は 1 本の単条の脈をもつ小葉で、背葉と腹葉の区別がある。背葉は長さ 1.2-1.7 mm、卵形、鋭尖頭、細鋸歯縁。腹葉は長さ 1.5-1.8 mm、五角状卵形、鋭頭～鈍頭、細鋸歯縁。葉の色は淡緑色。孢子囊穂は長さ 0.6-0.7 cm。

【生活史】

常緑で岩上生。

【生育環境】

山地の陰湿な崖に生育。

【分布域】

琉球列島（西表島・与那国島）、中国・台湾・南アジア・東南アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では個体数過小評価とされ、推定個体数 250 個体以上と考えられた。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コケカタヒバ	<i>Selaginella leptophylla</i>	VU
第4次 2019:	コケカタヒバ	<i>Selaginella leptophylla</i>	VU
第4次 2018:	コケカタヒバ	<i>Selaginella leptophylla</i>	VU
第4次 2017:	コケカタヒバ	<i>Selaginella leptophylla</i>	VU
第4次 2015:	コケカタヒバ	<i>Selaginella leptophylla</i>	VU
第4次:	コケカタヒバ	<i>Selaginella leptophylla</i>	VU
第3次:	コケカタヒバ	<i>Selaginella leptophylla</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 沖縄県環境部自然保護課, 2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課, 690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Selaginella aristata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Selaginella aristata* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アマミクラマゴケ

Selaginella limbata

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐し、側枝を出す。葉は 1 本の単条の脈をもつ小葉で、背葉と腹葉の区別がある。背葉は匍匐茎のもので長さ 1.8-2.3 mm、先端部のもので長さ 1.4-1.8 mm、卵形、鋭頭～鈍頭、微鋸歯縁～全縁。腹葉は匍匐茎のもので長さ 2.2-2.7 mm、先端部のもので長さ 2.0-2.6 mm、五角状卵形、鋭頭～鈍頭、微鋸歯縁～全縁。葉の色は淡緑色。胞子嚢穂は長さ 1.0-2.0 cm。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

やや湿った林縁や山道の路傍に生育。

【分布域】

琉球列島（奄美大島）、中国南部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 5 メッシュで計数千個体が現存していた。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	4	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アマミクラマゴケ	<i>Selaginella limbata</i>	VU
第4次 2019:	アマミクラマゴケ	<i>Selaginella limbata</i>	VU
第4次 2018:	アマミクラマゴケ	<i>Selaginella limbata</i>	VU
第4次 2017:	アマミクラマゴケ	<i>Selaginella limbata</i>	VU
第4次 2015:	アマミクラマゴケ	<i>Selaginella limbata</i>	VU
第4次:	アマミクラマゴケ	<i>Selaginella limbata</i>	VU
第3次:	アマミクラマゴケ	<i>Selaginella limbata</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳，2016．日本産シダ植物標準図鑑 1．475pp．学研，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Selaginella limbata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Selaginella limbata is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イヌカタヒバ

Selaginella moellendorffii

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 D
推定成熟個体数が 1000 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐し、側枝は羽状に分枝して葉身状になる。葉は 1 本の単条の脈をもつ小葉で、背葉と腹葉の区別がある。背葉は匍匐茎のもので長さ 1.3-1.9 mm、先端部のもので長さ 2.2-2.6 mm、卵形、鋭尖頭、微鋸歯縁。腹葉は匍匐茎のもので長さ 1.4-1.8 mm、先端部のもので長さ 2.4-2.9 mm、長楕円形～広長楕円形、鋭頭～鈍頭、微鋸歯縁。葉の色は淡緑色。孢子嚢穂は長さ 0.3-0.7 cm。

【生活史】

常緑で着生または岩上生。

【生育環境】

低地の溪流沿いの岩上や樹幹に着生。

【分布域】

琉球列島（沖縄島・石垣島・西表島）、中国・フィリピン・ベトナムに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	2	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	その他	不明

件数		
1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イヌカタヒバ	<i>Selaginella moellendorffii</i>	VU
第4次 2019:	イヌカタヒバ	<i>Selaginella moellendorffii</i>	VU
第4次 2018:	イヌカタヒバ	<i>Selaginella moellendorffii</i>	VU
第4次 2017:	イヌカタヒバ	<i>Selaginella moellendorffii</i>	VU
第4次 2015:	イヌカタヒバ	<i>Selaginella moellendorffii</i>	VU
第4次:	イヌカタヒバ	<i>Selaginella moellendorffii</i>	VU
第3次:	イヌカタヒバ	<i>Selaginella moellendorffii</i>	VU
第2次:	イヌカタヒバ	<i>Selaginella moellendorffii</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 沖縄県環境部自然保護課, 2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課, 690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Selaginella moellendorffii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Selaginella moellendorffii is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Other, Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エゾノヒモカズラ

Selaginella sibirica

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐し、狭い間隔で側枝を出す。葉は 1 本の単条の脈をもつ小葉で、背葉と腹葉の区別はない。葉は長さ 1.4-1.8 mm、長楕円状披針形、鋭尖頭（繊毛状）、辺縁は繊毛状突起がある。葉の色は淡緑色。孢子嚢穂は長さ 0.8-1.2 cm。

【生活史】

常緑で岩上生。

【生育環境】

高山の岩上や岩隙に生育。

【分布域】

北海道、ロシア（シベリア）・朝鮮・中国・北米（アメリカ・ユーコン）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果

2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	3	0	0	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 4		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾノヒモカズラ	<i>Selaginella sibirica</i>	VU
第4次 2019:	エゾノヒモカズラ	<i>Selaginella sibirica</i>	VU
第4次 2018:	エゾノヒモカズラ	<i>Selaginella sibirica</i>	VU
第4次 2017:	エゾノヒモカズラ	<i>Selaginella sibirica</i>	VU
第4次 2015:	エゾノヒモカズラ	<i>Selaginella sibirica</i>	VU
第4次:	エゾノヒモカズラ	<i>Selaginella sibirica</i>	VU
第3次:	エゾノヒモカズラ	<i>Selaginella sibirica</i>	VU
第2次:	エゾノヒモカズラ	<i>Selaginella sibirica</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Selaginella sibirica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Selaginella sibirica is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤチスギナ

Equisetum pratense

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎には二形性がある。孢子茎では、最初はほとんど分枝しないが、孢子散布後に側枝を輪生、長さ 30-46 cm、直径 1.6-2.2 mm、断面は中実、節間長 0.5-1.0 cm。栄養茎では、最下部以外で側枝を輪生、断面は中空で髓腔の大きさは直径の約 1/3。隆条上には突起がある。1 つの節に生じる歯片は孢子茎では 12-14 枚、長さ 1.9-3.0 mm、宿存性、辺縁は淡褐色、中心部は黒褐色。孢子囊穂は、柄の長さ 2.1 cm、孢子囊穂の長さ 2.1-2.4 cm

【生活史】

夏緑、孢子茎は早春に出て孢子散布後そのまま成長する。地上生。

【生育環境】

林中の湿地や草地に生育する。

【分布域】

北海道、本州（岩手県）に分布。国外では、ロシア、朝鮮、中国、モンゴル、ヨーロッパ、北米（北部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤチスギナ	<i>Equisetum pratense</i>	VU
第4次 2019:	ヤチスギナ	<i>Equisetum pratense</i>	VU
第4次 2018:	ヤチスギナ	<i>Equisetum pratense</i>	VU
第4次 2017:	ヤチスギナ	<i>Equisetum pratense</i>	VU
第4次 2015:	ヤチスギナ	<i>Equisetum pratense</i>	VU
第4次:	ヤチスギナ	<i>Equisetum pratense</i>	VU
第3次:	ヤチスギナ	<i>Equisetum pratense</i>	VU
第2次:	ヤチスギナ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)] 新潟県[地域個体群(LP)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Equisetum pratense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Equisetum pratense is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメドクサ

Equisetum scirpoides

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は分枝せず、長さ 13-18 cm、直径 0.7-0.9 mm、断面は中実、節間長 0.4-0.6 cm、隆条上の突起はあり。1 つの節に生じる歯片は 4-5 枚、長さ 1.1-1.6 mm、宿存性、辺縁は淡褐色、中心部は褐色。孢子囊穂は、柄の長さは不明瞭で、孢子囊穂の長さ 0.5-0.6 cm。

【生活史】

草本。地上生。

【生育環境】

湿地に生育する。

【分布域】

南千島、北海道に分布。国外では、ロシア、朝鮮、中国、ヨーロッパ、北米（北部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメドクサ	<i>Equisetum scirpoides</i>	VU
第4次 2019:	ヒメドクサ	<i>Equisetum scirpoides</i>	VU
第4次 2018:	ヒメドクサ	<i>Equisetum scirpoides</i>	VU
第4次 2017:	ヒメドクサ	<i>Equisetum scirpoides</i>	VU
第4次 2015:	ヒメドクサ	<i>Equisetum scirpoides</i>	VU
第4次:	ヒメドクサ	<i>Equisetum scirpoides</i>	VU
第3次:	ヒメドクサ	<i>Equisetum scirpoides</i>	EN
第2次:	ヒメドクサ	<i>Equisetum scirpoides</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Equisetum scirpoides has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Equisetum scirpoides is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

フサスギナ

Equisetum sylvaticum

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎には二形性がある。孢子茎では、最初はほとんど分枝しないが孢子散布後に側枝を輪生、長さ 34-48 cm、直径 2.3-3.1 mm、節間長 1.0-1.5 cm。1 つの節に生じる歯片は 5-6 枚、長さ 5.3-7.6 mm。栄養茎では、最下部以外で側枝を輪生。断面は中空で髓腔の大きさは直径の約 1/2、鋭い隆条上の突起がある。歯片は宿存性、茶褐色。孢子囊穂は、柄の長さ 1.9-3.3 cm、孢子囊穂の長さ 1.0-1.6 cm。

【生活史】

夏緑、孢子茎は早春に出て孢子散布後そのまま成長する。地上生。

【生育環境】

湿った日陰に生育する。

【分布域】

北海道に分布。国外では、ロシア、朝鮮、中国、モンゴル、ヨーロッパ、北米（北部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では現存個体数を過小評価していた。数百個体が現存すると推定されたため、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	フサスギナ	<i>Equisetum sylvaticum</i>	VU
第4次 2019:	フサスギナ	<i>Equisetum sylvaticum</i>	VU
第4次 2018:	フサスギナ	<i>Equisetum sylvaticum</i>	VU
第4次 2017:	フサスギナ	<i>Equisetum sylvaticum</i>	VU
第4次 2015:	フサスギナ	<i>Equisetum sylvaticum</i>	VU
第4次:	フサスギナ	<i>Equisetum sylvaticum</i>	VU
第3次:	フサスギナ	<i>Equisetum sylvaticum</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Equisetum sylvaticum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Equisetum sylvaticum is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメハナワラビ

Botrychium lunaria

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 D
推定成熟個体数が 1000 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎は直立。担孢子体と担栄養体が立体的につき、共通柄で支持される。担栄養体は、1 回羽状複生、柄の長さ 0.5-1.0 cm、葉身長 2.9-4.8 cm、狭長楕円状披針形、最終裂片の辺縁は波状縁、葉質は草質、葉の色は黄緑色。担孢子体は、穂状～複穂状に分枝、柄の長さ 2.5-4.9 cm、孢子囊穂の長さ 2.1-4.4 cm。

【生活史】

夏緑。地上生。

【生育環境】

高山の岩場や草原に生育する。

【分布域】

南千島、北海道、本州（北陸地方以東）に分布。国外では、ロシア、中央アジア、朝鮮、中国、台湾、南アジア、オーストラリア、ニュージーランド、ヨーロッパ、北米、南米に分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、6 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	3	1	0	0	0	6	1	4

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	人の踏みつけ	シカ食害

自然遷移		
件数 9	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメハナワラビ	<i>Botrychium lunaria</i>	VU
第4次 2019:	ヒメハナワラビ	<i>Botrychium lunaria</i>	VU
第4次 2018:	ヒメハナワラビ	<i>Botrychium lunaria</i>	VU
第4次 2017:	ヒメハナワラビ	<i>Botrychium lunaria</i>	VU
第4次 2015:	ヒメハナワラビ	<i>Botrychium lunaria</i>	VU
第4次:	ヒメハナワラビ	<i>Botrychium lunaria</i>	VU
第3次:	ヒメハナワラビ	<i>Botrychium lunaria</i>	VU
第2次:	ヒメハナワラビ	<i>Botrychium lunaria</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[Bランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(Bランク)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 神奈川県[絶滅(EX)] 新潟県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 富山県[準絶滅危惧] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 山梨県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 長野県[準絶滅危惧(NT)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Botrychium lunaria has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

<i>Botrychium lunaria</i> is listed as VU under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	Natural succession, Human trampling, Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

チャボハナヤスリ

Ophioglossum parvum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立（塊状）で根生不定芽を出す。担孢子体と担栄養体が立体的につき、共通柄で支持される。担栄養体は、単葉、柄の長さは不明瞭、葉身長 1.0-1.7 cm、楕円形～長楕円形、最終裂片の辺縁は全縁、葉質は草質、葉の色は緑色～淡緑色。担孢子体は、単葉（棒状）、柄の長さ 3.4-6.8 cm、孢子囊穂の長さ 1.1-2.3 cm。

【生活史】

夏緑。地上生。

【生育環境】

日の当たる墓地や草地に生育する。

【分布域】

本州（伊豆諸島青ヶ島、静岡県）、九州（熊本県、宮崎県）に分布。国外では台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チャボハナヤスリ	<i>Ophioglossum parvum</i>	VU
第4次 2019:	チャボハナヤスリ	<i>Ophioglossum parvum</i>	VU
第4次 2018:	チャボハナヤスリ	<i>Ophioglossum parvum</i>	VU
第4次 2017:	チャボハナヤスリ	<i>Ophioglossum parvum</i>	VU
第4次 2015:	チャボハナヤスリ	<i>Ophioglossum parvum</i>	VU
第4次:	チャボハナヤスリ	<i>Ophioglossum parvum</i>	VU
第3次:	チャボハナヤスリ	<i>Ophioglossum parvum</i>	VU
第2次:	チャボハナヤスリ	<i>Ophioglossum parvum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 三重県[絶滅(EX)]
和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 熊本県[準絶滅危惧(NT)] 宮崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.
- 井上伸之, 2016. チャボハナヤスリが宮崎県内に広く分布. 宮崎植物研究会誌, 14: 54-56.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Ophioglossum parvum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Ophioglossum parvum is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハハジマホラゴケ

*Abrodictyum boninense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上～直立。葉は 2 回羽状深裂～3 回羽状深裂、葉柄は長さ 1.3-2.2 cm、葉身は長さ 7.1-9.7 cm、長楕円状披針形、最終裂片の辺縁は全縁、葉の色は黄緑色。孢子嚢群は裂片先端の脈端に、羽片の前側に 1 つずつつき、倒三角形、包膜はコップ状（唇部は全縁、明瞭に反転）、長さ 1.8-2.1 mm。

【生活史】

常緑で着生。

【生育環境】

湿った樹林内のヘゴやマルハチの樹幹に着生。

【分布域】

小笠原諸島（父島・母島・北硫黄島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	3	0	0	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハハジマホラゴケ	<i>Abrodictyum boninense</i>	VU
第4次 2019:	ハハジマホラゴケ	<i>Abrodictyum boninense</i>	VU
第4次 2018:	ハハジマホラゴケ	<i>Abrodictyum boninense</i>	VU
第4次 2017:	ハハジマホラゴケ	<i>Abrodictyum boninense</i>	VU
第4次 2015:	ハハジマホラゴケ	<i>Abrodictyum boninense</i>	VU
第4次:	ハハジマホラゴケ	<i>Abrodictyum boninense</i>	VU
第3次:	ハハジマホラゴケ	<i>Cephalomanes boninense</i>	EN
第2次:	ハハジマホラゴケ	<i>Cephalomanes boninense</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 東京都環境局自然環境部, 2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php> (2024年9月6日閲覧).

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Abrodictyum boninense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Abrodictyum boninense* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

マメゴケシダ

*Didymoglossum motleyi***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上～直立。葉はやや二形性がある（栄養葉は孢子葉に比べて短く、幅広い）。葉は単葉、葉柄は長さ 0.0-0.1 cm、葉身は長さ 0.4-0.5 cm、楕円形、最終裂片の辺縁は全縁、葉の色は緑色。孢子嚢群は辺縁の脈端につき、狭倒三角形、包膜はコップ状（唇部はやや二弁状、全縁、反転）、長さ 1.6-2.2 mm。

【生活史】

常緑で岩上生またはまれに着生。

【生育環境】

陰湿な林内の岩上または樹幹上に生育。

【分布域】

琉球列島（石垣島・西表島）、台湾・東南アジア・南太平洋・オーストラリア・スリランカに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。産地と個体数が限られる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	マメゴケシダ	<i>Didymoglossum motleyi</i>	VU
第4次 2019:	マメゴケシダ	<i>Didymoglossum motleyi</i>	VU
第4次 2018:	マメゴケシダ	<i>Didymoglossum motleyi</i>	VU
第4次 2017:	マメゴケシダ	<i>Didymoglossum motleyi</i>	VU
第4次 2015:	マメゴケシダ	<i>Didymoglossum motleyi</i>	VU
第4次:	マメゴケシダ	<i>Didymoglossum motleyi</i>	VU
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 東京都環境局自然環境部, 2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php> (2024年9月6日閲覧).

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Didymoglossum motleyi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Didymoglossum motleyi* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミウラハイホラゴケ

*Vandenboschia miuraensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐。葉は 3 回羽状深裂、9-15 対の側羽片があり、葉柄は長さ 1.6-3.1 cm、葉身は長さ 3.4-8.9 cm、卵状披針形、最終裂片の辺縁は全縁、葉の色は濃黄緑色。孢子嚢群は裂片先端の脈端につき、狭倒三角形、包膜はコップ状（唇部は全縁、わずかに反転）、長さ 1.3-1.8 mm。

【生活史】

常緑で崖地生または岩上生。

【生育環境】

シイ・カシ帯の陰湿な岩上に生育。

【分布域】

本州（神奈川県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	2	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミウラハイホラゴケ	<i>Vandenboschia miuraensis</i>	EN
第4次 2019:	ミウラハイホラゴケ	<i>Vandenboschia miuraensis</i>	EN
第4次 2018:	ミウラハイホラゴケ	<i>Vandenboschia miuraensis</i>	EN
第4次 2017:	ミウラハイホラゴケ	<i>Vandenboschia miuraensis</i>	EN
第4次 2015:	ミウラハイホラゴケ	<i>Vandenboschia miuraensis</i>	EN
第4次:	ミウラハイホラゴケ	<i>Vandenboschia miuraensis</i>	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

神奈川県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課・神奈川県立生命の星・地球博物館, 2022. 神奈川県レッドデータブック 2022 植物編. 神奈川県, 438pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Vandenboschia miuraensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Vandenboschia miuraensis* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100

years.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

リュウキュウオオハイホラゴケ

Vandenboschia oshimensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は匍匐。葉は 3 回羽状複葉、(13-)14-18(-20)対の側羽片があり、葉柄は長さ (7.4-)9.8-14(-15) cm、葉身は長さ(17-)18-24(-27) cm で日本産ハイホラゴケ類の中では最大級のサイズ、三角状披針形～卵状披針形、全縁、葉質は膜状、緑色。孢子嚢群は裂片先端の脈端につき、倒三角形～狭倒三角形のコップ状、長さ(2.2-)2.4-2.6(-2.7)mm、包膜の唇部は明瞭に反転する。

【生活史】

常緑性多年草。

【生育環境】

空中湿度の高い、谷沿いの崖地に生育。

【分布域】

沖縄島北部から中部にかけて分布。奄美大島ではタイプ標本以外は知られていない。

現在の生育状況

【生育地の現況】

類似種からの形態的区別が難しい種で、網羅的な現地調査は行われていない。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Ebihara, A., S. Matsumoto and M. Ito, 2009. Taxonomy of the reticulate *Vandenboschia radicans* complex (Hymenophyllaceae) in Japan. Acta Phytotaxonomica et Geobotanica, 60: 26–40.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Vandenboschia oshimensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Vandenboschia oshimensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カネコシダ

Diplopterygium laevissimum

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 D
推定成熟個体数が 1000 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐。葉は 3 回羽状深裂、33-36 対の側羽片があり、葉柄は長さ最大 1 m、無限成長し不定形、最終裂片の辺縁は全縁、葉質は紙質、葉の色は暗黄緑色（裏面は若干白色を帯びる）。孢子嚢群は中肋寄りに 1 列に並んでつき、円形、直径 0.5-0.6 mm。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

林内や林縁に生育。

【分布域】

九州・屋久島、朝鮮・中国・台湾・インドシナ半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数千個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	1	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カネコシダ	<i>Gleichenia laevissima</i>	VU
第4次 2019:	カネコシダ	<i>Gleichenia laevissima</i>	VU
第4次 2018:	カネコシダ	<i>Gleichenia laevissima</i>	VU
第4次 2017:	カネコシダ	<i>Gleichenia laevissima</i>	VU
第4次 2015:	カネコシダ	<i>Gleichenia laevissima</i>	VU
第4次:	カネコシダ	<i>Gleichenia laevissima</i>	VU
第3次:	カネコシダ	<i>Gleichenia laevissima</i>	VU
第2次:	カネコシダ	<i>Gleichenia laevissima</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

佐賀県[絶滅危惧Ⅱ類種] 長崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 熊本県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Diplazium laevissimum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Diplazium laevissimum is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

リュウキュウキジノオ

Plagiogyria koidzumii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上～直立。葉は二形性がある。孢子葉は 1 回羽状複生、9-12 対の側羽片があり、葉柄は長さ 8-18 cm、葉身は長さ 12-18 cm、披針形、最終裂片の辺縁は波状縁～鋸歯縁。栄養葉は 1 回羽状複生、11-15 対の側羽片があり、葉柄は長さ 14-22 cm、葉身は長さ 23-31 cm、広卵状披針形、最終裂片の辺縁は波状縁～鋸歯縁。葉質はしなやかな革質、葉の色は黄緑色。孢子嚢は孢子葉の脈上につき、線形。

【生活史】

常緑で崖地生。

【生育環境】

山地林内の岩壁や崖に生育。

【分布域】

琉球列島（西表島）、台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	リュウキュウキジノオ	<i>Plagiogyria koidzumii</i>	EN
第4次 2019:	リュウキュウキジノオ	<i>Plagiogyria koidzumii</i>	EN
第4次 2018:	リュウキュウキジノオ	<i>Plagiogyria koidzumii</i>	EN
第4次 2017:	リュウキュウキジノオ	<i>Plagiogyria koidzumii</i>	EN
第4次 2015:	リュウキュウキジノオ	<i>Plagiogyria koidzumii</i>	EN
第4次:	リュウキュウキジノオ	<i>Plagiogyria koidzumii</i>	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 沖縄県環境部自然保護課, 2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課, 690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Plagiogyria koidzumii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Plagiogyria koidzumii* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメホングウシダ

Lindsaea cambodgensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎はやや長く匍匐。葉は 2 回羽状複生（最下羽片は 3 回羽状になることがある）、5-8 対の側羽片があり、葉柄は長さ 11-16 cm、葉身は長さ 9.3-13 cm、三角形～三角状卵形、最終裂片の辺縁は孢子嚢群のつく箇所は歯牙縁、他は全縁、葉質は草質、葉の色は暗黄緑色。孢子嚢群は裂片の辺縁の約 0.7 mm 内側（2～4 本の脈端を連ねる）につき、長楕円形～線形、包膜の辺縁は波状縁～歯牙縁。

【生活史】

常緑。地上生。

【生育環境】

低地のやや密な森林中に生育する。

【分布域】

琉球列島（沖縄島以北：屋久島・奄美大島・沖縄島）、カンボジア。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。産地と個体数が限られる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメホングウシダ	<i>Lindsaea cambodgensis</i>	VU
第4次 2019:	ヒメホングウシダ	<i>Lindsaea cambodgensis</i>	VU
第4次 2018:	ヒメホングウシダ	<i>Lindsaea cambodgensis</i>	VU
第4次 2017:	ヒメホングウシダ	<i>Lindsaea cambodgensis</i>	VU
第4次 2015:	ヒメホングウシダ	<i>Lindsaea cambodgensis</i>	VU
第4次:	ヒメホングウシダ	<i>Lindsaea cambodgensis</i>	VU
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 沖縄県環境部自然保護課, 2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課, 690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lindsaea cambodgensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Lindsaea cambodgensis is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イワホウライシダ

*Adiantum ogasawarense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐。葉は 2 回羽状複生～3 回羽状深裂、5-8 対の側羽片があり、葉柄は長さ 5.4-8.3 cm、葉身は長さ 6.1-8.6 cm、卵形～狭卵形、最終裂片の辺縁は前側は鈍鋸歯縁、他は全縁、葉質は薄い草質、葉の色は緑色～鮮緑色。胞子嚢群は羽片の辺縁につき、扁円形～円形、長さ 0.9-1.2 mm。

【生活史】

常緑で崖地性または岩上生。

【生育環境】

湿った岩上や崖地などに生育。

【分布域】

小笠原諸島（兄島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	4	0	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イワホウライシダ	<i>Adiantum ogasawarense</i>	VU
第4次 2019:	イワホウライシダ	<i>Adiantum ogasawarense</i>	VU
第4次 2018:	イワホウライシダ	<i>Adiantum ogasawarense</i>	VU
第4次 2017:	イワホウライシダ	<i>Adiantum ogasawarense</i>	VU
第4次 2015:	イワホウライシダ	<i>Adiantum ogasawarense</i>	VU
第4次:	イワホウライシダ	<i>Adiantum ogasawarense</i>	VU
第3次:	イワホウライシダ	<i>Adiantum ogasawarense</i>	EN
第2次:	イワホウライシダ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 東京都環境局自然環境部, 2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php> (2024年9月6日閲覧).

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Adiantum ogasawarense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Adiantum ogasawarense is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タキシダ

Antrophyum obovatum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐～斜上。葉は単葉、葉柄は葉身と連続的、葉身は長さ 9.3-15 cm、狭倒卵形、葉身の辺縁は全縁、葉質は革質、葉の色は緑色。孢子嚢群は葉裏面の脈状（浅い溝の中）につき、線形（時々網目をつくる）。

【生活史】

常緑で岩上生。

【生育環境】

やや陰湿な林中の溪流に近い岩上に生育。

【分布域】

本州（千葉県以西）・四国・九州・屋久島、中国・台湾・インドシナ半島・南アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで絶滅し、34 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
20	14	0	0	0	0	34	5	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	産地局限
件数	8	4

10		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タキシシダ	<i>Antrophyum obovatum</i>	EN
第4次 2019:	タキシシダ	<i>Antrophyum obovatum</i>	EN
第4次 2018:	タキシシダ	<i>Antrophyum obovatum</i>	EN
第4次 2017:	タキシシダ	<i>Antrophyum obovatum</i>	EN
第4次 2015:	タキシシダ	<i>Antrophyum obovatum</i>	EN
第4次:	タキシシダ	<i>Antrophyum obovatum</i>	EN
第3次:	タキシシダ	<i>Antrophyum obovatum</i>	EN
第2次:	タキシシダ	<i>Antrophyum obovatum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

千葉県[最重要保護生物(A)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 富山県[絶滅+野生絶滅] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 三重県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 滋賀県[絶滅危惧種] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[EX] 兵庫県[Aランク] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 島根県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 香川県[絶滅(EX)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 福岡県[絶滅] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 長崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Antrophyum obovatum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Antrophyum obovatum is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エビガラシダ

Cheilanthes chusana

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎は斜上～直立。葉はやや二形性（栄養葉は孢子葉より小型）。葉は 2 回羽状深裂～全裂、14-17 対の側羽片があり、葉柄は長さ 2.3-5.3 cm、葉身は長さ 10-19 cm、長楕円状披針形、最終裂片の辺縁は鈍鋸歯縁、葉質は草質、葉の色は黄緑色。孢子嚢群は裂片の辺縁につき（互いに合着して連なることがある）、扁円形～線形。

【生活史】

常緑で岩上生。

【生育環境】

向陽の岩隙や路傍の石垣の間に生育。

【分布域】

本州（和歌山県以西）・四国・九州、朝鮮・中国・台湾・インドシナ半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 9 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	5	1	1	0	0	9	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	園芸採取	道路工事
件数	4	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エビガラシダ	<i>Cheilanthes chusana</i>	VU
第4次 2019:	エビガラシダ	<i>Cheilanthes chusana</i>	VU
第4次 2018:	エビガラシダ	<i>Cheilanthes chusana</i>	VU
第4次 2017:	エビガラシダ	<i>Cheilanthes chusana</i>	VU
第4次 2015:	エビガラシダ	<i>Cheilanthes chusana</i>	VU
第4次:	エビガラシダ	<i>Cheilanthes chusana</i>	VU
第3次:	エビガラシダ	<i>Cheilanthes chusana</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

兵庫県[A ランク] 和歌山県[絶滅(EX)] 岡山県[準絶滅危惧] 広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 徳島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 香川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 高知県[準絶滅危惧(NT)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA 類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 長崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 熊本県[要注目種(AN)] 大分県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA 類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cheilanthes chusana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Cheilanthes chusana is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.	
Threat types:	Natural succession, Collecting plants in gardening, Road construction
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメシシラン

Haplopteris anguste-elongata

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 D
推定成熟個体数が 1000 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐。葉は単葉、葉柄は不明瞭、葉身は長さ 8.4-18 cm、線形、葉身の辺縁は全縁、葉質は薄い革質、葉の色は緑色。孢子嚢群は辺縁の溝の中に左右各 1 列あり、長い線形。

【生活史】

常緑で着生または岩上生。

【生育環境】

山地の樹幹や岩上に生育。

【分布域】

琉球列島（石垣島・西表島・魚釣島）、中国・台湾・フィリピンに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では、2 メッシュで計数個体が現存すると報告された。沖縄県の詳細は不明であったが、少なくとも 250 個体以上現存すると考えられたため、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメシシラン	<i>Haplopteris ensiformis</i>	VU
第4次 2019:	ヒメシシラン	<i>Haplopteris ensiformis</i>	VU
第4次 2018:	ヒメシシラン	<i>Haplopteris ensiformis</i>	VU
第4次 2017:	ヒメシシラン	<i>Haplopteris ensiformis</i>	VU
第4次 2015:	ヒメシシラン	<i>Haplopteris ensiformis</i>	VU
第4次:	ヒメシシラン	<i>Haplopteris ensiformis</i>	VU
第3次:	ヒメシシラン	<i>Vittaria ensiformis</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 沖縄県環境部自然保護課, 2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課, 690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Haplopteris anguste-elongata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Haplopteris anguste-elongata is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キドイノモトソウ

Pteris kidoi

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は二形性がある。孢子葉は 1 回羽状複生（下部羽片は 2 回羽状）、1-2 対の側羽片があり、葉柄は長さ 12-15 cm、葉身は長さ 19-25 cm、卵形～狭卵形、最終裂片の辺縁は反転して偽包膜となる。栄養葉は 2 回羽状複生、1 対の側羽片があり、葉柄は長さ 3-6 cm、葉身は長さ 8-12 cm、披針形、最終裂片の辺縁は硬く細かい鋸歯縁。葉質は薄い紙質、葉の色は黄緑色。孢子囊群は孢子葉の羽片の辺縁につき、線形。

【生活史】

常緑で岩上生。

【生育環境】

石灰岩地帯の岩上や隙間に生育。

【分布域】

本州（岡山県・山口県）・四国（愛媛県・高知県）・九州（福岡県・熊本県・大分県）、台湾・中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	2	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

自然遷移		
件数 3		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キドイノモトソウ	<i>Pteris kidoi</i>	VU
第4次 2019:	キドイノモトソウ	<i>Pteris kidoi</i>	VU
第4次 2018:	キドイノモトソウ	<i>Pteris kidoi</i>	VU
第4次 2017:	キドイノモトソウ	<i>Pteris kidoi</i>	VU
第4次 2015:	キドイノモトソウ	<i>Pteris kidoi</i>	VU
第4次:	キドイノモトソウ	<i>Pteris kidoi</i>	VU
第3次:	キドイノモトソウ	<i>Pteris kidoi</i>	VU
第2次:	キドイノモトソウ	<i>Pteris kidoi</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 愛媛県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 熊本県[準絶滅危惧(NT)] 大分県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Pteris kidoi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pteris kidoi* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤワラハチジョウシダ

*Pteris natiensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 2 回羽状全裂（最下羽片の下向き第一小羽片のみ 3 回羽状）、3-4 対の側羽片があり、葉柄は長さ 39-48 cm、葉身は長さ 26-30 cm、広卵形、最終裂片の辺縁は全縁、葉質は草質、葉の色は淡緑色。孢子嚢群は裂片の辺縁につき、線形。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

シイ・カシ帯の樹林内に生育。

【分布域】

本州（神奈川県・紀伊半島）・四国（徳島県・高知県）・九州・琉球列島（トカラ列島以北）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 12 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
5	4	1	2	0	0	12	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	その他動物食害	シカ食害
件数	1	1

4		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤワラハチジョウシダ	<i>Pteris natiensis</i>	EN
第4次 2019:	ヤワラハチジョウシダ	<i>Pteris natiensis</i>	EN
第4次 2018:	ヤワラハチジョウシダ	<i>Pteris natiensis</i>	EN
第4次 2017:	ヤワラハチジョウシダ	<i>Pteris natiensis</i>	EN
第4次 2015:	ヤワラハチジョウシダ	<i>Pteris natiensis</i>	EN
第4次:	ヤワラハチジョウシダ	<i>Pteris natiensis</i>	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

神奈川県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 三重県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 奈良県[希少種] 和歌山県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 徳島県[絶滅危惧ⅠB類] 高知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 長崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[情報不足(DD)] 宮崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU-r)] 鹿児島県[準絶滅危惧]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課・神奈川県立生命の星・地球博物館, 2022. 神奈川県レッドデータブック 2022 植物編. 神奈川県, 438pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pteris natiensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pteris natiensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	Natural succession, Other animal feeding damage, Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カワリバアマクサシダ

Pteris perplexa

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は二形性がある。孢子葉は 1 回羽状複生、3 対の側羽片があり、葉柄は長さ 22-31 cm、葉身は長さ 16-22 cm、卵形、最終裂片の辺縁は反転して偽包膜となる。栄養葉は 2 回羽状深裂、1-2 対の側羽片があり、葉柄は長さ 8-13 cm、葉身は長さ 11-15 cm、卵形、最終裂片の辺縁は粗い鋸歯縁。葉質は薄い革質、葉の色は暗黄緑色。孢子嚢群は孢子葉の羽片の辺縁につき、線形。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

山地のやや乾いた林下に生育。

【分布域】

琉球列島、台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カワリバアマクサシダ	<i>Pteris cadieri</i>	VU
第4次 2019:	カワリバアマクサシダ	<i>Pteris cadieri</i>	VU
第4次 2018:	カワリバアマクサシダ	<i>Pteris cadieri</i>	VU
第4次 2017:	カワリバアマクサシダ	<i>Pteris cadieri</i>	VU
第4次 2015:	カワリバアマクサシダ	<i>Pteris cadieri</i>	VU
第4次:	カワリバアマクサシダ	<i>Pteris cadieri</i>	VU
第3次:	カワリバアマクサシダ	<i>Pteris cadieri</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pteris perplexa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pteris perplexa* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

サツマハチジョウシダ

Pteris satsumana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 2 回羽状全裂（最下羽片の下向き第一小羽片のみ 3 回羽状）、4-5 対の側羽片があり、葉柄は長さ 44-52 cm、葉身は長さ 34-39 cm、広卵形、最終裂片の辺縁は全縁、葉質は草質、葉の色は淡緑色。孢子嚢群は裂片の辺縁につき、線形。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

山地の林床に生育。

【分布域】

九州（長崎県・熊本県・鹿児島県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。産地と個体数が限られる。今後、シカ食害によって減少する可能性がある判断した。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サツマハチジョウシダ	<i>Pteris satsumana</i>	VU
第4次 2019:	サツマハチジョウシダ	<i>Pteris satsumana</i>	VU
第4次 2018:	サツマハチジョウシダ	<i>Pteris satsumana</i>	VU
第4次 2017:	サツマハチジョウシダ	<i>Pteris satsumana</i>	VU
第4次 2015:	サツマハチジョウシダ	<i>Pteris satsumana</i>	VU
第4次:	サツマハチジョウシダ	<i>Pteris satsumana</i>	VU
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pteris satsumana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pteris satsumana* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマハチジョウシダ

*Pteris yakuinsularis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 C

推定成熟個体数 10000 個体未満かつ 10 年間に 10%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 2 回羽状全裂（最下羽片の下向き第一小羽片のみ 3 回羽状）、4-6 対の側羽片があり、葉柄は長さ 46-58 cm、葉身は長さ 34-47 cm、三角状卵形、最終裂片の辺縁は全縁、葉質はやや厚い草質、葉の色は淡緑色。孢子嚢群は裂片の辺縁につき、線形。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

山地の森林中に生育。

【分布域】

本州（三重県）・九州・屋久島・種子島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数個体の現存が推定された。基準 C により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 土地造成	管理放棄	
件数	1	

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマハチジョウシダ	<i>Pteris yakuinsularis</i>	VU
第4次 2019:	ヤクシマハチジョウシダ	<i>Pteris yakuinsularis</i>	VU
第4次 2018:	ヤクシマハチジョウシダ	<i>Pteris yakuinsularis</i>	VU
第4次 2017:	ヤクシマハチジョウシダ	<i>Pteris yakuinsularis</i>	VU
第4次 2015:	ヤクシマハチジョウシダ	<i>Pteris yakuinsularis</i>	VU
第4次:	ヤクシマハチジョウシダ	<i>Pteris yakuinsularis</i>	VU
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

佐賀県[絶滅危惧Ⅱ類種] 長崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 熊本県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[準絶滅危惧(NT-r)] 鹿児島県[準絶滅危惧]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pteris yakuinsularis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pteris yakuinsularis* is listed as VU under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 10,000 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 10% within ten years.	
Threat types:	Land development, Abandonment of management
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コウシュンシダ

Microlepia obtusiloba var. *obtusiloba*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐。葉は 3 回羽状深裂～全裂、23-29 対の側羽片があり、葉柄は長さ 26-43 cm、葉身は長さ 45-63 cm、広長楕円状披針形、最終裂片の辺縁は波状縁～鈍鋸歯縁、葉の色は暗黄緑色～緑色、葉質は厚い草質。孢子嚢群は裂片の辺縁から 1.0 mm 内側につき、扁円形、包膜はポケット状（波状縁）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

山地の林下に生育。

【分布域】

琉球列島（屋久島・西表島）、中国・台湾・インドシナ半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。屋久島ではシカの食害によって減少した。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コウシュンシダ	<i>Microlepia obtusiloba</i> var. <i>obtusiloba</i>	VU
第4次 2019:	コウシュンシダ	<i>Microlepia obtusiloba</i> var. <i>obtusiloba</i>	VU
第4次 2018:	コウシュンシダ	<i>Microlepia obtusiloba</i> var. <i>obtusiloba</i>	VU
第4次 2017:	コウシュンシダ	<i>Microlepia obtusiloba</i> var. <i>obtusiloba</i>	VU
第4次 2015:	コウシュンシダ	<i>Microlepia obtusiloba</i> var. <i>obtusiloba</i>	VU
第4次:	コウシュンシダ	<i>Microlepia obtusiloba</i> var. <i>obtusiloba</i>	VU
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[準絶滅危惧] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Microlepia obtusiloba var. *obtusiloba* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Microlepia obtusiloba* var. *obtusiloba* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオイシカグマ

Microlepia speluncae

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐。葉は 3-4 回羽状複生、16-23 対の側羽片があり、葉柄は長さ 18-48 cm、葉身は長さ 51-91 cm、卵状長楕円形、最終裂片の辺縁は波状縁～全縁、葉の色は黄緑色、葉質は草質～紙質。孢子嚢群は裂片の辺縁から 0.5-1.0 mm 内側につき、扁円形、包膜はポケット状（波状縁）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

林中のやや乾いた斜面や原野に生育。

【分布域】

琉球列島（沖縄島・石垣島・西表島）・小笠原諸島、世界の熱帯・亜熱帯に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。産地と個体数が限られる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオイシカグマ	<i>Microlepidia speluncae</i>	VU
第4次 2019:	オオイシカグマ	<i>Microlepidia speluncae</i>	VU
第4次 2018:	オオイシカグマ	<i>Microlepidia speluncae</i>	VU
第4次 2017:	オオイシカグマ	<i>Microlepidia speluncae</i>	VU
第4次 2015:	オオイシカグマ	<i>Microlepidia speluncae</i>	VU
第4次:	オオイシカグマ	<i>Microlepidia speluncae</i>	VU
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Microlepidia speluncae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Microlepidia speluncae is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クロガネシダ

Asplenium coenobiale

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立。葉の切れ込みは 2 回羽状浅裂～全裂、13-16 対の側羽片があり、葉柄は長さ 7.3-12 cm、葉身は長さ 7.2-11 cm、三角形、最終裂片の辺縁は頂点側は歯牙縁、他は全縁、葉質は紙質、葉の色は暗緑色。孢子嚢群は羽片の辺縁辺りに（小羽片の先端近くに 1 ～数個）つき、長楕円形、長さ 1.5-1.8 mm。

【生活史】

常緑。岩上生（石灰岩）。

【生育環境】

明るい場所の石灰岩上に生育する。

【分布域】

四国（高知県）に分布。国外では、中国、ベトナムに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	0	0	0	0	3	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	農薬汚染	園芸採取
件数	1	1

3		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クロガネシダ	<i>Asplenium coenobiale</i>	VU
第4次 2019:	クロガネシダ	<i>Asplenium coenobiale</i>	VU
第4次 2018:	クロガネシダ	<i>Asplenium coenobiale</i>	VU
第4次 2017:	クロガネシダ	<i>Asplenium coenobiale</i>	VU
第4次 2015:	クロガネシダ	<i>Asplenium coenobiale</i>	VU
第4次:	クロガネシダ	<i>Asplenium coenobiale</i>	VU
第3次:	クロガネシダ	<i>Asplenium coenobiale</i>	VU
第2次:	クロガネシダ	<i>Asplenium coenobiale</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

高知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Asplenium coenobiale has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Asplenium coenobiale is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Pesticide pollution, Collecting plants in gardening

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナンカイシダ

*Asplenium micantifrons***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐。葉の切れ込みは 1 回羽状複生、16-29 対の側羽片があり、葉柄は長さ 18-36 cm、葉身は長さ 28-68 cm、披針形、最終裂片の辺縁は重鋸歯縁、葉質は薄い革質、葉の色は緑色。孢子嚢群は羽片の中肋寄りにつき、線形、長さ 8.6-9.1 mm。

【生活史】

常緑。着生（樹上）。

【生育環境】

深い森林中でコケのついた樹幹に生育する。

【分布域】

小笠原諸島（母島、北硫黄島、南硫黄島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では数百個体の現存情報があつた。自生地状況に変化がない限り絶滅するおそれはないが、生育地が局限されている。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナンカイシダ	<i>Asplenium micantifrons</i>	VU
第4次 2019:	ナンカイシダ	<i>Asplenium micantifrons</i>	VU
第4次 2018:	ナンカイシダ	<i>Asplenium micantifrons</i>	VU
第4次 2017:	ナンカイシダ	<i>Asplenium micantifrons</i>	VU
第4次 2015:	ナンカイシダ	<i>Asplenium micantifrons</i>	VU
第4次:	ナンカイシダ	<i>Asplenium micantifrons</i>	VU
第3次:	ナンカイシダ	<i>Asplenium micantifrons</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Asplenium micantifrons has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Asplenium micantifrons is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムニンシダ

Asplenium polyodon

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉の切れ込みは 1 回羽状複生、7-10 対の側羽片があり、葉柄は長さ 16-21 cm、葉身は長さ 21-28 cm、卵状長楕円形、最終裂片の辺縁は不規則な鋸歯縁、葉質は薄い革質、葉の色は濃緑色。孢子嚢群は羽片の中肋と辺縁の中間～やや中肋寄りにつき、線形、長さ 12-16 mm。

【生活史】

常緑。岩上生。

【生育環境】

山林中の溪流沿いの岩の上に生育する。

【分布域】

小笠原諸島に分布。世界的には旧世界の熱帯、亜熱帯に分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では少なくとも計 250 個体以上が現存すると推定された。基準 D より VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
4	2	0	0	0	0	6	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

ノヤギの食害によって減少した種である。

旧レッドリストカテゴリと掲載名

第4次 2020:	ムニンシダ	<i>Asplenium polyodon</i>	VU
第4次 2019:	ムニンシダ	<i>Asplenium polyodon</i>	VU
第4次 2018:	ムニンシダ	<i>Asplenium polyodon</i>	VU
第4次 2017:	ムニンシダ	<i>Asplenium polyodon</i>	VU
第4次 2015:	ムニンシダ	<i>Asplenium polyodon</i>	VU
第4次:	ムニンシダ	<i>Asplenium polyodon</i>	VU
第3次:	ムニンシダ	<i>Asplenium polyodon</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Asplenium polyodon has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Asplenium polyodon is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オクタマシダ

*Asplenium pseudowilfordii***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上～直立。葉の切れ込みは 2 回羽状深裂～3 回羽状深裂、11-15 対の側羽片があり、葉柄は長さ 7.2-11 cm、葉身は長さ 10-16 cm、披針形、最終裂片の辺縁は、頂点側は歯牙縁、他は全縁、葉質は厚い紙質、葉の色は濃黄緑色。胞子嚢群は裂片と中肋と辺縁の中間につき、線形、長さ 2.9-4.5 mm。

【生活史】

常緑。着生（樹幹）／岩上生。

【生育環境】

山林中の陰地の岩上や樹幹に生育する。

【分布域】

本州（福島県以南）、四国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 19 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
9	8	1	1	0	0	19	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	道路工事	産地局限
件数	3	3

12		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オクタマシダ	<i>Asplenium pseudowilfordii</i>	VU
第4次 2019:	オクタマシダ	<i>Asplenium pseudowilfordii</i>	VU
第4次 2018:	オクタマシダ	<i>Asplenium pseudowilfordii</i>	VU
第4次 2017:	オクタマシダ	<i>Asplenium pseudowilfordii</i>	VU
第4次 2015:	オクタマシダ	<i>Asplenium pseudowilfordii</i>	VU
第4次:	オクタマシダ	<i>Asplenium pseudowilfordii</i>	VU
第3次:	オクタマシダ	<i>Asplenium pseudowilfordii</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 茨城県[絶滅危惧ⅠA類] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 東京都(本土部)[本土部：絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 山梨県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 長野県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅱ類] 愛知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 三重県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 滋賀県[絶滅危惧種] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[EX] 兵庫県[Aランク] 奈良県[絶滅危惧種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠB類] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Asplenium pseudowilfordii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Asplenium pseudowilfordii is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Road construction, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

テンリュウヌリトラノオ

Asplenium shimurae

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上～直立。葉の切れ込みは 1 回羽状複生、30-35 対の側羽片があり、葉柄は長さ 3.4-6.1 cm、葉身は長さ 14-18 cm、狭披針形、最終裂片の辺縁は波状縁、葉質は紙質、葉の色は暗緑色。孢子嚢群は羽片の中肋と辺縁の中間（羽片の先端寄りに集まり、角度は羽片の中肋と平行に近い）につき、長楕円形、長さ 2.3-3.1 mm。

【生活史】

常緑。岩上生。

【生育環境】

陰湿な谷間の崖地に生育する。

【分布域】

本州（福井県、静岡県、紀伊半島）、四国、九州（熊本県、宮崎県）に分布。国外では、中国、ネパール、ブータン、ハワイ、アフリカ？に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	1	2	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 自然遷移	その他	道路工事

件数 3	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	テンリュウヌリトラノオ	<i>Asplenium shimurae</i>	VU
第4次 2019:	テンリュウヌリトラノオ	<i>Asplenium shimurae</i>	VU
第4次 2018:	テンリュウヌリトラノオ	<i>Asplenium shimurae</i>	VU
第4次 2017:	テンリュウヌリトラノオ	<i>Asplenium shimurae</i>	VU
第4次 2015:	テンリュウヌリトラノオ	<i>Asplenium shimurae</i>	VU
第4次:	テンリュウヌリトラノオ	<i>Asplenium shimurae</i>	VU
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

静岡県[準絶滅危惧(NT)] 愛知県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 兵庫県[A ランク] 奈良県[絶滅危惧種] 徳島県[絶滅危惧 IB 類] 愛媛県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課, 2020. まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編—. 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課, 501pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asplenium shimurae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asplenium shimurae* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Other, Road construction
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オトメシダ

Asplenium tenerum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉の切れ込みは 1 回羽状複生、13-20 対の側羽片があり、葉柄は長さ 9.9-16 cm、葉身は長さ 16-26 cm、披針形、最終裂片の辺縁は鈍鋸歯縁、葉質は柔らかい革質、葉の色は緑色。孢子嚢群は羽片と中肋と辺縁の中間につき、線形、長さ 4.0-6.1 mm。

【生活史】

常緑。着生（樹幹）／岩上生。

【生育環境】

林内の溪流沿いなど、やや湿った場所に生育する。

【分布域】

琉球列島（石垣島）、小笠原諸島（父島、母島、北硫黄島）に分布。国外では、中国、台湾、南アジア、東南アジア、オーストラリアに分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では個体数過小評価とされた。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	1	0	0	0	0	4	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

ノヤギの食害によって減少した種である。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オトメシダ	<i>Asplenium tenerum</i>	VU
第4次 2019:	オトメシダ	<i>Asplenium tenerum</i>	VU
第4次 2018:	オトメシダ	<i>Asplenium tenerum</i>	VU
第4次 2017:	オトメシダ	<i>Asplenium tenerum</i>	VU
第4次 2015:	オトメシダ	<i>Asplenium tenerum</i>	VU
第4次:	オトメシダ	<i>Asplenium tenerum</i>	VU
第3次:	オトメシダ	<i>Asplenium tenerum</i>	CR
第2次:	オトメシダ	<i>Asplenium tenerum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Asplenium tenerum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asplenium tenerum* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ラハオシダ

Hymenasplenium excisum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎はやや長く匍匐。葉の切れ込みは 1 回羽状複生、17-22 対の側羽片があり、葉柄は長さ 15-22 cm、葉身は長さ 21-31 cm、三角状披針形、最終裂片の辺縁は頂点側は歯牙縁、他は全縁、葉質は草質、葉の色は緑色。孢子嚢群は羽片の中肋と辺縁の中間につき、線形、長さ 3.5-5.1 mm。

【生活史】

常緑。崖地生／岩上生。

【生育環境】

山地林内のやや湿った地面に生育する。

【分布域】

琉球列島（奄美大島以南）に分布。国外では、中国、台湾、南アジア、東南アジア、オーストラリア、南太平洋、アフリカに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	2	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ラハオシダ ^a	<i>Hymenasplenium excisum</i>	EN
第4次 2019:	ラハオシダ ^a	<i>Hymenasplenium excisum</i>	EN
第4次 2018:	ラハオシダ ^a	<i>Hymenasplenium excisum</i>	EN
第4次 2017:	ラハオシダ ^a	<i>Hymenasplenium excisum</i>	EN
第4次 2015:	ラハオシダ ^a	<i>Hymenasplenium excisum</i>	EN
第4次:	ラハオシダ ^a	<i>Hymenasplenium excisum</i>	EN
第3次:	ラハオシダ ^a	<i>Hymenasplenium excisum</i>	EN
第2次:	ラハオシダ ^a	<i>Asplenium excisum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Hymenasplenium excisum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Hymenasplenium excisum is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオギミシダ

Woodwardia harlandii

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 D
推定成熟個体数が 1000 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐。葉は二形性がある。孢子葉は 1 回羽状全裂、1-2 対の側羽片があり、葉柄は長さ 28-41 cm、葉身は長さ 20-26 cm、三角形～卵形、最終裂片の辺縁は波状縁。栄養葉は 1 回羽状深裂、1 対の側羽片があり、葉柄は長さ 14-21 cm、葉身は長さ 12-26 cm、三角形～卵形、最終裂片の辺縁は波状縁。葉質は硬い紙質、葉の色は淡緑色。孢子嚢は中肋の両側に接するように 2 列に並び、線形、長さ 9.5-14 mm、包膜は線形。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

高地の林床に生育。

【分布域】

琉球列島、中国・台湾・インドシナ半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 4 メッシュで計数百個体が現存していた。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	2	0	1	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオギミシダ	<i>Woodwardia harlandii</i>	VU
第4次 2019:	オオギミシダ	<i>Woodwardia harlandii</i>	VU
第4次 2018:	オオギミシダ	<i>Woodwardia harlandii</i>	VU
第4次 2017:	オオギミシダ	<i>Woodwardia harlandii</i>	VU
第4次 2015:	オオギミシダ	<i>Woodwardia harlandii</i>	VU
第4次:	オオギミシダ	<i>Woodwardia harlandii</i>	VU
第3次:	オオギミシダ	<i>Woodwardia harlandii</i>	VU
第2次:	オオギミシダ	<i>Woodwardia harlandii</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 沖縄県環境部自然保護課, 2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課, 690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Woodwardia harlandii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Woodwardia harlandii is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

テバコワラビ

Athyrium atkinsonii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐。葉は 4 回羽状浅裂～複生、16-21 対の側羽片があり、葉柄は長さ 30-44 cm、葉身は長さ 38-54 cm、三角形～三角状卵形、小羽片の辺縁は浅い鈍鋸歯縁、葉質は薄い草質、葉の色は淡緑色。孢子嚢群は裂片の中肋寄りにつき、円形～楕円形、長さ 0.5-0.7 mm、包膜は円腎形、包膜の辺縁は小突起状。

【生活史】

夏緑。地上生。

【生育環境】

冷温帯の山地の落葉広葉樹の明るい林床・林縁・草地に生育する。

【分布域】

本州（関東地方以西）・四国・九州（熊本県・宮崎県）、中国・台湾・南アジア。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、8 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	2	3	0	0	8	1	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	自然遷移	人の踏みつけ
件数	4	1

4		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	テバコワラビ	<i>Athyrium atkinsonii</i>	VU
第4次 2019:	テバコワラビ	<i>Athyrium atkinsonii</i>	VU
第4次 2018:	テバコワラビ	<i>Athyrium atkinsonii</i>	VU
第4次 2017:	テバコワラビ	<i>Athyrium atkinsonii</i>	VU
第4次 2015:	テバコワラビ	<i>Athyrium atkinsonii</i>	VU
第4次:	テバコワラビ	<i>Athyrium atkinsonii</i>	VU
第3次:	テバコワラビ	<i>Athyrium atkinsonii</i>	NT
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(本土部)[本土部:絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 富山県[準絶滅危惧] 福井県[要注目] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[留意種(N)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 滋賀県[希少種] 京都府[絶滅種] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[準絶滅危惧] 愛媛県[準絶滅危惧(NT)] 高知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 熊本県希少野生動植物検討委員会, 2019. レッドデータブックくまもと 2019 —熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物—. 熊本県環境生活部自然保護課, 632pp.
- 京都府環境部自然環境保全課, 2015. 京都府レッドデータブック 2015 第2巻: 野生植物・菌類編. 京都府環境部自然環境保全課, 611pp.
- 高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会, 2022. 高知県レッドデータブック 2022 植物編. 高知県林業振興・環境部自然共生課, 229pp.

- 愛媛県レッドデータブック改訂委員会, 2014. 愛媛県レッドデータブック 2014—愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物—. 愛媛県県民環境部環境局自然保護課, 623pp.
- 山口県環境生活部自然保護課, 2019. レッドデータブックやまぐち 2019 山口県の絶滅のおそれのある野生生物. <https://www.yamaguchi-rdb.com/site/index.php> (2024 年 9 月 6 日閲覧).

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Athyrium atkinsonii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Athyrium atkinsonii* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession, Human trampling
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月: 2025 年 3 月

ヘイケイヌワラビ

*Athyrium eremicola***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 1 回羽状複生～2 回羽状複生、23-26 対の側羽片があり、葉柄は長さ 13-20 cm、葉身は長さ 24-30 cm、披針形、小羽片の辺縁は鋸歯縁、葉質はやや厚い草質、葉の色は緑色。孢子嚢群は羽片の中肋寄り（ほぼ羽軸に接する）につき、長楕円形～線形、長さ 2.9-3.6 mm、包膜は長楕円形～線形（～鉤形）、包膜の辺縁はほぼ全縁～波状縁。羽軸表面に刺状突起はほとんどない。

【生活史】

常緑。地上生。

【生育環境】

溪流沿いの林床や斜面など、湿度の保たれた立地に生育する。

【分布域】

本州（兵庫県以西）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 6 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	2	2	0	0	6	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	産地局限	

件数 2	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハイケイヌワラビ	<i>Athyrium eremicola</i>	VU
第4次 2019:	ハイケイヌワラビ	<i>Athyrium eremicola</i>	VU
第4次 2018:	ハイケイヌワラビ	<i>Athyrium eremicola</i>	VU
第4次 2017:	ハイケイヌワラビ	<i>Athyrium eremicola</i>	VU
第4次 2015:	ハイケイヌワラビ	<i>Athyrium eremicola</i>	VU
第4次:	ハイケイヌワラビ	<i>Athyrium eremicola</i>	VU
第3次:	ハイケイヌワラビ	<i>Athyrium eremicola</i>	VU
第2次:	ハイケイヌワラビ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

兵庫県[A ランク] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 島根県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山口県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 兵庫県環境部自然鳥獣共生課, 2020. 兵庫県版レッドデータブック 2020 (植物・植物群落). https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/%21drafts/leg_8362 (2024 年 9 月 5 日閲覧).
- 島根県環境生活部自然環境課, 2013. 改訂しまねレッドデータブック 2013 植物編—島根県の絶滅のおそれのある野生生物—. 島根県環境生活部自然環境課, 254pp.
- 山口県環境生活部自然保護課, 2019. レッドデータブックやまぐち 2019 山口県の絶滅のおそれのある野生生物. <https://www.yamaguchi-rdb.com/site/index.php> (2024 年 9 月 6 日閲覧).
- 生物多様性広島戦略推進会議希少生物分科会, 2022. 絶滅のおそれのある野生生物 第4版 レッドデータブックひろしま 2021. 広島県環境県民局自然環境課, 761pp.

- 島根県環境生活部自然環境課，2013．改訂しまねレッドデータブック 2013 植物編―島根県の絶滅のおそれのある野生生物―．島根県環境生活部自然環境課，254pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Athyrium eremicola has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Athyrium eremicola* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメホウビシダ

Athyrium nakanoi

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上～短く匍匐。葉は 1 回羽状複生、21-24 対の側羽片があり、葉柄は長さ 4.4-6.4 cm、葉身は長さ 14-16 cm、長楕円状披針形（最下羽片は下向きで、若干短縮）、小羽片の辺縁は粗い鈍鋸歯縁（辺縁の半透明の細胞が明瞭）、葉質はやや厚い草質、葉の色は緑色。孢子嚢群は羽片の中肋と辺縁の中間（中肋の両側に 1 列に並ぶ）につき、楕円形～鉤形、長さ 1.0-1.3 mm、包膜は長楕円形～馬蹄形、包膜の辺縁は不規則な突起縁。

【生活史】

常緑。崖地生。

【生育環境】

山地の湿った岩上や崖地に生育する。

【分布域】

本州（和歌山県）・屋久島、中国（四川省・雲南省）・台湾・南アジア。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
11	0	1	0	0	0	12	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメホウビシダ	<i>Athyrium nakanoi</i>	VU
第4次 2019:	ヒメホウビシダ	<i>Athyrium nakanoi</i>	VU
第4次 2018:	ヒメホウビシダ	<i>Athyrium nakanoi</i>	VU
第4次 2017:	ヒメホウビシダ	<i>Athyrium nakanoi</i>	VU
第4次 2015:	ヒメホウビシダ	<i>Athyrium nakanoi</i>	VU
第4次:	ヒメホウビシダ	<i>Athyrium nakanoi</i>	VU
第3次:	ヒメホウビシダ	<i>Athyrium nakanoi</i>	NT
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Athyrium nakanoi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Athyrium nakanoi* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

サカバサトメシダ

Athyrium palustre

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 2 回羽状深裂～3 回羽状深裂、20-23 対の側羽片があり、葉柄は長さ 12-38 cm、葉身は長さ 22-41 cm、三角状披針形～披針形（小型の葉では下部羽片が下向き、大型の葉ではほぼ直角に出るか斜上）、小羽片の辺縁は鋸歯縁、葉質は薄い草質、葉の色は緑色。孢子嚢群は裂片のやや中肋寄りにつき、長楕円形、長さ 0.8-1.1 mm、包膜は長楕円形、包膜の辺縁は不規則な突起縁。当初はサカバイヌワラビと混同されていたが、葉身の切れ込みが深く、鱗片が幅広い特徴などから独立の種として扱われるようになった。葉身の形状は三角状で幅広いものから狭披針形のものまで、変化に富む。

【生活史】

夏緑。地上生。

【生育環境】

山地の流水辺の林床や林縁など、湿った立地に生える。

【分布域】

本州（岡山県）・四国（徳島県・高知県）・九州・屋久島、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サカバサトメシダ	<i>Athyrium palustre</i>	VU
第4次 2019:	サカバサトメシダ	<i>Athyrium palustre</i>	VU
第4次 2018:	サカバサトメシダ	<i>Athyrium palustre</i>	VU
第4次 2017:	サカバサトメシダ	<i>Athyrium palustre</i>	VU
第4次 2015:	サカバサトメシダ	<i>Athyrium palustre</i>	VU
第4次:	サカバサトメシダ	<i>Athyrium palustre</i>	VU
第3次:	サカバサトメシダ	<i>Athyrium palustre</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 佐賀県[絶滅種] 長崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 熊本県希少野生動植物検討委員会, 2019. レッドデータブックくまもと 2019 —熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物—. 熊本県環境生活部自然保護課, 632pp.
- 福岡県環境部自然環境課, 2011. 福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2011—植物群落・植物・哺乳類・鳥類—. 福岡県環境部自然環境課, 240pp.
- 大分県自然環境学術調査会, 2022. レッドデータブックおおいた 2022—大分県の絶滅のおそれのある野生生物—. <https://www.rdb-oita.jp/> (2024年9月5日閲覧).

- 高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会，2022. 高知県レッドデータブック 2022 植物編. 高知県林業振興・環境部自然共生課，229pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Athyrium palustre has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Athyrium palustre* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コウライヌワラビ

Deparia coreana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐。葉は 2 回羽状深裂～3 回羽状中裂、19-22 対の側羽片があり、葉柄は長さ 32-50 cm、葉身は長さ 41-56 cm、三角状卵形、最終裂片の辺縁は全縁～波状縁、葉質は草質、葉の色は鮮緑色。孢子嚢群は小羽片の中肋と辺縁の中間～やや中肋寄りにつき、円形～わずかに鉤形、長さ 1.0-1.3 mm、包膜は円腎形～わずかに鉤形、包膜の辺縁は不規則な突起縁。

【生活史】

夏緑。地上生。

【生育環境】

山地のやや陰湿な林床や、やや日当たりが良く湿り気のある林床・岩陰などに生える。

【分布域】

北海道（胆振）・本州（新潟県以東）・四国（愛媛県）・九州（対馬）、朝鮮・中国。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、2 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	不明	

自然遷移		
件数		
1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コウライイヌワラビ	<i>Deparia coreana</i>	VU
第4次 2019:	コウライイヌワラビ	<i>Deparia coreana</i>	VU
第4次 2018:	コウライイヌワラビ	<i>Deparia coreana</i>	VU
第4次 2017:	コウライイヌワラビ	<i>Deparia coreana</i>	VU
第4次 2015:	コウライイヌワラビ	<i>Deparia coreana</i>	VU
第4次:	コウライイヌワラビ	<i>Deparia coreana</i>	VU
第3次:	コウライイヌワラビ	<i>Deparia coreana</i>	VU
第2次:	コウライイヌワラビ	<i>Deparia coreana</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[希少野生生物(C ランク)] 岩手県[絶滅(Ex)] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 秋田県[絶滅危惧種ⅠB類(EN)] 山形県[情報不足(DD)] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 岩手県環境生活部自然保護課, 2014. いわてレッドデータブック 岩手の希少な野生生物 web 版. <https://www2.pref.iwate.jp/~hp0316/rd/rdb/index.html> (2024 年 9 月 6 日閲覧).
- 秋田県生活環境部自然保護課, 2014. 秋田県の絶滅のおそれのある野生生物 秋田県版レッドデータブック 2014—維管束植物—. 秋田県生活環境部自然保護課, 204pp.
- 高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会, 2022. 高知県レッドデータブック 2022 植物編. 高知県林業振興・環境部自然共生課, 229pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Deparia coreana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Deparia coreana* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ウスバシケシダ

Deparia longipes

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐。葉は 2 回羽状深裂、19-24 対の側羽片があり、葉柄は長さ 17-23 cm、葉身は長さ 22-32 cm、長楕円状広披針形～卵状広披針形、最終裂片の辺縁は波状縁～浅い鈍鋸歯縁、葉質は草質、葉の色は鮮緑色。孢子嚢群は裂片の中肋寄りにつき、狭長楕円形、長さ 1.7-2.6 mm、包膜は狭長楕円形、包膜の辺縁は不規則な突起縁。シケシダとの雑種が同所に見られる場合が多い。シケシダより根茎が長く這い、葉を直立させる傾向が強い。

【生活史】

夏緑。地上生。

【生育環境】

丘陵地の林縁、河川敷の藪などの草地、社寺境内などに生育する。

【分布域】

本州（岐阜県・愛知県・和歌山県）・九州（宮崎県）、中国（南部）・台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウスバシケンシダ	<i>Deparia longipes</i>	VU
第4次 2019:	ウスバシケンシダ	<i>Deparia longipes</i>	VU
第4次 2018:	ウスバシケンシダ	<i>Deparia longipes</i>	VU
第4次 2017:	ウスバシケンシダ	<i>Deparia longipes</i>	VU
第4次 2015:	ウスバシケンシダ	<i>Deparia longipes</i>	VU
第4次:	ウスバシケンシダ	<i>Deparia longipes</i>	VU
第3次:	ウスバシケンシダ	<i>Deparia</i> sp.	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

愛知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳，2017．日本産シダ植物標準図鑑 2．508pp．学研，東京．
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022．宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020 年度版．宮崎県環境森林部自然環境課，380pp．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp．
- 愛知県環境調査センター，2020．レッドデータブックあいち 2020—植物編—．愛知県環境局環境政策部自然環境課，810pp．

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Deparia longipes has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Deparia longipes* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シマクジャク

*Diplazium longicarpum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立。葉は 1 回羽状複生、12-15 対の側羽片があり、葉柄は長さ 19-26 cm、葉身は長さ 26-32 cm、長楕円状広披針形、最終裂片の辺縁は浅く粗い鋸歯縁、葉質は硬い草質、葉の色は緑色。孢子嚢群は裂片の中肋と辺縁のほぼ中間につき、線形、長さ 5.7-8.0 mm、包膜は線形、包膜の辺縁は全縁。

【生活史】

常緑。地上生。

【生育環境】

樹林の陰湿な林床に生育する。

【分布域】

小笠原諸島（父島・母島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化はない。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	1	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シマクジャク	<i>Diplazium longicarpum</i>	VU
第4次 2019:	シマクジャク	<i>Diplazium longicarpum</i>	VU
第4次 2018:	シマクジャク	<i>Diplazium longicarpum</i>	VU
第4次 2017:	シマクジャク	<i>Diplazium longicarpum</i>	VU
第4次 2015:	シマクジャク	<i>Diplazium longicarpum</i>	VU
第4次:	シマクジャク	<i>Diplazium longicarpum</i>	VU
第3次:	シマクジャク	<i>Diplazium longicarpum</i>	EN
第2次:	シマクジャク	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 東京都環境局自然環境部, 2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php> (2024年9月6日閲覧).

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Diplazium longicarpum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Diplazium longicarpum* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ニセシロヤマシダ

Diplazium taiwanense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立～斜上。葉は 3 回羽状中裂～深裂、16-19 対の側羽片があり、葉柄は長さ 36-53 cm、葉身は長さ 55-67 cm、三角状広卵形、小羽片基部は広いくさび形、最終裂片の辺縁は全縁～鈍鋸歯縁、葉質は厚い草質、葉の色は緑色。孢子嚢群は裂片の中肋と辺縁の中間、狭長楕円形、長さ 1.8-2.3 mm、包膜は狭長楕円形（孢子嚢群を包み込む）、包膜の辺縁は全縁で成熟すると不規則に裂ける。

【生活史】

常緑。地上生。

【生育環境】

山地の湿った林床や、水の流れがあるような場所に生える。

【分布域】

九州（宮崎県・鹿児島県）・琉球列島（沖縄島以北）、台湾・ベトナム・タイ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ニセシロヤマシダ	<i>Diplazium taiwanense</i>	VU
第4次 2019:	ニセシロヤマシダ	<i>Diplazium taiwanense</i>	VU
第4次 2018:	ニセシロヤマシダ	<i>Diplazium taiwanense</i>	VU
第4次 2017:	ニセシロヤマシダ	<i>Diplazium taiwanense</i>	VU
第4次 2015:	ニセシロヤマシダ	<i>Diplazium taiwanense</i>	VU
第4次:	ニセシロヤマシダ	<i>Diplazium taiwanense</i>	VU
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[準絶滅危惧] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 沖縄県環境部自然保護課, 2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課, 690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Diplazium taiwanense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Diplazium taiwanense is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タイワンハシゴシダ

Thelypteris castanea

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉の切れ込みは 2 回羽状深裂、9-10 対の側羽片があり、葉柄は長さ 4.9-6.8 cm、葉身は長さ 5.9-8.2 cm、三角状狭卵形、最終裂片の辺縁は全縁～波状縁（有毛）、葉質は薄い草質、葉の色は淡黄緑色。孢子嚢群は裂片の中肋と辺縁の中間～やや辺縁寄り（羽軸の両側に 2 列に並ぶ）につき、円形、長さ 0.7-0.9 mm、包膜はあり、円腎形で表面には有毛（半透明の短い多細胞毛やや密）、黄褐色の腺細胞あり。

【生活史】

常緑。岩上生。

【生育環境】

林床に生育する。

【分布域】

琉球列島（西表島）に分布。国外では台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	台湾ハシゴシダ	<i>Thelypteris castanea</i>	VU
第4次 2019:	台湾ハシゴシダ	<i>Thelypteris castanea</i>	VU
第4次 2018:	台湾ハシゴシダ	<i>Thelypteris castanea</i>	VU
第4次 2017:	台湾ハシゴシダ	<i>Thelypteris castanea</i>	VU
第4次 2015:	台湾ハシゴシダ	<i>Thelypteris castanea</i>	VU
第4次:	台湾ハシゴシダ	<i>Thelypteris castanea</i>	VU
第3次:	台湾ハシゴシダ	<i>Thelypteris castanea</i>	VU
第2次:	台湾ハシゴシダ	<i>Thelypteris castanea</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Thelypteris castanea has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Thelypteris castanea is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トサノミゾシダモドキ

Thelypteris flexilis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐。葉の切れ込みは 2 回羽状中裂～深裂、19-20 対の側羽片があり、葉柄は長さ 26-37 cm、葉身は長さ 24-32 cm、三角状長楕円形、最終裂片の辺縁は全縁（有毛）、葉質は紙質、葉の色は淡緑色。孢子嚢群は裂片のやや中肋寄り（主脈の両側に 2 列に並ぶ）につき、円形、長さ 0.5-0.8 mm、包膜はない。

【生活史】

常緑。地上生。

【生育環境】

林中に生育する。

【分布域】

四国（高知県）に分布。国外では中国（四川省、貴州省）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 産地局限	自然遷移	
件数	2	

3		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トサノミゾシダモドキ	<i>Thelypteris flexilis</i>	VU
第4次 2019:	トサノミゾシダモドキ	<i>Thelypteris flexilis</i>	VU
第4次 2018:	トサノミゾシダモドキ	<i>Thelypteris flexilis</i>	VU
第4次 2017:	トサノミゾシダモドキ	<i>Thelypteris flexilis</i>	VU
第4次 2015:	トサノミゾシダモドキ	<i>Thelypteris flexilis</i>	VU
第4次:	トサノミゾシダモドキ	<i>Thelypteris flexilis</i>	VU
第3次:	トサノミゾシダモドキ	<i>Thelypteris flexilis</i>	VU
第2次:	トサノミゾシダモドキ	<i>Thelypteris flexilis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

高知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Thelypteris flexilis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Thelypteris flexilis is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Limited distribution, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマカナワラビ

Arachniodes cavaleriei

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上～短く匍匐。葉は 2 回羽状複生～3 回羽状全裂、10-12 対の側羽片があり、葉柄は長さ 40-46 cm、葉身は長さ 31-38 cm、三角状卵形、最終裂片の辺縁は浅い鋸歯縁、葉質は硬い紙質、葉の色は黄緑色（光沢あり）。孢子嚢群は葉身・羽片の基部からつき、背生、円形、直径 1.3-1.5 mm、包膜は円腎形（波状縁・無毛）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

やや乾燥した斜面の山林中に生育。

【分布域】

屋久島、中国・インドシナ半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。新産地が発見され、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	2	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマカナワラビ	<i>Arachniodes cavalerii</i>	VU
第4次 2019:	ヤクシマカナワラビ	<i>Arachniodes cavalerii</i>	VU
第4次 2018:	ヤクシマカナワラビ	<i>Arachniodes cavalerii</i>	VU
第4次 2017:	ヤクシマカナワラビ	<i>Arachniodes cavalerii</i>	VU
第4次 2015:	ヤクシマカナワラビ	<i>Arachniodes cavalerii</i>	VU
第4次:	ヤクシマカナワラビ	<i>Arachniodes cavalerii</i>	VU
第3次:	ヤクシマカナワラビ	<i>Arachniodes cavalerii</i>	EN
第2次:	ヤクシマカナワラビ	<i>Arachniodes cavalerii</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Arachniodes cavaleriei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Arachniodes cavaleriei is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シビカナワラビ

Arachniodes hekiana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く～やや長く匍匐。葉は 2 回羽状複生、5-6 対の側羽片があり、葉柄は長さ 34-45 cm、葉身は長さ 32-45 cm、卵状広楕円形～卵状楕円形、最終裂片の辺縁は鋸歯縁（先端は芒状）、葉質は柔らかい紙質、葉の色は緑色（光沢あり）。孢子嚢群は葉身・羽片の頂点側からつき、頂生、小羽片の中肋と辺縁の中間生からやや辺縁よりで、円形、直径 0.8-1.0 mm、包膜は円腎形（辺縁無毛）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

山林下の地上に生育。

【分布域】

九州（宮崎県・鹿児島県）、中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シビカナワラビ	<i>Arachniodes hekiana</i>	VU
第4次 2019:	シビカナワラビ	<i>Arachniodes hekiana</i>	VU
第4次 2018:	シビカナワラビ	<i>Arachniodes hekiana</i>	VU
第4次 2017:	シビカナワラビ	<i>Arachniodes hekiana</i>	VU
第4次 2015:	シビカナワラビ	<i>Arachniodes hekiana</i>	VU
第4次:	シビカナワラビ	<i>Arachniodes hekiana</i>	VU
第3次:	シビカナワラビ	<i>Arachniodes hekiana</i>	CR
第2次:	シビカナワラビ	<i>Arachniodes hekiana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-d)] 鹿児島県[絶滅危惧 I 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arachniodes hekiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Arachniodes hekiana is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハガクレカナワラビ

Arachniodes yasu-inouei var. *yasu-inouei***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐。葉は 2 回羽状複生、22-25 対の側羽片があり、葉柄は長さ 33-55 cm、葉身は長さ 36-46 cm、卵状広披針形、最終裂片の辺縁は鋸歯縁（先端は著しい芒状）、葉質は硬い紙質、葉の色は緑色（光沢あり）。孢子嚢群は葉身・羽片の頂点側からつき、頂生、裂片の中肋と辺縁の中間生、円形、直径 0.8-1.1 mm、包膜は円腎形（辺縁無毛）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

山地林床に生育。

【分布域】

本州（紀伊半島・山口県）・四国・九州に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
4	1	0	0	0	0	5	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	その他	不明
件数	3	1

3		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハガクレカナワラビ	<i>Arachniodes yasui-inoueii</i> var. <i>yasui-inoueii</i>	VU
第4次 2019:	ハガクレカナワラビ	<i>Arachniodes yasui-inoueii</i> var. <i>yasui-inoueii</i>	VU
第4次 2018:	ハガクレカナワラビ	<i>Arachniodes yasui-inoueii</i> var. <i>yasui-inoueii</i>	VU
第4次 2017:	ハガクレカナワラビ	<i>Arachniodes yasui-inoueii</i> var. <i>yasui-inoueii</i>	VU
第4次 2015:	ハガクレカナワラビ	<i>Arachniodes yasui-inoueii</i> var. <i>yasui-inoueii</i>	VU
第4次:	ハガクレカナワラビ	<i>Arachniodes yasui-inoueii</i> var. <i>yasui-inoueii</i>	VU
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

三重県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[留意] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 高知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 佐賀県[準絶滅危惧種] 熊本県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 大分県[情報不足(DD)] 宮崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Arachniodes yasui-inoueii var. *yasui-inoueii* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arachniodes yasui-inoueii* var. *yasui-inoueii* is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Deer feeding damage, Other, Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コミダケシダ

*Ctenitis iriomotensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 1 回羽状複生～2 回羽状複生、12-17 対の側羽片があり、葉柄は長さ 2.6-5.4 cm、葉身は長さ 6-11 cm、狭三角形（最下羽片は著しく大型）、最終裂片の辺縁はほぼ全縁で有毛、葉質は草質、葉の色は緑色。孢子嚢群はほぼ全ての羽片につき、羽片の基部側からつき、やや中肋寄り、円形、直径 0.6-0.9 mm、包膜は円腎形（毛状突起縁、表面も有毛）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

山地の湿った非石灰岩の岩肌に着生。

【分布域】

琉球列島（西表島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュで数千個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	1	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コミダケシダ	<i>Ctenitis iriomotensis</i>	VU
第4次 2019:	コミダケシダ	<i>Ctenitis iriomotensis</i>	VU
第4次 2018:	コミダケシダ	<i>Ctenitis iriomotensis</i>	VU
第4次 2017:	コミダケシダ	<i>Ctenitis iriomotensis</i>	VU
第4次 2015:	コミダケシダ	<i>Ctenitis iriomotensis</i>	VU
第4次:	コミダケシダ	<i>Ctenitis iriomotensis</i>	VU
第3次:	コミダケシダ	<i>Ctenitis iriomotensis</i>	VU
第2次:	コミダケシダ	<i>Ctenitis iriomotensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳，2017．日本産シダ植物標準図鑑 2．508pp．学研，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ctenitis iriomotensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ctenitis iriomotensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イワカゲワラビ

Dryopteris laeta

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 3 回羽状深裂、19-21 対の側羽片があり、葉柄は長さ 31-39 cm、葉身は長さ 38-45 cm、三角状卵形、最終裂片の辺縁は鋭鋸歯縁、葉質は草質、葉の色は鮮緑色。孢子嚢群は葉身の先端側・羽片の基部側からつき、中肋寄りで、円形、直径 1.0-1.1 mm、包膜は円腎形（全縁～不規則な鋸歯縁、灰白色）。

【生活史】

夏緑で地上生。

【生育環境】

山林の明るい林床や石灰岩地に生育。

【分布域】

北海道（北見・釧路・十勝）・本州（東北地方太平洋側・中部地方）、ロシア（極東）・朝鮮半島・中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イワカゲワラビ	<i>Dryopteris laeta</i>	VU
第4次 2019:	イワカゲワラビ	<i>Dryopteris laeta</i>	VU
第4次 2018:	イワカゲワラビ	<i>Dryopteris laeta</i>	VU
第4次 2017:	イワカゲワラビ	<i>Dryopteris laeta</i>	VU
第4次 2015:	イワカゲワラビ	<i>Dryopteris laeta</i>	VU
第4次:	イワカゲワラビ	<i>Dryopteris laeta</i>	VU
第3次:	イワカゲワラビ	<i>Dryopteris laeta</i>	VU
第2次:	イワカゲワラビ	<i>Dryopteris laeta</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 岩手県[Aランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 長野県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Dryopteris laeta has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Dryopteris laeta* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タイワンヒメワラビ

Dryopteris nodosa

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 3 回羽状複生～4 回羽状深裂、23-26 対の側羽片があり、葉柄は長さ 36-51 cm、葉身は長さ 38-53 cm、三角状広卵形（側羽片は葉軸に対してほぼ直角に出て対生）、最終裂片の辺縁は浅い全縁～波状縁、葉質は紙質、葉の色は緑色。孢子嚢群は葉身・羽片の頂点側からつき、辺縁寄りで（裂片の前側に分岐する小脈上）、円形、直径 0.8-0.9 mm、包膜は半球形で熟すと孢子嚢に埋まる（辺縁に不規則な突起あり、灰白色）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

多湿な山林中の地上に生育。

【分布域】

屋久島、台湾・東南アジア・南太平洋に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では個体数過小評価とされた。新産地が発見され、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
8	4	1	1	0	0	14	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	台湾ヒメワラビ	<i>Acrophorus nodosus</i>	VU
第4次 2019:	台湾ヒメワラビ	<i>Acrophorus nodosus</i>	VU
第4次 2018:	台湾ヒメワラビ	<i>Acrophorus nodosus</i>	VU
第4次 2017:	台湾ヒメワラビ	<i>Acrophorus nodosus</i>	VU
第4次 2015:	台湾ヒメワラビ	<i>Acrophorus nodosus</i>	VU
第4次:	台湾ヒメワラビ	<i>Acrophorus nodosus</i>	VU
第3次:	台湾ヒメワラビ	<i>Acrophorus nodosus</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dryopteris nodosa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Dryopteris*

<i>nodosa</i> is listed as VU under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

モトイタチシダ

*Dryopteris protobissetiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立～わずかに斜上。葉は 2-3 回羽状複葉、(18-)20-25(-26)対の側羽片があり、葉柄は長さ 10-27 cm、葉身は長さ 13-33 cm、三角状卵形、裂片の先端部は細鋸歯縁、柔らかい革質、深緑色。孢子嚢群は、葉身先端側で中肋と辺縁の中間につき、円形、直径 (1.1-)1.2-1.6(-1.7) mm、円腎形の包膜に覆われる、包膜は灰白色でほぼ全縁。

【生活史】

常緑性多年草。

【生育環境】

標高 260-400 m の林縁の岩の多い崖で岩の隙間に生育。

【分布域】

鹿児島県屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

詳細については不明。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

1 孢子嚢に 64 個の孢子が含まれる二倍体有性生殖種で、主に無融合生殖を行う日本産イタチシダ類複合体の起源種の一つ。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Hori, K., A. Ebihara, N. Nakato and N. Murakami, 2015. *Dryopteris protobissetiana* (Dryopteridaceae), a new diploid sexual species of the *Dryopteris varia* complex (subg. Erythrovariae, sect. Variae) from Yakushima, Kagoshima, Japan. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*, 66: 35–45.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dryopteris protobissetiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Dryopteris protobissetiana* is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒロハアツイタ

*Elaphoglossum tosaense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐。葉は二形性がある。孢子葉は単葉、葉柄は長さ 8.8-12 cm、葉身は長さ 6.6-9.7 cm、狭楕円形、最終裂片の辺縁は全縁。栄養葉は単葉、葉柄は長さ 5.7-8.0 cm、葉身は長さ 9.6-15 cm、狭楕円形、最終裂片の辺縁は全縁。葉質は革質、葉の色は緑色（やや光沢あり）。孢子嚢群は孢子葉の葉身裏面全体につき、包膜はない。

【生活史】

常緑（孢子葉は孢子散布後間もなく枯れる）で着生または岩上生。

【生育環境】

陰湿な樹幹や岩上に着生。

【分布域】

本州（伊豆諸島・静岡県・紀伊半島）・四国（徳島県・高知県）・九州（宮崎県）・屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	4	0	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 園芸採取	自然遷移	産地局限

件数		
2	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒロハアツイタ	<i>Elaphoglossum tosaense</i>	VU
第4次 2019:	ヒロハアツイタ	<i>Elaphoglossum tosaense</i>	VU
第4次 2018:	ヒロハアツイタ	<i>Elaphoglossum tosaense</i>	VU
第4次 2017:	ヒロハアツイタ	<i>Elaphoglossum tosaense</i>	VU
第4次 2015:	ヒロハアツイタ	<i>Elaphoglossum tosaense</i>	VU
第4次:	ヒロハアツイタ	<i>Elaphoglossum tosaense</i>	VU
第3次:	ヒロハアツイタ	<i>Elaphoglossum tosaense</i>	VU
第2次:	ヒロハアツイタ	<i>Elaphoglossum tosaense</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)] 静岡県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 三重県[絶滅危惧 II 類(VU)] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 徳島県[絶滅危惧 IB 類] 高知県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧 I 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Elaphoglossum tosaense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Elaphoglossum tosaense is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アツイタ

Elaphoglossum yoshinagae

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 D
推定成熟個体数が 1000 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐。葉は二形性がある。孢子葉は単葉、葉柄は長さ 8.6-12 cm、葉身は長さ 9.6-17 cm、披針形～狭披針形、最終裂片の辺縁は全縁。栄養葉は単葉、葉柄は長さ 3.0-6.0 cm、葉身は長さ 15-23 cm、披針形、最終裂片の辺縁は全縁。葉質は革質、葉の色は緑色（やや光沢あり）。孢子嚢群は孢子葉の葉身裏面全体につき、包膜はない。

【生活史】

常緑（孢子葉は孢子散布後間もなく枯れる）で着生または岩上生。

【生育環境】

山林中のやや湿った樹幹や岩上に着生。

【分布域】

本州（伊豆諸島・紀伊半島）・四国（南部）・九州（南部）・琉球列島（徳之島以北）、中国（南部）・インドシナ半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	1	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 園芸採取	自然遷移	その他

件数		
3	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アツイタ	<i>Elaphoglossum yoshinagae</i>	VU
第4次 2019:	アツイタ	<i>Elaphoglossum yoshinagae</i>	VU
第4次 2018:	アツイタ	<i>Elaphoglossum yoshinagae</i>	VU
第4次 2017:	アツイタ	<i>Elaphoglossum yoshinagae</i>	VU
第4次 2015:	アツイタ	<i>Elaphoglossum yoshinagae</i>	VU
第4次:	アツイタ	<i>Elaphoglossum yoshinagae</i>	VU
第3次:	アツイタ	<i>Elaphoglossum yoshinagae</i>	VU
第2次:	アツイタ	<i>Elaphoglossum yoshinagae</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 三重県[準絶滅危惧(NT)] 和歌山県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 徳島県[絶滅危惧ⅠB類] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-d)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳，2017．日本産シダ植物標準図鑑 2．508pp．学研，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Elaphoglossum yoshinagae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Elaphoglossum yoshinagae is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オニイノデ

Polystichum rigens

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立～斜上。葉は 2 回羽状深裂、24-26 対の側羽片があり、葉柄は長さ 26-32 cm、葉身は長さ 38-43 cm、三角状楕円形、最終裂片の辺縁は浅い鋭鋸歯縁（先端は芒状）、葉質は硬い紙質、葉の色は緑色（光沢あり）。孢子嚢群は葉身の先端側・羽片の基部側からつき、頂生、やや中肋寄り、円形、表面に凸出があり、直径 1.2-1.4 mm、包膜は円形で楕着（全縁～波状縁、灰白色）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

湿潤な溪谷沿いに生育。

【分布域】

本州（関東地方以西）・四国（高知県）、中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	2	0	0	0	0	5	0	7

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	不明	産地局限

件数		
8	5	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オニイノデ	<i>Polystichum rigens</i>	VU
第4次 2019:	オニイノデ	<i>Polystichum rigens</i>	VU
第4次 2018:	オニイノデ	<i>Polystichum rigens</i>	VU
第4次 2017:	オニイノデ	<i>Polystichum rigens</i>	VU
第4次 2015:	オニイノデ	<i>Polystichum rigens</i>	VU
第4次:	オニイノデ	<i>Polystichum rigens</i>	VU
第3次:	オニイノデ	<i>Polystichum rigens</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

茨城県[絶滅] 千葉県[消息不明・絶滅生物(X)] 東京都(本土部)[本土部：絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(南多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 三重県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[EX] 奈良県[絶滅寸前種] 広島県[準絶滅危惧(NT)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳，2017．日本産シダ植物標準図鑑2．508pp．学研，東京．
- 東京都環境局自然環境部，2023．東京都レッドデータブック2023—東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版一．東京都環境局自然環境部，879pp．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Polystichum rigens has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

<i>Polystichum rigens</i> is listed as VU under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	Deer feeding damage, Unknown, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コモチイノデ

Polystichum scariosum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立～斜上。葉はやや二形性がある（栄養葉は葉柄が短く、葉身が幅広い）。葉は 2 回羽状複生、22-25 対の側羽片があり、葉柄は長さ 30-40 cm、葉身は長さ 39-55 cm、三角状披針形～卵状狭楕円形、最終裂片の辺縁は浅い鋸歯縁（先端は芒状）、葉質はやや硬い紙質、葉の色は緑色（やや光沢あり）。胞子嚢群は葉身の先端側からつき、頂生、やや中肋寄り、円形、直径 1.0-1.4 mm、包膜は円形で楕着（全縁、灰白色）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

低地の川沿いの林中に生育。

【分布域】

屋久島、中国・台湾・インドシナ半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コモチイノデ	<i>Polystichum anomalum</i>	VU
第4次 2019:	コモチイノデ	<i>Polystichum anomalum</i>	VU
第4次 2018:	コモチイノデ	<i>Polystichum anomalum</i>	VU
第4次 2017:	コモチイノデ	<i>Polystichum anomalum</i>	VU
第4次 2015:	コモチイノデ	<i>Polystichum anomalum</i>	VU
第4次:	コモチイノデ	<i>Polystichum anomalum</i>	VU
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Polystichum scariosum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Polystichum scariosum* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツルキジノオ

Lomariopsis boninensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐。葉には二形性がある。孢子葉では、1 回羽状複生、9-16 対の側羽片があり、葉柄は長さ 17-22 cm、葉身は長さ 26-46 cm、卵状広披針形～卵状披針形、側羽片の辺縁は全縁。栄養葉では、単葉～1 回羽状複生、7-10 対の側羽片があり、葉柄は長さ 16-28 cm、葉身は長さ 36-45 cm、卵状広披針形、側羽片の辺縁は全縁～波状縁。孢子葉、栄養葉共に葉質は柔らかい革質、葉の色は緑色。孢子嚢群は孢子葉の裏面全体につき、包膜はない。

【生活史】

常緑。よじ登り生（樹幹・岩上）。

【生育環境】

山地の樹幹や岩の上に生育する。

【分布域】

琉球列島（八重山諸島）、小笠原諸島（父島、母島）に分布。国外では、台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。RL2020 まではツルキジノオとオガサワラツルキジノオの 2 種に分けて評価していたが、近年の研究で両種が同一種とされたため（Wu et al. 2021）、ツルキジノオ 1 種にまとめて評価した。従来オガサワラツルキジノオとされてきた個体群の個体数を基に、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

本種の学名は、従来オガサワラツルキジノオに充てられていたものに変更された。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツルキジノオ	<i>Lomariopsis spectabilis</i>	CR
第4次 2019:	ツルキジノオ	<i>Lomariopsis spectabilis</i>	CR
第4次 2018:	ツルキジノオ	<i>Lomariopsis spectabilis</i>	CR
第4次 2017:	ツルキジノオ	<i>Lomariopsis spectabilis</i>	CR
第4次 2015:	ツルキジノオ	<i>Lomariopsis spectabilis</i>	CR
第4次:	ツルキジノオ	<i>Lomariopsis spectabilis</i>	CR
第3次:	ツルキジノオ	<i>Lomariopsis spectabilis</i>	CR
第2次:	ツルキジノオ	<i>Lomariopsis spectabilis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.
- Wu, Y. H., C. Y. Sun, A. Ebihara, N. T. Lu, G. Rouhan and L. Y. Kuo, 2021. Two new species in the fern genus *Lomariopsis* (Lomariopsidaceae) from East Asia. *PhytoKeys*, 187: 161–176.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Lomariopsis boninensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Lomariopsis boninensis is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キクシノブ

Davallia repens

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐。葉の切れ込みは 1 回羽状全裂～2 回羽状深裂、8-10 対の側羽片があり、葉柄は長さ 6.4-9.9 cm、葉身は長さ 6.7-9.2 cm、三角状卵形、小羽片の辺縁は全縁～鋸歯縁、葉質は革質、葉の色は緑色～淡緑色。孢子嚢群は裂片の辺縁（脈端）につき、ほぼ円形で 0.9-1.0 mm、包膜はほぼ円形。

【生活史】

常緑。着生（樹幹）／岩上生。

【生育環境】

岩上や樹幹上を長く這うように生育する。

【分布域】

本州（紀伊半島）、四国（徳島県、高知県）、九州（宮崎県、鹿児島県）、琉球列島に分布。国外では、中国、台湾、南アジア、東南アジア、南太平洋、マダガスカル、マスカリン諸島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	自然遷移	

園芸採取		
件数 4	2	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キクシノブ	<i>Humata repens</i>	VU
第4次 2019:	キクシノブ	<i>Humata repens</i>	VU
第4次 2018:	キクシノブ	<i>Humata repens</i>	VU
第4次 2017:	キクシノブ	<i>Humata repens</i>	VU
第4次 2015:	キクシノブ	<i>Humata repens</i>	VU
第4次:	キクシノブ	<i>Humata repens</i>	VU
第3次:	キクシノブ	<i>Pachypleuria repens</i>	VU
第2次:	キクシノブ	<i>Humata repens</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

三重県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 和歌山県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 徳島県[絶滅危惧ⅠB類] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Davallia repens has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Davallia repens* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100

years.	
Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミョウギシダ

*Goniophlebium someyae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎はやや長く匍匐。葉は 1 回羽状深裂、12-15 対の側羽片があり、葉柄は長さ 10-14 cm、葉身は長さ 15-22 cm、卵形、最終裂片の辺縁は粗い鈍鋸歯縁、葉質は草質、葉の色は淡緑色。孢子嚢群は葉身・裂片の頂点側からつき、中肋と辺縁の中間生、円形、直径 1.3-1.8 mm。

【生活史】

夏緑で岩上生。

【生育環境】

低山地の林中の岩上に生育。

【分布域】

本州（関東地方・中部地方）・四国（徳島県・高知県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	4	0	1	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 道路工事	園芸採取	自然遷移
件数	2	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミヨウギシダ	<i>Goniophlebium someyae</i>	EN
第4次 2019:	ミヨウギシダ	<i>Goniophlebium someyae</i>	EN
第4次 2018:	ミヨウギシダ	<i>Goniophlebium someyae</i>	EN
第4次 2017:	ミヨウギシダ	<i>Goniophlebium someyae</i>	EN
第4次 2015:	ミヨウギシダ	<i>Goniophlebium someyae</i>	EN
第4次:	ミヨウギシダ	<i>Goniophlebium someyae</i>	EN
第3次:	ミヨウギシダ	<i>Polypodium someyae</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(本土部)[本土部:絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 徳島県[絶滅危惧ⅠB類] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Goniophlebium someyae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Goniophlebium someyae* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Road construction, Collecting plants in gardening, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タイワンクリハラン

Leptochilus hemionitideus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く～やや長く匍匐。葉は単葉、葉柄は不明瞭、葉身は長さ 50-58 cm、狭披針形～線状披針形、最終裂片の辺縁は全縁、葉質は硬い紙質、葉の色は暗黄緑色（光沢あり）。孢子嚢群は葉身の先端側からつき、中肋近くから辺縁の約 5 mm 内側にかけて主側脈の間に 1 列ずつ並び、円形～長楕円形、または癒合して線形、長さ 4.9-6.5 mm。

【生活史】

常緑で地上生または岩上生。

【生育環境】

湿度の高い常緑広葉樹林の溪流近くの岩上や地上に生育。

【分布域】

琉球列島（奄美大島以北）、中国・台湾・南アジア・インドシナ半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。屋久島ではシカ食害によって減少した。まだ千個体以上が現存するが、シカ食害を受けて減少し続けており、激減した箇所もある。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タイワンクリハラン	<i>Colysis hemionitidea</i>	VU
第4次 2019:	タイワンクリハラン	<i>Colysis hemionitidea</i>	VU
第4次 2018:	タイワンクリハラン	<i>Colysis hemionitidea</i>	VU
第4次 2017:	タイワンクリハラン	<i>Colysis hemionitidea</i>	VU
第4次 2015:	タイワンクリハラン	<i>Colysis hemionitidea</i>	VU
第4次:	タイワンクリハラン	<i>Colysis hemionitidea</i>	VU
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[準絶滅危惧] 沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 沖縄県環境部自然保護課, 2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課, 690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Leptochilus hemionitideus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Leptochilus hemionitideus is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムニンサジラン

*Loxogramme boninensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定成熟個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎はやや長く匍匐。葉はやや二形性がある（栄養葉は幅広い）。葉は単葉、葉柄は不明瞭、葉身は長さ 20-26 cm、線状倒披針形、最終裂片の辺縁は全縁、葉質は革質、葉の色は緑色（光沢あり）。孢子嚢群は葉身の先端側からつき、中肋近くから辺縁近くまで伸び、線形、長さ 10-14 mm。

【生活史】

常緑で着生または岩上生。

【生育環境】

樹林の樹幹や岩上に生育。

【分布域】

小笠原諸島（父島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 8 メッシュで数十個体と推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
5	3	0	0	0	0	8	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムニンサジラン	<i>Loxogramme boninensis</i>	VU
第4次 2019:	ムニンサジラン	<i>Loxogramme boninensis</i>	VU
第4次 2018:	ムニンサジラン	<i>Loxogramme boninensis</i>	VU
第4次 2017:	ムニンサジラン	<i>Loxogramme boninensis</i>	VU
第4次 2015:	ムニンサジラン	<i>Loxogramme boninensis</i>	VU
第4次:	ムニンサジラン	<i>Loxogramme boninensis</i>	VU
第3次:	ムニンサジラン	<i>Loxogramme boninensis</i>	VU
第2次:	ムニンサジラン	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 東京都環境局自然環境部, 2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php> (2024年9月6日閲覧).

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Loxogramme boninensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Loxogramme boninensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナガバコウラボシ

*Oreogrammitis tuyamae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は単葉、葉柄は長さ 0.4-0.7 cm、葉身は長さ 2.0-3.6 cm、狭倒披針形、最終裂片の辺縁は全縁、葉質は紙質、葉の色は淡緑色。孢子嚢群は葉身の先端側からつき、中肋寄りで中肋の両側に各 1 列に並び、円形～楕円形、直径 0.7-1.9 mm。

【生活史】

常緑で着生。

【生育環境】

雲霧林内の樹幹に着生。

【分布域】

小笠原諸島（北硫黄島・南硫黄島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	2	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナガバコウラボシ	<i>Oreogrammitis tuyamae</i>	EN
第4次 2019:	ナガバコウラボシ	<i>Oreogrammitis tuyamae</i>	EN
第4次 2018:	ナガバコウラボシ	<i>Oreogrammitis tuyamae</i>	EN
第4次 2017:	ナガバコウラボシ	<i>Oreogrammitis tuyamae</i>	EN
第4次 2015:	ナガバコウラボシ	<i>Oreogrammitis tuyamae</i>	EN
第4次:	ナガバコウラボシ	<i>Oreogrammitis tuyamae</i>	EN
第3次:	ナガバコウラボシ	<i>Grammitis tuyamae</i>	CR
第2次:	ナガバコウラボシ	<i>Grammitis tuyamae</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)] 鹿児島県[絶滅危惧 I 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 東京都環境局自然環境部, 2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php> (2024年9月6日閲覧).

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Oreogrammitis tuyamae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Oreogrammitis tuyamae* is listed as VU under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメバラモミ

Picea maximowiczii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ約 40 m に達する。樹皮は灰色～灰褐色で、ふぞろいの厚い鱗片にはがれる。若枝は無毛、黄褐色～赤褐色。葉は線形で長さ 6–13 mm、幅約 1.5 mm、先はややとがり、横断面は四角形～菱形。球果は楕円状円筒形で、長さ 2.5–4.5 cm、径 1.3–1.5 cm と小型で、先は丸く、黄褐色で光沢がある。種鱗は倒広卵形で長さ 12 mm 内外、幅約 10 mm。ヒメバラモミよりも葉が長く 12–18 mm、球果は大きくて長さ 7–9 cm、径 2.2–3.2 cm となるものをアズサバラモミ *var. senanensis* (Nakai) Hayashi として区別する見解がある。

【生活史】

常緑の高木。花期は 5–6 月。果期は 10 月頃。

【生育環境】

山地帯の山腹から亜高山帯にかけての適潤地に生育する。

【分布域】

本州中部（秩父・八ヶ岳・南アルプス仙丈ヶ岳およびその周辺の石灰岩地）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメバラモミ	<i>Picea maximowiczii</i>	VU
第4次 2019:	ヒメバラモミ	<i>Picea maximowiczii</i>	VU
第4次 2018:	ヒメバラモミ	<i>Picea maximowiczii</i>	VU
第4次 2017:	ヒメバラモミ	<i>Picea maximowiczii</i>	VU
第4次 2015:	ヒメバラモミ	<i>Picea maximowiczii</i>	VU
第4次:	ヒメバラモミ	<i>Picea maximowiczii</i>	VU
第3次:	ヒメバラモミ	<i>Picea maximowiczii</i>	VU
第2次:	ヒメバラモミ	<i>Picea maximowiczii</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山梨県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 長野県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 静岡県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 勝木俊雄，2012．本州産希少トウヒ属樹木の保全に関する研究．学位論文（第17624号）．129pp. 東京大学，東京．
- 勝木俊雄・逢沢峰昭・明石浩司・島田健一・島田和則，2005．長野県大鹿村におけるヤツガタケトウヒとヒメバラモミの現状－南限の絶滅危惧植物－．伊那谷自然史論集，6: 71-76．

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Picea maximowiczii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Picea maximowiczii* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トガサワラ

Pseudotsuga japonica

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ約 30 m に達する。樹皮は灰褐色で厚く、縦裂し薄い鱗片状にはがれる。若枝は無毛で淡黄褐色。葉は線形、長さ 20-25 mm、幅 1.5-2 mm、鈍頭。葉の横断面は扁平、2 個の樹脂道があり、裏面の両端寄りの表皮に 1 個ずつ接する。球果は卵形で長さ 4-6 cm、径約 2.5 cm。種鱗は厚く、円状菱形、紫黒色、長さ約 20 mm。苞鱗は種鱗より長く突出し反曲、先が 3 裂し、中裂片は尾状にとがる。種子は長さ約 9 mm、幅約 5 mm、倒卵状三角形、ほぼ同長の翼がある。

【生活史】

常緑の高木。花期は 4 月。果期は 10 月。

【生育環境】

深山に生える。

【分布域】

本州（紀伊半島中南部）・四国（高知県東部）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 8 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	3	3	1	0	0	8	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

不明		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トガサワラ	<i>Pseudotsuga japonica</i>	VU
第4次 2019:	トガサワラ	<i>Pseudotsuga japonica</i>	VU
第4次 2018:	トガサワラ	<i>Pseudotsuga japonica</i>	VU
第4次 2017:	トガサワラ	<i>Pseudotsuga japonica</i>	VU
第4次 2015:	トガサワラ	<i>Pseudotsuga japonica</i>	VU
第4次:	トガサワラ	<i>Pseudotsuga japonica</i>	VU
第3次:	トガサワラ	<i>Pseudotsuga japonica</i>	VU
第2次:	トガサワラ	<i>Pseudotsuga japonica</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

三重県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 奈良県[希少種] 和歌山県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 高知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pseudotsuga japonica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Pseudotsuga japonica is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

裸子植物門 Gymnospermae ヒノキ科 Cupressaceae

リシリビャクシン

Juniperus communis var. *montana*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミヤマネズ、ホンドミヤマネズに似るが、葉は著しく弓状となり、表面はやや深くくぼみ、気孔帯の幅は約 0.5 mm。

【生活史】

常緑の低木。

【生育環境】

湿地や山地の岩礫地に生育する。

【分布域】

北海道（渡島半島恵山以北、日高山脈、知床岳、利尻島、礼文島など）に分布。国外では、千島列島、サハリン、カムチャツカ半島、朝鮮半島、中国（東北）～北半球の寒帯に広く分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番 目	2 番 目	3 番 目
要因 自然遷移		
件数		

2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	リシリビャクシン	<i>Juniperus communis</i> var. <i>montana</i>	VU
第4次 2019:	リシリビャクシン	<i>Juniperus communis</i> var. <i>montana</i>	VU
第4次 2018:	リシリビャクシン	<i>Juniperus communis</i> var. <i>montana</i>	VU
第4次 2017:	リシリビャクシン	<i>Juniperus communis</i> var. <i>montana</i>	VU
第4次 2015:	リシリビャクシン	<i>Juniperus communis</i> var. <i>montana</i>	VU
第4次:	リシリビャクシン	<i>Juniperus communis</i> var. <i>montana</i>	VU
第3次:	リシリビャクシン	<i>Juniperus communis</i> var. <i>montana</i>	VU
第2次:	リシリビャクシン	<i>Juniperus sibirica</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)] 岩手県[B ランク]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Juniperus communis var. *montana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Juniperus communis* var. *montana* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シマムロ

Juniperus taxifolia var. *taxifolia*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

よく分枝し匍匐性だが、環境により直立して時に高さ 13 m になる。葉は針形状で 3 輪生し、長さ 8-15 mm、表面に白色の気孔帯が 2 条ある。球果は褐色で球形、径 7-8 mm。

【生活史】

常緑低木～小高木。雌雄異株。

【生育環境】

乾燥した岩石地に生育する。

【分布域】

小笠原（父島列島、母島列島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 27 メッシュで計数千個体と推定された。まだ多数の個体が現存するものの、干ばつや台風で枯死するものが目立っている。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
12	10	2	3	0	0	27	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シマムロ	<i>Juniperus taxifolia</i> var. <i>taxifolia</i>	VU
第4次 2019:	シマムロ	<i>Juniperus taxifolia</i> var. <i>taxifolia</i>	VU
第4次 2018:	シマムロ	<i>Juniperus taxifolia</i> var. <i>taxifolia</i>	VU
第4次 2017:	シマムロ	<i>Juniperus taxifolia</i> var. <i>taxifolia</i>	VU
第4次 2015:	シマムロ	<i>Juniperus taxifolia</i> var. <i>taxifolia</i>	VU
第4次:	シマムロ	<i>Juniperus taxifolia</i> var. <i>taxifolia</i>	VU
第3次:	シマムロ	<i>Juniperus taxifolia</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Juniperus taxifolia var. *taxifolia* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Juniperus taxifolia* var. *taxifolia* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オニバス

Euryale ferox

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	基準 A
過去 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長い期間を通じて、30%以上の減少があったと推定。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

時には 2 m を超えるような大きな水上葉をつける。花弁は紫色。

【生活史】

1 年生。

【生育環境】

池や沼に生える。どちらかといえば富栄養型の池に、ヒシなどとともに生え、堀や農業用の溜池のような人工的な池にもよく生える。

【分布域】

本州（宮城県以南）～九州の低地に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、33 メッシュで計数万個体の現存が推定された。個体数は多いものの、生育地は減っており減少率は高いと推定される。基準 A により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
9	12	4	6	2	0	33	1	9

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 水質汚濁	池沼開発	管理放棄
件数 21	13	10

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オニバス	<i>Euryale ferox</i>	VU
第4次 2019:	オニバス	<i>Euryale ferox</i>	VU
第4次 2018:	オニバス	<i>Euryale ferox</i>	VU
第4次 2017:	オニバス	<i>Euryale ferox</i>	VU
第4次 2015:	オニバス	<i>Euryale ferox</i>	VU
第4次:	オニバス	<i>Euryale ferox</i>	VU
第3次:	オニバス	<i>Euryale ferox</i>	VU
第2次:	オニバス	<i>Euryale ferox</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮城県[絶滅(EX)] 茨城県[絶滅危惧ⅠA類] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(Aランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 千葉県[重要保護生物(B)] 東京都(本土部)[区部:絶滅危惧ⅠA類(CR) 本土部:絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(北多摩)[絶滅(EX)] 新潟県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 富山県[絶滅危惧Ⅰ類] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 三重県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 滋賀県[絶滅危惧種] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[VU] 兵庫県[Bランク] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 島根県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 岡山県[絶滅危惧Ⅱ類] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 福岡県[絶滅危惧ⅠB類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-g)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Euryale ferox has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Euryale ferox* is listed as VU under criteria A.

A. Reduction in population size based on any of the following:

2. An observed, estimated, inferred or suspected population size reduction of $\geq 30\%$ over the last 10 years or three generations, whichever is the longer, where the reduction or its causes may not have ceased OR may not be understood OR may not be reversible.

Threat types:	Water pollution, Pond development, Abandonment of management
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オゼコウホネ

Nuphar pumila var. *ozeensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ネムロコウホネに似るが、柱頭盤が紅色。

【生活史】

多年生。

【生育環境】

湖沼の水中に生育する。

【分布域】

北海道、本州（月山、尾瀬沼）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オゼコウホネ	<i>Nuphar pumila</i> var. <i>ozeensis</i>	VU
第4次 2019:	オゼコウホネ	<i>Nuphar pumila</i> var. <i>ozeensis</i>	VU
第4次 2018:	オゼコウホネ	<i>Nuphar pumila</i> var. <i>ozeensis</i>	VU
第4次 2017:	オゼコウホネ	<i>Nuphar pumila</i> var. <i>ozeensis</i>	VU
第4次 2015:	オゼコウホネ	<i>Nuphar pumila</i> var. <i>ozeensis</i>	VU
第4次:	オゼコウホネ	<i>Nuphar pumila</i> var. <i>ozeensis</i>	VU
第3次:	オゼコウホネ	<i>Nuphar pumila</i> var. <i>ozeensis</i>	VU
第2次:	オゼコウホネ	<i>Nuphar pumilum</i> var. <i>ozeense</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 秋田県[EN] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 群馬県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Nuphar pumila var. *ozeensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Nuphar pumila var. *ozeensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ネムロコウホネ

Nuphar pumila var. *pumila*

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

水上葉は広卵形、長さ 9-15 cm。花は黄色、径約 2-3 cm、柱頭盤はふつう黄色、7-8 月に開く。

【生活史】

多年生。

【生育環境】

池や沼の水中に生育する。

【分布域】

北海道、本州（東北地方）の高山に分布。国外では、千島、サハリン、カムチャツカ、シベリア～ヨーロッパにかけて広く分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ネムロコウホネ	<i>Nuphar pumila</i> var. <i>pumila</i>	VU
第4次 2019:	ネムロコウホネ	<i>Nuphar pumila</i> var. <i>pumila</i>	VU
第4次 2018:	ネムロコウホネ	<i>Nuphar pumila</i> var. <i>pumila</i>	VU
第4次 2017:	ネムロコウホネ	<i>Nuphar pumila</i> var. <i>pumila</i>	VU
第4次 2015:	ネムロコウホネ	<i>Nuphar pumila</i> var. <i>pumila</i>	VU
第4次:	ネムロコウホネ	<i>Nuphar pumila</i> var. <i>pumila</i>	VU
第3次:	ネムロコウホネ	<i>Nuphar pumila</i>	VU
第2次:	ネムロコウホネ	<i>Nuphar pumilum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)] 青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[B ランク] 秋田県[絶滅危惧種ⅠA類(CR)] 福島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Nuphar pumila var. *pumila* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Nuphar pumila* var. *pumila* is listed as VU under criteria E. E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae スイレン科 Nymphaeaceae

エゾベニヒツジグサ

Nymphaea tetragona var. *erythrostigmatica*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヒツジグサに似るが、柱頭と周辺の雄蕊が鮮やかな農紅色。

【生活史】

多年生。

【生育環境】

湖沼の水中に生育する。

【分布域】

北海道に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	1	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾベニヒツジグサ	<i>Nymphaea tetragona</i> var. <i>erythrostigmatica</i>	VU
第4次 2019:	エゾベニヒツジグサ	<i>Nymphaea tetragona</i> var. <i>erythrostigmatica</i>	VU
第4次 2018:	エゾベニヒツジグサ	<i>Nymphaea tetragona</i> var. <i>erythrostigmatica</i>	VU
第4次 2017:	エゾベニヒツジグサ	<i>Nymphaea tetragona</i> var. <i>erythrostigmatica</i>	VU
第4次 2015:	エゾベニヒツジグサ	<i>Nymphaea tetragona</i> var. <i>erythrostigmatica</i>	VU
第4次:	エゾベニヒツジグサ	<i>Nymphaea tetragona</i> var. <i>erythrostigmatica</i>	VU
第3次:	エゾベニヒツジグサ	<i>Nymphaea tetragona</i> var. <i>erythrostigmatica</i>	VU
第2次:	エゾベニヒツジグサ	<i>Nymphaea tetragona</i> var. <i>erythrostigmatica</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Nymphaea tetragona var. *erythrostigmatica* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Nymphaea tetragona* var. *erythrostigmatica* is listed as VU under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キビヒトリシズカ

Chloranthus fortunei

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

短い根茎から数本の茎が直立して、高さ 30-50 cm。茎の下部には 3-4 対の鱗片葉があり、上部に 2 対、時に 3 対の大型の葉がつく。葉身は広楕円形または卵状楕円形で、長さ 5-13 cm。4 月、頂生する 1 本の穂状花序を伸ばし、多数の花を密集してつける。果実は淡緑色、倒卵状球形で長さ 3 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

林中に生育する。

【分布域】

岡山県、香川県（小豆島）、九州北部（吉岐、対馬を含む）に分布。国外では、朝鮮半島南部、中国（中部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 14 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	5	1	6	0	0	14	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 自然遷移	園芸採取	道路工事

件数 5	4	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キビヒトリシズカ	<i>Chloranthus fortunei</i>	VU
第4次 2019:	キビヒトリシズカ	<i>Chloranthus fortunei</i>	VU
第4次 2018:	キビヒトリシズカ	<i>Chloranthus fortunei</i>	VU
第4次 2017:	キビヒトリシズカ	<i>Chloranthus fortunei</i>	VU
第4次 2015:	キビヒトリシズカ	<i>Chloranthus fortunei</i>	VU
第4次:	キビヒトリシズカ	<i>Chloranthus fortunei</i>	VU
第3次:	キビヒトリシズカ	<i>Chloranthus fortunei</i>	VU
第2次:	キビヒトリシズカ	<i>Chloranthus fortunei</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

兵庫県[Bランク] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 香川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛媛県[情報不足(DD)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 長崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Chloranthus fortunei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Chloranthus fortunei* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Collecting plants in gardening, Road construction
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シマゴシヨウ

*Peperomia boninsimensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

サダソウに似るが、全体的に無毛で、葉身は鋭頭、3 行脈は明瞭に凹み、側脈は先端近くまで達する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸地帯に生育。

【分布域】

小笠原諸島（父島・母島・南硫黄島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 10 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	4	2	2	0	0	10	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シマゴシヨウ	<i>Peperomia boninsimensis</i>	VU
第4次 2019:	シマゴシヨウ	<i>Peperomia boninsimensis</i>	VU
第4次 2018:	シマゴシヨウ	<i>Peperomia boninsimensis</i>	VU
第4次 2017:	シマゴシヨウ	<i>Peperomia boninsimensis</i>	VU
第4次 2015:	シマゴシヨウ	<i>Peperomia boninsimensis</i>	VU
第4次:	シマゴシヨウ	<i>Peperomia boninsimensis</i>	VU
第3次:	シマゴシヨウ	<i>Peperomia boninsimensis</i>	VU
第2次:	シマゴシヨウ	<i>Peperomia boninsimensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Peperomia boninsimensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Peperomia boninsimensis is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

マルバウマノスズクサ

Aristolochia contorta

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、100 年後の個体数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

長さ 2-3 cm。葉身は長さ 3-13 cm、卵状三角形～円心形、粉白色を帯びる。花は葉腋に 2-8 個つく。花筒は長さ 2-3 cm、室部は球形、舷部は上部が拡大し狭三角形、黄緑色。

【生活史】

つる性多年草。

【生育環境】

草原や河川側に生育。

【分布域】

山形県～島根県の日本海側・長野県・群馬県、朝鮮半島・中国北部・ウスリーに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、8 メッシュで計数十個体の現存が推定された。ACD 基準により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
6	2	0	0	0	0	8	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他	農薬汚染	シカ食害
件数 3	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	マルバウマノスズクサ	<i>Aristolochia contorta</i>	VU
第4次 2019:	マルバウマノスズクサ	<i>Aristolochia contorta</i>	VU
第4次 2018:	マルバウマノスズクサ	<i>Aristolochia contorta</i>	VU
第4次 2017:	マルバウマノスズクサ	<i>Aristolochia contorta</i>	VU
第4次 2015:	マルバウマノスズクサ	<i>Aristolochia contorta</i>	VU
第4次:	マルバウマノスズクサ	<i>Aristolochia contorta</i>	VU
第3次:	マルバウマノスズクサ	<i>Aristolochia contorta</i>	VU
第2次:	マルバウマノスズクサ	<i>Aristolochia contorta</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山形県[絶滅危惧ⅠB類（EN）] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類（CR）] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類（EN）]
富山県[情報不足] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類（CR）] 長野県[絶滅危惧Ⅱ類（VU）] 岐阜県[絶滅危
惧Ⅰ類] 京都府[絶滅寸前種] 兵庫県[Aランク] 鳥取県[絶滅危惧Ⅱ類（VU）] 島根県[絶滅危
惧Ⅰ類（CR+EN）] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 長崎県[絶滅危惧ⅠA類（CR）]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 島根県環境生活部自然環境課，2013．改訂しまねレッドデータブック 2013 植物編—島根県の絶滅のおそれのある野生生物—．島根県環境生活部自然環境課，254pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aristolochia contorta has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Aristolochia contorta is listed as VU under criteria ACD.

The number of individuals is less than 1,000 after 100 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Other, Pesticide pollution, Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ウマノスズクサ科 Aristolochiaceae

コウシュンウマノスズクサ

Aristolochia zollingeriana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

長さ 5 cm。葉身は長さ 5-12 cm、卵状三角形～菱形状心形。花は葉腋に 3-4 個つく。花筒は長さ 3-4 cm、室部は球形、舷部は上部が拡大し舌状、黄褐色。

【生活史】

つる性多年草。

【生育環境】

低地の日当たりのよい林縁部に生育。

【分布域】

宮古島・尖閣諸島、台湾・フィリピン・マレー地域に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュで数百個体と推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コウシュンウマノスズクサ	<i>Aristolochia zollingeriana</i>	VU
第4次 2019:	コウシュンウマノスズクサ	<i>Aristolochia zollingeriana</i>	VU
第4次 2018:	コウシュンウマノスズクサ	<i>Aristolochia zollingeriana</i>	VU
第4次 2017:	コウシュンウマノスズクサ	<i>Aristolochia zollingeriana</i>	VU
第4次 2015:	コウシュンウマノスズクサ	<i>Aristolochia zollingeriana</i>	VU
第4次:	コウシュンウマノスズクサ	<i>Aristolochia zollingeriana</i>	VU
第3次:	コウシュンウマノスズクサ	<i>Aristolochia zollingeriana</i>	VU
第2次:	コウシュンウマノスズクサ	<i>Aristolochia tubiflora</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aristolochia zollingeriana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Aristolochia zollingeriana is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナンゴクアオイ

*Asarum crassum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 11-18 cm、広卵形、強い光沢と白斑がある。萼筒は長さ 5-6 mm、半球形、暗褐色。萼裂片は斜めに開き、卵状三角形、両面に短毛が密生。萼筒内壁に襞があり、6 本の縦襞の隆起がいちじるしい。

【生活史】

多年草。花期は 3-4 月。

【生育環境】

山地の広葉樹林下に生育。

【分布域】

鹿児島県（宇治群島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では生育地が局限されていた。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	2	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナンゴクアオイ	<i>Asarum crassum</i>	VU
第4次 2019:	ナンゴクアオイ	<i>Asarum crassum</i>	VU
第4次 2018:	ナンゴクアオイ	<i>Asarum crassum</i>	VU
第4次 2017:	ナンゴクアオイ	<i>Asarum crassum</i>	VU
第4次 2015:	ナンゴクアオイ	<i>Asarum crassum</i>	VU
第4次:	ナンゴクアオイ	<i>Asarum crassum</i>	VU
第3次:	ナンゴクアオイ	<i>Asarum crassum</i>	VU
第2次:	ナンゴクアオイ	<i>Heterotropa crassa</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[準絶滅危惧]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum crassum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum crassum* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミチノクサイシン

Asarum fauriei var. *fauriei***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 3-4.5 cm、広卵形～腎円形、光沢があり、白斑はない。萼筒は長さ 5-8 mm、鐘形。萼筒内壁に襞があり、縦襞は 12 個。花柱は 6 個、先は細長く角状に伸び、萼口より突出する。

【生活史】

多年草。花期は 3-4 月。

【生育環境】

山地の広葉樹林または針葉樹林の湿った林内に生育。

【分布域】

新潟県北部・東北地方に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	4	0	0	5	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 管理放棄	自然遷移	その他
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミチノクサイシン	<i>Asarum fauriei</i> var. <i>fauriei</i>	VU
第4次 2019:	ミチノクサイシン	<i>Asarum fauriei</i> var. <i>fauriei</i>	VU
第4次 2018:	ミチノクサイシン	<i>Asarum fauriei</i> var. <i>fauriei</i>	VU
第4次 2017:	ミチノクサイシン	<i>Asarum fauriei</i> var. <i>fauriei</i>	VU
第4次 2015:	ミチノクサイシン	<i>Asarum fauriei</i> var. <i>fauriei</i>	VU
第4次:	ミチノクサイシン	<i>Asarum fauriei</i> var. <i>fauriei</i>	VU
第3次:	ミチノクサイシン	<i>Asarum fauriei</i>	VU
第2次:	ミチノクサイシン	<i>Heterotropa fauriei</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[希少野生生物(C ランク)] 岩手県[B ランク] 宮城県[準絶滅危惧(NT)] 秋田県[N T]
山形県[絶滅危惧ⅠB類(E N)] 福島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)]
新潟県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 富山県[情報不足] 石川県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum fauriei var. *fauriei* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Asarum fauriei var. *fauriei* is listed as VU under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Abandonment of management, Natural succession, Other

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミヤマアオイ

Asarum fauriei var. *nakaianum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミチノクサイシンに似るが、葉が厚く、白斑が入る。萼筒と萼裂片も厚い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

ブナ林の林床や湿地に生育。

【分布域】

中部地方に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミヤマアオイ	<i>Asarum fauriei</i> var. <i>nakaianum</i>	VU
第4次 2019:	ミヤマアオイ	<i>Asarum fauriei</i> var. <i>nakaianum</i>	VU
第4次 2018:	ミヤマアオイ	<i>Asarum fauriei</i> var. <i>nakaianum</i>	VU
第4次 2017:	ミヤマアオイ	<i>Asarum fauriei</i> var. <i>nakaianum</i>	VU
第4次 2015:	ミヤマアオイ	<i>Asarum fauriei</i> var. <i>nakaianum</i>	VU
第4次:	ミヤマアオイ	<i>Asarum fauriei</i> var. <i>nakaianum</i>	VU
第3次:	ミヤマアオイ	<i>Asarum fauriei</i> var. <i>nakaianum</i>	VU
第2次:	ミヤマアオイ	<i>Heterotropa fauriei</i> var. <i>nakaiana</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

新潟県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 富山県[情報不足] 石川県[情報不足(DD)] 長野県[準絶滅危惧(NT)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum fauriei var. *nakaianum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum fauriei* var. *nakaianum* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

フジノカンアオイ

*Asarum fudsinoi***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 10-22 cm、卵形または長卵形、光沢があり、ときに白斑がある。葉柄は長さ 20 cm と大きい。萼筒は長さ 1.5-3 cm、淡褐色～黄緑色、形の変異が集団間でいちじるしい。萼裂片は長さ 1.5-2 cm、卵形、表面は無毛。萼筒内壁に複雑な襞がある。

【生活史】

多年草。花期は 12-4 月。

【生育環境】

山地の常緑広葉樹の林下や溪流沿いの岩の割れ目に生育。

【分布域】

奄美大島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
4	9	6	0	0	0	19	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	フジノカンアオイ	<i>Asarum fudsinoi</i>	VU
第4次 2019:	フジノカンアオイ	<i>Asarum fudsinoi</i>	VU
第4次 2018:	フジノカンアオイ	<i>Asarum fudsinoi</i>	VU
第4次 2017:	フジノカンアオイ	<i>Asarum fudsinoi</i>	VU
第4次 2015:	フジノカンアオイ	<i>Asarum fudsinoi</i>	VU
第4次:	フジノカンアオイ	<i>Asarum fudsinoi</i>	VU
第3次:	フジノカンアオイ	<i>Asarum fudsinoi</i>	VU
第2次:	フジノカンアオイ	<i>Heterotropa fudsinoi</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum fudsinoi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum fudsinoi* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツクシアオイ

Asarum kiusianum var. *kiusianum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 6-10 cm、卵状三角形か円形、光沢はなく、雲紋状の斑がある。萼筒は長さ 10-13 mm、上部はいくぶんくびれる。萼裂片は長さ 7-12 mm、平開し、卵状三角形、表面に短毛がある。萼筒内壁に襞があり、縦襞は 9-12 個。

【生活史】

多年草。花期は 3-4 月。

【生育環境】

山地の広葉樹林下に生育。

【分布域】

九州北西部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	2	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取		
件数 2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツクシアオイ	<i>Asarum kiusianum</i> var. <i>kiusianum</i>	VU
第4次 2019:	ツクシアオイ	<i>Asarum kiusianum</i> var. <i>kiusianum</i>	VU
第4次 2018:	ツクシアオイ	<i>Asarum kiusianum</i> var. <i>kiusianum</i>	VU
第4次 2017:	ツクシアオイ	<i>Asarum kiusianum</i> var. <i>kiusianum</i>	VU
第4次 2015:	ツクシアオイ	<i>Asarum kiusianum</i> var. <i>kiusianum</i>	VU
第4次:	ツクシアオイ	<i>Asarum kiusianum</i> var. <i>kiusianum</i>	VU
第3次:	ツクシアオイ	<i>Asarum kiusianum</i>	VU
第2次:	ツクシアオイ	<i>Heterotropa kiusiana</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

佐賀県[準絶滅危惧種] 長崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 熊本県[準絶滅危惧(NT)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum kiusianum var. *kiusianum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum kiusianum* var. *kiusianum* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クワイバカンアオイ

Asarum kumageanum var. *kumageanum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 10-15 cm、卵状三角形か卵形、やじり状でクワイの葉に似る。葉の表面は厚く、光沢がある。萼筒は長さ 10-13 mm、上部はくびれず、外面に毛がある。萼裂片は長さ 10 mm、卵状三角形、鋭頭で縁はうねる。萼筒内壁に襞があり、格子状になる。

【生活史】

多年草。花期は 11-12 月。

【生育環境】

低山地の樹林下に生育。

【分布域】

屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	4	2	1	0	0	8	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クワイバカンアオイ	<i>Asarum kumageanum</i> var. <i>kumageanum</i>	VU
第4次 2019:	クワイバカンアオイ	<i>Asarum kumageanum</i> var. <i>kumageanum</i>	VU
第4次 2018:	クワイバカンアオイ	<i>Asarum kumageanum</i> var. <i>kumageanum</i>	VU
第4次 2017:	クワイバカンアオイ	<i>Asarum kumageanum</i> var. <i>kumageanum</i>	VU
第4次 2015:	クワイバカンアオイ	<i>Asarum kumageanum</i> var. <i>kumageanum</i>	VU
第4次:	クワイバカンアオイ	<i>Asarum kumageanum</i> var. <i>kumageanum</i>	VU
第3次:	クワイバカンアオイ	<i>Asarum kumageanum</i>	VU
第2次:	クワイバカンアオイ	<i>Heterotropa kumageana</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum kumageanum var. *kumageanum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum kumageanum* var. *kumageanum* is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アマギカンアオイ

Asarum muramatsui var. *muramatsui***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉柄は緑色。葉身は長さ 5-9 cm、卵状三角形、強い光沢があり、縁に短毛が密生する。萼筒は長さ 10-12 mm、暗紫色。萼裂片は長さ 8 mm、卵形か卵状三角形。花柱は 6 個、先は強く外に曲がる。

【生活史】

多年草。花期は 4-5 月。

【生育環境】

低地や山地の広葉樹林下や植林地に生育。

【分布域】

伊豆半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 3 メッシュで計百個体以上の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	1	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アマギカンアオイ	<i>Asarum muramatsui</i> var. <i>muramatsui</i>	VU
第4次 2019:	アマギカンアオイ	<i>Asarum muramatsui</i> var. <i>muramatsui</i>	VU
第4次 2018:	アマギカンアオイ	<i>Asarum muramatsui</i> var. <i>muramatsui</i>	VU
第4次 2017:	アマギカンアオイ	<i>Asarum muramatsui</i> var. <i>muramatsui</i>	VU
第4次 2015:	アマギカンアオイ	<i>Asarum muramatsui</i> var. <i>muramatsui</i>	VU
第4次:	アマギカンアオイ	<i>Asarum muramatsui</i> var. <i>muramatsui</i>	VU
第3次:	アマギカンアオイ	<i>Asarum muramatsui</i>	VU
第2次:	アマギカンアオイ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum muramatsui var. *muramatsui* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum muramatsui* var. *muramatsui* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナンカイアオイ

Asarum nipponicum var. *nankaiense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

カンアオイに似るが、つぼみの 3 萼裂片が接する基部が明瞭に凹む。萼裂片の縁はしばしばうねる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の林床に生育。

【分布域】

本州（和歌山県・兵庫県）・四国（香川県・徳島県・高知県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 37 メッシュで計数千個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
8	19	3	7	0	0	37	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	園芸採取	道路工事
件数 16	13	12

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナンカイアオイ	<i>Asarum nipponicum</i> var. <i>nankaiense</i>	VU
第4次 2019:	ナンカイアオイ	<i>Asarum nipponicum</i> var. <i>nankaiense</i>	VU
第4次 2018:	ナンカイアオイ	<i>Asarum nipponicum</i> var. <i>nankaiense</i>	VU
第4次 2017:	ナンカイアオイ	<i>Asarum nipponicum</i> var. <i>nankaiense</i>	VU
第4次 2015:	ナンカイアオイ	<i>Asarum nipponicum</i> var. <i>nankaiense</i>	VU
第4次:	ナンカイアオイ	<i>Asarum nipponicum</i> var. <i>nankaiense</i>	VU
第3次:	ナンカイアオイ	<i>Asarum nankaiense</i>	VU
第2次:	ナンカイアオイ	<i>Heterotropa nankaiensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[準絶滅危惧(NT)] 愛媛県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 愛媛県レッドデータブック改訂委員会，2014. 愛媛県レッドデータブック 2014—愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物—. 愛媛県県民環境部環境局自然保護課，623pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum nipponicum var. *nankaiense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum nipponicum* var. *nankaiense* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Collecting plants in gardening, Road construction

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

サカワサイシン

Asarum sakawanum var. *sakawanum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 6-12 cm、広卵形、光沢と雲紋状の斑があり、脈上と縁に短毛がある。萼筒は長さ 10 mm、半球形、上部がいちじるしくくびれる。萼裂片は長さ 3 cm、卵状楕円形。萼筒内壁に隆起した襞があり、縦襞は約 18 個。

【生活史】

多年草。花期は 4-5 月。

【生育環境】

低山地の樹林下に生育。

【分布域】

高知県中西部・愛媛県南部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 14 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
6	7	0	1	0	0	14	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	管理放棄
件数 9	6	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サカワサイシン	<i>Asarum sakawanum</i> var. <i>sakawanum</i>	VU
第4次 2019:	サカワサイシン	<i>Asarum sakawanum</i> var. <i>sakawanum</i>	VU
第4次 2018:	サカワサイシン	<i>Asarum sakawanum</i> var. <i>sakawanum</i>	VU
第4次 2017:	サカワサイシン	<i>Asarum sakawanum</i> var. <i>sakawanum</i>	VU
第4次 2015:	サカワサイシン	<i>Asarum sakawanum</i> var. <i>sakawanum</i>	VU
第4次:	サカワサイシン	<i>Asarum sakawanum</i> var. <i>sakawanum</i>	VU
第3次:	サカワサイシン	<i>Asarum sakawanum</i>	VU
第2次:	サカワサイシン	<i>Heterotropa sakawana</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[絶滅危惧 IA 類] 高知県[注目種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum sakawanum var. *sakawanum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum sakawanum* var. *sakawanum* is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Abandonment of management
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トクノシマカンアオイ

*Asarum simile***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

アサトカンアオイに似るが、萼裂片は反り返り、萼筒内部の襞は単純、縦襞は 9-12 個。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地に生育。

【分布域】

鹿児島県（徳之島中部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	2	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トクノシマカンアオイ	<i>Asarum simile</i>	VU
第4次 2019:	トクノシマカンアオイ	<i>Asarum simile</i>	VU
第4次 2018:	トクノシマカンアオイ	<i>Asarum simile</i>	VU
第4次 2017:	トクノシマカンアオイ	<i>Asarum simile</i>	VU
第4次 2015:	トクノシマカンアオイ	<i>Asarum simile</i>	VU
第4次:	トクノシマカンアオイ	<i>Asarum simile</i>	VU
第3次:	トクノシマカンアオイ	<i>Asarum simile</i>	VU
第2次:	トクノシマカンアオイ	<i>Heterotropa similis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum simile has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum simile* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キナンカンアオイ

Asarum takaoi var. *austrokiensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヒメカンアオイに似るが、葉身は卵状楕円形、萼の開口部は小さく、裂片は薄く、雄雌蕊の先端は開口部に触れない。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸近くや山地に生育。

【分布域】

和歌山県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュで計数十個体と報告されたが、情報収集が不十分であったため個体数を過小評価したと考えられた。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キナンカンアオイ	<i>Asarum fauriei</i> var. <i>austrokiensis</i> (in schedule)	VU
第4次 2019:	キナンカンアオイ	<i>Asarum fauriei</i> var. <i>austrokiensis</i> (in schedule)	VU
第4次 2018:	キナンカンアオイ	<i>Asarum fauriei</i> var. <i>austrokiensis</i> (in schedule)	VU
第4次 2017:	キナンカンアオイ	<i>Asarum fauriei</i> var. <i>austrokiensis</i> (in schedule)	VU
第4次 2015:	キナンカンアオイ	<i>Asarum fauriei</i> var. <i>austrokiensis</i> (in schedule)	VU
第4次:	キナンカンアオイ	<i>Asarum fauriei</i> var. <i>austrokiensis</i> (in schedule)	VU
第3次:	キナンカンアオイ	<i>Heterotropa takaoi</i> var. <i>austrokiensis</i>	VU
第2次:	キナンカンアオイ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

和歌山県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 木下慶二, 1990. ヒメカンアオイの一新変種. 植物地理・分類研究, 38: 7-8.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum takaoi var. *austrokiensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum takaoi* var. *austrokiensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タマノカンアオイ

*Asarum tamaense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

アマギカンアオイに似るが、葉柄は褐色か暗紫色、葉身は長さ 5-13 cm、卵円形～広楕円形、表面の光沢が鈍い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

丘陵地に生育。

【分布域】

関東南西部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	4	0	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 土地造成	園芸採取	自然遷移
件数 4	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タマノカンアオイ	<i>Asarum tamaense</i>	VU
第4次 2019:	タマノカンアオイ	<i>Asarum tamaense</i>	VU
第4次 2018:	タマノカンアオイ	<i>Asarum tamaense</i>	VU
第4次 2017:	タマノカンアオイ	<i>Asarum tamaense</i>	VU
第4次 2015:	タマノカンアオイ	<i>Asarum tamaense</i>	VU
第4次:	タマノカンアオイ	<i>Asarum tamaense</i>	VU
第3次:	タマノカンアオイ	<i>Asarum tamaense</i>	VU
第2次:	タマノカンアオイ	<i>Heterotropa tamaensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(本土部)[区部：絶滅危惧ⅠA類(CR) 本土部：絶滅危惧ⅠB類(EN)] 東京都(北多摩)[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 東京都(南多摩)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 神奈川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 静岡県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum tamaense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum tamaense* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Land development, Collecting plants in gardening, Natural succession
Law designation status for	—

conservation	

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オニカンアオイ

*Asarum yakusimense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 7-15 cm、広卵形、光沢があり、白斑はない。萼筒は長さ 13-15 mm、上部はほとんどくびれない。萼裂片は長さ 10-15 mm、平開し、卵状三角形、黒紫色の短毛を密生し、しばしば反り返る。萼筒内壁に隆起した襞があり、格子状。

【生活史】

多年草。花期は 3-4 月。

【生育環境】

山地の広葉樹林下に生育。

【分布域】

屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	3	0	1	0	0	7	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オニカンアオイ	<i>Asarum yakusimense</i>	VU
第4次 2019:	オニカンアオイ	<i>Asarum yakusimense</i>	VU
第4次 2018:	オニカンアオイ	<i>Asarum yakusimense</i>	VU
第4次 2017:	オニカンアオイ	<i>Asarum yakusimense</i>	VU
第4次 2015:	オニカンアオイ	<i>Asarum yakusimense</i>	VU
第4次:	オニカンアオイ	<i>Asarum yakusimense</i>	VU
第3次:	オニカンアオイ	<i>Asarum yakusimense</i>	VU
第2次:	オニカンアオイ	<i>Heterotropa hirsutisepala</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum yakusimense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum yakusimense* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シナクスモドキ

Cryptocarya chinensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 6-12 cm、長楕円形ないし狭卵形、薄い革質、3 行脈がある。葉裏は粉白色で、3 行脈が隆起する。花は径 2-3 mm、長さ 4-6.5 cm の円錐花序に多数つく。果実は黒褐色。

【生活史】

常緑高木。

【生育環境】

谷沿いの斜面に生育。

【分布域】

九州（宮崎県・鹿児島県種子島）、台湾・中国南部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 道路工事	その他	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シナクスモドキ	<i>Cryptocarya chinensis</i>	VU
第4次 2019:	シナクスモドキ	<i>Cryptocarya chinensis</i>	VU
第4次 2018:	シナクスモドキ	<i>Cryptocarya chinensis</i>	VU
第4次 2017:	シナクスモドキ	<i>Cryptocarya chinensis</i>	VU
第4次 2015:	シナクスモドキ	<i>Cryptocarya chinensis</i>	VU
第4次:	シナクスモドキ	<i>Cryptocarya chinensis</i>	VU
第3次:	シナクスモドキ	<i>Cryptocarya chinensis</i>	CR
第2次:	シナクスモドキ	<i>Cryptocarya chinensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cryptocarya chinensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cryptocarya chinensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Road construction, Other

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オキナワコウバシ

Lindera communis var. *okinawensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 4-8 cm、倒披針状楕円形、裏面は灰白色。傘形花序をつける。総花梗は長さ 2-3 cm。小花梗は長さ 2 mm。

【生活史】

常緑小高木。

【生育環境】

石灰岩地域の山地の林縁に生育。

【分布域】

沖縄島・石垣島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
5	0	1	0	0	0	6	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オキナフコウバシ	<i>Lindera communis</i> var. <i>okinawensis</i>	VU
第4次 2019:	オキナフコウバシ	<i>Lindera communis</i> var. <i>okinawensis</i>	VU
第4次 2018:	オキナフコウバシ	<i>Lindera communis</i> var. <i>okinawensis</i>	VU
第4次 2017:	オキナフコウバシ	<i>Lindera communis</i> var. <i>okinawensis</i>	VU
第4次 2015:	オキナフコウバシ	<i>Lindera communis</i> var. <i>okinawensis</i>	VU
第4次:	オキナフコウバシ	<i>Lindera communis</i> var. <i>okinawensis</i>	VU
第3次:	オキナフコウバシ	<i>Lindera communis</i> var. <i>okinawensis</i>	VU
第2次:	オキナフコウバシ	<i>Lindera communis</i> var. <i>okinawensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[準絶滅危惧(NT)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lindera communis var. *okinawensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lindera communis* var. *okinawensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤマコンニャク

Amorphophallus kiusianus

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	基準 D
推定開花株数が 1000 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

球茎は大形、扁球形。葉は 1 個で、花後に開き、葉身は 3 裂し、さらにそれぞれ 2 裂して不揃いの羽状裂片となる。花期は 5-6 月。花茎は高さ約 1 m、仏炎苞は基部が暗緑色、内面は汚紫色を帯び、両面に白斑があり、長卵形、長さ約 20 cm。花序は長さ 13-17 cm で、悪臭がある。付属体は黒紫色、長さ約 8 cm。果実は広楕円形、径約 1 cm、初めは緑色で深青色に熟す。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

低地のやや湿った常緑林下。

【分布域】

四国（高知県）・九州南部・奄美、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	3	0	0	0	6	0	0
【存続を脅かす要因上位3項目の件数】								
1 番目			2 番目			3 番目		
要因								

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤマコンニャク	<i>Amorphophallus kiusianus</i>	VU
第4次 2019:	ヤマコンニャク	<i>Amorphophallus kiusianus</i>	VU
第4次 2018:	ヤマコンニャク	<i>Amorphophallus kiusianus</i>	VU
第4次 2017:	ヤマコンニャク	<i>Amorphophallus kiusianus</i>	VU
第4次 2015:	ヤマコンニャク	<i>Amorphophallus kiusianus</i>	VU
第4次:	ヤマコンニャク	<i>Amorphophallus kiusianus</i>	VU
第3次:	ヤマコンニャク	<i>Amorphophallus hirtus</i> var. <i>kiusianus</i>	VU
第2次:	ヤマコンニャク	<i>Amorphophallus hirtus</i> var. <i>kiusianus</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

高知県[情報不足(DD)] 長崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 鹿児島県[準絶滅危惧] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Amorphophallus kiusianus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Amorphophallus kiusianus* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タカハシテンナンショウ

Arisaema nambae

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は通常 1-2 個。小葉は 5-7 枚、楕円形～卵形で先はとがり、全縁または細鋸歯縁となる。花序柄は葉柄より短く、仏炎苞は淡紫色～紫色をおび、半透明で白条が目立たず、筒部は円筒状でありあまり広がらず、口辺部はごく狭く開出し、舷部は三角状の卵形～広卵形で先はしばしば反り返る。花序付属体は有柄で棒状、紫色をおびる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

低山地の林下、林縁。

【分布域】

本州（岡山県・広島県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 7 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	4	0	1	0	0	7	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	その他動物食害	
件数	1	

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タカハシテンナンショウ	<i>Arisaema nambae</i>	EN
第4次 2019:	タカハシテンナンショウ	<i>Arisaema nambae</i>	EN
第4次 2018:	タカハシテンナンショウ	<i>Arisaema nambae</i>	EN
第4次 2017:	タカハシテンナンショウ	<i>Arisaema nambae</i>	EN
第4次 2015:	タカハシテンナンショウ	<i>Arisaema nambae</i>	EN
第4次:	タカハシテンナンショウ	<i>Arisaema nambae</i>	EN
第3次:	タカハシテンナンショウ	<i>Arisaema nambae</i>	EN
第2次:	タカハシテンナンショウ	<i>Arisaema undulatifolium</i> ssp. <i>nambae</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岡山県[絶滅危惧Ⅱ類] 広島県[準絶滅危惧(NT)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arisaema nambae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arisaema nambae* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Other animal feeding damage

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナベクラザゼンソウ

*Symplocarpus nabekuraensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身の形はザゼンソウに似るが、ずっと小さい。花は葉とほぼ同時に開く。仏炎苞は小型で長さ 7 cm 以下。仏炎苞の先端は上を向く。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の林内、林縁など。

【分布域】

本州（福井県～岩手県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	0	0	0	0	3	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナベクラザゼンソウ	<i>Symplocarpus nabekuraensis</i>	VU
第4次 2019:	ナベクラザゼンソウ	<i>Symplocarpus nabekuraensis</i>	VU
第4次 2018:	ナベクラザゼンソウ	<i>Symplocarpus nabekuraensis</i>	VU
第4次 2017:	ナベクラザゼンソウ	<i>Symplocarpus nabekuraensis</i>	VU
第4次 2015:	ナベクラザゼンソウ	<i>Symplocarpus nabekuraensis</i>	VU
第4次:	ナベクラザゼンソウ	<i>Symplocarpus nabekuraensis</i>	VU
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[C ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 秋田県[EN] 山形県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 新潟県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 富山県[情報不足] 福井県[要注目] 長野県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 秋田県生活環境部自然保護課，2014. 秋田県の絶滅のおそれのある野生生物 秋田県版レッドデータブック 2014—維管束植物—. 秋田県生活環境部自然保護課，204pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Symplocarpus nabekuraensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Symplocarpus nabekuraensis* is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

マルバオモダカ

Caldesia parnassiifolia

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉柄は水深に応じて伸長し、長さ 10-100 cm。葉身は長さ 5-15 cm、円心形または卵心形。花茎は水上に出て、各節に 3 個の第 2 次花序柄をつけ、その先に 2-3 段に 3-5 花を輪生する。花弁は長さ約 4 mm、3 個、円形。葯は黄色。

【生活史】

一年草。

【生育環境】

湖沼、ため池、水田、水路に生育。

【分布域】

北海道南部～九州、ユーラシア・アフリカ・オーストラリアの温帯～熱帯に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで絶滅し、14 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
5	5	2	1	1	0	14	2	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 池沼開発	管理放棄	水質汚濁
件数 6	6	5

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	マルバオモダカ	<i>Caldesia parnassiiifolia</i>	VU
第4次 2019:	マルバオモダカ	<i>Caldesia parnassiiifolia</i>	VU
第4次 2018:	マルバオモダカ	<i>Caldesia parnassiiifolia</i>	VU
第4次 2017:	マルバオモダカ	<i>Caldesia parnassiiifolia</i>	VU
第4次 2015:	マルバオモダカ	<i>Caldesia parnassiiifolia</i>	VU
第4次:	マルバオモダカ	<i>Caldesia parnassiiifolia</i>	VU
第3次:	マルバオモダカ	<i>Caldesia parnassiiifolia</i>	VU
第2次:	マルバオモダカ	<i>Caldesia reniformis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 青森県[重要希少野生生物(B ランク)] 岩手県[B ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 秋田県[NT] 山形県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 福島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 茨城県[絶滅] 栃木県[絶滅] 群馬県[絶滅(EX)] 埼玉県[絶滅(EX)] 千葉県[消息不明・絶滅生物(X)] 東京都(本土部)[区部:絶滅(EX) 本土部:絶滅(EX)] 神奈川県[絶滅(EX)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 富山県[絶滅+野生絶滅] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR)] 福井県[県域絶滅] 長野県[絶滅(EX)] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 愛知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 三重県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 滋賀県[絶滅危惧種] 京都府[絶滅種] 大阪府[CR+EN] 兵庫県[A ランク] 奈良県[絶滅寸前種] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 徳島県[絶滅(EX)] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 高知県[絶滅(EX)] 福岡県[絶滅] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[情報不足(DD)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Caldesia parnassiiifolia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Caldesia parnassiifolia is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Pond development, Abandonment of management, Water pollution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

マルミスブタ

Blyxa aubertii

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

スブタに似ているが、種子に尾状突起がない。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

ため池、水田、水路に生育する。

【分布域】

本州～琉球に分布。国外では、アジア、マダガスカルに分布し、北アメリカ、アフリカには移入と考えられる分布がある。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 10 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
4	0	2	2	2	0	10	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 水質汚濁	道路工事	池沼開発
件数 3	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	マルミスブタ	<i>Blyxa aubertii</i>	VU
第4次 2019:	マルミスブタ	<i>Blyxa aubertii</i>	VU
第4次 2018:	マルミスブタ	<i>Blyxa aubertii</i>	VU
第4次 2017:	マルミスブタ	<i>Blyxa aubertii</i>	VU
第4次 2015:	マルミスブタ	<i>Blyxa aubertii</i>	VU
第4次:	マルミスブタ	<i>Blyxa aubertii</i>	VU
第3次:	マルミスブタ	<i>Blyxa aubertii</i>	VU
第2次:	マルミスブタ	<i>Blyxa aubertii</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[要調査野生生物(D ランク)] 福島県[絶滅(EX)] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(A ランク)] 群馬県[絶滅(EX)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 富山県[絶滅+野生絶滅] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 滋賀県[絶滅危機増大種] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[CR+EN] 兵庫県[B ランク] 和歌山県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山口県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA 類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 高知県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA 類] 長崎県[準絶滅危惧種(NT)] 大分県[情報不足(DD)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA 類(CR-g)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Blyxa aubertii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Blyxa aubertii* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100

years.	
Threat types:	Water pollution, Road construction, Pond development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

スブタ

Blyxa echinosperma

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 A

過去 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長い期間を通じて、30%以上の減少があったと推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は根生、線形で、長さ 10-30 cm。8-10 月に開花し、萼筒が細長く 5-7 cm に伸び水面に達する。花弁は 3 個で細く、長さ 5-10 mm、白色。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

ため池、水田、水路に生育する。

【分布域】

本州～琉球に分布。国外では、アジア、オーストラリアに分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで絶滅し、19 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 A により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	9	3	4	0	0	19	3	7

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 管理放棄	自然遷移	水質汚濁
件数 11	6	5

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	スブタ	<i>Blyxa echinosperma</i>	VU
第4次 2019:	スブタ	<i>Blyxa echinosperma</i>	VU
第4次 2018:	スブタ	<i>Blyxa echinosperma</i>	VU
第4次 2017:	スブタ	<i>Blyxa echinosperma</i>	VU
第4次 2015:	スブタ	<i>Blyxa echinosperma</i>	VU
第4次:	スブタ	<i>Blyxa echinosperma</i>	VU
第3次:	スブタ	<i>Blyxa echinosperma</i>	VU
第2次:	スブタ	<i>Blyxa echinosperma</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[A ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 秋田県[絶滅危惧種ⅠA 類(CR)] 山形県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 福島県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 茨城県[絶滅危惧Ⅱ類] 栃木県[準絶滅危惧(C ランク)] 群馬県[絶滅(EX)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 千葉県[最重要保護生物(A)] 東京都(本土部)[区部:絶滅(EX) 本土部:絶滅(EX)] 東京都(北多摩)[情報不足(DD)] 東京都(南多摩)[絶滅(EX)] 東京都(西多摩)[絶滅(EX)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 新潟県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 富山県[準絶滅危惧] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 長野県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 三重県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 滋賀県[絶滅危惧種] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[CR+EN] 兵庫県[C ランク] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 島根県[準絶滅危惧(NT)] 岡山県[絶滅危惧Ⅱ類] 広島県[準絶滅危惧(NT)] 山口県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA 類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[情報不足(DD)] 高知県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 福岡県[絶滅] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 長崎県[準絶滅危惧種(NT)] 熊本県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 大分県[準絶滅危惧種(NT)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA 類(CR-g)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Blyxa echinosperma has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Blyxa echinosperma* is listed as VU under criteria A.

A. Reduction in population size based on any of the following:

2. An observed, estimated, inferred or suspected population size reduction of $\geq 30\%$ over the last 10 years or three generations, whichever is the longer, where the reduction or its causes may not have ceased OR may not be understood OR may not be reversible.

Threat types:	Abandonment of management, Natural succession, Water pollution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トゲウミヒルモ

Halophila decipiens

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は分枝して各節から根が出る。葉は長さ 1 cm、前後卵状楕円形、細長い柄があり、葉縁に突起がある。雄花に 1-2 cm の花柄があり、花被片は 3 個、透明。雌花は無柄、萼筒が少し伸びて先が 3 裂する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海中の砂泥地に生育する。

【分布域】

沖縄県に分布。国外では、台湾・香港・フィリピン・タイ・マレーシア・マリアナ諸島・インド・アフリカ・オーストラリアに分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では沖縄島の 3 ケ所で見つかっていた。個体数は不明であるが、少なくとも数百個体は生育していると判断された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トゲウミヒルモ	<i>Halophila decipiens</i>	VU
第4次 2019:	トゲウミヒルモ	<i>Halophila decipiens</i>	VU
第4次 2018:	トゲウミヒルモ	<i>Halophila decipiens</i>	VU
第4次 2017:	トゲウミヒルモ	<i>Halophila decipiens</i>	VU
第4次 2015:	トゲウミヒルモ	<i>Halophila decipiens</i>	VU
第4次:	トゲウミヒルモ	<i>Halophila decipiens</i>	VU
第3次:	ヒメウミヒルモ	<i>Halophila decipiens</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 熊本県[情報不足(DD)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）―レッドデータおきなわ―．沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Halophila decipiens has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Halophila decipiens is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トリゲモ

Najas minor

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

葉は細く線形で対生、長さ 1-2 cm、外側に反り返る。花は 7-9 月に咲き、雌雄同株。雄花は苞鞘に包まれるが、雌花に苞鞘はない。

【生活史】

沈水性の 1 年草。

【生育環境】

湖沼やため池に生育する。

【分布域】

本州～琉球に分布。国外では中国に分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、11 メッシュで数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	1	7	1	0	11	1	5

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 水質汚濁	池沼開発	その他動物食害
件数 11	5	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トリゲモ	<i>Najas minor</i>	VU
第4次 2019:	トリゲモ	<i>Najas minor</i>	VU
第4次 2018:	トリゲモ	<i>Najas minor</i>	VU
第4次 2017:	トリゲモ	<i>Najas minor</i>	VU
第4次 2015:	トリゲモ	<i>Najas minor</i>	VU
第4次:	トリゲモ	<i>Najas minor</i>	VU
第3次:	トリゲモ	<i>Najas minor</i>	VU
第2次:	トリゲモ	<i>Najas minor</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[情報不足] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 秋田県[絶滅危惧種ⅠA類(CR)] 福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 茨城県[絶滅危惧ⅠB類] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(Aランク)] 群馬県[絶滅(EX)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 千葉県[要保護生物(C)] 東京都(本土部)[区部:情報不足(DD) 本土部:情報不足(DD)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 富山県[絶滅危惧Ⅰ類] 石川県[情報不足(DD)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 滋賀県[希少種] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[DD] 兵庫県[Aランク] 奈良県[絶滅種] 和歌山県[準絶滅危惧(NT)] 島根県[情報不足(DD)] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山口県[情報不足(DD)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 香川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛媛県[準絶滅危惧(NT)] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅(EX-r)] 鹿児島県[情報不足] 沖縄県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Najas minor has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Najas minor* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Water pollution, Pond development, Other animal feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イトイバラモ

*Najas yezoensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は細く線形で対生、長さ 2.5-3 cm。雌雄同株。

【生活史】

沈水性の 1 年草。

【生育環境】

湖沼やため池に生育する。

【分布域】

北海道～本州北部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、3 メッシュで計数千個体の現存が推定された。
基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	2	0	3	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 帰化競合		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イトイバラモ	<i>Najas yezoensis</i>	VU
第4次 2019:	イトイバラモ	<i>Najas yezoensis</i>	VU
第4次 2018:	イトイバラモ	<i>Najas yezoensis</i>	VU
第4次 2017:	イトイバラモ	<i>Najas yezoensis</i>	VU
第4次 2015:	イトイバラモ	<i>Najas yezoensis</i>	VU
第4次:	イトイバラモ	<i>Najas yezoensis</i>	VU
第3次:	イトイバラモ	<i>Najas yezoensis</i>	EN
第2次:	イトイバラモ	<i>Najas yezoensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 青森県[重要希少野生生物(B ランク)] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 秋田県[EN] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 栃木県[準絶滅危惧(C ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 山梨県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Najas yezoensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Najas yezoensis* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Invasive species competition

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒラモ

Vallisneria natans var. *higoensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

セキショウモに似るが、子房の表面に棘がある。生育状態によっては葉の長さ 15-100 cm、幅 6-13 mm と大型になる。

【生活史】

沈水性の多年草。

【生育環境】

河川、水路などの流水域に生育する。

【分布域】

熊本県江津湖およびその周辺に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	2	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒラモ	<i>Vallisneria natans</i> var. <i>higoensis</i>	VU
第4次 2019:	ヒラモ	<i>Vallisneria natans</i> var. <i>higoensis</i>	VU
第4次 2018:	ヒラモ	<i>Vallisneria natans</i> var. <i>higoensis</i>	VU
第4次 2017:	ヒラモ	<i>Vallisneria natans</i> var. <i>higoensis</i>	VU
第4次 2015:	ヒラモ	<i>Vallisneria natans</i> var. <i>higoensis</i>	VU
第4次:	ヒラモ	<i>Vallisneria natans</i> var. <i>higoensis</i>	VU
第3次:	ヒラモ	<i>Vallisneria natans</i> var. <i>higoensis</i>	VU
第2次:	ヒラモ	<i>Vallisneria higoensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 熊本県希少野生動植物検討委員会，2019．レッドデータブックくまもと 2019 ―熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物―．熊本県環境生活部自然保護課，632pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Vallisneria natans var. *higoensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Vallisneria natans* var. *higoensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae シバナ科 Juncaginaceae

ホソバノシバナ

Triglochin palustris

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は細く、長さ 10-25 cm。花期は 7-8 月。花茎は高さ 15-35 cm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高地の湿原や沼の縁に生える。

【分布域】

北海道、本州の北部、本州中部の高地。北半球の温帯～亜寒帯に広く分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	2	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 不明		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホソバノシバナ	<i>Triglochin palustris</i>	VU
第4次 2019:	ホソバノシバナ	<i>Triglochin palustris</i>	VU
第4次 2018:	ホソバノシバナ	<i>Triglochin palustris</i>	VU
第4次 2017:	ホソバノシバナ	<i>Triglochin palustris</i>	VU
第4次 2015:	ホソバノシバナ	<i>Triglochin palustris</i>	VU
第4次:	ホソバノシバナ	<i>Triglochin palustris</i>	VU
第3次:	ホソバノシバナ	<i>Triglochin palustre</i>	VU
第2次:	ホソバノシバナ	<i>Triglochin palustre</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[A ランク] 秋田県[絶滅危惧種 I A 類(CR)]
山形県[絶滅危惧 I A 類 (C R)] 福島県[絶滅危惧 II 類(VU)] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Triglochin palustris has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Triglochin palustris is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオアマモ

Zostera asiatica

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は径 5-8 mm、やや扁平。葉は長さ 200 cm に達し、7-13 本の脈がある。花茎は 150 cm に達し、直立する。花序は長さ 5-7 cm、花被はなく、雄蕊・雌蕊が 12-20 対つく。種子は長さ 5 mm、長楕円球形。

【生活史】

多年草。花期は 5-7 月。

【生育環境】

水深 0-5 m の内湾の海底の砂泥に生育。

【分布域】

北海道・本州北部（岩手県）、朝鮮半島・中国・ロシア～千島列島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 11 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	9	1	0	0	0	11	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオアマモ	<i>Zostera asiatica</i>	VU
第4次 2019:	オオアマモ	<i>Zostera asiatica</i>	VU
第4次 2018:	オオアマモ	<i>Zostera asiatica</i>	VU
第4次 2017:	オオアマモ	<i>Zostera asiatica</i>	VU
第4次 2015:	オオアマモ	<i>Zostera asiatica</i>	VU
第4次:	オオアマモ	<i>Zostera asiatica</i>	VU
第3次:	オオアマモ	<i>Zostera asiatica</i>	VU
第2次:	オオアマモ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[A ランク] 宮城県[情報不足(DD)] 福井県[要注目]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Zostera asiatica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Zostera asiatica* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タチアマモ

Zostera caulescens

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は径 2-6 mm、やや扁平。葉は長さ 60 cm に達し、5-11 本の脈がある。花茎は 1 m から最大 7 m 以上に達し、直立する。花序は長さ 6-8 cm、花被はなく、雄蕊・雌蕊が 11-20 対つく。種子は長さ 4 mm、長楕円球形。

【生活史】

多年草。花期は 4-6 月。

【生育環境】

水深 3-17 m の内湾の海底の砂泥に生育。

【分布域】

北海道～本州（太平洋側は神奈川県以北、日本海側は島根県以北）、朝鮮半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タチアマモ	<i>Zostera caulescens</i>	VU
第4次 2019:	タチアマモ	<i>Zostera caulescens</i>	VU
第4次 2018:	タチアマモ	<i>Zostera caulescens</i>	VU
第4次 2017:	タチアマモ	<i>Zostera caulescens</i>	VU
第4次 2015:	タチアマモ	<i>Zostera caulescens</i>	VU
第4次:	タチアマモ	<i>Zostera caulescens</i>	VU
第3次:	タチアマモ	<i>Zostera caulescens</i>	VU
第2次:	タチアマモ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[要調査野生生物(D ランク)] 岩手県[A ランク] 宮城県[情報不足(DD)] 千葉県[最重要保護生物(A)] 神奈川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 石川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 静岡県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Zostera caulescens has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Zostera caulescens* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for	—

conservation	

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホソバヒルムシロ

Potamogeton alpinus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

水中茎に沈水葉とまれに浮葉をつける。沈水葉は無柄、葉身は狭披針形で長さ 6-30 cm。浮葉はほぼ無柄、葉身は長楕円形で長さ 1.8-3.5 cm。花期は 6-8 月で、穂状花序は長さ 1.5-3 cm。

【生活史】

沈水性～浮葉性の多年草。

【生育環境】

淡水の湖沼に生育する。

【分布域】

北海道、本州（東北）に分布。世界的には北半球の高緯度地域に広く分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果

2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 土地造成	池沼開発	水質汚濁
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホソバヒルムシロ	<i>Potamogeton alpinus</i>	VU
第4次 2019:	ホソバヒルムシロ	<i>Potamogeton alpinus</i>	VU
第4次 2018:	ホソバヒルムシロ	<i>Potamogeton alpinus</i>	VU
第4次 2017:	ホソバヒルムシロ	<i>Potamogeton alpinus</i>	VU
第4次 2015:	ホソバヒルムシロ	<i>Potamogeton alpinus</i>	VU
第4次:	ホソバヒルムシロ	<i>Potamogeton alpinus</i>	VU
第3次:	ホソバヒルムシロ	<i>Potamogeton alpinus</i>	VU
第2次:	ホソバヒルムシロ	<i>Potamogeton alpinus</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[B ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山形県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 群馬県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 長野県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Potamogeton alpinus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Potamogeton alpinus* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Land development, Pond development, Water pollution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コバノヒルムシロ

Potamogeton cristatus

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

水中茎は細く沈水葉と浮葉をつける。沈水葉は無柄、狭線形で長さ 3-5 cm。浮葉の葉柄は長さ 6-14 mm、葉身は狭楕円形で長さ 1.5-3 cm。6-9 月に、穂状花序をつける。

【生活史】

沈水性～浮葉性の多年草。

【生育環境】

淡水の湖沼やため池に生育する。

【分布域】

本州に分布。国外では、朝鮮半島、中国に分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、6 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	1	3	0	0	6	1	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 池沼開発	湿地開発	水質汚濁
件数 4	3	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コバノヒルムシロ	<i>Potamogeton cristatus</i>	VU
第4次 2019:	コバノヒルムシロ	<i>Potamogeton cristatus</i>	VU
第4次 2018:	コバノヒルムシロ	<i>Potamogeton cristatus</i>	VU
第4次 2017:	コバノヒルムシロ	<i>Potamogeton cristatus</i>	VU
第4次 2015:	コバノヒルムシロ	<i>Potamogeton cristatus</i>	VU
第4次:	コバノヒルムシロ	<i>Potamogeton cristatus</i>	VU
第3次:	コバノヒルムシロ	<i>Potamogeton cristatus</i>	VU
第2次:	コバノヒルムシロ	<i>Potamogeton cristatus</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[重要希少野生生物(B ランク)] 宮城県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 福島県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 茨城県[絶滅危惧ⅠA 類] 群馬県[絶滅(EX)] 千葉県[最重要保護生物(A)] 東京都(本土部)[区部:絶滅(EX) 本土部:絶滅(EX)] 東京都(北多摩)[絶滅(EX)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR)] 福井県[要注目] 長野県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 岐阜県[情報不足] 静岡県[情報不足(DD)] 三重県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 滋賀県[絶滅危惧種] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[CR+EN] 兵庫県[B ランク] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 岡山県[絶滅危惧Ⅱ類] 山口県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA 類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 熊本県[情報不足(DD)] 鹿児島県[情報不足] 沖縄県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Potamogeton cristatus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Potamogeton cristatus is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.	
Threat types:	Pond development, Wetland development, Water pollution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツツイトモ

Potamogeton pusillus

カテゴリー判定結果

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

基準 A

過去 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長い期間を通じて、30%以上の減少があったと推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

イトモに似るが、花が 2 段に分かれ、托葉の縁が合着して筒状。越冬芽は細長い。

【生活史】

沈水性の多年草。

【生育環境】

淡水の湖沼や水路に生育する。

【分布域】

北海道～九州に分布。世界に広く分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 12 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 A により VU とした。

現地調査の集計結果

2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	4	1	6	1	0	12	0	3

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 水質汚濁	その他	自然遷移
件数 5	5	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツツイトモ	<i>Potamogeton pusillus</i>	VU
第4次 2019:	ツツイトモ	<i>Potamogeton pusillus</i>	VU
第4次 2018:	ツツイトモ	<i>Potamogeton pusillus</i>	VU
第4次 2017:	ツツイトモ	<i>Potamogeton pusillus</i>	VU
第4次 2015:	ツツイトモ	<i>Potamogeton pusillus</i>	VU
第4次:	ツツイトモ	<i>Potamogeton pusillus</i>	VU
第3次:	ツツイトモ	<i>Potamogeton pusillus</i>	VU
第2次:	ツツイトモ	<i>Potamogeton panormitanus</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 秋田県[CR] 福島県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 茨城県[情報不足①注目種] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 千葉県[重要保護生物(B)] 東京都(本土部)[区部：絶滅危惧ⅠB 類(EN) 本土部：絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 東京都(北多摩)[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 山梨県[情報不足(DD)] 長野県[情報不足(DD)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 三重県[VU] 京都府[絶滅危惧種] 奈良県[情報不足種] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 岡山県[絶滅危惧Ⅱ類] 徳島県[絶滅危惧ⅠA 類] 香川県[絶滅(EX)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 高知県[情報不足(DD)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA 類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 長崎県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 鹿児島県[情報不足]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Potamogeton pusillus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Potamogeton pusillus is listed as VU under criteria A.

A. Reduction in population size based on any of the following: 2. An observed, estimated, inferred or suspected population size reduction of $\geq 30\%$ over the last 10 years or three generations, whichever is the longer, where the reduction or its causes may not have ceased OR may not be understood OR may not be reversible.	
Threat types:	Water pollution, Other, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ヒルムシロ科 Potamogetonaceae

ササエビモ

Potamogeton x nitens

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヒロハノエビモとエゾヒルムシロとの自然雑種。エゾヒルムシロに似るが、浮葉がない。

【生活史】

沈水性の多年草。

【生育環境】

山地の湖沼などに生育する。

【分布域】

本州中北部に分布。世界的には北半球に広く分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 6 メッシュで計数千個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	4	2	0	6	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ササエビモ	<i>Potamogeton nitens</i>	VU
第4次 2019:	ササエビモ	<i>Potamogeton nitens</i>	VU
第4次 2018:	ササエビモ	<i>Potamogeton nitens</i>	VU
第4次 2017:	ササエビモ	<i>Potamogeton nitens</i>	VU
第4次 2015:	ササエビモ	<i>Potamogeton nitens</i>	VU
第4次:	ササエビモ	<i>Potamogeton nitens</i>	VU
第3次:	ササエビモ	<i>Potamogeton nitens</i>	VU
第2次:	ササエビモ	<i>Potamogeton nipponicus</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 秋田県[CR] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)] 千葉県[保護参考雑種(RH)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫（編），1982. 日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類. 305pp., 208pls. 平凡社，東京.
- 秋田県生活環境部自然保護課，2014. 秋田県の絶滅のおそれのある野生生物 秋田県版レッドデータブック 2014—維管束植物—. 秋田県生活環境部自然保護課，204pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Potamogeton x nitens has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Potamogeton x nitens* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イトクズモ

Zannichellia palustris

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

葉は各節に対生または 2-4 個ずつ輪生状につき、長さ 2.5-7 cm。花期は 6-9 月、葉腋に 1 個の雄花と 1 個の雌花が対になってつく。

【生活史】

沈水性の 1 年草または多年草。

【生育環境】

淡水～汽水の湖沼やため池に生育する。

【分布域】

北海道～琉球に分布。世界に広く分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、5 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	2	1	0	5	1	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 河川開発	池沼開発	海岸開発
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イトクズモ	<i>Zannichellia palustris</i> var. <i>indica</i>	VU
第4次 2019:	イトクズモ	<i>Zannichellia palustris</i> var. <i>indica</i>	VU
第4次 2018:	イトクズモ	<i>Zannichellia palustris</i> var. <i>indica</i>	VU
第4次 2017:	イトクズモ	<i>Zannichellia palustris</i> var. <i>indica</i>	VU
第4次 2015:	イトクズモ	<i>Zannichellia palustris</i> var. <i>indica</i>	VU
第4次:	イトクズモ	<i>Zannichellia palustris</i> var. <i>indica</i>	VU
第3次:	イトクズモ	<i>Zannichellia palustris</i> var. <i>indica</i>	VU
第2次:	イトクズモ	<i>Zannichellia palustris</i> var. <i>indica</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)] 青森県[重要希少野生生物(B ランク)] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 秋田県[CR] 千葉県[最重要保護生物(A)] 神奈川県[絶滅(EX)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大阪府[EX] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 島根県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山口県[準絶滅危惧(NT)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Zannichellia palustris has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Zannichellia palustris is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100

years.	
Threat types:	River development, Pond development, Coastal development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オゼソウ

*Japonolirion osense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-20 cm。根出葉は長さ 3-20 cm、束生し、線形。花茎は膜質の鱗片葉をつける。花は総状花序に多数つき、帯黄白色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

蛇紋岩地帯に生育。

【分布域】

北海道（天塩山地）・本州（至仏山・谷川岳）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	2	1	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	
件数 2	2	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オゼソウ	<i>Japonolirion osense</i>	VU
第4次 2019:	オゼソウ	<i>Japonolirion osense</i>	VU
第4次 2018:	オゼソウ	<i>Japonolirion osense</i>	VU
第4次 2017:	オゼソウ	<i>Japonolirion osense</i>	VU
第4次 2015:	オゼソウ	<i>Japonolirion osense</i>	VU
第4次:	オゼソウ	<i>Japonolirion osense</i>	VU
第3次:	オゼソウ	<i>Japonolirion osense</i>	VU
第2次:	オゼソウ	<i>Japonolirion osense</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)] 群馬県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 新潟県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Japonolirion osense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Japonolirion osense is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キリシマシャクジョウ

Burmannia nepalensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 5-14 cm。全体は白色。数個の鱗片葉がまばらにつく。花は長さ 4-5 mm、まばらな集散花序に 3-8 個集まる。花筒の翼は狭く、内花被片は円形でごく小さい。葯隔の基部に距がある。

【生活史】

菌従属栄養性の多年草。

【生育環境】

常緑樹林下に生育する。

【分布域】

伊豆七島、四国（愛媛県、高知県）、九州、奄美大島、沖縄島に分布。国外では、台湾、中国、フィリピン、インドネシア、インド、ネパールに分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他動物食害	自然遷移	
件数	1	

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キリシマシャクジョウ	<i>Burmannia liukuensis</i>	VU
第4次 2019:	キリシマシャクジョウ	<i>Burmannia liukuensis</i>	VU
第4次 2018:	キリシマシャクジョウ	<i>Burmannia liukuensis</i>	VU
第4次 2017:	キリシマシャクジョウ	<i>Burmannia liukuensis</i>	VU
第4次 2015:	キリシマシャクジョウ	<i>Burmannia liukuensis</i>	VU
第4次:	キリシマシャクジョウ	<i>Burmannia liukuensis</i>	VU
第3次:	キリシマシャクジョウ	<i>Burmannia liukuensis</i>	VU
第2次:	キリシマシャクジョウ	<i>Burmannia liukuensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 長崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 熊本県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 大分県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN-g)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類] 沖縄県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Burmannia nepalensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Burmannia nepalensis is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Other animal feeding damage, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イズドコロ

*Dioscorea izuensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は肥厚して横に這う。茎は下部に白色の長毛があり、上部では無毛。葉は互生、三角状卵形で長さ 6-12 cm、薄い革質、両側は耳状に張り出し、縁は深く湾入し、不揃いな小突起があり、先は長くとがり、基部は心形、表面は無毛、裏面は脈に沿って短毛があるものもあり、乾くと黒色に変わる。葉柄は長さ 3-5 cm、基部に小突起はない。花被片は黄緑色で、平開する。雄花序も雌花序も下垂。蒴果は黒色を帯び、扁円形で、長さ 13-14 mm、幅 16-18 mm。種子は全周に翼がある。

【生活史】

つる性の多年草。雌雄異株。花期は 7-8 月。

【生育環境】

沿岸部の明るい林下や林縁に生える。

【分布域】

静岡県（伊豆半島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

海岸開発		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イズドコロ	<i>Dioscorea izuensis</i>	VU
第4次 2019:	イズドコロ	<i>Dioscorea izuensis</i>	VU
第4次 2018:	イズドコロ	<i>Dioscorea izuensis</i>	VU
第4次 2017:	イズドコロ	<i>Dioscorea izuensis</i>	VU
第4次 2015:	イズドコロ	<i>Dioscorea izuensis</i>	VU
第4次:	イズドコロ	<i>Dioscorea izuensis</i>	VU
第3次:	イズドコロ	<i>Dioscorea izuensis</i>	VU
第2次:	イズドコロ	<i>Dioscorea izuensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課，2020．まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編一．静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課，501pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dioscorea izuensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Dioscorea*

<i>izuensis</i> is listed as VU under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	Coastal development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

スズフリホンゴウソウ

Sciaphila ramosa

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

地上茎は上部で分岐し、高さ 3-8 cm、径約 0.3 mm。総状花序の花は 3-6 個、上部に雄花、下部に雌花をつける。雄花は径約 1.5 mm、花被片は 5-6 個でほぼ同形、裂片の先は細く伸びるが、先端に球形の付属体はない。雄蕊は 3 個、葯は横に長く、葯隔付属突起はない。雌花は径約 1.5 mm、花被片は 5-6 個。心皮は多数、花柱は心皮の腹面につき、心皮より短く、長さ 0.3 mm。

【生活史】

菌従属栄養性の多年草。

【生育環境】

低木林の林床に生える。

【分布域】

小笠原（父島・兄島・北硫黄島）、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	スズフリホンゴウソウ	<i>Sciaphila ramosa</i>	VU
第4次 2019:	スズフリホンゴウソウ	<i>Sciaphila ramosa</i>	VU
第4次 2018:	スズフリホンゴウソウ	<i>Sciaphila ramosa</i>	VU
第4次 2017:	スズフリホンゴウソウ	<i>Sciaphila ramosa</i>	VU
第4次 2015:	スズフリホンゴウソウ	<i>Sciaphila ramosa</i>	VU
第4次:	スズフリホンゴウソウ	<i>Sciaphila ramosa</i>	VU
第3次:	スズフリホンゴウソウ	<i>Sciaphila ramosa</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 末次健司・加藤英寿，2020．スズフリホンゴウソウ(ホンゴウソウ科)を北硫黄島に記録する．植物地理・分類研究，68: 135-137．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sciaphila ramosa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sciaphila ramosa* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ウエマツソウ

Sciaphila secundiflora

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

地上茎はほとんど分岐せず、高さ 6-10 cm、径約 0.8 mm、全体に赤紫色を帯びる。地上茎は 7-9 月に現れる。総状花序の花は 3-9 個、上部に雄花、下部に雌花をつける。雄花は径 6-7 mm、花被片は 6 個でほぼ同形、裂片は細い線形で長さ約 3 mm、先端に球形の付属体はない。雄蕊は 3 個、葯隔付属突起はない。雌花は暗紫色で径約 5 mm、花被片は 6 個。心皮は多数、花柱は心皮の腹面につき、長さ約 1 mm。

【生活史】

菌従属栄養性の多年草。花期は 7-9 月。

【生育環境】

常緑広葉樹林などの林床の落葉の間に生える。

【分布域】

本州（新潟県・静岡県以西）・四国・九州・屋久島・琉球（沖縄島・儀志布島・久米島・西表島）・伊豆諸島～小笠原諸島、台湾・香港・タイ・ニューギニア・スリランカ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 7 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	3	1	1	0	0	7	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番 目	2 番 目	3 番 目
要因	自然遷移	

道路工事		
件数		
1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウエマツソウ	<i>Sciaphila secundiflora</i>	VU
第4次 2019:	ウエマツソウ	<i>Sciaphila secundiflora</i>	VU
第4次 2018:	ウエマツソウ	<i>Sciaphila secundiflora</i>	VU
第4次 2017:	ウエマツソウ	<i>Sciaphila secundiflora</i>	VU
第4次 2015:	ウエマツソウ	<i>Sciaphila secundiflora</i>	VU
第4次:	ウエマツソウ	<i>Sciaphila secundiflora</i>	VU
第3次:	ウエマツソウ	<i>Sciaphila secundiflora</i>	VU
第2次:	ウエマツソウ	<i>Sciaphila tosaensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 三重県[CR] 京都府[絶滅寸前種] 兵庫県[Aランク] 和歌山県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 香川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 長崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

- 高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会，2022. 高知県レッドデータブック 2022 植物編. 高知県林業振興・環境部自然共生課，229pp.
- 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，2020. まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編—. 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，501pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sciaphila secundiflora has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Sciaphila secundiflora is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Road construction, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
 Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

リシリソウ

Anticlea sibirica

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) **基準 E**

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

植物体は高さ 10-25 cm。根出葉は線形で長さ 10-20 cm、茎葉は 1-2 個あるか、またはないものもある。花序は総状。花は径 10 mm 内外、花被片は 6 個、斜めに開き、淡黄緑色で外面は紫色を帯び、長楕円形で長さ 7-8 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山草地に生える。

【分布域】

北海道の利尻島、礼文島。国外では朝鮮半島北部、中国北部、シベリアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	
件数 3	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	リシリソウ	<i>Anticlea sibirica</i>	CR
第4次 2019:	リシリソウ	<i>Anticlea sibirica</i>	CR
第4次 2018:	リシリソウ	<i>Anticlea sibirica</i>	CR
第4次 2017:	リシリソウ	<i>Anticlea sibirica</i>	CR
第4次 2015:	リシリソウ	<i>Anticlea sibirica</i>	CR
第4次:	リシリソウ	<i>Anticlea sibirica</i>	CR
第3次:	リシリソウ	<i>Anticlea sibirica</i>	CR
第2次:	リシリソウ	<i>Zygadenus sibiricus</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Anticlea sibirica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Anticlea sibirica* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アズマシライトソウ

Chionographis hisauchiana subsp. *hisauchiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

シライトソウに似るが、上方の花被片の長さが 2-3.5 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

低山林床に生育する。

【分布域】

関東地方に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	2	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 道路工事	園芸採取	シカ食害
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アズマシライトソウ	<i>Chionographis hisauchiana</i> subsp. <i>hisauchiana</i>	VU
第4次 2019:	アズマシライトソウ	<i>Chionographis hisauchiana</i> subsp. <i>hisauchiana</i>	VU
第4次 2018:	アズマシライトソウ	<i>Chionographis hisauchiana</i> subsp. <i>hisauchiana</i>	VU
第4次 2017:	アズマシライトソウ	<i>Chionographis hisauchiana</i> subsp. <i>hisauchiana</i>	VU
第4次 2015:	アズマシライトソウ	<i>Chionographis hisauchiana</i> subsp. <i>hisauchiana</i>	VU
第4次:	アズマシライトソウ	<i>Chionographis hisauchiana</i> subsp. <i>hisauchiana</i>	VU
第3次:	アズマシライトソウ	<i>Chionographis japonica</i> var. <i>hisauchiana</i>	VU
第2次:	アズマシライトソウ	<i>Chionographis japonica</i> var. <i>hisauchiana</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

埼玉県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 東京都(本土部)[本土部：絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 東京都環境局自然環境部，2023．東京都レッドデータブック 2023—東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版—．東京都環境局自然環境部，879pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Chionographis hisauchiana subsp. *hisauchiana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Chionographis hisauchiana* subsp. *hisauchiana* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Road construction, Collecting plants in gardening, Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クロヒメシライトソウ

Chionographis hisauchiana subsp. *kurohimensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

シライトソウに似るが、上方の 4 花被片が短く、葉は厚い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

落葉樹林下の石灰岩上や海岸部の山地に生える。

【分布域】

本州（秋田県・山形県・新潟県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クロヒメシライトソウ	<i>Chionographis hisauchiana</i> subsp. <i>kurohimensis</i>	VU
第4次 2019:	クロヒメシライトソウ	<i>Chionographis hisauchiana</i> subsp. <i>kurohimensis</i>	VU
第4次 2018:	クロヒメシライトソウ	<i>Chionographis hisauchiana</i> subsp. <i>kurohimensis</i>	VU
第4次 2017:	クロヒメシライトソウ	<i>Chionographis hisauchiana</i> subsp. <i>kurohimensis</i>	VU
第4次 2015:	クロヒメシライトソウ	<i>Chionographis hisauchiana</i> subsp. <i>kurohimensis</i>	VU
第4次:	クロヒメシライトソウ	<i>Chionographis hisauchiana</i> subsp. <i>kurohimensis</i>	VU
第3次:	クロヒメシライトソウ	<i>Chionographis japonica</i> var. <i>kurohimensis</i>	VU
第2次:	クロヒメシライトソウ	<i>Chionographis japonica</i> var. <i>kurohimensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

秋田県[絶滅危惧種ⅠB類(EN)] 新潟県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 新潟県環境生活部環境企画課，2001．レッドデータブックにいがた．新潟県環境生活部環境企画課，467pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Chionographis hisauchiana subsp. *kurohimensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Chionographis hisauchiana* subsp. *kurohimensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマシライトソウ

Chionographis japonica var. *yakusimensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

シライトソウに似るが、花期がいくらか遅く、花被片の数は 3 以下である。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

林縁や林内の岩場に生育する。

【分布域】

鹿児島県（大隅半島・屋久島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
4	4	1	1	0	0	10	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマシライトソウ	<i>Chionographis japonica</i> var. <i>yakusimensis</i>	VU
第4次 2019:	ヤクシマシライトソウ	<i>Chionographis japonica</i> var. <i>yakusimensis</i>	VU
第4次 2018:	ヤクシマシライトソウ	<i>Chionographis japonica</i> var. <i>yakusimensis</i>	VU
第4次 2017:	ヤクシマシライトソウ	<i>Chionographis japonica</i> var. <i>yakusimensis</i>	VU
第4次 2015:	ヤクシマシライトソウ	<i>Chionographis japonica</i> var. <i>yakusimensis</i>	VU
第4次:	ヤクシマシライトソウ	<i>Chionographis japonica</i> var. <i>yakusimensis</i>	VU
第3次:	ヤクシマシライトソウ	<i>Chionographis sparsa</i>	VU
第2次:	ヤクシマシライトソウ	—	NT
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.
- Tanaka, N., 2017. A synopsis of the genus *Chamaelirium* (Melanthiaceae) with a new infrageneric classification including *Chionographis*. *Taiwania*, 62: 157–167.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Chionographis japonica var. *yakusimensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Chionographis japonica* var. *yakusimensis* is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

チャボシライトソウ

Chionographis koidzumiana var. *koidzumiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根出葉は卵形～狭卵形で、柄とともに長さ 2–8 cm。花茎は高さ 12–30 cm、花数はやや少なく、花被片は淡緑色で、上方の 4 個は糸状で長さ 9–15 mm になる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の林内や沢沿いの岩上に生える。

【分布域】

本州（愛知県、紀伊半島）、四国、九州に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 14 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	7	4	3	0	0	14	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	その他	園芸採取
件数 7	3	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チャボシライトソウ	<i>Chionographis koidzumiana</i> var. <i>koidzumiana</i>	VU
第4次 2019:	チャボシライトソウ	<i>Chionographis koidzumiana</i> var. <i>koidzumiana</i>	VU
第4次 2018:	チャボシライトソウ	<i>Chionographis koidzumiana</i> var. <i>koidzumiana</i>	VU
第4次 2017:	チャボシライトソウ	<i>Chionographis koidzumiana</i> var. <i>koidzumiana</i>	VU
第4次 2015:	チャボシライトソウ	<i>Chionographis koidzumiana</i> var. <i>koidzumiana</i>	VU
第4次:	チャボシライトソウ	<i>Chionographis koidzumiana</i> var. <i>koidzumiana</i>	VU
第3次:	チャボシライトソウ	<i>Chionographis koidzumiana</i>	VU
第2次:	チャボシライトソウ	<i>Chionographis koidzumiana</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 愛知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 三重県[EN] 奈良県[絶滅危惧種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠB類] 高知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 愛知県環境調査センター，2020．レッドデータブックあいち 2020—植物編—．愛知県環境局環境政策部自然環境課，810pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Chionographis koidzumiana var. *koidzumiana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Chionographis koidzumiana* var. *koidzumiana* is listed as VU under criteria E. E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Other, Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コショウジョウバカマ

Heloniopsis kawanoi

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ショウジョウバカマに似るが著しく小型で、葉は長さ 15-45 mm。花被片は長さ 4-5 mm で淡黄色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の川沿いのやや湿った崖面に生える。

【分布域】

沖縄島～石垣島、西表島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コショウジョウバカマ	<i>Helonias kawanoi</i>	VU
第4次 2019:	コショウジョウバカマ	<i>Helonias kawanoi</i>	VU
第4次 2018:	コショウジョウバカマ	<i>Helonias kawanoi</i>	VU
第4次 2017:	コショウジョウバカマ	<i>Helonias kawanoi</i>	VU
第4次 2015:	コショウジョウバカマ	<i>Helonias kawanoi</i>	VU
第4次:	コショウジョウバカマ	<i>Helonias kawanoi</i>	VU
第3次:	コショウジョウバカマ	<i>Helonias kawanoi</i>	VU
第2次:	ヒメショウジョウバカマ	<i>Heloniopsis kawanoi</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Heloniopsis kawanoi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Heloniopsis kawanoi* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオシロショウジョウバカマ

*Heloniopsis leucantha***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ショウジョウバカマに似るが、花被片は長さ 15-20 mm と大きく黄白色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

川沿いの湿った崖面に生える。

【分布域】

沖縄島、石垣島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオシロショウジョウバカマ	<i>Helonias leucantha</i>	VU
第4次 2019:	オオシロショウジョウバカマ	<i>Helonias leucantha</i>	VU
第4次 2018:	オオシロショウジョウバカマ	<i>Helonias leucantha</i>	VU
第4次 2017:	オオシロショウジョウバカマ	<i>Helonias leucantha</i>	VU
第4次 2015:	オオシロショウジョウバカマ	<i>Helonias leucantha</i>	VU
第4次:	オオシロショウジョウバカマ	<i>Helonias leucantha</i>	VU
第3次:	オオシロショウジョウバカマ	<i>Helonias leucantha</i>	VU
第2次:	オオシロショウジョウバカマ	<i>Heloniopsis leucantha</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Heloniopsis leucantha has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Heloniopsis leucantha is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コジマエンレイソウ

Trillium smallii var. *smallii*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

エンレイソウに似るが、紫色の内花被片が発達。花糸より葯が長い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の林内に生育する。

【分布域】

北海道～サハリン南部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果

2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	1	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コジマエンレイソウ	<i>Trillium smallii</i>	VU
第4次 2019:	コジマエンレイソウ	<i>Trillium smallii</i>	VU
第4次 2018:	コジマエンレイソウ	<i>Trillium smallii</i>	VU
第4次 2017:	コジマエンレイソウ	<i>Trillium smallii</i>	VU
第4次 2015:	コジマエンレイソウ	<i>Trillium smallii</i>	VU
第4次:	コジマエンレイソウ	<i>Trillium smallii</i>	VU
第3次:	コジマエンレイソウ	<i>Trillium amabile</i>	VU
第2次:	コジマエンレイソウ	<i>Trillium amabile</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 秋田県[絶滅危惧種 I A 類(CR)] 山形県[情報不足 (DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Trillium smallii var. *smallii* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Trillium smallii var. *smallii* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Deer feeding damage

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シラオイエンレイソウ

*Trillium x hagai***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

シロバナエンレイソウとオオバナノエンレイソウの自然雑種。両親の種より大型、花弁と葉縁が波打つ傾向が強い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

林内に生育する。

【分布域】

北海道に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シラオイエンレイソウ	<i>Trillium hagai</i>	VU
第4次 2019:	シラオイエンレイソウ	<i>Trillium hagai</i>	VU
第4次 2018:	シラオイエンレイソウ	<i>Trillium hagai</i>	VU
第4次 2017:	シラオイエンレイソウ	<i>Trillium hagai</i>	VU
第4次 2015:	シラオイエンレイソウ	<i>Trillium hagai</i>	VU
第4次:	シラオイエンレイソウ	<i>Trillium hagai</i>	VU
第3次:	シラオイエンレイソウ	<i>Trillium x hagai</i>	VU
第2次:	シラオイエンレイソウ	<i>Trillium x hagai</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[要調査野生生物(D ランク)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京
- 梅沢俊，2007．新北海道の花．462pp. 北海道大学出版会，札幌.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Trillium x hagai has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Trillium x hagai* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミカワバイケイソウ

Veratrum stamineum var. *micranthum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

コバイケイソウの変種で、コバイケイソウに比べ花が小さく、花被片の縁に細かい切れ込みがあり、雄蕊が花被片の 2 倍も長い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

低地の湿原に生える。

【分布域】

三重県、愛知県、静岡県、長野県、岐阜県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。
基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	1	0	0	2	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 池沼開発	土地造成	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミカワバイケイソウ	<i>Veratrum stamineum</i> var. <i>micranthum</i>	VU
第4次 2019:	ミカワバイケイソウ	<i>Veratrum stamineum</i> var. <i>micranthum</i>	VU
第4次 2018:	ミカワバイケイソウ	<i>Veratrum stamineum</i> var. <i>micranthum</i>	VU
第4次 2017:	ミカワバイケイソウ	<i>Veratrum stamineum</i> var. <i>micranthum</i>	VU
第4次 2015:	ミカワバイケイソウ	<i>Veratrum stamineum</i> var. <i>micranthum</i>	VU
第4次:	ミカワバイケイソウ	<i>Veratrum stamineum</i> var. <i>micranthum</i>	VU
第3次:	ミカワバイケイソウ	<i>Veratrum stamineum</i> var. <i>micranthum</i>	VU
第2次:	ミカワバイケイソウ	<i>Veratrum stamineum</i> var. <i>micranthum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)] 岐阜県[絶滅危惧 II 類] 静岡県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 愛知県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 三重県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Veratrum stamineum var. *micranthum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Veratrum stamineum* var. *micranthum* is listed as VU under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Pond development, Land development

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アマミヒメカカラ

*Smilax amamiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

屋久島のヒメカカラに似るが、ヒメカカラの葉の長さが 0.5-1 cm ほどであるのに対し、アマミヒメカカラの葉の長さは 1 cm 以上。本州と中国東部のサルマメにも似るが、サルマメでは茎がまっすぐか、ジグザグするにしてもわずかで、トゲはほとんどないが、アマミヒメカカラでは茎が顕著にジグザグで、多くのトゲがある。

【生活史】

小型の落葉性半低木。花期は 4 月。

【生育環境】

常緑広葉樹林林床に生育。

【分布域】

鹿児島県奄美大島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

詳細については不明。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 文献なし

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Smilax amamiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Smilax amamiana* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae シオデ科 Smilacaceae

トカラサンキライ

Smilax fui

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヤマカシュウに似るが、葉の基部が心形であることと茎に棘を持たないことで区別される。また、カラスキバサンキライとは葉がより小形であることと花被片が離生することで区別される。

【生活史】

つる性半低木。

【生育環境】

照葉樹林内に生育。

【分布域】

鹿児島県（三島村・十島村）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

生育地の一つである黒島の照葉樹林は 2011 年に国の天然記念物に指定され、保護が図られている。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番 目	2 番 目	3 番 目
要因 自然遷移	不明	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Qi, Z., C. Shen, Y. Han, R. Wang, R. Liu, A. Naiki and L. Pan, 2016. A new species of *Smilax* (Smilacaceae) from southern islands of Kagoshima prefecture, Japan. *Phytotaxa*, 269: 128–130.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Smilax fui has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Smilax fui* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒロハノアマナ

*Amana erythronioides***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

地下深くに卵形で長さ 3-4 cm の鱗茎がある。鱗茎の外皮は暗褐色。葉は花茎の下部に 2 個つき根出葉のように見え、緑色または暗紫色を帯び、線形で長さ 15-20 cm、幅 7-15 mm、全縁、中央に明瞭な白線がある。花茎は直立して高さ 15-20 cm、通常 3 個の苞があり、先端に 1 個の花をつける。花被片は 6 個、白色で外面の脈は暗紫色、披針形で 18-24 mm。蒴果は円形で 3 稜があり、長さ約 1.2 cm。アマナに似るが、葉は幅広くて中央に白線があり、花茎にふつう 3 個の苞がある点で区別できる。

【生活史】

落葉性多年草。花期は 3-4 月。初夏には地上部は枯れる。

【生育環境】

日当たりの良い草地や雑木林の疎林の下などに生える。

【分布域】

本州（関東地方～近畿地方）・四国（香川県・愛媛県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 8 メッシュで計数千個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	3	0	5	0	0	8	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	土地造成	園芸採取

自然遷移		
件数 3	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒロハノアマナ	<i>Amana erythronioides</i>	VU
第4次 2019:	ヒロハノアマナ	<i>Amana erythronioides</i>	VU
第4次 2018:	ヒロハノアマナ	<i>Amana erythronioides</i>	VU
第4次 2017:	ヒロハノアマナ	<i>Amana erythronioides</i>	VU
第4次 2015:	ヒロハノアマナ	<i>Amana erythronioides</i>	VU
第4次:	ヒロハノアマナ	<i>Amana erythronioides</i>	VU
第3次:	ヒロハノアマナ	<i>Amana latifolia</i>	VU
第2次:	ヒロハノアマナ	<i>Tulipa latifolia</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

茨城県[情報不足①注目種] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(A ランク)] 群馬県[情報不足(DD)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 千葉県[最重要保護生物(A)] 東京都(本土部)[本土部：絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 東京都(北多摩)[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 東京都(南多摩)[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 山梨県[情報不足(DD)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 愛知県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 三重県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 滋賀県[絶滅危機増大種] 大阪府[CR+EN] 兵庫県[A ランク] 徳島県[留意] 香川県[絶滅(EX)] 愛媛県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 愛媛県レッドデータブック改訂委員会，2014. 愛媛県レッドデータブック 2014—愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物—. 愛媛県県民環境部環境局自然保護課，623pp.

- 愛知県環境調査センター，2020．レッドデータブックあいち 2020―植物編―．愛知県環境局環境政策部自然環境課，810pp.
- 東京都環境局自然環境部，2023．東京都レッドデータブック 2023―東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版―．東京都環境局自然環境部，879pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Amana erythronioides has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Amana erythronioides* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Land development, Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イズモコバイモ

Fritillaria ayakoana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

鱗茎は 2 個の鱗片からなる。高さは 15-20 cm 程。葉は 5 個で、茎の下部につく 2 葉は対生し、上部につく 3 葉は輪生する。花は茎頂に 1 個つき、碗状鐘形、下向きに開花する。花被片内側の下部(下 1/4)から上に向かう腺があり、花被片は下部で外側に張り出す。花糸や花柱に細突起があり、花柱はほとんど裂けない。

【生活史】

多年草。花期は 4-5 月。初夏迄には地上部は枯れる。

【生育環境】

山地の落葉広葉樹林の林下や林縁に生える。

【分布域】

本州（島根県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、4 メッシュで計数千個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	1	0	1	0	4	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	管理放棄	道路工事
件数	2	1

3		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イズモコバイモ	<i>Fritillaria ayakoana</i>	VU
第4次 2019:	イズモコバイモ	<i>Fritillaria ayakoana</i>	VU
第4次 2018:	イズモコバイモ	<i>Fritillaria ayakoana</i>	VU
第4次 2017:	イズモコバイモ	<i>Fritillaria ayakoana</i>	VU
第4次 2015:	イズモコバイモ	<i>Fritillaria ayakoana</i>	VU
第4次:	イズモコバイモ	<i>Fritillaria ayakoana</i>	VU
第3次:	イズモコバイモ	<i>Fritillaria ayakoana</i>	VU
第2次:	イズモコバイモ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

島根県[絶滅危惧 I 類(CR+EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鳴橋直弘，2020．ユリ科コバイモ *Fritillaria japonica* group (Liliaceae)．423pp. 自費出版，大阪．
- 島根県環境生活部自然環境課，2013．改訂しまねレッドデータブック 2013 植物編—島根県の絶滅のおそれのある野生生物—．島根県環境生活部自然環境課，254pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Fritillaria ayakoana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Fritillaria ayakoana is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Abandonment of management, Road construction
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミノコバイモ

Fritillaria japonica

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

鱗茎は球形で径 5-15 mm、半球形の 2 個の鱗片からなる。茎は高さ 10-30 cm、葉は披針形～広線形で長さ 2.5-10 cm、下方では 2 葉が対生、上方では 3 輪生する。花は茎頂に 1 個つき、広鐘形。花被片は長楕円形で長さ 15-25 mm、淡黄色で暗紫色の網目模様があり、内側の中部下寄り(下 1/3-2/5)から上に向かう腺があり、花被片は中部下寄り外側に角ばって張り出す。内花被片の縁は平滑。葯はクリーム色。類似種のコシノコバイモは、花被片の縁にとげ状の突起があり、やや反り返る。

【生活史】

多年草。花期は 3 月下旬～5 月。初夏迄には地上部は枯れる。

【生育環境】

丘陵地や山地の落葉樹林の林床・林縁、草刈管理がされる路傍斜面などに生育する。

【分布域】

本州（石川県・岐阜県・愛知県～岡山県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 9 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	6	1	1	0	0	9	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	人の踏みつけ	園芸採取

自然遷移		
件数 4	3	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミノコバイモ	<i>Fritillaria japonica</i>	VU
第4次 2019:	ミノコバイモ	<i>Fritillaria japonica</i>	VU
第4次 2018:	ミノコバイモ	<i>Fritillaria japonica</i>	VU
第4次 2017:	ミノコバイモ	<i>Fritillaria japonica</i>	VU
第4次 2015:	ミノコバイモ	<i>Fritillaria japonica</i>	VU
第4次:	ミノコバイモ	<i>Fritillaria japonica</i>	VU
第3次:	ミノコバイモ	<i>Fritillaria japonica</i>	VU
第2次:	ミノコバイモ	<i>Fritillaria japonica</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

石川県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅱ類] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 愛知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 三重県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 滋賀県[絶滅危惧種] 兵庫県[Aランク] 岡山県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鳴橋直弘，2020．ユリ科コバイモ *Fritillaria japonica* group (Liliaceae)．423pp. 自費出版，大阪．
- 愛知県環境調査センター，2020．レッドデータブックあいち 2020—植物編—．愛知県環境局環境政策部自然環境課，810pp.
- 福井県安全環境部自然環境課，2016．福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016．福井県安全環境部自然環境課，536pp.

- 石川県絶滅危惧植物調査会，2020．石川県の絶滅のおそれのある野生生物 いしかわレッドデータブック 2020（植物編）．石川県生活環境部自然環境課，394pp.
- 兵庫県環境部自然鳥獣共生課，2020．兵庫県版レッドデータブック 2020（植物・植物群落）．
https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/%21drafts/leg_8362（2024 年 9 月 5 日閲覧）．
- 岡山県野生動植物調査検討会，2020．岡山県版レッドデータブック 2020 植物編．岡山県環境文化部自然環境課，368pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Fritillaria japonica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Fritillaria japonica is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Human trampling, Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アワコバイモ

*Fritillaria muraiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

鱗茎は球形で径約 1 cm。茎は高さ 15 cm 程。葉は下部では 2 枚の葉が対生し、上部では 3 輪生する。葉は披針形。茎頂に 1 個の花を下向きにつける。花は釣鐘形で、花被片は 6 枚、暗紫色の網目模様があり全縁。ミノコバイモに似るが、葯は赤紫色。アワコバイモとトサコバイモの間の自然雑種をトクシマコバイモ *Fritillaria x tokushimensis* Akasawa, Katayama et Naito といい、徳島県と高知県に産する。

【生活史】

多年草。花期は 3-4 月。初夏迄には地上部は枯れる。

【生育環境】

山地の落葉広葉樹の林床や林縁に生育する。

【分布域】

四国。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 13 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	3	5	3	0	0	13	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	園芸採取	人の踏みつけ

件数 11	9	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アワコバイモ	<i>Fritillaria muraiana</i>	VU
第4次 2019:	アワコバイモ	<i>Fritillaria muraiana</i>	VU
第4次 2018:	アワコバイモ	<i>Fritillaria muraiana</i>	VU
第4次 2017:	アワコバイモ	<i>Fritillaria muraiana</i>	VU
第4次 2015:	アワコバイモ	<i>Fritillaria muraiana</i>	VU
第4次:	アワコバイモ	<i>Fritillaria muraiana</i>	VU
第3次:	アワコバイモ	<i>Fritillaria muraiana</i>	VU
第2次:	アワコバイモ	<i>Fritillaria japonica</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[絶滅危惧Ⅱ類] 香川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛媛県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 鳴橋直弘，2020. ユリ科コバイモ *Fritillaria japonica* group (Liliaceae). 423pp. 自費出版，大阪.
- 高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会，2022. 高知県レッドデータブック 2022 植物編. 高知県林業振興・環境部自然共生課，229pp.
- 愛媛県レッドデータブック改訂委員会，2014. 愛媛県レッドデータブック 2014—愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物—. 愛媛県県民環境部環境局自然保護課，623pp.

- 特定非営利活動法人みんなでつくる自然史博物館・香川，2021．香川県レッドデータブック 2021 香川県の希少野生生物．香川県環境森林部みどり保全課，503pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Fritillaria muraiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Fritillaria muraiana* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Collecting plants in gardening, Human trampling
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エゾヒメアマナ

*Gagea vaginata***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 8-15 cm 程。鱗茎は卵形～広卵形で長さ 8-13 mm。根出葉は 1 個で長さ 8-20 cm、幅 1-2 mm。花茎は長さ 4-15 cm、1-3 花をつける。苞は 2 個、下側の苞は長さ 1.3-4 cm。花被片は線状長楕円形～倒卵形で長さ 7-9 mm。ヒメアマナに似るが、下側の苞の上面はへこみ、基部が花茎を抱く。

【生活史】

多年草。花期は 5-6 月。

【生育環境】

日当たりの良い川原や林縁の草地に生える。

【分布域】

南千島・北海道。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査**【「現存する株数」別のメッシュ数】**

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数		

3		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾヒメアマナ	<i>Gagea vaginata</i>	VU
第4次 2019:	エゾヒメアマナ	<i>Gagea vaginata</i>	VU
第4次 2018:	エゾヒメアマナ	<i>Gagea vaginata</i>	VU
第4次 2017:	エゾヒメアマナ	<i>Gagea vaginata</i>	VU
第4次 2015:	エゾヒメアマナ	<i>Gagea vaginata</i>	VU
第4次:	エゾヒメアマナ	<i>Gagea vaginata</i>	VU
第3次:	エゾヒメアマナ	<i>Gagea vaginata</i>	VU
第2次:	エゾヒメアマナ	<i>Gagea vaginata</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gagea vaginata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Gagea vaginata* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ノヒメユリ

Lilium callosum var. *callosum*

カテゴリー	判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。			
評価分科会： 維管束植物分科会			

基礎情報

【形態】

高さは 60-100 cm。葉は互生。花は茎の先に 2-9 個つく。花は日本産ユリ属のなかでもっとも小さく、花被片は長さ 3-4 cm、赤燈色で斑点はあまり目立たない。花柱は子房より長くならない。コオニユリに似るが、匍枝がなく、葉が線形である。

【生活史】

落葉性多年草。花期は 8 月。

【生育環境】

丘陵地や山地の草原に生える。

【分布域】

九州、朝鮮半島・中国・台湾・アムール。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、12 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	4	1	7	0	0	12	1	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 管理放棄	自然遷移	園芸採取
件数 11	11	7

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ノヒメユリ	<i>Lilium callosum</i> var. <i>callosum</i>	EN
第4次 2019:	ノヒメユリ	<i>Lilium callosum</i> var. <i>callosum</i>	EN
第4次 2018:	ノヒメユリ	<i>Lilium callosum</i> var. <i>callosum</i>	EN
第4次 2017:	ノヒメユリ	<i>Lilium callosum</i> var. <i>callosum</i>	EN
第4次 2015:	ノヒメユリ	<i>Lilium callosum</i> var. <i>callosum</i>	EN
第4次:	ノヒメユリ	<i>Lilium callosum</i> var. <i>callosum</i>	EN
第3次:	ノヒメユリ	<i>Lilium callosum</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福岡県[絶滅危惧ⅠB類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅱ類種] 長崎県[準絶滅危惧種(NT)] 熊本県[準絶滅危惧(NT)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN-g)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 大分県自然環境学術調査会，2022．レッドデータブックおおいた 2022—大分県の絶滅のおそれのある野生生物—．<https://www.rdb-oita.jp/>（2024年9月5日閲覧）．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lilium callosum var. *callosum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Lilium callosum var. *callosum* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.	
Threat types:	Abandonment of management, Natural succession, Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミヤマスカシユリ

Lilium maculatum var. *bukosanense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

基準変種のスカシユリに似るが、茎は下垂し、葉が広線形、花は上向きに開き、花被片が強く反り返る。

【生活史】

多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

石灰岩や火山角礫岩などの岩壁に生育する。

【分布域】

本州（岩手県・宮城県・茨城県・埼玉県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	0	1	1	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	産地局限	道路工事
件数 3	3	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミヤマスカシユリ	<i>Lilium maculatum</i> var. <i>bukosanense</i>	EN
第4次 2019:	ミヤマスカシユリ	<i>Lilium maculatum</i> var. <i>bukosanense</i>	EN
第4次 2018:	ミヤマスカシユリ	<i>Lilium maculatum</i> var. <i>bukosanense</i>	EN
第4次 2017:	ミヤマスカシユリ	<i>Lilium maculatum</i> var. <i>bukosanense</i>	EN
第4次 2015:	ミヤマスカシユリ	<i>Lilium maculatum</i> var. <i>bukosanense</i>	EN
第4次:	ミヤマスカシユリ	<i>Lilium maculatum</i> var. <i>bukosanense</i>	EN
第3次:	ミヤマスカシユリ	<i>Lilium maculatum</i> var. <i>bukosanense</i>	EN
第2次:	ミヤマスカシユリ	<i>Lilium maculatum</i> var. <i>bukosanense</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[B ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 福島県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 茨城県[絶滅危惧ⅠB類] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 大橋広好・吉田繁・上野雄規，2004. ミヤマスカシユリの新分布. 植物研究雑誌，79: 140-142.
- 岩手県環境生活部自然保護課，2014. いわてレッドデータブック 岩手の希少な野生生物 web 版. <https://www2.pref.iwate.jp/~hp0316/rd/rdb/index.html>（2024年9月6日閲覧）.
- 茨城県生活環境部環境政策課，2012. 茨城における絶滅のおそれのある野生生物 植物編 2012年改訂版. 茨城県生活環境部環境政策課，263pp.
- 埼玉県環境部自然環境課，2012. 埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編. 埼玉県. 433pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lilium maculatum var. *bukosanense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lilium maculatum* var. *bukosanense* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Limited distribution, Road construction
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タキユリ

Lilium speciosum var. *clivorum***カテゴリーー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は互生、卵状披針形で長さ 10-18 cm。花被片は白色で淡紅色を帯び、濃紅色の斑点があり、広披針形、強く反り返る。カノコユリの変種で、茎は細くて下垂し、花はうつむき、柱頭は切形になる。

【生活史】

多年草。花期は 6 月下旬～9 月。

【生育環境】

山中の岩壁、崖、急斜面の道路・耕作地の法面などに生える。

【分布域】

本州（和歌山県）・四国・九州（西彼杵半島・九十九島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 7 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	3	1	1	0	0	7	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	
件数 6	2	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タキユリ	<i>Lilium speciosum</i> var. <i>clivorum</i>	VU
第4次 2019:	タキユリ	<i>Lilium speciosum</i> var. <i>clivorum</i>	VU
第4次 2018:	タキユリ	<i>Lilium speciosum</i> var. <i>clivorum</i>	VU
第4次 2017:	タキユリ	<i>Lilium speciosum</i> var. <i>clivorum</i>	VU
第4次 2015:	タキユリ	<i>Lilium speciosum</i> var. <i>clivorum</i>	VU
第4次:	タキユリ	<i>Lilium speciosum</i> var. <i>clivorum</i>	VU
第3次:	タキユリ	<i>Lilium speciosum</i> var. <i>clivorum</i>	VU
第2次:	タキユリ	<i>Lilium speciosum</i> var. <i>clivorum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 高知県[注目種] 長崎県[準絶滅危惧種(NT)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会，2022．高知県レッドデータブック 2022 植物編．高知県林業振興・環境部自然共生課，229pp.
- 和歌山県環境生活部環境生活総務課，2022．保全上重要なわかやまの自然—和歌山県レッドデータブック— 2022 年改訂版．和歌山県環境生活部環境生活総務課，783pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lilium speciosum var. *clivorum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lilium speciosum* var. *clivorum* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カノコユリ

Lilium speciosum var. *speciosum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は高さ 100-150 cm。鱗茎は黄褐色、球形で径 7-10 cm、苦味がある。葉は互生、卵状披針形で長さ 10-18 cm。花は数個から 20 個程度つく。花被片は白色で淡紅色を帯び、濃紅色の斑点があり、広披針形で長さ 8-10 cm、強く反り返る。花粉は赤褐色。蒴果は長橢円形、長さ 3-4 cm。

【生活史】

多年草。花は 7-9 月。

【生育環境】

山地の崖や林縁などに生える。

【分布域】

四国（徳島県）・九州。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 9 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査**【「現存する株数」別のメッシュ数】**

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	2	6	0	0	9	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他動物食害	園芸採取	自然遷移
件数	1	1

6		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カノコユリ	<i>Lilium speciosum</i> var. <i>speciosum</i>	VU
第4次 2019:	カノコユリ	<i>Lilium speciosum</i> var. <i>speciosum</i>	VU
第4次 2018:	カノコユリ	<i>Lilium speciosum</i> var. <i>speciosum</i>	VU
第4次 2017:	カノコユリ	<i>Lilium speciosum</i> var. <i>speciosum</i>	VU
第4次 2015:	カノコユリ	<i>Lilium speciosum</i> var. <i>speciosum</i>	VU
第4次:	カノコユリ	<i>Lilium speciosum</i> var. <i>speciosum</i>	VU
第3次:	カノコユリ	<i>Lilium speciosum</i>	VU
第2次:	カノコユリ	<i>Lilium speciosum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[絶滅危惧Ⅱ類] 福岡県[絶滅危惧ⅠB類] 長崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 熊本県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 鹿児島県[準絶滅危惧]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 徳島県版レッドデータブック掲載種検討委員会，2001．徳島県の絶滅のおそれのある野生生物 徳島県版レッドデータブック．徳島県環境生活部環境政策課，438pp.
- 福岡県環境部自然環境課，2011．福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2011—植物群落・植物・哺乳類・鳥類—．福岡県環境部自然環境課，240pp.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Lilium speciosum var. *speciosum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lilium speciosum* var. *speciosum* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Other animal feeding damage, Collecting plants in gardening, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キバナノホトトギス

*Tricyrtis flava***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は立ち、高さ 20-50 cm、硬い毛が散生する。葉は互生、長楕円状披針形、長さ 8-20 cm、基部は次第に狭くなり、茎を抱えるように斜めにつく。花は黄色、1-2 個が葉腋につき、花柄は褐色の毛が密生し、花よりはるかに長い。花被片は卵状長楕円形で長さ 30 mm 前後、内外片はほぼ同形で、外片に褐色の毛があり基部に膨らみがある。葯は褐色。

【生活史】

多年草。花期は 9-11 月。

【生育環境】

低山帯に生育する。

【分布域】

九州（宮崎県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	1	3	0	—	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キバナノホトトギス	<i>Tricyrtis flava</i> subsp. <i>flava</i>	VU
第4次 2019:	キバナノホトトギス	<i>Tricyrtis flava</i> subsp. <i>flava</i>	VU
第4次 2018:	キバナノホトトギス	<i>Tricyrtis flava</i> subsp. <i>flava</i>	VU
第4次 2017:	キバナノホトトギス	<i>Tricyrtis flava</i> subsp. <i>flava</i>	VU
第4次 2015:	キバナノホトトギス	<i>Tricyrtis flava</i> subsp. <i>flava</i>	VU
第4次:	キバナノホトトギス	<i>Tricyrtis flava</i> subsp. <i>flava</i>	VU
第3次:	キバナノホトトギス	<i>Tricyrtis flava</i>	VU
第2次:	キバナノホトトギス	<i>Tricyrtis flava</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[準絶滅危惧(NT-g)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022．宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020 年度版．宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Tricyrtis flava has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Tricyrtis flava* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タイワンホトトギス

Tricyrtis formosana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は高さ 50-80 cm、ほぼ無毛。葉は長楕円形で長さ 5-20 cm、幅 3-5 cm、基部は細くなって輪状に茎を抱き、上面は無毛で光沢があって斑が入り、下面は毛がある。しばしば葉腋には無性芽をつける。花は茎の先に集散状につく。花被片は斜め上向きに開き、ふつう内面先端部は淡紫色で他の部分は白色、紫色の斑点があり、下部に黄色の斑点がある。外花被片は倒披針形、長さ 22-25 mm、幅 6-8 mm、内花被片は線状披針形、長さ 20-24 mm、幅は約 4 mm。花糸と花柱に赤紫色の斑点がある。葯は暗紫色。子房は無毛。

【生活史】

常緑の多年草。花期は 9-11 月。

【生育環境】

山地の自然林内の滝の崖面、山地上部の沢筋の明るい斜面、集落周辺の水田の畦に生える。

【分布域】

琉球（沖縄島・西表島）、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	台湾ホトトギス	<i>Tricyrtis formosana</i>	CR
第4次 2019:	台湾ホトトギス	<i>Tricyrtis formosana</i>	CR
第4次 2018:	台湾ホトトギス	<i>Tricyrtis formosana</i>	CR
第4次 2017:	台湾ホトトギス	<i>Tricyrtis formosana</i>	CR
第4次 2015:	台湾ホトトギス	<i>Tricyrtis formosana</i>	CR
第4次:	台湾ホトトギス	<i>Tricyrtis formosana</i>	CR
第3次:	台湾ホトトギス	<i>Tricyrtis formosana</i>	CR
第2次:	台湾ホトトギス	<i>Tricyrtis formosana</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- Tsunenari, K., T. Ito, M. Yokota, M. Shibabayashi, C. Endo, K. F. Chung, Y. Suyama, A. Matsuo, A. Abe, A. Naiki, H. Setoguchi, T. Makino and Y. Isagi, 2024. Double migration of the endangered *Tricyrtis formosana* (Liliaceae) in Japan. Scientific Reports, 14: 957.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Tricyrtis formosana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Tricyrtis formosana* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ジョウロウホトギス

*Tricyrtis macrantha***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長さ 40-80 cm、下垂し、上方に斜上する褐色の毛がある。葉は互生、卵状長楕円形で、長さ 7-15 cm、裏面に毛があり、先は次第に尖って尾状、基部は心形で一側に耳片がある。花は茎の上部の葉腋に下向きに 1 個ずつつく。花被片は黄色で内面に紫褐色の斑点があり、鐘形で半開、長楕円形で長さ 40 mm 内外。外片は内片より少し細く、基部に長さ 4-5 mm の距がある。

【生活史】

多年草。花期は 8-10 月。

【生育環境】

山中のやや明るい湿り気のある崖に生育する。

【分布域】

四国（高知県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	その他

件数		
2	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis macrantha</i>	VU
第4次 2019:	ジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis macrantha</i>	VU
第4次 2018:	ジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis macrantha</i>	VU
第4次 2017:	ジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis macrantha</i>	VU
第4次 2015:	ジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis macrantha</i>	VU
第4次:	ジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis macrantha</i>	VU
第3次:	ジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis macrantha</i>	VU
第2次:	ジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis macrantha</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

高知県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会，2022．高知県レッドデータブック 2022 植物編．高知県林業振興・環境部自然共生課，229pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Tricyrtis macrantha has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Tricyrtis macrantha* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.	
Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キジョウロウホトトギス

*Tricyrtis macranthopsis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長さ 40-80 cm、下垂する。葉は互生、卵状長楕円形、長さ約 15 cm、裏面には毛がある。ジョウロウホトトギスに似るが、茎にほとんど毛がなく、葉の基部の両側に耳片があり、花は茎頂に 1-2 個、上部の葉腋に 1 個つく。

【生活史】

多年草。花期は 8-10 月。

【生育環境】

山中の川沿いなど水がしたたる岩壁に生育する。

【分布域】

紀伊半島南部（三重県・奈良県・和歌山県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 9 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	5	1	3	0	0	9	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	道路工事	自然遷移
件数 7	2	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キイジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis macranthopsis</i>	VU
第4次 2019:	キイジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis macranthopsis</i>	VU
第4次 2018:	キイジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis macranthopsis</i>	VU
第4次 2017:	キイジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis macranthopsis</i>	VU
第4次 2015:	キイジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis macranthopsis</i>	VU
第4次:	キイジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis macranthopsis</i>	VU
第3次:	キイジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis macranthopsis</i>	EN
第2次:	キイジョウロウホトトギス	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

三重県[絶滅危惧 IB 類(EN)] 奈良県[絶滅危惧種] 和歌山県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 三重県農林水産部みどり共生推進課，2015．三重県レッドデータブック 2015．三重県農林水産部みどり共生推進課，757pp.
- 和歌山県環境生活部環境生活総務課，2022．保全上重要なわかやまの自然—和歌山県レッドデータブック— 2022 年改訂版．和歌山県環境生活部環境生活総務課，783pp.
- 奈良県レッドデータブック改訂委員会，2017．大切にしたい奈良県の野生動植物—奈良県版レッドデータブック 2016 改訂版—．奈良県くらし創造部景観・環境局，791pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Tricyrtis macranthopsis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Tricyrtis macranthopsis is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Road construction, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オガサワラシコウラン

*Bulbophyllum boninense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は短く匍匐し、卵形の偽球茎をまばらにつける。葉は多肉質で長さ 8-17 cm、幅 2-5 cm。偽球茎の基部から花茎をのばし、先端に 3-5 個の花をつける。シコウランに似るが、側萼片が広卵形で鈍頭、2 個の縁が広く接し、花の中心部に赤紫色の斑紋が入る。

【生活史】

常緑で着生の多年草。

【生育環境】

湿った樹幹や岩上に着生する。

【分布域】

小笠原諸島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
6	4	1	0	0	0	11	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オガサワラシコウラン	<i>Bulbophyllum boninense</i>	VU
第4次 2019:	オガサワラシコウラン	<i>Bulbophyllum boninense</i>	VU
第4次 2018:	オガサワラシコウラン	<i>Bulbophyllum boninense</i>	VU
第4次 2017:	オガサワラシコウラン	<i>Bulbophyllum boninense</i>	VU
第4次 2015:	オガサワラシコウラン	<i>Bulbophyllum boninense</i>	VU
第4次:	オガサワラシコウラン	<i>Bulbophyllum boninense</i>	VU
第3次:	オガサワラシコウラン	<i>Bulbophyllum boninense</i>	EN
第2次:	オガサワラシコウラン	<i>Cirrhopetalum boninense</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Bulbophyllum boninense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Bulbophyllum boninense* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ダルマエビネ

Calanthe alismifolia

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

偽球茎は数個接して並び、2-3 葉を束生。葉は長さ 13-20 cm、幅 5.5-10 cm、楕円形～卵形で長さ 7-10 cm の明瞭な葉柄がある。総状花序は長さ 30-40 cm、10 花程度をつける。花は平開し、萼片は淡緑色で広倒卵形、長さ 8-10 mm。側花弁は白色で菱形状円形、長さ 6-8 mm。唇弁は白色で基部に淡紫色の着色があり、半円形で長さ 15 mm、基部で深く 3 裂し、中央裂片は倒卵形～広倒卵形で先はさらに 2 裂し、上面中央に 3-5 個の黄色の隆起があり、基部に長さ 8 mm の距がある。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

山地の自然林の林床に生える。

【分布域】

九州（宮崎県・鹿児島県）・屋久島・種子島・トカラ列島・沖縄島、台湾・ヒマラヤ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 14 メッシュで計数百個体の現存が推定された。園芸用の採取、森林伐採で個体数が減少しているとされた。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
9	2	2	1	0	0	14	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ダルマエビネ	<i>Calanthe alismifolia</i>	VU
第4次 2019:	ダルマエビネ	<i>Calanthe alismifolia</i>	VU
第4次 2018:	ダルマエビネ	<i>Calanthe alismifolia</i>	VU
第4次 2017:	ダルマエビネ	<i>Calanthe alismifolia</i>	VU
第4次 2015:	ダルマエビネ	<i>Calanthe alismifolia</i>	VU
第4次:	ダルマエビネ	<i>Calanthe alismifolia</i>	VU
第3次:	ダルマエビネ	<i>Calanthe alismifolia</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022．宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020年度版．宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）―レッドデータおきなわ―. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Calanthe alismifolia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Calanthe alismifolia is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
 Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アサヒエビネ

*Calanthe hattorii***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

草丈は 0.5-1 m。葉は狭長楕円形で長さ 30-60 cm。0.5-1 m の花茎を伸ばし、花序は総状、多数の黄色の花をつける。ツルランに似るが、花が黄色く、距が非常に短く円錐形となるなどの点で異なる。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 7 月頃。

【生育環境】

やや湿った樹林内に生育する。

【分布域】

小笠原諸島（父島・兄島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アサヒエビネ	<i>Calanthe hattorii</i>	VU
第4次 2019:	アサヒエビネ	<i>Calanthe hattorii</i>	VU
第4次 2018:	アサヒエビネ	<i>Calanthe hattorii</i>	VU
第4次 2017:	アサヒエビネ	<i>Calanthe hattorii</i>	VU
第4次 2015:	アサヒエビネ	<i>Calanthe hattorii</i>	VU
第4次:	アサヒエビネ	<i>Calanthe hattorii</i>	VU
第3次:	アサヒエビネ	<i>Calanthe hattorii</i>	EN
第2次:	アサヒエビネ	<i>Calanthe hattorii</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種、保護増殖事業対象種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 東京都環境局自然環境部，2014．東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014．<https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Calanthe hattorii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Calanthe hattorii* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora. Conservation and reproduction programs.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

レンギョウエビネ

Calanthe lyroglossa

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

偽球茎は棍棒～円柱状。葉は 4-5 個つき、披針形で長さ 30-45 cm、幅 4-6 cm、鋭尖頭。花茎は直立して高さ 35-45 cm。花茎には黄色の花を密に総状に 25-30 個つける。苞は早落性。萼片は長楕円形で長さ約 6 mm。側花弁は楕円形で萼片と同長。唇弁も萼片と同長で 3 裂し、側裂片は小さく楕円形で鈍頭、中裂片は広腎形で先端が 2 浅裂し、基部の内面には平行する半円形の隆起線がある。距は円柱形で鈍頭、長さ 5 mm。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 3-4 月。

【生育環境】

山地の常緑広葉樹の自然林の林床に生える。

【分布域】

屋久島・種子島・奄美大島・徳之島・沖縄島・石垣島・西表島、中国・台湾・東南アジア～ヒマラヤ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	レンギョウエビネ	<i>Calanthe lyroglossa</i>	VU
第4次 2019:	レンギョウエビネ	<i>Calanthe lyroglossa</i>	VU
第4次 2018:	レンギョウエビネ	<i>Calanthe lyroglossa</i>	VU
第4次 2017:	レンギョウエビネ	<i>Calanthe lyroglossa</i>	VU
第4次 2015:	レンギョウエビネ	<i>Calanthe lyroglossa</i>	VU
第4次:	レンギョウエビネ	<i>Calanthe lyroglossa</i>	VU
第3次:	レンギョウエビネ	<i>Calanthe lyroglossa</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Calanthe lyroglossa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Calanthe*

<i>lyroglossa</i> is listed as VU under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オナガエビネ

Calanthe masuca

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

偽球茎は球状。葉は 3 個つき狭長楕円形、長さ 30-40 cm、幅 10-15 cm、鋭頭。花茎は高さ 30-50 cm、2-3 個の鱗片葉があり、桃紫色の花を 20-30 個つける。萼片は倒卵形で長さ 12-15 mm、鈍頭。側花弁は萼片と同長同形で少し幅が狭い。唇弁は萼片より長く、3 裂し、側裂片は小さく、中裂片は大きく扇状に広がり、基部中央の内面に帯紫濃赤色のとさか状突起がある。距は子房より長い。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 6-10 月。

【生育環境】

山地の常緑広葉樹林の自然林の林床に生える。

【分布域】

甌島・屋久島・種子島・トカラ列島・奄美大島・徳之島・沖縄島・石垣島・西表島、台湾・中国（南部）・インド・タイ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	2	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

園芸採取		
件数 2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オナガエビネ	<i>Calanthe masuca</i>	VU
第4次 2019:	オナガエビネ	<i>Calanthe masuca</i>	VU
第4次 2018:	オナガエビネ	<i>Calanthe masuca</i>	VU
第4次 2017:	オナガエビネ	<i>Calanthe masuca</i>	VU
第4次 2015:	オナガエビネ	<i>Calanthe masuca</i>	VU
第4次:	オナガエビネ	<i>Calanthe masuca</i>	VU
第3次:	オナガエビネ	<i>Calanthe masuca</i>	VU
第2次:	オナガエビネ	<i>Calanthe masuca</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)] 鹿児島県[絶滅危惧 I 類] 沖縄県[絶滅危惧 II 類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Calanthe masuca has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Calanthe*

<i>masuca</i> is listed as VU under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キンセイラン

Calanthe nipponica

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

偽球茎は球状、連珠状に並ぶ。葉は 3-5 個つき、広披針形で毛がなく長さ 15-30 cm、幅 1.5-3.5 cm、鋭尖頭。花茎は高さ 30-50 cm、上部は子房とともに短毛がある。淡黄緑色の花を 5-12 個まばらにつける。萼片は広披針形で長さ 1.5-2 cm、鋭尖頭。側花弁は萼片より少し短く細い。唇弁は萼片と同長で基部より急に広がり、ほぼ平ら、3 裂し、側裂片は短く、中裂片は四角に近い楕円形で先端はとがり、縁は波をうち、中央にとさか状の袋が 3 条ある。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

主に冷温帯の落葉広葉樹林やスギ・ヒノキ植林地などの適湿な林床に生育する。

【分布域】

北海道・本州・四国・九州、チベット。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、34 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
24	8	2	0	0	0	34	1	3

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	自然遷移	シカ食害

園芸採取		
件数 23	6	5

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キンセイラン	<i>Calanthe nipponica</i>	VU
第4次 2019:	キンセイラン	<i>Calanthe nipponica</i>	VU
第4次 2018:	キンセイラン	<i>Calanthe nipponica</i>	VU
第4次 2017:	キンセイラン	<i>Calanthe nipponica</i>	VU
第4次 2015:	キンセイラン	<i>Calanthe nipponica</i>	VU
第4次:	キンセイラン	<i>Calanthe nipponica</i>	VU
第3次:	キンセイラン	<i>Calanthe nipponica</i>	VU
第2次:	キンセイラン	<i>Calanthe nipponica</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)] 青森県[重要希少野生生物(B ランク)] 岩手県[A ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 秋田県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 茨城県[絶滅危惧ⅠB類] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(本土部)[本土部:絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 富山県[絶滅危惧Ⅰ類] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 山梨県[情報不足(DD)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岐阜県[情報不足] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 三重県[絶滅(EX)] 滋賀県[要注目種] 鳥取県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 島根県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅(EX-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

- 金光浩伸・須田隆一・金子洋平・小柳智幸, 2023. キンセイランを福岡県に記録する. 植物地理・分類研究, 71: 157-159.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課, 2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 北海道, 309pp.
- 神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課・神奈川県立生命の星・地球博物館, 2022. 神奈川県レッドデータブック 2022 植物編. 神奈川県, 438pp.
- 埼玉県環境部自然環境課, 2012. 埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編. 埼玉県, 433pp.
- 岩手県環境生活部自然保護課, 2014. いわてレッドデータブック 岩手の希少な野生生物 web 版. <https://www2.pref.iwate.jp/~hp0316/rd/rdb/index.html> (2024 年 9 月 6 日閲覧).
- 福島県生活環境部環境生活課, 2002. レッドデータブックふくしま:福島県の絶滅のおそれのある野生生物 植物・昆虫類・鳥類. 福島県生活環境部環境生活課, 417pp.
- 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課, 2020. まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編—. 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課, 501pp.
- 永松大・鶴崎展巨・有川智己・(株) エスジーズ, 2022. レッドデータブックとっとり第 3 版 2022. 鳥取県生活環境部緑豊かな自然課, 414pp.
- 愛媛県レッドデータブック改訂委員会, 2014. 愛媛県レッドデータブック 2014—愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物—. 愛媛県県民環境部環境局自然保護課, 623pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Calanthe nipponica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Calanthe nipponica* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月: 2025 年 3 月

ナツエビネ

Calanthe puberula var. *puberula*

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 D
推定開花株数が 1000 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

偽球茎は球状。葉は 3-5 個が束生し、狭長楕円形で長さ 10-30 cm、幅 3-6 cm、鋭尖頭、表面は光沢がなく白みをおびた緑色で縦じわが多い。花茎は側生し、高さ 20-40 cm、上部は子房とともに短毛がある。淡紫色の 10-20 花をまばらに総状につける。萼片は長さ 15-20 mm、背萼片は狭卵形、側萼片は斜卵形、いずれも鋭尖頭で反曲する。側花弁は萼片より少し短く、線形で鋭尖頭。唇弁は心状広卵形で隆起線はなく、萼片と同長、3 深裂し、中裂片はやや大型でくさび状広楕円形、縁は細波状で先端は突出する。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

暖温帯～冷温帯の落葉広葉樹林、スギ植林地などのやや湿った林床に生育する。

【分布域】

本州・四国・九州、朝鮮半島南部・台湾・中国東部～ヒマラヤ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、94 メッシュで計数千個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
60	17	12	5	0	0	94	1	5

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	自然遷移	シカ食害

園芸採取		
件数 53	17	14

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナツエビネ	<i>Calanthe puberula</i> var. <i>puberula</i>	VU
第4次 2019:	ナツエビネ	<i>Calanthe puberula</i> var. <i>puberula</i>	VU
第4次 2018:	ナツエビネ	<i>Calanthe puberula</i> var. <i>puberula</i>	VU
第4次 2017:	ナツエビネ	<i>Calanthe puberula</i> var. <i>puberula</i>	VU
第4次 2015:	ナツエビネ	<i>Calanthe puberula</i> var. <i>puberula</i>	VU
第4次:	ナツエビネ	<i>Calanthe puberula</i> var. <i>puberula</i>	VU
第3次:	ナツエビネ	<i>Calanthe reflexa</i>	VU
第2次:	ナツエビネ	<i>Calanthe reflexa</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[重要希少野生生物(Bランク)] 岩手県[Aランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 秋田県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(Bランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 千葉県[要保護生物(C)] 東京都(本土部)[本土部:絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 新潟県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 富山県[絶滅危惧Ⅰ類] 石川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅱ類] 山梨県[情報不足(DD)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 三重県[準絶滅危惧(NT)] 滋賀県[その他重要種] 京都府[絶滅危惧Ⅰ類] 兵庫県[Bランク] 奈良県[絶滅危惧Ⅰ類] 和歌山県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 鳥取県[準絶滅危惧(NT)] 島根県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧Ⅱ類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 高知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 長崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 熊本県[準絶滅危惧(NT)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[準絶滅危惧(NT-g)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 京都府環境部自然環境保全課，2015. 京都府レッドデータブック 2015 第2巻：野生植物・菌類編. 京都府環境部自然環境保全課，611pp.
- 石川県絶滅危惧植物調査会，2020. 石川県の絶滅のおそれのある野生生物 いしかわレッドデータブック 2020（植物編）. 石川県生活環境部自然環境課，394pp.
- 福岡県環境部自然環境課，2011. 福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2011—植物群落・植物・哺乳類・鳥類—. 福岡県環境部自然環境課，240pp.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.
- 山口県環境生活部自然保護課，2019. レッドデータブックやまぐち 2019 山口県の絶滅のおそれのある野生生物. <https://www.yamaguchi-rdb.com/site/index.php>（2024年9月6日閲覧）.
- 高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会，2022. 高知県レッドデータブック 2022 植物編. 高知県林業振興・環境部自然共生課，229pp.
- 大分県自然環境学術調査会，2022. レッドデータブックおおいた 2022—大分県の絶滅のおそれのある野生生物—. <https://www.rdb-oita.jp/>（2024年9月5日閲覧）.
- 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，2020. まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編—. 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，501pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Calanthe puberula var. *puberula* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Calanthe puberula* var. *puberula* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025年3月

キエビネ

Calanthe sieboldii

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	基準 C
推定開花株数 10000 個体未満かつ 10 年間に 10%以上の継続的な減少が推定。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

エビネに似るが、全体に大型、花色は黄色、唇弁の中裂片は 2 裂しない。

【生活史】

常緑で地生する多年草。花期は 4-5 月。

【生育環境】

常緑広葉樹林の自然林や二次林、スギ植林地、ヒノキ植林地などに生育する。

【分布域】

本州（静岡県以西）・四国・九州、韓国（済州島）・台湾・中国（湖南省）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 51 メッシュで数千個体の現存が推定された。基準 C により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
31	16	1	3	0	0	51	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	シカ食害	その他
件数 22	5	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キエビネ	<i>Calanthe sieboldii</i>	EN
第4次 2019:	キエビネ	<i>Calanthe sieboldii</i>	EN
第4次 2018:	キエビネ	<i>Calanthe sieboldii</i>	EN
第4次 2017:	キエビネ	<i>Calanthe sieboldii</i>	EN
第4次 2015:	キエビネ	<i>Calanthe sieboldii</i>	EN
第4次:	キエビネ	<i>Calanthe sieboldii</i>	EN
第3次:	キエビネ	<i>Calanthe sieboldii</i>	EN
第2次:	キエビネ	<i>Calanthe sieboldii</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 滋賀県[要注目種] 京都府[絶滅寸前種] 兵庫県[Aランク] 奈良県[情報不足種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 島根県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山口県[準絶滅危惧(NT)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 佐賀県[準絶滅危惧種] 長崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 熊本県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN-g)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類] 沖縄県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.
- 福岡県環境部自然環境課，2011. 福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2011—植物群落・植物・哺乳類・鳥類—. 福岡県環境部自然環境課，240pp.
- 京都府環境部自然環境保全課，2015. 京都府レッドデータブック 2015 第2巻：野生植物・菌類編. 京都府環境部自然環境保全課，611pp.

- 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，2020. まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編—. 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，501pp.
- 愛知県環境調査センター，2020. レッドデータブックあいち 2020—植物編—. 愛知県環境局環境政策部自然環境課，810pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Calanthe sieboldii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Calanthe sieboldii* is listed as VU under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 10,000 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 10% within ten years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Deer feeding damage, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

サルメンエビネ

Calanthe tricarinata

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

偽球茎は球状。葉は 3-4 個つき、倒卵状狭長楕円形で長さ 15-25 cm、幅 6-8 cm、無毛、急鋭尖頭。花茎は高さ 30-50 cm で、花序、子房ともに短毛がある。花茎には 7-15 花を総状にまばらにつける。萼片、側花弁ともに黄緑色。萼片は狭長楕円形で長さ 20-25 mm、幅 7-15 mm、鋭頭。側花弁は広倒披針形で萼片より少し小さく、鋭頭。唇弁は紫褐色～紅褐色で、萼片と同長、3 裂し、側裂片は小さく、中裂片は大きくてほぼ四角形、先端の縁に襞があり、中央に 3 条のとさか状突起がある。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 4-5 月。

【生育環境】

冷温帯の落葉広葉樹林、スギ植林地などの林床に生える。

【分布域】

北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・台湾～ヒマラヤ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで絶滅し、40 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
28	11	0	1	0	0	40	2	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	シカ食害	自然遷移

園芸採取		
件数 21	5	5

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サルメンエビネ	<i>Calanthe tricarinata</i>	VU
第4次 2019:	サルメンエビネ	<i>Calanthe tricarinata</i>	VU
第4次 2018:	サルメンエビネ	<i>Calanthe tricarinata</i>	VU
第4次 2017:	サルメンエビネ	<i>Calanthe tricarinata</i>	VU
第4次 2015:	サルメンエビネ	<i>Calanthe tricarinata</i>	VU
第4次:	サルメンエビネ	<i>Calanthe tricarinata</i>	VU
第3次:	サルメンエビネ	<i>Calanthe tricarinata</i>	VU
第2次:	サルメンエビネ	<i>Calanthe tricarinata</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)] 青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[A ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 秋田県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(A ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 埼玉県[絶滅(EX)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 富山県[絶滅危惧Ⅱ類] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 山梨県[野生絶滅(EW)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 三重県[絶滅(EX)] 滋賀県[絶滅危惧種] 京都府[絶滅寸前種] 兵庫県[A ランク] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 島根県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 香川県[情報不足(DD)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 佐賀県[絶滅種] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

- 石川県絶滅危惧植物調査会，2020. 石川県の絶滅のおそれのある野生生物 いしかわレッドデータブック 2020（植物編）. 石川県生活環境部自然環境課，394pp.
- 京都府環境部自然環境保全課，2015. 京都府レッドデータブック 2015 第2巻：野生植物・菌類編. 京都府環境部自然環境保全課，611pp.
- 福岡県環境部自然環境課，2011. 福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2011—植物群落・植物・哺乳類・鳥類—. 福岡県環境部自然環境課，240pp.
- 大分県自然環境学術調査会，2022. レッドデータブックおおいた 2022—大分県の絶滅のおそれのある野生生物—. <https://www.rdb-oita.jp/>（2024年9月5日閲覧）.
- 高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会，2022. 高知県レッドデータブック 2022 植物編. 高知県林業振興・環境部自然共生課，229pp.
- 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，2020. まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編—. 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，501pp.
- 山梨県森林環境部みどり自然課，2018. 2018 山梨県レッドデータブック. 山梨県森林環境部みどり自然課，290pp.
- 長野県自然保護研究所・長野県生活環境部環境自然保護課（編），2002. 長野県版レッドデータブック 長野県の絶滅のおそれのある野生生物. 維管束植物編. 長野県自然保護研究所，297pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Calanthe tricarinata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Calanthe tricarinata is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Deer feeding damage, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
 Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025年3月

ツルラン

Calanthe triplicata

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

偽球茎は球状。葉は 3-6 個ついて、狭長楕円形または倒卵状長楕円形、長さ 20-50 cm、幅 8-15 cm、裏面に短毛があり、急鋭尖頭、基部は短い柄になる。花茎は基部の葉腋より出て高さ 40-80 cm、花序、苞、子房とともに白色の開出する短毛が密にあり、鱗片葉を数個まばらにつける。花序には白色の花を 20-40 個密につける。萼片は倒卵形で開出、長さ 12-15 mm、鈍頭。側花弁は萼片と同長、少し幅が狭い。唇弁は斜上し、萼片より長く、基部から 3 裂し、中裂片はさらに 2 裂して大の字形、唇弁基部の黄～赤色の短い 3 条の隆起が目立つ。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 7-10 月。

【生育環境】

常緑広葉樹林の自然林の林床に生える。

【分布域】

屋久島・種子島・トカラ列島・奄美大島・徳之島・沖永良部島・伊平屋島・沖縄島、阿嘉島・石垣島・西表島、魚釣島・小笠原（南硫黄島）、台湾・中国・亜熱帯～熱帯アジア・オセアニア。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 7 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	6	0	0	0	0	7	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】		
1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツルラン	<i>Calanthe triplicata</i>	VU
第4次 2019:	ツルラン	<i>Calanthe triplicata</i>	VU
第4次 2018:	ツルラン	<i>Calanthe triplicata</i>	VU
第4次 2017:	ツルラン	<i>Calanthe triplicata</i>	VU
第4次 2015:	ツルラン	<i>Calanthe triplicata</i>	VU
第4次:	ツルラン	<i>Calanthe triplicata</i>	VU
第3次:	ツルラン	<i>Calanthe triplicata</i>	VU
第2次:	ツルラン	<i>Calanthe furcata</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-d)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）―レッドデータおきなわ―．沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Calanthe triplicata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Calanthe triplicata* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ラン科 Orchidaceae

ヒメホテイラン

Calypso bulbosa var. *bulbosa*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ホテイランの基準変種でこれに似るが、唇弁の距が舷部とほぼ同長。

【生活史】

地生の多年草。

【生育環境】

山地から亜高山帯の針葉樹林下に生育する。

【分布域】

北海道・本州（青森県・長野県）、ヨーロッパから北アメリカ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 7 メッシュで計数百個体と推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	4	1	0	0	7	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメホテイラン	<i>Calypso bulbosa</i> var. <i>bulbosa</i>	VU
第4次 2019:	ヒメホテイラン	<i>Calypso bulbosa</i> var. <i>bulbosa</i>	VU
第4次 2018:	ヒメホテイラン	<i>Calypso bulbosa</i> var. <i>bulbosa</i>	VU
第4次 2017:	ヒメホテイラン	<i>Calypso bulbosa</i> var. <i>bulbosa</i>	VU
第4次 2015:	ヒメホテイラン	<i>Calypso bulbosa</i> var. <i>bulbosa</i>	VU
第4次:	ヒメホテイラン	<i>Calypso bulbosa</i> var. <i>bulbosa</i>	VU
第3次:	ヒメホテイラン	<i>Calypso bulbosa</i> var. <i>bulbosa</i>	VU
第2次:	ヒメホテイラン	<i>Calypso bulbosa</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)] 青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 北海道，309pp.
- 青森県レッドデータブック改訂検討会，2020. 青森県の希少な野生生物—青森県レッドデータブック（2020年版）—. 青森県，397pp.
- 長野県自然保護研究所・長野県生活環境部環境自然保護課（編），2002. 長野県版レッドデータブック 長野県の絶滅のおそれのある野生生物. 維管束植物編. 長野県自然保護研究所，297pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Calypso bulbosa var. *bulbosa* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

<i>Calypso bulbosa</i> var. <i>bulbosa</i> is listed as VU under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クゲヌマラン

Cephalanthera longifolia

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根は先が一部肥厚する。茎は高さ 20-40 cm。葉は 4-7 枚が互生し、長楕円形、基部は茎を抱く。花は茎頂に 10 個前後つける。花は白色、ほとんど平開しない。背萼片は狭卵形、側萼片は斜卵形。側花弁は卵形。唇弁は広卵形で先端は 3 裂し、中裂片は広卵形、側裂片は 3 角状卵形、距は側萼片の間から円頭状にわずかに突出する。ギンランに似るが、唇弁の基部の距が短く、わずかしが突出しない。また、葉が細長い点はササバギンランに似るが、本種の葉質はギンランに近くやや皮質で鈍い光沢があり、ササバギンランは苞が線形でとくに最下の 1-2 個は極端に長くなる。

【生活史】

地生の多年草。花期は 4-6 月。

【生育環境】

落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、クロマツ林などの林床に生育し、都市の緑地公園でも確認される。

【分布域】

北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、8 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
5	2	1	0	0	0	8	1	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	その他
件数 3	3	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クゲヌマラン	<i>Cephalanthera longifolia</i>	VU
第4次 2019:	クゲヌマラン	<i>Cephalanthera longifolia</i>	VU
第4次 2018:	クゲヌマラン	<i>Cephalanthera longifolia</i>	VU
第4次 2017:	クゲヌマラン	<i>Cephalanthera longifolia</i>	VU
第4次 2015:	クゲヌマラン	<i>Cephalanthera longifolia</i>	VU
第4次:	クゲヌマラン	<i>Cephalanthera longifolia</i>	VU
第3次:	クゲヌマラン	<i>Cephalanthera erecta</i> var. <i>shizuoi</i>	VU
第2次:	クゲヌマラン	<i>Cephalanthera erecta</i> var. <i>shizuoi</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[重要希少野生生物(Bランク)] 岩手県[Aランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 福島県[情報不足(DD)] 茨城県[絶滅危惧Ⅱ類] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(Aランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 千葉県[要保護生物(C)] 新潟県[地域個体群(LP)] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 三重県[DD] 兵庫県[要調査種] 鳥取県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 岡山県[絶滅危惧Ⅱ類] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 大井和之・岸しげみ・一ノ瀬友博，2021．藤沢市に生育するクゲヌマランの遺伝子解析．神奈川自然誌資料，42:33-38．

- 谷亀高広・坂田成考・矢田貝繁晃, 2012. 鳥取県において新たに分布が確認された 5 種の植物. 鳥取県立博物館研究報告, 49:7-12.
- 東京都環境局自然環境部, 2023. 東京都レッドデータブック 2023—東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部) 解説版—. 東京都環境局自然環境部, 879pp.
- 神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課・神奈川県立生命の星・地球博物館, 2022. 神奈川県レッドデータブック 2022 植物編. 神奈川県, 438pp.
- 岩手県環境生活部自然保護課, 2014. いわてレッドデータブック 岩手の希少な野生生物 web 版. <https://www2.pref.iwate.jp/~hp0316/rd/rdb/index.html> (2024 年 9 月 6 日閲覧).
- 生物多様性広島戦略推進会議希少生物分科会, 2022. 絶滅のおそれのある野生生物 第 4 版 レッドデータブックひろしま 2021. 広島県環境県民局自然環境課, 761pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Cephalanthera longifolia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cephalanthera longifolia* is listed as VU under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月: 2025 年 3 月

ヒメノヤガラ

Chamaegastrodia sikokiana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎はやや太く、横に這い、小型の鱗片を持つ。茎は直立し、高さ 10-20 cm、やや肉質、淡紅色で、無毛、鱗片葉を互生する。萼片は長卵形、鈍頭。背萼片は長さ 2.5-3 mm、側萼片は 3-4.5 mm。側花弁は狭長楕円形。唇弁は長さ 6 mm、下部は袋状にふくれる。

【生活史】

菌従属栄養性で地生の多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

暖温帯の常緑樹林や落葉広葉樹林、人工林などの林下に生える。

【分布域】

本州（岩手県以南）・四国・九州・屋久島、朝鮮半島南部、中国南西部～ヒマラヤ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、15 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
10	4	1	0	0	0	15	1	3

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	自然遷移	産地局限
件数	3	3

5		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメノヤガラ	<i>Chamaegastrodia sikokiana</i>	VU
第4次 2019:	ヒメノヤガラ	<i>Chamaegastrodia sikokiana</i>	VU
第4次 2018:	ヒメノヤガラ	<i>Chamaegastrodia sikokiana</i>	VU
第4次 2017:	ヒメノヤガラ	<i>Chamaegastrodia sikokiana</i>	VU
第4次 2015:	ヒメノヤガラ	<i>Chamaegastrodia sikokiana</i>	VU
第4次:	ヒメノヤガラ	<i>Chamaegastrodia sikokiana</i>	VU
第3次:	ヒメノヤガラ	<i>Chamaegastrodia sikokiana</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[A ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 福島県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 千葉県[最重要保護生物(A)] 東京都(本土部)[本土部：絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 東京都(南多摩)[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 神奈川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 新潟県[地域個体群(LP)] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 京都府[絶滅寸前種] 兵庫県[A ランク] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山口県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA 類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 高知県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 大分県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA 類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 岩手県環境生活部自然保護課，2014. いわてレッドデータブック 岩手の希少な野生生物 web 版. <https://www2.pref.iwate.jp/~hp0316/rd/rdb/index.html>（2024 年 9 月 6 日閲覧）.
- 兵庫県環境部自然鳥獣共生課，2020. 兵庫県版レッドデータブック 2020（植物・植物群落）. https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/%21drafts/leg_8362（2024 年 9 月 5 日閲覧）.

- 高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会，2022. 高知県レッドデータブック 2022 植物編. 高知県林業振興・環境部自然共生課，229pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Chamaegastrodia sikokiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Chamaegastrodia sikokiana is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アカバシスラン

Cheirostylis liukiuensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎はやや肥厚して匍匐し、先は直立し、花序を含めて長さ 10-15 cm となり、5-7 葉を互生する。葉は卵形で長さ 1.5-3 cm、赤紫色を帯びる。総状花序は頂生し、2-8 花をつける。萼片と花弁は淡赤褐色。萼片は中央まで癒合し筒状となり、長さ 3-3.5 mm、花弁は披針形、長さ 3-3.5 mm。唇弁は白色で、基部に淡緑色～橙黄色の 1 対の斑点があり、長さ 5 mm、先は 2 裂して Y 字形になる。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 4-6 月。

【生育環境】

山地の自然林のやや明るい林床に生える。

【分布域】

甌島・屋久島・種子島・トカラ列島・奄美大島・加計呂麻島・沖永良部島・沖縄島・久米島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	4	0	0	0	7	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アカバシスラン	<i>Cheirostylis liukuensis</i>	VU
第4次 2019:	アカバシスラン	<i>Cheirostylis liukuensis</i>	VU
第4次 2018:	アカバシスラン	<i>Cheirostylis liukuensis</i>	VU
第4次 2017:	アカバシスラン	<i>Cheirostylis liukuensis</i>	VU
第4次 2015:	アカバシスラン	<i>Cheirostylis liukuensis</i>	VU
第4次:	アカバシスラン	<i>Cheirostylis liukuensis</i>	VU
第3次:	アカバシスラン	<i>Cheirostylis liukuensis</i>	VU
第2次:	アカバシスラン	<i>Cheirostylis liukuensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cheirostylis liukuensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

<i>Cheirostylis liukiuensis</i> is listed as VU under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オサラン

Conchidium japonicum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

偽球茎は狭長楕円形で少し扁平、長さ 1-2.5 cm。葉は 2 個で偽球茎に頂生し、狭長楕円形または広披針形、長さ 5-8 cm、幅 1-2 cm、鋭尖頭。葉柄は短く、下部は関節があり、冬は落葉する。花茎は葉腋から出て長さ 2-6 cm、褐色の短い縮毛があり、1-2 個の花をまばらにつける。背萼片および側花弁は離生し広披針形、長さ 8-10 mm、やや鈍頭。側萼片の基部は長さ 3-4 mm の顎をつくる。唇弁は短く、広いくさび形で、先は 3 裂し、側裂片は卵形、中裂片は円みを帯びた四角形。

【生活史】

着生の多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

常緑樹林内の樹上または岩上に着生する。

【分布域】

本州（伊豆諸島・紀伊半島）・四国・九州・琉球、台湾・中国南東部。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	4	0	0	0	0	4	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	自然遷移	

園芸採取		
件数		
3	3	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オサラン	<i>Eria japonica</i>	VU
第4次 2019:	オサラン	<i>Eria japonica</i>	VU
第4次 2018:	オサラン	<i>Eria japonica</i>	VU
第4次 2017:	オサラン	<i>Eria japonica</i>	VU
第4次 2015:	オサラン	<i>Eria japonica</i>	VU
第4次:	オサラン	<i>Eria japonica</i>	VU
第3次:	オサラン	<i>Eria reptans</i>	VU
第2次:	オサラン	<i>Eria reptans</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 愛媛県[情報不足(DD)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 熊本県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU-g)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Conchidium japonicum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Conchidium japonicum* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

バイケイラン

Corymborkis veratrifolia

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 D
推定開花株数が 1000 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎は束生し、長さ 0.4–2 m、数～十数葉を互生。葉は楕円形、暗緑色で上面にやや光沢があり、長さ 20–35 cm。円錐花序は腋生し、多数の花をつける。花は白色。萼片と花弁は線状倒披針形で長さ 3.5–4 cm。唇弁は長さ 4 cm で基部は細長く、先端は楕円状円形。

【生活史】

常緑で地生の多年草。

【生育環境】

低地の自然林の陰湿な林床に生える。

【分布域】

石垣島・西表島・小笠原、台湾・フィリピン・スリランカ・インド・タイ・インドシナ・マレーシア・ニューギニア・オーストラリア北部・フィジー諸島・サモア諸島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0
【存続を脅かす要因上位3項目の件数】								
1番目			2番目			3番目		
要因								

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	バイケイラン	<i>Corymborkis veratrifolia</i>	VU
第4次 2019:	バイケイラン	<i>Corymborkis veratrifolia</i>	VU
第4次 2018:	バイケイラン	<i>Corymborkis veratrifolia</i>	VU
第4次 2017:	バイケイラン	<i>Corymborkis veratrifolia</i>	VU
第4次 2015:	バイケイラン	<i>Corymborkis veratrifolia</i>	VU
第4次:	バイケイラン	<i>Corymborkis veratrifolia</i>	VU
第3次:	バイケイラン	<i>Corymborkis veratrifolia</i>	VU
第2次:	バイケイラン	<i>Corymborkis veratrifolia</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Corymborkis veratrifolia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Corymborkis veratrifolia is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トケンラン

Cremastra unguiculata

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

偽球茎は球状で、細長い根茎でつながっている。葉は 2 個つき長楕円形、長さ 10-12 cm、幅 3-5 cm、鋭頭、しばしば紫色の斑点がある。花茎は高さ 30-40 cm、まばらに数花をつける。萼片は線状倒披針形、側花弁は線形、ともに鋭頭で黄褐色に紫色の斑点がある。唇弁は白色、暗紫色の斑点があり線形、蕊柱の下部を抱き、基部はほとんどふくれず、先端の 1/3 のところで急に曲がり 3 裂する。側裂片は披針形で小さく、中裂片は倒卵形、円頭で縁が波状である。

【生活史】

地生の多年草。花期は 5-6 月。

【生育環境】

冷温帯～亜寒帯の落葉樹林下に生える。

【分布域】

北海道・本州・四国・九州、韓国（済州島）・中国。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで絶滅し、21 メッシュで数千個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
4	9	6	2	0	0	21	4	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	人の踏みつけ	土地造成

園芸採取		
件数		
7	4	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トケンラン	<i>Cremastra unguiculata</i>	VU
第4次 2019:	トケンラン	<i>Cremastra unguiculata</i>	VU
第4次 2018:	トケンラン	<i>Cremastra unguiculata</i>	VU
第4次 2017:	トケンラン	<i>Cremastra unguiculata</i>	VU
第4次 2015:	トケンラン	<i>Cremastra unguiculata</i>	VU
第4次:	トケンラン	<i>Cremastra unguiculata</i>	VU
第3次:	トケンラン	<i>Cremastra unguiculata</i>	VU
第2次:	トケンラン	<i>Cremastra unguiculata</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[A ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 秋田県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 山形県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 福島県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(A ランク)] 千葉県[最重要保護生物(A)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 滋賀県[希少種] 京都府[絶滅危惧Ⅰ類] 兵庫県[A ランク] 鳥取県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 島根県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 香川県[情報不足(DD)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[情報不足(DD)] 宮崎県[情報不足(DD-1)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Cremastra unguiculata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Cremastra unguiculata is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Human trampling, Land development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

マヤラン

Cymbidium macrorhizon

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は長く、地中で繰り返し分枝し、白色で多肉、鱗片をつける。花茎は根茎の先端から出て直立し、高さ 10-30 cm、下部に鱗片葉がまばらに数個ある。花は 2-6 個つき、白色で紅紫色をおびる。萼片は倒披針形で長さ 2 cm、幅 3-4 mm、鋭頭。側花弁は狭長楕円形で萼片より少し短い。唇弁は長楕円形で長さ約 15 mm、わずかに 3 裂し、側裂片はやや突出する程度、中裂片は三角形で外に巻き、縁は細波状をなして鋭頭。

【生活史】

菌従属栄養性で地生の多年草。花期は 6-11 月。初夏と秋季の 2 回開花することもある。

【生育環境】

常緑広葉樹林や落葉広葉樹林、スギ植林などの林床に生育する。

【分布域】

本州（福島以南）・四国・九州・琉球、朝鮮半島・台湾・中国～ヒマラヤ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、42 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
24	18	0	0	0	0	42	1	6

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	園芸採取	道路工事

自然遷移		
件数 10	7	5

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	マヤラン	<i>Cymbidium macrorhizon</i>	VU
第4次 2019:	マヤラン	<i>Cymbidium macrorhizon</i>	VU
第4次 2018:	マヤラン	<i>Cymbidium macrorhizon</i>	VU
第4次 2017:	マヤラン	<i>Cymbidium macrorhizon</i>	VU
第4次 2015:	マヤラン	<i>Cymbidium macrorhizon</i>	VU
第4次:	マヤラン	<i>Cymbidium macrorhizon</i>	VU
第3次:	マヤラン	<i>Cymbidium macrorhizon</i>	VU
第2次:	マヤラン	<i>Cymbidium macrorhizon</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 茨城県[絶滅危惧Ⅱ類] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(Aランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 埼玉県[情報不足(DD)] 千葉県[要保護生物(C)] 東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 石川県[情報不足(DD)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 三重県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 滋賀県[絶滅危惧種] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[VU] 兵庫県[Aランク] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 島根県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 長崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

- 山下由美・山下俊之・根本秀一・堀江満, 2017. *Cymbidium macrorhizon* Lindl. マヤラン(ラン科シユンラン属)の東北地方初確認. 東北植物研究, 19: 57-58.
- 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課, 2020. まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編—. 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課, 501pp.
- 兵庫県環境部自然鳥獣共生課, 2020. 兵庫県版レッドデータブック 2020 (植物・植物群落). https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/%21drafts/leg_8362 (2024 年 9 月 5 日閲覧).
- 山口県環境生活部自然保護課, 2019. レッドデータブックやまぐち 2019 山口県の絶滅のおそれのある野生生物. <https://www.yamaguchi-rdb.com/site/index.php> (2024 年 9 月 6 日閲覧).
- 岐阜県環境生活部自然環境保全課, 2014. 岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物 (植物編) 改訂版—岐阜県レッドデータブック (植物編) 改訂版—. <https://www.pref.gifu.lg.jp/page/11109.html> (2024 年 9 月 5 日閲覧).
- 福井県安全環境部自然環境課, 2016. 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016. 福井県安全環境部自然環境課, 536pp.
- 高知県レッドデータブック (植物編) 改訂委員会, 2022. 高知県レッドデータブック 2022 植物編. 高知県林業振興・環境部自然共生課, 229pp.
- 愛知県環境調査センター, 2020. レッドデータブックあいち 2020—植物編—. 愛知県環境局環境政策部自然環境課, 810pp.
- 福岡県環境部自然環境課, 2011. 福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2011—植物群落・植物・哺乳類・鳥類—. 福岡県環境部自然環境課, 240pp.
- 大分県自然環境学術調査会, 2022. レッドデータブックおおいた 2022—大分県の絶滅のおそれのある野生生物—. <https://www.rdb-oita.jp/> (2024 年 9 月 5 日閲覧).
- 愛媛県レッドデータブック改訂委員会, 2014. 愛媛県レッドデータブック 2014—愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物—. 愛媛県県民環境部環境局自然保護課, 623pp.
- 京都府環境部自然環境保全課, 2015. 京都府レッドデータブック 2015 第 2 巻: 野生植物・菌類編. 京都府環境部自然環境保全課, 611pp.
- 千葉県希少生物及び外来生物に係るリスト作成検討会, 2023. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック (植物・菌類編) 2023 年改訂版. 千葉県環境生活部自然保護課, 579pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Cymbidium macrorhizon has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cymbidium macrorhizon* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Collecting plants in gardening, Road construction
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナギラン

Cymbidium nagifolium

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

偽球茎は連珠状に並び、先端に数個の鱗片葉と 1-3 個の葉をつける。葉は披針形、長い柄があり、柄を含めて長さ 20-30 cm、幅 2-3 cm、先の方の縁に微鋸歯がある。花茎は高さ 10-15 cm、白色でわずかに淡紫色を帯びる 2-4 花をまばらにつける。萼片は線状披針形で長さ 22-25 mm、幅 2.5-3 mm、鋭尖頭。側花弁は狭長楕円形、萼片よりやや短く幅が広く、鋭頭。唇弁は倒卵状長楕円形で浅く 3 裂し、中裂片の先は三角形に細くなり、白色で内面に数個の大型の紫褐色の斑点がある。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

常緑広葉樹林の林床に生える。

【分布域】

本州（関東南部以西）・四国・九州・琉球、韓国（済州島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 26 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
10	12	3	1	0	0	26	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	自然遷移	シカ食害

園芸採取		
件数 16	12	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナギラン	<i>Cymbidium nagifolium</i>	VU
第4次 2019:	ナギラン	<i>Cymbidium nagifolium</i>	VU
第4次 2018:	ナギラン	<i>Cymbidium nagifolium</i>	VU
第4次 2017:	ナギラン	<i>Cymbidium nagifolium</i>	VU
第4次 2015:	ナギラン	<i>Cymbidium nagifolium</i>	VU
第4次:	ナギラン	<i>Cymbidium nagifolium</i>	VU
第3次:	ナギラン	<i>Cymbidium nagifolium</i>	VU
第2次:	ナギラン	<i>Cymbidium lancifolium</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

千葉県[重要保護生物(B)] 東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 神奈川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 三重県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 愛媛県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 長崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 熊本県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU-g)] 鹿児島県[準絶滅危惧] 沖縄県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cymbidium nagifolium has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Cymbidium nagifolium is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クマガイソウ

Cypripedium japonicum var. *japonicum*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は高さ 20-40 cm、有毛。葉は扇円形で径 10-20 cm、放射状に多数の脈があり、多くの縦じわが顕著。花は茎頂に 1 個横向きを開き、大型で径 10 cm、萼片と側花弁は淡黄緑色で唇弁は袋状で紅紫色の脈が目立つ。背萼片は卵状楕円形、長さ 4-5 cm、幅 1-2 cm。側萼片は合着し、広卵状舟形で背萼片より幅広く、先端が少し 2 裂する。側花弁は卵状披針形で内面に斑点と軟毛がある。茨城県には葉が無毛の集団があり、ヒタチクマガイソウ var. *glabrum* と呼ばれる。また、唇弁に紅紫色の現われないものがあり、これはキバナクマガイソウ f. *urasawae* と名づけられている。

【生活史】

地生の多年草。花期は 4-6 月。

【生育環境】

暖温帯～冷温帯の樹林下に生育し、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林のほか、特にスギ植林、竹林の林床に群生する。

【分布域】

北海道（西南部）・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国東部。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで絶滅し、70 メッシュで計数万個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
23	30	8	5	4	0	70	4	17

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 園芸採取	自然遷移	シカ食害
件数 37	18	9

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クマガイソウ	<i>Cypripedium japonicum</i>	VU
第4次 2019:	クマガイソウ	<i>Cypripedium japonicum</i>	VU
第4次 2018:	クマガイソウ	<i>Cypripedium japonicum</i>	VU
第4次 2017:	クマガイソウ	<i>Cypripedium japonicum</i>	VU
第4次 2015:	クマガイソウ	<i>Cypripedium japonicum</i>	VU
第4次:	クマガイソウ	<i>Cypripedium japonicum</i>	VU
第3次:	クマガイソウ	<i>Cypripedium japonicum</i>	VU
第2次:	クマガイソウ	<i>Cypripedium japonicum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)] 青森県[重要希少野生生物(B ランク)] 岩手県[A ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 秋田県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 山形県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 福島県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 茨城県[絶滅危惧ⅠA類] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(A ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 千葉県[重要保護生物(B)] 東京都(本土部)[区部:絶滅(EX) 本土部:絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(北多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(南多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 神奈川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 富山県[絶滅危惧Ⅱ類] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 山梨県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 三重県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 滋賀県[絶滅危惧種] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[CR+EN] 兵庫県[B ランク] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 島根県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧Ⅱ類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 高知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 長崎県[絶滅(EX)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN-g)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，2020．まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編—．静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，501pp.
- 長野県自然保護研究所・長野県生活環境部環境自然保護課（編），2002．長野県版レッドデータブック 長野県の絶滅のおそれのある野生生物．維管束植物編．長野県自然保護研究所，297pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cypripedium japonicum var. *japonicum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cypripedium japonicum* var. *japonicum* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アツモリソウ

Cypripedium macranthos var. *speciosum*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は高さ 20–40 cm、葉とともに有毛。葉は互生し長楕円形、長さ 8–20 cm、幅 5–8 cm。茎頂に球形で径 3–5 cm 程度の花を 1 個つける。背萼片は卵形で長さ 4–5 cm。側萼片は合着し卵形、背萼片よりやや短く、先端がわずかに 2 裂する。側花弁 2 個は卵状披針形。背萼片、側萼片、側花弁はともに鋭尖頭。唇弁は大きな袋状で、内部に長毛が散生する。花色はふつう淡紅色～紅紫色であるが、時に白色または淡黄色のものもある。

【生活史】

地生の多年草。花期は 5–7 月。

【生育環境】

山地～亜高山帯の草原や疎林に生育する。

【分布域】

南千島・北海道・本州（近畿地方以北）、朝鮮半島・台湾・アジア北東部～ヨーロッパ東部。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで絶滅した。調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	2	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	園芸採取	産地局限

自然遷移		
件数		
3	2	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アツモリソウ	<i>Cypripedium macranthos</i> var. <i>speciosum</i>	VU
第4次 2019:	アツモリソウ	<i>Cypripedium macranthos</i> var. <i>speciosum</i>	VU
第4次 2018:	アツモリソウ	<i>Cypripedium macranthos</i> var. <i>speciosum</i>	VU
第4次 2017:	アツモリソウ	<i>Cypripedium macranthos</i> var. <i>speciosum</i>	VU
第4次 2015:	アツモリソウ	<i>Cypripedium macranthos</i> var. <i>speciosum</i>	VU
第4次:	アツモリソウ	<i>Cypripedium macranthos</i> var. <i>speciosum</i>	VU
第3次:	アツモリソウ	<i>Cypripedium macranthos</i> var. <i>speciosum</i>	VU
第2次:	アツモリソウ	<i>Cypripedium macranthum</i> var. <i>speciosum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危機種(Cr)] 青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[A ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 秋田県[絶滅種(EX)] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 茨城県[絶滅] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(A ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 埼玉県[野生絶滅(EW)] 東京都(本土部)[本土部:絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(北多摩)[絶滅(EX)] 東京都(南多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 神奈川県[絶滅(EX)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 富山県[情報不足] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岐阜県[情報不足] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 京都府[絶滅種] 奈良県[絶滅種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課，2020．まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編一．静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課，501pp.

- 長野県自然保護研究所・長野県生活環境部環境自然保護課（編），2002．長野県版レッドデータブック 長野県の絶滅のおそれのある野生生物．維管束植物編．長野県自然保護研究所，297pp.
- 山梨県森林環境部みどり自然課，2018．2018 山梨県レッドデータブック．山梨県森林環境部みどり自然課，290pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cypripedium macranthos var. *speciosum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cypripedium macranthos* var. *speciosum* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Collecting plants in gardening, Limited distribution
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.



©塩谷悠希（自然環境研究センター）

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ラン科 Orchidaceae

キバナノアツモリソウ

Cypripedium yatabeanum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は高さ 10-30 cm、葉や子房とともに腺毛がある。葉は互生であるが接近して対生状につき、長さ 10-15 cm、幅 4-10 cm。茎頂に淡黄緑色の花を横向きに 1 個つけ、花は径 3 cm 内外。背萼片は広卵形、長さ 2-2.5 cm。側萼片は合着し楕円形、長さ 1.5 cm 内外、先端は 2 裂する。側花弁は斜卵形、先端はへら状で円頭、基部内面に密毛がある。袋状の唇弁は広く開口し、側花弁とともに茶褐色の斑点がある。

【生活史】

地生の多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

亜高山帯の落葉樹林の林床や草原、丈の低いササ原に生える。

【分布域】

北海道・本州（東北地方南部～中部地方）、カムチャツカ半島・アリューシャン列島～アラスカ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キバナノアツモリソウ	<i>Cypripedium yatabeanum</i>	VU
第4次 2019:	キバナノアツモリソウ	<i>Cypripedium yatabeanum</i>	VU
第4次 2018:	キバナノアツモリソウ	<i>Cypripedium yatabeanum</i>	VU
第4次 2017:	キバナノアツモリソウ	<i>Cypripedium yatabeanum</i>	VU
第4次 2015:	キバナノアツモリソウ	<i>Cypripedium yatabeanum</i>	VU
第4次:	キバナノアツモリソウ	<i>Cypripedium yatabeanum</i>	VU
第3次:	キバナノアツモリソウ	<i>Cypripedium yatabeanum</i>	EN
第2次:	キバナノアツモリソウ	<i>Cypripedium guttatum</i> var. <i>yatabeanum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危機種(Cr)] 福島県[情報不足(DD)] 群馬県[絶滅(EX)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，2020．まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編—．静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，501pp.
- 長野県自然保護研究所・長野県生活環境部環境自然保護課（編），2002．長野県版レッドデータブック 長野県の絶滅のおそれのある野生生物．維管束植物編．長野県自然保護研究所，297pp.

- 山梨県森林環境部みどり自然課, 2018. 2018 山梨県レッドデータブック. 山梨県森林環境部みどり自然課, 290pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Cypripedium yatabeanum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Cypripedium yatabeanum is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月: 2025 年 3 月

キバナノセッコク

Dendrobium tosaense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は多肉で円柱形、ふつう下垂し、長さ 15-40 cm。葉は互生し、披針形で長さ 2-7 cm、幅 7-12 mm。花径は上方の関節から出て、ジグザグ状になり、3-8 花をつける。花は淡黄緑色、唇弁の中心に紫褐色の斑紋がある。背萼片は広披針形、側萼片は斜三角形、長さ 12-15 mm で鋭頭。側花弁は長楕円状披針形で萼片より少し短い。唇弁は倒卵形で斜上し、先端は反曲して鋭頭。

【生活史】

常緑で着生の多年草。花期は 7-11 月。

【生育環境】

常緑樹林内の自然林の樹幹や岩上に着生する。

【分布域】

伊豆諸島・四国・九州・琉球、台湾・中国（南部）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 15 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	8	5	0	0	0	15	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	その他

件数 14	5	5

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キバナノセッコク	<i>Dendrobium catenatum</i>	EN
第4次 2019:	キバナノセッコク	<i>Dendrobium catenatum</i>	EN
第4次 2018:	キバナノセッコク	<i>Dendrobium catenatum</i>	EN
第4次 2017:	キバナノセッコク	<i>Dendrobium catenatum</i>	EN
第4次 2015:	キバナノセッコク	<i>Dendrobium catenatum</i>	EN
第4次:	キバナノセッコク	<i>Dendrobium catenatum</i>	EN
第3次:	キバナノセッコク	<i>Dendrobium tosaense</i>	EN
第2次:	キバナノセッコク	<i>Dendrobium tosaense</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[情報不足(DD)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 佐賀県[絶滅種] 長崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dendrobium tosaense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

<i>Dendrobium tosaense</i> is listed as VU under criteria D.	
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハマカキラン

Epipactis papillosa var. *sayekiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

地上茎は高さ 30–60 cm、根茎は短いが匍匐する。全草に褐色の短い縮毛がある。葉は 5–7 個で、楕円状卵形、基部はやや鞘となる。茎の先端に 20–30 個の帯黄色の花が総状につく。萼片は狭長卵形で、帯黄色になる。基準変種のエゾスズランに似るが、生態的な違いのほか、唇弁の色が白色～黄緑色で赤紫の斑紋がある点、萼片が帯黄色である点などが異なる。

【生活史】

地生の多年草。花期は 7–8 月。

【生育環境】

海岸付近のクロマツ林やアカマツ林の林床・林縁に生える。

【分布域】

本州（青森県～愛知県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 9 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
6	3	0	0	0	0	9	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 海岸開発	土地造成	道路工事

件数		
3	2	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハマカキラン	<i>Epipactis papillosa</i> var. <i>sayekiana</i>	VU
第4次 2019:	ハマカキラン	<i>Epipactis papillosa</i> var. <i>sayekiana</i>	VU
第4次 2018:	ハマカキラン	<i>Epipactis papillosa</i> var. <i>sayekiana</i>	VU
第4次 2017:	ハマカキラン	<i>Epipactis papillosa</i> var. <i>sayekiana</i>	VU
第4次 2015:	ハマカキラン	<i>Epipactis papillosa</i> var. <i>sayekiana</i>	VU
第4次:	ハマカキラン	<i>Epipactis papillosa</i> var. <i>sayekiana</i>	VU
第3次:	ハマカキラン	<i>Epipactis papillosa</i> var. <i>sayekiana</i>	VU
第2次:	ハマカキラン	<i>Epipactis papillosa</i> var. <i>sayekiana</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[重要希少野生生物(B ランク)] 岩手県[A ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 秋田県[絶滅危惧種ⅠA類(CR)] 福島県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 茨城県[準絶滅危惧] 千葉県[重要保護生物(B)] 東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 岩手県環境生活部自然保護課，2014. いわてレッドデータブック 岩手の希少な野生生物 web版. <https://www2.pref.iwate.jp/~hp0316/rd/rdb/index.html>（2024年9月6日閲覧）.
- 福島県生活環境部環境生活課，2002. レッドデータブックふくしま:福島県の絶滅のおそれのある野生生物 植物・昆虫類・鳥類. 福島県生活環境部環境生活課，417pp.
- 秋田県生活環境部自然保護課，2014. 秋田県の絶滅のおそれのある野生生物 秋田県版レッドデータブック 2014—維管束植物—. 秋田県生活環境部自然保護課，204pp.

- 千葉県希少生物及び外来生物に係るリスト作成検討会，2023．千葉県の保護上重要な野生生物
千葉県レッドデータブック（植物・菌類編）2023 年改訂版．千葉県環境生活部自然保護課，
579pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Epipactis papillosa var. *sayekiana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Epipactis papillosa* var. *sayekiana* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Coastal development, Land development, Road construction
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イモネヤガラ

Eulophia zollingeri

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

多数の太い根がある。花茎は高さ約 50 cm、淡紫褐色で直立し、毛はなく、少数の長楕円形の鱗片葉を圧着し、20-30 花をまばらに総状につける。花は紫褐色。萼片は倒卵状長楕円形で長さ 2 cm、幅 8 mm、急鋭尖頭。側花弁は倒卵形で萼片より短く、鈍頭。唇弁はやや直立して萼片より少し短く、倒卵形で 3 裂、側裂片は円く、中裂片は卵円形、内面の脈上に乳頭状突起があり、また中央部には 2 本の低い隆起線がある。距は長さ約 4 mm で鈍頭。花が褐色をおびないものをミドリイモネヤガラ f. *viride* という。

【生活史】

菌従属栄養性で地生の多年草。花期は 7 月。

【生育環境】

常緑広葉樹の自然林の林床や林縁に生える。

【分布域】

四国（高知県）・九州（宮崎県・鹿児島県）、屋久島・種子島・奄美大島・伊平屋島・伊是名島・沖縄島・久米島・阿嘉島・石垣島、台湾・フィリピン・インド・タイ・インドシナ・マレーシア・ニューギニア。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 土地造成	自然遷移	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イモネヤガラ	<i>Eulophia zollingeri</i>	EN
第4次 2019:	イモネヤガラ	<i>Eulophia zollingeri</i>	EN
第4次 2018:	イモネヤガラ	<i>Eulophia zollingeri</i>	EN
第4次 2017:	イモネヤガラ	<i>Eulophia zollingeri</i>	EN
第4次 2015:	イモネヤガラ	<i>Eulophia zollingeri</i>	EN
第4次:	イモネヤガラ	<i>Eulophia zollingeri</i>	EN
第3次:	イモネヤガラ	<i>Eulophia zollingeri</i>	EN
第2次:	イモネヤガラ	<i>Eulophia zollingeri</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020 年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.
- 高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会，2022. 高知県レッドデータブック 2022 植物編. 高知県林業振興・環境部自然共生課，229pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eulophia zollingeri has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Eulophia zollingeri* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Land development, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カシノキラン

Gastrochilus japonicus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

気根は束ねたように後方に伸び、樹皮に張り付く。茎は短く先端は斜上し、長さ 1-4 cm。葉は革質で 5-15 枚を 2 列に互生し、倒披針形でわずかに湾曲し、長さ 3-6 cm、幅 6-15 mm、やや鋭頭、中肋は裏面に突出し、基部は鞘となり茎を包む。花は淡黄色、平開し、4-10 個が密にく。萼片と側花弁は同形、狭楕円形で鈍頭、長さ 4 mm。唇弁の基部は大型の囊となり、内面に暗紅褐色の着色があり、蕊柱の一部にも及ぶ。舷部は扇状、大きな黄斑があり、縁は不規則に凹凸がある。

【生活史】

常緑で着生の多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

常緑広葉樹林内の樹幹に着生する。

【分布域】

本州 (千葉県以西) ・四国・九州・琉球、済州島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 8 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
5	2	0	1	0	0	8	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	自然遷移	その他

園芸採取		
件数 6	4	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カシノキラン	<i>Gastrochilus japonicus</i>	VU
第4次 2019:	カシノキラン	<i>Gastrochilus japonicus</i>	VU
第4次 2018:	カシノキラン	<i>Gastrochilus japonicus</i>	VU
第4次 2017:	カシノキラン	<i>Gastrochilus japonicus</i>	VU
第4次 2015:	カシノキラン	<i>Gastrochilus japonicus</i>	VU
第4次:	カシノキラン	<i>Gastrochilus japonicus</i>	VU
第3次:	カシノキラン	<i>Saccolabium japonicum</i>	VU
第2次:	カシノキラン	<i>Gastrochilus japonicus</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

千葉県[最重要保護生物(A)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 三重県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 島根県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 佐賀県[絶滅種] 長崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU-g)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gastrochilus japonicus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Gastrochilus japonicus is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

マツラン

Gastrochilus matsuran

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

多数のやや太い根が伸び、樹皮に張り付く。茎は細く長さ 1-3 cm。葉は 2 列に互生し革質、狭長楕円形または線状楕円形でわずかに鎌形に湾曲し、長さ 7-20 mm、幅 3-5 mm、暗紫色の斑紋があり、中肋は表面では凹入し裏面では隆起する。花茎は側生して長さ 8-10 mm、2 個の鱗片葉と 1-4 個の花をつける。花は黄緑色の地に暗紫色の斑点がある。萼片と側花弁は平開し、狭長楕円形で長さ 3-3.5 mm、鈍頭。唇弁は基部にやや大きな嚢があり、舷部は腎形、先端は鈍形または切形。

【生活史】

常緑で着生の多年草。花期は 4-6 月。

【生育環境】

暖温帯の常緑広葉樹林やクロマツ林の樹幹に着生する。

【分布域】

本州（岩手県以南の太平洋側）・四国・九州、朝鮮半島南部。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 17 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
10	6	1	0	0	0	17	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	自然遷移	その他

園芸採取		
件数 9	8	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	マツラン	<i>Gastrochilus matsuran</i>	VU
第4次 2019:	マツラン	<i>Gastrochilus matsuran</i>	VU
第4次 2018:	マツラン	<i>Gastrochilus matsuran</i>	VU
第4次 2017:	マツラン	<i>Gastrochilus matsuran</i>	VU
第4次 2015:	マツラン	<i>Gastrochilus matsuran</i>	VU
第4次:	マツラン	<i>Gastrochilus matsuran</i>	VU
第3次:	マツラン	<i>Saccolabium matsuran</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[絶滅(Ex)] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 福島県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 茨城県[絶滅危惧ⅠB類] 栃木県[準絶滅危惧(C ランク)] 千葉県[最重要保護生物(A)] 東京都(本土部)[本土部:絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(南多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 山梨県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅱ類] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 三重県[EN] 滋賀県[要注目種] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[VU] 兵庫県[A ランク] 奈良県[絶滅危惧種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 島根県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 高知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 長崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 熊本県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 大分県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Gastrochilus matsuran has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Gastrochilus matsuran is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

モミラン

*Gastrochilus toramanus***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長くときに分枝し、まばらに葉を 2 列に互生する。葉は小型で楕円形または卵状楕円形、長さ 5-11 mm、幅 2.5-5 mm、革質、鋭頭、中肋がややくぼみ、ふつう暗紫色の斑点がある。花茎は短く、2-6 花がかたまってつく。萼片と側花弁は黄緑色で開出し、楕円形、長さ 2.5 mm、内面基部に紫紅色の斑紋がある。唇弁は円柱形で長さ 3-4 mm の距があり、舷部は 3 裂、中裂片は大きく凹頭で腎形、中央に短毛が密生し、側裂片は小さく直立し卵形。

【生活史】

常緑で着生の多年草。花期は 3-4 月。

【生育環境】

暖温帯上部の針葉樹と広葉樹の混交林の樹幹に着生する。

【分布域】

本州（宮城県以南）・四国・九州。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	2	1	0	0	0	4	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	道路工事	その他

園芸採取		
件数		
3	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	モミラン	<i>Gastrochilus toramanus</i>	VU
第4次 2019:	モミラン	<i>Gastrochilus toramanus</i>	VU
第4次 2018:	モミラン	<i>Gastrochilus toramanus</i>	VU
第4次 2017:	モミラン	<i>Gastrochilus toramanus</i>	VU
第4次 2015:	モミラン	<i>Gastrochilus toramanus</i>	VU
第4次:	モミラン	<i>Gastrochilus toramanus</i>	VU
第3次:	モミラン	<i>Saccolabium toramanum</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 福島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 茨城県[絶滅危惧ⅠB類] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)] 東京都(本土部)[本土部：絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 三重県[CR] 兵庫県[A ランク] 奈良県[絶滅危惧種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gastrochilus toramanus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Gastrochilus toramanus is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Road construction, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヌカヅキヤツシロラン

*Gastrodia flexistyloides***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

長細い花筒を持つ点と完全閉鎖花をつける点で、外見上はタケシマヤツシロランに似るものの、花被片の色が淡褐色である点で、解剖せずとも黒褐色であるタケシマヤツシロランと高確率で区別可能である。なお、確実な同定のためには花の解剖が必要であるが、ヌカヅキヤツシロランはずい柱の中心部分が折れ曲がり、花粉塊とともに柱頭に接合して自動自家受粉するという、日本産の他のオニノヤガラ属植物には見られない特徴を持つ点で容易に区別できる。

【生活史】

菌従属栄養性の多年生草本。

【生育環境】

暗い林床下に生育。

【分布域】

鹿児島県竹島・黒島・硫黄島・鹿児島本土・福江島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

局所的に分布。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

< 10	< 50	< 100	< 1000	< 10000	> 10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Suetsugu, K., 2014. *Gastrodia flexistyloides* (Orchidaceae), a new mycoheterotrophic plant with complete cleistogamy from Japan. *Phytotaxa*, 175: 270–274.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gastrodia flexistyloides has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Gastrodia flexistyloides* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コンジキヤガラ

Gastrodia javanica

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

地中に楕円形の塊根がある。茎は花序を含めて長さ 35-60 cm。総状花序は頂生し、4-18 花をまばらにつける。花は黄色。萼片と側花弁は半分以上癒合して筒状になり、長さ 1 cm。側花弁は円形で長さ 2.5 mm。唇弁は長さ 8 mm、菱形状さじ形。

【生活史】

菌従属栄養性で地生の多年草。

【生育環境】

山地の自然林の林床に生える。

【分布域】

石垣島・西表島・与那国島、台湾・フィリピン・マレーシア。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	3	0	0	0	6	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コンジキヤガラ	<i>Gastrodia javanica</i>	VU
第4次 2019:	コンジキヤガラ	<i>Gastrodia javanica</i>	VU
第4次 2018:	コンジキヤガラ	<i>Gastrodia javanica</i>	VU
第4次 2017:	コンジキヤガラ	<i>Gastrodia javanica</i>	VU
第4次 2015:	コンジキヤガラ	<i>Gastrodia javanica</i>	VU
第4次:	コンジキヤガラ	<i>Gastrodia javanica</i>	VU
第3次:	コンジキヤガラ	<i>Gastrodia javanica</i>	VU
第2次:	コンジキヤガラ	<i>Gastrodia javanica</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gastrodia javanica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Gastrodia javanica* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハルザキヤツシロラン

Gastrodia nipponica

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

塊茎は紡錘状で斜上し長さ 2-3 cm、表面に毛が密生する。地上茎は高さ 3-4 cm、2-3 個の鱗片がある。花は 1-2 個、帯紫褐色。萼片は合着して狭鐘形、先は 3 裂し、背萼片は先端がわずかに凹み、側萼片は鋭頭。側花弁は卵形で長さ約 3 mm、萼筒の上部につく。唇弁は先が細く広卵形で長さ 9 mm、幅 5.5 mm。蕊柱は長さ 7 mm、淡黄色。葯は先端につき倒卵形。フユザキヤツシロラン *Gastrodia foetida* は萼筒の色が似るが、花期が 3-5 月とやや早く、花期の茎が高く 5~18 cm 程あり、萼筒の幅がやや大きく、先端の開口部はより狭い。

【生活史】

菌従属栄養性の地生の多年草。花期はふつう 5 月。

【生育環境】

常緑広葉樹林の腐植土の多い林床に生育するほか、植林地や竹林にもみられる。

【分布域】

本州（静岡県以西）・四国・九州。従来五島列島・屋久島・琉球でハルザキヤツシロランとされていたものは、フユザキヤツシロラン *Gastrodia foetida* とされた。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 16 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
5	8	1	2	0	0	16	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 自然遷移	管理放棄	土地造成
件数 7	3	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハルザキヤツシロラン	<i>Gastrodia nipponica</i>	VU
第4次 2019:	ハルザキヤツシロラン	<i>Gastrodia nipponica</i>	VU
第4次 2018:	ハルザキヤツシロラン	<i>Gastrodia nipponica</i>	VU
第4次 2017:	ハルザキヤツシロラン	<i>Gastrodia nipponica</i>	VU
第4次 2015:	ハルザキヤツシロラン	<i>Gastrodia nipponica</i>	VU
第4次:	ハルザキヤツシロラン	<i>Gastrodia nipponica</i>	VU
第3次:	ハルザキヤツシロラン	<i>Gastrodia nipponica</i>	VU
第2次:	ハルザキヤツシロラン	<i>Gastrodia nipponica</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 三重県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 和歌山県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 徳島県[絶滅危惧Ⅱ類] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 長崎県[準絶滅危惧種(NT)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 福永裕一・澤進一郎・澤完，2008. 四国におけるハルザキヤツシロラン，アキザキヤツシロラン，及びクロヤツシロランの分布. 分類，8: 141-147.
- Suetsugu, K., R. Aoki and S. Kaneko, 2023. Resurrection and emended description of *Gastrodia foetida* (Orchidaceae). Phytotaxa, 583: 251–259.

- 福岡県環境部自然環境課，2011．福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2011—植物群落・植物・哺乳類・鳥類—．福岡県環境部自然環境課，240pp.
- 大分県自然環境学術調査会，2022．レッドデータブックおおいた 2022—大分県の絶滅のおそれのある野生生物—．<https://www.rdb-oita.jp/>（2024 年 9 月 5 日閲覧）．
- 愛媛県レッドデータブック改訂委員会，2014．愛媛県レッドデータブック 2014—愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物—．愛媛県県民環境部環境局自然保護課，623pp.
- 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，2020．まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編—．静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，501pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gastrodia nipponica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Gastrodia nipponica* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Abandonment of management, Land development
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ラン科 Orchidaceae

ヤンバルヤツシロラン

Gastrodia nipponicoides

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ハルザキヤツシロランやフユザキヤツシロランに似るものの、ヤンバルヤツシロランは、1) ハルザキヤツシロランやフユザキヤツシロランの花筒の長さは 18 mm-22 mm 程度であるのに対し、ヤンバルヤツシロランのそれは 15 mm-17 mm 程度であること、2) 花筒の表面の白いぼ状の点がハルザキヤツシロランやフユザキヤツシロランよりも目立つこと、3) ハルザキヤツシロランやフユザキヤツシロランの唇弁上面には隆起した線状のしわが 6 列以上あるのに対し、ヤンバルヤツシロランでは 4 列以下であること、4) ハルザキヤツシロランやフユザキヤツシロランの唇弁基部には発達した金平糖状のこぶ状突起が見られるのに対し、ヤンバルヤツシロランの唇弁基部の突起は平滑でほとんど目立たないこと、5) ハルザキヤツシロランやフユザキヤツシロランのずい柱には自家受粉を防ぐ発達した小嘴体があるのに対して、ヤンバルヤツシロランでは小嘴体が見られないという点で区別できる。

【生活史】

菌従属栄養性の多年草。

【生育環境】

暗い林の下での落ち葉の間に生育。

【分布域】

奄美諸島・沖縄諸島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

局所的に分布。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他

0	0	0	0	0	0	0	0	0
【存続を脅かす要因上位3項目の件数】								
1 番目			2 番目			3 番目		
要因								
件数								

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Suetsugu, K., 2017. Two new species of *Gastrodia* (Gastrodieae, Epidendroideae, Orchidaceae) from Okinawa Island, Ryukyu Islands, Japan. *Phytotaxa*, 302: 251–258.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Gastrodia nipponicoides has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Gastrodia nipponicoides is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ラン科 Orchidaceae

タケシマヤツシロラン

Gastrodia takeshimensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

細い花筒を持つ点と完全閉鎖花をつける点で外見上はヌカヅキヤツシロランに似るものの、花被片の色が黒褐色である点で、解剖せずとも淡褐色であるヌカヅキヤツシロランと高確率で区別可能である。また、ヌカヅキヤツシロランはずい柱の中心部分が折れ曲がる一方で、本種はずい柱が折れ曲がることがないため、解剖すればより確実に同定できる。

【生活史】

菌従属栄養性の多年生草本。

【生育環境】

暗い林床下に生育。

【分布域】

鹿児島県竹島・黒島・硫黄島・屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

局所的に分布。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Suetsugu, K., 2013. *Gastrodia takeshimensis* (Orchidaceae), a new mycoheterotrophic species from Japan. *Annales Botanici Fennici*, 50: 375–378.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gastrodia takeshimensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Gastrodia takeshimensis is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ラン科 Orchidaceae

ナンバンキンギンソウ

Goodyera rubicunda

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は匍匐し、先は直立し、花序を含めて長さ 50 cm、数葉を互生する。葉は長さ 13–15 cm で卵状長楕円形～楕円形、葉脈の部分はやや濃緑色で葉に網目状の淡い斑紋が入る。総状花序は頂生し、多数の花を密につけ、花茎には 3 個程度の鱗片葉をつける。花は淡赤褐色で唇弁は淡黄色。萼片は長さ 7–9 mm で長楕円形。側花弁は長さ 7–8 mm、匙形。唇弁は長さ 6–7 mm で卵状嚢形、先は尖って下方に反り返り、基部上面に短毛がある。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 7–8 月。

【生育環境】

山地の自然林の林床に生える。

【分布域】

徳之島・沖縄島・石垣島・西表島、台湾・フィリピン・タイ・マレーシア・オーストラリア北部・サモア諸島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナンバンキンギンソウ	<i>Goodyera grandis</i>	VU
第4次 2019:	ナンバンキンギンソウ	<i>Goodyera grandis</i>	VU
第4次 2018:	ナンバンキンギンソウ	<i>Goodyera grandis</i>	VU
第4次 2017:	ナンバンキンギンソウ	<i>Goodyera grandis</i>	VU
第4次 2015:	ナンバンキンギンソウ	<i>Goodyera grandis</i>	VU
第4次:	ナンバンキンギンソウ	<i>Goodyera grandis</i>	VU
第3次:	ナンバンキンギンソウ	<i>Goodyera grandis</i>	VU
第2次:	ナンバンキンギンソウ	<i>Goodyera grandis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Goodyera rubicunda has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Goodyera rubicunda* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シマシュスラン

Goodyera viridiflora

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

開花時の茎は高さ 8-10 cm。葉は 3-5 個つき、卵形で長さ 3-4 cm、鋭頭、基部は円形で短い柄があり、縁に細かいしわがある。花茎は直立し、赤褐色で軟毛があり、2-3 個の苞状葉がある。花は赤褐色。萼片は広披針形で長さ約 11 mm、鋭尖頭。側萼片は開出する。側花弁は萼片と同長で菱状卵形。唇弁もまた萼片と同長で基部は楕円状にくれて内面に太い腺毛があり、蜜を蓄える。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

山地の常緑広葉樹の自然林の林床に生える。

【分布域】

九州（鹿児島県）・屋久島・トカラ列島・奄美大島・徳之島・沖縄島・石垣島・西表島、台湾・中国南部・ヒマラヤ・タイ・フィリピン・マレーシア・ニューギニア・オーストラリア・ソロモン諸島・ニューカレドニア。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では新たな自生地が報告された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
9	4	5	0	0	0	18	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シマシユスラン	<i>Goodyera viridiflora</i>	VU
第4次 2019:	シマシユスラン	<i>Goodyera viridiflora</i>	VU
第4次 2018:	シマシユスラン	<i>Goodyera viridiflora</i>	VU
第4次 2017:	シマシユスラン	<i>Goodyera viridiflora</i>	VU
第4次 2015:	シマシユスラン	<i>Goodyera viridiflora</i>	VU
第4次:	シマシユスラン	<i>Goodyera viridiflora</i>	VU
第3次:	シマシユスラン	<i>Goodyera viridiflora</i>	VU
第2次:	シマシユスラン	<i>Goodyera viridiflora</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Goodyera viridiflora has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Goodyera viridiflora* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメミズトンボ

Habenaria yezoensis var. *yezoensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

オオミズトンボに似るが、花が小さく、側萼片、唇弁、距の長さが、それぞれ 5 mm、10 mm、5-15 mm。

【生活史】

地生の多年草。花期は 8 月。

【生育環境】

高層湿原の日当りのよい場所に生える。

【分布域】

北海道・本州（関東地方北部以北）、千島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメミズトンボ	<i>Habenaria linearifolia</i> var. <i>brachycentra</i>	VU
第4次 2019:	ヒメミズトンボ	<i>Habenaria linearifolia</i> var. <i>brachycentra</i>	VU
第4次 2018:	ヒメミズトンボ	<i>Habenaria linearifolia</i> var. <i>brachycentra</i>	VU
第4次 2017:	ヒメミズトンボ	<i>Habenaria linearifolia</i> var. <i>brachycentra</i>	VU
第4次 2015:	ヒメミズトンボ	<i>Habenaria linearifolia</i> var. <i>brachycentra</i>	VU
第4次:	ヒメミズトンボ	<i>Habenaria linearifolia</i> var. <i>brachycentra</i>	VU
第3次:	ヒメミズトンボ	<i>Habenaria linearifolia</i> var. <i>brachycentra</i>	VU
第2次:	ヒメミズトンボ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)] 青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 群馬県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Habenaria yezoensis var. *yezoensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Habenaria yezoensis* var. *yezoensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒナチドリ

*Hemipilia chidori***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は高さ 7-15 cm。下部に 1 葉があり、広披針形、長さ 6-12 cm。花は 7-8 月、紅紫色の数花をつけるが、ふつう一方に傾く。唇弁はやや深く 3 裂し、長さ 8-10 mm。距は長さ 13-17 mm あり、長楕円形、基部はわずかに太くなる。

【生活史】

着生の多年草。

【生育環境】

落葉広葉樹の樹幹や岩上に着生し、蘚苔類とともにみられる。

【分布域】

北海道・本州・四国。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 15 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
9	4	1	1	0	0	15	0	3

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	道路工事
件数 7	3	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒナチドリ	<i>Orchis chidori</i>	VU
第4次 2019:	ヒナチドリ	<i>Orchis chidori</i>	VU
第4次 2018:	ヒナチドリ	<i>Orchis chidori</i>	VU
第4次 2017:	ヒナチドリ	<i>Orchis chidori</i>	VU
第4次 2015:	ヒナチドリ	<i>Orchis chidori</i>	VU
第4次:	ヒナチドリ	<i>Orchis chidori</i>	VU
第3次:	ヒナチドリ	<i>Orchis chidori</i>	VU
第2次:	ヒナチドリ	<i>Orchis chidori</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)] 岩手県[A ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 秋田県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(A ランク)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 富山県[絶滅危惧Ⅰ類] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 三重県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 滋賀県[絶滅危惧種] 京都府[絶滅寸前種] 兵庫県[A ランク] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 長野県自然保護研究所・長野県生活環境部環境自然保護課（編），2002. 長野県版レッドデータブック 長野県の絶滅のおそれのある野生生物. 維管束植物編. 長野県自然保護研究所，297pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hemipilia chidori has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hemipilia*

chidori is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Road construction
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒナラン

Hemipilia gracilis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 C

推定開花株数 10000 個体未満かつ 10 年間に 10%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は紡錘形に肥厚する根から出て高さ 5-15 cm、やや斜めに立つ。葉は茎の下部に 1 個つき長楕円形～広披針形、長さ 3-8 cm、幅 1-2 cm、基部は茎を抱く。花は淡紫色、10-15 個が一方に偏ってつく。背萼片は楕円形、側萼片は斜卵形、ともに長さ 2.2-2.5 mm。側花弁は斜広卵形で萼片と同長。唇弁はくさび形卵形で長さ 3.5 mm、ほぼ中央で 3 裂する。距は筒状で長さ 1-1.5 mm。

【生活史】

着生の多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

山地の樹林下の湿った崖地や岩場、川沿いの岩上に生育し、まれに法面などにもみられる。

【分布域】

本州（茨城県・栃木県・静岡県以西）・四国・九州、朝鮮半島・中国・台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで絶滅し、46 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 C により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
18	24	2	2	0	0	46	2	3

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	自然遷移	道路工事

園芸採取		
件数 28	12	8

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒナラン	<i>Amitostigma gracile</i>	EN
第4次 2019:	ヒナラン	<i>Amitostigma gracile</i>	EN
第4次 2018:	ヒナラン	<i>Amitostigma gracile</i>	EN
第4次 2017:	ヒナラン	<i>Amitostigma gracile</i>	EN
第4次 2015:	ヒナラン	<i>Amitostigma gracile</i>	EN
第4次:	ヒナラン	<i>Amitostigma gracile</i>	EN
第3次:	ヒナラン	<i>Amitostigma gracile</i>	EN
第2次:	ヒナラン	<i>Amitostigma gracile</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

茨城県[絶滅危惧ⅠA類] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(Aランク)] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 愛知県[絶滅(EX)] 三重県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 滋賀県[絶滅危惧種] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[CR+EN] 兵庫県[Bランク] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 島根県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 岡山県[準絶滅危惧] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山口県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 徳島県[絶滅危惧ⅠB類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅱ類種] 長崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 熊本県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022．宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020年度版．宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.

- 福岡県環境部自然環境課，2011. 福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2011—植物群落・植物・哺乳類・鳥類—. 福岡県環境部自然環境課，240pp.
- 大分県自然環境学術調査会，2022. レッドデータブックおおいた 2022—大分県の絶滅のおそれのある野生生物—. <https://www.rdb-oita.jp/> (2024年9月5日閲覧).
- 島根県環境生活部自然環境課，2013. 改訂しまねレッドデータブック 2013 植物編—島根県の絶滅のおそれのある野生生物—. 島根県環境生活部自然環境課，254pp.
- 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，2020. まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編—. 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，501pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Hemipilia gracilis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hemipilia gracilis* is listed as VU under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 10,000 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 10% within ten years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Road construction
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コアニチドリ

*Hemipilia kinoshitae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は狭長楕円形に肥厚した根より出て、高さ 10-20 cm。茎の中央より少し下に 1-2 個の葉をつける。葉は広線形で長さ 4-8 cm、幅 4-8 mm、先端は尖り基部は茎を抱く。花序は頂生して総状、淡桃色または白色の 2-5 花をつける。背萼片は楕円形で長さ 3.5-4.5 mm。側萼片は斜卵形で背萼片と同長。側花弁は広卵形で背萼片より少し短い。唇弁は長さ 7-8 mm で 3 裂、中裂片の先端は少し凹み、表面の基部に紅紫色の斑紋が 2 列に並ぶ。距は白色で長さ 1-1.5 mm。

【生活史】

地生または岩上に着生する多年草。花期は 6-8 月。花後に花序の先端にむかごを生じ、落下すると発芽する。

【生育環境】

多雪地域にみられ、亜高山帯の湿原や湿った岩場、湿性草原に生える。

【分布域】

南千島・北海道・本州（中部以北）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで絶滅し、16 メッシュで計数万個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	11	0	1	1	1	16	2	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因 園芸採取	自然遷移	土地造成
件数 6	3	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コアニチドリ	<i>Amitostigma kinoshitae</i>	VU
第4次 2019:	コアニチドリ	<i>Amitostigma kinoshitae</i>	VU
第4次 2018:	コアニチドリ	<i>Amitostigma kinoshitae</i>	VU
第4次 2017:	コアニチドリ	<i>Amitostigma kinoshitae</i>	VU
第4次 2015:	コアニチドリ	<i>Amitostigma kinoshitae</i>	VU
第4次:	コアニチドリ	<i>Amitostigma kinoshitae</i>	VU
第3次:	コアニチドリ	<i>Amitostigma kinoshitae</i>	VU
第2次:	コアニチドリ	<i>Amitostigma kinoshitae</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)] 青森県[重要希少野生生物(B ランク)] 岩手県[A ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 秋田県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山形県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 福島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 群馬県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 新潟県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 富山県[絶滅危惧Ⅰ類] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp．
- 岩手県環境生活部自然保護課，2014．いわてレッドデータブック 岩手の希少な野生生物 web 版． <https://www2.pref.iwate.jp/~hp0316/rd/rdb/index.html>（2024年9月6日閲覧）．

- 福島県生活環境部環境生活課，2002. レッドデータブックふくしま:福島県の絶滅のおそれのある野生生物 植物・昆虫類・鳥類. 福島県生活環境部環境生活課，417pp.
- 石川県絶滅危惧植物調査会，2020. 石川県の絶滅のおそれのある野生生物 いしかわレッドデータブック 2020 (植物編). 石川県生活環境部自然環境課，394pp.
- 長野県自然保護研究所・長野県生活環境部環境自然保護課 (編)，2002. 長野県版レッドデータブック 長野県の絶滅のおそれのある野生生物. 維管束植物編. 長野県自然保護研究所，297pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Hemipilia kinoshitae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hemipilia kinoshitae* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Land development
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オキナワチドリ

*Hemipilia lepida***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は走出枝の先端につく楕円形の塊根から出て、高さ 8-15 cm。葉は茎の下部に 2-3 個が口ゼット状につき、長楕円形で長さ 4-8 cm、幅 1.5-2.5 cm。花は淡紅紫色、唇弁に紅紫色の斑があり、花茎に数個つく。萼片は長楕円形で長さ 4-6 mm。側花弁は斜広卵形で萼片よりやや短い。唇弁は倒卵状くさび形で長さ 8-10 mm、3 深裂し、中裂片はさらに 2 裂する。距は 4-5 mm。

【生活史】

地生または岩上に着生する冬緑性の多年草。花期は 3-4 月。

【生育環境】

海岸や山地の日当たりがよい草地や湿った岩隙に生える。

【分布域】

九州（宮崎県・鹿児島県）・甌島、屋久島・種子島・トカラ列島・奄美大島・喜界島・沖永良部島・硫黄島・伊平屋島・野甫島・伊是名島・沖縄島・藪地島・久米島・渡名喜島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 14 メッシュで数千個体の現存が推定された。園芸用の採取、道路工事が減少の主要因とされた。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	5	2	4	2	0	14	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オキナワチドリ	<i>Amitostigma lepidum</i>	VU
第4次 2019:	オキナワチドリ	<i>Amitostigma lepidum</i>	VU
第4次 2018:	オキナワチドリ	<i>Amitostigma lepidum</i>	VU
第4次 2017:	オキナワチドリ	<i>Amitostigma lepidum</i>	VU
第4次 2015:	オキナワチドリ	<i>Amitostigma lepidum</i>	VU
第4次:	オキナワチドリ	<i>Amitostigma lepidum</i>	VU
第3次:	オキナワチドリ	<i>Amitostigma lepidum</i>	VU
第2次:	オキナワチドリ	<i>Amitostigma lepidum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[準絶滅危惧] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）―レッドデータおきなわ―．沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Hemipilia lepida has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hemipilia lepida* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムカゴソウ

Herminium lanceum

カテゴリー判定結果

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根は短く、一部は球状に肥厚する。茎はやや細く高さ 20-45 cm、中部に 3-5 葉を互生する。葉は線形または広線形で鋭尖頭、長さ 8-20 cm、幅 5-10 mm、基部は茎を抱く。花茎には淡緑色の花が多数総状につく。萼片は長楕円形で鈍頭、長さ 2-2.5 mm。側花弁は線伏披針形で萼片より少し短い。唇弁は長さ 6-8 mm で線形、基部はやや幅広く、中央まで 3 裂、側裂片は線形で長く、中裂片ははなはだ短く突起状。距はない。

【生活史】

地生の多年草。花期は 6-8 月。

【生育環境】

やや湿った草地に生える。

【分布域】

北海道（南西部）・本州・四国・九州・琉球、亜寒帯～熱帯アジア・ニューギニア。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで絶滅し、14 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果

2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
9	5	0	0	0	0	14	4	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	管理放棄	その他

件数		
11	3	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムカゴソウ	<i>Herminium lanceum</i>	EN
第4次 2019:	ムカゴソウ	<i>Herminium lanceum</i>	EN
第4次 2018:	ムカゴソウ	<i>Herminium lanceum</i>	EN
第4次 2017:	ムカゴソウ	<i>Herminium lanceum</i>	EN
第4次 2015:	ムカゴソウ	<i>Herminium lanceum</i>	EN
第4次:	ムカゴソウ	<i>Herminium lanceum</i>	EN
第3次:	ムカゴソウ	<i>Herminium lanceum</i>	NT
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[情報不足] 宮城県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 秋田県[絶滅種(EX)] 山形県[絶滅(EX)] 福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 茨城県[絶滅危惧Ⅱ類] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(A ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 千葉県[最重要保護生物(A)] 東京都(本土部)[本土部：絶滅(EX)] 東京都(北多摩)[絶滅(EX)] 東京都(西多摩)[情報不足(DD)] 東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 富山県[絶滅+野生絶滅] 山梨県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[絶滅(EX)] 三重県[EX] 滋賀県[要注目種] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[EX] 兵庫県[B ランク] 奈良県[絶滅種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅危惧Ⅱ類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅱ類種] 長崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 熊本県[準絶滅危惧(NT)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU-g)] 鹿児島県[準絶滅危惧]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Herminium lanceum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Herminium lanceum* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Abandonment of management, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クロムヨウラン

Lecanorchis nigricans var. *nigricans*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

トサノクロムヨウランに似るものの、次の点で異なる。1) トサノクロムヨウランの花は平開するが、クロムヨウランのそれは開かず蕾のまま落下すること、2) トサノクロムヨウランに比べて花の大きさが小さいこと、3) トサノクロムヨウランよりも唇弁の紫色部の面積が広いこと、4) 唇弁先端の毛が短く密でよく分枝すること、5) 花弁の付け根付近の基部が、トサノクロムヨウランのそれより太いこと、等で区別できる。

【生活史】

菌従属栄養性の多年生草本。

【生育環境】

暗い林床下に生育。

【分布域】

九州・四国・近畿・伊豆諸島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

局所的に分布。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

茨城県[絶滅危惧ⅠB類] 栃木県[準絶滅危惧(Cランク)] 千葉県[要保護生物(C)] 東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 愛知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 三重県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[NT] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 高知県[準絶滅危惧(NT)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Suetsugu, K., C. Shimaoka, H. Fukunaga and S. Sawa, 2018. The taxonomic identity of three varieties of *Lecanorchis nigricans* (Vanilleae, Vanilloideae, Orchidaceae) in Japan. *PhytoKeys*, 92: 17–35.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lecanorchis nigricans var. *nigricans* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lecanorchis nigricans* var. *nigricans* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ギボウシラン

Liparis auriculata

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は卵形。葉は広卵形で急鋭頭、基部は心形、長さ 5-12 cm、幅 3-8 cm、脈間はくぼみ、一見ギボウシ属の葉に似る。花茎は高さ 15-30 cm で直立し、淡黄緑色の花を十数個つける。萼片は線状長楕円形で鋭頭。側花弁は線形で鈍頭。唇弁は倒卵状くさび形で円頭、萼片・側花弁とほぼ同長で 5 mm、基部に 2 個の突起があり、舷部中央の溝に沿って暗紫色の着色部があり、縁に細歯牙が見られる。

【生活史】

地生の多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

冷温帯～暖温帯の常緑樹林・落葉広葉樹林の湿り気のある林床や林内の湿地に生育する。

【分布域】

北海道・本州・四国・九州・屋久島、韓国（済州島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで絶滅し、13 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	6	2	2	0	0	13	2	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	自然遷移	道路工事

園芸採取		
件数		
3	3	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ギボウシラン	<i>Liparis auriculata</i>	EN
第4次 2019:	ギボウシラン	<i>Liparis auriculata</i>	EN
第4次 2018:	ギボウシラン	<i>Liparis auriculata</i>	EN
第4次 2017:	ギボウシラン	<i>Liparis auriculata</i>	EN
第4次 2015:	ギボウシラン	<i>Liparis auriculata</i>	EN
第4次:	ギボウシラン	<i>Liparis auriculata</i>	EN
第3次:	ギボウシラン	<i>Liparis auriculata</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 岩手県[A ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 秋田県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 茨城県[絶滅危惧ⅠB類] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)] 千葉県[消息不明・絶滅生物(X)] 東京都[伊豆諸島][絶滅危惧ⅠB類(EN)] 神奈川県[絶滅(EX)] 新潟県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 富山県[絶滅危惧Ⅱ類] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR)] 岐阜県[情報不足] 静岡県[要注目種(N-Ⅲ部会注目種)] 愛知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 三重県[CR] 兵庫県[A ランク] 奈良県[絶滅種] 和歌山県[絶滅(EX)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 長崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[情報不足(DD)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp.
- 岩手県環境生活部自然保護課，2014．いわてレッドデータブック 岩手の希少な野生生物 web 版． <https://www2.pref.iwate.jp/~hp0316/rd/rdb/index.html>（2024 年 9 月 6 日閲覧）．
- 愛知県環境調査センター，2020．レッドデータブックあいち 2020—植物編—．愛知県環境局環境政策部自然環境課，810pp.
- 愛媛県レッドデータブック改訂委員会，2014．愛媛県レッドデータブック 2014—愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物—．愛媛県県民環境部環境局自然保護課，623pp.
- 福岡県環境部自然環境課，2011．福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2011—植物群落・植物・哺乳類・鳥類—．福岡県環境部自然環境課，240pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Liparis auriculata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Liparis auriculata* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Road construction
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

チケイラン

Liparis bootanensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

全株無毛。茎は長円錐形、多肉質で、数個が 1 列に並び、年々 1 個ずつ新生される。葉は狭長楕円形で長さ 10-18 cm、幅 1.5-3 cm、鋭尖頭、基部は短い柄で関節する。花茎はやや平たく、両側に狭翼がある。花は淡黄緑色、花茎には一方に偏って 3-15 個総状につける。萼片は総状長楕円形で長さ 6-7 mm、やや鈍頭。側花弁は線形で鈍頭、萼片と同長。唇弁はくさび状倒卵形で萼片より少し短く、先は円状切形で少し反曲し、基部内面に不明瞭な 2 個の突起がある。

【生活史】

常緑で着生の多年草。花期は 10-12 月。

【生育環境】

常緑広葉樹林内の樹上や岩上などに着生する。

【分布域】

九州（宮崎県・鹿児島県）・屋久島・奄美大島・徳之島・沖縄島・石垣島・西表島、台湾・フィリピン・中国南部・ヒマラヤ・タイ・インドシナ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	2	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位 3 項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チケイラン	<i>Liparis bootanensis</i>	VU
第4次 2019:	チケイラン	<i>Liparis bootanensis</i>	VU
第4次 2018:	チケイラン	<i>Liparis bootanensis</i>	VU
第4次 2017:	チケイラン	<i>Liparis bootanensis</i>	VU
第4次 2015:	チケイラン	<i>Liparis bootanensis</i>	VU
第4次:	チケイラン	<i>Liparis bootanensis</i>	VU
第3次:	チケイラン	<i>Liparis bootanensis</i>	VU
第2次:	チケイラン	<i>Liparis plicata</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）―レッドデータおきなわ―．沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Liparis bootanensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Liparis bootanensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シマササバラ

Liparis formosana var. *hachijoensis*

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

基準変種のユウコクランに似るが、花がやや小型であり、側萼片はユウコクランが長さ 1 cm を超えるのに対し、シマササバラでは長さ 8-9 mm と短い。また、ユウコクランでは唇弁が濃い紫色、葉面は鮮緑色であるのに対し、シマササバラでは唇弁の紫色が薄く、一部が緑色となり 2 色が混在し、葉は灰色を帯びた緑色となる。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

常緑広葉樹林の林床に生育する。

【分布域】

伊豆諸島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
16	7	3	1	0	0	27	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シマササバラ	<i>Liparis formosana</i> var. <i>hachijoensis</i>	VU
第4次 2019:	シマササバラ	<i>Liparis formosana</i> var. <i>hachijoensis</i>	VU
第4次 2018:	シマササバラ	<i>Liparis formosana</i> var. <i>hachijoensis</i>	VU
第4次 2017:	シマササバラ	<i>Liparis formosana</i> var. <i>hachijoensis</i>	VU
第4次 2015:	シマササバラ	<i>Liparis formosana</i> var. <i>hachijoensis</i>	VU
第4次:	シマササバラ	<i>Liparis formosana</i> var. <i>hachijoensis</i>	VU
第3次:	シマササバラ	<i>Liparis formosana</i> var. <i>hachijoensis</i>	VU
第2次:	シマササバラ	—	NT
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 東京都環境局自然環境部，2014．東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014．<https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）．
- 前川文夫，1971．日本ラン科植物図譜．495pp．誠文堂新光社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Liparis formosana var. *hachijoensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Liparis formosana* var. *hachijoensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

フガクスズムシソウ

*Liparis fujisanensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

クモキリソウに似るが、樹上に着生し、全体が極めて小さく、花茎の高さ 3-10 cm、葉の長さも 1.5-5 cm で、花は紫褐色。側萼片が広くて巻かないこと、側花弁が垂れること、唇弁に紫色が必ず出るとはスズムシソウと同じだが、側萼片が側方に開出すること、唇弁が強く反巻すること、蕊柱上端に狭い翼がつくことはクモキリソウと共通である。

【生活史】

着生の多年草。花期は 5-6 月。

【生育環境】

主として冷温帯のブナなどの落葉広葉樹の樹上に着生する。

【分布域】

北海道・本州・四国・九州。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、17 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	11	3	0	0	0	17	1	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	道路工事

件数		
8	5	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	フガクスズムシソウ	<i>Liparis fujisanensis</i>	VU
第4次 2019:	フガクスズムシソウ	<i>Liparis fujisanensis</i>	VU
第4次 2018:	フガクスズムシソウ	<i>Liparis fujisanensis</i>	VU
第4次 2017:	フガクスズムシソウ	<i>Liparis fujisanensis</i>	VU
第4次 2015:	フガクスズムシソウ	<i>Liparis fujisanensis</i>	VU
第4次:	フガクスズムシソウ	<i>Liparis fujisanensis</i>	VU
第3次:	フガクスズムシソウ	<i>Liparis fujisanensis</i>	VU
第2次:	フガクスズムシソウ	<i>Liparis fujisanensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[A ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 秋田県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 山形県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 福島県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(A ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 山梨県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 三重県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 京都府[絶滅寸前種] 奈良県[絶滅寸前種] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 島根県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山口県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠB 類] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 高知県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA 類] 熊本県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA 類(CR-d)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Liparis fujisanensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Liparis fujisanensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Road construction
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ササバラン

Liparis odorata

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は卵形。葉は狭長楕円形、縦じわが顕著で鋭尖頭、長さ 8-16 cm、幅 1.5-3.5 cm。花茎は高さ 20-30 cm で直立。花は汚紫色でときに黄緑色、花茎にまばらに多数つく。萼片は披針形でやや鈍頭、長さ 6 mm。側花弁は線形でやや鋭頭、萼片より少し長い。唇弁は倒卵状くさび形で反曲しやや切頭、中央に浅い溝があり、長さは萼片と同長、基部に 2 隆起がある。

【生活史】

地生の多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

日当りのよい草原に生える。

【分布域】

本州（栃木県以西）・四国・九州・琉球、中国・台湾～ヒマラヤ・インド・スリランカ・ミクロネシア。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 7 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	3	2	0	0	7	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	自然遷移	園芸採取

管理放棄		
件数 4	4	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ササバラン	<i>Liparis odorata</i>	EN
第4次 2019:	ササバラン	<i>Liparis odorata</i>	EN
第4次 2018:	ササバラン	<i>Liparis odorata</i>	EN
第4次 2017:	ササバラン	<i>Liparis odorata</i>	EN
第4次 2015:	ササバラン	<i>Liparis odorata</i>	EN
第4次:	ササバラン	<i>Liparis odorata</i>	EN
第3次:	ササバラン	<i>Liparis paradoxa</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(A ランク)] 千葉県[消息不明・絶滅生物(X)] 静岡県[情報不足(DD)] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[留意] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 佐賀県[準絶滅危惧種] 長崎県[準絶滅危惧種(NT)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[情報不足(DD)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-g)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Liparis odorata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Liparis*

odorata is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Abandonment of management, Natural succession, Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメムヨウラン

Neottia acuminata

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は短く、根は束生する。地上茎は高さ 10-20 cm、やや細く、無毛、3-4 個の鞘状葉をまばらにつける。花は淡褐色、やや多数まばらにつける。萼片および側花弁は卵状広披針形で長さ約 3 mm、開出し、先端にかけて反曲する。唇弁は萼片と同長、三角状卵形で鋭頭、花が倒立して咲くので上方に位置する。

【生活史】

菌従属栄養性で地生の多年草。花期は 6-8 月。

【生育環境】

亜高山帯の針葉樹林下などに生える。

【分布域】

北海道・本州（中北部）、サハリン・ウスリー・カムチャツカ半島・朝鮮半島・台湾・中国～ヒマラヤ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		

件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメムヨウラン	<i>Neottia acuminata</i>	VU
第4次 2019:	ヒメムヨウラン	<i>Neottia acuminata</i>	VU
第4次 2018:	ヒメムヨウラン	<i>Neottia acuminata</i>	VU
第4次 2017:	ヒメムヨウラン	<i>Neottia acuminata</i>	VU
第4次 2015:	ヒメムヨウラン	<i>Neottia acuminata</i>	VU
第4次:	ヒメムヨウラン	<i>Neottia acuminata</i>	VU
第3次:	ヒメムヨウラン	<i>Neottia acuminata</i>	VU
第2次:	ヒメムヨウラン	<i>Neottia asiatica</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)] 栃木県[準絶滅危惧(Cランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 神奈川県[絶滅(EX)] 富山県[情報不足] 山梨県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 長野県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Neottia acuminata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Neottia acuminata* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

サカネラン

Neottia papilligera

カテゴリー判定結果

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は地中に直立し、肉質で平滑、サカネランの名の通り先が上向する根を多数束生する。地上茎は太く多肉、高さ 20-40 cm、数個の鞘状葉を互生する。花は汚白色、総状に多数の花を密生し、茎の上部には子房とともに縮れた褐色の短い腺毛を密につける。萼片および側花弁は倒卵形で長さ 5-6 mm、やや背面がふくらみ鈍頭。唇弁は長さ 10-12 mm、基部はやや袋状で先端は 2 裂し、裂片は狭長楕円形、鈍頭。

【生活史】

菌従属栄養性で地生の多年草。花期は 5-6 月。

【生育環境】

冷温帯～亜寒帯の落葉広葉樹の林床に生える。

【分布域】

南千島・北海道・本州（中北部）、サハリン・朝鮮半島・中国（東北）・シベリア東部。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 6 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果

2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	3	0	0	0	0	6	0	3

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 スキー場	園芸採取	自然遷移

件数		
1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サカネラン	<i>Neottia nidus-avis</i> var. <i>mandshurica</i>	VU
第4次 2019:	サカネラン	<i>Neottia nidus-avis</i> var. <i>mandshurica</i>	VU
第4次 2018:	サカネラン	<i>Neottia nidus-avis</i> var. <i>mandshurica</i>	VU
第4次 2017:	サカネラン	<i>Neottia nidus-avis</i> var. <i>mandshurica</i>	VU
第4次 2015:	サカネラン	<i>Neottia nidus-avis</i> var. <i>mandshurica</i>	VU
第4次:	サカネラン	<i>Neottia nidus-avis</i> var. <i>mandshurica</i>	VU
第3次:	サカネラン	<i>Neottia nidus-avis</i> var. <i>mandshurica</i>	VU
第2次:	サカネラン	<i>Neottia nidus-avis</i> var. <i>mandshurica</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危機種(Cr)] 青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[A ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 秋田県[CR] 山形県[絶滅 (EX)] 福島県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 埼玉県[絶滅(EX)] 東京都(本土部)[本土部:絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 東京都(南多摩)[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 神奈川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 山梨県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 長野県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 静岡県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 長崎県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 宮崎県[情報不足(DD-1)] 鹿児島県[情報不足]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Neottia papilligera has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Neottia*

papilligera is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Ski resort development, Collecting plants in gardening, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムカデラン

Pelatantheria scolopendrifolia

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎は細長く、匍匐してまばらに分枝し、ところどころから太い根を出す。葉は互生して、左右 2 列に並ぶ。葉身は革質、やや短針形で長さ 7-10 mm、表面に溝がある。花茎は側生し、2-3 mm の短い花柄上に 1 花と 1-2 個の苞をつける。花は淡紅色、時に淡黄緑色。萼片は楕円形で長さ 2 mm、幅 1.5 mm、鈍頭、基部が少し合着する。側花弁は萼片と同形でやや短い。唇弁は白色、肉質、舟形で基部は凹入して袋状の距となり、先端は 3 裂して側裂片は耳状、中裂片は白色で三角状卵形、鈍頭。

【生活史】

着生の多年草。花期は 6-8 月。

【生育環境】

日当りのよい岩壁や樹幹上に着生する。

【分布域】

本州（関東以西の太平洋側）・四国・九州、朝鮮半島（南部）・済州島・中国（東～南部）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	1	2	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目

要因 園芸採取	自然遷移	その他
件数 5	2	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムカデラン	<i>Cleisostoma scolopendrifolium</i>	VU
第4次 2019:	ムカデラン	<i>Cleisostoma scolopendrifolium</i>	VU
第4次 2018:	ムカデラン	<i>Cleisostoma scolopendrifolium</i>	VU
第4次 2017:	ムカデラン	<i>Cleisostoma scolopendrifolium</i>	VU
第4次 2015:	ムカデラン	<i>Cleisostoma scolopendrifolium</i>	VU
第4次:	ムカデラン	<i>Cleisostoma scolopendrifolium</i>	VU
第3次:	ムカデラン	<i>Cleisostoma scolopendrifolium</i>	VU
第2次:	ムカデラン	<i>Sarcanthus scolopendrifolius</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 三重県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 兵庫県[Aランク] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 佐賀県[絶滅危惧Ⅱ類種] 長崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pelatantheria scolopendrifolia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pelatantheria scolopendrifolia* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ガンゼキラン

Phaius flavus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

偽球茎は卵状円錐形で稜があり、長さ 3-5 cm。葉は 3-5 個、狭長楕円形、長さ 30-50 cm、幅 5-8 cm。花茎は偽球茎の基部から側生し、高さ 40-60 cm、ややまばらに 5-18 花をつける。花は淡黄色で乾くと暗青色。萼片と側花弁はやや厚い肉質、狭長楕円形で鈍頭、長さ 3-3.5 cm、幅 1-1.5 cm。唇弁は少し短く、くさび状倒卵形で基部は蕊柱を包み筒状、先端は多数の袋があり褐色をおびる。唇弁の基部は短い距となり、長さ 7-8 mm、披針状で後方に突出する。しばしば葉に黄色の斑点が散在しているものがあり、ホシケイラン f. *punctatus* と称する。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 5-6 月。

【生育環境】

亜熱帯～暖温帯の常緑樹林下に生える。

【分布域】

本州（伊豆諸島・静岡県・紀伊半島）・四国・九州・琉球、台湾・中国～ヒマラヤ・東南アジア・メラネシア。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 11 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
6	4	1	0	0	0	11	0	3

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 園芸採取	道路工事	シカ食害
件数 13	2	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ガンゼキラン	<i>Phaius flavus</i>	VU
第4次 2019:	ガンゼキラン	<i>Phaius flavus</i>	VU
第4次 2018:	ガンゼキラン	<i>Phaius flavus</i>	VU
第4次 2017:	ガンゼキラン	<i>Phaius flavus</i>	VU
第4次 2015:	ガンゼキラン	<i>Phaius flavus</i>	VU
第4次:	ガンゼキラン	<i>Phaius flavus</i>	VU
第3次:	ガンゼキラン	<i>Phaius flavus</i>	VU
第2次:	ガンゼキラン	<i>Phaius flavus</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 三重県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 長崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 熊本県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Phaius flavus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Phaius flavus* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Road construction, Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カクチョウラン

Phaius tankervilleae

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 D
推定開花株数が 1000 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

偽球茎は卵状円錐形で、長さ 3-5 cm、数個が接して並ぶ。葉は厚い草質で、偽球茎の上に 2-3 個つき、長楕円形、鋭尖頭、上面にやや光沢があり、長さ 40-80 cm。花茎は高さ 60-120 cm、葉腋より出て、総状花序に花を 4-6 個つける。花は外面は白色、内面は赤褐色、唇弁の先は紅紫色、基部は白色。萼片と側花弁は長さ 4-6 cm、長楕円状披針形。唇弁は長さ 4-5 cm、菱形状広倒卵形、基部上面に 2 列の板状隆起があり、基部に 2 浅裂する長さ 6-10 mm の距がある。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 5-6 月。

【生育環境】

山地の草地や自然林の明るい林床に生える。

【分布域】

屋久島・種子島・トカラ列島・奄美大島・徳之島・沖縄島・石垣島・西表島、台湾・中国南部・スリランカ・インド・タイ・インドシナ・フィリピン・マレーシア・ニューギニア・オーストラリア・ニューカレドニア・サモア諸島・フィジー諸島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
7	2	6	2	0	0	17	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カクチョウラン	<i>Phaius tankervilleae</i>	VU
第4次 2019:	カクチョウラン	<i>Phaius tankervilleae</i>	VU
第4次 2018:	カクチョウラン	<i>Phaius tankervilleae</i>	VU
第4次 2017:	カクチョウラン	<i>Phaius tankervilleae</i>	VU
第4次 2015:	カクチョウラン	<i>Phaius tankervilleae</i>	VU
第4次:	カクチョウラン	<i>Phaius tankervilleae</i>	VU
第3次:	カクチョウラン	<i>Phaius tancarvilleae</i>	VU
第2次:	カクチョウラン	<i>Phaius tankervilleae</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧 I 類] 沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Phaius tankervilleae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Phaius tankervilleae* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タカネトンボ

Platanthera chorisiana var. *chorisiana*

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

一部の根は肥厚する。茎は高さ 8-20 cm で、地表近くに 2 葉が対生状に相接してつく。葉は円形または広楕円形、多少肉質で表面は深緑色で光沢があり、長さ 2-6 cm、幅 2-5 cm、円頭で基部は狭くなり茎を抱く。花は淡黄緑色、径 3-4 mm、花茎に約 10 個を総状につける。背萼片・側萼片はほぼ同形、長楕円形か楕円形、やや円頭、長さ 2 mm。側花弁はそれよりわずかに短く卵形または広卵形。唇弁は卵円形で鈍頭、萼片とほぼ同長でやや厚い。距は長さ 1-1.33 mm、先端がやや前に突き出し、太く鈍頭で終わる。

【生活史】

地生の多年草。花期は 7-9 月。

【生育環境】

亜高山～高山帯の草原や岩石地に生育する。

【分布域】

北海道・本州（中北部）、千島・サハリン・カムチャツカ半島・アリューシャン列島・アラスカ～アメリカ合衆国ワシントン州。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 6 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	5	0	0	0	0	6	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目

要因 自然遷移	人の踏みつけ	道路工事
件数 6	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タカネトンボ	<i>Platanthera chorisiana</i>	VU
第4次 2019:	タカネトンボ	<i>Platanthera chorisiana</i>	VU
第4次 2018:	タカネトンボ	<i>Platanthera chorisiana</i>	VU
第4次 2017:	タカネトンボ	<i>Platanthera chorisiana</i>	VU
第4次 2015:	タカネトンボ	<i>Platanthera chorisiana</i>	VU
第4次:	タカネトンボ	<i>Platanthera chorisiana</i>	VU
第3次:	タカネトンボ	<i>Platanthera chorisiana</i>	VU
第2次:	タカネトンボ	<i>Platanthera chorisiana</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

茨城県[絶滅危惧Ⅱ類] 千葉県[重要保護生物(B)] 神奈川県[要注意種] 兵庫県[要調査種]
長崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[準絶滅危惧(NT-r)] 鹿児島県[分布特性上重要]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 岩手県環境生活部自然保護課，2014. いわてレッドデータブック 岩手の希少な野生生物 web版. <https://www2.pref.iwate.jp/~hp0316/rd/rdb/index.html>（2024年9月6日閲覧）.
- 秋田県生活環境部自然保護課，2014. 秋田県の絶滅のおそれのある野生生物 秋田県版レッドデータブック 2014—維管束植物—. 秋田県生活環境部自然保護課，204pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Platanthera chorisiana var. *chorisiana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Platanthera chorisiana* var. *chorisiana* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Human trampling, Road construction
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シロウマチドリ

Platanthera convallariifolia

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根は紡錘状に肥厚する。茎は高さ 25-50 cm、やや太く稜がある。葉は数個が互生し、狭長楕円形で長さ 5-7 cm、幅 1.5-2 cm、基部は鞘となる。上方のものはしだいに小さくなる。花は黄緑色で小型、花茎に総状に多数の花をつける。背萼片は広卵形で鈍頭、長さ 4-5 mm。側萼片は斜卵形で背萼片より少し長い。側花弁は狭卵形で鈍頭、背萼片と同長。唇弁は長楕円状卵形で鈍頭となり長さ 5 mm。距は背萼片と同長でやや太い。

【生活史】

地生の多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

亜高山帯～高山帯のやや湿った草原や林縁に生える。

【分布域】

北海道・本州（中部）、千島・カムチャツカ半島・アリューシャン列島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	3	0	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	管理放棄	人の踏みつけ

件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シロウマチドリ	<i>Platanthera hyperborea</i>	VU
第4次 2019:	シロウマチドリ	<i>Platanthera hyperborea</i>	VU
第4次 2018:	シロウマチドリ	<i>Platanthera hyperborea</i>	VU
第4次 2017:	シロウマチドリ	<i>Platanthera hyperborea</i>	VU
第4次 2015:	シロウマチドリ	<i>Platanthera hyperborea</i>	VU
第4次:	シロウマチドリ	<i>Platanthera hyperborea</i>	VU
第3次:	シロウマチドリ	<i>Platanthera hyperborea</i>	VU
第2次:	シロウマチドリ	<i>Platanthera hyperborea</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 富山県[準絶滅危惧] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp.
- 新潟県環境生活部環境企画課，2001．レッドデータブックにいがた．新潟県環境生活部環境企画課，467pp.
- 山梨県森林環境部みどり自然課，2018．2018 山梨県レッドデータブック．山梨県森林環境部みどり自然課，290pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Platanthera convallariifolia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Platanthera convallariifolia is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Abandonment of management, Human trampling
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒロハトンボソウ

Platanthera fuscescens

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は高さ 25-50 cm、中央付近にやや接近して 2-3 葉があり、その上部に少数の鱗片葉がある。葉は楕円形または広楕円形で、長さ 6-20 cm、幅 3-8 cm。花は淡緑色、花茎にやや多数穂状につける。側萼片は長楕円形。側花弁は狭長楕円形、背萼は同長でともにかぶとをつくる。唇弁は長さ 5 mm 内外、基部で 3 裂、側裂片は鋭三角形。距は円筒状で長さ 8-11 mm、水平に伸びるか前方に湾曲する。

【生活史】

地生の多年草。花期は 6-8 月。

【生育環境】

冷温帯～亜高山帯の落葉広葉樹林の林床や林縁などに生育する。

【分布域】

北海道・本州（東北南部～中部）、千島・サハリン・朝鮮半島・シベリア東部・中国。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒロハトンボソウ	<i>Platanthera fuscescens</i>	VU
第4次 2019:	ヒロハトンボソウ	<i>Platanthera fuscescens</i>	VU
第4次 2018:	ヒロハトンボソウ	<i>Platanthera fuscescens</i>	VU
第4次 2017:	ヒロハトンボソウ	<i>Platanthera fuscescens</i>	VU
第4次 2015:	ヒロハトンボソウ	<i>Platanthera fuscescens</i>	VU
第4次:	ヒロハトンボソウ	<i>Platanthera fuscescens</i>	VU
第3次:	ヒロハトンボソウ	<i>Platanthera fuscescens</i>	VU
第2次:	ヒロハトンボソウ	<i>Tulotis fuscescens</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[A ランク] 福島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山梨県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 岩手県環境生活部自然保護課，2014．いわてレッドデータブック 岩手の希少な野生生物 web 版． <https://www2.pref.iwate.jp/~hp0316/rd/rdb/index.html>（2024 年 9 月 6 日閲覧）．
- 岐阜県環境生活部自然環境保全課，2014．岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物（植物編）改訂版—岐阜県レッドデータブック（植物編）改訂版—． <https://www.pref.gifu.lg.jp/page/11109.html>（2024 年 9 月 5 日閲覧）．
- 山梨県森林環境部みどり自然課，2018．2018 山梨県レッドデータブック．山梨県森林環境部みどり自然課，290pp．

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Platanthera fuscescens has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Platanthera fuscescens is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤマサギソウ

Platanthera mandarinorum subsp. *mandarinorum* var. *oreades*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根の一部は紡錘状に肥厚する。茎は高さ 20-40 cm、中部から下に 1 葉をつける。葉は線状長楕円形または長楕円形、長さ 6-12 cm、幅 1-2.5 cm、中部から上に 0-2 個の鱗状葉をつける。総状花序は長さ 5-12 cm、多数の花と長さ 5-20 mm の披針形の包葉をつける。花は淡緑色、基本種ハシナガヤマサギソウよりやや小形で、背萼片は広卵形または円心形、長さ 4-5 mm、側萼片は線状披針形、やや湾曲し、長さ 6-8 mm。側花弁は斜卵形、背萼片と同長、唇弁は広線形、長さ 10-15 cm、距は長さ 12-20 cm、薬柱の葯隔は広い。

【生活史】

夏緑性多年草。花期は 5 月から 7 月。

【生育環境】

山地の草原に生育。

【分布域】

北海道・本州・四国・九州に広く分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

本種はヤマサギソウ（広義）の中で最も分布域が広いが、自生地は遷移の進行、シカによる食害、開発などで消失しているところが多く、個体数は急激に減少している。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
6	1	1	0	0	0	8	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因 自然遷移	不明	シカ食害
件数 3	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[Bランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山形県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 群馬県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 千葉県[重要保護生物(B)] 東京都(本土部)[本土部:絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(南多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 富山県[準絶滅危惧] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 山梨県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 岐阜県[準絶滅危惧] 愛知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 三重県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 滋賀県[希少種] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[CR+EN] 兵庫県[Cランク] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 鳥取県[情報不足(DD)] 山口県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅱ類種] 長崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Inoue, K., 1983. Systematics of the genus *Platanthera* (Orchidaceae) in Japan and adjacent regions with special reference to pollination. Journal of the Faculty of Science, University of Tokyo. Sect. 3, 13: 285–374.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Platanthera mandarinorum subsp. *mandarinorum* var. *oreades* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Platanthera mandarinorum* subsp. *mandarinorum* var. *oreades* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Unknown, Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナガバトンボソウ

Platanthera tipuloides subsp. *linearifolia***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

コバノトンボソウの変種で、葉がより細長く線形になる。

【生活史】

地生の多年草。

【生育環境】

林縁や草地に生育する。

【分布域】

九州（鹿児島県大隅半島）・屋久島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	4	1	1	0	0	8	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナガバトンボソウ	<i>Platanthera tipuloides</i> subsp. <i>linearifolia</i>	VU
第4次 2019:	ナガバトンボソウ	<i>Platanthera tipuloides</i> subsp. <i>linearifolia</i>	VU
第4次 2018:	ナガバトンボソウ	<i>Platanthera tipuloides</i> subsp. <i>linearifolia</i>	VU
第4次 2017:	ナガバトンボソウ	<i>Platanthera tipuloides</i> subsp. <i>linearifolia</i>	VU
第4次 2015:	ナガバトンボソウ	<i>Platanthera tipuloides</i> subsp. <i>linearifolia</i>	VU
第4次:	ナガバトンボソウ	<i>Platanthera tipuloides</i> subsp. <i>linearifolia</i>	VU
第3次:	ナガバトンボソウ	<i>Platanthera tipuloides</i> subsp. <i>linearifolia</i>	VU
第2次:	ナガバトンボソウ	<i>Platanthera tipuloides</i> var. <i>linearifolia</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Platanthera tipuloides subsp. *linearifolia* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Platanthera tipuloides* subsp. *linearifolia* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマアカシュスラン

Rhomboda yakusimensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎ははじめ地表で匍匐し、各節から紐状の根を出したのちに直立し、開花時の高さ 10-25 cm、無毛。葉は互生するが、中央に集まって 3-5 葉をつける傾向があるため放射状に見える。葉は卵形で長さ 3-8 cm、幅 1.5-3.5 cm、鋭頭、基部は円形で膜質、両面無毛。葉はアカシュスランの名の通り、乾くと赤変する。葉柄は長さ 1.5-3.5 cm、基部が鞘となって茎を抱く。花茎は有毛、まばらに 3-15 個の帯紅色の花をつける。背萼片は広卵形で長さ 3 mm。側萼片は斜卵形、側花弁は半切卵形、唇弁は僧帽状卵形で、いずれも背萼片と同長。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 8-9 月。

【生育環境】

暖温帯～亜熱帯の常緑樹林下に生育する。

【分布域】

本州（静岡県以西）・四国・九州・屋久島・種子島・琉球、台湾・中国南部・ベトナム。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 18 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
6	9	2	1	0	0	18	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因 園芸採取	自然遷移	不明
件数 6	5	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマアカシユスラン	<i>Hetaeria yakusimensis</i>	VU
第4次 2019:	ヤクシマアカシユスラン	<i>Hetaeria yakusimensis</i>	VU
第4次 2018:	ヤクシマアカシユスラン	<i>Hetaeria yakusimensis</i>	VU
第4次 2017:	ヤクシマアカシユスラン	<i>Hetaeria yakusimensis</i>	VU
第4次 2015:	ヤクシマアカシユスラン	<i>Hetaeria yakusimensis</i>	VU
第4次:	ヤクシマアカシユスラン	<i>Hetaeria yakusimensis</i>	VU
第3次:	ヤクシマアカシユスラン	<i>Hetaeria yakusimensis</i>	VU
第2次:	ヤクシマアカシユスラン	<i>Hetaeria yakusimensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 三重県[EN] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 高知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 佐賀県[情報不足種] 長崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU-g)] 鹿児島県[準絶滅危惧] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhomboda yakusimensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Rhomboda yakusimensis is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コウトウシラン

Spathoglottis plicata

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

偽球茎は円錐形、長さ 2–7 cm、数個が接して並ぶ。葉は数枚が束生し、線状披針形、長さ 30–60 cm で縦じわがある。総状花序は偽球茎の下部から出て、長さ 50–75 cm になり、密に多数の花をつけ、数個ずつ順次咲かせる。花は紅紫色。萼片と花弁は長さ 1.7 cm、卵形～卵状長楕円形。唇弁は長さ 1.2 cm、基部で 3 裂し、側裂片は長楕円形、中央裂片はイチヨウ形、小凹頭、中央部に 1 対の黄色の突起がある。

【生活史】

常緑で地生の多年草。

【生育環境】

日当たりのよい草地や川沿いの岩上に生育する。林道の法面や伐採後地の二次林の林縁部などにもみられる。

【分布域】

石垣島・西表島、台湾・フィリピン・スリランカ・インド・タイ・インドシナ・マレーシア・ニューギニア・オーストラリア・ソロモン諸島・ニューカレドニア・サモア諸島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コウトウシラン	<i>Spathoglottis plicata</i>	VU
第4次 2019:	コウトウシラン	<i>Spathoglottis plicata</i>	VU
第4次 2018:	コウトウシラン	<i>Spathoglottis plicata</i>	VU
第4次 2017:	コウトウシラン	<i>Spathoglottis plicata</i>	VU
第4次 2015:	コウトウシラン	<i>Spathoglottis plicata</i>	VU
第4次:	コウトウシラン	<i>Spathoglottis plicata</i>	VU
第3次:	コウトウシラン	<i>Spathoglottis plicata</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Spathoglottis plicata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Spathoglottis plicata is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ラン科 Orchidaceae

イリオモテムヨウラン

Stereosandra javanica

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長さ 15-30 cm。総状花序は球茎の先から生じ、10-15 花をまばらにつける。花は淡黄色で、萼片と花弁の先は紫色。萼片と花弁は大部分で接合して筒状になり、端部のみ半開し、長さ 6-7 mm、披針形、唇弁は長さ 7 mm、広披針形。

【生活史】

菌従属栄養性で地生の多年草。

【生育環境】

山地の自然林の林床に生える。

【分布域】

沖縄島・石垣島・西表島、台湾・中国南部・スリランカ・インド・インドシナ・マレーシア。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	2	1	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イリオモテムヨウラン	<i>Stereosandra javanica</i>	VU
第4次 2019:	イリオモテムヨウラン	<i>Stereosandra javanica</i>	VU
第4次 2018:	イリオモテムヨウラン	<i>Stereosandra javanica</i>	VU
第4次 2017:	イリオモテムヨウラン	<i>Stereosandra javanica</i>	VU
第4次 2015:	イリオモテムヨウラン	<i>Stereosandra javanica</i>	VU
第4次:	イリオモテムヨウラン	<i>Stereosandra javanica</i>	VU
第3次:	イリオモテムヨウラン	<i>Stereosandra javanica</i>	VU
第2次:	イリオモテムヨウラン	<i>Stereosandra javanica</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Stereosandra javanica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Stereosandra javanica* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コオロギラン

Stigmatodactylus sikokianus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

球茎は径 2-3 mm。地上茎は淡緑色、高さ 3-10 cm、やや四角柱状。基部の鱗片は小型。葉は中央より上に 1 個つき、卵形で長さ 3-5 mm。花は淡緑色でわずかに紫色を帯び、ふつう 2-3 個が茎頂につく。苞は葉と同形同大。背萼片は長さ 4 mm、側萼片は長さ 2.5 mm、ともに線形で膜質、基部に少数の縁毛がある。側花弁は線形で長さ 3.5 mm。唇弁は円形で長さ 4 mm、縁に細かい鋸歯があり、基部には上下に 2 深裂し、さらに左右に 2 裂した付属体がある。

【生活史】

地生の多年草。花期は 8-9 月。

【生育環境】

常緑広葉樹林下やスギ植林下に生える。

【分布域】

本州（和歌山県・伊豆諸島）・四国・九州、台湾・中国東南部。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 10 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	3	1	3	0	0	10	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	シカ食害	園芸採取

自然遷移		
件数 7	2	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コオロギラン	<i>Stigmatodactylus sikokianus</i>	VU
第4次 2019:	コオロギラン	<i>Stigmatodactylus sikokianus</i>	VU
第4次 2018:	コオロギラン	<i>Stigmatodactylus sikokianus</i>	VU
第4次 2017:	コオロギラン	<i>Stigmatodactylus sikokianus</i>	VU
第4次 2015:	コオロギラン	<i>Stigmatodactylus sikokianus</i>	VU
第4次:	コオロギラン	<i>Stigmatodactylus sikokianus</i>	VU
第3次:	コオロギラン	<i>Stigmatodactylus sikokianus</i>	CR
第2次:	コオロギラン	<i>Stigmatodactylus sikokianus</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 高知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.
- 高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会，2022. 高知県レッドデータブック 2022 植物編. 高知県林業振興・環境部自然共生課，229pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Stigmatodactylus sikokianus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Stigmatodactylus sikokianus is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Deer feeding damage, Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメトケンラン

*Tainia laxiflora***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は細く、上部は円錐形に肥厚して 1 個の葉をつける。葉は長楕円状広披針形、長さ 6-15 cm、幅 1.5-3 cm、鋭頭、表面に白色の斑紋がある。花茎は直立し、高さ 20-30 cm、数花をまばらにつける。花被片は広線状楕円形、褐色、長さ 12-14 mm で鋭頭。唇弁は長さ 8-9 mm、帯黄色、3 浅裂するが、側裂片は目立たず、中裂片は横長の楕円形、3 条の隆起線があり、唇弁基部はふくらんで側萼片と顎をつくる。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 3-5 月。

【生育環境】

常緑広葉樹林の自然林や二次林の明るい湿った林床に生える。

【分布域】

伊豆諸島・四国南部・九州・屋久島・種子島・琉球。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメトケラン	<i>Tainia laxiflora</i>	VU
第4次 2019:	ヒメトケラン	<i>Tainia laxiflora</i>	VU
第4次 2018:	ヒメトケラン	<i>Tainia laxiflora</i>	VU
第4次 2017:	ヒメトケラン	<i>Tainia laxiflora</i>	VU
第4次 2015:	ヒメトケラン	<i>Tainia laxiflora</i>	VU
第4次:	ヒメトケラン	<i>Tainia laxiflora</i>	VU
第3次:	ヒメトケラン	<i>Tainia laxiflora</i>	VU
第2次:	ヒメトケラン	<i>Tainia laxiflora</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅(EX-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—．沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Tainia laxiflora has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Tainia laxiflora* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムニンキヌラン

Zeuxine boninensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎の下部は匍匐、斜上し、高さ約 30 cm、茎に開出毛があり、卵状披針形の葉を 3-6 枚つけ、その先に穂状総状花序をつける。ヤンバルキヌランに似るが、花柄子房が無毛である。屋久島と奄美大島に分布するアマミキヌラン var. *actinomorpha* は花期が 4-5 月で、唇弁が花弁様化し、距がなく、側萼片はより狭い。

【生活史】

多年草。花期は 2-3 月。

【生育環境】

山地の自然林や二次林の湿った林床に生える。南硫黄島では低木林の林縁に生育する。

【分布域】

小笠原諸島（母島）・南硫黄島・屋久島・種子島・諏訪之瀬島・奄美大島・沖縄島・石垣島・西表島、台湾・中国・ベトナム・インド。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムニンキヌラン	<i>Zeuxine boninensis</i>	EX
第4次 2019:	ムニンキヌラン	<i>Zeuxine boninensis</i>	EX
第4次 2018:	ムニンキヌラン	<i>Zeuxine boninensis</i>	EX
第4次 2017:	ムニンキヌラン	<i>Zeuxine boninensis</i>	EX
第4次 2015:	ムニンキヌラン	<i>Zeuxine boninensis</i>	EX
第4次:	ムニンキヌラン	<i>Zeuxine boninensis</i>	EX
第3次:	ムニンキヌラン	<i>Zeuxine boninensis</i>	EX
第2次:	ムニンキヌラン	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅(EX)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 東京都環境局自然環境部，2014．東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014．<https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Zeuxine boninensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Zeuxine boninensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エヒメアヤメ

Iris rossii

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

根茎に褐色の繊維が密生する。葉身は花後に伸び、30 cm 内外に達する。花は高さ 5-15 cm の花茎の先に 1 個つく。花は径 4 cm、青紫色。外花被片は狭倒卵形、中央から基部にかけて黄色。内花被片は外花被片より小さく、へら形で、直立する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地に生育。

【分布域】

本州（中国地方）・四国・九州、朝鮮半島・中国（東北部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	1	2	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 管理放棄	道路工事	自然遷移
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エヒメアヤメ	<i>Iris rossii</i>	VU
第4次 2019:	エヒメアヤメ	<i>Iris rossii</i>	VU
第4次 2018:	エヒメアヤメ	<i>Iris rossii</i>	VU
第4次 2017:	エヒメアヤメ	<i>Iris rossii</i>	VU
第4次 2015:	エヒメアヤメ	<i>Iris rossii</i>	VU
第4次:	エヒメアヤメ	<i>Iris rossii</i>	VU
第3次:	エヒメアヤメ	<i>Iris rossii</i>	VU
第2次:	エヒメアヤメ	<i>Iris rossii</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-g)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Iris rossii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Iris rossii* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Abandonment of management, Road construction, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ステゴビル

*Allium inutile***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根出葉は長さ約 30 cm で扁平な線形。花茎は高さ 15-30 cm で、9-10 月、数個の花が散形状につく。花被片は白色か短紫色を帯び、線状披針形で長さ 7-8 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

原野に生育する。

【分布域】

本州（宮城県～広島県）、四国（香川県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 10 メッシュで計数千個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	4	2	3	1	0	10	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	管理放棄	自然遷移
件数 4	4	4

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ステゴビル	<i>Caloscordum inutile</i>	VU
第4次 2019:	ステゴビル	<i>Caloscordum inutile</i>	VU
第4次 2018:	ステゴビル	<i>Caloscordum inutile</i>	VU
第4次 2017:	ステゴビル	<i>Caloscordum inutile</i>	VU
第4次 2015:	ステゴビル	<i>Caloscordum inutile</i>	VU
第4次:	ステゴビル	<i>Caloscordum inutile</i>	VU
第3次:	ステゴビル	<i>Caloscordum inutile</i>	VU
第2次:	ステゴビル	<i>Caloscordum inutile</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 茨城県[絶滅危惧ⅠA類] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(Aランク)] 群馬県[絶滅(EX)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 東京都(本土部)[本土部：絶滅危惧ⅠB類(EN)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 愛知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 三重県[CR] 滋賀県[絶滅危惧種] 京都府[絶滅寸前種] 兵庫県[Aランク] 岡山県[絶滅危惧Ⅱ類] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 香川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Allium inutile has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Allium inutile* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Abandonment of management, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キイトラツキョウ

*Allium kiiense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根出葉は中空で長さ 40 cm。花は紅紫色で横または斜め下向きに咲く。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

岩地、崖地に生育する。

【分布域】

本州（岐阜県、愛知県、三重県、和歌山県、山口県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 8 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	4	1	3	0	0	8	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	その他
件数 3	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キイトラッキョウ	<i>Allium kiiense</i>	VU
第4次 2019:	キイトラッキョウ	<i>Allium kiiense</i>	VU
第4次 2018:	キイトラッキョウ	<i>Allium kiiense</i>	VU
第4次 2017:	キイトラッキョウ	<i>Allium kiiense</i>	VU
第4次 2015:	キイトラッキョウ	<i>Allium kiiense</i>	VU
第4次:	キイトラッキョウ	<i>Allium kiiense</i>	VU
第3次:	キイトラッキョウ	<i>Allium virgunculae</i> var. <i>kiiense</i>	VU
第2次:	キイトラッキョウ	<i>Allium virgunculae</i> var. <i>kiiense</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岐阜県[絶滅危惧Ⅱ類] 愛知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 三重県[絶滅危惧ⅡB類(EN)] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧ⅡB類(EN)] 山口県[絶滅危惧ⅡA類(CR)] 熊本県[絶滅危惧ⅡA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 愛知県環境調査センター，2020．レッドデータブックあいち 2020—植物編—．愛知県環境局環境政策部自然環境課，810pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Allium kiiense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Allium kiiense* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イズアサツキ

Allium schoenoprasum var. *idzuense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

アサツキに似ているが、花茎は葉束の横に離れて出ることがある。花被片は白色または淡紅紫色、長さ 7-9 mm、先が短く尖る。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸の岩場の窪地など、強い日差しと潮風の当る場所に生育する。

【分布域】

伊豆半島の南部海岸に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 海岸開発	自然遷移	産地局限
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イズアサツキ	<i>Allium schoenoprasum</i> var. <i>idzuense</i>	EN
第4次 2019:	イズアサツキ	<i>Allium schoenoprasum</i> var. <i>idzuense</i>	EN
第4次 2018:	イズアサツキ	<i>Allium schoenoprasum</i> var. <i>idzuense</i>	EN
第4次 2017:	イズアサツキ	<i>Allium schoenoprasum</i> var. <i>idzuense</i>	EN
第4次 2015:	イズアサツキ	<i>Allium schoenoprasum</i> var. <i>idzuense</i>	EN
第4次:	イズアサツキ	<i>Allium schoenoprasum</i> var. <i>idzuense</i>	EN
第3次:	イズアサツキ	<i>Allium schoenoprasum</i> var. <i>idzuense</i>	EN
第2次:	イズアサツキ	<i>Allium schoenoprasum</i> var. <i>idzuense</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

神奈川県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 静岡県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課，2020. まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編—. 静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課，501pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Allium schoenoprasum var. *idzuense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Allium schoenoprasum* var. *idzuense* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Coastal development, Natural succession, Limited distribution

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハマタマボウキ

*Asparagus kiusianus***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

クサスギカズラに似るが、茎の高さ 50-80 cm、太い枝の葉は棘状にならず、葉状枝は湾曲せず、花は長さ約 5 mm、液果が赤色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸に生育。

【分布域】

本州（中国地方）・九州（北部～西部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	3	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 海岸開発		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハマタマボウキ	<i>Asparagus kiusianus</i>	EN
第4次 2019:	ハマタマボウキ	<i>Asparagus kiusianus</i>	EN
第4次 2018:	ハマタマボウキ	<i>Asparagus kiusianus</i>	EN
第4次 2017:	ハマタマボウキ	<i>Asparagus kiusianus</i>	EN
第4次 2015:	ハマタマボウキ	<i>Asparagus kiusianus</i>	EN
第4次:	ハマタマボウキ	<i>Asparagus kiusianus</i>	EN
第3次:	ハマタマボウキ	<i>Asparagus kiusianus</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山口県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 福岡県[絶滅危惧Ⅱ類] 長崎県[準絶滅危惧種(NT)] 熊本県[絶滅(EX)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asparagus kiusianus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asparagus kiusianus* is listed as VU under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Coastal development

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ザラツキギボウシ

Hosta kikutii var. *scabrinervia***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

アワギボウシに似るが、花期が早く、葉の裏面脈状が顕著に凸凹状。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山中の湿った岩場に生育。

【分布域】

四国中部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	2	3	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ザラツキギボウシ	<i>Hosta kikutii</i> var. <i>scabrinervia</i>	VU
第4次 2019:	ザラツキギボウシ	<i>Hosta kikutii</i> var. <i>scabrinervia</i>	VU
第4次 2018:	ザラツキギボウシ	<i>Hosta kikutii</i> var. <i>scabrinervia</i>	VU
第4次 2017:	ザラツキギボウシ	<i>Hosta kikutii</i> var. <i>scabrinervia</i>	VU
第4次 2015:	ザラツキギボウシ	<i>Hosta kikutii</i> var. <i>scabrinervia</i>	VU
第4次:	ザラツキギボウシ	<i>Hosta kikutii</i> var. <i>scabrinervia</i>	VU
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hosta kikutii var. *scabrinervia* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hosta kikutii* var. *scabrinervia* is listed as VU under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae クサスギカズラ科 Asparagaceae

カムロギボウシ

Hosta longipedicellata

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ザラツキギボウシに類似しているが、花の苞が短く (2-2.5 cm)、花時には萎れる点で区別される。

【生活史】

花期は 7 月下旬から 8 月上旬。

【生育環境】

湿った岩場に生育。

【分布域】

高知県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

新種として発表されたことで、採集による減少が危惧される。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Yahara, T., S. K. Hirota, S. Fujii, Y. Kokami, K. Fuse, H. Sato, S. Tagane and Y. Suyama, 2023. Molecular phylogeny and taxonomy of *Hosta* (Asparagaceae) on Shikoku Island, Japan, including five new species, one new subspecies, and two new status assignments. *PhytoKeys*, 235: 137–187.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hosta longipedicellata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hosta longipedicellata* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

サムカゼギボウシ

Hosta samukazemontana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

トサギボウシ（ウナヅキギボウシ）に似て花序が下垂し、先端が立ち上がるが、花がより小型（長さ 4.5-5 cm）で、白色である点、花の苞が短く（長さ 1.7-2.1 cm）白紫色である点で区別される。

【生活史】

花期は 7 月。

【生育環境】

湿った崖に生育。

【分布域】

高知県・愛媛県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

新種として発表されたことで、採集による減少が危惧される。

現地調査の集計結果

2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Yahara, T., S. K. Hirota, S. Fujii, Y. Kokami, K. Fuse, H. Sato, S. Tagane and Y. Suyama, 2023. Molecular phylogeny and taxonomy of *Hosta* (Asparagaceae) on Shikoku Island, Japan, including five new species, one new subspecies, and two new status assignments. *PhytoKeys*, 235: 137–187.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hosta samukazemontana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hosta samukazemontana* is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae クサスギカズラ科 Asparagaceae

タキミナズキギボウシ

Hosta takiminazukiflora subsp. *takiminazukiflora*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミナズキギボウシに類似しているが、花被片は主脈だけが明瞭であり（ミナズキギボウシは三本の脈が明瞭）、花柄が長い（長さ 1.4-2.5 cm、ミナズキギボウシでは長さ 1.1-1.2 cm）点で区別される。

【生活史】

花期は 6 月下旬から 8 月上旬。

【生育環境】

滝などの崖地に生育。

【分布域】

高知県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

新種として発表されたあと、採集されて減少している。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Yahara, T., S. K. Hirota, S. Fujii, Y. Kokami, K. Fuse, H. Sato, S. Tagane and Y. Suyama, 2023. Molecular phylogeny and taxonomy of *Hosta* (Asparagaceae) on Shikoku Island, Japan, including five new species, one new subspecies, and two new status assignments. *PhytoKeys*, 235: 137–187.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hosta takiminazukiflora subsp. *takiminazukiflora* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hosta takiminazukiflora* subsp. *takiminazukiflora* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナガサキギボウシ

Hosta tsushimensis var. *tibae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ツシマギボウシに似るが、広筒部は多少鐘形で、つぼみは緑色を帯びない。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

やや乾いたところに生育。

【分布域】

長崎県（長崎市）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	その他動物食害	自然遷移
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナガサキギボウシ	<i>Hosta tsushimensis</i> var. <i>tibae</i>	VU
第4次 2019:	ナガサキギボウシ	<i>Hosta tsushimensis</i> var. <i>tibae</i>	VU
第4次 2018:	ナガサキギボウシ	<i>Hosta tsushimensis</i> var. <i>tibae</i>	VU
第4次 2017:	ナガサキギボウシ	<i>Hosta tsushimensis</i> var. <i>tibae</i>	VU
第4次 2015:	ナガサキギボウシ	<i>Hosta tsushimensis</i> var. <i>tibae</i>	VU
第4次:	ナガサキギボウシ	<i>Hosta tsushimensis</i> var. <i>tibae</i>	VU
第3次:	ナガサキギボウシ	<i>Hosta tibae</i>	VU
第2次:	ナガサキギボウシ	<i>Hosta tibae</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hosta tsushimensis var. *tibae* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Hosta tsushimensis var. *tibae* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Other animal feeding damage, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ノヤシ

Clinostigma savoryanum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

幹は高さ 7-10 m、時に 15 m に達し、径 20-40 cm で基部はさらに肥大する。葉は大型の羽状複葉、幹の先端に 10-12 枚が叢生する。葉は長さ 1-3 m になり、表面に光沢があり、50-60 対の小葉に分かれ、葉柄は長さ 45-60 cm。小葉は狭披針形で、長さ 30-40 cm、幅約 2.5 cm。花序は幹の先端の葉群の直下につき、ほうき状に分枝し、長さ 1 m になる。花は単性花で、3 個並んでつき、中央が雌花、両側が雄花となる。核果は卵状楕円形、長さ 1.2 cm ほど。

【生活史】

常緑高木。花期は 6-7 月。果期は 11-12 月。

【生育環境】

山地の緩斜面や窪地などの林内に生育する。

【分布域】

小笠原諸島（父島列島・母島列島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 19 メッシュで計数百個体と推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
13	5	0	1	0	0	19	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ノヤシ	<i>Clinostigma savoryanum</i>	VU
第4次 2019:	ノヤシ	<i>Clinostigma savoryanum</i>	VU
第4次 2018:	ノヤシ	<i>Clinostigma savoryanum</i>	VU
第4次 2017:	ノヤシ	<i>Clinostigma savoryanum</i>	VU
第4次 2015:	ノヤシ	<i>Clinostigma savoryanum</i>	VU
第4次:	ノヤシ	<i>Clinostigma savoryanum</i>	VU
第3次:	ノヤシ	<i>Clinostigma savoryanum</i>	VU
第2次:	ノヤシ	<i>Clinostigma savoryana</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 東京都環境局自然環境部，2014．東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Clinostigma savoryanum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Clinostigma savoryanum is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ツユクサ科 Commelinaceae

サルゾコミヨウガ

Pollia secundiflora

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 55-110 cm。葉は線状長楕円形で、長さ (10-) 20-26 cm、幅 (2.3-) 4-6 cm、両面に疎毛あり。花序は長さ約 18 cm。

【生活史】

常緑の多年草。

【生育環境】

低地の常緑樹林の湿った林床に生育する。

【分布域】

石垣島に分布。国外では、台湾、中国南部～インドシナ半島、マレーシア、インドに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サルゾコミヨウガ	<i>Pollia secundiflora</i>	VU
第4次 2019:	サルゾコミヨウガ	<i>Pollia secundiflora</i>	VU
第4次 2018:	サルゾコミヨウガ	<i>Pollia secundiflora</i>	VU
第4次 2017:	サルゾコミヨウガ	<i>Pollia secundiflora</i>	VU
第4次 2015:	サルゾコミヨウガ	<i>Pollia secundiflora</i>	VU
第4次:	サルゾコミヨウガ	<i>Pollia secundiflora</i>	VU
第3次:	ナンゴクヤブミヨウガ	<i>Pollia secundiflora</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pollia secundiflora has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pollia secundiflora* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アオイカズラ

Streptolirion lineare

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	基準 D
推定開花株数が 1000 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 2-3 m。葉は長さ 5-10 cm、幅 3-7 cm、先は長く尖り、葉柄は長さ 3-12 cm で基部は短い鞘となり、その縁に毛がある。花序の基部には卵心形の苞があり、葉腋や茎の頂に長い花軸が出て先に集散花序がつく。花は白色で、花弁は糸状で反転する。萼片は線状長楕円形、長さ 3-4 mm。蒴果は卵状楕円形で先が嘴状になり長さ 8-11 mm、種子に稜角としわがある。

【生活史】

1 年生つる植物。

【生育環境】

山地に生育する。

【分布域】

本州（中国地方）に分布。国外では、朝鮮半島、中国（北東部～北部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 不明		

件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アオイカズラ	<i>Streptolirion lineare</i>	VU
第4次 2019:	アオイカズラ	<i>Streptolirion lineare</i>	VU
第4次 2018:	アオイカズラ	<i>Streptolirion lineare</i>	VU
第4次 2017:	アオイカズラ	<i>Streptolirion lineare</i>	VU
第4次 2015:	アオイカズラ	<i>Streptolirion lineare</i>	VU
第4次:	アオイカズラ	<i>Streptolirion lineare</i>	VU
第3次:	アオイカズラ	<i>Streptolirion lineare</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岡山県[絶滅危惧Ⅱ類] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Streptolirion lineare has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Streptolirion lineare* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ガマ科 Typhaceae

ホソバウキミクリ

Sparganium angustifolium

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は浮水葉、扁平、稜はなく、幅 2-4 mm。雌性頭花は 3-4 個、雄性頭花は 2-4 個。果実は長さ 4-5 mm、短い小柄があり、紡錘形～楕円形。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山の湿原の池に生育。

【分布域】

北海道、北半球の寒帯に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホソバウキミクリ	<i>Sparganium angustifolium</i>	VU
第4次 2019:	ホソバウキミクリ	<i>Sparganium angustifolium</i>	VU
第4次 2018:	ホソバウキミクリ	<i>Sparganium angustifolium</i>	VU
第4次 2017:	ホソバウキミクリ	<i>Sparganium angustifolium</i>	VU
第4次 2015:	ホソバウキミクリ	<i>Sparganium angustifolium</i>	VU
第4次:	ホソバウキミクリ	<i>Sparganium angustifolium</i>	VU
第3次:	ホソバウキミクリ	<i>Sparganium angustifolium</i>	VU
第2次:	ホソバウキミクリ	<i>Sparganium angustifolium</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 岩手県[A ランク] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sparganium angustifolium has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sparganium angustifolium* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオミクリ

*Sparganium eurycarpum subsp. coreanum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 A

過去 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長い期間を通じて、30%以上の減少があったと推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミクリに似るが、果実が幅広く、長さ 5-9 mm、幅 5-8 mm、上部はほぼ平坦である。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

池沼に生育。

【分布域】

本州に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 14 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 A により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	5	4	4	0	0	14	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 河川開発	水質汚濁	池沼開発
件数 5	5	4

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオミクリ	<i>Sparganium eurycarpum</i> subsp. <i>coreanum</i>	VU
第4次 2019:	オオミクリ	<i>Sparganium eurycarpum</i> subsp. <i>coreanum</i>	VU
第4次 2018:	オオミクリ	<i>Sparganium eurycarpum</i> subsp. <i>coreanum</i>	VU
第4次 2017:	オオミクリ	<i>Sparganium eurycarpum</i> subsp. <i>coreanum</i>	VU
第4次 2015:	オオミクリ	<i>Sparganium eurycarpum</i> subsp. <i>coreanum</i>	VU
第4次:	オオミクリ	<i>Sparganium eurycarpum</i> subsp. <i>coreanum</i>	VU
第3次:	オオミクリ	<i>Sparganium erectum</i> var. <i>macrocarpum</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 千葉県[重要保護生物(B)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 三重県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大阪府[CR+EN] 兵庫県[野生絶滅(EW)] 和歌山県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 島根県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[情報不足(DD)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧Ⅱ類] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 高知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 岡山県野生動植物調査検討会，2020．岡山県版レッドデータブック 2020 植物編．岡山県環境文化部自然環境課，368pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sparganium eurycarpum subsp. *coreanum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sparganium eurycarpum* subsp. *coreanum* is listed as VU under criteria A.

A. Reduction in population size based on any of the following:

2. An observed, estimated, inferred or suspected population size reduction of $\geq 30\%$ over the last 10

years or three generations, whichever is the longer, where the reduction or its causes may not have ceased OR may not be understood OR may not be reversible.

Threat types:	River development, Water pollution, Pond development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ガマ科 Typhaceae

ウキミクリ

Sparganium gramineum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は浮水葉、扁平、稜はなく、幅 2-2.5 mm。雌性頭花は 1-3 個。果実は長さ 3 mm、小柄がなく、広卵形。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山の湿原の池に生育。

【分布域】

本州中部、ヨーロッパ・シベリアの寒帯に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウキミクリ	<i>Sparganium gramineum</i>	VU
第4次 2019:	ウキミクリ	<i>Sparganium gramineum</i>	VU
第4次 2018:	ウキミクリ	<i>Sparganium gramineum</i>	VU
第4次 2017:	ウキミクリ	<i>Sparganium gramineum</i>	VU
第4次 2015:	ウキミクリ	<i>Sparganium gramineum</i>	VU
第4次:	ウキミクリ	<i>Sparganium gramineum</i>	VU
第3次:	ウキミクリ	<i>Sparganium gramineum</i>	VU
第2次:	ウキミクリ	<i>Sparganium gramineum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 富山県[準絶滅危惧]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sparganium gramineum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Sparganium gramineum is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ガマ科 Typhaceae

ヒメミクリ

Sparganium subglobosum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 30-60 cm。葉は茎より長く、幅 3-5 mm。頭花をつける枝は葉腋から出て、少数の分枝がある。雌性頭花は 1-3 個、雄性頭花は 2-7 個。果実是小柄がなく、長さ 4 mm、広卵状菱形、稜がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

水位の浅い池や湿地に生育。

【分布域】

北海道～琉球、朝鮮半島・中国（北部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 8 メッシュで絶滅し、31 メッシュで数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
9	14	6	2	0	0	31	8	7

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	池沼開発	管理放棄
件数 14	9	6

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメミクリ	<i>Sparganium subglobosum</i>	VU
第4次 2019:	ヒメミクリ	<i>Sparganium subglobosum</i>	VU
第4次 2018:	ヒメミクリ	<i>Sparganium subglobosum</i>	VU
第4次 2017:	ヒメミクリ	<i>Sparganium subglobosum</i>	VU
第4次 2015:	ヒメミクリ	<i>Sparganium subglobosum</i>	VU
第4次:	ヒメミクリ	<i>Sparganium subglobosum</i>	VU
第3次:	ヒメミクリ	<i>Sparganium stenophyllum</i>	VU
第2次:	ヒメミクリ	<i>Sparganium stenophyllum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 青森県[重要希少野生生物(B ランク)] 岩手県[B ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 秋田県[N T] 山形県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 福島県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 茨城県[絶滅危惧ⅠB類] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)] 群馬県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 千葉県[最重要保護生物(A)] 東京都(本土部)[区部：絶滅危惧ⅠA類(CR) 本土部：絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(北多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(南多摩)[情報不足(DD)] 東京都(西多摩)[情報不足(DD)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 新潟県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 富山県[絶滅危惧Ⅱ類] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 長野県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 三重県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 滋賀県[希少種] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[CR+EN] 兵庫県[A ランク] 奈良県[情報不足種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 島根県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 岡山県[絶滅危惧Ⅱ類] 広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山口県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅱ類種] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅(EX)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Sparganium subglobosum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Sparganium subglobosum is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Pond development, Abandonment of management
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クロイヌノヒゲモドキ

*Eriocaulon atroides***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

イヌノヒゲと形態的特徴は一致するが、雌花萼は黒藍色を呈する。ただし、「改訂新版日本の野生植物」ではイヌノヒゲと形態的に区別できないとされる。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

湿地に生育する。

【分布域】

本州（秋田県・山形県・栃木県・群馬県・長野県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュで絶滅し、8 メッシュで計数千個体と推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	6	1	1	0	8	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

イヌノヒゲの変異内で形態的に区別できないともされる。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クロイヌノヒゲモドキ	<i>Eriocaulon atroides</i>	VU
第4次 2019:	クロイヌノヒゲモドキ	<i>Eriocaulon atroides</i>	VU
第4次 2018:	クロイヌノヒゲモドキ	<i>Eriocaulon atroides</i>	VU
第4次 2017:	クロイヌノヒゲモドキ	<i>Eriocaulon atroides</i>	VU
第4次 2015:	クロイヌノヒゲモドキ	<i>Eriocaulon atroides</i>	VU
第4次:	クロイヌノヒゲモドキ	<i>Eriocaulon atroides</i>	VU
第3次:	クロイヌノヒゲモドキ	<i>Eriocaulon atroides</i>	VU
第2次:	クロイヌノヒゲモドキ	<i>Eriocaulon atroides</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福島県[情報不足(DD)] 茨城県[情報不足②現状不明種] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)]
長野県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 長野県自然保護研究所・長野県生活環境部環境自然保護課（編），2002．長野県版レッドデータブック 長野県の絶滅のおそれのある野生生物．維管束植物編．長野県自然保護研究所，297pp.
- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫（編），1982．日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類．305pp., 208pls. 平凡社，東京．
- 高田順，2017．ホシクサ属植物ガイド．125pp. 自費出版，秋田．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eriocaulon atroides has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Eriocaulon atroides is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤマトホシクサ

*Eriocaulon japonicum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は長さ 6-12 cm で線形。花茎は高さ 12-16 cm。頭花は径 5-6 mm で半球形。総苞片は卵形～披針形、頂部が急に尖り、頭花より少し長い。花床や花弁は無毛。種子は長さ約 1 mm で楕円形、表面に T 字状の突起がある。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

湿地に生える。

【分布域】

岡山県・兵庫県・滋賀県・茨城県。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数千個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	1	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤマトホシクサ	<i>Eriocaulon japonicum</i>	VU
第4次 2019:	ヤマトホシクサ	<i>Eriocaulon japonicum</i>	VU
第4次 2018:	ヤマトホシクサ	<i>Eriocaulon japonicum</i>	VU
第4次 2017:	ヤマトホシクサ	<i>Eriocaulon japonicum</i>	VU
第4次 2015:	ヤマトホシクサ	<i>Eriocaulon japonicum</i>	VU
第4次:	ヤマトホシクサ	<i>Eriocaulon japonicum</i>	VU
第3次:	ヤマトホシクサ	<i>Eriocaulon japonicum</i>	VU
第2次:	ヤマトホシクサ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福島県[情報不足(DD)] 茨城県[絶滅危惧ⅠB類] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(Aランク)] 千葉県[消息不明・絶滅生物(X)] 三重県[EN] 滋賀県[要注目種] 京都府[絶滅種] 大阪府[EX] 兵庫県[Cランク] 岡山県[準絶滅危惧] 広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eriocaulon japonicum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Eriocaulon japonicum is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クシロホシクサ

*Eriocaulon kusiroense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

カラフトホシクサに似るが、雄花および雌花萼片が 3 裂し、花弁が 3 個である。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

湿地に生える。

【分布域】

群馬県・青森県・北海道(釧路・根室)。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュの個体数は計数千個体だが、生育地に道路が作られ、環境が変化していた。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	1	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クシロホシクサ	<i>Eriocaulon kusiroense</i>	VU
第4次 2019:	クシロホシクサ	<i>Eriocaulon kusiroense</i>	VU
第4次 2018:	クシロホシクサ	<i>Eriocaulon kusiroense</i>	VU
第4次 2017:	クシロホシクサ	<i>Eriocaulon kusiroense</i>	VU
第4次 2015:	クシロホシクサ	<i>Eriocaulon kusiroense</i>	VU
第4次:	クシロホシクサ	<i>Eriocaulon kusiroense</i>	VU
第3次:	クシロホシクサ	<i>Eriocaulon kusiroense</i>	VU
第2次:	クシロホシクサ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eriocaulon kusiroense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Eriocaulon kusiroense is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ゴマシオホシクサ

Eriocaulon nepalense

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

葉は基部の幅 3-8 mm、線状披針形で先端は鈍形。頭花は径 3-8 mm で球形。葯は黒色。クロホシクサに似るが、葉幅はより広く、花床は無毛、雄花の萼は中部まで 3 裂する。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

湧水などで湿った荒れ地、湿地、湿田、山間の放棄水田などに生育する。

【分布域】

本州(静岡県・三重県)、九州 (長崎県・熊本県・宮崎県)、中国・ヒマラヤ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 7 メッシュで計数万個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	3	1	0	1	7	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 管理放棄	自然遷移	その他動物食害
件数 2	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ゴマシオホシクサ	<i>Eriocaulon senile</i>	EN
第4次 2019:	ゴマシオホシクサ	<i>Eriocaulon senile</i>	EN
第4次 2018:	ゴマシオホシクサ	<i>Eriocaulon senile</i>	EN
第4次 2017:	ゴマシオホシクサ	<i>Eriocaulon senile</i>	EN
第4次 2015:	ゴマシオホシクサ	<i>Eriocaulon senile</i>	EN
第4次:	ゴマシオホシクサ	<i>Eriocaulon senile</i>	EN
第3次:	ゴマシオホシクサ	<i>Eriocaulon senile</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 三重県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 大阪府[EX] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[情報不足(DD)] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 佐賀県[絶滅種] 長崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-g)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.
- 高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会，2022. 高知県レッドデータブック 2022 植物編. 高知県林業振興・環境部自然共生課，229pp.
- 長崎県県民生活環境部自然保護課，2001. ながさきの希少な野生動植物 レッドデータブック 2001. 長崎県県民生活環境部自然保護課，568pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eriocaulon nepalense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Eriocaulon nepalense* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Abandonment of management, Natural succession, Other animal feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シラタマホシクサ

*Eriocaulon nudicuspe***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は長さ 7-15 cm で線形。花茎は高さ 20-40 cm。頭花は径 6-8 mm で球形、全体に白色短毛が密生する。花弁は 3 個で外方の 1 花弁は特に大きく、卵状へら形、下部は筒状に合着し、内面に白色の短毛が密生する。萼は仏炎苞状に合着、上部は 3 裂して背面に白色の短毛が密生する。葯は黒色。種子は長さ約 1.2 mm で広卵形、表面に T 字状の突起がある。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

湿地に生える。

【分布域】

静岡県・愛知県・岐阜県・三重県。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	3	2	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	湿地開発	その他

件数		
2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シラタマホシクサ	<i>Eriocaulon nudicuspe</i>	VU
第4次 2019:	シラタマホシクサ	<i>Eriocaulon nudicuspe</i>	VU
第4次 2018:	シラタマホシクサ	<i>Eriocaulon nudicuspe</i>	VU
第4次 2017:	シラタマホシクサ	<i>Eriocaulon nudicuspe</i>	VU
第4次 2015:	シラタマホシクサ	<i>Eriocaulon nudicuspe</i>	VU
第4次:	シラタマホシクサ	<i>Eriocaulon nudicuspe</i>	VU
第3次:	シラタマホシクサ	<i>Eriocaulon nudicuspe</i>	VU
第2次:	シラタマホシクサ	<i>Eriocaulon nudicuspe</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岐阜県[絶滅危惧Ⅱ類] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 三重県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eriocaulon nudicuspe has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Eriocaulon nudicuspe* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Wetland development, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シロエゾホシクサ

*Eriocaulon pallescens***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は長さ 3-7 cm で線形。花茎は高さ 5-6 cm。頭花は径約 2-3 mm。総苞片は 2-3 個で卵形、頭花と等長。花床は無毛。萼は仏炎苞状に合着して上部は 3 裂、中央片は小型で縁に微齒と短毛がある。花弁は 3 小片を残して筒状に合着し無毛。種子は長さ約 0.8 mm で楕円形、表面に T 字状の突起がある。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

湿地に生える。

【分布域】

北海道（胆振）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数千個体が現存とされたが、生育地は 1 ヶ所しかなかった。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	1	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シロエゾホシクサ	<i>Eriocaulon pallescens</i>	VU
第4次 2019:	シロエゾホシクサ	<i>Eriocaulon pallescens</i>	VU
第4次 2018:	シロエゾホシクサ	<i>Eriocaulon pallescens</i>	VU
第4次 2017:	シロエゾホシクサ	<i>Eriocaulon pallescens</i>	VU
第4次 2015:	シロエゾホシクサ	<i>Eriocaulon pallescens</i>	VU
第4次:	シロエゾホシクサ	<i>Eriocaulon pallescens</i>	VU
第3次:	シロエゾホシクサ	<i>Eriocaulon pallescens</i>	VU
第2次:	シロエゾホシクサ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eriocaulon pallescens has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Eriocaulon pallescens is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カラフトホシクサ

Eriocaulon sachalinense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は線形で長さ 2-5 cm。花茎は高さ 4-10 cm。頭花は径約 2 mm で黒色。総苞片は 2-3 個で頭花と等長、黒色を帯びる。雄花・雌花の花苞や萼は黒色で、花弁・萼片は 2 個。雄花および雌花の萼片は 2 裂する。種子は長さ約 1 mm で楕円形、表面に T 字状の突起がある。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

湿地に生える。

【分布域】

北海道、ロシア。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カラフトホシクサ	<i>Eriocaulon sachalinense</i>	VU
第4次 2019:	カラフトホシクサ	<i>Eriocaulon sachalinense</i>	VU
第4次 2018:	カラフトホシクサ	<i>Eriocaulon sachalinense</i>	VU
第4次 2017:	カラフトホシクサ	<i>Eriocaulon sachalinense</i>	VU
第4次 2015:	カラフトホシクサ	<i>Eriocaulon sachalinense</i>	VU
第4次:	カラフトホシクサ	<i>Eriocaulon sachalinense</i>	VU
第3次:	カラフトホシクサ	<i>Eriocaulon sachalinense</i>	VU
第2次:	カラフトホシクサ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 秋田県[DD]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eriocaulon sachalinense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Eriocaulon sachalinense is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アズマホシクサ

*Eriocaulon takae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は長さ 1-4.5 cm で線形。花茎は高さ 8-14 cm。頭花は径 2-3 mm で倒円錐形、淡緑色または黒色を帯びる。総苞片は卵状披針形、頭花と同長かやや長い。花床は無毛。雄花・雌花ともに花苞・花弁は無毛で、萼の上部も無毛。種子は T 字状の突起がなく平滑。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

湿地に生える。

【分布域】

北海道・青森・山形。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	自然遷移	
件数	1	

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アズマホシクサ	<i>Eriocaulon takae</i>	VU
第4次 2019:	アズマホシクサ	<i>Eriocaulon takae</i>	VU
第4次 2018:	アズマホシクサ	<i>Eriocaulon takae</i>	VU
第4次 2017:	アズマホシクサ	<i>Eriocaulon takae</i>	VU
第4次 2015:	アズマホシクサ	<i>Eriocaulon takae</i>	VU
第4次:	アズマホシクサ	<i>Eriocaulon takae</i>	VU
第3次:	アズマホシクサ	<i>Eriocaulon takae</i>	VU
第2次:	アズマホシクサ	<i>Eriocaulon takae</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮城県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 福島県[準絶滅危惧(NT)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 高田順，2017．ホシクサ属植物ガイド．125pp. 自費出版，秋田．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eriocaulon takae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Eriocaulon takae* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イグサ科 Juncaceae

クロコウガイゼキショウ

Juncus castaneus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-25 cm。茎葉は長さ 20-40 cm、3-4 個、多管質だが隔壁は不明。葉耳はない。頭花はふつう 2-3 個、半球形。小花は 3-6 個、最下苞は花序より長い。雄蕊は 6 本、葯は長楕円形で花糸の半長。蒴果は 3 稜状長楕円形、黒褐色、強い光沢がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山の湿地に生育。

【分布域】

北海道 (大雪山)、千島列島・朝鮮半島・シベリア東部・北アメリカ・ヨーロッパに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クロコウガイゼキショウ	<i>Juncus castaneus</i>	VU
第4次 2019:	クロコウガイゼキショウ	<i>Juncus castaneus</i>	VU
第4次 2018:	クロコウガイゼキショウ	<i>Juncus castaneus</i>	VU
第4次 2017:	クロコウガイゼキショウ	<i>Juncus castaneus</i>	VU
第4次 2015:	クロコウガイゼキショウ	<i>Juncus castaneus</i>	VU
第4次:	クロコウガイゼキショウ	<i>Juncus castaneus</i>	VU
第3次:	クロコウガイゼキショウ	<i>Juncus triceps</i>	VU
第2次:	クロコウガイゼキショウ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Juncus castaneus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Juncus castaneus* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イグサ科 Juncaceae

セキショウイ

Juncus covillei

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 20-40 cm。茎葉は上下に扁平でイネ状。葉耳はない。頭花は 3-4 個、小花は 3-5 個で最下苞は花序より短い。雄蕊は 6 本、葯は長楕円形で花糸と同長かやや長い。蒴果は 3 稜状長楕円形、褐色、やや光沢がある。

【生活史】

多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

湿地に生育。

【分布域】

北海道・本州（東北地方）、千島列島・カムチャツカ・北アメリカに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 6 メッシュで計約千個体と推定された。湿地開発が減少の主要因とされた。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	3	2	0	0	6	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	セキショウイ	<i>Juncus covillei</i> var. <i>covillei</i>	VU
第4次 2019:	セキショウイ	<i>Juncus covillei</i> var. <i>covillei</i>	VU
第4次 2018:	セキショウイ	<i>Juncus covillei</i> var. <i>covillei</i>	VU
第4次 2017:	セキショウイ	<i>Juncus covillei</i> var. <i>covillei</i>	VU
第4次 2015:	セキショウイ	<i>Juncus covillei</i> var. <i>covillei</i>	VU
第4次:	セキショウイ	<i>Juncus covillei</i> var. <i>covillei</i>	VU
第3次:	セキショウイ	<i>Juncus prominens</i>	VU
第2次:	セキショウイ	<i>Juncus prominens</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[希少野生生物(Cランク)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Juncus covillei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Juncus covillei* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオサンカクイ

Actinoscirpus grossus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

長さ 220 cm に達する。茎は鋭 3 稜形。葉は長さ 90 cm、3-5 個、線形、葉舌があり、根生する。小穂は散房花序に多数つく。小穂は長さ 3-13 mm、狭卵形から広卵形、有柄。花は両性、雄蕊は 3 個、花柱は 3 分岐する。花被片は 3-6 個、刺針状。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿地に生育。

【分布域】

小笠原諸島、中国・台湾・南アジア～東南アジア・オーストラリアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。基準 E では推定個体数を過小評価しているため、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオサンカクイ	<i>Actinoscirpus grossus</i>	VU
第4次 2019:	オオサンカクイ	<i>Actinoscirpus grossus</i>	VU
第4次 2018:	オオサンカクイ	<i>Actinoscirpus grossus</i>	VU
第4次 2017:	オオサンカクイ	<i>Actinoscirpus grossus</i>	VU
第4次 2015:	オオサンカクイ	<i>Actinoscirpus grossus</i>	VU
第4次:	オオサンカクイ	<i>Actinoscirpus grossus</i>	VU
第3次:	オオサンカクイ	<i>Schoenoplectus grossus</i>	EN
第2次:	オオサンカクイ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Actinoscirpus grossus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Actinoscirpus grossus is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホザキマスクサ

*Carex angustealata***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

タカネマスクサに似るが、花序は間隔をおいて 4-7 個の小穂をつけ、果胞の翼は狭い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

河川敷に生育。

【分布域】

本州（愛知県以西）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	1	1	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 不明		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホザキマスクサ	<i>Carex angustealata</i> (in schedule)	VU
第4次 2019:	ホザキマスクサ	<i>Carex angustealata</i> (in schedule)	VU
第4次 2018:	ホザキマスクサ	<i>Carex angustealata</i> (in schedule)	VU
第4次 2017:	ホザキマスクサ	<i>Carex angustealata</i> (in schedule)	VU
第4次 2015:	ホザキマスクサ	<i>Carex angustealata</i> (in schedule)	VU
第4次:	ホザキマスクサ	<i>Carex angustealata</i> (in schedule)	VU
第3次:	ホザキマスクサ	<i>Carex planata</i> var. <i>angustealata</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

愛知県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 三重県[EN] 京都府[絶滅危惧種] 兵庫県[絶滅(EX)] 岡山県[準絶滅危惧]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 京都府環境部自然環境保全課，2015. 京都府レッドデータブック 2015 第2巻：野生植物・菌類編. 京都府環境部自然環境保全課，611pp.
- Fujii, S. and N. Kurosaki. 2023. Morphological and taxonomic study of *Carex planata* var. *angustealata*. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica* 74: 17-27.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex angustealata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex angustealata* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100

years.	
Threat types:	Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アポイタヌキラン

*Carex apoensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

花柱は長く、約 1 cm あり宿存する。果胞は長さ 7-8 mm、鱗片の 2-3 倍長、披針形、縁は平滑。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

溪谷の岩上に生育。

【分布域】

北海道（日高地方）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2000 年調査時と変化がないと推測される。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2000 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	—	0	0	2	—	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アボイタヌキラン	<i>Carex apoiensis</i>	VU
第4次 2019:	アボイタヌキラン	<i>Carex apoiensis</i>	VU
第4次 2018:	アボイタヌキラン	<i>Carex apoiensis</i>	VU
第4次 2017:	アボイタヌキラン	<i>Carex apoiensis</i>	VU
第4次 2015:	アボイタヌキラン	<i>Carex apoiensis</i>	VU
第4次:	アボイタヌキラン	<i>Carex apoiensis</i>	VU
第3次:	アボイタヌキラン	<i>Carex apoiensis</i>	VU
第2次:	アボイタヌキラン	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 星野卓二・正木智美・西本眞理子, 2011. 日本カヤツリグサ科植物図譜. 778pp. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex apoiensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex apoiensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ワンドスゲ

Carex argyi

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は短く這い、ゆるく叢生する。基部の鞘はいちじろしく糸網を生じ、赤褐色を帯びる。葉は有花茎より高くなる。果胞は長さ 4-5 mm、コルク質、嘴はやや長くて先端は 2 裂。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

河川下流に生育。

【分布域】

本州（大阪府淀川）・四国（高知県）・九州（熊本県）、中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数千個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	1	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 不明		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ワンドスゲ	<i>Carex argyi</i>	VU
第4次 2019:	ワンドスゲ	<i>Carex argyi</i>	VU
第4次 2018:	ワンドスゲ	<i>Carex argyi</i>	VU
第4次 2017:	ワンドスゲ	<i>Carex argyi</i>	VU
第4次 2015:	ワンドスゲ	<i>Carex argyi</i>	VU
第4次:	ワンドスゲ	<i>Carex argyi</i>	VU
第3次:	ワンドスゲ	<i>Carex argyi</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

大阪府[CR+EN] 高知県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 熊本県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex argyi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex argyi* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タルマイスゲ

Carex buxbaumii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 30-40 cm。葉は灰緑色、幅 2-3 mm。小穂は 3-4 個、頂小穂は雄性で、上部または中部に雌花がある。側小穂は長さ 1-2.5 cm、長楕円形、雌性、直立する。果胞は長さ 3 mm、楕円形で扁三稜形。

【生活史】

多年草。果実成熟は 6-7 月。

【生育環境】

湿った平原に生育。

【分布域】

北海道・本州（中部以北）、千島列島・シベリア・ヨーロッパ・北アメリカ・アフリカ・オーストラリアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	1	1	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タルマイスゲ	<i>Carex buxbaumii</i>	VU
第4次 2019:	タルマイスゲ	<i>Carex buxbaumii</i>	VU
第4次 2018:	タルマイスゲ	<i>Carex buxbaumii</i>	VU
第4次 2017:	タルマイスゲ	<i>Carex buxbaumii</i>	VU
第4次 2015:	タルマイスゲ	<i>Carex buxbaumii</i>	VU
第4次:	タルマイスゲ	<i>Carex buxbaumii</i>	VU
第3次:	タルマイスゲ	<i>Carex buxbaumii</i>	VU
第2次:	タルマイスゲ	<i>Carex buxbaumii</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex buxbaumii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex buxbaumii* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ジョウロウスゲ

Carex capricornis

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 40-70 cm。茎は株を作る。葉は幅 4-6 mm。頂小穂は雄性で線形。側小穂は長さ 1.5-3 cm、長楕円形、雌性、3-5 個あって互いに接近してつく。果胞は長さ 7-9 mm、狭披針形、非常に多く小穂につく。

【生活史】

多年草。果実成熟は 5-7 月。

【生育環境】

湿地に生育。

【分布域】

北海道・本州（関東・中部以北）、東アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 15 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
4	5	5	1	0	0	15	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 湿地開発	自然遷移	池沼開発
件数 8	7	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ジョウロウスゲ	<i>Carex capricornis</i>	VU
第4次 2019:	ジョウロウスゲ	<i>Carex capricornis</i>	VU
第4次 2018:	ジョウロウスゲ	<i>Carex capricornis</i>	VU
第4次 2017:	ジョウロウスゲ	<i>Carex capricornis</i>	VU
第4次 2015:	ジョウロウスゲ	<i>Carex capricornis</i>	VU
第4次:	ジョウロウスゲ	<i>Carex capricornis</i>	VU
第3次:	ジョウロウスゲ	<i>Carex capricornis</i>	VU
第2次:	ジョウロウスゲ	<i>Carex capricornis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 宮城県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 秋田県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 茨城県[準絶滅危惧] 栃木県[準絶滅危惧(C ランク)] 群馬県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 千葉県[一般保護生物(D)] 東京都(本土部)[本土部：絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(北多摩)[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 東京都(南多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex capricornis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex capricornis* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Wetland development, Natural succession, Pond development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヌマアゼスゲ

Carex cinerascens

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

アゼスゲに似るが、全体はより硬く、葉は幅 2-3 mm、縁が外曲する。果胞は長さ 2-3 mm、脈がない。茎は高さ約 60 cm、長い匍枝が出る。

【生活史】

多年草。果実成熟は 5-6 月。

【生育環境】

川岸の湿地に生育。

【分布域】

本州（関東・東北地方）、朝鮮半島・中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	1	1	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	湿地開発	管理放棄
件数 3	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヌマアゼスゲ	<i>Carex cinerascens</i>	VU
第4次 2019:	ヌマアゼスゲ	<i>Carex cinerascens</i>	VU
第4次 2018:	ヌマアゼスゲ	<i>Carex cinerascens</i>	VU
第4次 2017:	ヌマアゼスゲ	<i>Carex cinerascens</i>	VU
第4次 2015:	ヌマアゼスゲ	<i>Carex cinerascens</i>	VU
第4次:	ヌマアゼスゲ	<i>Carex cinerascens</i>	VU
第3次:	ヌマアゼスゲ	<i>Carex cinerascens</i>	VU
第2次:	ヌマアゼスゲ	<i>Carex cinerascens</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[Aランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 茨城県[絶滅危惧ⅠB類] 栃木県[準絶滅危惧(Cランク)] 群馬県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 千葉県[重要保護生物(B)] 東京都(本土部)[区部：絶滅(EX) 本土部：絶滅(EX)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex cinerascens has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex cinerascens* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Wetland development, Abandonment of management

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トカラカンسゲ

Carex conica var. *scabrocaudata***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヒメカンスゲに似るが、全体的に剛強、果胞にやや太い脈がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

林縁の日当たりの良い斜面に生育。

【分布域】

トカラ列島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	2	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トカラカンスゲ	<i>Carex conica</i> var. <i>scabrocaudata</i>	VU
第4次 2019:	トカラカンスゲ	<i>Carex conica</i> var. <i>scabrocaudata</i>	VU
第4次 2018:	トカラカンスゲ	<i>Carex conica</i> var. <i>scabrocaudata</i>	VU
第4次 2017:	トカラカンスゲ	<i>Carex conica</i> var. <i>scabrocaudata</i>	VU
第4次 2015:	トカラカンスゲ	<i>Carex conica</i> var. <i>scabrocaudata</i>	VU
第4次:	トカラカンスゲ	<i>Carex conica</i> var. <i>scabrocaudata</i>	VU
第3次:	トカラカンスゲ	<i>Carex conica</i> var. <i>scabrocaudata</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[分布特性上重要]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 星野卓二・正木智美・西本眞理子, 2011. 日本カヤツリグサ科植物図譜. 778pp. 平凡社, 東京.
- Iwatsuki, K., D. E. Boufford and H. Ohba, 2020. Flora of Japan, Vol. IVa, Kodansha, Tokyo. 448pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex conica var. *scabrocaudata* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex conica* var. *scabrocaudata* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメアゼスゲ

Carex eleusinoides

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

匍枝がなく、丈が低い。高さ 10-30 cm。軟らかく、基部の鞘は葉身がなく、褐紫色、葉は幅 2 mm。小穂は上方に 3-5 個つき、頂小穂は雌雄性または雄性、側小穂は雌性、短い円柱形、黒紫色で円頭の鱗片がある。果胞は長さ 2.5 mm、淡緑色、細粒を密生し、細脈がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山帯に生育。

【分布域】

北海道、北千島・朝鮮半島北部～シベリア東部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメアゼスゲ	<i>Carex eleusinoides</i>	VU
第4次 2019:	ヒメアゼスゲ	<i>Carex eleusinoides</i>	VU
第4次 2018:	ヒメアゼスゲ	<i>Carex eleusinoides</i>	VU
第4次 2017:	ヒメアゼスゲ	<i>Carex eleusinoides</i>	VU
第4次 2015:	ヒメアゼスゲ	<i>Carex eleusinoides</i>	VU
第4次:	ヒメアゼスゲ	<i>Carex eleusinoides</i>	VU
第3次:	ヒメアゼスゲ	<i>Carex eleusinoides</i>	VU
第2次:	ヒメアゼスゲ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex eleusinoides has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex eleusinoides* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オクタマツリスゲ

Carex filipes var. *kuzakaiensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

基部の葉鞘は赤紫色を帯びる。雄小穂は柄が短い。葉は幅 5-7 mm、深緑色で幅広く、花期に前年葉が残存する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

落葉広葉樹林の林床に生育。

【分布域】

本州（東北地方・栃木県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	3	0	0	4	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オクタマツリスゲ	<i>Carex filipes</i> var. <i>kuzakaiensis</i>	CR
第4次 2019:	オクタマツリスゲ	<i>Carex filipes</i> var. <i>kuzakaiensis</i>	CR
第4次 2018:	オクタマツリスゲ	<i>Carex filipes</i> var. <i>kuzakaiensis</i>	CR
第4次 2017:	オクタマツリスゲ	<i>Carex filipes</i> var. <i>kuzakaiensis</i>	CR
第4次 2015:	オクタマツリスゲ	<i>Carex filipes</i> var. <i>kuzakaiensis</i>	CR
第4次:	オクタマツリスゲ	<i>Carex filipes</i> var. <i>kuzakaiensis</i>	CR
第3次:	オクタマツリスゲ	<i>Carex filipes</i> var. <i>kuzakaiensis</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[B ランク] 福島県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 岩手県環境生活部自然保護課，2014. いわてレッドデータブック 岩手の希少な野生生物 web 版. <https://www2.pref.iwate.jp/~hp0316/rd/rdb/index.html>（2024 年 9 月 6 日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex filipes var. *kuzakaiensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex filipes* var. *kuzakaiensis* is listed as VU under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タイワンスゲ

Carex formosensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

匍枝がなく、大きな株を作る。高さ 30-50 cm。葉は幅 2-6 mm。小穂は 3-7 個が直立し、頂小穂は長さ 1-2 cm、雄性、線形。他の小穂は長さ 1-4 cm、雌性、短い円柱形。果胞は長さ 3-3.5 mm、卵状紡錘形、細脈があり、鈍い 3 稜があり、まばらに有毛。

【生活史】

多年草。果実成熟は 4-5 月。

【生育環境】

低山の林床や林縁に生育。

【分布域】

本州（栃木県・茨城県）・四国（愛媛県・高知県）・九州、朝鮮半島南部・台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	2	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他	帰化競合	自然遷移
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タイワンスゲ	<i>Carex formosensis</i>	VU
第4次 2019:	タイワンスゲ	<i>Carex formosensis</i>	VU
第4次 2018:	タイワンスゲ	<i>Carex formosensis</i>	VU
第4次 2017:	タイワンスゲ	<i>Carex formosensis</i>	VU
第4次 2015:	タイワンスゲ	<i>Carex formosensis</i>	VU
第4次:	タイワンスゲ	<i>Carex formosensis</i>	VU
第3次:	タイワンスゲ	<i>Carex formosensis</i>	VU
第2次:	タイワンスゲ	<i>Carex formosensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

茨城県[情報不足②現状不明種] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)] 愛媛県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 高知県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 福岡県[絶滅危惧ⅠB 類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅱ類種] 長崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 熊本県[要注目種(AN)] 大分県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠB 類(EN-g)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex formosensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex formosensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Other, Invasive species competition, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

サヤマスゲ

*Carex hashimotoi***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 5-10 cm。全体に鮮緑色で、赤みがない。頂小穂は雄性、側小穂は 2-3 個、雌性。苞には緑色の鞘があり、先端が短凸状になる。果胞は長さ 4 mm、脈があり、淡緑色。

【生活史】

多年草。果実成熟は 4-5 月。

【生育環境】

山林中に生育。

【分布域】

滋賀県～長野県南部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	2	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	自然遷移	帰化競合
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サヤマスゲ	<i>Carex hashimotoi</i>	VU
第4次 2019:	サヤマスゲ	<i>Carex hashimotoi</i>	VU
第4次 2018:	サヤマスゲ	<i>Carex hashimotoi</i>	VU
第4次 2017:	サヤマスゲ	<i>Carex hashimotoi</i>	VU
第4次 2015:	サヤマスゲ	<i>Carex hashimotoi</i>	VU
第4次:	サヤマスゲ	<i>Carex hashimotoi</i>	VU
第3次:	サヤマスゲ	<i>Carex hashimotoi</i>	VU
第2次:	サヤマスゲ	<i>Carex hashimotoi</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長野県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 三重県[LC] 滋賀県[分布上重要種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex hashimotoi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex hashimotoi* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Natural succession, Invasive species competition
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

セトウチスゲ

*Carex kagoshimensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

オオムギスゲに似るが、葉や有花茎は無毛で、葉は幅広く 1 cm に達する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

竹林林床に生育。

【分布域】

本州（山口県）・九州（鹿児島県・宮崎県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	1	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	セトウチスゲ	<i>Carex kagoshimensis</i>	CR
第4次 2019:	セトウチスゲ	<i>Carex kagoshimensis</i>	CR
第4次 2018:	セトウチスゲ	<i>Carex kagoshimensis</i>	CR
第4次 2017:	セトウチスゲ	<i>Carex kagoshimensis</i>	CR
第4次 2015:	セトウチスゲ	<i>Carex kagoshimensis</i>	CR
第4次:	セトウチスゲ	<i>Carex kagoshimensis</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅(EX-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex kagoshimensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex kagoshimensis* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

イトナルコスゲ

Carex laxa

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 20-40 cm。葉は幅 1.5-2.5 mm。小穂は 2-3 個がまばらにつき、頂小穂は線形、雄性、長い柄があり、黄褐色。他は雌性で長楕円形、長い柄があり、下垂。果胞は卵形、密に小点があり、急に狭まって非常に短い嘴となり、灰緑色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿原に生育。

【分布域】

北海道・本州中北部、朝鮮半島・中国・千島列島・シベリア・ヨーロッパ北部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イトナルコスゲ	<i>Carex laxa</i>	VU
第4次 2019:	イトナルコスゲ	<i>Carex laxa</i>	VU
第4次 2018:	イトナルコスゲ	<i>Carex laxa</i>	VU
第4次 2017:	イトナルコスゲ	<i>Carex laxa</i>	VU
第4次 2015:	イトナルコスゲ	<i>Carex laxa</i>	VU
第4次:	イトナルコスゲ	<i>Carex laxa</i>	VU
第3次:	イトナルコスゲ	<i>Carex laxa</i>	VU
第2次:	イトナルコスゲ	<i>Carex laxa</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)] 青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[A ランク] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex laxa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex laxa* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムセンスゲ

Carex livida

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 20-30 cm。匍枝が出る。葉は幅 2-3 mm、粉緑色。小穂は 2-4 個、頂小穂は雄性、赤褐色。他は雌性、ややまばらに花をつけ、短い柄があり、濃褐緑色。苞は葉状、短い鞘がある。果胞は長さ 4 mm、卵形で 3 稜形、ほとんど嘴はない。

【生活史】

多年草。果実成熟は 7 月。

【生育環境】

湿原に生育。

【分布域】

北海道（大雪山・猿払・羅臼湖）、北千島・朝鮮半島北部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	1	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムセンスゲ	<i>Carex livida</i>	VU
第4次 2019:	ムセンスゲ	<i>Carex livida</i>	VU
第4次 2018:	ムセンスゲ	<i>Carex livida</i>	VU
第4次 2017:	ムセンスゲ	<i>Carex livida</i>	VU
第4次 2015:	ムセンスゲ	<i>Carex livida</i>	VU
第4次:	ムセンスゲ	<i>Carex livida</i>	VU
第3次:	ムセンスゲ	<i>Carex livida</i>	VU
第2次:	ムセンスゲ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex livida has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex livida* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

アカンスゲ

Carex loliacea

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヒロハイッポンスゲに似るが、やや小型、葉は幅 1-2 mm。小穂はやや小さく、3-5 個が離れてつく。果胞は長さ 2.5-3 mm、卵状長楕円形、細い脈があり、ほとんど嘴はない。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の高層湿原に生育。

【分布域】

北海道・本州（中部以北）、旧世界の北地に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	2	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アカンスゲ	<i>Carex loliacea</i>	EN
第4次 2019:	アカンスゲ	<i>Carex loliacea</i>	EN
第4次 2018:	アカンスゲ	<i>Carex loliacea</i>	EN
第4次 2017:	アカンスゲ	<i>Carex loliacea</i>	EN
第4次 2015:	アカンスゲ	<i>Carex loliacea</i>	EN
第4次:	アカンスゲ	<i>Carex loliacea</i>	EN
第3次:	アカンスゲ	<i>Carex loliacea</i>	EN
第2次:	アカンスゲ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 岩手県[A ランク] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)] 山梨県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 長野県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex loliacea has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex loliacea* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヌマクロボスゲ

Carex meyeriana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

大型の谷地坊主を形成する。高さ 30-50 cm。葉は幅 1-1.5 mm、灰緑色、基部の葉鞘は葉身がなくて硬く、栗褐色、糸網を生じる。小穂は 2-3 個。頂小穂は長さ 2-3 cm、雄性、線形、側小穂は 5-10 mm、雌性、無柄。鱗片は暗紫褐色。果胞は長さ 3-3.5 mm、楕円形で扁 3 稜形、密に細突起があって光沢がなく、灰色、数脈があり、非常に短い嘴がつく。

【生活史】

多年草。果実成熟は 5-8 月。

【生育環境】

湿原に生育。

【分布域】

本州中北部・九州、朝鮮半島・中国（東北）・シベリア東部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	3	0	0	0	0	3	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 湿地開発	自然遷移	産地局限

件数		
2	2	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヌマクロボスゲ	<i>Carex meyeriana</i>	VU
第4次 2019:	ヌマクロボスゲ	<i>Carex meyeriana</i>	VU
第4次 2018:	ヌマクロボスゲ	<i>Carex meyeriana</i>	VU
第4次 2017:	ヌマクロボスゲ	<i>Carex meyeriana</i>	VU
第4次 2015:	ヌマクロボスゲ	<i>Carex meyeriana</i>	VU
第4次:	ヌマクロボスゲ	<i>Carex meyeriana</i>	VU
第3次:	ヌマクロボスゲ	<i>Carex meyeriana</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[Bランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 茨城県[絶滅危惧ⅠB類] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(Bランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 千葉県[最重要保護生物(A)] 長野県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅] 佐賀県[絶滅種] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 愛知県環境調査センター，2020．レッドデータブックあいち 2020—植物編—．愛知県環境局環境政策部自然環境課，810pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex meyeriana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex*

<i>meyeriana</i> is listed as VU under criteria D.	
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	Wetland development, Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キシウナキリスゲ

Carex nachiana

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 1 m 以上に達する。小穂は 1 節に 2-3 個つく。果胞は長さ 3.5-4 mm、ややまばらにつき、広卵形、細脈が多数あり、縁のみ有毛でざらつきがある。

【生活史】

多年草。果実成熟は 9-10 月。

【生育環境】

暖地の林内に生育。

【分布域】

本州～九州、中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 14 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
4	6	3	1	0	0	14	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 道路工事	自然遷移	産地局限
件数 5	4	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キシウナキリスゲ	<i>Carex nachiana</i>	VU
第4次 2019:	キシウナキリスゲ	<i>Carex nachiana</i>	VU
第4次 2018:	キシウナキリスゲ	<i>Carex nachiana</i>	VU
第4次 2017:	キシウナキリスゲ	<i>Carex nachiana</i>	VU
第4次 2015:	キシウナキリスゲ	<i>Carex nachiana</i>	VU
第4次:	キシウナキリスゲ	<i>Carex nachiana</i>	VU
第3次:	キシウナキリスゲ	<i>Carex nachiana</i>	VU
第2次:	キシウナキリスゲ	<i>Carex nachiana</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

茨城県[絶滅危惧ⅠB類] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[準絶滅危惧(NT)] 三重県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 兵庫県[Aランク] 和歌山県[準絶滅危惧(NT)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠB類] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 長崎県[準絶滅危惧種(NT)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex nachiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex nachiana* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Road construction, Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

ミヤマイワスゲ

Carex odontostoma

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

コイワカンスゲに似るが、果胞は長さが 6-7 mm、嘴が細長い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地に生育。

【分布域】

本州（近畿地方）～九州、台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミヤマイワスゲ	<i>Carex odontostoma</i>	VU
第4次 2019:	ミヤマイワスゲ	<i>Carex odontostoma</i>	VU
第4次 2018:	ミヤマイワスゲ	<i>Carex odontostoma</i>	VU
第4次 2017:	ミヤマイワスゲ	<i>Carex odontostoma</i>	VU
第4次 2015:	ミヤマイワスゲ	<i>Carex odontostoma</i>	VU
第4次:	ミヤマイワスゲ	<i>Carex odontostoma</i>	VU
第3次:	ミヤマイワスゲ	<i>Carex chrysolepis</i> var. <i>odontostoma</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

京都府[準絶滅危惧種] 兵庫県[A ランク] 奈良県[絶滅寸前種,注目種] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 高知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[準絶滅危惧(NT-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex odontostoma has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex odontostoma* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for	—

conservation	

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

スルガスゲ

*Carex omurae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15-20 cm。オクノカンスゲとヒメカンスゲに似るが、前者とは匍匐枝が無く、果胞の上端の嘴はかたい歯にならず、膜質で浅い歯になる点、後者とは雌小穂の花が少数になり、果胞が無毛で長い嘴がある点で区別される。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地に生育。

【分布域】

本州（静岡県・山梨県・長野県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数万個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	1	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	スルガスゲ	<i>Carex omurae</i>	EN
第4次 2019:	スルガスゲ	<i>Carex omurae</i>	EN
第4次 2018:	スルガスゲ	<i>Carex omurae</i>	EN
第4次 2017:	スルガスゲ	<i>Carex omurae</i>	EN
第4次 2015:	スルガスゲ	<i>Carex omurae</i>	EN
第4次:	スルガスゲ	<i>Carex omurae</i>	EN
第3次:	スルガスゲ	<i>Carex omurae</i>	EN
第2次:	スルガスゲ	<i>Carex omurae</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山梨県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 長野県[情報不足(DD)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex omurae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex omurae* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

ダケスゲ

Carex paupercula

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヤチスゲに似るが、果胞は長さ 2.5-3 mm と小型、はっきりしない条線はあるが脈はなく、鱗片は果胞よりずっと細く、落ちやすい。雌小穂は 2-3 個とより多くつく。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高層湿原に生育。

【分布域】

本州中北部、北半球北部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	自然遷移	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ダケスゲ	<i>Carex paupercula</i>	VU
第4次 2019:	ダケスゲ	<i>Carex paupercula</i>	VU
第4次 2018:	ダケスゲ	<i>Carex paupercula</i>	VU
第4次 2017:	ダケスゲ	<i>Carex paupercula</i>	VU
第4次 2015:	ダケスゲ	<i>Carex paupercula</i>	VU
第4次:	ダケスゲ	<i>Carex paupercula</i>	VU
第3次:	ダケスゲ	<i>Carex paupercula</i>	VU
第2次:	ダケスゲ	<i>Carex paupercula</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 岩手県[Bランク] 秋田県[絶滅危惧種ⅠA類(CR)] 山形県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 福島県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 新潟県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 富山県[準絶滅危惧] 石川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 長野県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 岐阜県[準絶滅危惧]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex paupercula has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex paupercula* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Human trampling, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハシナガカンسゲ

*Carex phaeodon***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

匍匐枝が長く伸びる。基部の鞘は赤褐色を帯びる。果胞は長さ 4-4.5 mm、無毛、嘴は長く外曲する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の樹林内斜面から岩場に生育。

【分布域】

山梨県南部町から静岡県静岡市に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	1	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハシナガカンスゲ	<i>Carex phaeodon</i>	VU
第4次 2019:	ハシナガカンスゲ	<i>Carex phaeodon</i>	VU
第4次 2018:	ハシナガカンスゲ	<i>Carex phaeodon</i>	VU
第4次 2017:	ハシナガカンスゲ	<i>Carex phaeodon</i>	VU
第4次 2015:	ハシナガカンスゲ	<i>Carex phaeodon</i>	VU
第4次:	ハシナガカンスゲ	<i>Carex phaeodon</i>	VU
第3次:	ハシナガカンスゲ	<i>Carex phaeodon</i>	VU
第2次:	ハシナガカンスゲ	<i>Carex phaeodon</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山梨県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 静岡県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex phaeodon has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex phaeodon* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

アカネスゲ

Carex poculisquama

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 40-50 cm。葉は幅 3-5 mm。雄小穂は細く、鱗片は縁が合着したコップ状。果胞は長さ約 4 mm、細脈があり、嘴は短く、有毛で淡緑色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

石灰岩地帯に生育。

【分布域】

本州（関東地方・中国地方）・九州北部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数千個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	2	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アカネスゲ	<i>Carex poculisquama</i>	VU
第4次 2019:	アカネスゲ	<i>Carex poculisquama</i>	VU
第4次 2018:	アカネスゲ	<i>Carex poculisquama</i>	VU
第4次 2017:	アカネスゲ	<i>Carex poculisquama</i>	VU
第4次 2015:	アカネスゲ	<i>Carex poculisquama</i>	VU
第4次:	アカネスゲ	<i>Carex poculisquama</i>	VU
第3次:	アカネスゲ	<i>Carex poculisquama</i>	VU
第2次:	アカネスゲ	<i>Carex poculisquama</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

栃木県[絶滅] 山口県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex poculisquama has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex poculisquama* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

シロホンモンジスゲ

Carex polyschoena

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ホンモンジスゲに似るが、匍枝がなく密に束生し、茎基部の鞘は暗褐色が濃く、頂小穂は淡色、他は淡緑色となる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

林縁や落葉樹林の林床に生育。

【分布域】

対馬、朝鮮半島・中国（東北・北部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シロホンモンジスゲ	<i>Carex polyschoena</i>	VU
第4次 2019:	シロホンモンジスゲ	<i>Carex polyschoena</i>	VU
第4次 2018:	シロホンモンジスゲ	<i>Carex polyschoena</i>	VU
第4次 2017:	シロホンモンジスゲ	<i>Carex polyschoena</i>	VU
第4次 2015:	シロホンモンジスゲ	<i>Carex polyschoena</i>	VU
第4次:	シロホンモンジスゲ	<i>Carex polyschoena</i>	VU
第3次:	シロホンモンジスゲ	<i>Carex polyschoena</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 星野卓二・正木智美・西本眞理子，2011．日本カヤツリグサ科植物図譜．778pp. 平凡社，東京．
- 長崎県県民生活環境部自然保護課，2001．ながさきの希少な野生動植物 レッドデータブック 2001．長崎県県民生活環境部自然保護課，568pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex polyschoena has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex polyschoena* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アカスゲ

Carex quadriflora

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

匍匐枝はなく、叢生する。高さ 20-30 cm。葉は幅 2-4 mm、扁平、濃緑色、基部の葉鞘は濃赤色。小穂は長さ 7-10 mm、3-4 個、頂小穂は雄性、線形で赤みを帯びる。他の小穂は雌性、まばらに数花をつけ、曲がった柄がある。苞は葉身がなく、赤紫色を帯びた鞘だけとなる。果胞は長さ 4.5-5 mm、基部は太い柄があり、上方は短い嘴となり、有毛。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地林中に生育。

【分布域】

北海道（北見）、朝鮮半島・中国（東北）・ウスリーに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数千個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	2	1	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アカスゲ	<i>Carex quadriflora</i>	VU
第4次 2019:	アカスゲ	<i>Carex quadriflora</i>	VU
第4次 2018:	アカスゲ	<i>Carex quadriflora</i>	VU
第4次 2017:	アカスゲ	<i>Carex quadriflora</i>	VU
第4次 2015:	アカスゲ	<i>Carex quadriflora</i>	VU
第4次:	アカスゲ	<i>Carex quadriflora</i>	VU
第3次:	アカスゲ	<i>Carex quadriflora</i>	VU
第2次:	アカスゲ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex quadriflora has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex quadriflora* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

イトヒキスゲ

Carex remotiuscula

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 30-50 cm。葉は幅 1-2 mm。小穂は長さ 4-6 mm、4-7 個、卵円形、淡緑色。果胞は長さ約 3 mm、披針状卵形、細脈があり、上方はしだいに嘴となる。

【生活史】

多年草。果実成熟は 6-7 月。

【生育環境】

深山の林中に生育。

【分布域】

北海道・本州（長野県霧ヶ峰）、朝鮮半島・中国（東北）・ウスリーに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	1	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イトヒキスゲ	<i>Carex remotiuscula</i>	VU
第4次 2019:	イトヒキスゲ	<i>Carex remotiuscula</i>	VU
第4次 2018:	イトヒキスゲ	<i>Carex remotiuscula</i>	VU
第4次 2017:	イトヒキスゲ	<i>Carex remotiuscula</i>	VU
第4次 2015:	イトヒキスゲ	<i>Carex remotiuscula</i>	VU
第4次:	イトヒキスゲ	<i>Carex remotiuscula</i>	VU
第3次:	イトヒキスゲ	<i>Carex remotiuscula</i>	VU
第2次:	イトヒキスゲ	<i>Carex remotiuscula</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福井県[要注目] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex remotiuscula has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex remotiuscula* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

カラフトカサスゲ

Carex rostrata

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 40-60 cm。鈍い 3 稜がある。基部の鞘は赤紫色を帯びる。葉は厚く内曲する。雌小穂は長さ 2-4 cm、ほぼ無柄。果胞は長さ 3.5-4 mm、光沢があり、有脈、無毛、上方は急に短い嘴になる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿原に生育。

【分布域】

北海道、朝鮮半島北部～ヨーロッパ北部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カラフトカサスゲ	<i>Carex rostrata</i> var. <i>rostrata</i>	VU
第4次 2019:	カラフトカサスゲ	<i>Carex rostrata</i> var. <i>rostrata</i>	VU
第4次 2018:	カラフトカサスゲ	<i>Carex rostrata</i> var. <i>rostrata</i>	VU
第4次 2017:	カラフトカサスゲ	<i>Carex rostrata</i> var. <i>rostrata</i>	VU
第4次 2015:	カラフトカサスゲ	<i>Carex rostrata</i> var. <i>rostrata</i>	VU
第4次:	カラフトカサスゲ	<i>Carex rostrata</i> var. <i>rostrata</i>	VU
第3次:	カラフトカサスゲ	<i>Carex rostrata</i> var. <i>rostrata</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex rostrata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex rostrata* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

シュミツスゲ

Carex schmidtii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

カブスゲに似るが、茎は高さ 50-70 cm、茎の基部の鞘は暗褐色、最下の苞は葉状になり、果胞はやや膨らみ果をゆるく包む。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿原に生育。

【分布域】

北海道、サハリン・千島列島・カムチャツカ・朝鮮半島北部・シベリア東部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シュミットスゲ	<i>Carex schmidtii</i>	EN
第4次 2019:	シュミットスゲ	<i>Carex schmidtii</i>	EN
第4次 2018:	シュミットスゲ	<i>Carex schmidtii</i>	EN
第4次 2017:	シュミットスゲ	<i>Carex schmidtii</i>	EN
第4次 2015:	シュミットスゲ	<i>Carex schmidtii</i>	EN
第4次:	シュミットスゲ	<i>Carex schmidtii</i>	EN
第3次:	シュミットスゲ	<i>Carex schmidtii</i>	CR
第2次:	シュミットスゲ	<i>Carex schmidtii</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex schmidtii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex schmidtii* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

シコタンスゲ

Carex scita var. *scabrinervia*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

アシボソスゲやミヤマアシボソスゲに似るが、全体的に剛強、果胞は幅 3 mm に達し、広楕円形。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸風衝草地に生育。

【分布域】

北海道、サハリン・千島列島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 3		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シコタンスゲ	<i>Carex scita</i> var. <i>scabrinervia</i>	VU
第4次 2019:	シコタンスゲ	<i>Carex scita</i> var. <i>scabrinervia</i>	VU
第4次 2018:	シコタンスゲ	<i>Carex scita</i> var. <i>scabrinervia</i>	VU
第4次 2017:	シコタンスゲ	<i>Carex scita</i> var. <i>scabrinervia</i>	VU
第4次 2015:	シコタンスゲ	<i>Carex scita</i> var. <i>scabrinervia</i>	VU
第4次:	シコタンスゲ	<i>Carex scita</i> var. <i>scabrinervia</i>	VU
第3次:	シコタンスゲ	<i>Carex scita</i> var. <i>scabrinervia</i>	VU
第2次:	シコタンスゲ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex scita var. *scabrinervia* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Carex scita var. *scabrinervia* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タカネナルコ

Carex siroumensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

匍枝がなく、大きな株を作る。高さ 20-30 cm。葉は幅 1-2.5 mm。小穂は 3-4 個つき、頂小穂は雌雄性、側小穂は雌性、棍棒状長楕円形。苞は鞘があり、とげ状の葉身がある。果胞は長さ 5-6 mm、広披針形。

【生活史】

多年草。果実成熟は 7-8 月。

【生育環境】

高山の岩場に生育。

【分布域】

北海道（日高山脈二岐岳）・本州中部、朝鮮半島北部・中国（東北）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タカネナルコ	<i>Carex siroumensis</i>	VU
第4次 2019:	タカネナルコ	<i>Carex siroumensis</i>	VU
第4次 2018:	タカネナルコ	<i>Carex siroumensis</i>	VU
第4次 2017:	タカネナルコ	<i>Carex siroumensis</i>	VU
第4次 2015:	タカネナルコ	<i>Carex siroumensis</i>	VU
第4次:	タカネナルコ	<i>Carex siroumensis</i>	VU
第3次:	タカネナルコ	<i>Carex siroumensis</i>	VU
第2次:	タカネナルコ	<i>Carex siroumensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

富山県[準絶滅危惧] 山梨県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)] 静岡県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 横山（木村）耕，2024．タカネナルコ（カヤツリグサ科）北海道に産す．植物研究雑誌，99：206-209．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex siroumensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex siroumensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

ミヤケスゲ

Carex subumbellata var. *subumbellata*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ややゆるく叢生する。茎は高さ 20-30 cm。最下の小穂は根生状となる。果胞は基部が肥厚し、白色の柄状となる。

【生活史】

多年草。果実成熟は 7-8 月。

【生育環境】

高山草地に生育。

【分布域】

北海道・本州（早池峰山）、サハリンに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	3	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミヤケスゲ	<i>Carex subumbellata</i>	VU
第4次 2019:	ミヤケスゲ	<i>Carex subumbellata</i>	VU
第4次 2018:	ミヤケスゲ	<i>Carex subumbellata</i>	VU
第4次 2017:	ミヤケスゲ	<i>Carex subumbellata</i>	VU
第4次 2015:	ミヤケスゲ	<i>Carex subumbellata</i>	VU
第4次:	ミヤケスゲ	<i>Carex subumbellata</i>	VU
第3次:	ミヤケスゲ	<i>Carex subumbellata</i>	EN
第2次:	ミヤケスゲ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 岩手県[B ランク]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex subumbellata var. *subumbellata* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex subumbellata* var. *subumbellata* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

タイホクスゲ

Carex taihokuensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

匍枝がなく、叢生する。茎基部にいちじるしく短い有花茎をつける。果胞は光沢と毛があり、果実の稜の中央に凹みはなく、頂部には嘴がない。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地に生育。

【分布域】

南西諸島（沖縄島・石垣島）、朝鮮半島・台湾・中国（雲南省）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タイホクスゲ	<i>Carex taihokuensis</i>	VU
第4次 2019:	タイホクスゲ	<i>Carex taihokuensis</i>	VU
第4次 2018:	タイホクスゲ	<i>Carex taihokuensis</i>	VU
第4次 2017:	タイホクスゲ	<i>Carex taihokuensis</i>	VU
第4次 2015:	タイホクスゲ	<i>Carex taihokuensis</i>	VU
第4次:	タイホクスゲ	<i>Carex taihokuensis</i>	VU
第3次:	タイホクスゲ	<i>Carex taihokuensis</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 堀内洋，2005．日本及び中国大陸新産のカヤツリグサ科植物タイホクスゲ．植物研究雑誌，80: 187-189．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex taihokuensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex taihokuensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ノスゲ

*Carex tashiroana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

匍枝がなく、密に叢生する。基部の鞘は褐色、古くなると繊維状に分解される。果胞は長さ約 2 mm、短毛を散生し、嘴は短い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

渓谷の岩場に生育。

【分布域】

本州（岡山県・島根県・広島県・山口県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	3	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 不明		
件数 2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ノスゲ	<i>Carex tashiroana</i>	VU
第4次 2019:	ノスゲ	<i>Carex tashiroana</i>	VU
第4次 2018:	ノスゲ	<i>Carex tashiroana</i>	VU
第4次 2017:	ノスゲ	<i>Carex tashiroana</i>	VU
第4次 2015:	ノスゲ	<i>Carex tashiroana</i>	VU
第4次:	ノスゲ	<i>Carex tashiroana</i>	VU
第3次:	ノスゲ	<i>Carex tashiroana</i>	VU
第2次:	ノスゲ	<i>Carex tashiroana</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山口県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 柳浦正夫・井上雅仁，2019．島根県で初確認されたノスゲについて．島根県立三瓶自然館研究報告，17: 33-34．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex tashiroana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex tashiroana* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オノエスゲ

Carex tenuiformis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15-40 cm。葉は幅 2.5-4 mm。小穂はまばらに 2-4 個つき、頂小穂は長さ 1-1.5 cm、棍棒状線形、雄性、長い柄があり、他の小穂より高い。側小穂は長さ 1-2.5 cm、雌性、線状楕円形。果胞は長さ 3-4.5 mm、卵状紡錘形、膜質で少し光沢がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山帯の草地に生育。

【分布域】

北海道・本州中北部、朝鮮半島・中国（東北）・シベリア東部・サハリン・千島列島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数		

3		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オノエスゲ	<i>Carex tenuiformis</i>	VU
第4次 2019:	オノエスゲ	<i>Carex tenuiformis</i>	VU
第4次 2018:	オノエスゲ	<i>Carex tenuiformis</i>	VU
第4次 2017:	オノエスゲ	<i>Carex tenuiformis</i>	VU
第4次 2015:	オノエスゲ	<i>Carex tenuiformis</i>	VU
第4次:	オノエスゲ	<i>Carex tenuiformis</i>	VU
第3次:	オノエスゲ	<i>Carex tenuiformis</i>	VU
第2次:	オノエスゲ	<i>Carex tenuiformis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[B ランク] 山形県[情報不足 (DD)] 福島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 富山県[絶滅危惧Ⅱ類] 山梨県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 長野県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex tenuiformis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex tenuiformis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

フサカンスゲ

*Carex tokarensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は密に叢生する。高さ 40-100 cm。小穂は雌雄性、1 節に 3-8 個つく。果胞は長さ 5-7 mm、有毛。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の林床に生育。

【分布域】

トカラ列島（黒島・中之島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	フサカンスゲ	<i>Carex tokarensis</i>	VU
第4次 2019:	フサカンスゲ	<i>Carex tokarensis</i>	VU
第4次 2018:	フサカンスゲ	<i>Carex tokarensis</i>	VU
第4次 2017:	フサカンスゲ	<i>Carex tokarensis</i>	VU
第4次 2015:	フサカンスゲ	<i>Carex tokarensis</i>	VU
第4次:	フサカンスゲ	<i>Carex tokarensis</i>	VU
第3次:	フサカンスゲ	<i>Carex tokarensis</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex tokarensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex tokarensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

セキモンスゲ

*Carex toyoshimae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

前年葉の束の中心に無花茎がつき、葉腋に有花茎がつく。葉は幅 3-7 mm、果胞は幅 1-1.3 mm、披針形、嘴が長く、口部は凹形から 2 裂するものまで変化が多い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿性高木林内に生育。

【分布域】

小笠原諸島（母島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 7 メッシュで計数千個体と推定された。産地局限である。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	5	0	0	7	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	セキモンスゲ	<i>Carex toyoshimae</i>	VU
第4次 2019:	セキモンスゲ	<i>Carex toyoshimae</i>	VU
第4次 2018:	セキモンスゲ	<i>Carex toyoshimae</i>	VU
第4次 2017:	セキモンスゲ	<i>Carex toyoshimae</i>	VU
第4次 2015:	セキモンスゲ	<i>Carex toyoshimae</i>	VU
第4次:	セキモンスゲ	<i>Carex toyoshimae</i>	VU
第3次:	セキモンスゲ	<i>Carex toyoshimae</i>	VU
第2次:	セキモンスゲ	<i>Carex toyoshimae</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 東京都環境局自然環境部，2014．東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014．<https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex toyoshimae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex toyoshimae* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホロムイクグ

Carex tsuishikarensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 20-50 cm。葉は幅約 1.5 mm、灰緑色で厚く、基部の葉鞘は灰白色。雄小穂は 1 個で頂生する。雌小穂は長さ 1-1.5 cm、1-2 個、卵円形または長楕円形。鱗片は淡栗褐色。果胞は長さ 5-5.5 mm、広卵形、やや硬くて厚く、上方は短い嘴になる。

【生活史】

多年草。果実成熟は 6-8 月。

【生育環境】

湿原に生育。

【分布域】

北海道・本州中部以北、千島列島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果

2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	6	1	0	0	7	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホロムイクグ	<i>Carex tsuishikarensis</i>	VU
第4次 2019:	ホロムイクグ	<i>Carex tsuishikarensis</i>	VU
第4次 2018:	ホロムイクグ	<i>Carex tsuishikarensis</i>	VU
第4次 2017:	ホロムイクグ	<i>Carex tsuishikarensis</i>	VU
第4次 2015:	ホロムイクグ	<i>Carex tsuishikarensis</i>	VU
第4次:	ホロムイクグ	<i>Carex tsuishikarensis</i>	VU
第3次:	ホロムイクグ	<i>Carex oligosperma</i> subsp. <i>tsuishikarensis</i>	VU
第2次:	ホロムイクグ	<i>Carex oligosperma</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)] 青森県[重要希少野生生物(B ランク)] 岩手県[B ランク] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex tsuishikarensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex tsuishikarensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イワヤスゲ

*Carex tumidula***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

匍匐する根茎がある。高さ 15-20 cm。葉は幅 2-3 mm、基部の鞘は膜質、その一部はさび色。小穂は長さ 1-1.5 cm、7-9 個、雌花は 1-3 花つき、その上部に雄花部がある。果胞は長さ 3 mm、卵形。

【生活史】

多年草。果実成熟は 4-5 月。

【生育環境】

山中に生育。

【分布域】

愛媛県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イワヤスゲ	<i>Carex tumidula</i>	VU
第4次 2019:	イワヤスゲ	<i>Carex tumidula</i>	VU
第4次 2018:	イワヤスゲ	<i>Carex tumidula</i>	VU
第4次 2017:	イワヤスゲ	<i>Carex tumidula</i>	VU
第4次 2015:	イワヤスゲ	<i>Carex tumidula</i>	VU
第4次:	イワヤスゲ	<i>Carex tumidula</i>	VU
第3次:	イワヤスゲ	<i>Carex tumidula</i>	VU
第2次:	イワヤスゲ	<i>Carex tumidula</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex tumidula has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex tumidula* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヌイオスゲ

Carex vanheurckii

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

ヒメスゲに似るが、雄小穂は雌小穂よりもいちじるしく長く、葉鞘は糸網を作らず少し縦の繊維に分解し、果胞は上から見て円く、鈍 3 稜形にならない。高さ 10-40 cm。

【生活史】

多年草。果実成熟は 7-8 月。

【生育環境】

高山帯中性草地に生育。

【分布域】

北海道・本州中部以北、シベリア東部・サハリン・千島列島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	
件数 2	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヌイオスゲ	<i>Carex vanheurckii</i>	VU
第4次 2019:	ヌイオスゲ	<i>Carex vanheurckii</i>	VU
第4次 2018:	ヌイオスゲ	<i>Carex vanheurckii</i>	VU
第4次 2017:	ヌイオスゲ	<i>Carex vanheurckii</i>	VU
第4次 2015:	ヌイオスゲ	<i>Carex vanheurckii</i>	VU
第4次:	ヌイオスゲ	<i>Carex vanheurckii</i>	VU
第3次:	ヌイオスゲ	<i>Carex vanheurckii</i>	VU
第2次:	ヌイオスゲ	<i>Carex vanheurckii</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[重要希少野生生物(B ランク)] 岩手県[B ランク] 山形県[絶滅危惧ⅠB類(E N)] 福島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 群馬県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 富山県[絶滅危惧Ⅱ類] 長野県[留意種(N)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex vanheurckii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex vanheurckii* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホウキガヤツリ

Cyperus distans

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

散形花序は大きく、長さとは幅はともに 10-30 cm。小穂は長さ 1.5-3 cm、きわめてまばらに鱗片をつける。鱗片は長さ 1.8-2.2 mm、赤褐色。果実は長さ約 1.5 mm、長楕円形で 3 稜、鱗片と同長かわずかに短い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿地、湖沼等に生育。

【分布域】

四国（高知県）・九州（種子島）・琉球、台湾・世界の熱帯に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	1	0	0	2	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 管理放棄	自然遷移	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホウキガヤツリ	<i>Cyperus distans</i>	CR
第4次 2019:	ホウキガヤツリ	<i>Cyperus distans</i>	CR
第4次 2018:	ホウキガヤツリ	<i>Cyperus distans</i>	CR
第4次 2017:	ホウキガヤツリ	<i>Cyperus distans</i>	CR
第4次 2015:	ホウキガヤツリ	<i>Cyperus distans</i>	CR
第4次:	ホウキガヤツリ	<i>Cyperus distans</i>	CR
第3次:	ホウキガヤツリ	<i>Cyperus distans</i>	CR
第2次:	ホウキガヤツリ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

高知県[絶滅(EX)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- Iwatsuki, K., D. E. Boufford and H. Ohba, 2020. Flora of Japan, Vol. IVa, Kodansha, Tokyo. 448pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cyperus distans has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cyperus distans* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Abandonment of management, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カンエンガヤツリ

Cyperus exaltatus var. *iwasakii*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 80-120 cm。茎は太い。葉は幅 8-15 mm。花序は長さ幅とも 10-30 cm。花穂は長さ幅とも 1-1.5 cm。小穂は長さ 5-10 mm、密について開出し、黄褐色を帯びる。鱗片は長さ 1.7-2 mm。果実は長さが鱗片の半分、楕円形。

【生活史】

多年草。果実成熟は 9-10 月。

【生育環境】

湿地に生育。

【分布域】

本州、朝鮮半島・中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 13 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
5	7	1	0	0	0	13	0	5

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	湿地開発	河川開発
件数 11	9	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カンエンガヤツリ	<i>Cyperus exaltatus</i> var. <i>iwasakii</i>	VU
第4次 2019:	カンエンガヤツリ	<i>Cyperus exaltatus</i> var. <i>iwasakii</i>	VU
第4次 2018:	カンエンガヤツリ	<i>Cyperus exaltatus</i> var. <i>iwasakii</i>	VU
第4次 2017:	カンエンガヤツリ	<i>Cyperus exaltatus</i> var. <i>iwasakii</i>	VU
第4次 2015:	カンエンガヤツリ	<i>Cyperus exaltatus</i> var. <i>iwasakii</i>	VU
第4次:	カンエンガヤツリ	<i>Cyperus exaltatus</i> var. <i>iwasakii</i>	VU
第3次:	カンエンガヤツリ	<i>Cyperus exaltatus</i> var. <i>iwasakii</i>	VU
第2次:	カンエンガヤツリ	<i>Cyperus exaltatus</i> var. <i>iwasakii</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[絶滅野生生物(EX ランク)] 宮城県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 秋田県[EN] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 茨城県[準絶滅危惧] 栃木県[準絶滅危惧(C ランク)] 群馬県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 埼玉県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 千葉県[一般保護生物(D)] 東京都(本土部)[区部:準絶滅危惧(NT) 本土部:絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 東京都(北多摩)[準絶滅危惧(NT)] 東京都(南多摩)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR)] 兵庫県[要調査種] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cyperus exaltatus var. *iwasakii* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cyperus exaltatus* var. *iwasakii* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Wetland development, River development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツクシオオガヤツリ

Cyperus ohwii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1-1.5 m。根茎は太く短い。茎は太く、基部は肥厚する。葉は幅 1-1.5 cm。花序は長さ幅とも 10-20 cm、よく分枝する。小穂は穂状小花序に密につき、長さ 4-6 mm、淡黄色。果実は狭卵形。

【生活史】

多年草。果実成熟は 9-10 月。

【生育環境】

池畔の湿地に生育。

【分布域】

九州（福岡県など）・千葉県、インド・インドネシアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	1	1	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 池沼開発	管理放棄	自然遷移
件数 2	2	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツクシオオガヤツリ	<i>Cyperus ohwii</i>	EN
第4次 2019:	ツクシオオガヤツリ	<i>Cyperus ohwii</i>	EN
第4次 2018:	ツクシオオガヤツリ	<i>Cyperus ohwii</i>	EN
第4次 2017:	ツクシオオガヤツリ	<i>Cyperus ohwii</i>	EN
第4次 2015:	ツクシオオガヤツリ	<i>Cyperus ohwii</i>	EN
第4次:	ツクシオオガヤツリ	<i>Cyperus ohwii</i>	EN
第3次:	ツクシオオガヤツリ	<i>Cyperus ohwii</i>	EN
第2次:	ツクシオオガヤツリ	<i>Cyperus ohwii</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

茨城県[情報不足②現状不明種] 千葉県[消息不明・絶滅生物(X)] 福岡県[絶滅危惧 I B 類]
佐賀県[準絶滅危惧種] 大分県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cyperus ohwii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cyperus ohwii* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Pond development, Abandonment of management, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カガシラ

Diplacrum caricinum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は 3 稜形、長さ 5-20 cm。葉は長さ 1-5 cm。分花序は長さ幅とも 3-5 mm、柄は短く、腋生する。雌小穂の鱗片は長楕円形、5-8 脈がある。果実は長さ 0.7-1 mm、球形、白色。

【生活史】

一年草。

【生育環境】

湿地に生育。

【分布域】

本州（千葉県以西）～琉球、中国南部・台湾・東南アジア・インド・スリランカ・オーストラリアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数千個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	1	0	1	0	4	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 湿地開発	管理放棄	自然遷移
件数	2	2

2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カガシラ	<i>Diplacrum caricinum</i>	VU
第4次 2019:	カガシラ	<i>Diplacrum caricinum</i>	VU
第4次 2018:	カガシラ	<i>Diplacrum caricinum</i>	VU
第4次 2017:	カガシラ	<i>Diplacrum caricinum</i>	VU
第4次 2015:	カガシラ	<i>Diplacrum caricinum</i>	VU
第4次:	カガシラ	<i>Diplacrum caricinum</i>	VU
第3次:	カガシラ	<i>Scleria caricina</i>	VU
第2次:	カガシラ	<i>Scleria caricina</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

茨城県[絶滅] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)] 千葉県[最重要保護生物(A)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 三重県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 大阪府[EX] 兵庫県[B ランク] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 岡山県[準絶滅危惧] 広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山口県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 福岡県[絶滅] 佐賀県[絶滅種] 長崎県[情報不足(DD)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 大分県[情報不足(DD)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠB 類(EN-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Diplacrum caricinum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Diplacrum caricinum is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Wetland development, Abandonment of management, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

チシママツバイ

Eleocharis acicularis var. *acicularis*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

マツバイに似るが、花被片は無いが 1-3 個、果実より短い。

【生活史】

一年草。

【生育環境】

水湿地に生育。

【分布域】

本州・四国、北半球の暖温帯に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果

2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 帰化競合	その他	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チシママツバイ	<i>Eleocharis acicularis</i> var. <i>acicularis</i>	VU
第4次 2019:	チシママツバイ	<i>Eleocharis acicularis</i> var. <i>acicularis</i>	VU
第4次 2018:	チシママツバイ	<i>Eleocharis acicularis</i> var. <i>acicularis</i>	VU
第4次 2017:	チシママツバイ	<i>Eleocharis acicularis</i> var. <i>acicularis</i>	VU
第4次 2015:	チシママツバイ	<i>Eleocharis acicularis</i> var. <i>acicularis</i>	VU
第4次:	チシママツバイ	<i>Eleocharis acicularis</i> var. <i>acicularis</i>	VU
第3次:	チシママツバイ	<i>Eleocharis acicularis</i> var. <i>acicularis</i>	VU
第2次:	チシママツバイ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 徳島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eleocharis acicularis var. *acicularis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Eleocharis acicularis* var. *acicularis* is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Invasive species competition, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

スジヌマハリイ

Eleocharis equisetiformis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 30-50 cm。茎に縦の数条がある。柱頭は 2 個。刺針状花被片は 4 本かまたはない。果実は長さ 1-1.3 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

砂がちの湿地に生育。

【分布域】

本州・九州、朝鮮半島・中国～中央アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで絶滅し、9 メッシュで計数万個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	5	1	1	2	0	9	2	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 湿地開発	池沼開発	自然遷移
件数 3	2	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	スジヌマハリイ	<i>Eleocharis equisetiformis</i>	VU
第4次 2019:	スジヌマハリイ	<i>Eleocharis equisetiformis</i>	VU
第4次 2018:	スジヌマハリイ	<i>Eleocharis equisetiformis</i>	VU
第4次 2017:	スジヌマハリイ	<i>Eleocharis equisetiformis</i>	VU
第4次 2015:	スジヌマハリイ	<i>Eleocharis equisetiformis</i>	VU
第4次:	スジヌマハリイ	<i>Eleocharis equisetiformis</i>	VU
第3次:	スジヌマハリイ	<i>Eleocharis equisetiformis</i>	NT
第2次:	スジヌマハリイ	<i>Eleocharis equisetiformis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 宮城県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 秋田県[絶滅危惧種ⅠB 類(EN)] 福島県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 茨城県[情報不足②現状不明種] 群馬県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 千葉県[一般保護生物(D)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 新潟県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 富山県[絶滅危惧Ⅰ類] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR)] 山梨県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 長野県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 島根県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA 類] 高知県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 福岡県[絶滅危惧ⅠB 類] 宮崎県[絶滅(EX-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eleocharis equisetiformis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Eleocharis equisetiformis is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100

years.	
Threat types:	Wetland development, Pond development, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

シロミノハリイ

Eleocharis margaritacea

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 25-50 cm。小穂は長さ 7-12 mm、狭卵形または広披針形、茎よりも明らかに太く、光沢がある。果実は長さ 3 mm、倒卵形、白色。

【生活史】

多年草。果実成熟は 6-7 月。

【生育環境】

湿原に生育。

【分布域】

北海道・本州（岩手県）、千島列島・カムチャツカに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シロミノハリイ	<i>Eleocharis margaritacea</i>	VU
第4次 2019:	シロミノハリイ	<i>Eleocharis margaritacea</i>	VU
第4次 2018:	シロミノハリイ	<i>Eleocharis margaritacea</i>	VU
第4次 2017:	シロミノハリイ	<i>Eleocharis margaritacea</i>	VU
第4次 2015:	シロミノハリイ	<i>Eleocharis margaritacea</i>	VU
第4次:	シロミノハリイ	<i>Eleocharis margaritacea</i>	VU
第3次:	シロミノハリイ	<i>Eleocharis margaritacea</i>	EN
第2次:	シロミノハリイ	<i>Eleocharis margaritacea</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)] 岩手県[A ランク]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eleocharis margaritacea has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Eleocharis margaritacea is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コツブヌマハリイ

*Eleocharis parvinux***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 30-60 cm。果実は長さ 1-1.2 mm、倒卵形、黄褐色。刺針状花被片は 4 個、やや硬く、直立し、長さは果実の 2-3 倍。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

平地の沼や川岸の湿地に生育。

【分布域】

本州（関東以北）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	3	1	0	0	5	0	4

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	農薬汚染	管理放棄
件数 4	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コツブヌマハリイ	<i>Eleocharis parvinux</i>	VU
第4次 2019:	コツブヌマハリイ	<i>Eleocharis parvinux</i>	VU
第4次 2018:	コツブヌマハリイ	<i>Eleocharis parvinux</i>	VU
第4次 2017:	コツブヌマハリイ	<i>Eleocharis parvinux</i>	VU
第4次 2015:	コツブヌマハリイ	<i>Eleocharis parvinux</i>	VU
第4次:	コツブヌマハリイ	<i>Eleocharis parvinux</i>	VU
第3次:	コツブヌマハリイ	<i>Eleocharis parvinux</i>	VU
第2次:	コツブヌマハリイ	<i>Eleocharis parvinux</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮城県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 茨城県[絶滅危惧Ⅱ類] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 千葉県[要保護生物(C)] 東京都(本土部)[区部:絶滅(EX) 本土部:絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 東京都(北多摩)[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 東京都(南多摩)[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eleocharis parvinux has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Eleocharis parvinux* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Pesticide pollution, Abandonment of management
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

チャボイ

Eleocharis parvula

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	基準 D
推定開花株数が 1000 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

マツバイに似るが、高さ 3-7 cm、匍枝の先に塊茎を作り越冬し、小穂は長さ約 3 mm、卵形または長楕円形。果実は長さ 1 mm、倒卵形。

【生活史】

一年草。

【生育環境】

海水の出入りする塩田などに生育。

【分布域】

本州～九州、ヨーロッパ・シベリア・北アフリカ・北アメリカ・南アメリカに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで絶滅し、13 メッシュで計数万個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	3	5	2	2	13	3	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他	湿地開発	自然遷移
件数 8	5	5

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チャボイ	<i>Eleocharis parvula</i>	VU
第4次 2019:	チャボイ	<i>Eleocharis parvula</i>	VU
第4次 2018:	チャボイ	<i>Eleocharis parvula</i>	VU
第4次 2017:	チャボイ	<i>Eleocharis parvula</i>	VU
第4次 2015:	チャボイ	<i>Eleocharis parvula</i>	VU
第4次:	チャボイ	<i>Eleocharis parvula</i>	VU
第3次:	チャボイ	<i>Eleocharis parvula</i>	VU
第2次:	チャボイ	<i>Eleocharis parvula</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[C ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 福島県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 茨城県[情報不足①注目種] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[準絶滅危惧(NT)] 徳島県[絶滅危惧Ⅱ類] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 高知県[準絶滅危惧(NT)] 福岡県[絶滅] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 長崎県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA 類(CR-d)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eleocharis parvula has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Eleocharis parvula* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Other, Wetland development, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

ツクシテンツキ

Fimbristylis dichotoma subsp. *podocarpa*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

テンツキに似るが、小穂は長さ 8-15 mm、柄の先に単生し、果実は長さ 1.2-1.3 mm、全体的に有毛。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

原野に生育。

【分布域】

九州、台湾・中国・東南アジア・インド・オーストラリア・アフリカの熱帯・亜熱帯に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 4 メッシュで計数千個体と推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	2	1	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツクシテンツキ	<i>Fimbristylis dichotoma</i> subsp. <i>podocarpa</i>	VU
第4次 2019:	ツクシテンツキ	<i>Fimbristylis dichotoma</i> subsp. <i>podocarpa</i>	VU
第4次 2018:	ツクシテンツキ	<i>Fimbristylis dichotoma</i> subsp. <i>podocarpa</i>	VU
第4次 2017:	ツクシテンツキ	<i>Fimbristylis dichotoma</i> subsp. <i>podocarpa</i>	VU
第4次 2015:	ツクシテンツキ	<i>Fimbristylis dichotoma</i> subsp. <i>podocarpa</i>	VU
第4次:	ツクシテンツキ	<i>Fimbristylis dichotoma</i> subsp. <i>podocarpa</i>	VU
第3次:	ツクシテンツキ	<i>Fimbristylis dichotoma</i> subsp. <i>podocarpa</i>	VU
第2次:	ツクシテンツキ	<i>Fimbristylis tashiroana</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

愛媛県[情報不足(DD)] 熊本県[準絶滅危惧(NT)] 大分県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[準絶滅危惧] 沖縄県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Fimbristylis dichotoma subsp. *podocarpa* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Fimbristylis dichotoma* subsp. *podocarpa* is listed as VU under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オノエテンツキ

Fimbristylis fusca

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヤリテンツキに似るが、小穂は長さ 7-10 mm、やや数多くつき、有柄で、ほぼ散状に並び、披針形で扁平、やや尖り、光沢がなく、濃褐色。苞は長さ 5 cm。果実は長さ約 1 mm、広倒卵形、白色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

台地・丘陵地に生育。

【分布域】

四国・九州、中国・インド・インドネシアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が確認された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オノエテンツキ	<i>Fimbristylis fusca</i>	VU
第4次 2019:	オノエテンツキ	<i>Fimbristylis fusca</i>	VU
第4次 2018:	オノエテンツキ	<i>Fimbristylis fusca</i>	VU
第4次 2017:	オノエテンツキ	<i>Fimbristylis fusca</i>	VU
第4次 2015:	オノエテンツキ	<i>Fimbristylis fusca</i>	VU
第4次:	オノエテンツキ	<i>Fimbristylis fusca</i>	VU
第3次:	オノエテンツキ	<i>Fimbristylis fusca</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

高知県[絶滅(EX)] 熊本県[情報不足(DD)] 大分県[情報不足(DD)] 宮崎県[絶滅危惧 I A 類 (CR-r)] 鹿児島県[準絶滅危惧]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020 年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Fimbristylis fusca has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Fimbristylis fusca* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムニンテンツキ

Fimbristylis longispica var. *boninensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ナガボテンツキやハハジマテンツキに似るが、小穂が密集してつく。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

日当たりの良い乾燥した緩傾斜地に生育。

【分布域】

小笠原諸島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 5 メッシュで数百個体と推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	4	0	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムニンテンツキ	<i>Fimbristylis longispica</i> var. <i>boninensis</i>	VU
第4次 2019:	ムニンテンツキ	<i>Fimbristylis longispica</i> var. <i>boninensis</i>	VU
第4次 2018:	ムニンテンツキ	<i>Fimbristylis longispica</i> var. <i>boninensis</i>	VU
第4次 2017:	ムニンテンツキ	<i>Fimbristylis longispica</i> var. <i>boninensis</i>	VU
第4次 2015:	ムニンテンツキ	<i>Fimbristylis longispica</i> var. <i>boninensis</i>	VU
第4次:	ムニンテンツキ	<i>Fimbristylis longispica</i> var. <i>boninensis</i>	VU
第3次:	ムニンテンツキ	<i>Fimbristylis longispica</i> var. <i>boninensis</i>	VU
第2次:	ムニンテンツキ	<i>Fimbristylis longispica</i> var. <i>boninensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 東京都環境局自然環境部，2014．東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014．<https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Fimbristylis longispica var. *boninensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Fimbristylis longispica* var. *boninensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ノハラテンツキ

Fimbristylis pierotii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ノテンツキに似るが、根茎はよく発達し、横に這い、長さ 5 cm になる。小穂は長さ 7-15 mm、広披針形、栗褐色。果実は長さ約 1.2 mm、白色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山中の草地に生育。

【分布域】

本州西部～九州、中国・インド・フィリピンに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数千個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	2	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	その他	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ノハラテンツキ	<i>Fimbristylis pierotii</i>	VU
第4次 2019:	ノハラテンツキ	<i>Fimbristylis pierotii</i>	VU
第4次 2018:	ノハラテンツキ	<i>Fimbristylis pierotii</i>	VU
第4次 2017:	ノハラテンツキ	<i>Fimbristylis pierotii</i>	VU
第4次 2015:	ノハラテンツキ	<i>Fimbristylis pierotii</i>	VU
第4次:	ノハラテンツキ	<i>Fimbristylis pierotii</i>	VU
第3次:	ノハラテンツキ	<i>Fimbristylis pierotii</i>	VU
第2次:	ノハラテンツキ	<i>Fimbristylis pierotii</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 三重県[絶滅(EX)] 山口県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛媛県[情報不足(DD)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 佐賀県[準絶滅危惧種] 長崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[情報不足(DD)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Fimbristylis pierotii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Fimbristylis pierotii* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Other

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トネテンツキ

Fimbristylis stauntonii var. *tonensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ハタケテンツキに似るが、小穂の各部が大きく、花柱と柱頭は長さ 2.5-3 mm とやや大きい。

【生活史】

一年草。

【生育環境】

平地の河岸湿地に生育。

【分布域】

本州（近畿以北）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 7 メッシュで計数千個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	2	1	2	0	7	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 河川開発	湿地開発	産地局限
件数 2	2	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トネテンツキ	<i>Fimbristylis stauntonii</i> var. <i>tonensis</i>	VU
第4次 2019:	トネテンツキ	<i>Fimbristylis stauntonii</i> var. <i>tonensis</i>	VU
第4次 2018:	トネテンツキ	<i>Fimbristylis stauntonii</i> var. <i>tonensis</i>	VU
第4次 2017:	トネテンツキ	<i>Fimbristylis stauntonii</i> var. <i>tonensis</i>	VU
第4次 2015:	トネテンツキ	<i>Fimbristylis stauntonii</i> var. <i>tonensis</i>	VU
第4次:	トネテンツキ	<i>Fimbristylis stauntonii</i> var. <i>tonensis</i>	VU
第3次:	トネテンツキ	<i>Fimbristylis stauntonii</i> var. <i>tonensis</i>	VU
第2次:	トネテンツキ	<i>Fimbristylis stauntonii</i> var. <i>tonensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 茨城県[絶滅危惧ⅠB類]
群馬県[絶滅(EX)] 千葉県[一般保護生物(D)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 愛知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 三重県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[EX] 奈良県[絶滅種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 三重県農林水産部みどり共生推進課，2015．三重県レッドデータブック 2015．三重県農林水産部みどり共生推進課，757pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Fimbristylis stauntonii var. *tonensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Fimbristylis stauntonii* var. *tonensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	River development, Wetland development, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

シマイガクサ

Rhynchospora boninensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

叢生する。高さ 20-60 cm。葉は長さ 15-20 cm、線形。花序は幅 10-15 mm、頭状、球形、1 個が頂生する。果実は長さ 2-2.5 mm、狭倒卵形、上縁に短毛がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

日当たりの良い緩斜面の草原や疎林に生育。

【分布域】

小笠原諸島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シマイガクサ	<i>Rhynchospora boninensis</i>	VU
第4次 2019:	シマイガクサ	<i>Rhynchospora boninensis</i>	VU
第4次 2018:	シマイガクサ	<i>Rhynchospora boninensis</i>	VU
第4次 2017:	シマイガクサ	<i>Rhynchospora boninensis</i>	VU
第4次 2015:	シマイガクサ	<i>Rhynchospora boninensis</i>	VU
第4次:	シマイガクサ	<i>Rhynchospora boninensis</i>	VU
第3次:	シマイガクサ	<i>Rhynchospora boninensis</i>	EN
第2次:	シマイガクサ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 東京都環境局自然環境部，2014．東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014．<https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhynchospora boninensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Rhynchospora boninensis is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハタベカンガレイ

*Schoenoplectiella gemmifera***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

カンガレイに似るが、全体に軟らかく、柱頭は 2 岐。高さ 50-120 cm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

低地の湧水地に生育。

【分布域】

本州・四国・九州、朝鮮半島南部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 7 メッシュで計数千個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	2	1	1	2	0	7	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 河川開発	自然遷移	管理放棄
件数 3	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハタベカンガレイ	<i>Schoenoplectus gemmifer</i>	VU
第4次 2019:	ハタベカンガレイ	<i>Schoenoplectus gemmifer</i>	VU
第4次 2018:	ハタベカンガレイ	<i>Schoenoplectus gemmifer</i>	VU
第4次 2017:	ハタベカンガレイ	<i>Schoenoplectus gemmifer</i>	VU
第4次 2015:	ハタベカンガレイ	<i>Schoenoplectus gemmifer</i>	VU
第4次:	ハタベカンガレイ	<i>Schoenoplectus gemmifer</i>	VU
第3次:	ハタベカンガレイ	<i>Schoenoplectus gemmifer</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

栃木県[準絶滅危惧(C ランク)] 群馬県[情報不足(DD)] 東京都(本土部)[区部：絶滅(EX) 本土部：絶滅(EX)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 富山県[絶滅危惧Ⅰ類] 福井県[県域絶滅危惧Ⅱ類] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 三重県[EN] 滋賀県[要注目種] 京都府[絶滅寸前種] 兵庫県[B ランク] 奈良県[絶滅寸前種] 鳥取県[準絶滅危惧(NT)] 広島県[情報不足(DD)] 山口県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠB 類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 長崎県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 熊本県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 大分県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA 類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会, 2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020 年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課, 380pp.
- 奈良県レッドデータブック改訂委員会, 2017. 大切にしたい奈良県の野生動植物—奈良県版レッドデータブック 2016 改訂版—. 奈良県くらし創造部景観・環境局, 791pp.
- 特定非営利活動法人みんなでつくる自然史博物館・香川, 2021. 香川県レッドデータブック 2021 香川県の希少野生生物. 香川県環境森林部みどり保全課, 503pp.
- Iwatsuki, K., D. E. Boufford and H. Ohba, 2020. Flora of Japan, Vol. IVa, Kodansha, Tokyo. 448pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Schoenoplectiella gemmifera has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Schoenoplectiella gemmifera is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	River development, Natural succession, Abandonment of management
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

ヒメカンガレイ

Schoenoplectiella mucronata var. *mucronata*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 40-80 cm。葉は長さ 2-5 cm。小穂は花序に 3-8 個つき、長さ 6-10 mm、卵形。果実は長さ 1.5-1.8 mm、横断面は 3 稜形になる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

池や湿地に生育。

【分布域】

本州（近畿以西）・四国・九州に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、13 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
4	8	0	0	1	0	13	1	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	管理放棄	池沼開発
件数 10	3	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメカンガレイ	<i>Schoenoplectus mucronatus</i> var. <i>mucronatus</i>	VU
第4次 2019:	ヒメカンガレイ	<i>Schoenoplectus mucronatus</i> var. <i>mucronatus</i>	VU
第4次 2018:	ヒメカンガレイ	<i>Schoenoplectus mucronatus</i> var. <i>mucronatus</i>	VU
第4次 2017:	ヒメカンガレイ	<i>Schoenoplectus mucronatus</i> var. <i>mucronatus</i>	VU
第4次 2015:	ヒメカンガレイ	<i>Schoenoplectus mucronatus</i> var. <i>mucronatus</i>	VU
第4次:	ヒメカンガレイ	<i>Schoenoplectus mucronatus</i> var. <i>mucronatus</i>	VU
第3次:	ヒメカンガレイ	<i>Schoenoplectus mucronatus</i> var. <i>mucronatus</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

京都府[絶滅寸前種] 大阪府[EX] 兵庫県[A ランク] 和歌山県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 山口県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 徳島県[絶滅危惧ⅠB類] 香川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 福岡県[絶滅危惧ⅠB類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅱ類種] 長崎県[準絶滅危惧種(NT)] 熊本県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 大分県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 星野卓二・正木智美・西本眞理子，2011．日本カヤツリグサ科植物図譜．778pp．平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Schoenoplectiella mucronata var. *mucronata* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Schoenoplectiella mucronata* var. *mucronata* is listed as VU under criteria E. E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Abandonment of management, Pond development

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タカネクロスゲ

Scirpus maximowiczii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15-40 cm。葉鞘は長さ 3-4 cm、ややゆるく茎を包み、葉身は長さ 3-7 cm。花序は長さ 3-5 cm、1 個が頂生し、やや一方に傾く。小穂は散房花序に 4-18 個つき、長さ 7-10 mm、長楕円形、灰黒色。果実は長さ 1.3 mm、倒卵形。

【生活史】

多年草。果実成熟は 7-8 月。

【生育環境】

高山の湿った草地に生育。

【分布域】

北海道・本州中部以北、サハリン・千島列島・シベリア東部～ロシア極東地域・中国東北部・朝鮮半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数千個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	1	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タカネクロスゲ	<i>Scirpus maximowiczii</i>	VU
第4次 2019:	タカネクロスゲ	<i>Scirpus maximowiczii</i>	VU
第4次 2018:	タカネクロスゲ	<i>Scirpus maximowiczii</i>	VU
第4次 2017:	タカネクロスゲ	<i>Scirpus maximowiczii</i>	VU
第4次 2015:	タカネクロスゲ	<i>Scirpus maximowiczii</i>	VU
第4次:	タカネクロスゲ	<i>Scirpus maximowiczii</i>	VU
第3次:	タカネクロスゲ	<i>Scirpus maximowiczii</i>	VU
第2次:	タカネクロスゲ	<i>Scirpus maximowiczii</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[重要希少野生生物(B ランク)] 岩手県[B ランク] 宮城県[準絶滅危惧(NT)] 秋田県[絶滅危惧種 I B 類(EN)] 山形県[絶滅危惧 I A 類 (CR)] 群馬県[絶滅危惧 II 類(VU)] 新潟県[絶滅危惧 II 類(VU)] 富山県[準絶滅危惧] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Scirpus maximowiczii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Scirpus maximowiczii* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミカワシンジュガヤ

Scleria mikawana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 30-50 cm。叢生する。葉は長さ 10-40 cm、幅 2-5 mm、線形、葉鞘に翼がなく、密に茎を包む。分花序は長さ 2-4 cm、2-3 個。果実は径 1.8-2.5 mm、格子紋があり、白色。

【生活史】

一年草。

【生育環境】

湿地に生育。

【分布域】

本州（茨城県以西）・九州、インド・スリランカ・タイ・ニューギニア・アフリカに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで絶滅し、5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	3	0	1	0	0	5	2	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	湿地開発	池沼開発
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミカワシンジュガヤ	<i>Scleria mikawana</i>	VU
第4次 2019:	ミカワシンジュガヤ	<i>Scleria mikawana</i>	VU
第4次 2018:	ミカワシンジュガヤ	<i>Scleria mikawana</i>	VU
第4次 2017:	ミカワシンジュガヤ	<i>Scleria mikawana</i>	VU
第4次 2015:	ミカワシンジュガヤ	<i>Scleria mikawana</i>	VU
第4次:	ミカワシンジュガヤ	<i>Scleria mikawana</i>	VU
第3次:	ミカワシンジュガヤ	<i>Scleria mikawana</i>	VU
第2次:	ミカワシンジュガヤ	<i>Scleria mikawana</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

茨城県[情報不足②現状不明種] 千葉県[最重要保護生物(A)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅱ類] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 愛知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 三重県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 滋賀県[絶滅危惧種] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[CR+EN] 兵庫県[Bランク] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[留意] 愛媛県[情報不足(DD)] 福岡県[絶滅] 佐賀県[絶滅種] 大分県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Scleria mikawana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Scleria mikawana* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Wetland development, Pond development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

クロミノシンジュガヤ

Scleria sumatrensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立またはややつる状となり、長さ 100-400 cm。葉は長さ 20-40 cm、幅 7-15 mm、線形。葉鞘舌には密に縁毛がある。花序は長さ 15-30 cm、円錐形。分花序は 5-8 個。果実は径 2-3 mm、格子紋があり、暗灰色から褐色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

低地の日当たりのよい湿地に生育。

【分布域】

琉球（大東諸島）、台湾・中国南部・インド・スリランカ・東南アジア・オーストラリアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	2	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クロミノシンジュガヤ	<i>Scleria sumatrensis</i>	VU
第4次 2019:	クロミノシンジュガヤ	<i>Scleria sumatrensis</i>	VU
第4次 2018:	クロミノシンジュガヤ	<i>Scleria sumatrensis</i>	VU
第4次 2017:	クロミノシンジュガヤ	<i>Scleria sumatrensis</i>	VU
第4次 2015:	クロミノシンジュガヤ	<i>Scleria sumatrensis</i>	VU
第4次:	クロミノシンジュガヤ	<i>Scleria sumatrensis</i>	VU
第3次:	クロミノシンジュガヤ	<i>Scleria sumatrensis</i>	VU
第2次:	クロミノシンジュガヤ	<i>Scleria sumatrensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Scleria sumatrensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Scleria sumatrensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ユキクラヌカボ

*Agrostis hideoi***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミヤマヌカボやコミヤマヌカボに似るが、護穎は 5 脈、芒は長さ 3-3.5 mm、中脈から出て膝折れする。側脈 2 本からも細い芒が出て、長さ 0.5-1 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

深山に生育。

【分布域】

新潟県・富山県・長野県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	1	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ユキクラヌカボ	<i>Agrostis hideoi</i>	EN
第4次 2019:	ユキクラヌカボ	<i>Agrostis hideoi</i>	EN
第4次 2018:	ユキクラヌカボ	<i>Agrostis hideoi</i>	EN
第4次 2017:	ユキクラヌカボ	<i>Agrostis hideoi</i>	EN
第4次 2015:	ユキクラヌカボ	<i>Agrostis hideoi</i>	EN
第4次:	ユキクラヌカボ	<i>Agrostis hideoi</i>	EN
第3次:	ユキクラヌカボ	<i>Agrostis hideoi</i>	EN
第2次:	ユキクラヌカボ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福島県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]
新潟県[準絶滅危惧(NT)] 富山県[情報不足] 長野県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Agrostis hideoi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Agrostis hideoi* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イネ科 Poaceae/Gramineae

ミヤマハルガヤ

Anthoxanthum odoratum subsp. *nipponicum*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ハルガヤに似るが、中性小花の護穎を除き、全体無毛。包穎には毛も細点もない。

【生活史】

多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

高山の草本帯に生育。

【分布域】

南千島・北海道（利尻岳）・本州（南アルプス）、朝鮮半島北部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 6 メッシュで計数百個体と推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果

2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	3	3	0	0	0	6	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミヤマハルガヤ	<i>Anthoxanthum nipponicum</i>	VU
第4次 2019:	ミヤマハルガヤ	<i>Anthoxanthum nipponicum</i>	VU
第4次 2018:	ミヤマハルガヤ	<i>Anthoxanthum nipponicum</i>	VU
第4次 2017:	ミヤマハルガヤ	<i>Anthoxanthum nipponicum</i>	VU
第4次 2015:	ミヤマハルガヤ	<i>Anthoxanthum nipponicum</i>	VU
第4次:	ミヤマハルガヤ	<i>Anthoxanthum nipponicum</i>	VU
第3次:	ミヤマハルガヤ	<i>Anthoxanthum nipponicum</i>	VU
第2次:	ミヤマハルガヤ	<i>Anthoxanthum odoratum</i> var. <i>furumii</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 山梨県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 長野県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Anthoxanthum odoratum subsp. *nipponicum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Anthoxanthum odoratum* subsp. *nipponicum* is listed as VU under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イネ科 Poaceae/Gramineae

マツバシバ

Aristida boninensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

オオマツバシバに似る。叢生し、葉身は糸状、先は尖る。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

稜線近くの岩石地や裸地に生育。

【分布域】

小笠原諸島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化はない。
1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	9	2	0	0	0	14	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	マツバシバ	<i>Aristida boninensis</i>	VU
第4次 2019:	マツバシバ	<i>Aristida boninensis</i>	VU
第4次 2018:	マツバシバ	<i>Aristida boninensis</i>	VU
第4次 2017:	マツバシバ	<i>Aristida boninensis</i>	VU
第4次 2015:	マツバシバ	<i>Aristida boninensis</i>	VU
第4次:	マツバシバ	<i>Aristida boninensis</i>	VU
第3次:	マツバシバ	<i>Aristida cumingiana</i>	EN
第2次:	マツバシバ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aristida boninensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Aristida boninensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオマツバシバ

*Aristida takeoi***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 21-75 cm。叢生する。葉身は長さ 4-20 cm、糸状、先は尖る。葉舌は長さ 0.5 mm、切形、先は歯牙状。花序は長さ 7-20 cm、卵形。小穂は 1-2 花からなる。第 1 包穎は長さ 8 mm、竜骨が無く、3 脈で革質。第 2 包穎は長さ 10 mm、1 脈。芒は長さ 10 mm、3 本。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿った土地に生育。

【分布域】

奄美から沖縄島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオマツバシバ	<i>Aristida takeoi</i>	EN
第4次 2019:	オオマツバシバ	<i>Aristida takeoi</i>	EN
第4次 2018:	オオマツバシバ	<i>Aristida takeoi</i>	EN
第4次 2017:	オオマツバシバ	<i>Aristida takeoi</i>	EN
第4次 2015:	オオマツバシバ	<i>Aristida takeoi</i>	EN
第4次:	オオマツバシバ	<i>Aristida takeoi</i>	EN
第3次:	オオマツバシバ	<i>Aristida takeoi</i>	EN
第2次:	オオマツバシバ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016．改訂新版日本の野生植物 2．381pp., 256pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aristida takeoi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Aristida takeoi* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマノガリヤス

*Calamagrostis masamunei***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヒゲノガリヤスに似るが、かなり小型で、基毛の長さは護穎の半分以下、芒は護穎の下部から伸びる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高地に生育。

【分布域】

屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマノガリヤス	<i>Calamagrostis masamunei</i>	VU
第4次 2019:	ヤクシマノガリヤス	<i>Calamagrostis masamunei</i>	VU
第4次 2018:	ヤクシマノガリヤス	<i>Calamagrostis masamunei</i>	VU
第4次 2017:	ヤクシマノガリヤス	<i>Calamagrostis masamunei</i>	VU
第4次 2015:	ヤクシマノガリヤス	<i>Calamagrostis masamunei</i>	VU
第4次:	ヤクシマノガリヤス	<i>Calamagrostis masamunei</i>	VU
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016．改訂新版日本の野生植物 2．381pp., 256pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Calamagrostis masamunei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Calamagrostis masamunei is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ザラツキヒナガリヤス

Calamagrostis nana subsp. *hayachinensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヒナガリヤスに似るが、花序の枝や小穂の柄にざらつきがある。芒は長さ 1.5-3.5 mm、先端は護穎より低い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山帯に生育。

【分布域】

岩手県（早池峰山）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ザラツキヒナガリヤス	<i>Calamagrostis nana</i> subsp. <i>hayachinensis</i>	EN
第4次 2019:	ザラツキヒナガリヤス	<i>Calamagrostis nana</i> subsp. <i>hayachinensis</i>	EN
第4次 2018:	ザラツキヒナガリヤス	<i>Calamagrostis nana</i> subsp. <i>hayachinensis</i>	EN
第4次 2017:	ザラツキヒナガリヤス	<i>Calamagrostis nana</i> subsp. <i>hayachinensis</i>	EN
第4次 2015:	ザラツキヒナガリヤス	<i>Calamagrostis nana</i> subsp. <i>hayachinensis</i>	EN
第4次:	ザラツキヒナガリヤス	<i>Calamagrostis nana</i> subsp. <i>hayachinensis</i>	EN
第3次:	ザラツキヒナガリヤス	<i>Calamagrostis nana</i> subsp. <i>hayachinensis</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[A ランク] 群馬県[情報不足(DD)] 静岡県[要注目種(N-Ⅲ部会注目種)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 長田武正，1989. 日本イネ科植物図譜. 759pp. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Calamagrostis nana subsp. *hayachinensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Calamagrostis nana* subsp. *hayachinensis* is listed as VU under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツクシガヤ

Chikusichloa aquatica

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 60-80 cm。根茎があり株立ちする。葉身は長さ 30-70 cm、線形で薄く、ざらつきがある。円錐花序は長さ 40-50 cm、単生して直立。小穂は長さ 3 mm。芒は長さ 5-6 mm。

【生活史】

多年草。花期は 8-10 月。

【生育環境】

水湿地に生育。

【分布域】

本州・九州、中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、7 メッシュで計数万個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
4	1	0	1	0	1	7	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 河川開発	自然遷移	産地局限
件数 3	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツクシガヤ	<i>Chikusichloa aquatica</i>	VU
第4次 2019:	ツクシガヤ	<i>Chikusichloa aquatica</i>	VU
第4次 2018:	ツクシガヤ	<i>Chikusichloa aquatica</i>	VU
第4次 2017:	ツクシガヤ	<i>Chikusichloa aquatica</i>	VU
第4次 2015:	ツクシガヤ	<i>Chikusichloa aquatica</i>	VU
第4次:	ツクシガヤ	<i>Chikusichloa aquatica</i>	VU
第3次:	ツクシガヤ	<i>Chikusichloa aquatica</i>	EN
第2次:	ツクシガヤ	<i>Chikusichloa aquatica</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

秋田県[絶滅危惧種ⅠA類(CR)] 山形県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 福島県[情報不足(DD)] 兵庫県[Aランク] 奈良県[絶滅寸前種,注目種] 広島県[準絶滅危惧(NT)] 福岡県[絶滅] 佐賀県[絶滅危惧Ⅱ類種] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Chikusichloa aquatica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Chikusichloa aquatica* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	River development, Natural succession, Limited distribution

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イネ科 Poaceae/Gramineae

イリオモテガヤ

Chikusichloa brachyanthera

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ツクシガヤに似るが、より小型で、護穎の芒も短い。

【生活史】

多年草。花期は 7-10 月。

【生育環境】

日陰の河原に生育。

【分布域】

西表島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	1	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イリオモテガヤ	<i>Chikusichloa brachyanthera</i>	VU
第4次 2019:	イリオモテガヤ	<i>Chikusichloa brachyanthera</i>	VU
第4次 2018:	イリオモテガヤ	<i>Chikusichloa brachyanthera</i>	VU
第4次 2017:	イリオモテガヤ	<i>Chikusichloa brachyanthera</i>	VU
第4次 2015:	イリオモテガヤ	<i>Chikusichloa brachyanthera</i>	VU
第4次:	イリオモテガヤ	<i>Chikusichloa brachyanthera</i>	VU
第3次:	イリオモテガヤ	<i>Chikusichloa brachyanthera</i>	VU
第2次:	イリオモテガヤ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 茨木靖，2000，西表島固有イネ科水生植物イリオモテガヤ（*Chikusichloa brachyanthera* Ohwi）の生育環境. 水草研究研会報，70: 20-21.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Chikusichloa brachyanthera has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Chikusichloa brachyanthera* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミズタカモジ

Elymus humidus

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

葉鞘の外縁は無毛、茎は後に倒れて地を這う。倒れた茎の各節から新苗が出て、翌年の茎となり開花する。花穂は太く直立し、小穂は圧着する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

水田に生育。

【分布域】

本州・九州に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで絶滅し、28 メッシュで計数万個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	8	9	7	2	0	28	3	10

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 農薬汚染	管理放棄	その他
件数 7	7	7

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミズタカモジ	<i>Elymus humidus</i>	VU
第4次 2019:	ミズタカモジ	<i>Elymus humidus</i>	VU
第4次 2018:	ミズタカモジ	<i>Elymus humidus</i>	VU
第4次 2017:	ミズタカモジ	<i>Elymus humidus</i>	VU
第4次 2015:	ミズタカモジ	<i>Elymus humidus</i>	VU
第4次:	ミズタカモジ	<i>Elymus humidus</i>	VU
第3次:	ミズタカモジ	<i>Elymus humidus</i>	VU
第2次:	ミズタカモジ	<i>Agropyron humidorum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮城県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 福島県[情報不足(DD)] 茨城県[情報不足②現状不明種] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)] 群馬県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 東京都(本土部)[本土部：絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 東京都(北多摩)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 東京都(南多摩)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 東京都(西多摩)[情報不足(DD)] 静岡県[情報不足(DD)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 三重県[CR] 滋賀県[絶滅危惧種] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[EX] 兵庫県[A ランク] 奈良県[絶滅寸前種] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 山口県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 徳島県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 高知県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA 類] 長崎県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 大分県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA 類(CR-g)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Elymus humidus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Elymus humidus* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.	
Threat types:	Pesticide pollution, Abandonment of management, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オニカモジ

Elymus tsukushiensis var. *tsukushiensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

花穂は長さ 15-25 cm、上方が下垂する。小穂は長さ 15-25 mm、粉緑色または汚紫色。護穎は長さ 9-12 mm、長い軟毛が生える。

【生活史】

多年草。花期は 5-7 月。

【生育環境】

平地の草原または道端や堤防に生育。

【分布域】

九州北部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オニカモジ	<i>Elymus tsukushiensis</i> var. <i>tsukushiensis</i>	CR
第4次 2019:	オニカモジ	<i>Elymus tsukushiensis</i> var. <i>tsukushiensis</i>	CR
第4次 2018:	オニカモジ	<i>Elymus tsukushiensis</i> var. <i>tsukushiensis</i>	CR
第4次 2017:	オニカモジ	<i>Elymus tsukushiensis</i> var. <i>tsukushiensis</i>	CR
第4次 2015:	オニカモジ	<i>Elymus tsukushiensis</i> var. <i>tsukushiensis</i>	CR
第4次:	オニカモジ	<i>Elymus tsukushiensis</i> var. <i>tsukushiensis</i>	CR
第3次:	オニカモジ	<i>Elymus tsukushiensis</i>	CR
第2次:	オニカモジ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福岡県[絶滅] 長崎県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Elymus tsukushiensis var. *tsukushiensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Elymus tsukushiensis* var. *tsukushiensis* is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イネ科 Poaceae/Gramineae

イゼナガヤ

Eriachne armittii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15-50 cm。叢生する。葉身は長さ 15 cm、剛毛がある。花序は長さ 3-7 cm。包穎は長さ 7-10 mm、基部がふくらんだ毛がある。護穎は長さ 2.5-4 mm、軟骨質、軟毛がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

乾いた原野、リュウキュウマツ林の林床等に生育。

【分布域】

沖縄県、オーストラリア・ニューギニアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イゼナガヤ	<i>Eriachne armitii</i>	EN
第4次 2019:	イゼナガヤ	<i>Eriachne armitii</i>	EN
第4次 2018:	イゼナガヤ	<i>Eriachne armitii</i>	EN
第4次 2017:	イゼナガヤ	<i>Eriachne armitii</i>	EN
第4次 2015:	イゼナガヤ	<i>Eriachne armitii</i>	EN
第4次:	イゼナガヤ	<i>Eriachne armitii</i>	EN
第3次:	イゼナガヤ	<i>Eriachne armitii</i>	EN
第2次:	イゼナガヤ	<i>Eriachne tawadai</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eriachne armitii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Eriachne armitii* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ウンヌケ

Eulalia speciosa

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) **基準 E**

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1 m 程度。茎の基部は黄褐色の毛が密生する葉鞘に囲まれ、太く見える。葉は線形。総は長さ 12-15 cm、花序に数個つき、毛が密生、黄褐紫色を帯びる。小穂は長さ約 5 mm、披針形。

【生活史】

多年草。花期は 9-10 月。

【生育環境】

草地に生育。

【分布域】

本州（中部以西）・九州、中国・インドに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 15 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	8	3	2	0	0	15	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 管理放棄	池沼開発	草地開発
件数 6	4	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウンヌケ	<i>Eulalia speciosa</i>	VU
第4次 2019:	ウンヌケ	<i>Eulalia speciosa</i>	VU
第4次 2018:	ウンヌケ	<i>Eulalia speciosa</i>	VU
第4次 2017:	ウンヌケ	<i>Eulalia speciosa</i>	VU
第4次 2015:	ウンヌケ	<i>Eulalia speciosa</i>	VU
第4次:	ウンヌケ	<i>Eulalia speciosa</i>	VU
第3次:	ウンヌケ	<i>Eulalia speciosa</i>	NT
第2次:	ウンヌケ	<i>Eulalia speciosa</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[準絶滅危惧(NT)] 三重県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 兵庫県[Bランク] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 福岡県[絶滅] 鹿児島県[情報不足]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eulalia speciosa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Eulalia speciosa* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Abandonment of management, Pond development, Grassland development

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

チイサンウシノケグサ

Festuca ovina var. *chiisanensis*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

タカネウシノケグサに似るが、護穎はより大きく、芒の長さは 1-1.5 mm とやや短い。葉身はやわらかく、縦溝が明瞭。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山に生育。

【分布域】

四国、朝鮮半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	2	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	自然遷移	不明
件数 2	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チイサンウシノケグサ	<i>Festuca chiisanensis</i>	VU
第4次 2019:	チイサンウシノケグサ	<i>Festuca chiisanensis</i>	VU
第4次 2018:	チイサンウシノケグサ	<i>Festuca chiisanensis</i>	VU
第4次 2017:	チイサンウシノケグサ	<i>Festuca chiisanensis</i>	VU
第4次 2015:	チイサンウシノケグサ	<i>Festuca chiisanensis</i>	VU
第4次:	チイサンウシノケグサ	<i>Festuca chiisanensis</i>	VU
第3次:	チイサンウシノケグサ	<i>Festuca chiisanensis</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

石川県[情報不足(DD)] 徳島県[絶滅危惧 IA 類] 愛媛県[情報不足(DD)] 高知県[準絶滅危惧 (NT)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Festuca ovina var. *chiisanensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Festuca ovina* var. *chiisanensis* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession, Unknown

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タカネソモソモ

*Festuca takedana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15-30 cm。花序は長さ 4-7 cm、小穂は長さ 7-8 mm、光沢がなく、紫褐色。包穎は披針形、護穎は背面にやや稜があり、芒はない。葯は長さ 3-4 mm。

【生活史】

多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

高山帯の中性草原に生育。

【分布域】

北海道・本州（中部地方）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 6 メッシュで計約千個体と推定された。踏みつけ、および高山植生の遷移の影響が指摘されていた。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	1	3	0	0	6	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タカネソモソモ	<i>Festuca takedana</i>	VU
第4次 2019:	タカネソモソモ	<i>Festuca takedana</i>	VU
第4次 2018:	タカネソモソモ	<i>Festuca takedana</i>	VU
第4次 2017:	タカネソモソモ	<i>Festuca takedana</i>	VU
第4次 2015:	タカネソモソモ	<i>Festuca takedana</i>	VU
第4次:	タカネソモソモ	<i>Festuca takedana</i>	VU
第3次:	タカネソモソモ	<i>Festuca takedana</i>	VU
第2次:	タカネソモソモ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

富山県[準絶滅危惧] 長野県[絶滅危惧 IB 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Festuca takedana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Festuca takedana* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アオシバ

Garnotia acutigluma

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 35-100 cm。葉身は長さ 20-35 cm、線形、先は尖り、短毛がある。花序は長さ 10-20 cm、披針形。小穂は長さ 3-8 mm、披針形。包穎は紙質、脈に沿いざらつく。芒は長さ 9.9-13 mm、護穎の先端からまっすぐ飛び出し、ややざらつく。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿った岩の斜面に生育。

【分布域】

沖縄県・南硫黄島、東南アジア・インドに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュで計数千個体の現存が報告された。しかし、自生地においてダム建設の予定があり、個体群存続の危機にある。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	1	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アオシバ	<i>Garnotia acutigluma</i>	VU
第4次 2019:	アオシバ	<i>Garnotia acutigluma</i>	VU
第4次 2018:	アオシバ	<i>Garnotia acutigluma</i>	VU
第4次 2017:	アオシバ	<i>Garnotia acutigluma</i>	VU
第4次 2015:	アオシバ	<i>Garnotia acutigluma</i>	VU
第4次:	アオシバ	<i>Garnotia acutigluma</i>	VU
第3次:	アオシバ	<i>Garnotia acutigluma</i>	VU
第2次:	アオシバ	<i>Garnotia acutigluma</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)] 沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Garnotia acutigluma has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Garnotia acutigluma* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イネ科 Poaceae/Gramineae

アカヒゲガヤ

Heteropogon contortus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

稈は斜上し、高さ 50-100 cm。総は長さ 3-8 cm、湾曲し一方に傾く。第 2 小花の護穎の芒は長さ 5-8 cm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

原野や人里近くに生育。

【分布域】

沖縄・九州（天草）、世界の熱帯地域に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	1	0	—	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アカヒゲガヤ	<i>Heteropogon contortus</i>	EN
第4次 2019:	アカヒゲガヤ	<i>Heteropogon contortus</i>	EN
第4次 2018:	アカヒゲガヤ	<i>Heteropogon contortus</i>	EN
第4次 2017:	アカヒゲガヤ	<i>Heteropogon contortus</i>	EN
第4次 2015:	アカヒゲガヤ	<i>Heteropogon contortus</i>	EN
第4次:	アカヒゲガヤ	<i>Heteropogon contortus</i>	EN
第3次:	アカヒゲガヤ	<i>Heteropogon contortus</i>	CR
第2次:	アカヒゲガヤ	<i>Heteropogon contortus</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

香川県[情報不足(DD)] 沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Heteropogon contortus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Heteropogon contortus* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イネ科 Poaceae/Gramineae

オキナワミゾイチゴツナギ

Poa acroleuca var. *ryukyuensis*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミゾイチゴツナギに似るが、護穎の脈間に毛が無いが、ほとんど無い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

公園など人為的な影響の強い草地に生育。

【分布域】

沖縄県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。産地と個体数が限られる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オキナワミゾイチゴツナギ	<i>Poa acroleuca</i> var. <i>ryukyuensis</i>	VU
第4次 2019:	オキナワミゾイチゴツナギ	<i>Poa acroleuca</i> var. <i>ryukyuensis</i>	VU
第4次 2018:	オキナワミゾイチゴツナギ	<i>Poa acroleuca</i> var. <i>ryukyuensis</i>	VU
第4次 2017:	オキナワミゾイチゴツナギ	<i>Poa acroleuca</i> var. <i>ryukyuensis</i>	VU
第4次 2015:	オキナワミゾイチゴツナギ	<i>Poa acroleuca</i> var. <i>ryukyuensis</i>	VU
第4次:	オキナワミゾイチゴツナギ	<i>Poa acroleuca</i> var. <i>ryukyuensis</i>	VU
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Poa acroleuca var. *ryukyuensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Poa acroleuca* var. *ryukyuensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イネ科 Poaceae/Gramineae

タカネタチイチゴツナギ

Poa glauca var. *glauca*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

イチゴツナギにやや似るが、丈は低く、平滑で、葉舌ははなはだ短く、切形。花序は長さ 3-7 cm、披針形、枝は短い。護穎は長さ 2.5-3 mm、ほとんど毛がない。葯は長さ 1.2-1.5 mm。もっとも上の節は稈の 1/3 より基部にある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山の岩石地に生育。

【分布域】

本州中部、サハリン・朝鮮半島北部から北半球にかけて分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	自然遷移	産地局限
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリと掲載名

第4次 2020:	タカネタチイチゴツナギ	<i>Poa glauca</i> var. <i>glauca</i>	VU
第4次 2019:	タカネタチイチゴツナギ	<i>Poa glauca</i> var. <i>glauca</i>	VU
第4次 2018:	タカネタチイチゴツナギ	<i>Poa glauca</i> var. <i>glauca</i>	VU
第4次 2017:	タカネタチイチゴツナギ	<i>Poa glauca</i> var. <i>glauca</i>	VU
第4次 2015:	タカネタチイチゴツナギ	<i>Poa glauca</i> var. <i>glauca</i>	VU
第4次:	タカネタチイチゴツナギ	<i>Poa glauca</i> var. <i>glauca</i>	VU
第3次:	タカネタチイチゴツナギ	<i>Poa glauca</i>	VU
第2次:	タカネタチイチゴツナギ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[情報不足(DD)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 富山県[絶滅危惧Ⅱ類] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Poa glauca var. *glauca* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Poa glauca* var. *glauca* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミヤマカニツリ

*Trisetum koidzumianum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎の節間に多少の毛がある。小穂は長さ 4-6 mm。護穎はほとんど平滑である。葯は長さ 1 mm 弱。

【生活史】

多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

高山草原に生育。

【分布域】

本州（南アルプス・北アルプス）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミヤマカニツリ	<i>Trisetum koidzumianum</i>	VU
第4次 2019:	ミヤマカニツリ	<i>Trisetum koidzumianum</i>	VU
第4次 2018:	ミヤマカニツリ	<i>Trisetum koidzumianum</i>	VU
第4次 2017:	ミヤマカニツリ	<i>Trisetum koidzumianum</i>	VU
第4次 2015:	ミヤマカニツリ	<i>Trisetum koidzumianum</i>	VU
第4次:	ミヤマカニツリ	<i>Trisetum koidzumianum</i>	VU
第3次:	ミヤマカニツリ	<i>Trisetum koidzumianum</i>	VU
第2次:	ミヤマカニツリ	<i>Trisetum koidzumianum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

富山県[情報不足] 山梨県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 長野県[絶滅危惧 IB 類(EN)] 静岡県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Trisetum koidzumianum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Trisetum koidzumianum* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イネ科 Poaceae/Gramineae

リシリカニツリ

Trisetum spicatum subsp. *alaskanum*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-30 cm。全体的に小型。上方に花序とともに白い軟毛がつく。花序は長さ 3-10 cm、穂状の円柱形。小穂は長さ 5-6 mm、密につき、ほとんど淡緑色。護穎は長さ 4-5 mm、鋭く尖り、不明な細点がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山草原に生育。

【分布域】

南千島・北海道・本州中部、南北両半球の寒帯・熱帯の高山に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	人の踏みつけ	
件数 3	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	リシリカニツリ	<i>Trisetum spicatum</i> subsp. <i>alaskanum</i>	VU
第4次 2019:	リシリカニツリ	<i>Trisetum spicatum</i> subsp. <i>alaskanum</i>	VU
第4次 2018:	リシリカニツリ	<i>Trisetum spicatum</i> subsp. <i>alaskanum</i>	VU
第4次 2017:	リシリカニツリ	<i>Trisetum spicatum</i> subsp. <i>alaskanum</i>	VU
第4次 2015:	リシリカニツリ	<i>Trisetum spicatum</i> subsp. <i>alaskanum</i>	VU
第4次:	リシリカニツリ	<i>Trisetum spicatum</i> subsp. <i>alaskanum</i>	VU
第3次:	リシリカニツリ	<i>Trisetum spicatum</i> subsp. <i>alaskanum</i>	VU
第2次:	リシリカニツリ	<i>Trisetum spicatum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 富山県[絶滅危惧Ⅱ類] 山梨県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 長野県[準絶滅危惧(NT)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Trisetum spicatum subsp. *alaskanum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Trisetum spicatum* subsp. *alaskanum* is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Human trampling
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イネ科 Poaceae/Gramineae

ビロードキビ

Urochloa villosa

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15-20 cm。全体に開出する軟毛がある。葉身は長さ 3-5 cm、先は細く尖り、基部は丸い。花序は長さ 4-6 cm、6-10 個の斜開する枝をつける。小穂は長さ 2.5-2.7 mm、総に圧着する。

【生活史】

一年草。

【生育環境】

海岸沿いに生育。

【分布域】

本州（紀伊半島）・四国・九州・琉球、中国（中南部）・台湾・インドネシア・インドに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	2	0	0	3	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番 目	2 番 目	3 番 目
要因 農薬汚染	管理放棄	帰化競合
件数	2	2

2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ビロードキビ	<i>Brachiaria villosa</i>	EN
第4次 2019:	ビロードキビ	<i>Brachiaria villosa</i>	EN
第4次 2018:	ビロードキビ	<i>Brachiaria villosa</i>	EN
第4次 2017:	ビロードキビ	<i>Brachiaria villosa</i>	EN
第4次 2015:	ビロードキビ	<i>Brachiaria villosa</i>	EN
第4次:	ビロードキビ	<i>Brachiaria villosa</i>	EN
第3次:	ビロードキビ	<i>Brachiaria villosa</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

愛知県[絶滅(EX)] 三重県[絶滅危惧 IB 類(EN)] 和歌山県[準絶滅危惧(NT)] 徳島県[留意]
愛媛県[情報不足(DD)] 熊本県[絶滅(EX)] 大分県[情報不足(DD)] 宮崎県[絶滅危惧 I B 類
(EN-r)] 鹿児島県[準絶滅危惧] 沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Urochloa villosa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Urochloa villosa* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Pesticide pollution, Abandonment of management, Invasive species competition
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

チドリケマン

*Corydalis kushiroensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ナガミノツルキケマンに似るが、花は長さ 8-13 mm、鮮黄色、距は斜上する。

【生活史】

二年草。

【生育環境】

草地に生育。

【分布域】

北海道（中部・東部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	産地局限	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チドリケマン	<i>Corydalis kushiroensis</i>	VU
第4次 2019:	チドリケマン	<i>Corydalis kushiroensis</i>	VU
第4次 2018:	チドリケマン	<i>Corydalis kushiroensis</i>	VU
第4次 2017:	チドリケマン	<i>Corydalis kushiroensis</i>	VU
第4次 2015:	チドリケマン	<i>Corydalis kushiroensis</i>	VU
第4次:	チドリケマン	<i>Corydalis kushiroensis</i>	VU
第3次:	チドリケマン	<i>Corydalis kushiroensis</i>	VU
第2次:	チドリケマン	—	NT
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Corydalis kushiroensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Corydalis kushiroensis* is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

サイコクイカリソウ

Epimedium diphyllum subsp. *kitamuranum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

数本の茎が叢生し高さ 15-20 cm。葉は 2 出し、更に 3 出する。小葉は卵状楕円形、先端はふつう尖り、基部は心臓形、縁には少数の刺毛がある。総状に 10 数個の花をつけ、花径は 12-15 mm。花弁は白色、倒卵形で先端は丸く、距がない。萼片と花弁は各 4 個あり、同色同大。バイカイカリソウの北方型に似るが、葉の上面に毛が生えること、葉柄が常に三出複葉であること、葉の先端がほぼ鋭角であることなどが異なる。交雑起源の一型が固定したものと考えられている。近縁種が混生する地点では、群落内で形態が連続的に変異する。

【生活史】

多年草。花期は 4 月。

【生育環境】

丘陵地の林縁や林内。蛇紋岩地にもみられる。

【分布域】

本州・四国の一部。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 6 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	2	0	2	0	0	6	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因 自然遷移	園芸採取	管理放棄
件数 6	3	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サイコクイカリソウ	<i>Epimedium diphyllum</i> subsp. <i>kitamuranum</i>	VU
第4次 2019:	サイコクイカリソウ	<i>Epimedium diphyllum</i> subsp. <i>kitamuranum</i>	VU
第4次 2018:	サイコクイカリソウ	<i>Epimedium diphyllum</i> subsp. <i>kitamuranum</i>	VU
第4次 2017:	サイコクイカリソウ	<i>Epimedium diphyllum</i> subsp. <i>kitamuranum</i>	VU
第4次 2015:	サイコクイカリソウ	<i>Epimedium diphyllum</i> subsp. <i>kitamuranum</i>	VU
第4次:	サイコクイカリソウ	<i>Epimedium diphyllum</i> subsp. <i>kitamuranum</i>	VU
第3次:	サイコクイカリソウ	<i>Epimedium diphyllum</i> subsp. <i>kitamuranum</i>	VU
第2次:	サイコクイカリソウ	<i>Epimedium kitamuranum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

兵庫県[A ランク] 徳島県[絶滅危惧Ⅱ類] 香川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Suzuki, K., 1982. A contribution to the taxonomy of genus *Epimedium* (Berberidaceae) in Japan. The Journal of Japanese Botany, 57: 65-69.
- 兵庫県環境部自然鳥獣共生課, 2020. 兵庫県版レッドデータブック 2020 (植物・植物群落). https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/%21drafts/leg_8362 (2024 年 9 月 5 日閲覧).
- 高知県レッドデータブック (植物編) 改訂委員会, 2022. 高知県レッドデータブック 2022 植物編. 高知県林業振興・環境部自然共生課, 229pp.

- 徳島県版レッドデータブック掲載種検討委員会，2001．徳島県の絶滅のおそれのある野生生物 徳島県版レッドデータブック．徳島県環境生活部環境政策課，438pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Epimedium diphyllum subsp. *kitamuranum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Epimedium diphyllum* subsp. *kitamuranum* is listed as VU under criteria E. E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Collecting plants in gardening, Abandonment of management
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クモイイカリソウ

Epimedium koreanum var. *coelestre***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

基準変種のキバナイカリソウに似るが、花がクリーム色、小葉の縁に刺状の毛がない。キバナイカリソウに近いものか、イカリソウに近いものか、なお研究を要する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

蛇紋岩地帯に生育する。

【分布域】

群馬県（谷川岳・至仏山）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	3	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クモイイカリソウ	<i>Epimedium koreanum</i> var. <i>coelestre</i>	VU
第4次 2019:	クモイイカリソウ	<i>Epimedium koreanum</i> var. <i>coelestre</i>	VU
第4次 2018:	クモイイカリソウ	<i>Epimedium koreanum</i> var. <i>coelestre</i>	VU
第4次 2017:	クモイイカリソウ	<i>Epimedium koreanum</i> var. <i>coelestre</i>	VU
第4次 2015:	クモイイカリソウ	<i>Epimedium koreanum</i> var. <i>coelestre</i>	VU
第4次:	クモイイカリソウ	<i>Epimedium koreanum</i> var. <i>coelestre</i>	VU
第3次:	クモイイカリソウ	<i>Epimedium coelestre</i>	VU
第2次:	クモイイカリソウ	<i>Epimedium coelestre</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[情報不足] 群馬県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Epimedium koreanum var. *coelestre* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Epimedium koreanum* var. *coelestre* is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ガッサントリカブト

*Aconitum gassanense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 100-200 cm。根出葉はときに花期に生存しない。茎葉の葉身は長さ 11-18 cm、半円形、3 中裂し、裂片は粗い鋸歯がある。花は総状花序に 3-4 個がつき、青紫色。上萼片は長さ 21 mm、僧帽形、長い嘴がある。雄蕊は有毛。袋果は長さ約 25 mm。

【生活史】

疑似一年草。

【生育環境】

林縁や林間の草地、ときに溪流沿いの高山草原に生育。

【分布域】

本州（山形県・福島県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	3	1	1	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 4		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ガッサントリカブト	<i>Aconitum gassanense</i>	VU
第4次 2019:	ガッサントリカブト	<i>Aconitum gassanense</i>	VU
第4次 2018:	ガッサントリカブト	<i>Aconitum gassanense</i>	VU
第4次 2017:	ガッサントリカブト	<i>Aconitum gassanense</i>	VU
第4次 2015:	ガッサントリカブト	<i>Aconitum gassanense</i>	VU
第4次:	ガッサントリカブト	<i>Aconitum gassanense</i>	VU
第3次:	ガッサントリカブト	<i>Aconitum gassanense</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山形県[絶滅危惧Ⅱ類（VU）] 福島県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aconitum gassanense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Aconitum gassanense* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

センウズモドキ

Aconitum jaluense subsp. *iwatekense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

コウライブシに似るが、葉は草質、光沢がなく、3 深裂する。雄蕊は有毛。袋果は直立する。

【生活史】

疑似一年草。

【生育環境】

林内や林縁に生育。

【分布域】

本州（東北地方北部～関東地方の太平洋側沿海山地・長野県内陸山地）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 9 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
4	3	2	0	0	0	9	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 道路工事	その他	自然遷移
件数 4	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	センウズモドキ	<i>Aconitum jaluense</i> subsp. <i>iwatekense</i>	VU
第4次 2019:	センウズモドキ	<i>Aconitum jaluense</i> subsp. <i>iwatekense</i>	VU
第4次 2018:	センウズモドキ	<i>Aconitum jaluense</i> subsp. <i>iwatekense</i>	VU
第4次 2017:	センウズモドキ	<i>Aconitum jaluense</i> subsp. <i>iwatekense</i>	VU
第4次 2015:	センウズモドキ	<i>Aconitum jaluense</i> subsp. <i>iwatekense</i>	VU
第4次:	センウズモドキ	<i>Aconitum jaluense</i> subsp. <i>iwatekense</i>	VU
第3次:	センウズモドキ	<i>Aconitum jaluense</i> subsp. <i>iwatekense</i>	VU
第2次:	センウズモドキ	<i>Aconitum jaluense</i> ssp. <i>iwatekense</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[重要希少野生生物(B ランク)] 岩手県[C ランク] 宮城県[準絶滅危惧(NT)] 福島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 茨城県[情報不足②現状不明種] 群馬県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 長野県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aconitum jaluense subsp. *iwatekense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Aconitum jaluense* subsp. *iwatekense* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Road construction, Other, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

マシケレイジンソウ

Aconitum mashikense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 40-120 cm。根出葉は花期にしばしば生存する。根出葉の葉身は長さ 19-26 cm、腎円形～円形、7-11 中裂し、裂片はさらに切れ込む。花は総状花序に 20 個ほどがつき、黄白色。上萼片は長さ 17-30 mm、円筒形、ときに上部が外曲し、短い嘴がある。雄蕊は無毛。袋果は長さ約 15-18 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

林縁や林間の草地に生育。

【分布域】

北海道（増毛山地・樺戸山地）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	マシケレイジンソウ	<i>Aconitum mashikense</i>	VU
第4次 2019:	マシケレイジンソウ	<i>Aconitum mashikense</i>	VU
第4次 2018:	マシケレイジンソウ	<i>Aconitum mashikense</i>	VU
第4次 2017:	マシケレイジンソウ	<i>Aconitum mashikense</i>	VU
第4次 2015:	マシケレイジンソウ	<i>Aconitum mashikense</i>	VU
第4次:	マシケレイジンソウ	<i>Aconitum mashikense</i>	VU
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aconitum mashikense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Aconitum mashikense is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キタザワブシ

Aconitum nipponicum subsp. *micranthum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミヤマトリカブトに似るが、茎葉が 3 深裂し、花序は散房状～総状、雄蕊が有毛、雌蕊は無毛かときに屈毛か斜上毛がある。

【生活史】

疑似一年草。

【生育環境】

高山帯から亜高山帯の草原や林縁に生育。

【分布域】

本州（日光山地・関東山地・八ヶ岳・南アルプス・中央アルプス・木曽御岳・太平洋側山地）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	2	1	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キタザワブシ	<i>Aconitum nipponicum</i> subsp. <i>micranthum</i>	VU
第4次 2019:	キタザワブシ	<i>Aconitum nipponicum</i> subsp. <i>micranthum</i>	VU
第4次 2018:	キタザワブシ	<i>Aconitum nipponicum</i> subsp. <i>micranthum</i>	VU
第4次 2017:	キタザワブシ	<i>Aconitum nipponicum</i> subsp. <i>micranthum</i>	VU
第4次 2015:	キタザワブシ	<i>Aconitum nipponicum</i> subsp. <i>micranthum</i>	VU
第4次:	キタザワブシ	<i>Aconitum nipponicum</i> subsp. <i>micranthum</i>	VU
第3次:	キタザワブシ	<i>Aconitum nipponicum</i> subsp. <i>micranthum</i>	VU
第2次:	キタザワブシ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(A ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 山梨県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]
長野県[準絶滅危惧(NT)] 静岡県[要注目種(N-Ⅲ部会注目種)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aconitum nipponicum subsp. *micranthum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Aconitum nipponicum* subsp. *micranthum* is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミョウコウトリカブト

Aconitum nipponicum subsp. *nipponicum* var. *septemcarpum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミヤマトリカブトに似るが、雄蕊と雌蕊がふつう有毛で、上萼片は僧帽形になる。

【生活史】

疑似一年草。

【生育環境】

高山帯から亜高山帯の草原や林縁に生育。

【分布域】

本州中部（越後三山～巻機山・妙高山系）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2000 年調査時と変化がないと推測される。2018 年調査では確実な自生を確認できなかったが、250 個体以上現存しているとみられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2000 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	－	2	0	0	－	2	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミヨウコウトリカブト	<i>Aconitum nipponicum</i> subsp. <i>nipponicum</i> var. <i>septemcarpum</i>	VU
第4次 2019:	ミヨウコウトリカブト	<i>Aconitum nipponicum</i> subsp. <i>nipponicum</i> var. <i>septemcarpum</i>	VU
第4次 2018:	ミヨウコウトリカブト	<i>Aconitum nipponicum</i> subsp. <i>nipponicum</i> var. <i>septemcarpum</i>	VU
第4次 2017:	ミヨウコウトリカブト	<i>Aconitum nipponicum</i> subsp. <i>nipponicum</i> var. <i>septemcarpum</i>	VU
第4次 2015:	ミヨウコウトリカブト	<i>Aconitum nipponicum</i> subsp. <i>nipponicum</i> var. <i>septemcarpum</i>	VU
第4次:	ミヨウコウトリカブト	<i>Aconitum nipponicum</i> subsp. <i>nipponicum</i> var. <i>septemcarpum</i>	VU
第3次:	ミヨウコウトリカブト	<i>Aconitum nipponicum</i> subsp. <i>nipponicum</i> var. <i>septemcarpum</i>	VU
第2次:	ミヨウコウトリカブト	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福島県[情報不足(DD)] 群馬県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 新潟県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 長野県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aconitum nipponicum subsp. *nipponicum* var. *septemcarpum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Aconitum nipponicum* subsp. *nipponicum* var. *septemcarpum* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ワガトリカブト

Aconitum okuyamae var. *wagaense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ウゼントリカブトに似るが、茎が直立し、全体がコンパクトになる。

【生活史】

疑似一年草。

【生育環境】

高山帯の風衝草原に生育。

【分布域】

秋田県・岩手県の県境に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果

2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 不明		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ワガトリカブト	<i>Aconitum okuyamae</i> var. <i>wagaense</i>	VU
第4次 2019:	ワガトリカブト	<i>Aconitum okuyamae</i> var. <i>wagaense</i>	VU
第4次 2018:	ワガトリカブト	<i>Aconitum okuyamae</i> var. <i>wagaense</i>	VU
第4次 2017:	ワガトリカブト	<i>Aconitum okuyamae</i> var. <i>wagaense</i>	VU
第4次 2015:	ワガトリカブト	<i>Aconitum okuyamae</i> var. <i>wagaense</i>	VU
第4次:	ワガトリカブト	<i>Aconitum okuyamae</i> var. <i>wagaense</i>	VU
第3次:	ワガトリカブト	<i>Aconitum okuyamae</i> var. <i>wagaense</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮城県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 秋田県[DD] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aconitum okuyamae var. *wagaense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Aconitum okuyamae* var. *wagaense* is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タカネトリカブト

Aconitum zigzag subsp. *zigzag***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 25-200 cm。根出葉と下部の茎葉は花期に生存しない。中部の茎葉の葉身は長さ 5.5-17 cm、腎円形、3 深裂～浅裂し、裂片は羽状に深裂する。花は散房状～総状花序に 1-10 個がつき、青紫色～青色、光沢がある。上萼片は長さ 12-24 mm、円錐形、短い嘴がある。雄蕊は無毛かまれに斜上毛がある。袋果は長さ約 13-25 mm。

【生活史】

疑似一年草。

【生育環境】

高山帯から亜高山帯の草原や林縁に生育。

【分布域】

本州（中央アルプス・木曽御岳・乗鞍岳）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タカネトリカブト	<i>Aconitum zigzag</i>	VU
第4次 2019:	タカネトリカブト	<i>Aconitum zigzag</i>	VU
第4次 2018:	タカネトリカブト	<i>Aconitum zigzag</i>	VU
第4次 2017:	タカネトリカブト	<i>Aconitum zigzag</i>	VU
第4次 2015:	タカネトリカブト	<i>Aconitum zigzag</i>	VU
第4次:	タカネトリカブト	<i>Aconitum zigzag</i>	VU
第3次:	タカネトリカブト	<i>Aconitum zigzag</i>	VU
第2次:	タカネトリカブト	<i>Aconitum zigzag</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長野県[絶滅危惧 IB 類(EN)] 岐阜県[絶滅危惧 II 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aconitum zigzag subsp. *zigzag* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Aconitum zigzag* subsp. *zigzag* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シコクフクジュソウ

Adonis shikokuensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-15 cm、果時に 20-25 cm。葉は 2 回羽状複葉、卵形～菱形。花は径 4-7 cm、黄色～黄金色、1-4 個つく。花弁は長さ 18-32 mm、楕円形～倒卵形、10-16 個、上面は先端部が赤褐色を帯びる。集合果は径 12-16 mm、球形～やや球形。瘦果は長さ 4-5 mm、倒卵状、35-70 個、密毛がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の落葉広葉樹林の林縁や草原に生育。

【分布域】

本州（近畿地方南部）・四国・九州に分布。朝鮮半島・中国に分布する可能性がある。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、12 メッシュで計数万個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	4	0	4	2	1	12	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	管理放棄
件数	7	2

9		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シコクフクジュソウ	<i>Adonis shikokuensis</i>	VU
第4次 2019:	シコクフクジュソウ	<i>Adonis shikokuensis</i>	VU
第4次 2018:	シコクフクジュソウ	<i>Adonis shikokuensis</i>	VU
第4次 2017:	シコクフクジュソウ	<i>Adonis shikokuensis</i>	VU
第4次 2015:	シコクフクジュソウ	<i>Adonis shikokuensis</i>	VU
第4次:	シコクフクジュソウ	<i>Adonis shikokuensis</i>	VU
第3次:	シコクフクジュソウ	<i>Adonis shikokuensis</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

三重県[CR] 奈良県[絶滅危惧種] 和歌山県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 徳島県[準絶滅危惧] 愛媛県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 高知県[注目種] 熊本県[情報不足(DD)] 宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-r)] 鹿児島県[情報不足]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Adonis shikokuensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Adonis shikokuensis* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Abandonment of management
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ウラボイチゲ

Anemone amurensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-20 cm。根出葉は 1-2 回 3 出複葉、小葉は長さ 1-3 cm、菱形～広倒形、3 深裂～中裂する。花は径 2-3 cm、単生し、白色。集合果は径約 7 mm、広卵状。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

草地や林縁に生育。

【分布域】

北海道（東部）、朝鮮半島・中国東北部・カムチャツカ半島・ロシア沿海地方に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では北海道道東地域の低地に多く生育し、5000 個体以上はあると考えられた。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウラボロイチゲ	<i>Anemone amurensis</i>	VU
第4次 2019:	ウラボロイチゲ	<i>Anemone amurensis</i>	VU
第4次 2018:	ウラボロイチゲ	<i>Anemone amurensis</i>	VU
第4次 2017:	ウラボロイチゲ	<i>Anemone amurensis</i>	VU
第4次 2015:	ウラボロイチゲ	<i>Anemone amurensis</i>	VU
第4次:	ウラボロイチゲ	<i>Anemone amurensis</i>	VU
第3次:	ウラボロイチゲ	<i>Anemone amurensis</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Anemone amurensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Anemone amurensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キタダケソウ

Callianthemum hondoense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 8-14 cm。根出葉は 2-3 個、2-3 回 3 出複葉。小葉は長さ 1.5-3 cm、扇形。花は径 2.5 cm、白色。花弁は長さ 8-12 mm、7-8 個、広倒卵形～倒卵形。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

石灰岩地の草地に生育。

【分布域】

南アルプス北岳に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュ（地理的には連続した 1 ヶ所）で計数千個体と推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果

2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	1	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キタダケソウ	<i>Callianthemum hondoense</i>	VU
第4次 2019:	キタダケソウ	<i>Callianthemum hondoense</i>	VU
第4次 2018:	キタダケソウ	<i>Callianthemum hondoense</i>	VU
第4次 2017:	キタダケソウ	<i>Callianthemum hondoense</i>	VU
第4次 2015:	キタダケソウ	<i>Callianthemum hondoense</i>	VU
第4次:	キタダケソウ	<i>Callianthemum hondoense</i>	VU
第3次:	キタダケソウ	<i>Callianthemum hondoense</i>	VU
第2次:	キタダケソウ	<i>Callianthemum insigne</i> var. <i>hondoense</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山梨県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種、保護増殖事業対象種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Callianthemum hondoense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Callianthemum hondoense* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora. Conservation and reproduction programs.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae キンポウゲ科 Ranunculaceae

クロバナハンショウヅル

Clematis fusca var. *fusca*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は 5-9 小葉からなり、最下の小葉は長さ 2-9 cm、広卵形。花は直径 1-1.5 cm、広鐘形、下向きに咲く。花柄は長さ 4-8 cm。小苞は長さ 1.5-3 cm、広卵形。瘦果は長さ 5 mm、卵形、密毛がある。

【生活史】

つる性木本。

【生育環境】

林縁や草地、湿地に生育。

【分布域】

北海道・岩手県、千島列島・サハリン・カムチャツカ半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クロバナハンショウヅル	<i>Clematis fusca</i>	VU
第4次 2019:	クロバナハンショウヅル	<i>Clematis fusca</i>	VU
第4次 2018:	クロバナハンショウヅル	<i>Clematis fusca</i>	VU
第4次 2017:	クロバナハンショウヅル	<i>Clematis fusca</i>	VU
第4次 2015:	クロバナハンショウヅル	<i>Clematis fusca</i>	VU
第4次:	クロバナハンショウヅル	<i>Clematis fusca</i>	VU
第3次:	クロバナハンショウヅル	<i>Clematis fusca</i>	VU
第2次:	クロバナハンショウヅル	<i>Clematis fusca</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 岩手県[絶滅(Ex)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Clematis fusca var. *fusca* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Clematis fusca var. *fusca* is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムニンセンニンソウ

Clematis terniflora var. *boninensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

センニンソウに似るが、葉は羽状複葉、光沢があり、小葉は 3-7 個、茎や葉に毛が乏しい。

【生活史】

つる性多年草。

【生育環境】

日当りのよい疎林や林縁に生育。

【分布域】

小笠原諸島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 10 メッシュで計数百個体と推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	5	3	0	0	0	10	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムニンセンニンソウ	<i>Clematis terniflora</i> var. <i>boninensis</i>	VU
第4次 2019:	ムニンセンニンソウ	<i>Clematis terniflora</i> var. <i>boninensis</i>	VU
第4次 2018:	ムニンセンニンソウ	<i>Clematis terniflora</i> var. <i>boninensis</i>	VU
第4次 2017:	ムニンセンニンソウ	<i>Clematis terniflora</i> var. <i>boninensis</i>	VU
第4次 2015:	ムニンセンニンソウ	<i>Clematis terniflora</i> var. <i>boninensis</i>	VU
第4次:	ムニンセンニンソウ	<i>Clematis terniflora</i> var. <i>boninensis</i>	VU
第3次:	ムニンセンニンソウ	<i>Clematis terniflora</i> var. <i>boninensis</i>	VU
第2次:	ムニンセンニンソウ	<i>Clematis terniflora</i> var. <i>boninensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Clematis terniflora var. *boninensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Clematis terniflora* var. *boninensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キバナサバノオ

*Dichocarpum pterigionocaudatum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-25 cm。頂小葉は長さ 2-5 cm、倒卵状菱形～卵形。花は径 7-10 mm。萼片は長さ 6-10 mm、楕円形、5 個、黄緑色で、背面は赤褐色を帯びる。花弁の舷部は直立し、オレンジ色、柄は黄白色。雄蕊は長さ 5 mm。袋果は長さ 9 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

林床に生育。

【分布域】

本州（福井県・滋賀県・京都府・兵庫県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	4	0	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キバナサバノオ	<i>Dichocarpum pterigionocaudatum</i>	VU
第4次 2019:	キバナサバノオ	<i>Dichocarpum pterigionocaudatum</i>	VU
第4次 2018:	キバナサバノオ	<i>Dichocarpum pterigionocaudatum</i>	VU
第4次 2017:	キバナサバノオ	<i>Dichocarpum pterigionocaudatum</i>	VU
第4次 2015:	キバナサバノオ	<i>Dichocarpum pterigionocaudatum</i>	VU
第4次:	キバナサバノオ	<i>Dichocarpum pterigionocaudatum</i>	VU
第3次:	キバナサバノオ	<i>Dichocarpum pterigionocaudatum</i>	EN
第2次:	キバナサバノオ	<i>Dichocarpum pterigionocaudatum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

滋賀県[絶滅危惧種] 京都府[絶滅寸前種] 兵庫県[A ランク] 岡山県[絶滅危惧 I 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dichocarpum pterigionocaudatum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Dichocarpum pterigionocaudatum* is listed as VU under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメキンポウゲ

*Halerpestes kawakamii***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

匍枝は長さ 40 cm に達する。根出葉の葉身は長さ 1.5-3.5 cm。2-10 個、楕円形。花は径約 6-7 mm、集散花序に 2-3 個つくか単生し、黄色。花弁は 5 個、長さ 2.5-4 mm、楕円形～さじ形。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

砂浜海岸の湿地、潮だまりの湿った岩上に生育。

【分布域】

本州（千葉県～青森県・秋田県南部・鳥海山）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 池沼開発	自然遷移	産地局限
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメキンポウゲ	<i>Halerpestes kawakamii</i>	VU
第4次 2019:	ヒメキンポウゲ	<i>Halerpestes kawakamii</i>	VU
第4次 2018:	ヒメキンポウゲ	<i>Halerpestes kawakamii</i>	VU
第4次 2017:	ヒメキンポウゲ	<i>Halerpestes kawakamii</i>	VU
第4次 2015:	ヒメキンポウゲ	<i>Halerpestes kawakamii</i>	VU
第4次:	ヒメキンポウゲ	<i>Halerpestes kawakamii</i>	VU
第3次:	ヒメキンポウゲ	<i>Halerpestes kawakamii</i>	VU
第2次:	ヒメキンポウゲ	<i>Halerpestes kawakamii</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[希少野生生物(Cランク)] 岩手県[Aランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 秋田県[絶滅危惧種ⅠA類(CR)] 山形県[絶滅(EX)] 福島県[絶滅(EX)] 千葉県[消息不明・絶滅生物(X)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Halerpestes kawakamii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Halerpestes kawakamii is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Pond development, Natural succession, Limited distribution
Law designation status for	—

conservation	

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コキツネノボタン

Ranunculus chinensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 25-60 cm。葉は 2-1 回 3 出複葉で、葉身は長さ幅ともに 3.5-9 cm。花は径 8-10 mm、鮮黄色。花弁は長さ 4 mm、5 個。瘦果は長さ 3 mm、卵状。

【生活史】

二年草～多年草。

【生育環境】

日当たりのよい湿地に生育。

【分布域】

北海道（西南部）～九州、朝鮮半島・中国・シベリア・モンゴル・タイ・インドに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 6 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果

2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	3	1	0	0	0	6	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 河川開発	湿地開発	土地造成
件数 5	2	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コキツネノボタン	<i>Ranunculus chinensis</i>	VU
第4次 2019:	コキツネノボタン	<i>Ranunculus chinensis</i>	VU
第4次 2018:	コキツネノボタン	<i>Ranunculus chinensis</i>	VU
第4次 2017:	コキツネノボタン	<i>Ranunculus chinensis</i>	VU
第4次 2015:	コキツネノボタン	<i>Ranunculus chinensis</i>	VU
第4次:	コキツネノボタン	<i>Ranunculus chinensis</i>	VU
第3次:	コキツネノボタン	<i>Ranunculus chinensis</i>	VU
第2次:	コキツネノボタン	<i>Ranunculus chinensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[重要希少野生生物(B ランク)] 岩手県[B ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 茨城県[絶滅危惧Ⅱ類] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 千葉県[重要保護生物(B)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 山梨県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 佐賀県[情報不足種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ranunculus chinensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ranunculus chinensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	River development, Wetland development, Land development

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒキノカサ

Ranunculus ternatus var. *ternatus*

カテゴリー	判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。			
評価分科会： 維管束植物分科会			

基礎情報

【形態】

高さ 5–30 cm。根出葉の葉身は長さ 0.5–4 cm、3 全裂か掌状に 3 浅～深裂する。花は径 1–1.5 cm、数個が集散花序につき、鮮黄色、花弁は長さ 6–8 mm、倒卵形。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

日当たりのよい湿った草地に生育。

【分布域】

本州（関東地方以西）・四国・九州、韓国（済州島）・台湾・中国南部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで絶滅し、13 メッシュで計数万個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	4	1	5	0	1	13	5	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 河川開発	土地造成	自然遷移
件数 6	4	4

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒキノカサ	<i>Ranunculus ternatus</i> var. <i>ternatus</i>	VU
第4次 2019:	ヒキノカサ	<i>Ranunculus ternatus</i> var. <i>ternatus</i>	VU
第4次 2018:	ヒキノカサ	<i>Ranunculus ternatus</i> var. <i>ternatus</i>	VU
第4次 2017:	ヒキノカサ	<i>Ranunculus ternatus</i> var. <i>ternatus</i>	VU
第4次 2015:	ヒキノカサ	<i>Ranunculus ternatus</i> var. <i>ternatus</i>	VU
第4次:	ヒキノカサ	<i>Ranunculus ternatus</i> var. <i>ternatus</i>	VU
第3次:	ヒキノカサ	<i>Ranunculus ternatus</i>	VU
第2次:	ヒキノカサ	<i>Ranunculus extorris</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 茨城県[絶滅危惧Ⅱ類] 栃木県[絶滅] 群馬県[絶滅(EX)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 千葉県[重要保護生物(B)] 東京都(本土部)[区部：野生絶滅(EW) 本土部：野生絶滅(EW)] 東京都(北多摩)[絶滅(EX)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 長野県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 三重県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 滋賀県[要注目種] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[CR+EN] 兵庫県[A ランク] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅(EX)] 岡山県[準絶滅危惧] 広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 高知県[絶滅(EX)] 熊本県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ranunculus ternatus var. *ternatus* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ranunculus ternatus* var. *ternatus* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100

years.	
Threat types:	River development, Land development, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae キンポウゲ科 Ranunculaceae

ダイセンカラマツ

Thalictrum aquilegiifolium var. *daisenense*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

花は集散花序につく。茎は硬くて鋭稜がある。ただし、「Flora of Japan II a」ではカラマツソウと同一物とされる。

【生活史】

花期は 6-8 月。

【生育環境】

高山帯の裸地に生育。

【分布域】

鳥取県（大山）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかった。大山の稜線にあるが、立ち入り禁止のため、2007 年調査では確認できていない。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果

2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ダイセンカラマツ	<i>Thalictrum aquilegiifolium</i> var. <i>daisenense</i>	VU
第4次 2019:	ダイセンカラマツ	<i>Thalictrum aquilegiifolium</i> var. <i>daisenense</i>	VU
第4次 2018:	ダイセンカラマツ	<i>Thalictrum aquilegiifolium</i> var. <i>daisenense</i>	VU
第4次 2017:	ダイセンカラマツ	<i>Thalictrum aquilegiifolium</i> var. <i>daisenense</i>	VU
第4次 2015:	ダイセンカラマツ	<i>Thalictrum aquilegiifolium</i> var. <i>daisenense</i>	VU
第4次:	ダイセンカラマツ	<i>Thalictrum aquilegiifolium</i> var. <i>daisenense</i>	VU
第3次:	ダイセンカラマツ	<i>Thalictrum aquilegiifolium</i> var. <i>daisenense</i>	VU
第2次:	ダイセンカラマツ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室，2015. レッドデータブック 2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物— 8 植物 I（維管束植物）. 646pp. ぎょうせい，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Thalictrum aquilegiifolium var. *daisenense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Thalictrum aquilegiifolium* var. *daisenense* is listed as VU under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハルカラマツ

Thalictrum baicalense

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 50-100 cm。茎葉は 2-3 回 3 出複葉、小葉は長さ 1.5-5.5 cm、広いくさび状倒卵形～くさび形。花序は散房状。萼片は長さ 3 mm、楕円形、黄白色。瘦果は長さ約 3 mm、球状楕円形、4-8 個。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿った草地や林縁に生育。

【分布域】

北海道・本州（福島県・栃木県・群馬県・埼玉県）、朝鮮半島北部・中国東北部・シベリア東部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	1	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハルカラマツ	<i>Thalictrum baicalense</i>	VU
第4次 2019:	ハルカラマツ	<i>Thalictrum baicalense</i>	VU
第4次 2018:	ハルカラマツ	<i>Thalictrum baicalense</i>	VU
第4次 2017:	ハルカラマツ	<i>Thalictrum baicalense</i>	VU
第4次 2015:	ハルカラマツ	<i>Thalictrum baicalense</i>	VU
第4次:	ハルカラマツ	<i>Thalictrum baicalense</i>	VU
第3次:	ハルカラマツ	<i>Thalictrum baicalense</i>	VU
第2次:	ハルカラマツ	<i>Thalictrum baicalense</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福島県[情報不足(DD)] 栃木県[要注目] 群馬県[準絶滅危惧(NT)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Thalictrum baicalense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Thalictrum baicalense* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アポイカラマツ

Thalictrum foetidum var. *apoiense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

チャボカラマツに似るが、小葉は厚く、長さ 0.3-0.7 cm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

石灰岩地やかんらん岩地に生育。

【分布域】

北海道（アポイ岳・大平山）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アボイカラマツ	<i>Thalictrum foetidum</i> var. <i>apoiense</i>	VU
第4次 2019:	アボイカラマツ	<i>Thalictrum foetidum</i> var. <i>apoiense</i>	VU
第4次 2018:	アボイカラマツ	<i>Thalictrum foetidum</i> var. <i>apoiense</i>	VU
第4次 2017:	アボイカラマツ	<i>Thalictrum foetidum</i> var. <i>apoiense</i>	VU
第4次 2015:	アボイカラマツ	<i>Thalictrum foetidum</i> var. <i>apoiense</i>	VU
第4次:	アボイカラマツ	<i>Thalictrum foetidum</i> var. <i>apoiense</i>	VU
第3次:	アボイカラマツ	<i>Thalictrum foetidum</i> var. <i>apoiense</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Thalictrum foetidum var. *apoiense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Thalictrum foetidum* var. *apoiense* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae キンポウゲ科 Ranunculaceae

チャボカラマツ

Thalictrum foetidum var. *glabrescens*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15-50 cm。根出葉は 3-5 回 3 出複葉、小葉は長さ幅ともに 0.3-1.5 cm。花は散房花序に 4-15 個つく。萼片は長さ 2-4 mm、紫褐色。瘦果は長さ 4 mm、2-6 個。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

岩礫地に生育。

【分布域】

北海道（道央）・岩手県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チャボカラマツ	<i>Thalictrum foetidum</i> var. <i>glabrescens</i>	VU
第4次 2019:	チャボカラマツ	<i>Thalictrum foetidum</i> var. <i>glabrescens</i>	VU
第4次 2018:	チャボカラマツ	<i>Thalictrum foetidum</i> var. <i>glabrescens</i>	VU
第4次 2017:	チャボカラマツ	<i>Thalictrum foetidum</i> var. <i>glabrescens</i>	VU
第4次 2015:	チャボカラマツ	<i>Thalictrum foetidum</i> var. <i>glabrescens</i>	VU
第4次:	チャボカラマツ	<i>Thalictrum foetidum</i> var. <i>glabrescens</i>	VU
第3次:	チャボカラマツ	<i>Thalictrum foetidum</i> var. <i>glabrescens</i>	VU
第2次:	チャボカラマツ	<i>Thalictrum foetidum</i> var. <i>glabrescens</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[Bランク]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Thalictrum foetidum var. *glabrescens* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Thalictrum foetidum* var. *glabrescens* is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナガバカラマツ

*Thalictrum integrilobum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 27-40 cm。根出葉は 3-4 回 3 出複葉、小葉は長さ 1.5-3 cm、線状楕円形。花序は複散房状。萼片は長さ 2-2.5 mm、白色。瘦果は長さ 4-6 mm、2-4 個。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

超塩基性岩地に生育。

【分布域】

北海道（日高・胆振地方）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナガバカラマツ	<i>Thalictrum integrilobum</i>	VU
第4次 2019:	ナガバカラマツ	<i>Thalictrum integrilobum</i>	VU
第4次 2018:	ナガバカラマツ	<i>Thalictrum integrilobum</i>	VU
第4次 2017:	ナガバカラマツ	<i>Thalictrum integrilobum</i>	VU
第4次 2015:	ナガバカラマツ	<i>Thalictrum integrilobum</i>	VU
第4次:	ナガバカラマツ	<i>Thalictrum integrilobum</i>	VU
第3次:	ナガバカラマツ	<i>Thalictrum integrilobum</i>	VU
第2次:	ナガバカラマツ	<i>Thalictrum integrilobum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Thalictrum integrilobum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Thalictrum integrilobum* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コゴメカラマツ

*Thalictrum microspermum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15-40 cm。根出葉は 2-3 回 3 出複葉、小葉は長さ幅ともに 1-7 cm、菱形～倒卵状菱形。花序は散房状～複散房状。萼片は白色。瘦果は長さ 2 mm、6-12 個。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

林内や林縁に生育。

【分布域】

四国（香川県・徳島県・高知県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	4	0	0	0	0	4	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	その他	
件数 4	4	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コゴメカラマツ	<i>Thalictrum microsperrum</i>	VU
第4次 2019:	コゴメカラマツ	<i>Thalictrum microsperrum</i>	VU
第4次 2018:	コゴメカラマツ	<i>Thalictrum microsperrum</i>	VU
第4次 2017:	コゴメカラマツ	<i>Thalictrum microsperrum</i>	VU
第4次 2015:	コゴメカラマツ	<i>Thalictrum microsperrum</i>	VU
第4次:	コゴメカラマツ	<i>Thalictrum microsperrum</i>	VU
第3次:	コゴメカラマツ	<i>Thalictrum microsperrum</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[絶滅危惧 IB 類] 高知県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧 II 類(VU-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Thalictrum microsperrum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Thalictrum microsperrum* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Other

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イシヅチカラマツ

Thalictrum minus var. *yamamotoi*

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

アキカラマツに似るが、果柄と瘦果に腺毛、葉の下面に腺点があり、開花はより早く、果柄は 5-11 cm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

石灰岩やサヌカイトの岸壁に生育。

【分布域】

四国・九州（宮崎県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	1	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	自然遷移	
件数 2	2	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イシヅチカラマツ	<i>Thalictrum minus</i> var. <i>yamamotoi</i>	EN
第4次 2019:	イシヅチカラマツ	<i>Thalictrum minus</i> var. <i>yamamotoi</i>	EN
第4次 2018:	イシヅチカラマツ	<i>Thalictrum minus</i> var. <i>yamamotoi</i>	EN
第4次 2017:	イシヅチカラマツ	<i>Thalictrum minus</i> var. <i>yamamotoi</i>	EN
第4次 2015:	イシヅチカラマツ	<i>Thalictrum minus</i> var. <i>yamamotoi</i>	EN
第4次:	イシヅチカラマツ	<i>Thalictrum minus</i> var. <i>yamamotoi</i>	EN
第3次:	イシヅチカラマツ	<i>Thalictrum minus</i> var. <i>yamamotoi</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[絶滅危惧 IB 類] 愛媛県[情報不足(DD)] 高知県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Thalictrum minus var. *yamamotoi* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Thalictrum minus* var. *yamamotoi* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イワカラマツ

*Thalictrum sekimotoanum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

アキカラマツに似るが、植物体に腺毛が密生して粘着し、開花がより早く、果柄は長さ 4-6 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

岩壁に生育。

【分布域】

本州（栃木県・山梨県・長野県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、10 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	3	3	4	0	0	10	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	人の踏みつけ	園芸採取
件数 6	2	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イワカラマツ	<i>Thalictrum sekimotoanum</i>	VU
第4次 2019:	イワカラマツ	<i>Thalictrum sekimotoanum</i>	VU
第4次 2018:	イワカラマツ	<i>Thalictrum sekimotoanum</i>	VU
第4次 2017:	イワカラマツ	<i>Thalictrum sekimotoanum</i>	VU
第4次 2015:	イワカラマツ	<i>Thalictrum sekimotoanum</i>	VU
第4次:	イワカラマツ	<i>Thalictrum sekimotoanum</i>	VU
第3次:	イワカラマツ	<i>Thalictrum sekimotoanum</i>	VU
第2次:	イワカラマツ	<i>Thalictrum sekimotoanum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[重要希少野生生物(B ランク)] 岩手県[情報不足] 宮城県[準絶滅危惧(NT)] 秋田県[N T] 山形県[絶滅 (E X)] 栃木県[準絶滅危惧(C ランク)] 群馬県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 神奈川県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 長野県[絶滅危惧 II 類(VU)] 香川県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Thalictrum sekimotoanum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Thalictrum sekimotoanum* is listed as VU under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Human trampling, Collecting plants in gardening

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ノカラマツ

Thalictrum simplex var. *brevipes*

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 60-150 cm。根出葉は花期に生存しない。茎葉は 1-3 回 3 出複葉、小葉は長さ 2-5 cm、狭倒卵形～広倒卵形。花序は細い円錐状。萼片は長さ 2-4 mm、黄白色～淡黄緑色。瘦果は長さ 4-5 mm、2-6 個。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

日当たりのよい乾いた草地に生育。

【分布域】

本州・四国・九州、朝鮮半島南部・中国東北部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで絶滅し、15 メッシュで計数万個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	5	1	4	1	3	15	3	3

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 河川開発	管理放棄	湿地開発
件数 13	5	4

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ノカラムツ	<i>Thalictrum simplex</i> var. <i>brevipes</i>	VU
第4次 2019:	ノカラムツ	<i>Thalictrum simplex</i> var. <i>brevipes</i>	VU
第4次 2018:	ノカラムツ	<i>Thalictrum simplex</i> var. <i>brevipes</i>	VU
第4次 2017:	ノカラムツ	<i>Thalictrum simplex</i> var. <i>brevipes</i>	VU
第4次 2015:	ノカラムツ	<i>Thalictrum simplex</i> var. <i>brevipes</i>	VU
第4次:	ノカラムツ	<i>Thalictrum simplex</i> var. <i>brevipes</i>	VU
第3次:	ノカラムツ	<i>Thalictrum simplex</i> var. <i>brevipes</i>	NT
第2次:	ノカラムツ	<i>Thalictrum simplex</i> var. <i>brevipes</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[重要希少野生生物(Bランク)] 岩手県[情報不足] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 茨城県[絶滅危惧Ⅱ類] 栃木県[準絶滅危惧(Cランク)] 群馬県[準絶滅危惧(NT)] 埼玉県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 千葉県[重要保護生物(B)] 東京都(本土部)[区部：絶滅(EX) 本土部：絶滅(EX)] 東京都(伊豆諸島)[情報不足(DD)] 神奈川県[絶滅(EX)] 富山県[情報不足] 長野県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 岐阜県[情報不足] 大阪府[CR+EN] 奈良県[絶滅種] 岡山県[情報不足] 福岡県[絶滅] 佐賀県[絶滅種] 熊本県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Thalictrum simplex var. *brevipes* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Thalictrum simplex* var. *brevipes* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100

years.	
Threat types:	River development, Abandonment of management, Wetland development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマカラマツ

Thalictrum tuberiferum var. *yakusimense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミヤマカラマツに似るが、小葉は長さ幅ともに 1-2 cm、円形、花糸は紫色で、瘦果は長さ 3-4 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿り気のある林縁に生育。

【分布域】

屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマカラマツ	<i>Thalictrum tuberiferum</i> var. <i>yakusimense</i>	VU
第4次 2019:	ヤクシマカラマツ	<i>Thalictrum tuberiferum</i> var. <i>yakusimense</i>	VU
第4次 2018:	ヤクシマカラマツ	<i>Thalictrum tuberiferum</i> var. <i>yakusimense</i>	VU
第4次 2017:	ヤクシマカラマツ	<i>Thalictrum tuberiferum</i> var. <i>yakusimense</i>	VU
第4次 2015:	ヤクシマカラマツ	<i>Thalictrum tuberiferum</i> var. <i>yakusimense</i>	VU
第4次:	ヤクシマカラマツ	<i>Thalictrum tuberiferum</i> var. <i>yakusimense</i>	VU
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Thalictrum tuberiferum var. *yakusimense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Thalictrum tuberiferum* var. *yakusimense* is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae アワブキ科 Sabiaceae

サクノキ

Meliosma arnottiana subsp. *oldhamii* var. *hachijoensis*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

フシノハアワブキに似るが、小葉は 13-21 個、ほぼ全縁か低い鋸歯があり、基部に多少のゆがみが見られる。果実は黒色。

【生活史】

落葉または半常緑の高木。

【生育環境】

明るい樹林に生育。

【分布域】

伊豆諸島（利島・三宅島・御蔵島・八丈島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
9	9	1	0	0	0	19	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サクノキ	<i>Meliosma arnottiana</i> subsp. <i>oldhamii</i> var. <i>hachijoensis</i>	VU
第4次 2019:	サクノキ	<i>Meliosma arnottiana</i> subsp. <i>oldhamii</i> var. <i>hachijoensis</i>	VU
第4次 2018:	サクノキ	<i>Meliosma arnottiana</i> subsp. <i>oldhamii</i> var. <i>hachijoensis</i>	VU
第4次 2017:	サクノキ	<i>Meliosma arnottiana</i> subsp. <i>oldhamii</i> var. <i>hachijoensis</i>	VU
第4次 2015:	サクノキ	<i>Meliosma arnottiana</i> subsp. <i>oldhamii</i> var. <i>hachijoensis</i>	VU
第4次:	サクノキ	<i>Meliosma arnottiana</i> subsp. <i>oldhamii</i> var. <i>hachijoensis</i>	VU
第3次:	サクノキ	<i>Meliosma arnottiana</i> subsp. <i>oldhamii</i> var. <i>hachijoensis</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Meliosma arnottiana subsp. *oldhamii* var. *hachijoensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Meliosma arnottiana* subsp. *oldhamii* var. *hachijoensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オキナワツゲ

Buxus liukiuensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 5 m。葉は革質、菱状楕円形、菱状長楕円形もしくは卵状長楕円形、長さ 2-6 cm。花は 9-11 月に咲き、総状花序は腋生。蒴果は球形、長さ約 6 mm で光沢がない。

【生活史】

常緑の小高木で、雌雄同株。

【生育環境】

石灰岩地帯に生育する。

【分布域】

琉球（喜界島、沖永良部島、与論島、沖縄島、屋嘉比島、渡名喜島、大東諸島、石垣島、与那国島）に分布。国外では台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	2	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オキナワツゲ	<i>Buxus liukiensis</i>	VU
第4次 2019:	オキナワツゲ	<i>Buxus liukiensis</i>	VU
第4次 2018:	オキナワツゲ	<i>Buxus liukiensis</i>	VU
第4次 2017:	オキナワツゲ	<i>Buxus liukiensis</i>	VU
第4次 2015:	オキナワツゲ	<i>Buxus liukiensis</i>	VU
第4次:	オキナワツゲ	<i>Buxus liukiensis</i>	VU
第3次:	オキナワツゲ	<i>Buxus liukiensis</i>	VU
第2次:	オキナワツゲ	<i>Buxus liukiensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Buxus liukiensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Buxus liukiensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ベニバナヤマシャクヤク

Paeonia obovata

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は径 1 cm になり、水平に伸びる。茎の高さは 30-60 cm。中部の葉は葉柄を含んで長さ 12-38 cm、2 回 3 出複葉で 2-3 個付き、上部の葉は 3 全裂～単葉、葉の下面はふつう伏毛が密生するが時に無毛。花弁は淡紅紫色、ふつう 5 枚つき、雌蕊は 3-5 個で柱頭は強く反曲する。葉が無毛のものをケナシベニバナシャクヤク f. *glabra* (Makino) Kitam. として区別することがある。

【生活史】

多年草。花期は 5-6 月。

【生育環境】

夏緑広葉樹林の林床に生育する。

【分布域】

南千島・北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国・サハリン・ロシア沿海地方。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 28 メッシュで計数千個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果

2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
13	8	2	5	0	0	28	0	4

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	管理放棄

件数 21	4	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ベニバナヤマシャクヤク	<i>Paemonia obovata</i>	VU
第4次 2019:	ベニバナヤマシャクヤク	<i>Paemonia obovata</i>	VU
第4次 2018:	ベニバナヤマシャクヤク	<i>Paemonia obovata</i>	VU
第4次 2017:	ベニバナヤマシャクヤク	<i>Paemonia obovata</i>	VU
第4次 2015:	ベニバナヤマシャクヤク	<i>Paemonia obovata</i>	VU
第4次:	ベニバナヤマシャクヤク	<i>Paemonia obovata</i>	VU
第3次:	ベニバナヤマシャクヤク	<i>Paemonia obovata</i>	VU
第2次:	ベニバナヤマシャクヤク	<i>Paemonia obovata</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)] 青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[A ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 茨城県[絶滅危惧ⅠB類] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(A ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(本土部)[本土部:絶滅危惧ⅠB類(EN)] 東京都(南多摩)[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 富山県[絶滅危惧Ⅰ類] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR)] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 岐阜県[情報不足] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 愛知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 三重県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 滋賀県[絶滅危惧種] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[CR+EN] 兵庫県[B ランク] 奈良県[絶滅寸前種] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 島根県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠB類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Paeonia obovata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Paeonia obovata* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Abandonment of management
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トカチスグリ

Ribes triste

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類（VU） 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

幹の下部は地上を這い、高さは 1 m 内外。花は総状花序につき、両性、紫～淡紫色で、花柄上部に関節がある。液果は赤熟する。

【生活史】

落葉小低木。

【生育環境】

森林内や溪流沿いの岩上や岩礫地に生育する。

【分布域】

北海道、本州（岩手県、秋田県、山梨県）の山地に分布。国外では、朝鮮半島、サハリン、シベリア東部～北アメリカにかけて分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 3 メッシュで計数千個体が現存と報告された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	1	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番 目	2 番 目	3 番 目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トカチスグリ	<i>Ribes triste</i>	VU
第4次 2019:	トカチスグリ	<i>Ribes triste</i>	VU
第4次 2018:	トカチスグリ	<i>Ribes triste</i>	VU
第4次 2017:	トカチスグリ	<i>Ribes triste</i>	VU
第4次 2015:	トカチスグリ	<i>Ribes triste</i>	VU
第4次:	トカチスグリ	<i>Ribes triste</i>	VU
第3次:	トカチスグリ	<i>Ribes triste</i>	VU
第2次:	トカチスグリ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[情報不足]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ribes triste has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ribes triste* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

マルバチャルメルソウ

Mitella nuda

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は細く横に這い、短腺毛のある走出枝を出し、葉を互生する。根出葉は卵円形、葉縁には低い鋸歯や欠刻があり、基部は心形、鈍頭、長さ幅とも 1.3-3.5 cm、両面に多少毛が生える。葉柄は長さ 10 cm、短腺毛がある。花茎は高さ 10-25 cm、3-10 個の花をまばらにつけ、茎葉はない。花弁は淡緑色または淡紅紫色で、萼筒上縁につき、長さ約 3 mm で、羽状に細く 9 裂、腺点はない。雄蕊は 10 個、裂開直前の葯は灰白色。種子は卵形または長卵形、長さ約 1.2 mm。

【生活史】

多年草。花期は 6 月。

【生育環境】

山地の樹林下に生える。

【分布域】

北海道・本州（南アルプス）、朝鮮半島・中国（東北）・ウスリー～シベリア・北アメリカ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	2	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	マルバチャルメルソウ	<i>Mitella nuda</i>	VU
第4次 2019:	マルバチャルメルソウ	<i>Mitella nuda</i>	VU
第4次 2018:	マルバチャルメルソウ	<i>Mitella nuda</i>	VU
第4次 2017:	マルバチャルメルソウ	<i>Mitella nuda</i>	VU
第4次 2015:	マルバチャルメルソウ	<i>Mitella nuda</i>	VU
第4次:	マルバチャルメルソウ	<i>Mitella nuda</i>	VU
第3次:	マルバチャルメルソウ	<i>Mitella nuda</i>	EN
第2次:	マルバチャルメルソウ	<i>Mitella nuda</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Mitella nuda has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Mitella nuda* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ワタナベソウ

*Peltoboykinia watanabei***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根出葉は 1 個で、長さ 30 cm 程度の葉柄がある。葉身は円形で、径 15-35 cm、掌状に 7-9 中裂または深裂し、裂片は細く、幅よりはるかに長く鋭頭。茎葉は数個つき、根出葉と同形だが小さい。花茎は高さ 30-60 cm。花弁は長楕円形で、淡黄色、やや不同で長さ 8-13 mm、鋭頭、腺毛を密生する。蒴果は狭卵形～楕円形、長さ 10-13 mm。

【生活史】

多年草。花期は 7 月。

【生育環境】

深山の林中に生える。

【分布域】

四国（愛媛県・高知県）・九州。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	1	0	0	0	3	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	シカ食害	園芸採取
件数	4	3

5		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ワタナベソウ	<i>Peltoboykinia watanabei</i>	VU
第4次 2019:	ワタナベソウ	<i>Peltoboykinia watanabei</i>	VU
第4次 2018:	ワタナベソウ	<i>Peltoboykinia watanabei</i>	VU
第4次 2017:	ワタナベソウ	<i>Peltoboykinia watanabei</i>	VU
第4次 2015:	ワタナベソウ	<i>Peltoboykinia watanabei</i>	VU
第4次:	ワタナベソウ	<i>Peltoboykinia watanabei</i>	VU
第3次:	ワタナベソウ	<i>Peltoboykinia watanabei</i>	VU
第2次:	ワタナベソウ	<i>Peltoboykinia watanabei</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

奈良県[絶滅寸前種,注目種] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 愛媛県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 熊本県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 大分県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Peltoboykinia watanabei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Peltoboykinia watanabei* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Deer feeding damage, Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

センダイソウ

*Saxifraga sendaica***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立して高さ 3-20 cm になり、膜質の鞘状葉に包まれる。普通葉は茎の上部につき、葉柄は長さ 3-12 cm、葉身は卵形～卵円形、長さ 5-17 cm、浅く 7-11 裂、厚くて光沢があり、まばらに毛がある。花序は散房状。花弁は白色、線状楕円形、花時に平開、大きさは不同、下側の 1-2 弁は他より長くて長さ 15-20 mm、上側の 3 弁はふつう長さ 5-9 mm で斑点はない。雄蕊は 10 個、裂開直前の葯は燈赤色。子房は上位で、子房の基部には黄色の花盤がある。

【生活史】

多年草。花期は 9-10 月。

【生育環境】

谷沿いの湿った岩上に生える。

【分布域】

本州（紀伊半島）・四国・九州。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかった。別途行われた調査にて 1000 個体未満と推定されたため、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	センダイソウ	<i>Saxifraga sendaica</i>	NT
第4次 2019:	センダイソウ	<i>Saxifraga sendaica</i>	NT
第4次 2018:	センダイソウ	<i>Saxifraga sendaica</i>	NT
第4次 2017:	センダイソウ	<i>Saxifraga sendaica</i>	NT
第4次 2015:	センダイソウ	<i>Saxifraga sendaica</i>	NT
第4次:	センダイソウ	<i>Saxifraga sendaica</i>	NT
第3次:	センダイソウ	<i>Saxifraga sendaica</i>	VU
第2次:	センダイソウ	<i>Saxifraga sendaica</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

三重県[絶滅危惧 IB 類(EN)] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 愛媛県[絶滅危惧 II 類(VU)] 高知県[準絶滅危惧(NT)] 福岡県[絶滅危惧 I A 類] 長崎県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 熊本県[絶滅危惧 II 類(VU)] 大分県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Saxifraga sendaica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Saxifraga sendaica* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

モミジバセンダイソウ

*Saxifraga sendaica f. laciniata***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

センダイソウとは、葉の切れ込みが深い点で区別される。品種として区別されているが、形態的違いは明瞭であり、中間型はないため、種レベルで分化している可能性が高い。

【生活史】

花期は 9 月。

【生育環境】

湿った岩場に生育。

【分布域】

本州（紀伊半島）・四国・九州（宮崎県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

園芸用の採集によって減少している。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[絶滅危惧Ⅱ類] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 文献なし

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Saxifraga sendaica f. *laciniata* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Saxifraga sendaica* f. *laciniata* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒダカミセバヤ

*Hylotelephium cauticola***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

花茎は長さ 10–15 cm、斜上または垂れ下がる。葉は長さ 2–7 mm の柄があり、対生して、卵円形～楕円形、長さ 1–2.5 cm、帯粉し青白色。花序は散房状で、球形、花弁は濃紅色、披針形で、長さ 5–6 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

岩上に生育する。

【分布域】

北海道（日高、十勝、釧路）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 海岸開発		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒダカミセバヤ	<i>Hylotelephium cauticola</i> f. <i>cauticola</i>	VU
第4次 2019:	ヒダカミセバヤ	<i>Hylotelephium cauticola</i> f. <i>cauticola</i>	VU
第4次 2018:	ヒダカミセバヤ	<i>Hylotelephium cauticola</i> f. <i>cauticola</i>	VU
第4次 2017:	ヒダカミセバヤ	<i>Hylotelephium cauticola</i> f. <i>cauticola</i>	VU
第4次 2015:	ヒダカミセバヤ	<i>Hylotelephium cauticola</i> f. <i>cauticola</i>	VU
第4次:	ヒダカミセバヤ	<i>Hylotelephium cauticola</i> f. <i>cauticola</i>	VU
第3次:	ヒダカミセバヤ	<i>Hylotelephium cauticola</i>	VU
第2次:	ヒダカミセバヤ	<i>Hylotelephium cauticolum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hylotelephium cauticola has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hylotelephium cauticola* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Coastal development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツガルミセバヤ

Hylotelephium ussuriense var. *tsugaruense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

花茎は長さ 10-40 cm、斜上する。葉は柄がなく、輪生、時に互生し、卵形～楕円形、長さ 2-5 cm、帯粉して白緑色。花序は散房状で、球形。花弁は乳白色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の岩上に生育する。

【分布域】

本州（東北地方）の日本海側に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツガルミセバヤ	<i>Hylotelephium ussuriense</i> var. <i>tsugaruense</i>	VU
第4次 2019:	ツガルミセバヤ	<i>Hylotelephium ussuriense</i> var. <i>tsugaruense</i>	VU
第4次 2018:	ツガルミセバヤ	<i>Hylotelephium ussuriense</i> var. <i>tsugaruense</i>	VU
第4次 2017:	ツガルミセバヤ	<i>Hylotelephium ussuriense</i> var. <i>tsugaruense</i>	VU
第4次 2015:	ツガルミセバヤ	<i>Hylotelephium ussuriense</i> var. <i>tsugaruense</i>	VU
第4次:	ツガルミセバヤ	<i>Hylotelephium ussuriense</i> var. <i>tsugaruense</i>	VU
第3次:	ツガルミセバヤ	<i>Hylotelephium ussuriense</i> var. <i>tsugaruense</i>	VU
第2次:	ツガルミセバヤ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[重要希少野生生物(B ランク)] 秋田県[絶滅危惧種Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hylotelephium ussuriense var. *tsugaruense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hylotelephium ussuriense* var. *tsugaruense* is listed as VU under criteria D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

チャボツメレンゲ

Meterostachys sikokianus

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

花茎は長さ 1.5–8 cm。根茎は短く、先端にロゼットを作る。夏のロゼット葉は、やや扁平な円柱状線形、長さ 7–12 mm、先端は凸形で、多くは硬化して針状となる。冬のロゼット葉は三角状披針形。葉は互生または 3 輪生し、線形、長さ 1–2.5 cm、先端は短針状となる。花弁は基部が 1 mm 程度合生し、帯紅白色で、長円形～卵形、長さ 3–5 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の岩上に生育する。

【分布域】

本州（紀伊半島）、四国、九州に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 12 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	8	2	1	0	0	12	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	産地局限
件数	6	4

8		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チャボツメレンゲ	<i>Meterostachys sikokianus</i>	VU
第4次 2019:	チャボツメレンゲ	<i>Meterostachys sikokianus</i>	VU
第4次 2018:	チャボツメレンゲ	<i>Meterostachys sikokianus</i>	VU
第4次 2017:	チャボツメレンゲ	<i>Meterostachys sikokianus</i>	VU
第4次 2015:	チャボツメレンゲ	<i>Meterostachys sikokianus</i>	VU
第4次:	チャボツメレンゲ	<i>Meterostachys sikokianus</i>	VU
第3次:	チャボツメレンゲ	<i>Meterostachys sikokianus</i>	VU
第2次:	チャボツメレンゲ	<i>Meterostachys sikokianus</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

三重県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 奈良県[絶滅寸前種] 徳島県[絶滅危惧ⅠB類] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 高知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 長崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Meterostachys sikokianus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Meterostachys sikokianus* is listed as VU under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100

years.	
Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コモチレンゲ

Orostachys malacophylla var. *boehmeri***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

花茎は高さ 3–6 cm。イワレンゲに似るが、小型で、花茎の下部やロゼットの葉の腋から、しばしば走出枝を出し、繁殖する。ロゼットは径 2–4 cm、多数密生する。ロゼットの葉は倒卵形～倒披針形、長さ 1–3 cm。花弁は白色で、線形。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸の岩上に生育する。

【分布域】

北海道（函館、日高、礼文島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査**【「現存する株数」別のメッシュ数】**

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 5		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コモチレンゲ	<i>Orostachys malacophylla</i> var. <i>boehmeri</i>	VU
第4次 2019:	コモチレンゲ	<i>Orostachys malacophylla</i> var. <i>boehmeri</i>	VU
第4次 2018:	コモチレンゲ	<i>Orostachys malacophylla</i> var. <i>boehmeri</i>	VU
第4次 2017:	コモチレンゲ	<i>Orostachys malacophylla</i> var. <i>boehmeri</i>	VU
第4次 2015:	コモチレンゲ	<i>Orostachys malacophylla</i> var. <i>boehmeri</i>	VU
第4次:	コモチレンゲ	<i>Orostachys malacophylla</i> var. <i>boehmeri</i>	VU
第3次:	コモチレンゲ	<i>Orostachys malacophylla</i> var. <i>boehmeri</i>	VU
第2次:	コモチレンゲ	<i>Orostachys iwarenge</i> var. <i>boehmeri</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[希少野生生物(C ランク)] 岩手県[B ランク] 秋田県[絶滅危惧種Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫（編），1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類. 318pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Orostachys malacophylla var. *boehmeri* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Orostachys malacophylla* var. *boehmeri* is listed as VU under criteria E. E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イワレンゲ

Orostachys malacophylla var. *iwarenge***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

花茎は高さ 10-20 cm。地上部は全体に強く帯粉して白緑色となる。ロゼットは径約 10 cm。ロゼットの葉は倒披針形、長さ 4-6 cm。花卉は白色、狭倒披針形、長さ 6-8 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸の岩上や屋根上などに生育する。

【分布域】

本州（関東以西）、九州に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	3	0	0	0	0	4	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 道路工事	産地局限	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イワレンゲ	<i>Orostachys malacophylla</i> var. <i>iwarenge</i>	VU
第4次 2019:	イワレンゲ	<i>Orostachys malacophylla</i> var. <i>iwarenge</i>	VU
第4次 2018:	イワレンゲ	<i>Orostachys malacophylla</i> var. <i>iwarenge</i>	VU
第4次 2017:	イワレンゲ	<i>Orostachys malacophylla</i> var. <i>iwarenge</i>	VU
第4次 2015:	イワレンゲ	<i>Orostachys malacophylla</i> var. <i>iwarenge</i>	VU
第4次:	イワレンゲ	<i>Orostachys malacophylla</i> var. <i>iwarenge</i>	VU
第3次:	イワレンゲ	<i>Orostachys malacophylla</i> var. <i>iwarenge</i>	VU
第2次:	イワレンゲ	<i>Orostachys iwarenge</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

茨城県[絶滅危惧ⅠA類] 千葉県[消息不明・絶滅生物(X)] 神奈川県[絶滅(EX)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[情報不足(DD)] 兵庫県[Aランク] 山口県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 佐賀県[絶滅種] 長崎県[準絶滅危惧種(NT)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Orostachys malacophylla var. *iwarenge* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Orostachys malacophylla* var. *iwarenge* is listed as VU under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Road construction, Limited distribution

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ベンケイソウ科 Crassulaceae

ゲンカイワレンゲ

Orostachys malacophylla var. *malacophylla*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

花茎は高さ 10-20 cm。アオノイワレンゲに似るが、ロゼットの径は 10 cm、根出葉は長楕円形か長楕円状さじ形、長さ 1.5-10 cm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸の岩礫地に生育する。

【分布域】

九州北部、対馬に分布。国外では、朝鮮半島、中国（東北）、ロシア（沿海州、サハリン）など日本海沿岸地域に広く分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	2	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ゲンカイワレンゲ	<i>Orostachys malacophylla</i> var. <i>malacophylla</i>	VU
第4次 2019:	ゲンカイワレンゲ	<i>Orostachys malacophylla</i> var. <i>malacophylla</i>	VU
第4次 2018:	ゲンカイワレンゲ	<i>Orostachys malacophylla</i> var. <i>malacophylla</i>	VU
第4次 2017:	ゲンカイワレンゲ	<i>Orostachys malacophylla</i> var. <i>malacophylla</i>	VU
第4次 2015:	ゲンカイワレンゲ	<i>Orostachys malacophylla</i> var. <i>malacophylla</i>	VU
第4次:	ゲンカイワレンゲ	<i>Orostachys malacophylla</i> var. <i>malacophylla</i>	VU
第3次:	ゲンカイワレンゲ	<i>Orostachys malacophylla</i> var. <i>malacophylla</i>	VU
第2次:	ゲンカイワレンゲ	<i>Orostachys genkaiense</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福岡県[絶滅危惧 I B 類] 長崎県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Orostachys malacophylla var. *malacophylla* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Orostachys malacophylla* var. *malacophylla* is listed as VU under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメキリンソウ

*Phedimus sikokianus***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

花茎は直立し長さ約 8 cm。葉は対生するが、3-4 対と数は少なく、広倒披針形～倒卵形、長さ 1-1.5 cm。花弁は線状披針形、長さ約 8 mm、先端は針状に尖る。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

岩礫地に生育する。

【分布域】

四国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 7 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	2	2	1	0	7	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	園芸採取	人の踏みつけ
件数 8	3	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメキリンソウ	<i>Phedimus sikokianus</i>	EN
第4次 2019:	ヒメキリンソウ	<i>Phedimus sikokianus</i>	EN
第4次 2018:	ヒメキリンソウ	<i>Phedimus sikokianus</i>	EN
第4次 2017:	ヒメキリンソウ	<i>Phedimus sikokianus</i>	EN
第4次 2015:	ヒメキリンソウ	<i>Phedimus sikokianus</i>	EN
第4次:	ヒメキリンソウ	<i>Phedimus sikokianus</i>	EN
第3次:	ヒメキリンソウ	<i>Phedimus sikokianus</i>	EN
第2次:	ヒメキリンソウ	<i>Sedum sikokianum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[絶滅危惧 IA 類] 高知県[注目種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Phedimus sikokianus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Phedimus sikokianus* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Collecting plants in gardening, Human trampling

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムコジママンネングサ

*Sedum mukojimense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ムニンタイトゴメに似るが、主に植物体が 7-20 cm、葉は扁平で約 0.6-1.5 cm と大きく、花期が 2-4 月と遅い点で異なる。夏期に地上茎は枯れ、地下に形成した鱗茎で休眠する。秋期に鱗茎から花茎を伸ばし開花する。花序は総状花序。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸の岩上に生育。

【分布域】

東京都（小笠原諸島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

詳細については不明。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	3	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他動物食害		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Ito, T., M. Goto, H. Nakano and G. Kokubugata, 2020. A new species of succulent plants from the Mukojima group of the Bonin Islands, Japan: *Sedum mukojimense* (Crassulaceae). *Phytotaxa*, 450: 188–198.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sedum mukojimense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sedum mukojimense* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Other animal feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ウンゼンマンネングサ

Sedum polytrichoides subsp. *polytrichoides*

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎は長さ 5–8 cm で直立する。葉は互生し、密につき、扁平な線形、長さ 6–13 mm。花序は集散状。花は 5 数性。花弁は離生し、黄色、狭披針形～針状披針形、長さ 3–7 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の岩上に生育する。

【分布域】

九州北部に分布。国外では、朝鮮半島、中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 7 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	5	1	1	0	0	7	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	その他動物食害
件数 3	3	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウンゼンマンネングサ	<i>Sedum polytrichoides</i>	VU
第4次 2019:	ウンゼンマンネングサ	<i>Sedum polytrichoides</i>	VU
第4次 2018:	ウンゼンマンネングサ	<i>Sedum polytrichoides</i>	VU
第4次 2017:	ウンゼンマンネングサ	<i>Sedum polytrichoides</i>	VU
第4次 2015:	ウンゼンマンネングサ	<i>Sedum polytrichoides</i>	VU
第4次:	ウンゼンマンネングサ	<i>Sedum polytrichoides</i>	VU
第3次:	ウンゼンマンネングサ	<i>Sedum polytrichoides</i>	VU
第2次:	ウンゼンマンネングサ	<i>Sedum polytrichoides</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福岡県[絶滅危惧Ⅱ類] 長崎県[準絶滅危惧種(NT)] 大分県[準絶滅危惧種(NT)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sedum polytrichoides subsp. *polytrichoides* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sedum polytrichoides* subsp. *polytrichoides* is listed as VU under criteria E. E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Other animal feeding damage

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤハズマンネングサ

*Sedum tosaense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ロゼットを作り越冬し、春に多数の花茎や花のつかない枝を出す。ロゼットの葉は倒卵形で、長さ 2–3 cm。花茎の基部は地表を這い、上方で斜上し、長さ 10–20 cm。花茎上の葉は互生、下部の葉はロゼットの葉と同形、上部の葉はさじ形～線状さじ形、長さ 1–3(–4) cm。花は径約 1 cm。花序は頂生で、集散状、花数も 20 個内外で少ない。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

石灰岩上などに生育する。

【分布域】

高知県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	4	0	1	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 道路工事	園芸採取	土地造成
件数	3	2

3		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤハズマンネングサ	<i>Sedum tosaense</i>	VU
第4次 2019:	ヤハズマンネングサ	<i>Sedum tosaense</i>	VU
第4次 2018:	ヤハズマンネングサ	<i>Sedum tosaense</i>	VU
第4次 2017:	ヤハズマンネングサ	<i>Sedum tosaense</i>	VU
第4次 2015:	ヤハズマンネングサ	<i>Sedum tosaense</i>	VU
第4次:	ヤハズマンネングサ	<i>Sedum tosaense</i>	VU
第3次:	ヤハズマンネングサ	<i>Sedum tosaense</i>	VU
第2次:	ヤハズマンネングサ	<i>Sedum tosaense</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[絶滅危惧 IA 類] 高知県[準絶滅危惧(NT)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sedum tosaense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sedum tosaense* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Road construction, Collecting plants in gardening, Land development

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オグラノフサモ

Myriophyllum oguraense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は分枝して細長く伸長し、長さ 30-150 cm。水中の葉は長さ 1-4 cm、羽状に深裂し、裂片は糸状で 10-15 対。花は水面から出た穂状花序につき、花序上部に雄花、下部に雌花がある。雄花の花弁は長さ 1.7-2.5 mm、白色～淡緑色。雌花の花弁は長さ 0.4-0.6 mm、白色。越冬芽の葉は長さ 2-4 mm、水中葉より羽片が少なく鱗片状になる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

池や沼などに生育。

【分布域】

本州（東北地方以南）・四国・九州、朝鮮半島・中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、10 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	5	1	2	1	0	10	1	4

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 水質汚濁	管理放棄	池沼開発
件数	6	4

8		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オグラノフサモ	<i>Myriophyllum oguraense</i>	VU
第4次 2019:	オグラノフサモ	<i>Myriophyllum oguraense</i>	VU
第4次 2018:	オグラノフサモ	<i>Myriophyllum oguraense</i>	VU
第4次 2017:	オグラノフサモ	<i>Myriophyllum oguraense</i>	VU
第4次 2015:	オグラノフサモ	<i>Myriophyllum oguraense</i>	VU
第4次:	オグラノフサモ	<i>Myriophyllum oguraense</i>	VU
第3次:	オグラノフサモ	<i>Myriophyllum oguraense</i>	VU
第2次:	オグラノフサモ	<i>Myriophyllum oguraense</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮城県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 茨城県[情報不足②現状不明種] 群馬県[絶滅(EX)] 新潟県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 滋賀県[絶滅危惧種] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[CR+EN] 兵庫県[Aランク] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 島根県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 岡山県[絶滅危惧Ⅱ類] 広島県[準絶滅危惧(NT)] 山口県[準絶滅危惧(NT)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-d)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Myriophyllum oguraense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Myriophyllum oguraense is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Water pollution, Abandonment of management, Pond development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

リシリオウギ

Astragalus frigidus subsp. *parviflorus*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15–30 cm。葉は 7–11 小葉、托葉は大型で卵形、やや鋭頭、離生、長さ 1–2 cm。小葉は楕円形～卵形、円頭～凹頭、長さ 1.5–3 cm、幅 1–1.5 cm、表面は無毛、裏面は軟毛を散生。花序は上部に 5–10 花を密につけ、花序枝は 5–10 cm、花は黄白色で、長さ約 15–18 mm、旗弁は楕円形。萼は長さ 7–9 mm、先端に黒褐色の短毛があり、萼裂片ははなはだ短く長さ 0.7–1 mm、同長。豆果は長さ 6–8 mm、黒褐色の短毛を密生し、下側の縫合線は全く凹入しない。

【生活史】

多年草。花期は 7–9 月。

【生育環境】

高山の草原や岩礫地に生える。

【分布域】

北海道（利尻島・大雪山系）・本州（富山県・長野県）、中国・インド・ネパール・パキスタン・ロシア・ヨーロッパ・北アメリカの寒帯から亜寒帯。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因 自然遷移	産地局限	
件数 2	2	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	リシリオウギ	<i>Astragalus frigidus</i> subsp. <i>parviflorus</i>	VU
第4次 2019:	リシリオウギ	<i>Astragalus frigidus</i> subsp. <i>parviflorus</i>	VU
第4次 2018:	リシリオウギ	<i>Astragalus frigidus</i> subsp. <i>parviflorus</i>	VU
第4次 2017:	リシリオウギ	<i>Astragalus frigidus</i> subsp. <i>parviflorus</i>	VU
第4次 2015:	リシリオウギ	<i>Astragalus frigidus</i> subsp. <i>parviflorus</i>	VU
第4次:	リシリオウギ	<i>Astragalus frigidus</i> subsp. <i>parviflorus</i>	VU
第3次:	リシリオウギ	<i>Astragalus frigidus</i> subsp. <i>parviflorus</i>	VU
第2次:	リシリオウギ	<i>Astragalus secundus</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 富山県[準絶滅危惧] 長野県[絶滅危惧 II 類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Astragalus frigidus subsp. *parviflorus* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Astragalus frigidus* subsp. *parviflorus* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ビロードヒメクス

Cajanus scarabaeoides

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 C

推定開花株数 10000 個体未満かつ 10 年間に 10%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

植物体全体にビロード状の密毛がある。葉は 3 出葉、小葉は倒卵状長楕円形、長さ 2-4 cm、葉柄は長さ 1-2 cm、両面に灰褐色の長軟毛が密生し、下面に多数の腺点があり、葉脈は凸出する。総状花序は腋生し、黄色い蝶形花を 2-3 個つける。花は長さ 1 cm、萼は有毛。莢果は長楕円形、長さ 2 cm、褐色の密毛があり、密に腺点があり、中に 2-5 個の種子を含む。

【生活史】

一年生つる性草本。花期は 8 月-10 月。

【生育環境】

近海の原野や草原に生育。

【分布域】

沖縄県（沖縄島・伊江島・宮古島・石垣島・西表島・黒島・小浜島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

石垣島では点々と自生地が確認されているが、その一部は開発により消失している。他の島ではかなり稀であり、沖縄島と伊江島は現状不明。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 帰化競合		

件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 文献なし

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cajanus scarabaeoides has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Cajanus scarabaeoides is listed as VU under criteria C.
 C. Population size estimated to number fewer than 10,000 mature individuals and:
 1. An estimated continuing decline of at least 10% within ten years.

Threat types:	Invasive species competition
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒルギカズラ

Dalbergia candenatensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は対生し、奇数羽状複葉、小葉は 5-10 対、長楕円形、円頭、長さ 1.5-4 cm。小葉は接触傾性運動を示す。円錐花序は腋生または頂生し、多数の白色の蝶形花をつける。花は小型、萼は鐘状、長さ 5-7 mm。雄蕊は 9-10 個、子房は有柄、無毛。莢果は長さ 3-7 cm、中に 1-3 種子を含み、裂開しない。種子は腎臓形、扁平、長さ 6 mm。

【生活史】

常緑性つる性木本。開花期は 6 月から 8 月。

【生育環境】

マングローブの林内や林縁に生育。樹木にはい上がる。

【分布域】

沖縄県（石垣島・西表島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

西表島では数カ所で確認されているが、個体数は少ない。石垣島の現状は不明。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 文献なし

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dalbergia candenatensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Dalbergia candenatensis is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミヤコジマツルマメ

*Glycine koidzumii***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は 3 小葉で葉柄は長く、小葉は狭楕円形から楕円形、円形または倒卵状楕円形、長さ 1.2-2 cm。腋生の総状花序は長さ 3-8 cm、5-10 個の開放花をつけ、花弁は青紫色、長さ約 8 mm。閉鎖花は葉腋に 1 個、ときに花序の基部数個つける。開放花の豆果は長さ 1.8-2.6 cm、線形で扁平、3-6 個の種子を入れる。閉鎖花の豆果は長さ 1.5-2.4 cm、2-5 個の種子を入れる。ボウコツルマメに似るが、小葉の形態が異なり、果実が小さく胚珠も少なく、花弁の色や萼の形態も異なる。

【生活史】

つる性の 1 年草。

【生育環境】

海岸の海食崖肩状部のテラス状の岩場の堆積土壌が薄い風衝地に生える。

【分布域】

宮古島・来間島・伊良部島・下地島・石垣島・黒島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミヤコジマツルマメ	<i>Glycine koidzumii</i>	VU
第4次 2019:	ミヤコジマツルマメ	<i>Glycine koidzumii</i>	VU
第4次 2018:	ミヤコジマツルマメ	<i>Glycine koidzumii</i>	VU
第4次 2017:	ミヤコジマツルマメ	<i>Glycine koidzumii</i>	VU
第4次 2015:	ミヤコジマツルマメ	<i>Glycine koidzumii</i>	VU
第4次:	ミヤコジマツルマメ	<i>Glycine koidzumii</i>	VU
第3次:	ミヤコジマツルマメ	<i>Glycine koidzumii</i>	VU
第2次:	ミヤコジマツルマメ	<i>Glycine tabacina</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[準絶滅危惧(NT)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Glycine koidzumii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Glycine koidzumii* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

チョウセンキハギ

Lespedeza maximowiczii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1-3 m。小枝は木質。冬芽は扇形で鱗片は 2 列に並ぶ。小葉は卵状楕円形から広楕円形、頂小葉は長さ 3-9 cm、幅 2-4 cm、両面に伏毛があり、先端は鋭頭～鋭尖頭で微突起がある。腋生の偽総状花序または偽円錐花序をつけ、花柄は長さ 1-3 mm。萼は長さ 4-5 mm、萼裂片は鋭先端から尾状、先端は刺状になる。花は濃紫紅色、旗弁に濃点があり、長さ 9-10 mm。節果は長さ 10-15 mm、幅 10-12 mm、広楕円形～ほぼ円形。

【生活史】

小低木。花期は 7-8 月。

【生育環境】

丘陵地・低山地の疎林内など、日当りのよい岩の多い場所に見られる。

【分布域】

長崎県（対馬）、朝鮮半島・中国（東北）。緑化のために中国から輸入された種子に混入し、道路法面に中国起源と思われる個体が各地に見いだされている。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	1	0	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

不明		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チョウセンキハギ	<i>Lespedeza maximowiczii</i>	VU
第4次 2019:	チョウセンキハギ	<i>Lespedeza maximowiczii</i>	VU
第4次 2018:	チョウセンキハギ	<i>Lespedeza maximowiczii</i>	VU
第4次 2017:	チョウセンキハギ	<i>Lespedeza maximowiczii</i>	VU
第4次 2015:	チョウセンキハギ	<i>Lespedeza maximowiczii</i>	VU
第4次:	チョウセンキハギ	<i>Lespedeza maximowiczii</i>	VU
第3次:	チョウセンキハギ	<i>Lespedeza maximowiczii</i>	VU
第2次:	チョウセンキハギ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016．改訂新版日本の野生植物 2．381pp., 256pls. 平凡社，東京．
- 長崎県県民生活環境部自然保護課，2001．ながさきの希少な野生動植物 レッドデータブック 2001．長崎県県民生活環境部自然保護課，568pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lespedeza maximowiczii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

<i>Lespedeza maximowiczii</i> is listed as VU under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クロバナキハギ

Lespedeza melanantha

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 2 m に達する。葉は互生し、3 出葉、頂小葉は楕円形、円頭からやや鋭頭、長さ 1.5-4 cm、裏面に短毛がある。総状花序は腋生。花は長さ 11~15 mm。ヤマハギに似るが、暗赤紫色の花をつけ、萼裂片は筒部より短く、先端は円形で毛が少ない。

【生活史】

半低木。花期は 7-9 月。

【生育環境】

岩地に生育する。

【分布域】

本州（愛知県）・九州（熊本県）、朝鮮半島南部。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クロバナキハギ	<i>Lespedeza melanantha</i>	VU
第4次 2019:	クロバナキハギ	<i>Lespedeza melanantha</i>	VU
第4次 2018:	クロバナキハギ	<i>Lespedeza melanantha</i>	VU
第4次 2017:	クロバナキハギ	<i>Lespedeza melanantha</i>	VU
第4次 2015:	クロバナキハギ	<i>Lespedeza melanantha</i>	VU
第4次:	クロバナキハギ	<i>Lespedeza melanantha</i>	VU
第3次:	クロバナキハギ	<i>Lespedeza melanantha</i>	VU
第2次:	クロバナキハギ	<i>Lespedeza bicolor</i> var. <i>melanantha</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

愛知県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 熊本県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 愛知県環境調査センター，2020. レッドデータブックあいち 2020—植物編—. 愛知県環境局環境政策部自然環境課，810pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lespedeza melanantha has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lespedeza melanantha* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

リシリゲンゲ

Oxytropis campestris subsp. *rishiriensis*

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 10-15 cm。太い木質の根茎がある。小葉は 17-27 枚、長さ 5-18 mm、幅 4-7 mm、狭卵形または狭楕円形、鋭頭または鈍頭、表面はほぼ無毛、裏面は伏した白色の軟毛がある。花は淡黄色または緑黄色で、長さ約 2 cm。萼裂片は萼筒の約 1/3 長以下、黒毛と白毛が混じる。豆果は長さ 16-22 mm、幅 5-7 mm、卵形で鋭頭、長白毛と短黒毛があるが、のちほとんど無毛となる。

【生活史】

多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

高山の岩場。

【分布域】

南千島・北海道（利尻島・ニペソツ山・夕張岳）、ヨーロッパ・極東ロシア・北アメリカに広く分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	自然遷移	人の踏みつけ

産地局限		
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	リシリゲンゲ	<i>Oxytropis campestris</i> subsp. <i>rishiriensis</i>	EN
第4次 2019:	リシリゲンゲ	<i>Oxytropis campestris</i> subsp. <i>rishiriensis</i>	EN
第4次 2018:	リシリゲンゲ	<i>Oxytropis campestris</i> subsp. <i>rishiriensis</i>	EN
第4次 2017:	リシリゲンゲ	<i>Oxytropis campestris</i> subsp. <i>rishiriensis</i>	EN
第4次 2015:	リシリゲンゲ	<i>Oxytropis campestris</i> subsp. <i>rishiriensis</i>	EN
第4次:	リシリゲンゲ	<i>Oxytropis campestris</i> subsp. <i>rishiriensis</i>	EN
第3次:	リシリゲンゲ	<i>Oxytropis campestris</i> subsp. <i>rishiriensis</i>	CR
第2次:	リシリゲンゲ	<i>Oxytropis rishiriensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫（編），1982. 日本の野生植物 草本 II 離弁花類. 318pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Oxytropis campestris subsp. *rishiriensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List

5th edition. *Oxytropis campestris* subsp. *rishiriensis* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Limited distribution, Natural succession, Human trampling
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒダカミヤマノエンドウ

*Oxytropis retusa***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

無茎。葉柄と花序柄に開出した白長毛がある。托葉は長さ約 1.5 mm、狭卵形、鋭頭、下面に軟毛がある。葉は 5-8 対の小葉をつけ、小葉は長さ 8-12 mm、幅 2-4 mm、長楕円形で鋭頭、上面には軟毛が密生し、下面はまばらまたは一様に軟毛がある。花序は 2-7 花、花は青紫色または紅紫色、長さ約 2 cm、花柄は長さ 3-5 mm、竜骨弁は先端の突起は長さ 1 mm。萼は黒毛と白毛があり、長さ 9-10 mm、萼裂片は狭卵形で長さ 2-3 mm。豆果は無柄で有毛、長さ 15-20 mm、幅 6-10 mm。

【生活史】

多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

高山帯の岩場に生える。

【分布域】

北海道（日高山系）、千島列島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数百個体の現存が報告された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒダカミヤマノエンドウ	<i>Oxytropis retusa</i>	VU
第4次 2019:	ヒダカミヤマノエンドウ	<i>Oxytropis retusa</i>	VU
第4次 2018:	ヒダカミヤマノエンドウ	<i>Oxytropis retusa</i>	VU
第4次 2017:	ヒダカミヤマノエンドウ	<i>Oxytropis retusa</i>	VU
第4次 2015:	ヒダカミヤマノエンドウ	<i>Oxytropis retusa</i>	VU
第4次:	ヒダカミヤマノエンドウ	<i>Oxytropis retusa</i>	VU
第3次:	ヒダカミヤマノエンドウ	<i>Oxytropis revoluta</i> var. <i>hidakamontana</i>	VU
第2次:	ヒダカミヤマノエンドウ	<i>Oxytropis hidaka-montana</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Oxytropis retusa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Oxytropis retusa* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イソフジ

Sophora tomentosa

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 D
推定開花株数が 1000 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 3 m。葉は奇数羽状複葉、5-8 対の側小葉をつける。小葉は長さ 3-4.5 cm、幅 2-3 cm、厚質で楕円形から卵形または倒卵形、円頭、表面は花期に中肋上に白短毛が残るがのちにほぼ無毛、裏面は灰白色の軟毛がビロード状に密生する。偽総状花序は有柄、花序軸は 5-10 cm、全体に灰白色の軟毛が密生する。花は黄色。豆果は裂開せず、有柄で数珠状、長さ 8-17 cm、灰白色の軟毛がビロード状に密生し、4-8 個の種子を入れる。

【生活史】

常緑の小高木または低木。花期は 8-12 月。果期は 1-4 月。

【生育環境】

海岸。

【分布域】

小笠原（父島・母島）・奄美・琉球、アジア・太平洋諸島の熱帯・亜熱帯。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	—	1	0	2
【存続を脅かす要因上位3項目の件数】								
1 番目			2 番目			3 番目		
要因								

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イソフジ	<i>Sophora tomentosa</i>	EN
第4次 2019:	イソフジ	<i>Sophora tomentosa</i>	EN
第4次 2018:	イソフジ	<i>Sophora tomentosa</i>	EN
第4次 2017:	イソフジ	<i>Sophora tomentosa</i>	EN
第4次 2015:	イソフジ	<i>Sophora tomentosa</i>	EN
第4次:	イソフジ	<i>Sophora tomentosa</i>	EN
第3次:	イソフジ	<i>Sophora tomentosa</i>	EN
第2次:	イソフジ	<i>Sophora tomentosa</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sophora tomentosa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sophora tomentosa* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コチョウインゲン

Vigna adenantha

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 D
推定開花株数が 1000 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

葉は 3 小葉。小葉は菱形状～長楕円状卵形、3 主脈があり、長さ 7-8 cm、幅 5-6.5 cm。葉腋の総状花序に数花をつけ、花は淡紅紫色、旗弁は径 3-3.5 cm。2 枚の竜骨弁は縁同士が合着して筒状になり、長く伸びて螺旋に 3 回転して内側に巻き込む。豆果は長さ 9-14 cm、線形、ほぼ無毛、裂開して数～12 種子を飛ばす。種子は腎形、長さ 4-7 mm。

【生活史】

つる性多年草。花期は 11-2 月頃。種子は、子葉の間の空隙によって海水に浮き、海流によって散布される。

【生育環境】

低地または海岸の低木林内に生える。

【分布域】

琉球（石垣島・西表島・小浜島）、世界の熱帯と亜熱帯に広く分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コショウインゲン	<i>Vigna adenantha</i>	VU
第4次 2019:	コショウインゲン	<i>Vigna adenantha</i>	VU
第4次 2018:	コショウインゲン	<i>Vigna adenantha</i>	VU
第4次 2017:	コショウインゲン	<i>Vigna adenantha</i>	VU
第4次 2015:	コショウインゲン	<i>Vigna adenantha</i>	VU
第4次:	コショウインゲン	<i>Vigna adenantha</i>	VU
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Vigna adenantha has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Vigna*

adenantha is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae バラ科 Rosaceae

チョウセンキンミズヒキ

Agrimonia coreana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 30–80 (–100) cm。葉は 3–5 (–7)小葉からなり、小葉は大きくて薄く、卵形～菱状卵形で、縁の鋸歯は先が鈍い。花は細い花穂にまばらにつき、径(8–) 10–16 mm。花弁は楕円形、長さ 3.5–5 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地や高原に生育する。

【分布域】

北海道～九州に分布。国外では、朝鮮半島、中国（東北部、山東省）、ウスリーに分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	2	1	1	0	0	5	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 道路工事	シカ食害	
件数	2	

2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チョウセンキンミズヒキ	<i>Agrimonia coreana</i>	VU
第4次 2019:	チョウセンキンミズヒキ	<i>Agrimonia coreana</i>	VU
第4次 2018:	チョウセンキンミズヒキ	<i>Agrimonia coreana</i>	VU
第4次 2017:	チョウセンキンミズヒキ	<i>Agrimonia coreana</i>	VU
第4次 2015:	チョウセンキンミズヒキ	<i>Agrimonia coreana</i>	VU
第4次:	チョウセンキンミズヒキ	<i>Agrimonia coreana</i>	VU
第3次:	チョウセンキンミズヒキ	<i>Agrimonia coreana</i>	VU
第2次:	チョウセンキンミズヒキ	<i>Agrimonia coreana</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 岩手県[C ランク] 宮城県[準絶滅危惧(NT)] 福島県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 栃木県[準絶滅危惧(C ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 東京都(本土部)[本土部:絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 東京都(北多摩)[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 東京都(南多摩)[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 長野県[準絶滅危惧(NT)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ 類] 三重県[CR] 滋賀県[希少種] 高知県[絶滅危惧Ⅱ 類(VU)] 大分県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA 類(CR-r)] 鹿児島県[準絶滅危惧]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Agrimonia coreana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Agrimonia coreana is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Road construction, Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アポイヤマブキショウマ

Aruncus dioicus var. *subrotundus***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヤマブキショウマに似るが、小葉がやや硬く、卵円形で、鋸歯が鋭い。

【生活史】

多年草。雌雄異株。

【生育環境】

橄欖岩地に生育する。

【分布域】

北海道アポイ岳周辺に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アボイヤマブキシウマ	<i>Aruncus dioicus</i> var. <i>subrotundus</i>	VU
第4次 2019:	アボイヤマブキシウマ	<i>Aruncus dioicus</i> var. <i>subrotundus</i>	VU
第4次 2018:	アボイヤマブキシウマ	<i>Aruncus dioicus</i> var. <i>subrotundus</i>	VU
第4次 2017:	アボイヤマブキシウマ	<i>Aruncus dioicus</i> var. <i>subrotundus</i>	VU
第4次 2015:	アボイヤマブキシウマ	<i>Aruncus dioicus</i> var. <i>subrotundus</i>	VU
第4次:	アボイヤマブキシウマ	<i>Aruncus dioicus</i> var. <i>subrotundus</i>	VU
第3次:	アボイヤマブキシウマ	<i>Aruncus dioicus</i> var. <i>subrotundus</i>	VU
第2次:	アボイヤマブキシウマ	<i>Aruncus dioicus</i> var. <i>subrotundus</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aruncus dioicus var. *subrotundus* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Aruncus dioicus* var. *subrotundus* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シコクシモツケソウ

*Filipendula tsuguwoi***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立して高さ 30-70 cm。頂小葉は円形で幅 6-13 cm、掌状に 5-7 裂、裂片は卵形～狭卵形で鋭尖頭。側小葉は 3-5 対で卵形、長さ 1.5-2 cm。花は径 3.5-4.5 mm で、6-8 月に咲き、花弁は倒卵状円形で 5 枚。

【生活史】

多年草。雌雄異株。

【生育環境】

石灰岩や蛇紋岩の山地の稜線に生育する。

【分布域】

四国、九州（宮崎県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	1	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	シカ食害	道路工事
件数 3	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シコクシモツケソウ	<i>Filipendula tsuguwoi</i>	VU
第4次 2019:	シコクシモツケソウ	<i>Filipendula tsuguwoi</i>	VU
第4次 2018:	シコクシモツケソウ	<i>Filipendula tsuguwoi</i>	VU
第4次 2017:	シコクシモツケソウ	<i>Filipendula tsuguwoi</i>	VU
第4次 2015:	シコクシモツケソウ	<i>Filipendula tsuguwoi</i>	VU
第4次:	シコクシモツケソウ	<i>Filipendula tsuguwoi</i>	VU
第3次:	シコクシモツケソウ	<i>Filipendula tsuguwoi</i>	EN
第2次:	シコクシモツケソウ	<i>Filipendula tsuguwoi</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Filipendula tsuguwoi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Filipendula tsuguwoi* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Deer feeding damage, Road construction
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツチグリ

Potentilla discolor

カテゴリー	判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。			
評価分科会： 維管束植物分科会			

基礎情報

【形態】

高さ 15-30 cm。根茎は太く、著しく肥厚して紡錘状やレンズ形をなす部分がある。小葉は 5-9 個で長楕円形～羽状長楕円形、重鋸歯があり長さ 2-4 cm、裏面は白い綿毛に被われる。花期は 4-6 月で花の径は 12-15 mm、花弁は広倒卵形～円形。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

日当たりの良い乾燥した草地に生育する。

【分布域】

本州（愛知県以西）、四国、九州に分布。国外では、台湾、朝鮮半島、中部、ウスリーに分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 10 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	3	3	2	0	0	10	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	管理放棄	その他
件数	6	3

8		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツチグリ	<i>Potentilla discolor</i>	VU
第4次 2019:	ツチグリ	<i>Potentilla discolor</i>	VU
第4次 2018:	ツチグリ	<i>Potentilla discolor</i>	VU
第4次 2017:	ツチグリ	<i>Potentilla discolor</i>	VU
第4次 2015:	ツチグリ	<i>Potentilla discolor</i>	VU
第4次:	ツチグリ	<i>Potentilla discolor</i>	VU
第3次:	ツチグリ	<i>Potentilla discolor</i>	EN
第2次:	ツチグリ	<i>Potentilla discolor</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岐阜県[情報不足] 大阪府[EX] 兵庫県[A ランク] 岡山県[野生絶滅] 山口県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 香川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅危惧Ⅱ類] 長崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Potentilla discolor has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Potentilla discolor* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100

years.	
Threat types:	Natural succession, Abandonment of management, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae バラ科 Rosaceae

キンロバイ

Potentilla fruticosa var. *rigida*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 50-100 cm。葉は 3-5 個の小葉からなり、小葉は楕円形～狭長楕円形で、長さ 1-2 cm。6-8 月、枝の先に少数の花をつける。花は径 2-2.5 cm で黄色。萼片は三角状卵形。花弁はほぼ円形。

【生活史】

小低木。

【生育環境】

亜高山～高山帯の蛇紋岩や石灰岩の岩場に生育する。

【分布域】

北海道、本州、四国に分布。世界的には、北半球の温帯から寒帯、高山帯に広く分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	
件数	1	

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キンロバイ	<i>Potentilla fruticosa</i> var. <i>rigida</i>	VU
第4次 2019:	キンロバイ	<i>Potentilla fruticosa</i> var. <i>rigida</i>	VU
第4次 2018:	キンロバイ	<i>Potentilla fruticosa</i> var. <i>rigida</i>	VU
第4次 2017:	キンロバイ	<i>Potentilla fruticosa</i> var. <i>rigida</i>	VU
第4次 2015:	キンロバイ	<i>Potentilla fruticosa</i> var. <i>rigida</i>	VU
第4次:	キンロバイ	<i>Potentilla fruticosa</i> var. <i>rigida</i>	VU
第3次:	キンロバイ	<i>Potentilla fruticosa</i> var. <i>rigida</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 岩手県[Bランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 秋田県[絶滅危惧種ⅠA類(CR)] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 群馬県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 山梨県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 長野県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Potentilla fruticosa var. *rigida* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Potentilla fruticosa* var. *rigida* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae バラ科 Rosaceae

メアカンキンバイ

Potentilla miyabei

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長さ 3-10 cm。葉は 3 出葉、小葉は広倒披針形～倒卵形で長さ 5-15 mm、先端に 3 個の粗い歯牙がある。花期は 7-8 月で、集散花序に径 12-15 mm の黄色の花を 1-5 個つける。花弁は広倒卵形～倒卵状円形。

【生活史】

小低木。

【生育環境】

高山の日当たりの良い斜面や礫地に生育する。

【分布域】

北海道に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	2	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	メアカンキンバイ	<i>Potentilla miyabei</i>	VU
第4次 2019:	メアカンキンバイ	<i>Potentilla miyabei</i>	VU
第4次 2018:	メアカンキンバイ	<i>Potentilla miyabei</i>	VU
第4次 2017:	メアカンキンバイ	<i>Potentilla miyabei</i>	VU
第4次 2015:	メアカンキンバイ	<i>Potentilla miyabei</i>	VU
第4次:	メアカンキンバイ	<i>Potentilla miyabei</i>	VU
第3次:	メアカンキンバイ	<i>Potentilla miyabei</i>	VU
第2次:	メアカンキンバイ	<i>Potentilla miyabei</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Potentilla miyabei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Potentilla miyabei* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Human trampling
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae バラ科 Rosaceae

ヒロハノカワラサイコ

Potentilla niponica

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 20-40 cm。葉は羽状複葉で小葉は 7-15 枚。上部の小葉は倒披針形～狭長楕円形、長さ 2-3 cm。花期は 6-8 月。頂生の散房状集散花序で、径約 1 cm の黄色い花をつける。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

日当たりのよい草地や河川敷に生育する。

【分布域】

北海道、本州に分布。国外では、朝鮮半島、中国（東北部）、ウスリーに分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで絶滅し、20 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
9	7	2	2	0	0	20	3	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	管理放棄	河川開発
件数 9	7	5

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒロハノカワラサイコ	<i>Potentilla niponica</i>	VU
第4次 2019:	ヒロハノカワラサイコ	<i>Potentilla niponica</i>	VU
第4次 2018:	ヒロハノカワラサイコ	<i>Potentilla niponica</i>	VU
第4次 2017:	ヒロハノカワラサイコ	<i>Potentilla niponica</i>	VU
第4次 2015:	ヒロハノカワラサイコ	<i>Potentilla niponica</i>	VU
第4次:	ヒロハノカワラサイコ	<i>Potentilla niponica</i>	VU
第3次:	ヒロハノカワラサイコ	<i>Potentilla niponica</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[希少野生生物(C ランク)] 岩手県[C ランク] 宮城県[準絶滅危惧(NT)] 秋田県[絶滅危惧種Ⅱ類(VU)] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 茨城県[情報不足②現状不明種] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 千葉県[要保護生物(C)] 東京都(本土部)[本土部：絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 東京都(南多摩)[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 神奈川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山梨県[情報不足(DD)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[要注目種(N-I 現状不明)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 島根県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Potentilla niponica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Potentilla niponica* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100

years.	
Threat types:	Natural succession, Abandonment of management, River development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae バラ科 Rosaceae

ウラジロキンバイ

Potentilla nivea var. *camtschatica*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-20 cm。根茎は太く、葉を根生。葉は 3 個の小葉からなり、小葉は倒卵状長楕円形～広卵形、長さ 10-35 mm、鋸歯縁、裏面は白い綿毛に被われる。花序は集散状で 1-5 個の花をつける。花は 7-8 月に咲き、黄色で径 1.5-2 cm。萼片は広披針形で、副萼は狭い。花弁は倒卵円形。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の石の多い斜面や岩場に生育する。

【分布域】

南千島（色丹島）、北海道、本州（中部地方）に分布。世界的には、ヨーロッパ～アジア、北アメリカの寒帯、高山帯に広く分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 自然遷移	人の踏みつけ	産地局限

件数		
2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウラジロキンバイ	<i>Potentilla nivea</i>	VU
第4次 2019:	ウラジロキンバイ	<i>Potentilla nivea</i>	VU
第4次 2018:	ウラジロキンバイ	<i>Potentilla nivea</i>	VU
第4次 2017:	ウラジロキンバイ	<i>Potentilla nivea</i>	VU
第4次 2015:	ウラジロキンバイ	<i>Potentilla nivea</i>	VU
第4次:	ウラジロキンバイ	<i>Potentilla nivea</i>	VU
第3次:	ウラジロキンバイ	<i>Potentilla nivea</i>	VU
第2次:	ウラジロキンバイ	<i>Potentilla nivea</i> var. <i>camtschatica</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

富山県[準絶滅危惧] 山梨県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 長野県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Potentilla nivea var. *camtschatica* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Potentilla nivea* var. *camtschatica* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Human trampling, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アオナシ

Pyrus ussuriensis var. *hondoensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミチノクナシに似るが、葉がやや小型、葉縁は芒状ではない鋭鋸歯、花被は熟しても黄緑色で皮目が少ない。

【生活史】

落葉高木。

【生育環境】

山地帯低木林または落葉広葉樹林内に生育する。

【分布域】

本州（群馬県、長野県、山梨県、静岡県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では数百個体現存との情報が得られた。八ヶ岳周辺、関東山地の一部、富士山の一部でのみ現存し、新潟県、神奈川県、静岡県及び岐阜県ではすでに絶滅したと推測される（池谷・大橋 2003）。生育地の二次林およびその林縁は開発の影響を受けやすいため、今後も減少が続くおそれがある。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アオナシ	<i>Pyrus ussuriensis</i> var. <i>hondoensis</i>	VU
第4次 2019:	アオナシ	<i>Pyrus ussuriensis</i> var. <i>hondoensis</i>	VU
第4次 2018:	アオナシ	<i>Pyrus ussuriensis</i> var. <i>hondoensis</i>	VU
第4次 2017:	アオナシ	<i>Pyrus ussuriensis</i> var. <i>hondoensis</i>	VU
第4次 2015:	アオナシ	<i>Pyrus ussuriensis</i> var. <i>hondoensis</i>	VU
第4次:	アオナシ	<i>Pyrus ussuriensis</i> var. <i>hondoensis</i>	VU
第3次:	アオナシ	<i>Pyrus ussuriensis</i> var. <i>hondoensis</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 山梨県[準絶滅危惧(NT)] 長野県[留意種(N)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 山梨県森林環境部みどり自然課，2018. 2018 山梨県レッドデータブック. 山梨県森林環境部みどり自然課，290pp.
- 池谷祐幸・大橋広好，2003. 日本産ミチノクナシの分類と分布. 植物研究雑誌，78: 119-134.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pyrus ussuriensis var. *hondoensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th

edition. <i>Pyrus ussuriensis</i> var. <i>hondoensis</i> is listed as VU under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シマバライチゴ	<i>Rubus lambertianus</i>	VU
第4次 2019:	シマバライチゴ	<i>Rubus lambertianus</i>	VU
第4次 2018:	シマバライチゴ	<i>Rubus lambertianus</i>	VU
第4次 2017:	シマバライチゴ	<i>Rubus lambertianus</i>	VU
第4次 2015:	シマバライチゴ	<i>Rubus lambertianus</i>	VU
第4次:	シマバライチゴ	<i>Rubus lambertianus</i>	VU
第3次:	シマバライチゴ	<i>Rubus lambertianus</i>	VU
第2次:	シマバライチゴ	<i>Rubus lambertianus</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rubus lambertianus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rubus lambertianus* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae バラ科 Rosaceae

タイワンウラジロイチゴ

Rubus swinhoei

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎はものに寄りかかっているのぼり、かぎ形の棘がある。葉はやや薄く、卵形または披針状卵形、長さ 5-10 cm。萼裂片は三角状卵形、急尖頭。小花柄と萼に腺毛がある。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

高地の日当たりのよい林縁に生育する。

【分布域】

琉球（沖縄諸島、八重山列島）に分布。国外では、中国大陸、台湾に分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	台湾ウラボイチゴ	<i>Rubus swinhoei</i>	EN
第4次 2019:	台湾ウラボイチゴ	<i>Rubus swinhoei</i>	EN
第4次 2018:	台湾ウラボイチゴ	<i>Rubus swinhoei</i>	EN
第4次 2017:	台湾ウラボイチゴ	<i>Rubus swinhoei</i>	EN
第4次 2015:	台湾ウラボイチゴ	<i>Rubus swinhoei</i>	EN
第4次:	台湾ウラボイチゴ	<i>Rubus swinhoei</i>	EN
第3次:	台湾ウラボイチゴ	<i>Rubus swinhoei</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫（編），1989．日本の野生植物 木本Ⅰ．321pp., 304pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rubus swinhoei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rubus swinhoei* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナンブトウチソウ

*Sanguisorba obtusa***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 C

推定開花株数 10000 個体未満かつ 10 年間に 10%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 20-60 cm。小葉は 11-17 個、小葉柄がほとんどない。花序は長さ 3-7 cm で、垂れ下がり、花は淡紅色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山帯の日当たりのよい岩礫地に生育する。

【分布域】

本州（早池峰山）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数千個体の現存が推定された。基準 C により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	1	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナンブトウチソウ	<i>Sanguisorba obtusa</i>	EN
第4次 2019:	ナンブトウチソウ	<i>Sanguisorba obtusa</i>	EN
第4次 2018:	ナンブトウチソウ	<i>Sanguisorba obtusa</i>	EN
第4次 2017:	ナンブトウチソウ	<i>Sanguisorba obtusa</i>	EN
第4次 2015:	ナンブトウチソウ	<i>Sanguisorba obtusa</i>	EN
第4次:	ナンブトウチソウ	<i>Sanguisorba obtusa</i>	EN
第3次:	ナンブトウチソウ	<i>Sanguisorba obtusa</i>	EN
第2次:	ナンブトウチソウ	<i>Sanguisorba obtusa</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[A ランク]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 岩手県環境生活部自然保護課，2014. いわてレッドデータブック 岩手の希少な野生生物 web 版. <https://www2.pref.iwate.jp/~hp0316/rd/rdb/index.html>（2024 年 9 月 6 日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sanguisorba obtusa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sanguisorba obtusa* is listed as VU under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 10,000 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 10% within ten years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エゾシモツケ

Spiraea media var. *sericea*

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	基準 D
推定開花株数が 1000 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ約 1 m。葉は狭楕円形～楕円形、長さ 1.5-4 cm、全縁、または上方に 2-3 個の鋸歯がある。散房花序に多数の花をつける。5-7 月に咲き、白色で、径 5-7 mm。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

日当たりの良い山地に生育する。

【分布域】

南千島、北海道、本州（青森県）に分布。国外では、千島列島、ウスリー、サハリン、朝鮮半島、中国（東北部）に分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾシモツケ	<i>Spiraea sericea</i>	VU
第4次 2019:	エゾシモツケ	<i>Spiraea sericea</i>	VU
第4次 2018:	エゾシモツケ	<i>Spiraea sericea</i>	VU
第4次 2017:	エゾシモツケ	<i>Spiraea sericea</i>	VU
第4次 2015:	エゾシモツケ	<i>Spiraea sericea</i>	VU
第4次:	エゾシモツケ	<i>Spiraea sericea</i>	VU
第3次:	エゾシモツケ	<i>Spiraea sericea</i>	VU
第2次:	エゾシモツケ	<i>Spiraea media</i> var. <i>sericea</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[最重要希少野生生物(A ランク)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Spiraea media var. *sericea* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Spiraea media var. *sericea* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クマヤマグミ

*Elaeagnus epitricha***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 5-6 cm、長楕円形～楕円形、薄く、縁には断続する黄褐色鱗片の縁取りがある。花は葉腋に 1-3 個がつく。萼筒は内面に星状毛がなく、外面に褐色鱗片があり、萼裂片内部に星状毛が散生する。果実は長さ 9-13 mm、赤色。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

山間の向陽地に生育。

【分布域】

四国（愛媛県・徳島県・高知県）・九州（対馬～高隈山）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 9 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
7	2	0	0	0	0	9	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	シカ食害	森林伐採
件数 6	4	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クマヤマグミ	<i>Elaeagnus epitricha</i>	CR
第4次 2019:	クマヤマグミ	<i>Elaeagnus epitricha</i>	CR
第4次 2018:	クマヤマグミ	<i>Elaeagnus epitricha</i>	CR
第4次 2017:	クマヤマグミ	<i>Elaeagnus epitricha</i>	CR
第4次 2015:	クマヤマグミ	<i>Elaeagnus epitricha</i>	CR
第4次:	クマヤマグミ	<i>Elaeagnus epitricha</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[絶滅危惧ⅠB類] 愛媛県[準絶滅危惧(NT)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅危惧ⅠB類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 長崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 大分県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Elaeagnus epitricha has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Elaeagnus epitricha* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Deer feeding damage, Logging and wood harvesting
Law designation status for	—

conservation	

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤエヤマハマナツメ

Colubrina asiatica

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 D
推定開花株数が 1000 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 5-9 cm、卵形、鈍鋸歯縁、基生の 3 出脈があり、洋紙質、表面は光沢がある。花は径約 4 mm、葉腋に出る短い集散花序につき、小さく、黄緑色。果実は径 7-9 mm、球形。

【生活史】

つる性木本。

【生育環境】

沿海地に生育。

【分布域】

琉球、台湾・中国・熱帯アジア・南アフリカ・オセアニアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	1	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤエヤマハマナツメ	<i>Colubrina asiatica</i>	EN
第4次 2019:	ヤエヤマハマナツメ	<i>Colubrina asiatica</i>	EN
第4次 2018:	ヤエヤマハマナツメ	<i>Colubrina asiatica</i>	EN
第4次 2017:	ヤエヤマハマナツメ	<i>Colubrina asiatica</i>	EN
第4次 2015:	ヤエヤマハマナツメ	<i>Colubrina asiatica</i>	EN
第4次:	ヤエヤマハマナツメ	<i>Colubrina asiatica</i>	EN
第3次:	ヤエヤマハマナツメ	<i>Colubrina asiatica</i>	EN
第2次:	ヤエヤマハマナツメ	<i>Colubrina asiatica</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Colubrina asiatica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Colubrina asiatica* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イラクサ科 Urticaceae

タチゲヒカゲミズ

Parietaria micrantha var. *coreana*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は高さ 10-20 cm。葉身は卵形で、長さ 1-2 cm。ヒカゲミズに似るが、全体に長軟毛が開出する。

【生活史】

一年草。

【生育環境】

深山に生育。

【分布域】

北海道（西部）・本州・九州、朝鮮半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	4	0	1	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	石灰採掘	不明
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タチゲヒカゲミズ	<i>Parietaria micrantha</i> var. <i>coreana</i>	VU
第4次 2019:	タチゲヒカゲミズ	<i>Parietaria micrantha</i> var. <i>coreana</i>	VU
第4次 2018:	タチゲヒカゲミズ	<i>Parietaria micrantha</i> var. <i>coreana</i>	VU
第4次 2017:	タチゲヒカゲミズ	<i>Parietaria micrantha</i> var. <i>coreana</i>	VU
第4次 2015:	タチゲヒカゲミズ	<i>Parietaria micrantha</i> var. <i>coreana</i>	VU
第4次:	タチゲヒカゲミズ	<i>Parietaria micrantha</i> var. <i>coreana</i>	VU
第3次:	タチゲヒカゲミズ	<i>Parietaria micrantha</i> var. <i>coreana</i>	VU
第2次:	タチゲヒカゲミズ	<i>Parietaria micrantha</i> var. <i>coreana</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 栃木県[要注目] 群馬県[準絶滅危惧(NT)] 埼玉県[情報不足(DD)] 東京都(本土部)[本土部：絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 高知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 大分県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Parietaria micrantha var. *coreana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Parietaria micrantha* var. *coreana* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Limestone mining, Unknown

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イラクサ科 Urticaceae

アラゲサンショウソウ

Pellionia brevifolia

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

サンショウソウに似るが、葉の表面に白斑があり、茎と葉の裏面に長毛が密生する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地に生育。

【分布域】

長崎県・宮崎県・鹿児島県（甑島・高隈山）、中国南部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 土地造成		
件数 2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アラゲサンショウソウ	<i>Pellionia brevifolia</i>	EN
第4次 2019:	アラゲサンショウソウ	<i>Pellionia brevifolia</i>	EN
第4次 2018:	アラゲサンショウソウ	<i>Pellionia brevifolia</i>	EN
第4次 2017:	アラゲサンショウソウ	<i>Pellionia brevifolia</i>	EN
第4次 2015:	アラゲサンショウソウ	<i>Pellionia brevifolia</i>	EN
第4次:	アラゲサンショウソウ	<i>Pellionia brevifolia</i>	EN
第3次:	アラゲサンショウソウ	<i>Pellionia brevifolia</i>	VU
第2次:	アラゲサンショウソウ	<i>Pellionia brevifolia</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[準絶滅危惧種(NT)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pellionia brevifolia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pellionia brevifolia* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Land development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナガバサンショウソウ

*Pellionia yosiei***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は基部が長くはう。葉身は上方のものは長さ 9 cm 内外、ゆがんだ卵状披針形、下方のものは小さい。葉の表面は無毛、中脈に沿って白斑があり、裏面に微細な毛がある。雄花序は球状、無柄、雌花序はまばらな集散花序、柄の長さは 2-5 cm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地に生育。

【分布域】

九州（対馬・宮崎県・鹿児島県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	3	1	1	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 道路工事	自然遷移	シカ食害
件数 4	4	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナガバサンショウソウ	<i>Pellionia yosiei</i>	VU
第4次 2019:	ナガバサンショウソウ	<i>Pellionia yosiei</i>	VU
第4次 2018:	ナガバサンショウソウ	<i>Pellionia yosiei</i>	VU
第4次 2017:	ナガバサンショウソウ	<i>Pellionia yosiei</i>	VU
第4次 2015:	ナガバサンショウソウ	<i>Pellionia yosiei</i>	VU
第4次:	ナガバサンショウソウ	<i>Pellionia yosiei</i>	VU
第3次:	ナガバサンショウソウ	<i>Pellionia yosiei</i>	EN
第2次:	ナガバサンショウソウ	<i>Pellionia yosiei</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[準絶滅危惧(NT-g)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pellionia yosiei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pellionia yosiei* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Road construction, Natural succession, Deer feeding damage

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ソハヤキミズ

*Pilea swinglei***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 10-25 mm、やや大型の広卵形、鈍鋸歯がある。花序の柄は長さ 5-10 mm、雌花被片は 2 個、うち 1 個が大きく瘦果より少し短い。

【生活史】

一年草。

【生育環境】

湿気のある岩場に生育。

【分布域】

本州（和歌山県）・四国（徳島県）・九州（宮崎県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	2	0	0	4	0	3

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	その他	不明
件数 3	3	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ソハヤキミズ	<i>Pilea swinglei</i>	VU
第4次 2019:	ソハヤキミズ	<i>Pilea swinglei</i>	VU
第4次 2018:	ソハヤキミズ	<i>Pilea swinglei</i>	VU
第4次 2017:	ソハヤキミズ	<i>Pilea swinglei</i>	VU
第4次 2015:	ソハヤキミズ	<i>Pilea swinglei</i>	VU
第4次:	ソハヤキミズ	<i>Pilea swinglei</i>	VU
第3次:	ソハヤキミズ	<i>Pilea sohayakiensis</i>	VU
第2次:	ソハヤキミズ	<i>Pilea sohayakiensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

三重県[CR] 和歌山県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 徳島県[絶滅危惧 IB 類] 宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020 年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pilea swinglei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pilea swinglei* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Other, Unknown

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハナガガシ

*Quercus hondae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は互生し、葉身は狭披針形、先は尖鋭形、長さ 5-13 cm、幅 1-2.5 cm、まばらに鋸歯があり、両面は無毛。花期は 5 月。雄花は苞腋に数個つき、雌花序は 3-5 花からなる。堅果は倒卵状楕円形で、長さ約 1.5 cm、幅約 1 cm になる。殻斗は半球形、環は 5-7 個ある。

【生活史】

常緑高木。

【生育環境】

暖帯の自然林に生育する。

【分布域】

四国（高知県）、九州（大分県、宮崎県、熊本県、鹿児島県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	1	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数		

4		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハナガガシ	<i>Quercus hondae</i>	VU
第4次 2019:	ハナガガシ	<i>Quercus hondae</i>	VU
第4次 2018:	ハナガガシ	<i>Quercus hondae</i>	VU
第4次 2017:	ハナガガシ	<i>Quercus hondae</i>	VU
第4次 2015:	ハナガガシ	<i>Quercus hondae</i>	VU
第4次:	ハナガガシ	<i>Quercus hondae</i>	VU
第3次:	ハナガガシ	<i>Quercus hondae</i>	VU
第2次:	ハナガガシ	<i>Cyclobalanopsis hondae</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 熊本県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[準絶滅危惧(NT-g)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Quercus hondae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Quercus hondae* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.	
Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

チチブミネバリ

*Betula chichibuensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 8–10 m。小枝は円形～長楕円形の皮目がいちじるしい。葉身は長さ 3–6 cm、卵形～卵状長楕円形、側脈は 14–18 対、不整微細鋸歯があり、若いときは両面とも白毛を密生するが、後には裏面脈上を残して無毛。果鱗は長さ 3.5–5 mm、3 裂し、中裂片は側裂片より長い。

【生活史】

落葉小高木。

【生育環境】

石灰岩地帯の岩壁や尾根筋に生育。

【分布域】

本州（秩父山地および岩手県の太平洋側）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 10 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	6	3	1	0	0	10	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	石灰採掘	自然遷移
件数	2	2

3		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チチブミネバリ	<i>Betula chichibuensis</i>	EN
第4次 2019:	チチブミネバリ	<i>Betula chichibuensis</i>	EN
第4次 2018:	チチブミネバリ	<i>Betula chichibuensis</i>	EN
第4次 2017:	チチブミネバリ	<i>Betula chichibuensis</i>	EN
第4次 2015:	チチブミネバリ	<i>Betula chichibuensis</i>	EN
第4次:	チチブミネバリ	<i>Betula chichibuensis</i>	EN
第3次:	チチブミネバリ	<i>Betula chichibuensis</i>	EN
第2次:	チチブミネバリ	<i>Betula chichibuensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[A ランク] 群馬県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 埼玉県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 東京都(本土部)[本土部：絶滅危惧 I B 類(EN)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧 I B 類(EN)] 山梨県[情報不足(DD)] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Betula chichibuensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Betula chichibuensis* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Deer feeding damage, Limestone mining, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤチカンバ

Betula ovalifolia

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1.5 m。枝はよく分枝し、樹皮は灰褐色。葉身は長さ 1.5–6 cm、楕円形～卵円形、側脈は(4–)5–7 対、裏面には腺点が密生し、若葉は両面とも白色短毛を密生する。果鱗は長さ 3 mm、3 裂し、中裂片は側裂片とほぼ同長。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

湿原に生育。

【分布域】

北海道（更別村・別海町）、サハリン・朝鮮半島北部・中国（東北部・内モンゴル）・ウスリーに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかった。別途行われた調査にて 1000 個体未満と推定されたため、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	1	–	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤチカンバ	<i>Betula ovalifolia</i>	EN
第4次 2019:	ヤチカンバ	<i>Betula ovalifolia</i>	EN
第4次 2018:	ヤチカンバ	<i>Betula ovalifolia</i>	EN
第4次 2017:	ヤチカンバ	<i>Betula ovalifolia</i>	EN
第4次 2015:	ヤチカンバ	<i>Betula ovalifolia</i>	EN
第4次:	ヤチカンバ	<i>Betula ovalifolia</i>	EN
第3次:	ヤチカンバ	<i>Betula ovalifolia</i>	VU
第2次:	ヤチカンバ	<i>Betula ovalifolia</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Betula ovalifolia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Betula ovalifolia* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—



執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae シュウカイドウ科 Begoniaceae

コウトウシュウカイドウ

Begonia fenicis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は這い、立ち上がらない。葉は斜円形で、葉縁に細かい鋸歯がある。花は白色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

溪流付近などの日陰で湿潤な環境に生育。

【分布域】

琉球列島の石垣島、西表島、与那国島に分布記録があるが、石垣島では近年の確認がない。国外では台湾とフィリピンに分布記録がある。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コウトウシュウカイドウ	<i>Begonia fenicis</i>	VU
第4次 2019:	コウトウシュウカイドウ	<i>Begonia fenicis</i>	VU
第4次 2018:	コウトウシュウカイドウ	<i>Begonia fenicis</i>	VU
第4次 2017:	コウトウシュウカイドウ	<i>Begonia fenicis</i>	VU
第4次 2015:	コウトウシュウカイドウ	<i>Begonia fenicis</i>	VU
第4次:	コウトウシュウカイドウ	<i>Begonia fenicis</i>	VU
第3次:	コウトウシュウカイドウ	<i>Begonia fenicis</i>	VU
第2次:	コウトウシュウカイドウ	<i>Begonia fenicis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Begonia fenicis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Begonia fenicis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ニシキギ科 Celastraceae

リュウキュウツルマサキ

Euonymus austroliukiensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

枝の各所から長さ数 mm の気根を出し、地表を這うか樹上によじ登る。葉身は楕円形か長楕円形、長さ 1.5-6 cm。花序柄は直立し 7-31 花をつけ、花は淡緑色、4 数性。蒴果は球形で径 5-6 mm。

【生活史】

常緑藤本。

【生育環境】

暖帯および温帯の林内に生育する。

【分布域】

北海道～琉球に分布。国外では、朝鮮半島、中国、台湾、東南アジア、ミャンマー、インドに分布している。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番 目	2 番 目	3 番 目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	リュウキュウツルマサキ	<i>Euonymus fortunei</i> var. <i>austroliukiensis</i> (in schedule)	VU
第4次 2019:	リュウキュウツルマサキ	<i>Euonymus fortunei</i> var. <i>austroliukiensis</i> (in schedule)	VU
第4次 2018:	リュウキュウツルマサキ	<i>Euonymus fortunei</i> var. <i>austroliukiensis</i> (in schedule)	VU
第4次 2017:	リュウキュウツルマサキ	<i>Euonymus fortunei</i> var. <i>austroliukiensis</i> (in schedule)	VU
第4次 2015:	リュウキュウツルマサキ	<i>Euonymus fortunei</i> var. <i>austroliukiensis</i> (in schedule)	VU
第4次:	リュウキュウツルマサキ	<i>Euonymus fortunei</i> var. <i>austroliukiensis</i> (in schedule)	VU
第3次:	リュウキュウツルマサキ	<i>Euonymus fortunei</i> var. <i>austroliukiensis</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Euonymus austroliukiensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Euonymus austroliukiensis is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒゼンマユミ

Euonymus chibae

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 12 m。葉身は革質、卵形ないし（広）楕円形、長さ（2.5-）5-12 cm。花序は今年枝の基部付近の芽鱗痕の腋に生じ、長さ 2-5 cm、7-15 花をつけ、直立。花は黄緑色、4 数性、径約 8 mm。蒴果は倒卵球形、長さ 1.5-2 cm、4 稜がある。

【生活史】

常緑高木。

【生育環境】

海岸付近の林内に生育する。

【分布域】

本州（山口県蓋井島）、四国（徳島県伊島）、九州（大分県、長崎県、鹿児島県）、琉球（沖縄島）に分布。国外では韓国（巨文島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 6 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	1	0	2	0	0	6	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	不明
件数	1	1

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒゼンマユミ	<i>Euonymus chibae</i>	EN
第4次 2019:	ヒゼンマユミ	<i>Euonymus chibae</i>	EN
第4次 2018:	ヒゼンマユミ	<i>Euonymus chibae</i>	EN
第4次 2017:	ヒゼンマユミ	<i>Euonymus chibae</i>	EN
第4次 2015:	ヒゼンマユミ	<i>Euonymus chibae</i>	EN
第4次:	ヒゼンマユミ	<i>Euonymus chibae</i>	EN
第3次:	ヒゼンマユミ	<i>Euonymus chibae</i>	EN
第2次:	ヒゼンマユミ	<i>Euonymus chibai</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山口県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 福岡県[絶滅危惧Ⅱ類] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Euonymus chibae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Euonymus chibae* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution, Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アオツリバナ

*Euonymus yakushimensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 3-5 m。葉身は洋紙質、狭長卵形または狭楕円形、長さ 3-12 cm、縁に細かい鈍鋸歯がある。花序は最下の葉腋から生じ、花序柄は糸状、長さ 4-10 cm。花は紫紅色～暗紫色、4 数性、径 10-12 mm。蒴果は球形、径約 1 cm、4 裂し、翼はない。

【生活史】

落葉小高木。

【生育環境】

山地の林内に生育する。時にスギの老木の上に生える。

【分布域】

宮崎県（尾鈴山、大崩山）、鹿児島県（霧島山、屋久島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	1	2	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アオツリバナ	<i>Euonymus yakushimensis</i>	VU
第4次 2019:	アオツリバナ	<i>Euonymus yakushimensis</i>	VU
第4次 2018:	アオツリバナ	<i>Euonymus yakushimensis</i>	VU
第4次 2017:	アオツリバナ	<i>Euonymus yakushimensis</i>	VU
第4次 2015:	アオツリバナ	<i>Euonymus yakushimensis</i>	VU
第4次:	アオツリバナ	<i>Euonymus yakushimensis</i>	VU
第3次:	アオツリバナ	<i>Euonymus yakushimensis</i>	VU
第2次:	アオツリバナ	<i>Euonymus yakushimensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-d)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Euonymus yakushimensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Euonymus yakushimensis is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオヤマカタバミ

Oxalis obtriangulata

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

太い根茎がある。葉柄は長さ 4-10 cm、花期には 25 cm。小葉は長さ 1-2 cm、倒三角形、上縁は切形、角はやや尖る。花茎は高さ 5-25 cm、葉が開くよりも早く伸びる。花は径 2.5-3.5 cm、白色からやや淡黄色で、紅紫色の脈がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

低山帯から亜高山帯の林内に生育。

【分布域】

本州（関東・中部地方）・四国・九州、朝鮮半島・中国（東北）・ウスリーに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 12 メッシュで計数千個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果

2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	5	1	5	0	0	12	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	自然遷移	道路工事
件数 4	4	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオヤマカタバミ	<i>Oxalis obtriangulata</i>	VU
第4次 2019:	オオヤマカタバミ	<i>Oxalis obtriangulata</i>	VU
第4次 2018:	オオヤマカタバミ	<i>Oxalis obtriangulata</i>	VU
第4次 2017:	オオヤマカタバミ	<i>Oxalis obtriangulata</i>	VU
第4次 2015:	オオヤマカタバミ	<i>Oxalis obtriangulata</i>	VU
第4次:	オオヤマカタバミ	<i>Oxalis obtriangulata</i>	VU
第3次:	オオヤマカタバミ	<i>Oxalis obtriangulata</i>	VU
第2次:	オオヤマカタバミ	<i>Oxalis obtriangulata</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

栃木県[準絶滅危惧(Cランク)] 群馬県[準絶滅危惧(NT)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 東京都(本土部)[本土部:絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(南多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 山梨県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 長野県[準絶滅危惧(NT)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅱ類] 愛知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-d)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Oxalis obtriangulata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Oxalis obtriangulata* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession, Road construction
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハギクソウ

Euphorbia octoradiata

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎は根茎から 1～数本直立し、長さ 6.5-30 cm。茎葉は 10-20 枚で互生、狭楕円形または倒披針形で、長さ 1.3-3 cm。輪生葉は卵形または楕円形で 5 (-8) 枚、長さ 0.9-1.8 cm。杯状花序は頂生及び腋生の集散花序につく。

【生活史】

夏緑の多年草。

【生育環境】

海岸の砂地に生育する。

【分布域】

本州の渥美半島に分布。国外では、済州島や朝鮮半島にも分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 海岸開発		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハギクソウ	<i>Euphorbia octoradiata</i>	CR
第4次 2019:	ハギクソウ	<i>Euphorbia octoradiata</i>	CR
第4次 2018:	ハギクソウ	<i>Euphorbia octoradiata</i>	CR
第4次 2017:	ハギクソウ	<i>Euphorbia octoradiata</i>	CR
第4次 2015:	ハギクソウ	<i>Euphorbia octoradiata</i>	CR
第4次:	ハギクソウ	<i>Euphorbia octoradiata</i>	CR
第3次:	ハギクソウ	<i>Euphorbia octoradiata</i>	CR
第2次:	ハギクソウ	<i>Euphorbia escula</i> var. <i>nakaii</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 三重県[絶滅(EX)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Euphorbia octoradiata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Euphorbia octoradiata* is listed as VU under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Coastal development

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

フジタイゲキ

Euphorbia watanabei subsp. *watanabei***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は太く、茎は直立し高さ 70-150 cm。茎葉は多数で互生、狭楕円形または披針形で長さ 6.5-13.5 cm。杯状花序は頂生および腋生の集散花序につく。腺体は 4-5 個で付属体はない。

【生活史】

夏緑の多年草。

【生育環境】

丘陵地や山地の草原に生育する。

【分布域】

本州（静岡県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 草地開発	自然遷移	土地造成
件数 2	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	フジタイゲキ	<i>Euphorbia watanabei</i> subsp. <i>watanabei</i>	VU
第4次 2019:	フジタイゲキ	<i>Euphorbia watanabei</i> subsp. <i>watanabei</i>	VU
第4次 2018:	フジタイゲキ	<i>Euphorbia watanabei</i> subsp. <i>watanabei</i>	VU
第4次 2017:	フジタイゲキ	<i>Euphorbia watanabei</i> subsp. <i>watanabei</i>	VU
第4次 2015:	フジタイゲキ	<i>Euphorbia watanabei</i> subsp. <i>watanabei</i>	VU
第4次:	フジタイゲキ	<i>Euphorbia watanabei</i> subsp. <i>watanabei</i>	VU
第3次:	フジタイゲキ	<i>Euphorbia watanabei</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

静岡県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Euphorbia watanabei subsp. *watanabei* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Euphorbia watanabei* subsp. *watanabei* is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Grassland development, Natural succession, Land development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ダイトウセイシボク

Excoecaria formosana var. *daitoinsularis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1-2 m。葉柄長 5-15 mm、葉身は倒披針形で、長さ 8.5-14 cm、幅 3-5 cm、鋸歯縁で鋸歯の先に腺がある。葉の裏面は緑色。花序は穂状花序で多数の雄花と 1-2 個の雌花がつく。

【生活史】

常緑性の低木。

【生育環境】

常緑樹林に生育する。

【分布域】

琉球の大東島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ダイトウセイシボク	<i>Excoecaria formosana</i> var. <i>daitoinsularis</i>	VU
第4次 2019:	ダイトウセイシボク	<i>Excoecaria formosana</i> var. <i>daitoinsularis</i>	VU
第4次 2018:	ダイトウセイシボク	<i>Excoecaria formosana</i> var. <i>daitoinsularis</i>	VU
第4次 2017:	ダイトウセイシボク	<i>Excoecaria formosana</i> var. <i>daitoinsularis</i>	VU
第4次 2015:	ダイトウセイシボク	<i>Excoecaria formosana</i> var. <i>daitoinsularis</i>	VU
第4次:	ダイトウセイシボク	<i>Excoecaria formosana</i> var. <i>daitoinsularis</i>	VU
第3次:	ダイトウセイシボク	<i>Excoecaria formosana</i> var. <i>daitoinsularis</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Excoecaria formosana var. *daitoinsularis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Excoecaria formosana* var. *daitoinsularis* is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハツバキ

*Drypetes integerrima***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 3–5 m。幹の外観がツバキに似ている。葉は互生し、革質、葉身は楕円形～卵状楕円形、全縁で、長さ 4–7 cm。花は枝先の葉腋につき、黄白色、径 2–3 mm。核果は短い柄があり、卵形または楕円形、長さ 2 cm、黄熟。

【生活史】

常緑の小高木で、雌雄異株。

【生育環境】

風衝地に生育する。

【分布域】

小笠原（父島列島、母島列島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
14	8	1	3	0	0	26	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハツバキ	<i>Drypetes integerrima</i>	VU
第4次 2019:	ハツバキ	<i>Drypetes integerrima</i>	VU
第4次 2018:	ハツバキ	<i>Drypetes integerrima</i>	VU
第4次 2017:	ハツバキ	<i>Drypetes integerrima</i>	VU
第4次 2015:	ハツバキ	<i>Drypetes integerrima</i>	VU
第4次:	ハツバキ	<i>Drypetes integerrima</i>	VU
第3次:	ハツバキ	<i>Drypetes integerrima</i>	VU
第2次:	ハツバキ	<i>Drypetes integerrima</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Drypetes integerrima has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Drypetes integerrima is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒダカミネヤナギ

*Salix nakamura subsp. kurilensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-20 cm ほど。成葉の葉身は無毛、長さ 2-4 cm、幅 1.5-3.5 cm、円形～広卵形あるいは広楕円形、円頭または微凹頭、基部はやや心形、裏面は粉白色または粉白色を帯び、葉脈は顕著に網状に隆起する。苞は卵形あるいは長楕円形、鈍頭または鋭頭、長さ 1-1.5 mm。腺体は 1 個。エゾノタカネヤナギに似るが、子房は緑色。

【生活史】

匍匐性の落葉低木。雌雄異株。花期は 6-7 月。

【生育環境】

高山の日当たりのよい岩場や草地に生える。

【分布域】

南千島（色丹島）・北海道（日高山脈楽古岳）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では現存個体数は 500 から 1000 個体と推定された。Ohashi (2001)ではタカネイワヤナギとヒダカミネヤナギの 2 亜種に分けていることもあり、日高山脈産の全てがヒダカミネヤナギに当たるかどうか今後の検討が必要である。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒダカミネヤナギ	<i>Salix nakamura subsp. kurilensis</i>	VU
第4次 2019:	ヒダカミネヤナギ	<i>Salix nakamura subsp. kurilensis</i>	VU
第4次 2018:	ヒダカミネヤナギ	<i>Salix nakamura subsp. kurilensis</i>	VU
第4次 2017:	ヒダカミネヤナギ	<i>Salix nakamura subsp. kurilensis</i>	VU
第4次 2015:	ヒダカミネヤナギ	<i>Salix nakamura subsp. kurilensis</i>	VU
第4次:	ヒダカミネヤナギ	<i>Salix nakamura subsp. kurilensis</i>	VU
第3次:	ヒダカミネヤナギ	<i>Salix nakamura subsp. kurilensis</i>	VU
第2次:	ヒダカミネヤナギ	<i>Salix hidaka-montana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 北海道，309pp.
- Ohashi, H., 2001. Salicaceae of Japan. Science Reports of the Tohoku Imperial University. Series 4, Biology 40: 269–396.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Salix nakamura subsp. *kurilensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Salix nakamura* subsp. *kurilensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コマイワヤナギ

*Salix rupifraga***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 0.5-1 m。成葉の葉身は披針状楕円形または長楕円形、長さ 6-10 cm、幅 1.5-2 cm、縁には鈍鋸歯があるがときにやや不明瞭、表面は緑色、主脈を除き伏長軟毛があるが、後まばらになるかほぼなくなり、裏面は淡緑色～帯白色で白色の絹毛を密布する。托葉は生長の盛んな枝につき広卵形、長さ 5-10 mm、幅 3-5 mm、尖頭、全縁または鋸歯がある。花穂は葉とともに現われ、長い円柱状で花は花序軸がみえないほど密につく。雄花穂は長さ 2.5-4.5 cm、雄蕊は 2 個で花糸は離生し無毛、雌花穂は長さ 1.7-2.5 cm。シバヤナギに似るが、シバヤナギの葉裏ははじめ白絹毛があるが後に無毛となり、雄花穂は長さ 3-9 cm、雌花穂は長さ 4 cm ほど、花序軸が見える。

【生活史】

落葉小低木。花期は 5 月。

【生育環境】

山岳地帯で、多くは崖地の岩場に生育する。

【分布域】

本州（山梨県・長野県・岐阜県・静岡県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コマイワヤナギ	<i>Salix rupifraga</i>	VU
第4次 2019:	コマイワヤナギ	<i>Salix rupifraga</i>	VU
第4次 2018:	コマイワヤナギ	<i>Salix rupifraga</i>	VU
第4次 2017:	コマイワヤナギ	<i>Salix rupifraga</i>	VU
第4次 2015:	コマイワヤナギ	<i>Salix rupifraga</i>	VU
第4次:	コマイワヤナギ	<i>Salix rupifraga</i>	VU
第3次:	コマイワヤナギ	<i>Salix rupifraga</i>	VU
第2次:	コマイワヤナギ	<i>Salix rupifraga</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山梨県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 長野県[準絶滅危惧(NT)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅱ類] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 茂木透・勝山輝男・太田和夫・崎尾均・高橋秀男・石井英美・城川四郎・中川重年，2000. 山溪ハンディ図鑑3 樹に咲く花 離弁花 (1). 719pp. 山と溪谷社，東京.
- 岐阜県環境生活部自然環境保全課，2014. 岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物（植物編）改訂版—岐阜県レッドデータブック（植物編）改訂版—. <https://www.pref.gifu.lg.jp/page/11109.html> (2024 月 9 月 5 日閲覧).

- 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，2020. まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編—. 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，501pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Salix rupifraga has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Salix rupifraga* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ヤナギ科 Salicaceae

トゲイヌツゲ

Scolopia oldhamii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

樹皮は平滑で灰褐色、小枝に刺がある。葉は互生し、革質、卵形または披針形、鈍鋸歯縁、葉柄は長さ 3 mm。総状花序腋生または頂生し、多数の花をつける。花は径 6 mm、萼片と花弁は 5~6 個、長さ 2 mm、淡黄色ないし白色。雄蕊は多数。液果は球形、径 8 mm、中に種子 4~5 個がある。

【生活史】

常緑小高木。

【生育環境】

花期は 11 月頃。

【分布域】

沖縄県（沖縄島・阿嘉島・慶留間島・久場島・石垣島・西表島・魚釣島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

沖縄島・石垣島・西表島では生育が確認されている。その他の島の現状は不明。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 文献なし

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Scolopia oldhamii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Scolopia oldhamii* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ジンヨウキスミレ

*Viola alliariifolia***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さは 8-20 cm。葉が腎形で、円頭または広い凹頭となり、粗い不規則な欠刻状鈍鋸歯がある。花は黄色。唇弁には網目になった紫褐色の条が入る。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

亜高山～高山の湿った草地や低木林の下に生育する。

【分布域】

北海道（中央高地・無意根山）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 不明		
件数 2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ジンヨウキスミレ	<i>Viola allariifolia</i>	EN
第4次 2019:	ジンヨウキスミレ	<i>Viola allariifolia</i>	EN
第4次 2018:	ジンヨウキスミレ	<i>Viola allariifolia</i>	EN
第4次 2017:	ジンヨウキスミレ	<i>Viola allariifolia</i>	EN
第4次 2015:	ジンヨウキスミレ	<i>Viola allariifolia</i>	EN
第4次:	ジンヨウキスミレ	<i>Viola allariifolia</i>	EN
第3次:	ジンヨウキスミレ	<i>Viola allariifolia</i>	EN
第2次:	ジンヨウキスミレ	<i>Viola allariaefolia</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Viola allariifolia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Viola allariifolia* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イソスミレ

*Viola grayi***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 5-10 cm。地下茎は太く長く、硬肥して木化する。葉は厚く心形。花は濃紫～淡紫色、花弁は長さ 13-15 mm、距は長さ約 5 mm で白い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸の砂地や隣接するクロマツ林の林床や林縁に生育する。

【分布域】

北海道（日本海側：石狩地方以南、太平洋側：日高地方）、本州（日本海側：鳥取県以北、太平洋側：青森県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、20 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	10	5	1	1	0	20	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 海岸開発	自然遷移	人の踏みつけ
件数 6	5	4

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イソスミレ	<i>Viola grayi</i>	VU
第4次 2019:	イソスミレ	<i>Viola grayi</i>	VU
第4次 2018:	イソスミレ	<i>Viola grayi</i>	VU
第4次 2017:	イソスミレ	<i>Viola grayi</i>	VU
第4次 2015:	イソスミレ	<i>Viola grayi</i>	VU
第4次:	イソスミレ	<i>Viola grayi</i>	VU
第3次:	イソスミレ	<i>Viola grayi</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 青森県[希少野生生物(C ランク)] 秋田県[絶滅危惧種 I B 類(EN)] 山形県[絶滅危惧 II 類 (VU)] 東京都(伊豆諸島)[情報不足(DD)] 新潟県[絶滅危惧 II 類(VU)] 富山県[絶滅危惧 I 類] 石川県[絶滅危惧 II 類(VU)] 福井県[県域絶滅危惧 II 類] 京都府[絶滅危惧種] 兵庫県[A ランク] 鳥取県[絶滅危惧 I 類(CR+EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Viola grayi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Viola grayi* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Coastal development, Natural succession, Human trampling

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シレトコスミレ

*Viola kitamiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 5-10 cm の地上茎のあるスミレで、腎円形で鋸歯のある深緑色の葉がつく。タカネスミレに似ているが、花は白色で中心部が黄色なので区別できる。

【生活史】

花期は 6 月下旬から 7 月上旬。

【生育環境】

高山の砂礫地に生育。

【分布域】

北海道東部、択捉島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

登山者の踏みつけや生育地の崩落、鹿による食害で個体数が減少している。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Nakai, T., 1928. *Violae ad Floram Japonicam Novae*. Botanical Magazine (Tokyo), 42: 556–566.
- 小林純子・竹内亮, 1969. シレトコスミレに関する研究. タカネスミレとの比較. 植物学雑誌, 82: 474-482.

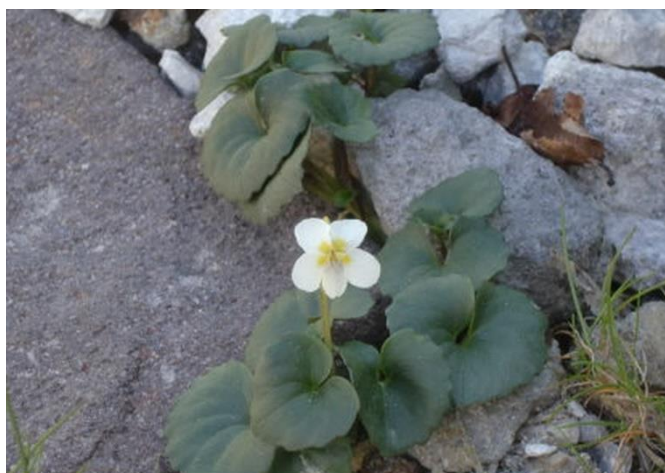
アセスメントサマリー（Assessment summary）

Viola kitamiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Viola kitamiana* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—



©東隆行（北海道大学
北方生物圏フィールド科学センター 耕地圏ステーション 植物園）

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae スミレ科 Violaceae

ホソバシロスマレ

Viola patrinii var. *angustifolia*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

シロスマレに似るが、葉の基部がくさび形。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の日当たりの良い草地や湿った場所に生育する。

【分布域】

本州（滋賀県以西）、四国、九州に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 9 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	3	3	2	0	0	9	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	管理放棄	園芸採取
件数 6	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホソバシロスミレ	<i>Viola patrinii</i> var. <i>angustifolia</i>	VU
第4次 2019:	ホソバシロスミレ	<i>Viola patrinii</i> var. <i>angustifolia</i>	VU
第4次 2018:	ホソバシロスミレ	<i>Viola patrinii</i> var. <i>angustifolia</i>	VU
第4次 2017:	ホソバシロスミレ	<i>Viola patrinii</i> var. <i>angustifolia</i>	VU
第4次 2015:	ホソバシロスミレ	<i>Viola patrinii</i> var. <i>angustifolia</i>	VU
第4次:	ホソバシロスミレ	<i>Viola patrinii</i> var. <i>angustifolia</i>	VU
第3次:	ホソバシロスミレ	<i>Viola patrinii</i> var. <i>angustifolia</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

滋賀県[分布上重要種] 兵庫県[A ランク] 奈良県[絶滅危惧種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 岡山県[絶滅危惧Ⅱ類] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山口県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA 類] 愛媛県[準絶滅危惧(NT)] 高知県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA 類] 佐賀県[絶滅種] 熊本県[情報不足(DD)] 大分県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[絶滅(EX-r)] 鹿児島県[情報不足]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 愛媛県レッドデータブック改訂委員会，2014. 愛媛県レッドデータブック 2014—愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物—. 愛媛県県民環境部環境局自然保護課，623pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Viola patrinii var. *angustifolia* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Viola patrinii var. *angustifolia* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100

years.	
Threat types:	Natural succession, Abandonment of management, Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae スミレ科 Violaceae

タチスミレ

Viola raddeana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は 2-3 本叢生し、高さ 30-50 cm。根出葉は少数で、花期にはないことが多い。葉は三角状披針形で、長さ 4-8 cm。花は腋生し、淡紅紫～白色。花弁は長さ 8-10 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

低湿地のヨシ原や河畔林などに生育する。

【分布域】

本州（関東地方）、九州（大分県、鹿児島県）に分布。国外では、朝鮮半島、中国（東北部）、ロシア極東地方に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	1	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 河川開発	自然遷移	産地局限
件数 3	3	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タチスミレ	<i>Viola raddeana</i>	VU
第4次 2019:	タチスミレ	<i>Viola raddeana</i>	VU
第4次 2018:	タチスミレ	<i>Viola raddeana</i>	VU
第4次 2017:	タチスミレ	<i>Viola raddeana</i>	VU
第4次 2015:	タチスミレ	<i>Viola raddeana</i>	VU
第4次:	タチスミレ	<i>Viola raddeana</i>	VU
第3次:	タチスミレ	<i>Viola raddeana</i>	VU
第2次:	タチスミレ	<i>Viola raddeana</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮城県[絶滅(EX)] 茨城県[絶滅危惧ⅠA類] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(Aランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 千葉県[最重要保護生物(A)] 東京都(本土部)[区部:絶滅(EX) 本土部:絶滅(EX)] 東京都(北多摩)[絶滅(EX)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016．改訂新版日本の野生植物 3．338pp., 264pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Viola raddeana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Viola raddeana* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	River development, Natural succession, Limited distribution

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シソバキスミレ

*Viola yubariana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 4-10 cm。葉は厚く硬く、心形で低い鋸歯があり先端は鋭頭、表面は深緑色で光沢があり、裏面は赤紫蘇のような紫紅色。花は黄色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

蛇紋岩崩壊地に生育する。

【分布域】

北海道夕張岳に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	自然遷移	産地局限
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シソバキスミレ	<i>Viola yubariana</i>	VU
第4次 2019:	シソバキスミレ	<i>Viola yubariana</i>	VU
第4次 2018:	シソバキスミレ	<i>Viola yubariana</i>	VU
第4次 2017:	シソバキスミレ	<i>Viola yubariana</i>	VU
第4次 2015:	シソバキスミレ	<i>Viola yubariana</i>	VU
第4次:	シソバキスミレ	<i>Viola yubariana</i>	VU
第3次:	シソバキスミレ	<i>Viola yubariana</i>	CR
第2次:	シソバキスミレ	<i>Viola yubariana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Viola yubariana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Viola yubariana* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—



執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ウスカワゴロモ

*Hydrobryum floribundum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根は厚さ 0.1-0.2 mm、扁平、鮮緑色の葉状体で、孤立して生育するものでは径 30 cm、ふつうは多数密生して、岩盤一面に広がる。針状葉は長さ 3-8 mm、葉状体から 3-6 本束生する。花茎は高さ 2 mm。

【生活史】

一年草、ときに多年草。

【生育環境】

流水中の岩上に生育。

【分布域】

鹿児島県（志布志市安楽川・前川）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。数千個体が現存しているとされた。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	1	—	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウスカワゴロモ	<i>Hydrobryum floribundum</i>	VU
第4次 2019:	ウスカワゴロモ	<i>Hydrobryum floribundum</i>	VU
第4次 2018:	ウスカワゴロモ	<i>Hydrobryum floribundum</i>	VU
第4次 2017:	ウスカワゴロモ	<i>Hydrobryum floribundum</i>	VU
第4次 2015:	ウスカワゴロモ	<i>Hydrobryum floribundum</i>	VU
第4次:	ウスカワゴロモ	<i>Hydrobryum floribundum</i>	VU
第3次:	ウスカワゴロモ	<i>Hydrobryum floribundum</i>	EN
第2次:	ウスカワゴロモ	<i>Hydrobryum floribundum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[準絶滅危惧]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hydrobryum floribundum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hydrobryum floribundum* is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カワゴロモ

Hydrobryum japonicum

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 D
推定開花株数が 1000 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

ウスカワゴロモに似るが、葉状体は厚さが 0.5 mm あって厚い。針状葉は長さ 10 mm、ときに 20 mm に達する。柱頭は長い線形。

【生活史】

一年草、ときに多年草。

【生育環境】

流水中の岩上に生育。

【分布域】

鹿児島県（雄川・神川・高須川・肝属川）、中国南西部・ベトナム北部・ラオス北部・タイ東北部・ミャンマー北部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。4 メッシュで計数千個体の現存が確認された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	2	1	1	—	4	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カワゴロモ	<i>Hydrobryum japonicum</i>	VU
第4次 2019:	カワゴロモ	<i>Hydrobryum japonicum</i>	VU
第4次 2018:	カワゴロモ	<i>Hydrobryum japonicum</i>	VU
第4次 2017:	カワゴロモ	<i>Hydrobryum japonicum</i>	VU
第4次 2015:	カワゴロモ	<i>Hydrobryum japonicum</i>	VU
第4次:	カワゴロモ	<i>Hydrobryum japonicum</i>	VU
第3次:	カワゴロモ	<i>Hydrobryum japonicum</i>	EN
第2次:	カワゴロモ	<i>Hydrobryum japonicum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[準絶滅危惧]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hydrobryum japonicum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hydrobryum japonicum* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツキヌキオトギリ

Hypericum sampsonii

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 20-100 cm。茎は上部で分枝する。葉身は長さ 20-80 mm、広披針形～倒披針形、薄質、対生し基部で広く合着、大小の明点が多数あるか黒点がある。花は集散状に 1-9 個がつき、鮮黄色。花弁は長さ 4-8 mm、5 個、楕円形、明点があり、縁には腺点はないが小突起がある。

【生活史】

多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

山地の湿り気の多い場所に生育。

【分布域】

四国（高知県）・九州（喜界島・奄美大島を含む）、台湾・中国（中南部）・ベトナム北部・ミャンマー東部・インド東北部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 10 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	7	0	0	0	0	10	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 道路工事	自然遷移	その他

件数		
2	2	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツキヌキオトギリ	<i>Hypericum sampsonii</i>	EN
第4次 2019:	ツキヌキオトギリ	<i>Hypericum sampsonii</i>	EN
第4次 2018:	ツキヌキオトギリ	<i>Hypericum sampsonii</i>	EN
第4次 2017:	ツキヌキオトギリ	<i>Hypericum sampsonii</i>	EN
第4次 2015:	ツキヌキオトギリ	<i>Hypericum sampsonii</i>	EN
第4次:	ツキヌキオトギリ	<i>Hypericum sampsonii</i>	EN
第3次:	ツキヌキオトギリ	<i>Hypericum sampsonii</i>	EN
第2次:	ツキヌキオトギリ	<i>Hypericum sampsonii</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

高知県[野生絶滅(EW)] 福岡県[絶滅危惧ⅠB類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅱ類種] 長崎県[準絶滅危惧種(NT)] 熊本県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hypericum sampsonii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hypericum sampsonii* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Road construction, Natural succession, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エゾオトギリ

Hypericum yezoense

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 D
推定開花株数が 1000 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 10-30 cm。茎はよく分枝する。葉身は長さ 8-25 mm、卵形～楕円状披針形、基部は半ば抱茎し、小さな明点が密にある。花は集散状に 3-9 個がつき、黄色。花弁は長さ 8-12 mm、5 個、ゆがんだ倒卵状楕円形、明線と明点があり、縁に黒点がある。

【生活史】

多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

山地に生育。

【分布域】

南千島・北海道・本州（東北地方北部）、サハリンに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾオトギリ	<i>Hypericum yezoense</i>	VU
第4次 2019:	エゾオトギリ	<i>Hypericum yezoense</i>	VU
第4次 2018:	エゾオトギリ	<i>Hypericum yezoense</i>	VU
第4次 2017:	エゾオトギリ	<i>Hypericum yezoense</i>	VU
第4次 2015:	エゾオトギリ	<i>Hypericum yezoense</i>	VU
第4次:	エゾオトギリ	<i>Hypericum yezoense</i>	VU
第3次:	エゾオトギリ	<i>Hypericum yezoense</i>	VU
第2次:	エゾオトギリ	<i>Hypericum yezoense</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[希少野生生物(C ランク)] 岩手県[B ランク] 秋田県[絶滅危惧種 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hypericum yezoense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Hypericum yezoense is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ダイセツヒナオトギリ

*Hypericum yojiroanum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 2-12 cm。叢生してマット状になる。葉身は長さ 5-17 mm、倒卵形～倒披針形、基部は円形～くさび形、明点と黒点がある。花は集散状に 1-5 個がつき、黄色。花弁は長さ 5-8 mm、5 個、倒披針形～倒卵形、内側に黒腺と黒点があり、縁に黒点があるか腺点を欠く。

【生活史】

多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

高山の湿地に生育。

【分布域】

北海道大雪山系に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	—	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ダイセツヒナオトギリ	<i>Hypericum yojiroanum</i>	VU
第4次 2019:	ダイセツヒナオトギリ	<i>Hypericum yojiroanum</i>	VU
第4次 2018:	ダイセツヒナオトギリ	<i>Hypericum yojiroanum</i>	VU
第4次 2017:	ダイセツヒナオトギリ	<i>Hypericum yojiroanum</i>	VU
第4次 2015:	ダイセツヒナオトギリ	<i>Hypericum yojiroanum</i>	VU
第4次:	ダイセツヒナオトギリ	<i>Hypericum yojiroanum</i>	VU
第3次:	ダイセツヒナオトギリ	<i>Hypericum yojiroanum</i>	CR
第2次:	ダイセツヒナオトギリ	<i>Hypericum yojiroanum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危機種(Cr)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016．改訂新版日本の野生植物 3．338pp., 264pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hypericum yojiroanum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Hypericum yojiroanum is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツクシフウロ

Geranium soboliferum var. *kiusianum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

アサマフウロに似るが、葉の裏面全体に伏毛がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山間湿地や日当たりの良い湿った草地に生育する。

【分布域】

九州（九重山、阿蘇山）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツクシフウロ	<i>Geranium soboliferum</i> var. <i>kiusianum</i>	VU
第4次 2019:	ツクシフウロ	<i>Geranium soboliferum</i> var. <i>kiusianum</i>	VU
第4次 2018:	ツクシフウロ	<i>Geranium soboliferum</i> var. <i>kiusianum</i>	VU
第4次 2017:	ツクシフウロ	<i>Geranium soboliferum</i> var. <i>kiusianum</i>	VU
第4次 2015:	ツクシフウロ	<i>Geranium soboliferum</i> var. <i>kiusianum</i>	VU
第4次:	ツクシフウロ	<i>Geranium soboliferum</i> var. <i>kiusianum</i>	VU
第3次:	ツクシフウロ	<i>Geranium soboliferum</i> var. <i>kiusianum</i>	VU
第2次:	ツクシフウロ	<i>Geranium soboliferum</i> var. <i>kiusianum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 熊本県希少野生動植物検討委員会，2019. レッドデータブックくまもと 2019 ―熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物―. 熊本県環境生活部自然保護課，632pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Geranium soboliferum var. *kiusianum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Geranium soboliferum* var. *kiusianum* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメキカシグサ

*Rotala elatinomorpha***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は地面をはい、枝は直立し、高さ 4-7 cm になる。葉はまばらに対生、質薄く、倒卵状楕円形、長さ 3-10 mm、幅 1.5-4 mm、先は円形、葉柄や縁の透明部はない。萼筒は短い円筒形で 4 稜があり、長三角形の短い裂片がある。花弁は倒卵状長楕円形、萼裂片より短く、雄蕊は 2 個、花柱はほとんどない。蒴果は球形～楕円形、径約 1 mm。

【生活史】

1 年草。花期は 9-10 月。

【生育環境】

水辺に生える。

【分布域】

本州（関東以西）・四国。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	1	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメキカシグサ	<i>Rotala elatinomorpha</i>	CR
第4次 2019:	ヒメキカシグサ	<i>Rotala elatinomorpha</i>	CR
第4次 2018:	ヒメキカシグサ	<i>Rotala elatinomorpha</i>	CR
第4次 2017:	ヒメキカシグサ	<i>Rotala elatinomorpha</i>	CR
第4次 2015:	ヒメキカシグサ	<i>Rotala elatinomorpha</i>	CR
第4次:	ヒメキカシグサ	<i>Rotala elatinomorpha</i>	CR
第3次:	ヒメキカシグサ	<i>Rotala elatinomorpha</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

千葉県[消息不明・絶滅生物(X)] 石川県[情報不足(DD)] 山梨県[情報不足(DD)] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)] 三重県[CR] 香川県[絶滅危惧 I 類(CR+EN)] 高知県[絶滅(EX)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rotala elatinomorpha has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rotala elatinomorpha* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメビシ

Trapa incisa

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) **基準 E**

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

浮葉は広卵状菱形で径 1-2 cm、上部の縁はあらい鋸歯があり、表面は光沢があり、裏面の脈上にはまばらに毛があり、葉柄の中央部は長楕円状にふくらむ。花は白色でときに紅色を帯び、径 6-8 mm。萼には毛がない。堅果は倒三角形で 4 個のとげがある。

【生活史】

1 年草。花期は 7-10 月。

【生育環境】

池に生える。

【分布域】

北海道～九州、ウスリー・中国（東北）・朝鮮半島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 6 メッシュで絶滅し、15 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
6	6	0	3	0	0	15	6	5

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 池沼開発	水質汚濁	自然遷移
件数 11	7	4

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメビシ	<i>Trapa incisa</i>	VU
第4次 2019:	ヒメビシ	<i>Trapa incisa</i>	VU
第4次 2018:	ヒメビシ	<i>Trapa incisa</i>	VU
第4次 2017:	ヒメビシ	<i>Trapa incisa</i>	VU
第4次 2015:	ヒメビシ	<i>Trapa incisa</i>	VU
第4次:	ヒメビシ	<i>Trapa incisa</i>	VU
第3次:	ヒメビシ	<i>Trapa incisa</i>	VU
第2次:	ヒメビシ	<i>Trapa incisa</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 岩手県[A ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 秋田県[EN] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福島県[絶滅(EX)] 茨城県[絶滅危惧ⅠA類] 栃木県[絶滅] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 千葉県[最重要保護生物(A)] 東京都(本土部)[区部:絶滅(EX)] 新潟県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 富山県[絶滅危惧Ⅰ類] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 愛知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 滋賀県[絶滅危惧種] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[EX] 兵庫県[A ランク] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鳥取県[絶滅(EX)] 広島県[情報不足(DD)] 徳島県[留意] 香川県[情報不足(DD)] 愛媛県[情報不足(DD)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 長崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅(EX-r)] 鹿児島県[情報不足]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Trapa incisa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Trapa incisa* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Pond development, Water pollution, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エゾミズタマソウ

Circaea canadensis subsp. *quadrisulcata*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 30-70 cm。葉身は長さ 4-14 cm、長卵形～長楕円状卵形、ほとんど毛はない。花序はまばらで、花弁は淡紅色まれに白色。果実は長さ 2.5-3.5 mm、広倒卵形、深い 4 溝がある。

【生活史】

多年草。花期は 6-8 月。

【生育環境】

山地の林下に生育。

【分布域】

北海道・本州（栃木県日光）、朝鮮半島・中国（東北）・アムール・ウスリー・シベリアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 河川開発	自然遷移	
件数	1	

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾミズタマソウ	<i>Circaea lutetiana</i> subsp. <i>quadrisulcata</i>	VU
第4次 2019:	エゾミズタマソウ	<i>Circaea lutetiana</i> subsp. <i>quadrisulcata</i>	VU
第4次 2018:	エゾミズタマソウ	<i>Circaea lutetiana</i> subsp. <i>quadrisulcata</i>	VU
第4次 2017:	エゾミズタマソウ	<i>Circaea lutetiana</i> subsp. <i>quadrisulcata</i>	VU
第4次 2015:	エゾミズタマソウ	<i>Circaea lutetiana</i> subsp. <i>quadrisulcata</i>	VU
第4次:	エゾミズタマソウ	<i>Circaea lutetiana</i> subsp. <i>quadrisulcata</i>	VU
第3次:	ヤマタニタデ	<i>Circaea</i> x <i>intermedia</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(Aランク)] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Circaea canadensis subsp. *quadrisulcata* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Circaea canadensis* subsp. *quadrisulcata* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	River development, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオアカバナ

Epilobium hirsutum

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 1.5 m にも達する。葉身は長さ 4-12 cm、長楕円形～長楕円状披針形、縁に鋸歯がある。花は腋生、大きく、紫紅色。蒴果は長さ 3-10 cm、多少毛がある。

【生活史】

多年草。花期は 6-8 月。

【生育環境】

湿草原、川岸や谷間の湿地に生育。

【分布域】

本州（中部以北）、ユーラシア・アフリカ北部の温帯に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	3	1	1	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 湿地開発		
件数 2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオアカバナ	<i>Epilobium hirsutum</i>	VU
第4次 2019:	オオアカバナ	<i>Epilobium hirsutum</i>	VU
第4次 2018:	オオアカバナ	<i>Epilobium hirsutum</i>	VU
第4次 2017:	オオアカバナ	<i>Epilobium hirsutum</i>	VU
第4次 2015:	オオアカバナ	<i>Epilobium hirsutum</i>	VU
第4次:	オオアカバナ	<i>Epilobium hirsutum</i>	VU
第3次:	オオアカバナ	<i>Epilobium hirsutum</i>	VU
第2次:	オオアカバナ	<i>Epilobium hirsutum</i> var. <i>villosum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[Aランク] 秋田県[絶滅種(EX)] 福島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 茨城県[情報不足①注目種] 神奈川県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 石川県[絶滅(EX)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Epilobium hirsutum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Epilobium hirsutum* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Wetland development

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トダイアカバナ

Epilobium platystigmatosum

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 10-70 cm。葉身は長さ 1-4.5 cm、線形～披針形。花弁は長さ 3-5 mm、淡紅色か白色。蒴果は長さ 2.5-5 cm。

【生活史】

多年草。花期は 8-9 月。

【生育環境】

深山の湿った裸地に生育。

【分布域】

本州（神奈川県以西）・四国・九州（宮崎県）、韓国・台湾・中国（南部）・フィリピンに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 9 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	5	3	1	0	0	9	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	シカ食害	石灰採掘
件数 3	2	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トダイアカバナ	<i>Epilobium platystigmatosum</i>	VU
第4次 2019:	トダイアカバナ	<i>Epilobium platystigmatosum</i>	VU
第4次 2018:	トダイアカバナ	<i>Epilobium platystigmatosum</i>	VU
第4次 2017:	トダイアカバナ	<i>Epilobium platystigmatosum</i>	VU
第4次 2015:	トダイアカバナ	<i>Epilobium platystigmatosum</i>	VU
第4次:	トダイアカバナ	<i>Epilobium platystigmatosum</i>	VU
第3次:	トダイアカバナ	<i>Epilobium platystigmatosum</i>	VU
第2次:	トダイアカバナ	<i>Epilobium formosanum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 神奈川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 滋賀県[要注目種] 広島県[情報不足(DD)] 徳島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛媛県[情報不足(DD)] 高知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Epilobium platystigmatosum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Epilobium platystigmatosum* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Deer feeding damage, Limestone mining

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae アカバナ科 Onagraceae

ケミズキンバイ

Ludwigia adscendens

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミズキンバイに似るが、水上に抽出した部分の茎に毛がある。花弁の基部が黄色でそれ以外は白色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

沼沢地に生育。

【分布域】

琉球、台湾・中国（南部）・東南アジア・インド・マレーシア・オーストラリアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ケミズキンバイ	<i>Ludwigia adscendens</i>	VU
第4次 2019:	ケミズキンバイ	<i>Ludwigia adscendens</i>	VU
第4次 2018:	ケミズキンバイ	<i>Ludwigia adscendens</i>	VU
第4次 2017:	ケミズキンバイ	<i>Ludwigia adscendens</i>	VU
第4次 2015:	ケミズキンバイ	<i>Ludwigia adscendens</i>	VU
第4次:	ケミズキンバイ	<i>Ludwigia adscendens</i>	VU
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ludwigia adscendens has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Ludwigia adscendens is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae アカバナ科 Onagraceae

ミズキンバイ

Ludwigia peploides subsp. *stipulacea*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は地中に長く這う根茎から斜上し、高さ 20-50 cm。葉身は倒披針形～長楕円状披針形、全縁で無毛。花弁は 4-6 個あり、長さ 9-17 mm、黄色。蒴果は長さ 2-2.5 cm。

【生活史】

多年草。花期は 7-9 月。

【生育環境】

沼沢地に生育。

【分布域】

本州（関東以西）・九州・琉球、中国（東部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 6 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	3	0	1	0	0	6	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 池沼開発	河川開発	海岸開発
件数 2	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミズキンバイ	<i>Ludwigia peploides</i> subsp. <i>stipulacea</i>	VU
第4次 2019:	ミズキンバイ	<i>Ludwigia peploides</i> subsp. <i>stipulacea</i>	VU
第4次 2018:	ミズキンバイ	<i>Ludwigia peploides</i> subsp. <i>stipulacea</i>	VU
第4次 2017:	ミズキンバイ	<i>Ludwigia peploides</i> subsp. <i>stipulacea</i>	VU
第4次 2015:	ミズキンバイ	<i>Ludwigia peploides</i> subsp. <i>stipulacea</i>	VU
第4次:	ミズキンバイ	<i>Ludwigia peploides</i> subsp. <i>stipulacea</i>	VU
第3次:	ミズキンバイ	<i>Ludwigia peploides</i> subsp. <i>stipulacea</i>	VU
第2次:	ミズキンバイ	<i>Ludwigia stipulacea</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

茨城県[絶滅危惧ⅠB類] 群馬県[絶滅(EX)] 埼玉県[情報不足(DD)] 千葉県[重要保護生物(B)] 東京都(本土部)[区部：絶滅(EX) 本土部：絶滅(EX)] 神奈川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-g)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ludwigia peploides subsp. *stipulacea* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ludwigia peploides* subsp. *stipulacea* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Pond development, River development, Coastal development

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コバノミヤマノボタン

*Bredia okinawensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1 m。葉は対生し、葉身は狭倒披針形～長楕円形、長さ 4–9 cm、3 行脈があり、葉柄は長さ 1–1.5 cm。花は頂生の集散花序にふつう 3–7 個つく。花弁は 4 個、紅色。蒴果は洋梨形で長さ 5 mm 程度。

【生活史】

低木。

【生育環境】

林縁や川沿いの崖などに生育する。

【分布域】

沖縄県北部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	3	1	1	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コバノミヤマノボタン	<i>Bredia okinawensis</i>	VU
第4次 2019:	コバノミヤマノボタン	<i>Bredia okinawensis</i>	VU
第4次 2018:	コバノミヤマノボタン	<i>Bredia okinawensis</i>	VU
第4次 2017:	コバノミヤマノボタン	<i>Bredia okinawensis</i>	VU
第4次 2015:	コバノミヤマノボタン	<i>Bredia okinawensis</i>	VU
第4次:	コバノミヤマノボタン	<i>Bredia okinawensis</i>	VU
第3次:	コバノミヤマノボタン	<i>Bredia okinawensis</i>	VU
第2次:	コバノミヤマノボタン	<i>Bredia okinawensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Bredia okinawensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Bredia okinawensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イオウノボタン

Melastoma candidum var. *alessandrense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ノボタンの変種。雄蕊が長く、葯隔基部の内側に伸びる裂片の先に小歯牙があり、葯隔基部の外側には剛毛がある。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

雲霧林帯に生育する。

【分布域】

小笠原諸島北硫黄島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	2	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イオウノボタン	<i>Melastoma candidum</i> var. <i>alessandrense</i>	VU
第4次 2019:	イオウノボタン	<i>Melastoma candidum</i> var. <i>alessandrense</i>	VU
第4次 2018:	イオウノボタン	<i>Melastoma candidum</i> var. <i>alessandrense</i>	VU
第4次 2017:	イオウノボタン	<i>Melastoma candidum</i> var. <i>alessandrense</i>	VU
第4次 2015:	イオウノボタン	<i>Melastoma candidum</i> var. <i>alessandrense</i>	VU
第4次:	イオウノボタン	<i>Melastoma candidum</i> var. <i>alessandrense</i>	VU
第3次:	イオウノボタン	<i>Melastoma candidum</i> var. <i>alessandrense</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Melastoma candidum var. *alessandrense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Melastoma candidum* var. *alessandrense* is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クスノハカエデ

Acer itoanum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15 m になる。冬芽の鱗片は 6-9 対、瓦重ね状に並ぶ。葉は 2 年生、革質、葉身は楕円形、長さ 4-10 cm、幅 1.8-5 cm、無分裂、全縁、鋭尖頭、基部はくさび形ないし円形、両面ともに無毛または裏面に軟毛があり、細脈はともに隆起し、裏面は灰白色を帯びる。葉柄は長さ 0.5-6 cm、葉身より短く、花時には短軟毛がある。花序は複散房状、有花枝に頂生し、長さ 3-4 cm、30 花内外をつけ、直立する。花は 5 数性で淡黄色。分果は長さ 1.5-2 cm、果翼は鋭角に開く。

【生活史】

常緑高木。雄性同株。花期は 3-4 月。果期は 4-5 月。

【生育環境】

亜熱帯および暖帯の山地林内に生える

【分布域】

奄美（沖永良部島・与論島）以南の琉球、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クスノハカエデ	<i>Acer oblongum</i> subsp. <i>itoanum</i>	VU
第4次 2019:	クスノハカエデ	<i>Acer oblongum</i> subsp. <i>itoanum</i>	VU
第4次 2018:	クスノハカエデ	<i>Acer oblongum</i> subsp. <i>itoanum</i>	VU
第4次 2017:	クスノハカエデ	<i>Acer oblongum</i> subsp. <i>itoanum</i>	VU
第4次 2015:	クスノハカエデ	<i>Acer oblongum</i> subsp. <i>itoanum</i>	VU
第4次:	クスノハカエデ	<i>Acer oblongum</i> subsp. <i>itoanum</i>	VU
第3次:	クスノハカエデ	<i>Acer oblongum</i> subsp. <i>itoanum</i>	VU
第2次:	クスノハカエデ	<i>Acer oblongum</i> var. <i>itoanum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Acer itoanum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Acer itoanum* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クロビイタヤ

*Acer miyabei***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 25 m に達する。冬芽の鱗片は 5-8 対、瓦重ね状に並ぶ。葉身はほぼ五角形、長さ 5-12 cm、幅 6-15 cm、3-5 中裂、基部は心形、裂片はさらに大きく羽状に 1-2 裂し、裂片の先は円形～鈍形、細鋸歯はなく、両面に短立毛、縁に短毛を密生し、表面は細脈が隆起する。葉柄は長さ 4-20 cm、大きい葉では葉身より長く、果時に多少とも立毛がある。花序は複総状、有花枝に頂生、長さ 6-8 cm、10 個内外の花がつく。花は 5 数性、淡黄色。分果は長さ約 3 cm、密毛があり、果翼は水平に開く。

【生活史】

落葉高木。雄性同株。花期は 5-6 月。果期は 7-8 月。

【生育環境】

温帯の山地の沢筋や小河川沿いの湿性立地に生育する。

【分布域】

北海道（南部）・青森県・秋田県北部・岩手県・長野県（菅平）・栃木県（日光）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

産地局限		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クロビイタヤ	<i>Acer miyabei</i> var. <i>miyabei</i>	VU
第4次 2019:	クロビイタヤ	<i>Acer miyabei</i> var. <i>miyabei</i>	VU
第4次 2018:	クロビイタヤ	<i>Acer miyabei</i> var. <i>miyabei</i>	VU
第4次 2017:	クロビイタヤ	<i>Acer miyabei</i> var. <i>miyabei</i>	VU
第4次 2015:	クロビイタヤ	<i>Acer miyabei</i> var. <i>miyabei</i>	VU
第4次:	クロビイタヤ	<i>Acer miyabei</i> var. <i>miyabei</i>	VU
第3次:	クロビイタヤ	<i>Acer miyabei</i>	VU
第2次:	クロビイタヤ	<i>Acer miyabei</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[A ランク] 秋田県[絶滅危惧種 I B 類(EN)]
福島県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 栃木県[絶滅危惧 II 類(B ランク)] 長野県[絶滅危惧 IB 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 飯村考文，2018. 日光市土呂部地区のクロビイタヤ分布について. フロラ栃木，26: 14-19.
- 栃木県環境森林部自然環境課・栃木県立博物館，2018. レッドデータブックとちぎ栃木県環境森林部自然環境課・栃木県立博物館，2018. レッドデータブックとちぎ 2018 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物. 栃木県環境森林部自然環境課，991pp.
- 岩手県環境生活部自然保護課，2014. いわてレッドデータブック 岩手の希少な野生生物 web 版. <https://www2.pref.iwate.jp/~hp0316/rd/rdb/index.html>（2024 年 9 月 6 日閲覧）.

- 長野県自然保護研究所・長野県生活環境部環境自然保護課（編），2002．長野県版レッドデータブック 長野県の絶滅のおそれのある野生生物．維管束植物編．長野県自然保護研究所，297pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Acer miyabei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Acer miyabei* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハナノキ

*Acer pycnanthum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さは 30 m に達する。冬芽の鱗片は 5-7 対、瓦重ね状に並び、濃紅色。葉身は広卵形、長さ 2.5-8 cm、幅 2-10 cm、掌状の 3 脈があり、先は浅く 3 裂、裂片は重鋸歯縁、基部は浅心形～広いくさび形、裏面はふつう粉白色を帯び、基部の脈腋および脈上に毛が少しある。花序は束状、前年枝の葉腋に生じ、3-6 花がつく。花は紅色で、5 数性。分果は長さ約 2.5 cm、無毛、果翼は直角ないし鋭角に開く。

【生活史】

落葉高木。雌雄異株。花期は 4 月。果期は 6 月。

【生育環境】

温帯の山間の湿地に生育する。

【分布域】

岐阜・長野両県南部および愛知県北東部の 3 県県境一帯にみられ、長野県大町市に隔離分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 6 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	3	1	0	0	0	6	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハナノキ	<i>Acer pycnanthum</i>	VU
第4次 2019:	ハナノキ	<i>Acer pycnanthum</i>	VU
第4次 2018:	ハナノキ	<i>Acer pycnanthum</i>	VU
第4次 2017:	ハナノキ	<i>Acer pycnanthum</i>	VU
第4次 2015:	ハナノキ	<i>Acer pycnanthum</i>	VU
第4次:	ハナノキ	<i>Acer pycnanthum</i>	VU
第3次:	ハナノキ	<i>Acer pycnanthum</i>	VU
第2次:	ハナノキ	<i>Acer pycnanthum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長野県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅱ類] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Acer pycnanthum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Acer pycnanthum* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100

years.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムニンゴシュユ

*Melicope nishimurae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 2-3 m。葉は対生、3 小葉。葉柄は長さ 2-4.5 cm で無毛。小葉は厚く、倒卵形、長さ 5-10 cm、幅 2.5-5.5 cm、先は丸く、浅く凹み、基部はくさび形で長さ 1-2 cm の小葉柄に流れ、表面の主脈に微小な鱗状毛が散生するほかは両面無毛。葉腋に長さ 2-4 cm の総状花序を伸ばし、小さな花を多数つける。花弁は白色で 4 個、卵形で先はとがり、長さ約 2 mm。雌花は長さ約 1 mm の 4 個の雌蕊と中心に短毛が密生する花盤がある。雌花は 4 個の小さな雄蕊と 1 個の雌蕊があり、子房は軟短毛が密生、花柱は短い。果実は 4 個の分果に分かれ、そのうち 1-2 個が成熟する。

【生活史】

常緑低木。雌雄異株。花期は 3-4 月。

【生育環境】

低木林内に生育する。

【分布域】

小笠原諸島（兄島・父島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
6	2	2	1	0	0	11	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムニンゴシュユ	<i>Melicope nishimurae</i>	VU
第4次 2019:	ムニンゴシュユ	<i>Melicope nishimurae</i>	VU
第4次 2018:	ムニンゴシュユ	<i>Melicope nishimurae</i>	VU
第4次 2017:	ムニンゴシュユ	<i>Melicope nishimurae</i>	VU
第4次 2015:	ムニンゴシュユ	<i>Melicope nishimurae</i>	VU
第4次:	ムニンゴシュユ	<i>Melicope nishimurae</i>	VU
第3次:	ムニンゴシュユ	<i>Melicope nishimurae</i>	VU
第2次:	ムニンゴシュユ	<i>Evodia nishimurae</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Melicope nishimurae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Melicope nishimurae* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマカラスザンショウ

*Zanthoxylum yakumontanum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 6-8 m、大きなものは 15 m に達する。枝は無毛で長さ 2-5 mm の短くて太いとげが不規則に並ぶ。葉は互生、長さ 25-60 cm、奇数羽状複葉で小葉は 9-21 枚でほぼ対生。小葉は長さ 4-11 cm、幅 2.5-4 cm、卵形または卵状長楕円形、縁に鈍鋸歯があり、両面無毛、裏面はやや白色を帯び、油点がある。長さ幅とも 10 cm 内外の散房花序を枝先に伸ばし、多くの花をややまばらにつける。花弁は白色で 5 個、雄花は楕円形で長さ約 2 mm、雌花では卵形で長さ約 3 mm。分果は球形で長さ約 4 mm。種子は黒色、楕円状球形で長さ約 3 mm。

【生活史】

落葉高木。花期は 7-8 月。

【生育環境】

標高 600-1300 m の林内。

【分布域】

屋久島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。2012 年調査では確実な自生を確認できなかった。屋久島でシカ食害によって減少した。親木は残っているが、芽生えが食害され更新されていない。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】		
1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマカラスザンショウ	<i>Zanthoxylum yakumontanum</i>	VU
第4次 2019:	ヤクシマカラスザンショウ	<i>Zanthoxylum yakumontanum</i>	VU
第4次 2018:	ヤクシマカラスザンショウ	<i>Zanthoxylum yakumontanum</i>	VU
第4次 2017:	ヤクシマカラスザンショウ	<i>Zanthoxylum yakumontanum</i>	VU
第4次 2015:	ヤクシマカラスザンショウ	<i>Zanthoxylum yakumontanum</i>	VU
第4次:	ヤクシマカラスザンショウ	<i>Zanthoxylum yakumontanum</i>	VU
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[準絶滅危惧]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Zanthoxylum yakumontanum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Zanthoxylum yakumontanum is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

チョウセンナニワズ

Daphne koreana

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	基準 D
推定開花株数が 1000 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

オニシバリに似るが、葉は薄く花はくすんだ濃紅紫色であることが多い。

【生活史】

落葉小低木。

【生育環境】

日本では石灰岩地に限って見られる。

【分布域】

北海道（峠山）、本州中部（南アルプス～秩父武甲山）、四国、九州中部に分布。国外では朝鮮半島、中国東北部、ウスリー、サハリン（北部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 16 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
6	6	4	0	0	0	16	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	シカ食害	石灰採掘
件数 8	4	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チョウセンナニワズ	<i>Daphne koreana</i>	VU
第4次 2019:	チョウセンナニワズ	<i>Daphne koreana</i>	VU
第4次 2018:	チョウセンナニワズ	<i>Daphne koreana</i>	VU
第4次 2017:	チョウセンナニワズ	<i>Daphne koreana</i>	VU
第4次 2015:	チョウセンナニワズ	<i>Daphne koreana</i>	VU
第4次:	チョウセンナニワズ	<i>Daphne koreana</i>	VU
第3次:	チョウセンナニワズ	<i>Daphne koreana</i>	VU
第2次:	チョウセンナニワズ	<i>Daphne pseudo-mezereum</i> var. <i>koreana</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(本土部)[本土部：絶滅危惧ⅠB類(EN)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 長野県[準絶滅危惧(NT)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 滋賀県[希少種] 奈良県[絶滅寸前種] 徳島県[絶滅危惧ⅠB類] 愛媛県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 高知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Daphne koreana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Daphne koreana* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Deer feeding damage, Limestone mining

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シャクナンガンピ

Daphnimorpha kudoii

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ約 1.5 m。葉は広楕円状倒卵形ないし菱状倒卵形で、長さ 1.5-7 cm。花序は今年枝に頂生し、花柄は長さ 2-4 cm。萼筒は細く、まっすぐで長さ 8-9 mm。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

標高 1400-1900 m の風衝地等の低い茂みの中に生える。

【分布域】

屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	8	0	0	0	0	10	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シャクナンガンピ	<i>Daphnimorpha kudo</i>	VU
第4次 2019:	シャクナンガンピ	<i>Daphnimorpha kudo</i>	VU
第4次 2018:	シャクナンガンピ	<i>Daphnimorpha kudo</i>	VU
第4次 2017:	シャクナンガンピ	<i>Daphnimorpha kudo</i>	VU
第4次 2015:	シャクナンガンピ	<i>Daphnimorpha kudo</i>	VU
第4次:	シャクナンガンピ	<i>Daphnimorpha kudo</i>	VU
第3次:	シャクナンガンピ	<i>Daphnimorpha kudo</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Daphnimorpha kudo has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Daphnimorpha kudo is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミヤマガンピ

*Diplomorpha albiflora***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1 m ほど。今年枝は分枝せず、細くて無毛。葉は対生し、膜質無毛、裏面は淡緑色、卵形または卵状楕円形で長さ 1–4 cm、幅 1–2.5 cm。鋭頭または鈍頭、基部は円形～鈍形。長さ 1–10 mm の無毛の花序枝の先端に 1–4 花をつける。花柄の長さは 1–9 mm。花は両性で白色。萼筒は無毛で長さ 8–10.5 mm。萼裂片は楕円形で長さ約 3 mm。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

深山（標高 1300 m まで）の岩石地に生育する。

【分布域】

紀伊半島（大台ヶ原、大峰山）、四国（中、西部）、九州（祖母山、大崩山系）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	1	1	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	道路工事	シカ食害
件数	2	1

3		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミヤマガンピ	<i>Diplomorpha albiflora</i>	VU
第4次 2019:	ミヤマガンピ	<i>Diplomorpha albiflora</i>	VU
第4次 2018:	ミヤマガンピ	<i>Diplomorpha albiflora</i>	VU
第4次 2017:	ミヤマガンピ	<i>Diplomorpha albiflora</i>	VU
第4次 2015:	ミヤマガンピ	<i>Diplomorpha albiflora</i>	VU
第4次:	ミヤマガンピ	<i>Diplomorpha albiflora</i>	VU
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

奈良県[絶滅寸前種] 大分県[準絶滅危惧種(NT)] 宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Diplomorpha albiflora has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Diplomorpha albiflora is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Road construction, Deer feeding damage

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

サクラガンピ

Diplomorpha pauciflora var. *pauciflora***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 2 m ほど。葉は水平な枝にまばらに 2 列状に互生して前後の葉は相接しない。卵形、卵状披針形または三角状卵形、長さ 1-5.5 cm。7-8 月、今年枝端に穂状花序が集まって、まばらな円錐花序をなし、花は淡黄色。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

山中の溪流付近などに生育する。

【分布域】

伊豆半島、箱根に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	1	2	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サクラガンピ	<i>Diplomorpha pauciflora</i>	VU
第4次 2019:	サクラガンピ	<i>Diplomorpha pauciflora</i>	VU
第4次 2018:	サクラガンピ	<i>Diplomorpha pauciflora</i>	VU
第4次 2017:	サクラガンピ	<i>Diplomorpha pauciflora</i>	VU
第4次 2015:	サクラガンピ	<i>Diplomorpha pauciflora</i>	VU
第4次:	サクラガンピ	<i>Diplomorpha pauciflora</i>	VU
第3次:	サクラガンピ	<i>Diplomorpha pauciflora</i>	VU
第2次:	サクラガンピ	<i>Diplomorpha pauciflora</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

神奈川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 静岡県[準絶滅危惧(NT)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Diplomorpha pauciflora var. *pauciflora* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Diplomorpha pauciflora* var. *pauciflora* is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タチスズシロソウ

Arabidopsis kamchatica subsp. *kawasakiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15-40 cm。根出葉は長さ 1.5-4.5 cm、倒披針形、頭大羽状に浅裂。茎葉はへら状線形、全縁、無毛。花弁は長さ 4-8 mm、倒卵形、白色。

【生活史】

越年草。

【生育環境】

海岸や湖岸の砂地に生育。

【分布域】

本州（東海・近畿地方）・四国（高知県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、4 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	1	1	0	4	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 管理放棄	自然遷移	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タチスズシロソウ	<i>Arabidopsis kamchatica</i> subsp. <i>kawasakiana</i>	EN
第4次 2019:	タチスズシロソウ	<i>Arabidopsis kamchatica</i> subsp. <i>kawasakiana</i>	EN
第4次 2018:	タチスズシロソウ	<i>Arabidopsis kamchatica</i> subsp. <i>kawasakiana</i>	EN
第4次 2017:	タチスズシロソウ	<i>Arabidopsis kamchatica</i> subsp. <i>kawasakiana</i>	EN
第4次 2015:	タチスズシロソウ	<i>Arabidopsis kamchatica</i> subsp. <i>kawasakiana</i>	EN
第4次:	タチスズシロソウ	<i>Arabidopsis kamchatica</i> subsp. <i>kawasakiana</i>	EN
第3次:	タチスズシロソウ	<i>Arabidopsis kamchatica</i> subsp. <i>kawasakiana</i>	EN
第2次:	タチスズシロソウ	<i>Arabis kawasakiana</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

富山県[絶滅危惧Ⅱ類] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 愛知県[絶滅(EX)] 三重県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 滋賀県[その他重要種] 大阪府[EX] 兵庫県[絶滅(EX)] 愛媛県[絶滅(EX)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arabidopsis kamchatica subsp. *kawasakiana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arabidopsis kamchatica* subsp. *kawasakiana* is listed as VU under criteria E. E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Abandonment of management, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カワチスズシロソウ

Arabis flagellosa var. *kawachiensis*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

スズシロソウに似るが、匍匐枝を出さない。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

林縁の崩れやすい土の崖、崩れ落ちて堆積した土壌の斜面等に生育。

【分布域】

本州（大阪府南部）・奈良県等に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	その他	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カワチスズシロソウ	<i>Arabis flagellosa</i> var. <i>kawachiensis</i>	VU
第4次 2019:	カワチスズシロソウ	<i>Arabis flagellosa</i> var. <i>kawachiensis</i>	VU
第4次 2018:	カワチスズシロソウ	<i>Arabis flagellosa</i> var. <i>kawachiensis</i>	VU
第4次 2017:	カワチスズシロソウ	<i>Arabis flagellosa</i> var. <i>kawachiensis</i>	VU
第4次 2015:	カワチスズシロソウ	<i>Arabis flagellosa</i> var. <i>kawachiensis</i>	VU
第4次:	カワチスズシロソウ	<i>Arabis flagellosa</i> var. <i>kawachiensis</i>	VU
第3次:	カワチスズシロソウ	<i>Arabis flagellosa</i> var. <i>kawachiensis</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

大阪府[VU] 奈良県[絶滅危惧種] 和歌山県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 奈良県レッドデータブック改訂委員会，2017. 大切にしたい奈良県の野生動植物—奈良県版レッドデータブック 2016 改訂版—. 奈良県くらし創造部景観・環境局，791pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arabis flagellosa var. *kawachiensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arabis flagellosa* var. *kawachiensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Other

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クモイナズナ

*Arabis tanakana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 C

推定開花株数 10000 個体未満かつ 10 年間に 10%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 3-13 cm。茎は分枝せず無毛。根出葉は長さ 5-12 mm、倒披針形でロゼット状、両面に星状毛がある。茎葉は長さ 3-12 mm、2-4 個で、長楕円形状卵形、基部は耳状にならず半ば茎を抱く。花は短い花序に 3-10 個つく。花弁は長さ 2.5 mm、楕円形～倒卵形、先は凹型、白色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山の乾いた岩地に生育。

【分布域】

本州中部（白馬山系・八ヶ岳および南アルプス）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数個体の現存が推定された。基準 C により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	0	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	自然遷移	
件数	2	

3		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クモイナズナ	<i>Arabis tanakana</i>	VU
第4次 2019:	クモイナズナ	<i>Arabis tanakana</i>	VU
第4次 2018:	クモイナズナ	<i>Arabis tanakana</i>	VU
第4次 2017:	クモイナズナ	<i>Arabis tanakana</i>	VU
第4次 2015:	クモイナズナ	<i>Arabis tanakana</i>	VU
第4次:	クモイナズナ	<i>Arabis tanakana</i>	VU
第3次:	クモイナズナ	<i>Arabis tanakana</i>	VU
第2次:	クモイナズナ	<i>Arabis tanakana</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

富山県[準絶滅危惧] 山梨県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 長野県[絶滅危惧 IB 類(EN)] 静岡県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arabis tanakana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arabis tanakana* is listed as VU under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 10,000 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 10% within ten years.

Threat types:	Human trampling, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クモマナズナ

Draba sakuraii var. *nipponica***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

トガクシナズナに似るが、花序の中軸と花序柄、花柄、萼片の外側、短角果は無毛。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山の岩礫地に生育。

【分布域】

本州中部（日光・北アルプス・八ヶ岳・南アルプス・中央アルプス）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	1	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他		
件数 2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クモナズナ	<i>Draba nipponica</i>	VU
第4次 2019:	クモナズナ	<i>Draba nipponica</i>	VU
第4次 2018:	クモナズナ	<i>Draba nipponica</i>	VU
第4次 2017:	クモナズナ	<i>Draba nipponica</i>	VU
第4次 2015:	クモナズナ	<i>Draba nipponica</i>	VU
第4次:	クモナズナ	<i>Draba nipponica</i>	VU
第3次:	クモナズナ	<i>Draba nipponica</i>	VU
第2次:	クモナズナ	<i>Draba nipponica</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 山梨県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]
長野県[準絶滅危惧(NT)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 奈良県[絶滅寸前種,注目種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Draba sakuraii var. *nipponica* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Draba sakuraii var. *nipponica* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミギワガラシ

Rorippa globosa

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-40 cm。茎は単純、または下部で分枝する。葉身は長さ 2-5.5 cm、羽状に深裂、基部は耳状になる。花弁は長さ 2-3 mm、倒卵形、黄色。

【生活史】

多年草。花期は 6-8 月。

【生育環境】

高原の湿地に生育。

【分布域】

北海道・本州（中部地方以北）、北東アジアの寒帯に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	帰化競合	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミギワガラシ	<i>Rorippa globosa</i>	VU
第4次 2019:	ミギワガラシ	<i>Rorippa globosa</i>	VU
第4次 2018:	ミギワガラシ	<i>Rorippa globosa</i>	VU
第4次 2017:	ミギワガラシ	<i>Rorippa globosa</i>	VU
第4次 2015:	ミギワガラシ	<i>Rorippa globosa</i>	VU
第4次:	ミギワガラシ	<i>Rorippa globosa</i>	VU
第3次:	ミギワガラシ	<i>Rorippa nikkoensis</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

秋田県[絶滅危惧種 I B 類(EN)] 栃木県[絶滅危惧 I 類(A ランク)] 新潟県[絶滅危惧 II 類(VU)] 長野県[絶滅危惧 IB 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rorippa globosa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rorippa globosa* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Deer feeding damage, Invasive species competition
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミヤマツチトリモチ

*Balanophora nipponica***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

径 5–9 cm、まれに 20 cm の寄生木こぶを生じる。花茎は高さ 8–14 cm で、1 個の根茎にふつう 3–4 個、時には 10 個以上生ずる。花序は長楕円体～楕円体で、赤みを帯びた淡褐色。

【生活史】

多年草で、雌雄異株。

【生育環境】

標高 1,000 m 付近の積雪地帯の落葉樹林で、溪流の近くの斜面に生育する。

【分布域】

本州～九州に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで絶滅し、11 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
7	3	0	1	0	0	11	2	7

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	人の踏みつけ	園芸採取
件数 5	2	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミヤマツチトリモチ	<i>Balanophora nipponica</i>	VU
第4次 2019:	ミヤマツチトリモチ	<i>Balanophora nipponica</i>	VU
第4次 2018:	ミヤマツチトリモチ	<i>Balanophora nipponica</i>	VU
第4次 2017:	ミヤマツチトリモチ	<i>Balanophora nipponica</i>	VU
第4次 2015:	ミヤマツチトリモチ	<i>Balanophora nipponica</i>	VU
第4次:	ミヤマツチトリモチ	<i>Balanophora nipponica</i>	VU
第3次:	ミヤマツチトリモチ	<i>Balanophora nipponica</i>	VU
第2次:	ミヤマツチトリモチ	<i>Balanophora nipponica</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[重要希少野生生物(B ランク)] 岩手県[B ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 秋田県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 茨城県[絶滅危惧ⅠB類] 栃木県[準絶滅危惧(C ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 埼玉県[情報不足(DD)] 東京都(本土部)[本土部:絶滅危惧ⅠB類(EN)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 新潟県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 富山県[絶滅危惧Ⅱ類] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR)] 福井県[要注目] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[準絶滅危惧(NT)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅱ類] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 三重県[VU] 滋賀県[要注目種] 兵庫県[絶滅(EX)] 奈良県[絶滅危惧種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 徳島県[絶滅危惧ⅠB類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 熊本県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Balanophora nipponica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Balanophora nipponica is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Human trampling, Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アマクサツチトリモチ

Balanophora subcupularis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

多年性寄生草本で、雌雄同株。塊茎は寄主の細根に生じ、直径 1.5-2 cm 前後の小塊が合着したような形状で、全体の直径 6-8 cm、地表近くに位置し、淡黄褐色、表面には粒状のざらつきがあり、白っぽい星形の皮目がある。秋に塊茎支の内側から各 1 個の花茎を出し、花茎の高さ 6-8 cm 前後、全体赤紫色、肉穂花序は卵状長楕円体で花茎に頂生し、鈍い淡紅紫色、長さ 2 cm、幅 8 mm 以下、基部に白色の雄花を 2 列つけ、それ以外の部分は棍棒状で微細な小棍体におおわれる。雌花は微細で黄色、小棍体の間に多数つき、花時には雌蕊の先が小棍体より長くなるので花序が白っぽく見える。日本では 2014 年熊本県天草市で発見され、邑田 (2016) が同定し和名を命名した。本種は雌雄同株であることなど、リュウキュウツチトリモチ *Balanophora fungosa* に似ているが、全体に小型であり、花穂がより細長い点で異なる。特に塊茎に明瞭な皮目を生じることで、皮目のないリュウキュウツチトリモチから明確に区別できる。

【生活史】

生活史に関しては不明な点が多い。本種の花期は 10 月-11 月。近縁種のリュウキュウツチトリモチの花期は 12 月-翌年 1 月。

【生育環境】

沿海域に生育。熊本県天草市では、耕作放棄後 30 年から 40 年くらい経った二次林内に生育。寄主はハゼノキ。

【分布域】

熊本県天草市で発見され、日本では唯一の生育地であったが、近年鹿児島県肝属郡でも見いだされた。中国南部からミャンマーにかけて広く分布することが知られていたが、近年タイとベトナムからも報告された。近縁種のリュウキュウツチトリモチは、奄美諸島以外の琉球列島、台湾南部からミクロネシア、オーストラリア北部、ソロモン諸島と広く、分布は重ならない。

現在の生育状況

【生育地の現況】

天草市では 2022 年に生育の確認済み。天草市では狭い範囲に 3 集団が有り、1000 個体程度が生育する。肝属郡については現状不明。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 熊本県希少野生動植物検討委員会，2019. レッドデータブックくまもと 2019 ―熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物―. 熊本県環境生活部自然保護課，632pp.
- 鈴木英治・丸野勝敏・田金秀一郎・寺田竜太・久保紘史郎・平城達哉・大西亘，2022. 鹿児島県の維管束植物分布図集－全県版－. 鹿児島大学総合研究博物館研究報告 17. 526pp. 鹿児島大学総合研究博物館，鹿児島.
- Chaiwerawattana, N., C. Maknoi and J. Sangrattanasert, 2022. *Balanophora subcupularis* (Balanophoraceae), a new record from Thailand. Thai Journal of Botany, 14: 15–19.
- 邑田仁，2016. 日本新産のアマクサツチトリモチ *Balanophora subcupularis* (ツチトリモチ科). The Journal of Japanese Botany, 91: 47–48.
- Tung, N. T., N. V. Than and N. Q. Hung, 2017. *Balanophora subcupularis* P.C. Tam, (Balanophoraceae): new record species for flora of Vietnam. Journal of Pharmacognosy & Natural Products, DOI: 10.4172/2472-0992.1000142.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Balanophora subcupularis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Balanophora subcupularis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イソマツ

Limonium wrightii var. *arbusculum*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は太く短く、枝分かれして斜上し、成長した個体では長さ 30 cm。葉は長さ 1.5-5 cm、倒披針形、下部はしだいに狭まり、全縁。花は、多数の散房状の小穂につく。花冠は筒状、5 裂し、紅紫色。

【生活史】

小低木。花期は 8-1 月。

【生育環境】

海岸の岩上に生育。

【分布域】

伊豆諸島・小笠原諸島・硫黄島・宇治群島・草垣群島・種子島・屋久島・琉球、台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 6 メッシュで計数千個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	2	4	0	0	6	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イソマツ	<i>Limonium wrightii</i> var. <i>wrightii</i>	VU
第4次 2019:	イソマツ	<i>Limonium wrightii</i> var. <i>wrightii</i>	VU
第4次 2018:	イソマツ	<i>Limonium wrightii</i> var. <i>wrightii</i>	VU
第4次 2017:	イソマツ	<i>Limonium wrightii</i> var. <i>wrightii</i>	VU
第4次 2015:	イソマツ	<i>Limonium wrightii</i> var. <i>wrightii</i>	VU
第4次:	イソマツ	<i>Limonium wrightii</i> var. <i>wrightii</i>	VU
第3次:	イソマツ	<i>Limonium wrightii</i> var. <i>arbusculum</i>	VU
第2次:	イソマツ	<i>Limonium wrightii</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Limonium wrightii var. *arbusculum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Limonium wrightii* var. *arbusculum* is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イソマツ科 Plumbaginaceae

キバナイソマツ

Limonium wrightii var. *wrightii*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

イソマツに似るが、萼と花冠がともに黄色。

【生活史】

小低木。

【生育環境】

海岸の岩上に生育。

【分布域】

琉球（沖永良部島・与論島・沖縄島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キバナイソマツ	<i>Limonium wrightii</i> var. <i>luteum</i>	VU
第4次 2019:	キバナイソマツ	<i>Limonium wrightii</i> var. <i>luteum</i>	VU
第4次 2018:	キバナイソマツ	<i>Limonium wrightii</i> var. <i>luteum</i>	VU
第4次 2017:	キバナイソマツ	<i>Limonium wrightii</i> var. <i>luteum</i>	VU
第4次 2015:	キバナイソマツ	<i>Limonium wrightii</i> var. <i>luteum</i>	VU
第4次:	キバナイソマツ	<i>Limonium wrightii</i> var. <i>luteum</i>	VU
第3次:	キバナイソマツ	<i>Limonium wrightii</i> var. <i>wrightii</i>	VU
第2次:	キバナイソマツ	<i>Limonium wrightii</i> var. <i>luteum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Limonium wrightii var. *wrightii* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Limonium wrightii* var. *wrightii* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメイワタデ

Aconogonon ajanense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 5–30 cm。葉は厚く、無柄、卵状披針形～披針形、両面に短い伏毛があるか、または表面にだけ毛がない。偽総状花序は円錐状。萼は 5 深裂し、淡緑色、時に紫色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山帯の砂礫地に生育する。

【分布域】

南千島、北海道に分布。国外では、サハリン、オホーツク、アムール、ウスリー、シベリア東部、朝鮮半島（北部）、中国（東北）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	人の踏みつけ	
件数 2	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメイワタデ	<i>Aconogonon ajanense</i>	VU
第4次 2019:	ヒメイワタデ	<i>Aconogonon ajanense</i>	VU
第4次 2018:	ヒメイワタデ	<i>Aconogonon ajanense</i>	VU
第4次 2017:	ヒメイワタデ	<i>Aconogonon ajanense</i>	VU
第4次 2015:	ヒメイワタデ	<i>Aconogonon ajanense</i>	VU
第4次:	ヒメイワタデ	<i>Aconogonon ajanense</i>	VU
第3次:	ヒメイワタデ	<i>Aconogonon ajanense</i>	VU
第2次:	ヒメイワタデ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aconogonon ajanense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Aconogonon ajanense is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Human trampling
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヌカボタデ

Persicaria taquetii

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎は弱く、下部は地を這って上部は直立し、高さ 10-60 cm。葉はほぼ無柄で、長披針形、長さ 2-8 cm。托葉鞘は筒状で、長さ 4-6 mm。偽総状花序はまばらで細長く、長さ 3-10 cm。萼は 5 深裂し、紅色もしくは緑白色。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

水湿地に生育する。

【分布域】

本州～九州に分布。国外では、済州島（韓国）、中国東部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、35 メッシュで計数万個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
7	8	2	15	3	0	35	1	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	河川開発	湿地開発
件数 10	7	7

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヌカボタデ	<i>Persicaria taquetii</i>	VU
第4次 2019:	ヌカボタデ	<i>Persicaria taquetii</i>	VU
第4次 2018:	ヌカボタデ	<i>Persicaria taquetii</i>	VU
第4次 2017:	ヌカボタデ	<i>Persicaria taquetii</i>	VU
第4次 2015:	ヌカボタデ	<i>Persicaria taquetii</i>	VU
第4次:	ヌカボタデ	<i>Persicaria taquetii</i>	VU
第3次:	ヌカボタデ	<i>Persicaria taquetii</i>	VU
第2次:	ヌカボタデ	<i>Persicaria taquetii</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[重要希少野生生物(Bランク)] 宮城県[準絶滅危惧(NT)] 秋田県[NT] 山形県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 福島県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 茨城県[絶滅危惧Ⅱ類] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(Aランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 千葉県[要保護生物(C)] 東京都(本土部)[区部:絶滅(EX) 本土部:絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(北多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(南多摩)[絶滅(EX)] 東京都(西多摩)[情報不足(DD)] 神奈川県[絶滅(EX)] 新潟県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 富山県[絶滅危惧Ⅱ類] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR)] 長野県[情報不足(DD)] 岐阜県[準絶滅危惧] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 三重県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 滋賀県[希少種] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[VU] 兵庫県[Bランク] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 岡山県[準絶滅危惧] 広島県[準絶滅危惧(NT)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 香川県[準絶滅危惧(NT)] 愛媛県[情報不足(DD)] 高知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅱ類種] 熊本県[情報不足(DD)] 大分県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN-g)] 鹿児島県[情報不足]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Persicaria taquetii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Persicaria taquetii* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, River development, Wetland development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae タデ科 Polygonaceae

カラフトノダイオウ

Rumex gmelinii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 0.4-1 m。根出葉は卵状三角形で長さ 5-27 cm。茎葉は小さく長卵形。円錐花序状に密に花をつける。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿原に生育する。

【分布域】

南千島、北海道、長野県北部に分布。国外では、千島列島、サハリン、ウスリー、シベリア東部、朝鮮半島北部、中国東北部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カラフトノダイオウ	<i>Rumex gmelinii</i>	VU
第4次 2019:	カラフトノダイオウ	<i>Rumex gmelinii</i>	VU
第4次 2018:	カラフトノダイオウ	<i>Rumex gmelinii</i>	VU
第4次 2017:	カラフトノダイオウ	<i>Rumex gmelinii</i>	VU
第4次 2015:	カラフトノダイオウ	<i>Rumex gmelinii</i>	VU
第4次:	カラフトノダイオウ	<i>Rumex gmelinii</i>	VU
第3次:	カラフトノダイオウ	<i>Rumex gmelinii</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 長野県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rumex gmelinii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rumex gmelinii* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ノダイオウ

Rumex longifolius

カテゴリー判定結果

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

基準 A

過去 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長い期間を通じて、30%以上の減少があったと推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 0.6–1.7 m。根出葉は有柄で、長卵状楕円形、波状縁、長さ 35–60 cm、下部の茎葉は狭い三角状卵形で長さ 13–35 cm。上部の葉は小さくて細くなり、披針形～長楕円形。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

谷の湿地や休耕田などに生育する。

【分布域】

南千島、北海道、本州（島根県以東）に分布。世界的には北半球の冷温帯に広く分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、49 メッシュで計数千個体の現存が推定された。個体数は多いものの、生育地は減っており減少率は高いと推定される。基準 A により VU とした。

現地調査の集計結果

2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
30	15	2	2	0	0	49	1	7

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	湿地開発	土地造成
件数	8	6

14		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ノダイオウ	<i>Rumex longifolius</i>	VU
第4次 2019:	ノダイオウ	<i>Rumex longifolius</i>	VU
第4次 2018:	ノダイオウ	<i>Rumex longifolius</i>	VU
第4次 2017:	ノダイオウ	<i>Rumex longifolius</i>	VU
第4次 2015:	ノダイオウ	<i>Rumex longifolius</i>	VU
第4次:	ノダイオウ	<i>Rumex longifolius</i>	VU
第3次:	ノダイオウ	<i>Rumex longifolius</i>	NT
第2次:	ノダイオウ	<i>Rumex longifolius</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[希少野生生物(C ランク)] 岩手県[C ランク] 宮城県[準絶滅危惧(NT)] 秋田県[留意種(N)] 山形県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 福島県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 茨城県[絶滅危惧Ⅱ類] 栃木県[準絶滅危惧(C ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 千葉県[最重要保護生物(A)] 東京都(本土部)[区部:絶滅(EX) 本土部:絶滅(EX)] 新潟県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 長野県[留意種(N)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 兵庫県[C ランク] 奈良県[絶滅種] 鳥取県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 岡山県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rumex longifolius has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rumex*

longifolius is listed as VU under criteria A.

A. Reduction in population size based on any of the following:

2. An observed, estimated, inferred or suspected population size reduction of $\geq 30\%$ over the last 10 years or three generations, whichever is the longer, where the reduction or its causes may not have ceased OR may not be understood OR may not be reversible.

Threat types:	Natural succession, Wetland development, Land development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナガバノモウセンゴケ

Drosera anglica

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根出葉はやや斜上し、葉身は長さ 3-4 cm、線状倒披針形または倒披針形、表面に長い腺毛があり、柄は長さ 5-10 cm。高さ 10-20 cm の花茎が出て、先が総状花序になり、数個の花を片側につける。花弁は白色。蒴果は楕円形、長さ約 5 mm。種子は黒色、披針形。

【生活史】

多年草。食虫植物。花期は 7-8 月。

【生育環境】

高層湿原に生える。

【分布域】

南千島・北海道・本州（尾瀬ヶ原）、朝鮮半島・千島列島・サハリン・北半球。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 管理放棄	自然遷移	
件数	1	

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナガバノモウセンゴケ	<i>Drosera anglica</i>	VU
第4次 2019:	ナガバノモウセンゴケ	<i>Drosera anglica</i>	VU
第4次 2018:	ナガバノモウセンゴケ	<i>Drosera anglica</i>	VU
第4次 2017:	ナガバノモウセンゴケ	<i>Drosera anglica</i>	VU
第4次 2015:	ナガバノモウセンゴケ	<i>Drosera anglica</i>	VU
第4次:	ナガバノモウセンゴケ	<i>Drosera anglica</i>	VU
第3次:	ナガバノモウセンゴケ	<i>Drosera anglica</i>	VU
第2次:	ナガバノモウセンゴケ	<i>Drosera anglica</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)] 福島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 群馬県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 新潟県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Drosera anglica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Drosera anglica* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Abandonment of management, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナガバノイシモチソウ

*Drosera toyoakensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は高さ 7-20 cm、葉は狭線形で長さ 4-7 cm、表面に長腺毛が多く、上方ではしだいに狭まって糸状になる。総状花序は長さ 5-10 cm、葉と対生状に出てまばらに 3-10 花がつく。花弁は紅色、倒卵形～長橢円形、長さ 6-8 mm。蒴果はやや球茎、長さ約 3.5 mm。種子は広卵状楕円形、一端が尖り、長さ約 0.4 mm。白花型は品種シロバナナガバノイシモチソウ f. *albiflora* Makino とされる。

【生活史】

1 年草。食虫植物。花期は 7-8 月。

【生育環境】

湧水湿地の半裸地状の場所に生育する。

【分布域】

本州中部（関東地方・東海地方）・九州、中国・台湾・マレーシア・インド・オーストラリア・アフリカ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	自然遷移	産地局限

湿地開発		
件数		
1	1	1

特記事項

白花型は別種シロバナナガバノイシモチソウ *Drosera makinoi* Masam.とすべきとの見解がある。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナガバノイシモチソウ	<i>Drosera indica</i>	VU
第4次 2019:	ナガバノイシモチソウ	<i>Drosera indica</i>	VU
第4次 2018:	ナガバノイシモチソウ	<i>Drosera indica</i>	VU
第4次 2017:	ナガバノイシモチソウ	<i>Drosera indica</i>	VU
第4次 2015:	ナガバノイシモチソウ	<i>Drosera indica</i>	VU
第4次:	ナガバノイシモチソウ	<i>Drosera indica</i>	VU
第3次:	ナガバノイシモチソウ	<i>Drosera indica</i>	VU
第2次:	ナガバノイシモチソウ	<i>Drosera indica</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)] 茨城県[絶滅危惧 I A 類] 静岡県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 愛知県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 三重県[絶滅(EX)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 愛知県環境調査センター，2020．レッドデータブックあいち 2020—植物編—．愛知県環境局環境政策部自然環境課，810pp.
- 小宮定志・柴田千晶，1994．総説ナガバノイシモチソウ．日本歯科大学紀要 一般教育系，23: 125-155.
- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

- 渡邊幹男・石川恭子・大和田真澄・芹沢俊介, 2013. ナガバノイシモチソウ赤花型と白花型の遺伝的・形態的分化. シデコブシ, 2: 57-64.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Drosera toyoakensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Drosera toyoakensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Wetland development, Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月: 2025 年 3 月

カトウハコベ

Arenaria katoana var. *katoana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)**基準 D**

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 5–10 cm。葉は卵形～披針形、長さ 3–9 mm。花は 1–3 個、頂生か腋生。花弁は白色、卵形で、長さ 5–6 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山の砂礫地や岩礫地に生育する。

【分布域】

北海道（夕張岳、日高山脈、坊主山）、本州（早池峰山、谷川岳、至仏山）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果

2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	3	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	自然遷移	産地局限
件数 2	2	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カトウハコベ	<i>Arenaria katoana</i>	VU
第4次 2019:	カトウハコベ	<i>Arenaria katoana</i>	VU
第4次 2018:	カトウハコベ	<i>Arenaria katoana</i>	VU
第4次 2017:	カトウハコベ	<i>Arenaria katoana</i>	VU
第4次 2015:	カトウハコベ	<i>Arenaria katoana</i>	VU
第4次:	カトウハコベ	<i>Arenaria katoana</i>	VU
第3次:	カトウハコベ	<i>Arenaria katoana</i>	VU
第2次:	カトウハコベ	<i>Arenaria katoana</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)] 岩手県[A ランク] 群馬県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arenaria katoana var. *katoana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arenaria katoana* var. *katoana* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

チョウカイフスマ

Arenaria merckii var. *chokaiensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

メアカンフスマに似るが、全体的に大きい。葉は倒卵状楕円形で、長さ 1.5-2.5 cm。花は径 1.5 cm、萼片は長さ 6-7 cm と大きく細長い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山の草地に生育する。

【分布域】

本州北部の鳥海山に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュで数千個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	1	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チョウカイツマ	<i>Arenaria merckiioides</i> var. <i>chokaiensis</i>	VU
第4次 2019:	チョウカイツマ	<i>Arenaria merckiioides</i> var. <i>chokaiensis</i>	VU
第4次 2018:	チョウカイツマ	<i>Arenaria merckiioides</i> var. <i>chokaiensis</i>	VU
第4次 2017:	チョウカイツマ	<i>Arenaria merckiioides</i> var. <i>chokaiensis</i>	VU
第4次 2015:	チョウカイツマ	<i>Arenaria merckiioides</i> var. <i>chokaiensis</i>	VU
第4次:	チョウカイツマ	<i>Arenaria merckiioides</i> var. <i>chokaiensis</i>	VU
第3次:	チョウカイツマ	<i>Arenaria merckiioides</i> var. <i>chokaiensis</i>	VU
第2次:	チョウカイツマ	<i>Arenaria merckiioides</i> var. <i>chokaiensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

秋田県[絶滅危惧種ⅠA類(CR)] 山形県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 秋田県生活環境部自然保護課，2014. 秋田県の絶滅のおそれのある野生生物 秋田県版レッドデータブック 2014—維管束植物—. 秋田県生活環境部自然保護課，204pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arenaria merckiioides var. *chokaiensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arenaria merckiioides* var. *chokaiensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アキヨシミミナグサ

Cerastium akiyoshiense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

コバノミミナグサに似るが次の点で識別される。1) 花弁は狭倒卵形で短く無毛、浅く二裂し、裂片の先端は尖る、2) 萼片は短く、裏面に長毛と腺毛を有する、3) 小花柄に腺毛を有する、4) 蒴果は短くわずかに反り返る、5) 蒴は小さい。また、オオミミナグサにもやや似るが、本種は多年草であるのに対してオオミミナグサは二年草または短命な多年草であることで区別される。

【生活史】

多年草。花期は 3-7 (10) 月。

【生育環境】

銅鉾山跡に生育。

【分布域】

山口県美祢市に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

生育地である長登銅山遺跡は 2003 年に国史跡に指定され、この地域は史跡としての保護が図られている。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	3	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山口県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Kadota, Y., 2015. *Cerastium akiyoshiense* (Caryophyllaceae), a New Species from Yamaguchi Prefecture, Western Honshu, Japan. Journal of Japanese Botany, 90: 304–316.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cerastium akiyoshiense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cerastium akiyoshiense* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミツモリミミナグサ

Cerastium arvense subsp. *strictum* var. *mitsumorense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ホソバミミナグサに似るが、葉は細く、花茎葉腋に葉束がある。基準変種セイヨウミミナグサとは、葉の長さが 1.5-5 cm と大きく、より水平方向に展開し、花序も大きく散開することで区別される。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山の岩礫地や砂礫地に生育。

【分布域】

北海道に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では減少率情報が得られなかった。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	2	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミツモリミミナグサ	<i>Cerastium arvense</i> var. <i>ovatum</i>	VU
第4次 2019:	ミツモリミミナグサ	<i>Cerastium arvense</i> var. <i>ovatum</i>	VU
第4次 2018:	ミツモリミミナグサ	<i>Cerastium arvense</i> var. <i>ovatum</i>	VU
第4次 2017:	ミツモリミミナグサ	<i>Cerastium arvense</i> var. <i>ovatum</i>	VU
第4次 2015:	ミツモリミミナグサ	<i>Cerastium arvense</i> var. <i>ovatum</i>	VU
第4次:	ミツモリミミナグサ	<i>Cerastium arvense</i> var. <i>ovatum</i>	VU
第3次:	ミツモリミミナグサ	<i>Cerastium arvense</i> var. <i>ovatum</i>	VU
第2次:	ミツモリミミナグサ	<i>Cerastium arvense</i> var. <i>ovatum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室，2015．レッドデータブック 2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物— 8 植物 I（維管束植物）．646pp．ぎょうせい，東京．
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cerastium arvense subsp. *strictum* var. *mitsumorense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cerastium arvense* subsp. *strictum* var. *mitsumorense* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ナデシコ科 Caryophyllaceae

タガソデソウ

Cerastium pauciflorum var. *amurense*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 30–50 cm。茎は直立し、葉はほぼ無柄、披針形～卵状披針形、長さ 4–9 cm。頂生する集散花序はややまばら。花弁は白色、長橢円状へら形、全縁、長さ約 15 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の夏緑林内や林縁に生育する。

【分布域】

本州（山梨県、長野県、岐阜県）に分布。国外では、朝鮮半島、中国東北部、ロシア極東地方に分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	3	1	0	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タガソデソウ	<i>Cerastium pauciflorum</i> var. <i>amurense</i>	VU
第4次 2019:	タガソデソウ	<i>Cerastium pauciflorum</i> var. <i>amurense</i>	VU
第4次 2018:	タガソデソウ	<i>Cerastium pauciflorum</i> var. <i>amurense</i>	VU
第4次 2017:	タガソデソウ	<i>Cerastium pauciflorum</i> var. <i>amurense</i>	VU
第4次 2015:	タガソデソウ	<i>Cerastium pauciflorum</i> var. <i>amurense</i>	VU
第4次:	タガソデソウ	<i>Cerastium pauciflorum</i> var. <i>amurense</i>	VU
第3次:	タガソデソウ	<i>Cerastium pauciflorum</i> var. <i>amurense</i>	VU
第2次:	タガソデソウ	<i>Cerastium pauciflorum</i> var. <i>amurense</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[準絶滅危惧(NT)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cerastium pauciflorum var. *amurense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cerastium pauciflorum* var. *amurense* is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タカネミミナグサ

Cerastium rubescens var. *koreanum*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は株状で細い。高さ 10-20 cm。根出葉と茎の下部の葉はへら形、上部の葉は長卵形～披針形、長さ 1.5-3 cm。集散花序は密に腺毛を出す。花弁は白色、萼片より長く長さ 7-10 mm、先は 2 裂。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山に生育。

【分布域】

富山県・長野県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果

2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タカネミミナグサ	<i>Cerastium rubescens</i> var. <i>koreanum</i>	VU
第4次 2019:	タカネミミナグサ	<i>Cerastium rubescens</i> var. <i>koreanum</i>	VU
第4次 2018:	タカネミミナグサ	<i>Cerastium rubescens</i> var. <i>koreanum</i>	VU
第4次 2017:	タカネミミナグサ	<i>Cerastium rubescens</i> var. <i>koreanum</i>	VU
第4次 2015:	タカネミミナグサ	<i>Cerastium rubescens</i> var. <i>koreanum</i>	VU
第4次:	タカネミミナグサ	<i>Cerastium rubescens</i> var. <i>koreanum</i>	VU
第3次:	タカネミミナグサ	<i>Cerastium rubescens</i> var. <i>koreanum</i>	VU
第2次:	タカネミミナグサ	<i>Cerastium rubescens</i> var. <i>ovatum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 富山県[準絶滅危惧] 長野県[絶滅危惧ⅡB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室，2015. レッドデータブック 2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物— Ⅷ 植物Ⅰ（維管束植物）. 646pp. ぎょうせい，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cerastium rubescens var. *koreanum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cerastium rubescens* var. *koreanum* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タチハコベ

Moehringia trinervia

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	基準 D
推定開花株数が 1000 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ（3–）7–20 cm。茎は下部から枝を分けて広がり、葉は卵形～広卵形、長さ 7–25 mm、茎の下部につくものには柄がある。花はまばら、花弁は白色、長倒卵形。

【生活史】

1 年草または越年草。

【生育環境】

山地の沢沿いの夏緑林内や林縁に生育する。

【分布域】

北海道（中部以南）、本州（北部）、四国、九州に分布。世界的には、北半球の温帯に広く分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 7 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
4	2	0	1	0	0	7	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	管理放棄	自然遷移
件数 2	2	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タチハコベ	<i>Moehringia trinervia</i>	VU
第4次 2019:	タチハコベ	<i>Moehringia trinervia</i>	VU
第4次 2018:	タチハコベ	<i>Moehringia trinervia</i>	VU
第4次 2017:	タチハコベ	<i>Moehringia trinervia</i>	VU
第4次 2015:	タチハコベ	<i>Moehringia trinervia</i>	VU
第4次:	タチハコベ	<i>Moehringia trinervia</i>	VU
第3次:	タチハコベ	<i>Moehringia trinervia</i>	VU
第2次:	タチハコベ	<i>Moehringia trinervia</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[希少野生生物(C ランク)] 岩手県[C ランク] 宮城県[準絶滅危惧(NT)] 福島県[情報不足(DD)] 群馬県[情報不足(DD)] 神奈川県[情報不足(DD)] 長野県[絶滅危惧 IB 類(EN)] 三重県[絶滅危惧 IB 類(EN)] 滋賀県[絶滅危惧種] 京都府[絶滅危惧種] 鳥取県[準絶滅危惧(NT)] 岡山県[準絶滅危惧] 広島県[絶滅危惧 I 類(CR+EN)] 山口県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 徳島県[絶滅危惧 IA 類] 愛媛県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 高知県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 福岡県[絶滅危惧 I A 類] 長崎県[絶滅危惧 II 類(VU)] 熊本県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 大分県[情報不足(DD)] 鹿児島県[絶滅危惧 II 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Moehringia trinervia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Moehringia trinervia* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Deer feeding damage, Abandonment of management, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒナワチガイソウ

Pseudostellaria heterantha var. *linearifolia***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ワチガイソウの変種。葉は線形、長さ 3-6 cm。花弁が細く爪が相対的に長い。雄蕊はワチガイソウより長い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

落葉樹林内に生育する。

【分布域】

本州中部（茨城県、千葉県、東京都、三重県）、四国（徳島県、愛媛県、高知県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 6 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	4	1	1	0	0	6	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	不明
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒナワチガイソウ	<i>Pseudostellaria heterantha</i> var. <i>linearifolia</i>	VU
第4次 2019:	ヒナワチガイソウ	<i>Pseudostellaria heterantha</i> var. <i>linearifolia</i>	VU
第4次 2018:	ヒナワチガイソウ	<i>Pseudostellaria heterantha</i> var. <i>linearifolia</i>	VU
第4次 2017:	ヒナワチガイソウ	<i>Pseudostellaria heterantha</i> var. <i>linearifolia</i>	VU
第4次 2015:	ヒナワチガイソウ	<i>Pseudostellaria heterantha</i> var. <i>linearifolia</i>	VU
第4次:	ヒナワチガイソウ	<i>Pseudostellaria heterantha</i> var. <i>linearifolia</i>	VU
第3次:	ヒナワチガイソウ	<i>Pseudostellaria heterantha</i> var. <i>linearifolia</i>	VU
第2次:	ヒナワチガイソウ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

茨城県[絶滅危惧ⅠB類] 群馬県[情報不足(DD)] 千葉県[最重要保護生物(A)] 東京都(本土部)[本土部:絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(北多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 滋賀県[希少種] 徳島県[留意] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2023. 東京都レッドデータブック 2023—東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版一. 東京都環境局自然環境部，879pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pseudostellaria heterantha var. *linearifolia* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pseudostellaria heterantha* var. *linearifolia* is listed as VU under criteria E. E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution, Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナンブワチガイソウ

Pseudostellaria japonica

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 7-20 cm。茎は斜上または直立し、葉はまばらにつき、下部の葉は長いへら形で長さ 1.5-4 cm、上部の葉は線状さじ形で長さ 1.5-5 cm。花は頂生または腋生する。花弁は白色、倒卵形で、ふつう 5 個、時に 4 個、長さ 4-7 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の夏緑林内や林縁に生育する。

【分布域】

本州（岩手県、宮城県、福島県、栃木県、茨城県、長野県）に分布。国外では、中国（東北部）、ロシア（極東地方、シベリア）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 8 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
4	1	1	2	0	0	8	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	人の踏みつけ	シカ食害
件数	2	1

4		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナンブワチガイソウ	<i>Pseudostellaria japonica</i>	VU
第4次 2019:	ナンブワチガイソウ	<i>Pseudostellaria japonica</i>	VU
第4次 2018:	ナンブワチガイソウ	<i>Pseudostellaria japonica</i>	VU
第4次 2017:	ナンブワチガイソウ	<i>Pseudostellaria japonica</i>	VU
第4次 2015:	ナンブワチガイソウ	<i>Pseudostellaria japonica</i>	VU
第4次:	ナンブワチガイソウ	<i>Pseudostellaria japonica</i>	VU
第3次:	ナンブワチガイソウ	<i>Pseudostellaria japonica</i>	VU
第2次:	ナンブワチガイソウ	<i>Pseudostellaria japonica</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[B ランク] 宮城県[準絶滅危惧(NT)] 福島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 茨城県[絶滅危惧Ⅱ類] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)] 長野県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pseudostellaria japonica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pseudostellaria japonica* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Human trampling, Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クシロワチガイソウ

Pseudostellaria sylvatica

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15–30 cm。茎は直立し多くの枝を分け、葉は線形～線状披針形、長さ 1.5–8 (–11) cm。花は 1–8 個、茎頂に単生するか、側生の 2 出集散花序となる。花弁は白色、倒卵形、舷部は 2 浅裂し、裂片の先は鈍形～円形、全長 5–6 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の夏緑林内や林縁、湿地に生育する。

【分布域】

北海道、本州（青森県、栃木県、岩手県）に分布。国外では、朝鮮半島、中国、ロシア（極東地方）に分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 6 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	2	2	1	0	0	6	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クシロワチガイソウ	<i>Pseudostellaria sylvatica</i>	VU
第4次 2019:	クシロワチガイソウ	<i>Pseudostellaria sylvatica</i>	VU
第4次 2018:	クシロワチガイソウ	<i>Pseudostellaria sylvatica</i>	VU
第4次 2017:	クシロワチガイソウ	<i>Pseudostellaria sylvatica</i>	VU
第4次 2015:	クシロワチガイソウ	<i>Pseudostellaria sylvatica</i>	VU
第4次:	クシロワチガイソウ	<i>Pseudostellaria sylvatica</i>	VU
第3次:	クシロワチガイソウ	<i>Pseudostellaria sylvatica</i>	VU
第2次:	クシロワチガイソウ	<i>Pseudostellaria sylvatica</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)] 青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[A ランク]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pseudostellaria sylvatica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Pseudostellaria sylvatica is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アオモリマンテマ

*Silene aomorensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-25 cm。茎は叢生し、根出葉は倒披針形でほとんど柄がなく、長さ 8 cm、幅 12 mm。茎葉は披針形～倒披針形で、長さ 2-8 cm、幅 4-13 mm。花期は 6 月で、頂生の集散花序で 2-5 花をつける。花弁は白色で 2 中裂、長さ 7-12 mm。萼は棍棒状長楕円形または鐘形で膨らみ、10 脈あり、長さ 12-15 mm。蒴果は卵形で、長さ 9-12 mm、熟すと 5 裂する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の岩壁に生育する。

【分布域】

青森県、秋田県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリと掲載名

第4次 2020:	アオモリマンテマ	<i>Silene aomorensis</i>	VU
第4次 2019:	アオモリマンテマ	<i>Silene aomorensis</i>	VU
第4次 2018:	アオモリマンテマ	<i>Silene aomorensis</i>	VU
第4次 2017:	アオモリマンテマ	<i>Silene aomorensis</i>	VU
第4次 2015:	アオモリマンテマ	<i>Silene aomorensis</i>	VU
第4次:	アオモリマンテマ	<i>Silene aomorensis</i>	VU
第3次:	アオモリマンテマ	<i>Silene aomorensis</i>	VU
第2次:	アオモリマンテマ	<i>Silene aomorensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[重要希少野生生物(B ランク)] 秋田県[絶滅危惧種 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Silene aomorensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Silene aomorensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エゾマンテマ

Silene foliosa var. *foliosa*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類（VU） 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 20-40 cm。茎は叢生し、葉は柄がなく、線状倒披針形～狭倒披針形で長さ 2-7 cm、幅 2-8 mm。花期は 7-8 月で、花は茎の上部の葉腋にやや輪生状につき、萼は筒状で長さ 6-8 mm。花弁は白色で 2 深裂し、長さ 5-6 mm。蒴果は卵形で長さ 4-6 mm、種子は腎円形、長さ約 1 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸や岩の多い山地草原に生育する。

【分布域】

北海道に分布。国外では、朝鮮半島、中国（東北部、北部、東部）、ロシア極東地方に分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。10 メッシュで計数百個体が現存していた。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	6	2	0	—	10	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾマンテマ	<i>Silene foliosa</i>	VU
第4次 2019:	エゾマンテマ	<i>Silene foliosa</i>	VU
第4次 2018:	エゾマンテマ	<i>Silene foliosa</i>	VU
第4次 2017:	エゾマンテマ	<i>Silene foliosa</i>	VU
第4次 2015:	エゾマンテマ	<i>Silene foliosa</i>	VU
第4次:	エゾマンテマ	<i>Silene foliosa</i>	VU
第3次:	エゾマンテマ	<i>Silene foliosa</i>	CR
第2次:	エゾマンテマ	<i>Silene foliosa</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Silene foliosa var. *foliosa* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Silene foliosa var. *foliosa* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オグラセンノウ

Silene kiusiana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 60-100 cm。茎には下向きの毛があり、葉は柄がなく、線状披針形で、長さ 4.5-11 cm。花は 2 出集散花序に数個つき、頂生花の花柄は長さ 6-16 mm。花弁は紅色、舷部は倒卵形で細かく深裂し、長さ約 1 cm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の湿地に生育する。

【分布域】

本州（岡山県、広島県）、九州（大分県、熊本県）に分布。国外では朝鮮半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	0	0	2	0	—	5	3	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オグラセンノウ	<i>Silene kiusiana</i>	VU
第4次 2019:	オグラセンノウ	<i>Silene kiusiana</i>	VU
第4次 2018:	オグラセンノウ	<i>Silene kiusiana</i>	VU
第4次 2017:	オグラセンノウ	<i>Silene kiusiana</i>	VU
第4次 2015:	オグラセンノウ	<i>Silene kiusiana</i>	VU
第4次:	オグラセンノウ	<i>Silene kiusiana</i>	VU
第3次:	オグラセンノウ	<i>Silene kiusiana</i>	EN
第2次:	オグラセンノウ	<i>Lychnis kiusiana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

大阪府[EX] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 熊本県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Silene kiusiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Silene kiusiana* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

マツモトセンノウ

Silene sieboldii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 40–90 cm。茎は直立し、葉は柄がなく、長卵形～広卵形、長さ 5–8 cm、幅 2.5–4.5 cm で、全面に毛がある。花期は 6–8 月で、花はやや密につき、花柄は短く、萼は円筒形で長さ 2.5–3 cm。花弁は深紅色まれに白色で 2 浅裂し、長さ 2–2.5 cm。蒴果は楕円形で長さ 1.5–2.2 cm、種子は腎形で長さ約 1.5 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の草原に生育する。

【分布域】

九州（阿蘇）に分布。国外では、朝鮮半島、中国東北部、ロシア沿海地方に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果

2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	1	0	–	2	0	3

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	マツモトセンノウ	<i>Silene sieboldii</i>	VU
第4次 2019:	マツモトセンノウ	<i>Silene sieboldii</i>	VU
第4次 2018:	マツモトセンノウ	<i>Silene sieboldii</i>	VU
第4次 2017:	マツモトセンノウ	<i>Silene sieboldii</i>	VU
第4次 2015:	マツモトセンノウ	<i>Silene sieboldii</i>	VU
第4次:	マツモトセンノウ	<i>Silene sieboldii</i>	VU
第3次:	マツモトセンノウ	<i>Silene sieboldii</i>	VU
第2次:	マツモトセンノウ	<i>Lychnis sieboldii</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Silene sieboldii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Silene sieboldii* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エンビセンノウ

Silene wilfordii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 45–100 cm。葉は卵状披針形～狭楕円形、長さ 3–12 cm。葉柄はなく基部は茎を抱く。花は 2 出集散花序に密につき、花弁は深紅色で深く切れ込む。蒴果は長さ 1.2–2 cm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

平地や山地の草原に生育する。

【分布域】

北海道（日高）、本州（埼玉県、長野県）に分布。国外では、朝鮮半島、中国東北部、ロシア極東地方に分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	2	0	–	3	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エンビセンノウ	<i>Silene wilfordii</i>	VU
第4次 2019:	エンビセンノウ	<i>Silene wilfordii</i>	VU
第4次 2018:	エンビセンノウ	<i>Silene wilfordii</i>	VU
第4次 2017:	エンビセンノウ	<i>Silene wilfordii</i>	VU
第4次 2015:	エンビセンノウ	<i>Silene wilfordii</i>	VU
第4次:	エンビセンノウ	<i>Silene wilfordii</i>	VU
第3次:	エンビセンノウ	<i>Silene wilfordii</i>	EN
第2次:	エンビセンノウ	<i>Lychnis wilfordii</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危機種(Cr)] 青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 長野県[絶滅危惧 IB 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Silene wilfordii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Silene wilfordii* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

テバコマンテマ

Silene yanoei

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 20-60 cm。茎はやや叢生で、下部は斜上し上部は直立する。葉には短い柄があり、卵形で、長さ 2-4 cm。花は茎頂にまばらな集散花序をつける。萼は鐘形で、緑色、5 中裂して、長さ 6-7 mm。花弁は白色、長さ 6-7 mm で 2 浅裂する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の明るい林内や岩壁に生育する。

【分布域】

四国（徳島県、愛媛県、高知県）に分布。国外では、朝鮮半島南部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	1	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	シカ食害	
件数 4	2	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	テバコマンテマ	<i>Silene yanoei</i>	VU
第4次 2019:	テバコマンテマ	<i>Silene yanoei</i>	VU
第4次 2018:	テバコマンテマ	<i>Silene yanoei</i>	VU
第4次 2017:	テバコマンテマ	<i>Silene yanoei</i>	VU
第4次 2015:	テバコマンテマ	<i>Silene yanoei</i>	VU
第4次:	テバコマンテマ	<i>Silene yanoei</i>	VU
第3次:	テバコマンテマ	<i>Silene yanoei</i>	VU
第2次:	テバコマンテマ	<i>Silene yanoei</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[絶滅危惧 IA 類] 愛媛県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 高知県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Silene yanoei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Silene yanoei* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Deer feeding damage

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオハコベ

Stellaria bungeana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 30-80 cm。茎は直立し下部は分枝、片側に軟毛と腺毛がある。葉は卵形～卵状長楕円形で長さ 4-8 cm、下面の中脈と縁には毛がある。花は茎頂に集散花序をつけ、花弁は白色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

低地～山地の林縁、湿り気のある草原に生育する。

【分布域】

北海道に分布。国外では、アジア（北東部）、シベリア、ヨーロッパロシア（東部）に分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では個体数が過小評価されていた。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオハコベ	<i>Stellaria bungeana</i>	VU
第4次 2019:	オオハコベ	<i>Stellaria bungeana</i>	VU
第4次 2018:	オオハコベ	<i>Stellaria bungeana</i>	VU
第4次 2017:	オオハコベ	<i>Stellaria bungeana</i>	VU
第4次 2015:	オオハコベ	<i>Stellaria bungeana</i>	VU
第4次:	オオハコベ	<i>Stellaria bungeana</i>	VU
第3次:	オオハコベ	<i>Stellaria bungeana</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Stellaria bungeana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Stellaria bungeana* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツカモトハコベ

Stellaria hibinoi

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

サワハコベに比べ、茎が直立して短くほとんど分枝せず、葉は茎の先端部に集まってつき、花弁がない。花期はサワハコベより遅く、6月下旬～7月中旬である。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

沢沿いのやや湿った林内に生育。

【分布域】

本州（長野県南部・愛知県・三重県・奈良県・大阪府）・四国（徳島県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

産地は点在しているが、どこも個体数はあまり多くない。ニホンジカによる食害による減少が懸念される。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 京都府[絶滅危惧種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 芹沢俊介, 2015. 本州中部産ハコベ属の1新種ツカモトハコベ. シデコブシ, 3: 1-4.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Stellaria hibinoi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Stellaria hibinoi* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シコタンハコベ

Stellaria ruscifolia

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 3–15 cm。葉は柄がなく長卵形～卵形、長さ 1–3 cm。花は頂生また腋生し、花弁は白色、2 中裂、長さは萼の 1.5–2 倍。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸～高山の岩礫地や崖に生育する。

【分布域】

南千島、北海道（知床半島、根室地方、中央高地、羊蹄山）、本州（日光、浅間山、北アルプス北部、八ヶ岳、南アルプス）に分布。国外では、千島列島、サハリン、カムチャツカ半島、ロシア（沿海地方）に分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	1	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	自然遷移	
件数	1	

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シコタンハコベ	<i>Stellaria ruscifolia</i>	VU
第4次 2019:	シコタンハコベ	<i>Stellaria ruscifolia</i>	VU
第4次 2018:	シコタンハコベ	<i>Stellaria ruscifolia</i>	VU
第4次 2017:	シコタンハコベ	<i>Stellaria ruscifolia</i>	VU
第4次 2015:	シコタンハコベ	<i>Stellaria ruscifolia</i>	VU
第4次:	シコタンハコベ	<i>Stellaria ruscifolia</i>	VU
第3次:	シコタンハコベ	<i>Stellaria ruscifolia</i>	VU
第2次:	シコタンハコベ	<i>Stellaria ruscifolia</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

栃木県[要注目] 富山県[準絶滅危惧] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[準絶滅危惧(NT)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Stellaria ruscifolia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Stellaria ruscifolia* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ヒユ科 Amaranthaceae

アッケシソウ

Salicornia perennans

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-35 cm。茎は多くの枝を分け、直立するか斜上し、緑色で後に赤色となる。花は上部の節に 3 個つく。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

海水の入り込む海岸の草地に生育する。

【分布域】

北海道、本州（宮城県）、四国（瀬戸内海岸）に分布。世界的には、アジア北部～ヨーロッパの乾燥地帯や塩性に広く分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、5 メッシュで計数万個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	4	0	5	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 湿地開発	土地造成	自然遷移
件数 2	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アッケシソウ	<i>Salicornia europaea</i>	VU
第4次 2019:	アッケシソウ	<i>Salicornia europaea</i>	VU
第4次 2018:	アッケシソウ	<i>Salicornia europaea</i>	VU
第4次 2017:	アッケシソウ	<i>Salicornia europaea</i>	VU
第4次 2015:	アッケシソウ	<i>Salicornia europaea</i>	VU
第4次:	アッケシソウ	<i>Salicornia europaea</i>	VU
第3次:	アッケシソウ	<i>Salicornia europaea</i>	VU
第2次:	アッケシソウ	<i>Salicornia europaea</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 宮城県[絶滅(EX)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 徳島県[絶滅(EX)] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[野生絶滅(EW)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Salicornia perennans has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Salicornia perennans* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Wetland development, Land development, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シチメンソウ

Suaeda japonica

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15-50 cm。茎は直立して、下部から枝を分ける。葉は多肉で棍棒状、長さ 5-35 mm、初めは緑色で後に赤色から紫色に変化する。花は雌花と雄花が混じって 2-10 個が葉腋に固まってつく。花被は 5 深裂し、肉質。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

海辺の砂地に生育する。

【分布域】

本州（中国地方西部の瀬戸内海沿岸）、九州北部に分布。国外では朝鮮半島に分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	5	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	河川開発	
件数 3	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シチメンソウ	<i>Suaeda japonica</i>	VU
第4次 2019:	シチメンソウ	<i>Suaeda japonica</i>	VU
第4次 2018:	シチメンソウ	<i>Suaeda japonica</i>	VU
第4次 2017:	シチメンソウ	<i>Suaeda japonica</i>	VU
第4次 2015:	シチメンソウ	<i>Suaeda japonica</i>	VU
第4次:	シチメンソウ	<i>Suaeda japonica</i>	VU
第3次:	シチメンソウ	<i>Suaeda japonica</i>	VU
第2次:	シチメンソウ	<i>Suaeda japonica</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

広島県[情報不足(DD)] 福岡県[絶滅危惧ⅠB類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅱ類種] 長崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Suaeda japonica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Suaeda japonica* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, River development

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ヒユ科 Amaranthaceae

ヒロハマツナ

Suaeda malacosperma

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10–30 cm。葉は広く、長楕円形～広線形、平らで長さ約 3.5 cm になる。花被は肉質で、5 深裂。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

海岸に生育する。

【分布域】

本州西部、九州に分布。国外では朝鮮半島に分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 6 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	1	3	0	0	6	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因不明	自然遷移	河川開発
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒロハマツナ	<i>Suaeda malacosperma</i>	VU
第4次 2019:	ヒロハマツナ	<i>Suaeda malacosperma</i>	VU
第4次 2018:	ヒロハマツナ	<i>Suaeda malacosperma</i>	VU
第4次 2017:	ヒロハマツナ	<i>Suaeda malacosperma</i>	VU
第4次 2015:	ヒロハマツナ	<i>Suaeda malacosperma</i>	VU
第4次:	ヒロハマツナ	<i>Suaeda malacosperma</i>	VU
第3次:	ヒロハマツナ	<i>Suaeda maritima</i> var. <i>malacosperma</i>	VU
第2次:	ヒロハマツナ	<i>Suaeda malacosperma</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 兵庫県[Aランク] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 福岡県[絶滅危惧ⅠB類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 長崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 熊本県[情報不足(DD)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鹿児島県[地域絶滅]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Suaeda malacosperma has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Suaeda malacosperma* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Unknown, Natural succession, River development

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヌマハコベ

Montia fontana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は高さ 3-15 cm。下部は倒れて地を這う。葉は対生し、へら形で狭く、長さ 5-15 mm。茎の先が単出集散状のまばらな花序になり、花は極めて小さい。花被片は 5 個で白色。蒴果は球形。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

寒冷地の溪流の岸辺や湧水のある湿地に生育する。

【分布域】

北海道、本州（岩手山山麓、日光周辺）に分布。国外では、アジア、ヨーロッパ、北アメリカ、アフリカ、ニュージーランドに分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	その他
件数	1	1

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヌマハコベ	<i>Montia fontana</i>	VU
第4次 2019:	ヌマハコベ	<i>Montia fontana</i>	VU
第4次 2018:	ヌマハコベ	<i>Montia fontana</i>	VU
第4次 2017:	ヌマハコベ	<i>Montia fontana</i>	VU
第4次 2015:	ヌマハコベ	<i>Montia fontana</i>	VU
第4次:	ヌマハコベ	<i>Montia fontana</i>	VU
第3次:	ヌマハコベ	<i>Montia fontana</i>	VU
第2次:	ヌマハコベ	<i>Montia fontana</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[絶滅(Ex)] 栃木県[絶滅危惧 I 類(A ランク)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Montia fontana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Montia fontana* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution, Other

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アマミマツバボタン

Portulaca okinawensis var. *amamiensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

常緑の多年草。茎は這い、基部は木化する。葉は互生し、楕円形。花は径 10 mm、萼片は 2 個、花弁は 5 個。果実は長さ 2-4 mm。基本変種のオキナワマツバボタンと比べて、雄蕊が 12-15 個と少なく、花弁はレモン色、倒卵形ないし倒披針形で、小凹頭、茎は緑色である点で異なる。

【生活史】

花期は 8 月から 9 月、晴れた日の午前中に開花する。

【生育環境】

海岸の日当たりの良い岩場に生育。

【分布域】

奄美諸島（奄美大島・加計呂麻島・請島・与路島・徳之島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

元々の自生地は限られる上、自生地の一部は港湾や道路の工事で失われている。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Kokubugata, G., K. Nakamura, Y. Hirayama and M. Yokota, 2013. Taxonomic reexamination of *Portulaca okinawensis* (Portulacaceae) in the Ryukyu Archipelago of Japan based on molecular and morphological data. *Phytotaxa*, 117: 11–22.
- Kokubugata, G., T. Ito and M. Yokota, 2016. Confirmation of the occurrence of *Portulaca okinawensis* var. *amamiensis* (Portulacaceae) in Kakeroma Island of the Ryukyus Archipelago, Japan using morphological and molecular data. *Bulletin of the National Museum of Nature and Science. Series B*, 42: 67–71.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Portulaca okinawensis var. *amamiensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Portulaca okinawensis* var. *amamiensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オキナワマツバボタン

Portulaca okinawensis var. *okinawensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は高さ 5-10 cm。葉は狭楕円形～長楕円形、長さ 3-5 mm。花は頂生し、濃黄色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸付近の岩場などに生育する。

【分布域】

沖縄諸島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	2	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 道路工事		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オキナワマツバボタン	<i>Portulaca okinawensis</i>	VU
第4次 2019:	オキナワマツバボタン	<i>Portulaca okinawensis</i>	VU
第4次 2018:	オキナワマツバボタン	<i>Portulaca okinawensis</i>	VU
第4次 2017:	オキナワマツバボタン	<i>Portulaca okinawensis</i>	VU
第4次 2015:	オキナワマツバボタン	<i>Portulaca okinawensis</i>	VU
第4次:	オキナワマツバボタン	<i>Portulaca okinawensis</i>	VU
第3次:	オキナワマツバボタン	<i>Portulaca pilosa</i> subsp. <i>okinawensis</i>	VU
第2次:	オキナワマツバボタン	<i>Portulaca pilosa</i> ssp. <i>okinawensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Portulaca okinawensis var. *okinawensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Portulaca okinawensis* var. *okinawensis* is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Road construction
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

マルバケツメクサ

Portulaca psammotropa

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

常緑の多年草。茎は這い、基部は木化する。葉は互生し、楕円形、長さ 10 mm、葉腋は有毛。花は径 10 mm、苞は 4-6 個、花弁は 5 個、黄色。雄蕊は 10-30 個。果実は長さ 3-4 mm、広卵形。

【生活史】

開期は夏。

【生育環境】

海岸の日当たりの良い岩場に生育。

【分布域】

小笠原諸島（父島・南島・聳島・媒島・硫黄島）・沖縄県（伊計島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

詳細については不明。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Kokubugata, K., H. Kato, D. Iamónico, H. Umemoto, T. Ito, K. Nakamura, N. Murakami and M. Yokota, 2015. Taxonomic reexamination of *Portulaca boninensis* (Portulacaceae) in the Bonin (Ogasawara) Islands of Japan using molecular and morphological data. *Phytotaxa*, 217: 279–287.
- 藤田卓・高山浩司・朱宮丈晴・加藤英寿, 2008. 南硫黄島の維管束植物相. 小笠原研究, 33: 49–62.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Portulaca psammotropha has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Portulaca psammotropha* is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae アジサイ科 Hydrangeaceae

オオクサアジサイ

Cardiandra moellendorffii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

クサアジサイに似るが、装飾花は 2 個の萼片からなる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

河川沿いの湿った崖に生育。

【分布域】

西表島、中国（南東部）・台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。産地と個体数が限られる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオクサアジサイ	<i>Cardiandra moellendorffii</i>	VU
第4次 2019:	オオクサアジサイ	<i>Cardiandra moellendorffii</i>	VU
第4次 2018:	オオクサアジサイ	<i>Cardiandra moellendorffii</i>	VU
第4次 2017:	オオクサアジサイ	<i>Cardiandra moellendorffii</i>	VU
第4次 2015:	オオクサアジサイ	<i>Cardiandra moellendorffii</i>	VU
第4次:	オオクサアジサイ	<i>Cardiandra moellendorffii</i>	VU
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cardiandra moellendorffii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cardiandra moellendorffii* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ウメウツギ

*Deutzia uniflora***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1 m。葉身は長さ 4-6(-7) cm、長楕円形～狭卵形あるいは広披針形、先は長く尖り、基部はくさび形、縁には不揃いな細かい芒状の鋸歯があり、両面に星状毛が散生する。花は葉腋に 1-2(-3)個、集散状につく。花冠は径 1.5-2.5 cm、漏斗形、白色。

【生活史】

落葉低木。花期は 4-6 月。

【生育環境】

石灰岩の岩場に生育。

【分布域】

本州（関東地方西部・静岡県・山梨県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 8 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
5	1	0	2	0	0	8	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	自然遷移	産地局限
件数 7	4	4

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウメウツギ	<i>Deutzia uniflora</i>	VU
第4次 2019:	ウメウツギ	<i>Deutzia uniflora</i>	VU
第4次 2018:	ウメウツギ	<i>Deutzia uniflora</i>	VU
第4次 2017:	ウメウツギ	<i>Deutzia uniflora</i>	VU
第4次 2015:	ウメウツギ	<i>Deutzia uniflora</i>	VU
第4次:	ウメウツギ	<i>Deutzia uniflora</i>	VU
第3次:	ウメウツギ	<i>Deutzia uniflora</i>	VU
第2次:	ウメウツギ	<i>Deutzia uniflora</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(本土部)[本土部：絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 神奈川県[準絶滅危惧(NT)] 山梨県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Deutzia uniflora has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Deutzia uniflora* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession, Limited distribution

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ブンゴウツギ

*Deutzia zentaroana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉柄は長さ 3-6.5 mm。葉身は長さ 4-8.5 cm、狭卵形～長楕円状披針形、両面に星状毛を散生する。花は複 2 出集散花序につく。花筒と萼片には星状毛が密生する。花弁は長さ 7-10 mm。

【生活史】

落葉低木。花期は 4-5 月。

【生育環境】

低山帯、台地、丘陵地に生育。

【分布域】

九州（福岡県・大分県・宮崎県・熊本県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	4	0	1	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 道路工事	自然遷移	
件数 5	5	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ブンゴウツギ	<i>Deutzia zentaroana</i>	VU
第4次 2019:	ブンゴウツギ	<i>Deutzia zentaroana</i>	VU
第4次 2018:	ブンゴウツギ	<i>Deutzia zentaroana</i>	VU
第4次 2017:	ブンゴウツギ	<i>Deutzia zentaroana</i>	VU
第4次 2015:	ブンゴウツギ	<i>Deutzia zentaroana</i>	VU
第4次:	ブンゴウツギ	<i>Deutzia zentaroana</i>	VU
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山口県[情報不足(DD)] 宮崎県[準絶滅危惧(NT-g)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020 年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Deutzia zentaroana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Deutzia zentaroana* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Road construction, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒュウガアジサイ

*Hydrangea minamitanii***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1-2 m。ヤマアジサイに似るが、葉は無毛、裏面の側脈腋のみに滑らかな立毛を密生する。葉柄と若枝も無毛。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

山地の沢筋や河原の崖に生育。

【分布域】

宮崎県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	2	0	0	—	2	1	4

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒュウガアジサイ	<i>Hydrangea serrata</i> var. <i>minamitanii</i>	VU
第4次 2019:	ヒュウガアジサイ	<i>Hydrangea serrata</i> var. <i>minamitanii</i>	VU
第4次 2018:	ヒュウガアジサイ	<i>Hydrangea serrata</i> var. <i>minamitanii</i>	VU
第4次 2017:	ヒュウガアジサイ	<i>Hydrangea serrata</i> var. <i>minamitanii</i>	VU
第4次 2015:	ヒュウガアジサイ	<i>Hydrangea serrata</i> var. <i>minamitanii</i>	VU
第4次:	ヒュウガアジサイ	<i>Hydrangea serrata</i> var. <i>minamitanii</i>	VU
第3次:	ヒュウガアジサイ	<i>Hydrangea serrata</i> var. <i>minamitanii</i>	EN
第2次:	ヒュウガアジサイ	<i>Hydrangea serrata</i> var. <i>minamitanii</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU-g)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hydrangea minamitanii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Hydrangea minamitanii is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キレンゲショウマ

Kirengeshoma palmata

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 80-120 cm。葉身は長さ 10-20 cm、円心形で浅く掌状に裂け、基部は心形。花は対生する苞の各腋から出た枝に 3（まれに 1-2）個つく。花弁は長さ 3-4.2 cm、狭倒卵状長円形。

【生活史】

花期は 7-8 月。

【生育環境】

山地林内の湿った岩上または岩礫地に生育。

【分布域】

本州（大和山脈・広島県）・四国・九州、朝鮮半島・中国（東部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、12 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	4	1	4	2	0	12	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	シカ食害	自然遷移
件数 6	5	4

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キレンゲショウマ	<i>Kirengeshoma palmata</i>	VU
第4次 2019:	キレンゲショウマ	<i>Kirengeshoma palmata</i>	VU
第4次 2018:	キレンゲショウマ	<i>Kirengeshoma palmata</i>	VU
第4次 2017:	キレンゲショウマ	<i>Kirengeshoma palmata</i>	VU
第4次 2015:	キレンゲショウマ	<i>Kirengeshoma palmata</i>	VU
第4次:	キレンゲショウマ	<i>Kirengeshoma palmata</i>	VU
第3次:	キレンゲショウマ	<i>Kirengeshoma palmata</i>	VU
第2次:	キレンゲショウマ	<i>Kirengeshoma palmata</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

奈良県[絶滅寸前種] 島根県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 高知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN-g)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Kirengeshoma palmata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Kirengeshoma palmata* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Deer feeding damage, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ハナシノブ科 Polemoniaceae

クシロハナシノブ

Polemonium caeruleum subsp. *laxiflorum* var. *paludosum*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

カラフトハナシノブに似るが、最大葉の羽片の長さは 1.5-2 cm、幅 2-5 mm と幅狭く、全体的に小さめで植物体が繊細。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

泥炭地に生育する。

【分布域】

南千島、道東に分布。国外ではサハリンに分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュで計数千個体と推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	2	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クシロハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>laxiflorum</i> var. <i>paludosum</i>	VU
第4次 2019:	クシロハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>laxiflorum</i> var. <i>paludosum</i>	VU
第4次 2018:	クシロハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>laxiflorum</i> var. <i>paludosum</i>	VU
第4次 2017:	クシロハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>laxiflorum</i> var. <i>paludosum</i>	VU
第4次 2015:	クシロハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>laxiflorum</i> var. <i>paludosum</i>	VU
第4次:	クシロハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>laxiflorum</i> var. <i>paludosum</i>	VU
第3次:	クシロハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>laxiflorum</i> var. <i>paludosum</i>	VU
第2次:	クシロハナシノブ	<i>Polemonium coeruleum</i> ssp. <i>campanulatum</i> var. <i>paludosum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Polemonium caeruleum subsp. *laxiflorum* var. *paludosum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Polemonium caeruleum* subsp. *laxiflorum* var. *paludosum* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミヤマハナシノブ

Polemonium caeruleum subsp. *yezoense* var. *nipponicum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

エゾハナシノブの変種。花柄の短腺毛が密で長白毛がまばら。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

亜高山～高山の草原に生育する。

【分布域】

本州中部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	産地局限
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリと掲載名

第4次 2020:	ミヤマハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>yezoense</i> var. <i>nipponicum</i>	VU
第4次 2019:	ミヤマハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>yezoense</i> var. <i>nipponicum</i>	VU
第4次 2018:	ミヤマハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>yezoense</i> var. <i>nipponicum</i>	VU
第4次 2017:	ミヤマハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>yezoense</i> var. <i>nipponicum</i>	VU
第4次 2015:	ミヤマハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>yezoense</i> var. <i>nipponicum</i>	VU
第4次:	ミヤマハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>yezoense</i> var. <i>nipponicum</i>	VU
第3次:	ミヤマハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>yezoense</i> var. <i>nipponicum</i>	VU
第2次:	ミヤマハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> ssp. <i>yezoense</i> var. <i>nipponicum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 富山県[絶滅危惧Ⅱ類] 山梨県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Polemonium caeruleum subsp. *yezoense* var. *nipponicum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Polemonium caeruleum* subsp. *yezoense* var. *nipponicum* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エゾハナシノブ

Polemonium caeruleum subsp. *yezoense* var. *yezoense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ハナシノブの亜種。高さ 30-80 cm。葉は羽状に全裂。羽片は 8-12 対、長さ 2-5 cm、幅 3-15 mm。花は青紫色で散房状花序につき、花柄は 1-4 cm、花冠は長さ 1.5-2.5 cm、萼は長さ 8-12 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山深い溪谷や山地の草原に生育する。

【分布域】

本州中部以北、北海道に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 4 メッシュで計数千個体と推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	3	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>yezoense</i> var. <i>yezoense</i>	VU
第4次 2019:	エゾハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>yezoense</i> var. <i>yezoense</i>	VU
第4次 2018:	エゾハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>yezoense</i> var. <i>yezoense</i>	VU
第4次 2017:	エゾハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>yezoense</i> var. <i>yezoense</i>	VU
第4次 2015:	エゾハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>yezoense</i> var. <i>yezoense</i>	VU
第4次:	エゾハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>yezoense</i> var. <i>yezoense</i>	VU
第3次:	エゾハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>yezoense</i> var. <i>yezoense</i>	VU
第2次:	エゾハナシノブ	<i>Polemonium coeruleum</i> ssp. <i>yezoense</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 青森県[最重要希少野生生物(A ランク)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Polemonium caeruleum subsp. *yezoense* var. *yezoense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Polemonium caeruleum* subsp. *yezoense* var. *yezoense* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

マメヒサカキ

Eurya emarginata var. *minutissima***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ハマヒサカキに似るが、全体が小さく枝も細く、葉身は長さ 0.6-3 cm と小さい。

【生活史】

常緑低木ないし高木。

【生育環境】

山地の稜線上に生育。

【分布域】

琉球（奄美大島・徳之島・沖縄島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 6 メッシュで計数百個体と推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	3	2	0	0	6	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	マメヒサカキ	<i>Eurya minutissima</i>	VU
第4次 2019:	マメヒサカキ	<i>Eurya minutissima</i>	VU
第4次 2018:	マメヒサカキ	<i>Eurya minutissima</i>	VU
第4次 2017:	マメヒサカキ	<i>Eurya minutissima</i>	VU
第4次 2015:	マメヒサカキ	<i>Eurya minutissima</i>	VU
第4次:	マメヒサカキ	<i>Eurya minutissima</i>	VU
第3次:	マメヒサカキ	<i>Eurya minutissima</i>	VU
第2次:	マメヒサカキ	<i>Eurya emarginata</i> var. <i>minutissima</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[準絶滅危惧]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eurya emarginata var. *minutissima* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Eurya emarginata* var. *minutissima* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ノジトラノオ

Lysimachia barystachys

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 70-100 cm。葉は互生し、狭長楕円形または倒披針形で、長さ 6-10 cm、幅 0.8-1.5 cm。6-7 月、茎の先に総状花序をつける。花序は直立せず、上部は傾き、一方に偏って多数の花をつけ、長さ 10-30 cm。花冠は白色で、径 8-10 mm、裂片は狭長楕円形で先は円い。蒴果は球形で、径約 2.5 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

やや湿り気のある原野。

【分布域】

本州（関東以西）・九州、朝鮮半島・中国（北部・東北）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 8 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	5	1	2	0	0	8	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	管理放棄	土地造成
件数	2	1

4		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ノジトラノオ	<i>Lysimachia barystachys</i>	VU
第4次 2019:	ノジトラノオ	<i>Lysimachia barystachys</i>	VU
第4次 2018:	ノジトラノオ	<i>Lysimachia barystachys</i>	VU
第4次 2017:	ノジトラノオ	<i>Lysimachia barystachys</i>	VU
第4次 2015:	ノジトラノオ	<i>Lysimachia barystachys</i>	VU
第4次:	ノジトラノオ	<i>Lysimachia barystachys</i>	VU
第3次:	ノジトラノオ	<i>Lysimachia barystachys</i>	VU
第2次:	ノジトラノオ	<i>Lysimachia barystachys</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

茨城県[絶滅危惧ⅠB類] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(Aランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 千葉県[要保護生物(C)] 東京都(本土部)[区部：絶滅危惧ⅠA類(CR) 本土部：絶滅危惧ⅠB類(EN)] 東京都(北多摩)[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 東京都(南多摩)[絶滅(EX)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lysimachia barystachys has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Lysimachia barystachys is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	Natural succession, Abandonment of management, Land development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

サワトラノオ

Lysimachia leucantha

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 40-80 cm になる。葉は互生し、倒披針状線形または広線形。長さ 2-4.5 cm、幅 3-5 mm。葉肉内に黒色の腺点が散らばる。枝先に総状花序を伸ばし、多数の花をつける。花冠は白色で 5 裂し、長さ 4 mm、裂片は倒卵形で先は円い。蒴果は球形で、径 2.5 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

低湿地。

【分布域】

本州・九州、朝鮮半島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	3	0	1	0	0	4	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	湿地開発	農薬汚染
件数 4	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サワトラノオ	<i>Lysimachia leucantha</i>	EN
第4次 2019:	サワトラノオ	<i>Lysimachia leucantha</i>	EN
第4次 2018:	サワトラノオ	<i>Lysimachia leucantha</i>	EN
第4次 2017:	サワトラノオ	<i>Lysimachia leucantha</i>	EN
第4次 2015:	サワトラノオ	<i>Lysimachia leucantha</i>	EN
第4次:	サワトラノオ	<i>Lysimachia leucantha</i>	EN
第3次:	サワトラノオ	<i>Lysimachia leucantha</i>	EN
第2次:	サワトラノオ	<i>Lysimachia leucantha</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 千葉県[消息不明・絶滅生物(X)] 東京都(本土部)[区部：絶滅(EX) 本土部：絶滅(EX)] 東京都(北多摩)[絶滅(EX)] 神奈川県[絶滅(EX)] 富山県[情報不足] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 大阪府[CR+EN] 広島県[情報不足(DD)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lysimachia leucantha has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lysimachia leucantha* is listed as VU under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Wetland development, Pesticide pollution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヘツカコナスビ

*Lysimachia ohsumiensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長く地を這い、軟毛がやや密に生える。葉は対生し、長さ 5-10 mm の柄があり、葉身は卵円形で先はとがり、基部は円形で、長さ 7-15 mm、幅 6-13 mm、長軟毛が生え、葉肉内に腺点も腺条もない。花は 6 月、茎の葉腋に 1 花をつける。花柄はやや密に立毛が生える。萼は深く 5 裂し、裂片はへら形で、先は短く尖る。花冠は黄色で、褐色の条斑がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

やや湿った林縁や林道路傍。

【分布域】

九州の大隅半島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	1	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 森林伐採	自然遷移	

件数		
1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハツカコナスビ	<i>Lysimachia ohsumiensis</i>	CR
第4次 2019:	ハツカコナスビ	<i>Lysimachia ohsumiensis</i>	CR
第4次 2018:	ハツカコナスビ	<i>Lysimachia ohsumiensis</i>	CR
第4次 2017:	ハツカコナスビ	<i>Lysimachia ohsumiensis</i>	CR
第4次 2015:	ハツカコナスビ	<i>Lysimachia ohsumiensis</i>	CR
第4次:	ハツカコナスビ	<i>Lysimachia ohsumiensis</i>	CR
第3次:	ハツカコナスビ	<i>Lysimachia ohsumiensis</i>	CR
第2次:	ハツカコナスビ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lysimachia ohsumiensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Lysimachia ohsumiensis is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.	
Threat types:	Logging and wood harvesting, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シマタイミンタチバナ

*Myrsine maximowiczii***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 2–5 m。枝は無毛。葉は長さ 1–7 cm、幅 1–3 cm。雌雄異株。花序は前年か前々年の枝の葉腋痕から散状～散房状に出る。花冠は淡紅色。柱頭は長卵形、縦に不規則な溝がある。果実は暗紫色。

【生活史】

常緑低木～高木。

【生育環境】

やや乾燥した緩斜面や山地平坦面。

【分布域】

小笠原。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 22 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
15	5	1	1	0	0	22	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シマタイミンタチバナ	<i>Myrsine maximowiczii</i>	VU
第4次 2019:	シマタイミンタチバナ	<i>Myrsine maximowiczii</i>	VU
第4次 2018:	シマタイミンタチバナ	<i>Myrsine maximowiczii</i>	VU
第4次 2017:	シマタイミンタチバナ	<i>Myrsine maximowiczii</i>	VU
第4次 2015:	シマタイミンタチバナ	<i>Myrsine maximowiczii</i>	VU
第4次:	シマタイミンタチバナ	<i>Myrsine maximowiczii</i>	VU
第3次:	シマタイミンタチバナ	<i>Myrsine maximowiczii</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Myrsine maximowiczii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Myrsine maximowiczii is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミチノクコザクラ

Primula cuneifolia var. *heterodonta***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

エゾコザクラの変種であるが、全体に大きく、葉の長さは 5-15 cm、幅 1.5-3 cm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山-亜高山帯の岩地や岩礫地や草湿性地。

【分布域】

本州（青森県・秋田県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数千個体の現存が報告された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	1	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミチノクコザクラ	<i>Primula cuneifolia</i> var. <i>heterodonta</i>	VU
第4次 2019:	ミチノクコザクラ	<i>Primula cuneifolia</i> var. <i>heterodonta</i>	VU
第4次 2018:	ミチノクコザクラ	<i>Primula cuneifolia</i> var. <i>heterodonta</i>	VU
第4次 2017:	ミチノクコザクラ	<i>Primula cuneifolia</i> var. <i>heterodonta</i>	VU
第4次 2015:	ミチノクコザクラ	<i>Primula cuneifolia</i> var. <i>heterodonta</i>	VU
第4次:	ミチノクコザクラ	<i>Primula cuneifolia</i> var. <i>heterodonta</i>	VU
第3次:	ミチノクコザクラ	<i>Primula cuneifolia</i> var. <i>heterodonta</i>	VU
第2次:	ミチノクコザクラ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[重要希少野生生物(B ランク)] 秋田県[絶滅危惧種 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 青森県レッドデータブック改訂検討会，2020. 青森県の希少な野生生物—青森県レッドデータブック（2020年版）—. 青森県，397pp.
- 秋田県生活環境部自然保護課，2014. 秋田県の絶滅のおそれのある野生生物 秋田県版レッドデータブック 2014—維管束植物—. 秋田県生活環境部自然保護課，204pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Primula cuneifolia var. *heterodonta* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Primula cuneifolia* var. *heterodonta* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒダカイワザクラ

Primula hidakana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は長さ 3-7 cm の柄があり、葉身は円形または腎円形で、径 2-5.5 cm、縁は浅く掌状に 7 裂し、裂片は低三角形で不揃いな歯牙がある。5 月、高さ 5-12 cm の花茎を伸ばし、紅色で花喉部が黄色の花を 1-2 個つける。花冠は高杯形、径 2.5 cm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山の沢沿いの岩場。

【分布域】

北海道日高山脈。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	2	1	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒダカイワザクラ	<i>Primula hidakana</i> var. <i>hidakana</i>	VU
第4次 2019:	ヒダカイワザクラ	<i>Primula hidakana</i> var. <i>hidakana</i>	VU
第4次 2018:	ヒダカイワザクラ	<i>Primula hidakana</i> var. <i>hidakana</i>	VU
第4次 2017:	ヒダカイワザクラ	<i>Primula hidakana</i> var. <i>hidakana</i>	VU
第4次 2015:	ヒダカイワザクラ	<i>Primula hidakana</i> var. <i>hidakana</i>	VU
第4次:	ヒダカイワザクラ	<i>Primula hidakana</i> var. <i>hidakana</i>	VU
第3次:	ヒダカイワザクラ	<i>Primula hidakana</i>	VU
第2次:	ヒダカイワザクラ	<i>Primula hidakana</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Primula hidakana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Primula hidakana* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

レブンコザクラ

Primula modesta subsp. *modesta* var. *matsumurae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ユキワリソウの変種であるが、葉が大型で細長く、長楕円形、下部はしだいに細くなり柄が明瞭でなく、葉縁は裏面へ反り返らないかやや反り返り、波状の不明瞭な歯牙があり、蒴果は長さ約 11 mm で萼の 1.5-2 倍位に伸びる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の岩場。

【分布域】

北海道（礼文島・夕張山地・北見山地・知床半島）・南千島（択捉島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 3		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	レブンコザクラ	<i>Primula modesta</i> var. <i>matsumurae</i>	VU
第4次 2019:	レブンコザクラ	<i>Primula modesta</i> var. <i>matsumurae</i>	VU
第4次 2018:	レブンコザクラ	<i>Primula modesta</i> var. <i>matsumurae</i>	VU
第4次 2017:	レブンコザクラ	<i>Primula modesta</i> var. <i>matsumurae</i>	VU
第4次 2015:	レブンコザクラ	<i>Primula modesta</i> var. <i>matsumurae</i>	VU
第4次:	レブンコザクラ	<i>Primula modesta</i> var. <i>matsumurae</i>	VU
第3次:	レブンコザクラ	<i>Primula modesta</i> var. <i>matsumurae</i>	VU
第2次:	レブンコザクラ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Primula modesta subsp. *modesta* var. *matsumurae* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Primula modesta* subsp. *modesta* var. *matsumurae* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クモイコザクラ

Primula reinii var. *kitadakensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

コイワザクラの変種であるが、葉が 1/3 ほど裂け、鋸歯がとがる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

針葉樹林帯のやや湿り気のある岩場など。

【分布域】

秩父山地・八ヶ岳・南アルプス。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	1	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	シカ食害	
件数 2	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クモイコザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>kitadakensis</i>	VU
第4次 2019:	クモイコザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>kitadakensis</i>	VU
第4次 2018:	クモイコザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>kitadakensis</i>	VU
第4次 2017:	クモイコザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>kitadakensis</i>	VU
第4次 2015:	クモイコザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>kitadakensis</i>	VU
第4次:	クモイコザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>kitadakensis</i>	VU
第3次:	クモイコザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>kitadakensis</i>	VU
第2次:	クモイコザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>kitadakensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

埼玉県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 山梨県[準絶滅危惧(NT)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 埼玉県環境部自然環境課，2012. 埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編. 埼玉県. 433pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Primula reinii var. *kitadakensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Primula reinii* var. *kitadakensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Deer feeding damage

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コイワザクラ

Primula reinii var. *reinii***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は長さ 3-10 cm の柄がある。葉身は円形または腎円形で、径 1.5-4 cm、縁は浅く 7-9 裂し、裂片は先の尖った小裂片に浅く 3-5 裂する。5 月、高さ 5-10 cm の花茎を伸ばし、1-5 個の花を散形につける。花冠は紅紫色で、花喉部は淡橙黄色、高杯形で、径 1.8-2.5 cm。蒴果は長楕円形で長さ 7-12 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

温帯上部の山地の岩場。

【分布域】

本州（紀伊半島・中部地方南部・関東地方西南部）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、9 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	3	0	4	2	0	9	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	シカ食害	自然遷移
件数	1	1

4		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コイワザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>reinii</i>	VU
第4次 2019:	コイワザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>reinii</i>	VU
第4次 2018:	コイワザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>reinii</i>	VU
第4次 2017:	コイワザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>reinii</i>	VU
第4次 2015:	コイワザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>reinii</i>	VU
第4次:	コイワザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>reinii</i>	VU
第3次:	コイワザクラ	<i>Primula reinii</i>	VU
第2次:	コイワザクラ	<i>Primula reinii</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 東京都(本土部)[本土部:絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 神奈川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 奈良県[絶滅寸前種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Primula reinii var. *reinii* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Primula reinii* var. *reinii* is listed as VU under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100

years.	
Threat types:	Collecting plants in gardening, Deer feeding damage, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ソラチコザクラ

*Primula sorachiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉はへら形で長さ 3-3.5 cm、幅 1-1.5 cm。5 月、高さ 3-4 cm の花茎に 2-10 個の花を散形につける。花冠は紅紫色で花喉部は黄白色、径 1 cm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

河川上流の岩場。

【分布域】

北海道日高・夕張山系。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	2	2	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	その他
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ソラチコザクラ	<i>Primula sorachiana</i>	VU
第4次 2019:	ソラチコザクラ	<i>Primula sorachiana</i>	VU
第4次 2018:	ソラチコザクラ	<i>Primula sorachiana</i>	VU
第4次 2017:	ソラチコザクラ	<i>Primula sorachiana</i>	VU
第4次 2015:	ソラチコザクラ	<i>Primula sorachiana</i>	VU
第4次:	ソラチコザクラ	<i>Primula sorachiana</i>	VU
第3次:	ソラチコザクラ	<i>Primula sorachiana</i>	VU
第2次:	ソラチコザクラ	<i>Primula sorachiana</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Primula sorachiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Primula sorachiana* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

テシオコザクラ

*Primula takedana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は長さ 6-12 cm の長い柄があり、円形で、径 4.5-5 cm、8-11 片に掌状に深く裂け、裂片はさらに 3 裂、時に 5 裂し、小裂片は先が尖り、歯牙はないか少数。5-6 月、高さ 15 cm ほどの花茎を伸ばし、上部 1-3 個の花をつける。花冠は白色で花喉部は黄緑色、5 中裂し、径約 1.5 cm で、全開せず、漏斗状に開く。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

川沿いや溪谷上流の蛇紋岩崩壊地。

【分布域】

北海道の天塩地方。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	3	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	
件数	2	

2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	テシオコザクラ	<i>Primula takedana</i>	VU
第4次 2019:	テシオコザクラ	<i>Primula takedana</i>	VU
第4次 2018:	テシオコザクラ	<i>Primula takedana</i>	VU
第4次 2017:	テシオコザクラ	<i>Primula takedana</i>	VU
第4次 2015:	テシオコザクラ	<i>Primula takedana</i>	VU
第4次:	テシオコザクラ	<i>Primula takedana</i>	VU
第3次:	テシオコザクラ	<i>Primula takedana</i>	VU
第2次:	テシオコザクラ	<i>Primula takedana</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Primula takedana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Primula takedana* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミヤマシロバイ

Symplocos sonoharae

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 5–20 m。葉は楕円形～倒卵状楕円形、長さ (5–)6–9 cm、低い粗鋸歯がある。花序は前年伸びた枝の葉腋から出て短く、點頭し、花冠はラッパ状、長さ 6–8 (–10) mm で平開しない。果実は楕円形で黒熟し、長さ 6–9 mm。

【生活史】

常緑高木。

【生育環境】

山腹や尾根筋に生育する。

【分布域】

琉球に分布。国外では台湾、中国中南部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
4	0	0	1	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミヤマシロバイ	<i>Symplocos sonoharae</i>	VU
第4次 2019:	ミヤマシロバイ	<i>Symplocos sonoharae</i>	VU
第4次 2018:	ミヤマシロバイ	<i>Symplocos sonoharae</i>	VU
第4次 2017:	ミヤマシロバイ	<i>Symplocos sonoharae</i>	VU
第4次 2015:	ミヤマシロバイ	<i>Symplocos sonoharae</i>	VU
第4次:	ミヤマシロバイ	<i>Symplocos sonoharae</i>	VU
第3次:	ミヤマシロバイ	<i>Symplocos sonoharae</i>	VU
第2次:	ミヤマシロバイ	<i>Symplocos confusa</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Symplocos sonoharae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Symplocos sonoharae is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae エゴノキ科 Styracaceae

オオバケエゴノキ

Styrax japonicus var. *tomentosa*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

エゴノキに似るが、花柄と萼に星状毛が密生することで区別される。

【生活史】

落葉小高木。

【生育環境】

林内や林縁に生育。

【分布域】

トカラ列島中之島、中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 19 メッシュで計数千個体が現存と推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
15	3	0	0	1	0	19	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオバケエゴノキ	<i>Styrax japonica</i> var. <i>tomentosa</i>	VU
第4次 2019:	オオバケエゴノキ	<i>Styrax japonica</i> var. <i>tomentosa</i>	VU
第4次 2018:	オオバケエゴノキ	<i>Styrax japonica</i> var. <i>tomentosa</i>	VU
第4次 2017:	オオバケエゴノキ	<i>Styrax japonica</i> var. <i>tomentosa</i>	VU
第4次 2015:	オオバケエゴノキ	<i>Styrax japonica</i> var. <i>tomentosa</i>	VU
第4次:	オオバケエゴノキ	<i>Styrax japonica</i> var. <i>tomentosa</i>	VU
第3次:	オオバケエゴノキ	<i>Styrax japonica</i> var. <i>tomentosa</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Styrax japonicus var. *tomentosa* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Styrax japonicus* var. *tomentosa* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ツツジ科 Ericaceae

チシマツガザクラ

Bryanthus gmelinii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

地上を這って広がる茎には細かい葉が密につく。葉は互生し、線形、長さ 3-4 mm。7-8 月、枝先に花茎を伸ばし、総状花序を作って 2-10 個の淡紅色の花をつける。花は 4 数性。花冠は皿状に広がり、基部まで 4 裂し、径 5-6 mm。

【生活史】

常緑の小低木。

【生育環境】

高山の雪溪の脇の岩上などに生育する。

【分布域】

南千島、北海道、本州（岩手県早池峰山、青森県南八甲田山）に分布。国外では、千島列島、カムチャツカ半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	自然遷移	産地局限
件数	1	1

2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チシマツガザクラ	<i>Bryanthus gmelinii</i>	VU
第4次 2019:	チシマツガザクラ	<i>Bryanthus gmelinii</i>	VU
第4次 2018:	チシマツガザクラ	<i>Bryanthus gmelinii</i>	VU
第4次 2017:	チシマツガザクラ	<i>Bryanthus gmelinii</i>	VU
第4次 2015:	チシマツガザクラ	<i>Bryanthus gmelinii</i>	VU
第4次:	チシマツガザクラ	<i>Bryanthus gmelinii</i>	VU
第3次:	チシマツガザクラ	<i>Bryanthus gmelinii</i>	VU
第2次:	チシマツガザクラ	<i>Bryanthus gmelinii</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[A ランク]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Bryanthus gmelinii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Bryanthus gmelinii* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Natural succession, Limited distribution

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ツツジ科 Ericaceae

カラフトイチヤクソウ

Pyrola fauriana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は広楕円形で長さ 2.5-4 cm、縁には小さな目立たない鋸歯がある。7-8 月、高さ 10-20 cm で 1-2 枚の披針形の鱗片葉のある花茎を伸ばし、10-20 個の花をつける。花は赤みを帯びた白色で、径 8-9 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山帯の常緑小低木下のガンコウランなどのマット内に生育する。

【分布域】

北海道、本州（東北地方）に分布。国外では、千島列島、サハリン、カムチャツカ半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	3	1	1	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	人の踏みつけ	火山噴火
件数	2	2

6		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カラフトイチヤクソウ	<i>Pyrola faurieana</i>	VU
第4次 2019:	カラフトイチヤクソウ	<i>Pyrola faurieana</i>	VU
第4次 2018:	カラフトイチヤクソウ	<i>Pyrola faurieana</i>	VU
第4次 2017:	カラフトイチヤクソウ	<i>Pyrola faurieana</i>	VU
第4次 2015:	カラフトイチヤクソウ	<i>Pyrola faurieana</i>	VU
第4次:	カラフトイチヤクソウ	<i>Pyrola faurieana</i>	VU
第3次:	カラフトイチヤクソウ	<i>Pyrola faurieana</i>	VU
第2次:	カラフトイチヤクソウ	<i>Pyrola faurieana</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[A ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 秋田県[CR] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福島県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pyrola faurieana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pyrola faurieana* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Human trampling, Volcanic eruption

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ツツジ科 Ericaceae

エゾムラサキツツジ

Rhododendron dauricum var. *dauricum*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 0.3–1 m。葉は互生、葉身は楕円形、長さ 1.5–5 cm。5 月、枝先につく 1～数個の花芽から、それぞれ 1 個の花を開く。花冠は紅紫色、広漏斗形で皿状に開き、径 2.5–3 cm、深く 5 裂。

【生活史】

半落葉の低木。

【生育環境】

山地の岩場に生育する。

【分布域】

北海道に分布。国外では、朝鮮半島北部、中国東北、ウスリー、東シベリアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	2	0	2	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾムラサキツツジ	<i>Rhododendron dauricum</i>	VU
第4次 2019:	エゾムラサキツツジ	<i>Rhododendron dauricum</i>	VU
第4次 2018:	エゾムラサキツツジ	<i>Rhododendron dauricum</i>	VU
第4次 2017:	エゾムラサキツツジ	<i>Rhododendron dauricum</i>	VU
第4次 2015:	エゾムラサキツツジ	<i>Rhododendron dauricum</i>	VU
第4次:	エゾムラサキツツジ	<i>Rhododendron dauricum</i>	VU
第3次:	エゾムラサキツツジ	<i>Rhododendron dauricum</i>	VU
第2次:	エゾムラサキツツジ	<i>Rhododendron dauricum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhododendron dauricum var. *dauricum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhododendron dauricum* var. *dauricum* is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ゴヨウザンヨウラク

*Rhododendron goyozanense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1–1.3 m。葉は楕円形、葉身は長さ 1.5–4.5 cm。花は 6 月下旬～7 月上旬、頂生する長さ 1 mm ほどの短い花序の軸に 3–6 個の花が束生状につく。萼は浅い皿状、4 裂。花冠は筒形、下側は黄緑色、上側は紅色、長さ約 1 cm、先は 4 裂。蒴果は楕円形で長さ 3–4 mm、4 裂する。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

林内または林縁の岩場に生育する。

【分布域】

岩手県五葉山に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	1	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ゴヨウザンヨウラク	<i>Menziesia goyozanense</i>	CR
第4次 2019:	ゴヨウザンヨウラク	<i>Menziesia goyozanense</i>	CR
第4次 2018:	ゴヨウザンヨウラク	<i>Menziesia goyozanense</i>	CR
第4次 2017:	ゴヨウザンヨウラク	<i>Menziesia goyozanense</i>	CR
第4次 2015:	ゴヨウザンヨウラク	<i>Menziesia goyozanense</i>	CR
第4次:	ゴヨウザンヨウラク	<i>Menziesia goyozanense</i>	CR
第3次:	ゴヨウザンヨウラク	<i>Menziesia goyozanensis</i>	CR
第2次:	ゴヨウザンヨウラク	<i>Menziesia goyozanensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[A ランク]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhododendron goyozanense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhododendron goyozanense* is listed as VU under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キョウマルシャクナゲ

Rhododendron japonoheptamerum var. *kyomaruense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ツクシシャクナゲの変種。花冠が 5 裂、時に 6-7 裂する。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

山地に生育する。

【分布域】

南アルプス南部（長野県南部～静岡県北部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キョウマルシャクナゲ	<i>Rhododendron</i>	<i>japonoheptamerum</i>	var.	VU
		<i>kyomaruense</i>			
第4次 2019:	キョウマルシャクナゲ	<i>Rhododendron</i>	<i>japonoheptamerum</i>	var.	VU
		<i>kyomaruense</i>			
第4次 2018:	キョウマルシャクナゲ	<i>Rhododendron</i>	<i>japonoheptamerum</i>	var.	VU
		<i>kyomaruense</i>			
第4次 2017:	キョウマルシャクナゲ	<i>Rhododendron</i>	<i>japonoheptamerum</i>	var.	VU
		<i>kyomaruense</i>			
第4次 2015:	キョウマルシャクナゲ	<i>Rhododendron</i>	<i>japonoheptamerum</i>	var.	VU
		<i>kyomaruense</i>			
第4次:	キョウマルシャクナゲ	<i>Rhododendron</i>	<i>japonoheptamerum</i>	var.	VU
		<i>kyomaruense</i>			
第3次:	キョウマルシャクナゲ	<i>Rhododendron</i>	<i>japonoheptamerum</i>	var.	VU
		<i>kyomaruense</i>			
第2次:	キョウマルシャクナゲ	<i>Rhododendron</i>	<i>degronianum</i> ssp. <i>metternichii</i>		EN
		var. <i>kyomaruense</i>			
第1次:	—	—			—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長野県[準絶滅危惧(NT)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅱ類] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課，2020. まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編—. 静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課，501pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Rhododendron japonoheptamerum var. *kyomaruense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhododendron japonoheptamerum* var. *kyomaruense* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アシタカツツジ

*Rhododendron komiyamae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 2-3 m、大きなものは 5 m ほどになる。春葉と夏葉の別がある。春葉は長楕円形、長さ 1.5-5 cm。夏葉は狭長楕円形または倒披針形、長さ 1-1.5 cm。5 月、枝先の 1 個の花芽から 2-4 個の花が開く。花冠は紅紫色、上側内面に濃色の斑点があり、漏斗形で径 2-3 cm、5 中裂。蒴果は長卵形、長さ 8-10 mm。

【生活史】

半常緑の低木または小高木。

【生育環境】

岩地や疎林内に生育する。

【分布域】

静岡県（愛鷹山、天子ヶ岳付近）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アシタカツツジ	<i>Rhododendron komiyamae</i>	VU
第4次 2019:	アシタカツツジ	<i>Rhododendron komiyamae</i>	VU
第4次 2018:	アシタカツツジ	<i>Rhododendron komiyamae</i>	VU
第4次 2017:	アシタカツツジ	<i>Rhododendron komiyamae</i>	VU
第4次 2015:	アシタカツツジ	<i>Rhododendron komiyamae</i>	VU
第4次:	アシタカツツジ	<i>Rhododendron komiyamae</i>	VU
第3次:	アシタカツツジ	<i>Rhododendron komiyamae</i>	VU
第2次:	アシタカツツジ	<i>Rhododendron komiyamae</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山梨県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 静岡県[準絶滅危惧(NT)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhododendron komiyamae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhododendron komiyamae* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヨウラクツツジ

*Rhododendron kroniae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ約 1 m。葉は楕円形、葉身は長さ 2-5 cm。花は 5-6 月、頂生する長さ 2 mm ほどの短い花序の軸に 3-10 個の花を束生状につける。萼は皿形で深く 4 裂。花冠は筒形、筒部は淡紅紫色、裂片は濃紅紫色、長さ約 1 cm、先は 4 裂。蒴果は球形で長さ 3-4 mm、4 裂する。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

山地の低木林中に生育する。

【分布域】

九州（中北部）の温帯上部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 9 メッシュで計数百個体と推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	7	1	0	0	9	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヨウラクツツジ	<i>Menziesia purpurea</i>	VU
第4次 2019:	ヨウラクツツジ	<i>Menziesia purpurea</i>	VU
第4次 2018:	ヨウラクツツジ	<i>Menziesia purpurea</i>	VU
第4次 2017:	ヨウラクツツジ	<i>Menziesia purpurea</i>	VU
第4次 2015:	ヨウラクツツジ	<i>Menziesia purpurea</i>	VU
第4次:	ヨウラクツツジ	<i>Menziesia purpurea</i>	VU
第3次:	ヨウラクツツジ	<i>Menziesia purpurea</i>	VU
第2次:	ヨウラクツツジ	<i>Menziesia purpurea</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 大分県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhododendron kroniae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Rhododendron kroniae is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ツツジ科 Ericaceae

サカイツツジ

Rhododendron lapponicum subsp. *parvifolium*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上して広がり、高さ 0.5-1 m。葉は互生、枝先に集まってつき、葉柄は長さ約 1 mm、葉身は楕円形または長楕円形、長さ 7-20 mm。5 月、枝先につく 1 個の花芽から数個の花が開く。花冠は紅紫色、広漏斗形で径約 1.5 cm、5 裂。蒴果は卵形、長さ約 5 mm。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

湿原に生育する。

【分布域】

北海道根室地方に分布。国外では、サハリン、朝鮮半島北部、中国東北、モンゴル北部、ダフリア、東シベリアに分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュで計数千個体が現存していた。産地局限であり、湿原に生育するため、環境変化の影響を受けやすい。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	1	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サカイツツジ	<i>Rhododendron lapponicum</i> subsp. <i>parvifolium</i>	VU
第4次 2019:	サカイツツジ	<i>Rhododendron lapponicum</i> subsp. <i>parvifolium</i>	VU
第4次 2018:	サカイツツジ	<i>Rhododendron lapponicum</i> subsp. <i>parvifolium</i>	VU
第4次 2017:	サカイツツジ	<i>Rhododendron lapponicum</i> subsp. <i>parvifolium</i>	VU
第4次 2015:	サカイツツジ	<i>Rhododendron lapponicum</i> subsp. <i>parvifolium</i>	VU
第4次:	サカイツツジ	<i>Rhododendron lapponicum</i> subsp. <i>parvifolium</i>	VU
第3次:	サカイツツジ	<i>Rhododendron lapponicum</i> subsp. <i>parvifolium</i>	VU
第2次:	サカイツツジ	<i>Rhododendron parvifolium</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhododendron lapponicum subsp. *parvifolium* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhododendron lapponicum* subsp. *parvifolium* is listed as VU under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—



執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホソバシャクナゲ

*Rhododendron makinoi***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1-2 m。葉は革質、葉柄は長さ 1-2.5 cm、葉身は狭長楕円形、長さ 7-18 cm、表面は無毛、裏面は綿毛様の長い枝状毛が厚く密生する。5 月、枝先に短い総状花序を伸ばし、5-10 個の花を開く。花冠は紅紫色で上側内面に濃色の斑点があり、漏斗形で径 4-5 cm、筒部内面に短毛が散生、5 中裂し、裂片は広円形。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

山地の岩場に生育する。

【分布域】

静岡県西部、愛知県東部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	管理放棄	
件数	1	

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホソバシャクナゲ	<i>Rhododendron makinoi</i>	VU
第4次 2019:	ホソバシャクナゲ	<i>Rhododendron makinoi</i>	VU
第4次 2018:	ホソバシャクナゲ	<i>Rhododendron makinoi</i>	VU
第4次 2017:	ホソバシャクナゲ	<i>Rhododendron makinoi</i>	VU
第4次 2015:	ホソバシャクナゲ	<i>Rhododendron makinoi</i>	VU
第4次:	ホソバシャクナゲ	<i>Rhododendron makinoi</i>	VU
第3次:	ホソバシャクナゲ	<i>Rhododendron makinoi</i>	VU
第2次:	ホソバシャクナゲ	<i>Rhododendron makinoi</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

静岡県[準絶滅危惧(NT)] 愛知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhododendron makinoi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhododendron makinoi* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Abandonment of management

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナンゴクミツバツツジ

*Rhododendron mayebarae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1.5-3 m。葉は枝先に 3 枚輪生し、葉身は菱形状円形、長さ 2-4 cm、中央の少し下で最も幅が広い。4 月、枝先の 1 個の花芽から 1 個の花を開く。花冠は紅紫色で上側内面に濃色の斑点があり、径 2.5-3 cm、やや深く 5 中裂し、裂片は狭楕円形。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

山地（標高 300-800 m）の林内に生育する。

【分布域】

宮崎県、熊本県、鹿児島県（薩摩半島）など、九州の中部以南に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	4	3	0	0	10	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナンゴクミツバツツジ	<i>Rhododendron mayebarae</i> var. <i>mayebarae</i>	VU
第4次 2019:	ナンゴクミツバツツジ	<i>Rhododendron mayebarae</i> var. <i>mayebarae</i>	VU
第4次 2018:	ナンゴクミツバツツジ	<i>Rhododendron mayebarae</i> var. <i>mayebarae</i>	VU
第4次 2017:	ナンゴクミツバツツジ	<i>Rhododendron mayebarae</i> var. <i>mayebarae</i>	VU
第4次 2015:	ナンゴクミツバツツジ	<i>Rhododendron mayebarae</i> var. <i>mayebarae</i>	VU
第4次:	ナンゴクミツバツツジ	<i>Rhododendron mayebarae</i> var. <i>mayebarae</i>	VU
第3次:	ナンゴクミツバツツジ	<i>Rhododendron mayebarae</i>	VU
第2次:	ナンゴクミツバツツジ	<i>Rhododendron kiyosmense</i> ssp. <i>mayebarae</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 宮崎県[準絶滅危惧(NT-g)] 鹿児島県[絶滅危惧 I 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhododendron mayebarae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Rhododendron mayebarae is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キリシマミツバツツジ

Rhododendron nudipes var. *kirishimense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

サイゴクミツバツツジの変種。若枝や葉柄に毛がある。葉は広い菱形か菱形で、長さ 1.5-4.5 cm。花柄に毛が多い。

【生活史】

落葉の低木～小高木。

【生育環境】

山地（標高 800-1,100 m）に生育する。

【分布域】

鹿児島県（霧島山、伊佐市、高隅山）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	2	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キシマミツバツツジ	<i>Rhododendron nudipes</i> var. <i>kirishimense</i>	VU
第4次 2019:	キシマミツバツツジ	<i>Rhododendron nudipes</i> var. <i>kirishimense</i>	VU
第4次 2018:	キシマミツバツツジ	<i>Rhododendron nudipes</i> var. <i>kirishimense</i>	VU
第4次 2017:	キシマミツバツツジ	<i>Rhododendron nudipes</i> var. <i>kirishimense</i>	VU
第4次 2015:	キシマミツバツツジ	<i>Rhododendron nudipes</i> var. <i>kirishimense</i>	VU
第4次:	キシマミツバツツジ	<i>Rhododendron nudipes</i> var. <i>kirishimense</i>	VU
第3次:	キシマミツバツツジ	<i>Rhododendron nudipes</i> var. <i>kirishimense</i>	VU
第2次:	キシマミツバツツジ	<i>Rhododendron nudipes</i> var. <i>kirishimense</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU-r)] 鹿児島県[準絶滅危惧]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhododendron nudipes var. *kirishimense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhododendron nudipes* var. *kirishimense* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ウラジロミツバツツジ

*Rhododendron osuzuyamense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1–2 m。葉は薄く、枝先に 3 枚輪生。葉身は卵円形で長さ 2–4 cm。4 月中旬～5 月上旬、枝先の 1 個の花芽から 1 個の花が開く。花冠は紅紫色で上側内面に濃色の斑点があり、漏斗形で径約 3 cm、深く 5 裂し、裂片は楕円形。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

山地の疎林内に生育する。

【分布域】

宮崎県中部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	3	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウラジロミツバツツジ	<i>Rhododendron osuzuyamense</i>	VU
第4次 2019:	ウラジロミツバツツジ	<i>Rhododendron osuzuyamense</i>	VU
第4次 2018:	ウラジロミツバツツジ	<i>Rhododendron osuzuyamense</i>	VU
第4次 2017:	ウラジロミツバツツジ	<i>Rhododendron osuzuyamense</i>	VU
第4次 2015:	ウラジロミツバツツジ	<i>Rhododendron osuzuyamense</i>	VU
第4次:	ウラジロミツバツツジ	<i>Rhododendron osuzuyamense</i>	VU
第3次:	ウラジロミツバツツジ	<i>Rhododendron osuzuyamense</i>	VU
第2次:	ウラジロミツバツツジ	<i>Rhododendron osuzuyamense</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU-g)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhododendron osuzuyamense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Rhododendron osuzuyamense is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シブカワツツジ

Rhododendron sanctum var. *lasiogynum*

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ジングウツツジの変種。あまり下枝が横に張らず、枝は上に伸びる傾向が強いのでほうき状の樹形を作る。葉はやや大きく広い菱形状円形で、長さ 4-7 cm。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

岩地に生育する。

【分布域】

静岡県西部浜川温泉付近に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数千個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	1	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	管理放棄	自然遷移
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シブカワツツジ	<i>Rhododendron sanctum</i> var. <i>lasiogynum</i>	VU
第4次 2019:	シブカワツツジ	<i>Rhododendron sanctum</i> var. <i>lasiogynum</i>	VU
第4次 2018:	シブカワツツジ	<i>Rhododendron sanctum</i> var. <i>lasiogynum</i>	VU
第4次 2017:	シブカワツツジ	<i>Rhododendron sanctum</i> var. <i>lasiogynum</i>	VU
第4次 2015:	シブカワツツジ	<i>Rhododendron sanctum</i> var. <i>lasiogynum</i>	VU
第4次:	シブカワツツジ	<i>Rhododendron sanctum</i> var. <i>lasiogynum</i>	VU
第3次:	シブカワツツジ	<i>Rhododendron sanctum</i> var. <i>lasiogynum</i>	VU
第2次:	シブカワツツジ	<i>Rhododendron sanctum</i> var. <i>lasiogynum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

静岡県[準絶滅危惧(NT)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課，2020. まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編—. 静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課，501pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhododendron sanctum var. *lasiogynum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhododendron sanctum* var. *lasiogynum* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Abandonment of management, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ジングウツツジ

Rhododendron sanctum var. *sanctum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 2–4 m。葉は枝先に 3 枚輪生し、葉身はふつう卵円形、時に菱形状円形、ふつう中ほどが最も幅が広く、縁が内側にまくれ、長さ 4–6 cm。5 月中旬～6 月上旬、新葉が展開した後に開花し、1 個の花芽から 2–3 個の花が開く。花冠は紅紫色で上側内面に濃色の斑点があり、漏斗形で径 3–4 cm、5 中裂。蒴果はゆがんだ円柱形、長さ 1–1.3 cm。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

岩地に生育する。

【分布域】

伊勢神宮付近に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	2	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ジングウツツジ	<i>Rhododendron sanctum</i> var. <i>sanctum</i>	VU
第4次 2019:	ジングウツツジ	<i>Rhododendron sanctum</i> var. <i>sanctum</i>	VU
第4次 2018:	ジングウツツジ	<i>Rhododendron sanctum</i> var. <i>sanctum</i>	VU
第4次 2017:	ジングウツツジ	<i>Rhododendron sanctum</i> var. <i>sanctum</i>	VU
第4次 2015:	ジングウツツジ	<i>Rhododendron sanctum</i> var. <i>sanctum</i>	VU
第4次:	ジングウツツジ	<i>Rhododendron sanctum</i> var. <i>sanctum</i>	VU
第3次:	ジングウツツジ	<i>Rhododendron sanctum</i>	VU
第2次:	ジングウツツジ	<i>Rhododendron sanctum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

愛知県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 三重県[絶滅危惧 IB 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhododendron sanctum var. *sanctum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhododendron sanctum* var. *sanctum* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ケラマツツジ

*Rhododendron scabrum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1-2 m。葉は互生し、葉身は長楕円形、楕円形または倒卵状楕円形、長さ 5-8 cm。2-4 月、枝先の 1 個の花芽から 2-4 個の花を開く。花冠は赤色、上側内面に濃色の斑点があり、径 4.5-6 cm、やや肉質。蒴果は狭卵形で長さ 4-10 mm。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

低地や山地の林縁に生育する。

【分布域】

奄美大島～沖縄諸島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 7 メッシュで計約 1 万個体と推定された。園芸用の採取、森林伐採が減少の主要因とされた。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	1	2	3	0	7	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ケラマツツジ	<i>Rhododendron scabrum</i>	VU
第4次 2019:	ケラマツツジ	<i>Rhododendron scabrum</i>	VU
第4次 2018:	ケラマツツジ	<i>Rhododendron scabrum</i>	VU
第4次 2017:	ケラマツツジ	<i>Rhododendron scabrum</i>	VU
第4次 2015:	ケラマツツジ	<i>Rhododendron scabrum</i>	VU
第4次:	ケラマツツジ	<i>Rhododendron scabrum</i>	VU
第3次:	ケラマツツジ	<i>Rhododendron scabrum</i>	VU
第2次:	ケラマツツジ	<i>Rhododendron scabrum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhododendron scabrum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Rhododendron scabrum is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハコネコメツツジ

*Rhododendron tsusiophyllum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 20-100 cm。葉は互生し、狭楕円形で、長さ 7-10 mm。6-7 月、前年枝の先に 1-3 個の白色の小さな花を散形状につける。

【生活史】

半落葉性の小低木。

【生育環境】

山地の岩場に生育する。

【分布域】

埼玉県、山梨県、神奈川県、静岡県、伊豆諸島（神津島、三宅島、御蔵島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 10 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	8	0	0	0	10	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	シカ食害	園芸採取
件数 3	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハコネコメツツジ	<i>Rhododendron tsusiophyllum</i>	VU
第4次 2019:	ハコネコメツツジ	<i>Rhododendron tsusiophyllum</i>	VU
第4次 2018:	ハコネコメツツジ	<i>Rhododendron tsusiophyllum</i>	VU
第4次 2017:	ハコネコメツツジ	<i>Rhododendron tsusiophyllum</i>	VU
第4次 2015:	ハコネコメツツジ	<i>Rhododendron tsusiophyllum</i>	VU
第4次:	ハコネコメツツジ	<i>Rhododendron tsusiophyllum</i>	VU
第3次:	ハコネコメツツジ	<i>Rhododendron tsusiophyllum</i>	VU
第2次:	ハコネコメツツジ	<i>Tsusiophyllum tanakae</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 神奈川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山梨県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[準絶滅危惧(NT)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhododendron tsusiophyllum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhododendron tsusiophyllum* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Deer feeding damage, Collecting plants in gardening
Law designation status for	—

conservation	

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマヤマツツジ

*Rhododendron yakuinsulare***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 2-4 m。葉身は狭長楕円形、長さ 3.5-7 cm。5 月、枝先の 1 個の花芽から 1-3 個の花が開く。花冠は赤色、やや薄く、漏斗形で径約 3 cm、深く 5 裂。蒴果は卵形で長さ約 7 mm。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

山地の川岸などの林縁に生育する。

【分布域】

屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
6	2	1	0	0	0	9	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマヤマツツジ	<i>Rhododendron yakuinsulare</i>	VU
第4次 2019:	ヤクシマヤマツツジ	<i>Rhododendron yakuinsulare</i>	VU
第4次 2018:	ヤクシマヤマツツジ	<i>Rhododendron yakuinsulare</i>	VU
第4次 2017:	ヤクシマヤマツツジ	<i>Rhododendron yakuinsulare</i>	VU
第4次 2015:	ヤクシマヤマツツジ	<i>Rhododendron yakuinsulare</i>	VU
第4次:	ヤクシマヤマツツジ	<i>Rhododendron yakuinsulare</i>	VU
第3次:	ヤクシマヤマツツジ	<i>Rhododendron yakuinsulare</i>	VU
第2次:	ヤクシマヤマツツジ	<i>Rhododendron yakuinsulare</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhododendron yakuinsulare has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Rhododendron yakuinsulare is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマミツバツツジ*Rhododendron yakumontanum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報**【形態】**

高さ 1-1.5 m。葉身は菱形状円形、長さ 2-6 cm。5 月、枝先の 1 個の花芽から 1 (-2) 個の花が開く。花冠は紅紫色で上側内面に濃色の斑点があり、漏斗形で径約 3.5 cm、やや深く 5 中裂。蒴果は歪んだ円柱形で長さ 10-17 mm。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

山地の上部の低木林内に生育する。

【分布域】

屋久島に分布。

現在の生育状況**【生育地の現況】**

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査**【「現存する株数」別のメッシュ数】**

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
6	6	0	0	0	0	12	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマミツバツツジ	<i>Rhododendron yakumontanum</i>	VU
第4次 2019:	ヤクシマミツバツツジ	<i>Rhododendron yakumontanum</i>	VU
第4次 2018:	ヤクシマミツバツツジ	<i>Rhododendron yakumontanum</i>	VU
第4次 2017:	ヤクシマミツバツツジ	<i>Rhododendron yakumontanum</i>	VU
第4次 2015:	ヤクシマミツバツツジ	<i>Rhododendron yakumontanum</i>	VU
第4次:	ヤクシマミツバツツジ	<i>Rhododendron yakumontanum</i>	VU
第3次:	ヤクシマミツバツツジ	<i>Rhododendron yakumontanum</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[準絶滅危惧]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhododendron yakumontanum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhododendron yakumontanum* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムニンシャシャンボ

*Vaccinium boninense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ約 1 m。葉は革質で互生。葉身は楕円形または広楕円形で、長さ 1.8-4 cm。総状花序に多花をつける。花冠は白色、筒形で長さ約 8 mm、浅く 5 裂。果実は球形で径約 6 mm。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

岩地に生育する。

【分布域】

小笠原諸島（兄島、父島、母島、向島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 18 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
4	10	3	1	0	0	18	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムニンシャシャンボ	<i>Vaccinium boninense</i>	VU
第4次 2019:	ムニンシャシャンボ	<i>Vaccinium boninense</i>	VU
第4次 2018:	ムニンシャシャンボ	<i>Vaccinium boninense</i>	VU
第4次 2017:	ムニンシャシャンボ	<i>Vaccinium boninense</i>	VU
第4次 2015:	ムニンシャシャンボ	<i>Vaccinium boninense</i>	VU
第4次:	ムニンシャシャンボ	<i>Vaccinium boninense</i>	VU
第3次:	ムニンシャシャンボ	<i>Vaccinium boninense</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Vaccinium boninense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Vaccinium boninense is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ツツジ科 Ericaceae

ヒメツルコケモモ

Vaccinium microcarpum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は細い。葉は小さく、長さ 2-5 mm。花冠は淡紅色で小さく、裂片の長さは 5-6 mm。果実は球形で赤く熟し、径 6-7 mm。

【生活史】

常緑小低木。

【生育環境】

寒地の湿原に生育する。

【分布域】

南千島、北海道、本州（中部の霧ヶ峰、蓼科山、尾瀬ヶ原）に分布。世界的には、北半球の周極地方に分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	不明	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメツルコケモモ	<i>Vaccinium microcarpum</i>	VU
第4次 2019:	ヒメツルコケモモ	<i>Vaccinium microcarpum</i>	VU
第4次 2018:	ヒメツルコケモモ	<i>Vaccinium microcarpum</i>	VU
第4次 2017:	ヒメツルコケモモ	<i>Vaccinium microcarpum</i>	VU
第4次 2015:	ヒメツルコケモモ	<i>Vaccinium microcarpum</i>	VU
第4次:	ヒメツルコケモモ	<i>Vaccinium microcarpum</i>	VU
第3次:	ヒメツルコケモモ	<i>Vaccinium microcarpum</i>	VU
第2次:	ヒメツルコケモモ	<i>Vaccinium microcarpum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)] 福島県[情報不足(DD)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Vaccinium microcarpum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Vaccinium microcarpum* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アクシバモドキ

*Vaccinium yakushimense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 30-70 cm。全体に無毛。葉は紙質で互生、葉身は披針形～披針状長楕円形で長さ 2-4.5 cm。前年の枝先の花芽に、短い総状花序が 1-3 個の花をつける。花冠は淡紅紫色。果実は黒熟する。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

温帯林内の樹上に着生する。標高 600 m 以上の山地で、主にスギに着生する。

【分布域】

屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
50	10	4	1	0	0	65	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アキシバモドキ	<i>Vaccinium yakushimense</i>	VU
第4次 2019:	アキシバモドキ	<i>Vaccinium yakushimense</i>	VU
第4次 2018:	アキシバモドキ	<i>Vaccinium yakushimense</i>	VU
第4次 2017:	アキシバモドキ	<i>Vaccinium yakushimense</i>	VU
第4次 2015:	アキシバモドキ	<i>Vaccinium yakushimense</i>	VU
第4次:	アキシバモドキ	<i>Vaccinium yakushimense</i>	VU
第3次:	アキシバモドキ	<i>Vaccinium yakushimense</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Vaccinium yakushimense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Vaccinium yakushimense* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae アカネ科 Rubiaceae

エゾキヌタソウ

Galium boreale var. *kamtschaticum*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 30–70 cm。葉身は長さ 1.5–5 cm、4 枚輪生し、披針形～線状披針形で 3 本の目立つ脈がある。花は円錐状の花序に多数密につく。花冠は径 3 mm、4 裂し、白色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

原野に生育。

【分布域】

南千島・北海道、サハリン・千島列島・カムチャツカ半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾキヌタソウ	<i>Galium boreale</i> var. <i>kamtschaticum</i>	VU
第4次 2019:	エゾキヌタソウ	<i>Galium boreale</i> var. <i>kamtschaticum</i>	VU
第4次 2018:	エゾキヌタソウ	<i>Galium boreale</i> var. <i>kamtschaticum</i>	VU
第4次 2017:	エゾキヌタソウ	<i>Galium boreale</i> var. <i>kamtschaticum</i>	VU
第4次 2015:	エゾキヌタソウ	<i>Galium boreale</i> var. <i>kamtschaticum</i>	VU
第4次:	エゾキヌタソウ	<i>Galium boreale</i> var. <i>kamtschaticum</i>	VU
第3次:	エゾキヌタソウ	<i>Galium boreale</i> var. <i>kamtschaticum</i>	VU
第2次:	エゾキヌタソウ	<i>Galium boreale</i> var. <i>kamtschaticum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Galium boreale var. *kamtschaticum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Galium boreale* var. *kamtschaticum* is listed as VU under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae アカネ科 Rubiaceae

エゾムグラ

Galium manshuricum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は横に広がって斜上し、長さ 20-40 cm。葉身は長さ 8-15 mm、5-6 枚輪生し、倒披針形。花は細長い花序にまばらに 10 個程度つく。花冠は径 2.5 mm、4 裂する。

【生活史】

多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

湿地に生育。

【分布域】

北海道（東部）、朝鮮半島（北部）・中国（東北）・ウスリーに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾムグラ	<i>Galium manshuricum</i>	VU
第4次 2019:	エゾムグラ	<i>Galium manshuricum</i>	VU
第4次 2018:	エゾムグラ	<i>Galium manshuricum</i>	VU
第4次 2017:	エゾムグラ	<i>Galium manshuricum</i>	VU
第4次 2015:	エゾムグラ	<i>Galium manshuricum</i>	VU
第4次:	エゾムグラ	<i>Galium manshuricum</i>	VU
第3次:	エゾムグラ	<i>Galium manshuricum</i>	VU
第2次:	エゾムグラ	<i>Galium dahuricum</i> var. <i>manshuricum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Galium manshuricum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Galium manshuricum* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤブムグラ

*Galium niewerthii***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎はつる状に伸び、長さ 40-60 cm。葉身は長さ 1-1.5 cm、4-5(-6)枚輪生し、楕円形または長楕円形。花は細長い花序に数個つく。花冠は径 1.5 mm、4 裂し、白色。

【生活史】

多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

丘陵地に生育。

【分布域】

東京都・千葉県・神奈川県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 6 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	4	1	0	0	6	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 土地造成	その他動物食害	管理放棄
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤブムグラ	<i>Galium niewerthii</i>	VU
第4次 2019:	ヤブムグラ	<i>Galium niewerthii</i>	VU
第4次 2018:	ヤブムグラ	<i>Galium niewerthii</i>	VU
第4次 2017:	ヤブムグラ	<i>Galium niewerthii</i>	VU
第4次 2015:	ヤブムグラ	<i>Galium niewerthii</i>	VU
第4次:	ヤブムグラ	<i>Galium niewerthii</i>	VU
第3次:	ヤブムグラ	<i>Galium niewerthii</i>	VU
第2次:	ヤブムグラ	<i>Galium niewerthii</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

茨城県[絶滅] 群馬県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 千葉県[要保護生物(C)] 東京都(本土部)[区部：絶滅(EX) 本土部：絶滅危惧ⅠB類(EN)] 東京都(北多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(南多摩)[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 神奈川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Galium niewerthii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Galium niewerthii* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Land development, Other animal feeding damage, Abandonment of management

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマヤマムグラ

Galium pogonanthum var. *yakumontanum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヤマムグラに似るが、花冠に毛が無く、全体に軟弱、葉も小さい。

【生活史】

草本。

【生育環境】

山地のコケ上に生育。

【分布域】

屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。1000 個体未満と推定されることから、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
16	2	0	0	0	0	18	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマヤママムグラ	<i>Galium pogonanthum</i> var. <i>yakumontanum</i>	VU
第4次 2019:	ヤクシマヤママムグラ	<i>Galium pogonanthum</i> var. <i>yakumontanum</i>	VU
第4次 2018:	ヤクシマヤママムグラ	<i>Galium pogonanthum</i> var. <i>yakumontanum</i>	VU
第4次 2017:	ヤクシマヤママムグラ	<i>Galium pogonanthum</i> var. <i>yakumontanum</i>	VU
第4次 2015:	ヤクシマヤママムグラ	<i>Galium pogonanthum</i> var. <i>yakumontanum</i>	VU
第4次:	ヤクシマヤママムグラ	<i>Galium pogonanthum</i> var. <i>yakumontanum</i>	VU
第3次:	ヤクシマヤママムグラ	<i>Galium pogonanthum</i> var. <i>yakumontanum</i>	VU
第2次:	ヤクシマヤママムグラ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[準絶滅危惧]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 山崎敬，1991. アジア産ヤエムグラ属数種の分類学的再検討. 植物研究雑誌，66: 49-52.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Galium pogonanthum var. *yakumontanum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Galium pogonanthum* var. *yakumontanum* is listed as VU under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハナムグラ

Galium tokyoense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は横に広がって斜上し、長さ 30-60 cm。葉身は長さ 1-3 cm、4-6 枚輪生し、倒披針形または狭長楕円形。花は花序に多数つく。花冠は径 2 mm、4 裂し、白色。

【生活史】

多年草。花期は 5-7 月。

【生育環境】

川岸の湿った草地に生育。

【分布域】

東北地方（南部）・本州（中部地方・関東地方）、朝鮮半島・中国（東北）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、16 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	7	4	3	2	0	16	1	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	湿地開発	河川開発
件数 13	12	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハナムグラ	<i>Galium tokyoense</i>	VU
第4次 2019:	ハナムグラ	<i>Galium tokyoense</i>	VU
第4次 2018:	ハナムグラ	<i>Galium tokyoense</i>	VU
第4次 2017:	ハナムグラ	<i>Galium tokyoense</i>	VU
第4次 2015:	ハナムグラ	<i>Galium tokyoense</i>	VU
第4次:	ハナムグラ	<i>Galium tokyoense</i>	VU
第3次:	ハナムグラ	<i>Galium tokyoense</i>	VU
第2次:	ハナムグラ	<i>Galium tokyoense</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[情報不足] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 茨城県[絶滅危惧Ⅱ類] 栃木県[要注目] 群馬県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 千葉県[要保護生物(C)] 東京都(本土部)[区部:絶滅(EX) 本土部:絶滅(EX)] 東京都(北多摩)[絶滅(EX)] 神奈川県[絶滅(EX)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Galium tokyoense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Galium tokyoense* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	Natural succession, Wetland development, River development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オガサワラクチナシ

*Gardenia boninensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1–1.5 m、葉身は長さ 3–10 cm、厚い革質で表面に光沢、長楕円形～楕円形。花冠は径 4–5 cm、白色。果実は楕円形、先に宿存性の萼片があり、橙色。

【生活史】

常緑低木。花期は 3–6 月。

【生育環境】

低木林内や岩地に生育。

【分布域】

小笠原諸島（父島列島・母島列島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 21 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
9	4	7	1	0	0	21	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オガサワラクチナシ	<i>Gardenia boninensis</i>	VU
第4次 2019:	オガサワラクチナシ	<i>Gardenia boninensis</i>	VU
第4次 2018:	オガサワラクチナシ	<i>Gardenia boninensis</i>	VU
第4次 2017:	オガサワラクチナシ	<i>Gardenia boninensis</i>	VU
第4次 2015:	オガサワラクチナシ	<i>Gardenia boninensis</i>	VU
第4次:	オガサワラクチナシ	<i>Gardenia boninensis</i>	VU
第3次:	オガサワラクチナシ	<i>Gardenia boninensis</i>	VU
第2次:	オガサワラクチナシ	<i>Gardenia boninensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gardenia boninensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Gardenia boninensis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae アカネ科 Rubiaceae

ハハジマハナガサノキ

Gynochthodes boninensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 E

100 年間の絶滅確率が 10%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉柄は細く、長さ 10-20 mm。葉は薄く革質、先は鋭い。花序柄は長さ 7-15 mm。

【生活史】

常緑藤本。

【生育環境】

山地の林縁や疎林に生育。

【分布域】

小笠原諸島（母島列島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	2	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハハジマハナガサノキ	<i>Morinda umbellata</i> subsp. <i>boninensis</i> var. <i>hahazimensis</i>	EN
第4次 2019:	ハハジマハナガサノキ	<i>Morinda umbellata</i> subsp. <i>boninensis</i> var. <i>hahazimensis</i>	EN
第4次 2018:	ハハジマハナガサノキ	<i>Morinda umbellata</i> subsp. <i>boninensis</i> var. <i>hahazimensis</i>	EN
第4次 2017:	ハハジマハナガサノキ	<i>Morinda umbellata</i> subsp. <i>boninensis</i> var. <i>hahazimensis</i>	EN
第4次 2015:	ハハジマハナガサノキ	<i>Morinda umbellata</i> subsp. <i>boninensis</i> var. <i>hahazimensis</i>	EN
第4次:	ハハジマハナガサノキ	<i>Morinda umbellata</i> subsp. <i>boninensis</i> var. <i>hahazimensis</i>	EN
第3次:	ハハジマハナガサノキ	<i>Morinda umbellata</i> subsp. <i>boninensis</i> var. <i>hahazimensis</i>	EN
第2次:	ハハジマハナガサノキ	<i>Morinda umbellata</i> var. <i>hahazimensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Gynochthodes boninensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Gynochthodes boninensis is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

マルバシマザクラ

*Leptopetalum mexicanum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 50-80 cm。葉身は長さ 2.5-6 cm、革質、卵形または楕円形、基部は円形または浅心形。花は散房花序に十数個～数十個つく。花冠は深く 4 裂し、淡紫色。

【生活史】

常緑低木。花期は 5-7 月。

【生育環境】

岩地に生育。

【分布域】

小笠原諸島（父島列島・母島列島・北硫黄島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュで絶滅し、20 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
10	9	1	0	0	0	20	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	マルバシマザクラ	<i>Hedyotis hookeri</i>	VU
第4次 2019:	マルバシマザクラ	<i>Hedyotis hookeri</i>	VU
第4次 2018:	マルバシマザクラ	<i>Hedyotis hookeri</i>	VU
第4次 2017:	マルバシマザクラ	<i>Hedyotis hookeri</i>	VU
第4次 2015:	マルバシマザクラ	<i>Hedyotis hookeri</i>	VU
第4次:	マルバシマザクラ	<i>Hedyotis hookeri</i>	VU
第3次:	マルバシマザクラ	<i>Hedyotis hookeri</i>	VU
第2次:	マルバシマザクラ	<i>Hedyotis mexicana</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Leptopetalum mexicanum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Leptopetalum mexicanum is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤエヤマアオキ

Morinda citrifolia

カテゴリー	判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 D
推定開花株数が 1000 個体未満。			
評価分科会： 維管束植物分科会			

基礎情報

【形態】

高さ 1.5-5 m。葉身は長さ 10-25 cm、革質、楕円形または広卵形、基部は広いくさび形。頭状花序で花冠は白色。花筒は長さ 1 cm。核果は互いに合着してやわらかい卵形の複合果をつくり、緑白色から白色。

【生活史】

常緑低木または小高木。花期は 5-7 月。

【生育環境】

海近くのやや湿った林内および林縁に生育。

【分布域】

小笠原諸島・琉球、台湾・中国・東南アジア・インド・オーストラリア・太平洋諸島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。かつては沖縄県の海岸で普通に見られたが、ノニがブームになってからはほとんど見かけなくなった。産地は沖縄県内の小島でも確認されており、個体数情報もあることから基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	—	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤエヤマアオキ	<i>Morinda citrifolia</i>	VU
第4次 2019:	ヤエヤマアオキ	<i>Morinda citrifolia</i>	VU
第4次 2018:	ヤエヤマアオキ	<i>Morinda citrifolia</i>	VU
第4次 2017:	ヤエヤマアオキ	<i>Morinda citrifolia</i>	VU
第4次 2015:	ヤエヤマアオキ	<i>Morinda citrifolia</i>	VU
第4次:	ヤエヤマアオキ	<i>Morinda citrifolia</i>	VU
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Morinda citrifolia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Morinda citrifolia* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オガサワラボチョウジ

*Psychotria homalosperma***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 2.5–4 m、老木では 7–8 m。葉柄は長さ 1–3.5 cm。葉身は長さ 6–23 cm、革質、倒卵形。花は集散花序に数個～十数個つく。花冠は長さ 10–15 mm、高杯形、白色で芳香がある。核果は長さ 10–14 mm、扁平な円形または楕円状円形、赤色～黒紫色。

【生活史】

常緑高木。花期は 6–7 月。

【生育環境】

日当りのよい林内に生育。

【分布域】

小笠原諸島（父島列島・母島列島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 19 メッシュで現存個体数は計数百個体と推測された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
8	8	2	1	0	0	19	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オガサワラボチヨウジ	<i>Psychotria homalosperma</i>	VU
第4次 2019:	オガサワラボチヨウジ	<i>Psychotria homalosperma</i>	VU
第4次 2018:	オガサワラボチヨウジ	<i>Psychotria homalosperma</i>	VU
第4次 2017:	オガサワラボチヨウジ	<i>Psychotria homalosperma</i>	VU
第4次 2015:	オガサワラボチヨウジ	<i>Psychotria homalosperma</i>	VU
第4次:	オガサワラボチヨウジ	<i>Psychotria homalosperma</i>	VU
第3次:	オガサワラボチヨウジ	<i>Psychotria homalosperma</i>	VU
第2次:	オガサワラボチヨウジ	<i>Psychotria homalosperma</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Psychotria homalosperma has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Psychotria homalosperma is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒロハケニオイグサ

*Scleromitron verticillatum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ケニオイグサに似るが、葉の幅がより広く、蒴果にまばらに毛がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

リュウキュウマツ疎林の林床や、湿った林縁に生育。

【分布域】

久米島・慶良間島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒロハケニオイグサ	<i>Hedyotis verticillata</i>	VU
第4次 2019:	ヒロハケニオイグサ	<i>Hedyotis verticillata</i>	VU
第4次 2018:	ヒロハケニオイグサ	<i>Hedyotis verticillata</i>	VU
第4次 2017:	ヒロハケニオイグサ	<i>Hedyotis verticillata</i>	VU
第4次 2015:	ヒロハケニオイグサ	<i>Hedyotis verticillata</i>	VU
第4次:	ヒロハケニオイグサ	<i>Hedyotis verticillata</i>	VU
第3次:	ヒロハケニオイグサ	<i>Hedyotis verticillata</i>	VU
第2次:	ヒロハケニオイグサ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Scleromitron verticillatum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Scleromitron verticillatum* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハクチョウゲ

Serissa japonica

カテゴリー判定結果	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	基準 E
100 年間の絶滅確率が 10%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 50-100 cm。若枝は黒紫色で短毛がある。葉身は長さ 5-20 mm、革質、長楕円形または倒披針形で両面ともに無毛。花は短枝の先に 1-2 個つく。萼筒は長さ約 1 mm、先は 5 裂し、裂片は三角形、長さ約 1 mm。花筒は長さ約 6 mm、先は 5 裂、白色でしばしば淡紅紫色を帯びる。

【生活史】

常緑低木。花期は 5-7 月。

【生育環境】

溪流沿いに生育。

【分布域】

長崎県、中国（中南部）・台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	1	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 河川開発		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハクチョウゲ	<i>Serissa japonica</i>	EN
第4次 2019:	ハクチョウゲ	<i>Serissa japonica</i>	EN
第4次 2018:	ハクチョウゲ	<i>Serissa japonica</i>	EN
第4次 2017:	ハクチョウゲ	<i>Serissa japonica</i>	EN
第4次 2015:	ハクチョウゲ	<i>Serissa japonica</i>	EN
第4次:	ハクチョウゲ	<i>Serissa japonica</i>	EN
第3次:	ハクチョウゲ	<i>Serissa japonica</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[準絶滅危惧種(NT)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 中西弘樹，2004. ハクチョウゲ（アカネ科）の日本における自生とその生態. 植物地理・分類研究, 52: 77-81.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Serissa japonica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Serissa japonica* is listed as VU under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 10% within 100 years.	
Threat types:	River development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シマギョクシンカ

*Tarenna subsessilis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1-1.5 m。葉身は長さ 6-20 cm、長楕円形～楕円形、基部は円形または広いくさび形、表面は無毛で裏面は短伏毛が密生。花は集散花序に密につく。花冠は白色、花柄には短毛が密生。液果は球形で黒色。

【生活史】

常緑低木。花期は 4-5 月。

【生育環境】

林内に生育。

【分布域】

小笠原諸島（父島列島・母島列島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 13 メッシュで計数百個体が現存と推定された。近年小笠原諸島父島においてノヤギの食害が顕著になり、急激に減少していた。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
5	5	3	0	0	0	13	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シマギョクシンカ	<i>Tarenna subsessilis</i>	VU
第4次 2019:	シマギョクシンカ	<i>Tarenna subsessilis</i>	VU
第4次 2018:	シマギョクシンカ	<i>Tarenna subsessilis</i>	VU
第4次 2017:	シマギョクシンカ	<i>Tarenna subsessilis</i>	VU
第4次 2015:	シマギョクシンカ	<i>Tarenna subsessilis</i>	VU
第4次:	シマギョクシンカ	<i>Tarenna subsessilis</i>	VU
第3次:	シマギョクシンカ	<i>Tarenna subsessilis</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Tarenna subsessilis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Tarenna subsessilis* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae リンドウ科 Gentianaceae

リシリリンドウ

Gentiana jamesii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミヤマリンドウに似るが、花がひとまわり大きく、萼裂片は反曲し、花冠副片は花冠裂片が平開するときも内に曲がり、花喉をふさぐ形態をとり、縁が糸状に細裂する。

【生活史】

多年草。花期は 7-9 月。

【生育環境】

高山帯の湿った草地に生育する。

【分布域】

南千島・北海道、朝鮮半島北部・中国東北部・千島列島・カムチャツカ半島・サハリン。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が確認された。産地局限であり、園芸用の採取、踏みつけにより減少が著しかった。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	2	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	リシリリンドウ	<i>Gentiana jamesii</i> var. <i>jamesii</i>	VU
第4次 2019:	リシリリンドウ	<i>Gentiana jamesii</i> var. <i>jamesii</i>	VU
第4次 2018:	リシリリンドウ	<i>Gentiana jamesii</i> var. <i>jamesii</i>	VU
第4次 2017:	リシリリンドウ	<i>Gentiana jamesii</i> var. <i>jamesii</i>	VU
第4次 2015:	リシリリンドウ	<i>Gentiana jamesii</i> var. <i>jamesii</i>	VU
第4次:	リシリリンドウ	<i>Gentiana jamesii</i> var. <i>jamesii</i>	VU
第3次:	リシリリンドウ	<i>Gentiana jamesii</i>	VU
第2次:	リシリリンドウ	<i>Gentiana jamesii</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gentiana jamesii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Gentiana jamesii* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イイデリンドウ

Gentiana nipponica var. *robusta***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

基準変種のミヤマリンドウに比べ、全体やや大きく、葉は長さ 15 mm に達し、花冠がやや大型で長さ 2-2.7 cm、花冠副片は開花時に直立して花喉をおおう。また、花冠副片の形質ではリシリリンドウに似るが、副片に不規則な歯牙があるだけで糸状に細裂せず、萼裂片は反曲しない点で区別できる。

【生活史】

多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

岩礫地のやや乾いた低木群落中に生える。

【分布域】

本州（飯豊山）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イイデリンドウ	<i>Gentiana jamesii</i> var. <i>robusta</i>	VU
第4次 2019:	イイデリンドウ	<i>Gentiana jamesii</i> var. <i>robusta</i>	VU
第4次 2018:	イイデリンドウ	<i>Gentiana jamesii</i> var. <i>robusta</i>	VU
第4次 2017:	イイデリンドウ	<i>Gentiana jamesii</i> var. <i>robusta</i>	VU
第4次 2015:	イイデリンドウ	<i>Gentiana jamesii</i> var. <i>robusta</i>	VU
第4次:	イイデリンドウ	<i>Gentiana jamesii</i> var. <i>robusta</i>	VU
第3次:	イイデリンドウ	<i>Gentiana jamesii</i> var. <i>robusta</i>	VU
第2次:	イイデリンドウ	<i>Gentiana nipponica</i> var. <i>robusta</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山形県[絶滅危惧Ⅱ類（VU）] 福島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 新潟県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gentiana nipponica var. *robusta* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Gentiana nipponica* var. *robusta* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月